

IBM DB2 Web Query for IBM i

Version 2 Release 1.8

DN6000000.0514

Active Technologies、EDA、EDA/SQL、FIDEL、FOCUS、Information Builders、Information Builders のロゴ、iWay、iWay Software、Parlay、PC/FOCUS、RStat、Table Talk、Web390、WebFOCUS、WebFOCUS Active Technologies、および WebFOCUS Magnify は Information Builders, Inc. の登録商標であり、また DataMigrator および Hyperstage は同社の商標です。

本マニュアルの性質上、多くのハードウェア、ソフトウェア製品の商標が本文内で使用されています。ほとんどの場合、製品名はそれらの会社によって商標、登録商標として指定されています。したがって、弊社ではこれらの製品名を総称として使用する意図はありません。これらの製品名を、説明されている製品を参照する以外の目的で使用する場合、商標に関わる権利に関して十分注意が必要です。

Copyright © 2014 , by Information Builders, Inc. and iWay Software. All rights reserved. Patent Pending. このマニュアルの全部、または一部の転載、コピーは Information Builders Inc. の書面による承諾なしでは許可されません。

目次

はじめに.....	7
マニュアルの表記法.....	7
1. InfoAssist の使用.....	9
InfoAssist の概要.....	11
InfoAssist.....	11
InfoMini.....	12
InfoAssist の開始.....	13
リソースツリーからの InfoAssist へのアクセス.....	13
InfoMini へのアクセス.....	14
InfoAssist オプションへのアクセス.....	14
ユーザ設定の変更.....	19
InfoAssist インターフェースのナビゲート.....	23
InfoAssist アプリケーションウィンドウ.....	24
アプリケーションメインメニュー.....	26
クイックアクセスツールバー.....	30
リボン.....	31
ホームタブ.....	36
挿入タブ.....	46
フォーマットタブ.....	48
データタブ.....	60
スライサタブ.....	76
レイアウトタブ.....	78
表示タブ.....	81
フィールドタブ.....	88
シリーズタブ.....	97
リソースパネルの理解.....	101
結果パネルの理解.....	120
ナビゲーションタスクバーの使用.....	139

ステータスバーの使用.....	141
2. InfoAssist 出力のカスタマイズ.....	143
基本レポートの作成.....	144
レポート出力.....	147
グラフの作成およびカスタマイズ.....	148
グラフによるデータの視覚化.....	149
グラフの選択.....	150
グラフの作成.....	169
グラフフォーマットツールへのアクセス.....	178
シリーズのフォーマット設定.....	183
データラベルのフォーマット設定.....	223
凡例のフォーマット設定.....	238
罫線のフォーマット設定.....	250
軸ラベルのフォーマット設定.....	268
フレームおよび背景のフォーマット設定.....	284
メータグラフのフォーマット設定.....	305
ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定.....	331
その他のフォーマット機能の使用.....	334
レイアウトの作成とカスタマイズ.....	345
レイアウトデザインビューへのアクセス.....	346
レイアウトの作成.....	351
3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成.....	385
HOLD ファイルの作成.....	386
HOLD ファイルの用途.....	386
HOLD ファイルの格納.....	386
レポートおよびグラフの出力フォーマット.....	387
HOLD ファイルの作成.....	387
HOLD ファイルを使用したサブクエリフィルタの作成.....	398
レイアウトモード.....	402
複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームの作成.....	403
複数ページのレイアウトの作成.....	403
複数ページのレイアウト入力フォームの作成.....	405
ページメニューのナビゲート.....	407

アクティブキャッシュオプションの使用.....	408
InfoAssist によるアクティブキャッシュの有効化.....	409
InfoAssist での Active テクノロジコンポーネントの作成.....	411
Active テクノジレポートの作成.....	411
Active テクノジグラフの作成.....	428
Active テクノジレイアウト (入力フォーム) の作成.....	431
スライサの使用.....	460
スライサの作成.....	461
スライサによるフィルタ設定.....	465
スライサの編集ダイアログボックス.....	472
InfoMini アプリケーションの作成.....	478
InfoMini アプリケーションの概要.....	478
InfoMini アプリケーションの作成.....	482
用語集.....	487

はじめに

このマニュアルは、IBM DB2 Web Query for IBM i で使用可能な機能について説明します。

マニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

	章/付録	内容
1	InfoAssist の使用	InfoAssist adhoc レポートツールの利点、アクセス方法、スタートアップ画面の使用方法について説明します。
2	InfoAssist 出力のカスタマイズ	
3	InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成	

マニュアルの表記法

このマニュアルの表記法は、次のとおりです。

表記	説明
THIS TYPEFACE または this typeface	構文を表します。表記どおりに入力してください。

表記	説明
<i>this typeface</i>	プレースホルダ (または変数)、クロスリファレンス、あるいは重要な用語を表します。
<u>underscore</u>	デフォルトの設定を表します。
this typeface	テキスト中で小文字で指定する必要があるファイル名およびコマンドを強調しています。
Key + Key	キーを同時に押すことを示します。
{ }	2 から 3 つの選択項目を示します。選択項目の 1 つを中括弧 ({ }) を含めずに入力します。
[]	任意指定のパラメータ群を示します。必須ではありませんが、この中から 1 つを選択することも可能です。パラメータのみを入力し、大括弧 ([]) は含めません。コマンド名や、ユーザインターフェイスで使われている項目は、この記号で囲みます。
	構文中で、いずれか 1 つ選択する項目群を分離します。分離記号 () を含めず、いずれか 1 つのみ入力します。
...	パラメータを複数回入力可能であることを示します。省略記号 (...) は含めず、パラメータのみを入力します。
. . .	間に省略されているコマンドがあるか、後続するコマンドがある (場合も指定できる) ことを表します。

1 InfoAssist の使用

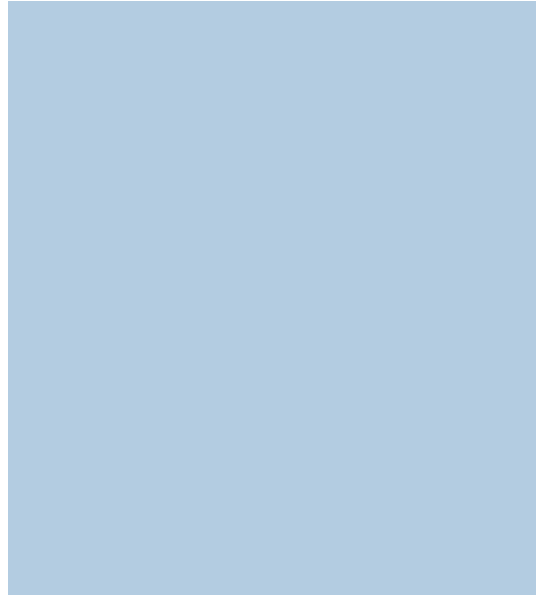
意思決定プロセスや日常業務を効果的、効率的に進めるには、adhoc レポートが不可欠です。InfoAssist は、企業がこれまで抱えていた adhoc レポートの問題点を解決するため、使い勝手がよく、信頼性の高いソリューションを目指して開発されました。

adhoc レポートソリューションツールは、ビジネスユーザを IT 依存から解放してきました。これにより、ユーザは、自身のビジネスインテリジェンスニーズを自ら満たすことが可能になりました。これらのツールは、企業データを、効率的なビジネスに欠かせない説得力のあるレポートへと、IT の介在を要さずに変換することを可能にしました。

トピックス

- InfoAssist の概要
- InfoAssist の開始
- InfoAssist インターフェースのナビゲート

しかしながら、市場に出回っているソリューションのほとんどは、問題のごく一部しか解決しない上、レポートに含まれる情報が喚起する重要な問いにユーザが自ら答えを出すには、十分なオプションが提供されているとはいえません。ほとんどのレポートツールは実際にはテクニカルで、ほとんどの場合、その多くの機能は、高度な技術的知識を備えたユーザも理解することが困難です。さらに、ad hoc レポートツールによって、IT 部門のレポート開発工数は減少しますが、ユーザのデスクトップ上にインストールして管理しなければならない関連ソフトウェアは増大します。



InfoAssist の概要

トピックス

InfoAssist

InfoMini

InfoAssist adhoc レポートツールの利点、アクセス方法、スタートアップ画面の使用方法について説明します。

このツールは、ビジネスユーザが複雑なレポートを作成して的確な分析を行うために要求される、使い勝手のよい最新の adhoc レポート機能を提供します。

InfoAssist は、企業がこれまで抱えていた adhoc レポートの問題点を解決するため、使い勝手がよく、信頼性の高いソリューションを目指して開発されました。

InfoAssist には、次のバージョンがあります。

- **InfoAssist** レポート作成ツールの完全バージョンです。
- **InfoMini** InfoAssist レポートから作成され、実行時に InfoAssist 機能の一部が含まれたアプリケーションです。

InfoAssist

InfoAssist を使用して、次の作業をすばやく簡単に行うことができます。

- IT 技術を要せずに、あらゆる企業情報ソースから、複雑なレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを作成する。
- レポートの作成などの作業を、マウスを数回クリックするだけで完了する。
- ドキュメントの公開や共有など、より高度な操作を行う。
- レポートからグラフ、またはグラフからレポートへとクリック 1 回で変換する。
- データを複数の視点から表示可能な高度なオプションを使用して、いくつものレポートとグラフを同時に分析する。
- マルチディメンションソースを含め、企業情報ソースを参照する。
- レポートおよびグラフのデータを、HTML、HTML5 (グラフのみ)、active report、active Flash、PDF、active PDF、Excel、PowerPoint などのさまざまなフォーマットで出力する。

InfoAssist は、AJAX (asynchronous JavaScript and XML) テクノロジーを活用したリッチインターネットアプリケーションです。最新鋭の機能を、Microsoft Windows と同様のインターフェイスで提供しています。極めて直観的な操作が可能であることから、ユーザは adhoc レポート機能の技術的複雑さから解放されると同時に、ビジネス上の情報ニーズを満たすために不可欠な機能には、すべて無制限にアクセスすることができます。

InfoAssist は、強力な adhoc レポートツールであり、レポートとグラフの設計および展開をすばやく効率的に行えます。このツールは、双方向的でカスタマイズが可能な WYSIWYG (What You See Is What You Get) 開発環境を採用しています。ユーザは開発中いつでも即座に、レポートやグラフが適切に作成されているかどうかを確認することができます。

InfoAssist は、adhoc レポートを単独のシンクライアント環境として提供します。ソフトウェアのインストール、保守が必要なデスクトップクライアント、管理が必要なユーザライセンスは一切不要です。リッチインターネットアプリケーションは、企業全体のビジネスユーザが、Web を使用して、デスクトップ型の adhoc アプリケーションを利用することを可能にします。

注意：InfoAssist で作成されたレポートを直接編集する場合、プロシジャ上部の内部コメントの削除や変更は行わないでください。これらのコメントまたはプロシジャの内容を変更すると、このレポートを InfoAssist で開いた際に、予期できない結果が生じる可能性があります。一般に、プロシジャを直接編集することは、推奨されません。

InfoMini

ビジネスアナリストは、InfoAssist を使用して InfoMini アプリケーションを作成することができます。InfoMini アプリケーションを提供することで、テクニカル以外のエンドユーザが、ツールの習得や IT サポートを必要とせずに、レポートをカスタマイズすることが可能になります。

ビジネスアナリストおよびエンドユーザは、InfoMini を使用することで、ボタンのクリックのみで BI システムから任意の情報を取得し、必要とする特定の情報のみを表示して、情報に基づいた迅速な意思決定を実現できます。

ビジネスアナリストは、InfoMini を使用してアプリケーションを簡単に作成し、エンドユーザの要求に応じた任意のフォーマットでレポートのカスタマイズやフィルタ設定を行います。

このインタラクティブ機能を備えていることで、手動のコーディングを必要とせずに、特定の条件付きスタイル設定、フォーマット設定、機能をあらゆるレポートに適用することが可能になります。

また、ビジネスアナリストは、BI システムに直接接続してカスタマイズ可能な情報やレポートを取得するガジェット (iGoogle ウィジェットと同様のミニアプリケーション) を作成、公開することもできます。

InfoAssist の開始

トピックス

リソースツリーからの InfoAssist へのアクセス

InfoMini へのアクセス

InfoAssist オプションへのアクセス

ユーザ設定の変更

InfoAssist の各バージョンで作業を開始する方法、およびユーザ設定を変更する方法について説明します。

ここでは、InfoAssist の各バージョンにすばやくアクセスする方法について説明します。

InfoAssist の開始後、ユーザ設定を変更して、レポートやグラフの作成時および出力の生成時の InfoAssist の動作を簡単にカスタマイズすることができます。

InfoAssist のインターフェースは、すべてのメニューおよびダイアログボックスにスタイルを適用する特定のテーマを選択することでカスタマイズできます。また、特定のドキュメントテーマを指定することで、レポートおよびグラフにスタイルを設定することも可能です。

リソースツリーからの InfoAssist へのアクセス

参照

既存プロシジャを開く

ブラウザの構成

InfoAssist を起動するには、フォルダを右クリックし、[新規作成] (New) を選択してから、[レポート] (Report)、[グラフ] (Chart)、[レイアウト] (Document)、[レイアウト (入力フォーム)] (Dashboard) のいずれかを選択します。

参照 既存プロシ ज्याを開く

既存のプロシ ज्याを開くには、プロシ ज्याを右クリックし、[開く](Open)を選択します。以前に作成されたレポートを InfoAssist で開くと、レポートが保存された時点で最後に表示されていたビューが開きます。

参照 ブラウザの構成

Internet Explorer を使用して InfoAssist にアクセスする場合、このプログラムを適切に実行するため、セキュリティを正しく設定する必要があります。ダウンロードの自動プロンプトを有効にします。Internet Explorer のセキュリティ設定を変更する方法についての詳細は、Internet Explorer のマニュアルを参照してください。

InfoMini へのアクセス

InfoAssist でレポートを作成する際に、InfoMini をアクティブにするオプションを使用することができます。InfoMini をアクティブにした状態でレポートを実行すると、InfoMini アプリケーションが起動します。InfoMini アプリケーションには、完全な InfoAssist レポートで使用可能な機能の一部が格納されます。InfoMini でレポートを作成する場合、レポートを実行するユーザに提供する機能の制限や拡張が行えます。

InfoAssist から InfoMini アプリケーションを実行した場合、アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きます。それ以外の場合、InfoMini アプリケーションは、BI Portal のコンテナ内など、アプリケーションが使用されている場所で開きます。

InfoAssist オプションへのアクセス

トピックス

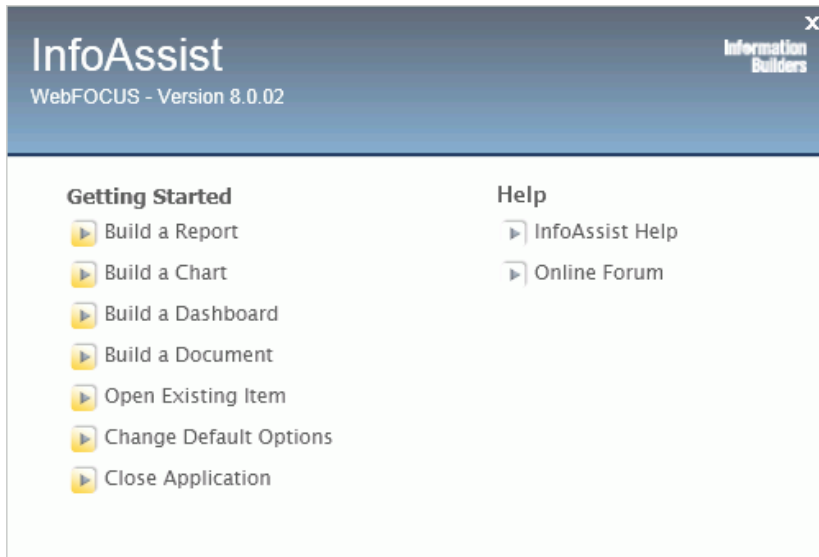
開始

ヘルプ

データソースの選択

InfoAssist アプリケーションウィンドウで、[メインメニュー](Main Menu) ボタンをクリックして InfoAssist アプリケーションメインメニューを開き、プロシ ज्या関連のコマンドを表示します。[新規作成](New) をクリックすると、スプラッシュスクリーンに利用可能なオプションがすべて表示されます。下図は、スプラッシュスクリーンを示しています。

利用可能なオプションは、[開始] (Getting Started) および [ヘルプ] (Help) に分類されています。



開始

InfoAssist には、次の開始オプションがあります。

- **レポートの作成 (Build a Report)** [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを開いて、レポートに使用するデータソースを選択することができます。
- **グラフの作成 (Build a Chart)** [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを開いて、グラフに使用するデータソースを選択することができます。
- **レイアウトの作成 (Build a Document)** [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを開いて、レイアウトに使用するデータソースを選択することができます。
- **レイアウト (入力フォーム) の作成 (Build a Dashboard)** [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを開いて、レイアウト入力フォームに使用するデータソースを選択することができます。
- **既存のレポート/グラフを取り込む (Open Existing Item)** [開く] (Open) ダイアログボックスを開いて、既存のレポートまたはグラフを選択することができます。

- **デフォルトオプションの変更 (Change Default Options)** [オプション] (Options) ウィンドウを開き、ユーザの好みに合わせてデフォルト設定を変更することができます。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。
- **アプリケーションを閉じる (Close Application)** アプリケーションを終了します。

ヘルプ

[ヘルプ] (Help) オプションは、新しいユーザ向けにヘルプを提供します。InfoAssist を開く際には、次の [ヘルプ] (Help) オプションが利用できます。

- **InfoAssist のヘルプ (InfoAssist Help)** InfoAssist のオンラインヘルプウィンドウを開きます。
- **オンラインフォーラム (Online Forum)** 新しいブラウザウィンドウで Focal Point Web サイトを開きます。

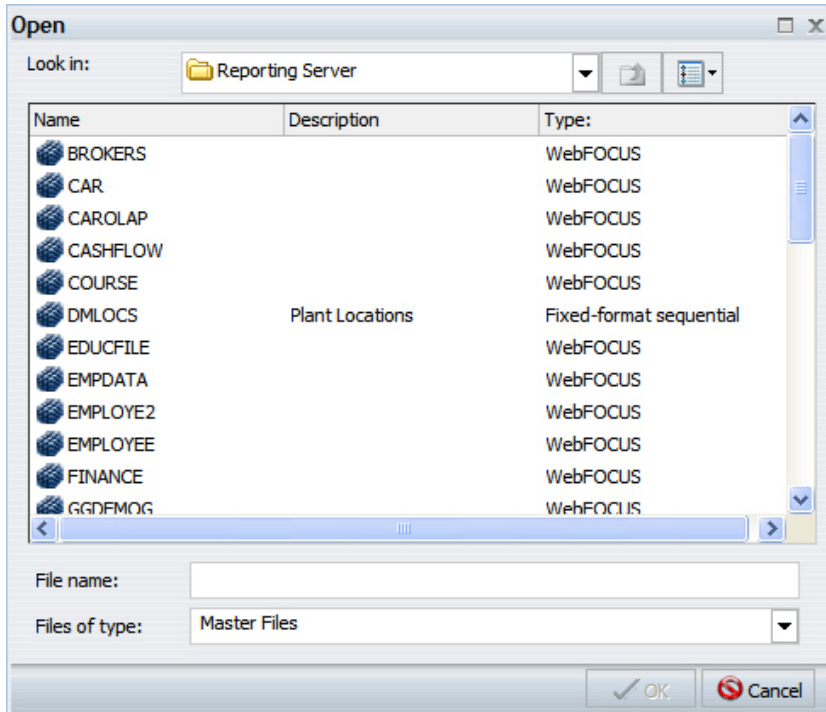
データソースの選択

参照

新しいプロシジャを開く

新しいレポートまたはグラフを作成する際は、最初にデータソースを選択します。表示される [開く] (Open) ダイアログボックスでデータソースを選択し、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。また、データソースをダブルクリックすると、1回の操作でデータソースを開いてダイアログボックスを閉じることができます。目的のデータソースがデフォルトのディレクトリにない場合は、[検索先] (Look in) ドロップダウンリストを使用して異なるディレクトリを選択することができます。

下図は、[開く] (Open) ダイアログボックスを示しています。

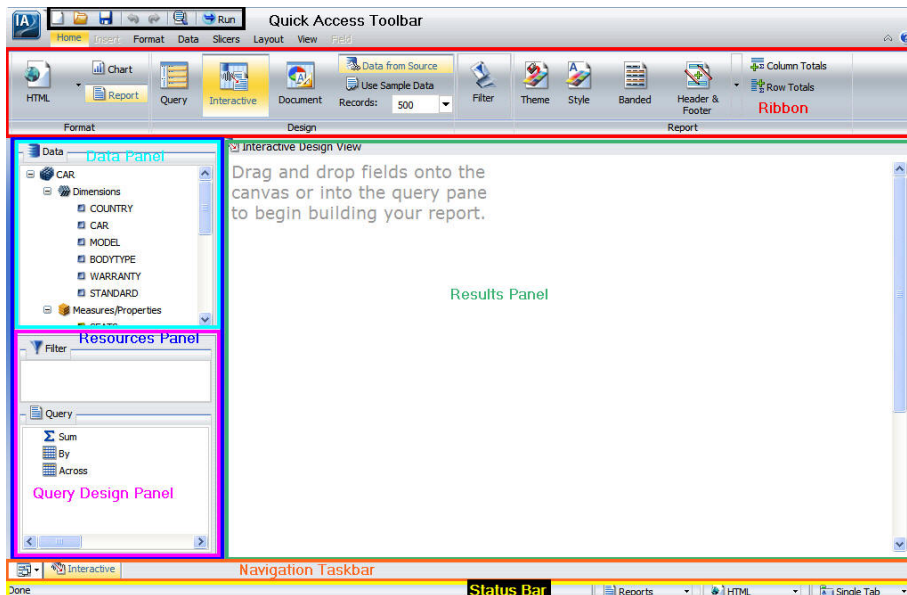


[開く] (Open) ダイアログボックスは、レポートの保存やドリルダウンプロシジャの選択、スタイルシート、テーマ、CSS ファイルを開く際にも表示されます。

参照

新しいプロシジャを開く

InfoAssist で新しいプロシジャを開くと、スプラッシュスクリーン (起動画面) が表示されます。[レポートの作成] (Build a Report)、[グラフの作成] (Build a Chart)、または [レイアウトの作成] (Build a Document) を選択すると、データソースを選択するための [開く] (Open) ダイアログボックスが表示されます。データソースを選択して [OK] をクリックすると、下図のような InfoAssist のアプリケーションウィンドウが開きます。



ユーザ設定の変更

トピックス

起動オプション

レイアウト

表示

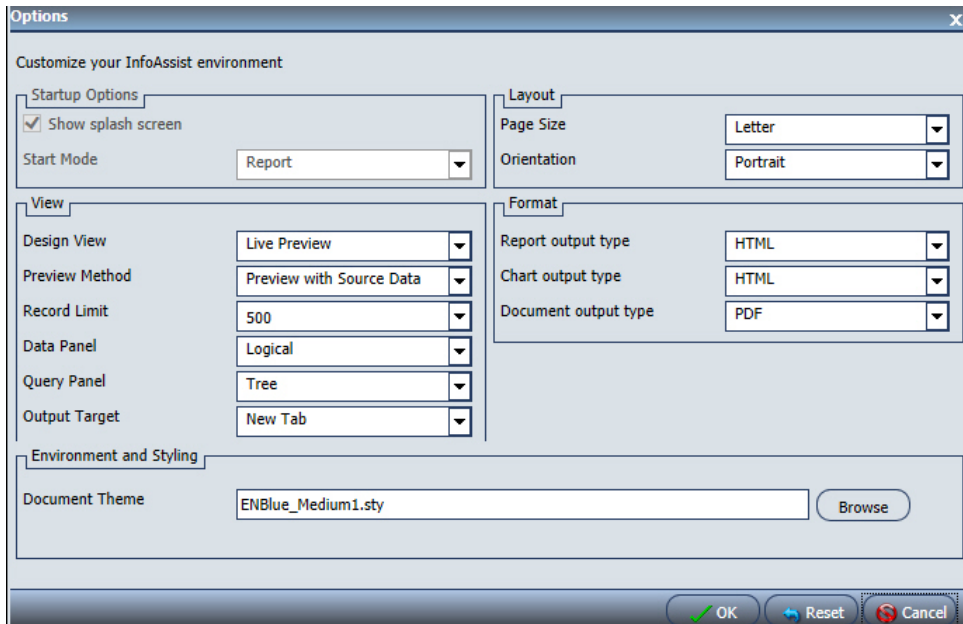
フォーマット

環境とスタイル

InfoAssist を使用してレポートの作成や出力の生成を行う際に、そのデフォルトユーザ設定をカスタマイズすることができます。BI Portal から継承されるアプリケーションテーマを使用して、すべてのメニューとダイアログボックスを含む InfoAssist のインターフェースをカスタマイズします。

インターフェースの設定とは別に、ドキュメントテーマを選択することで、レポートのスタイルを設定することができます。InfoAssist アプリケーションメインメニューで [オプション] (Options) をクリックするか、InfoAssist のスプラッシュスクリーンで [デフォルトオプションの変更] (Change Default Options) をクリックします。

下図のような[オプション](Options)ウィンドウが開いて、InfoAssistのアプリケーションをカスタマイズする使い勝手のよいインターフェースが表示されます。



注意：[オプション]ダイアログボックスでデフォルトの選択を変更した場合、それらの変更は、InfoAssist を次回起動した際に有効になります。

使用できないオプションがある場合は、管理者に問い合わせてください。

ドキュメントスタイルテーマは、リボンから選択することもできます。[ホーム] (Home) タブに移動し、[レポート] (Report) グループの [テーマ] (Theme) をクリックします。詳細は、36 ページの「[ホームタブ](#)」を参照してください。

起動オプション

注意： Web Query 2.x では、InfoAssist のモードを BI Portal のリソースツリーから直接選択できるため、[起動オプション] (Startup Options) は無効になっています。

レイアウト

[レイアウト] (Layout) エリアでは、レポートおよびグラフの印刷方法を設定します。

- **ページサイズ (Page Size)** [A4]、[A3]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal] から選択することができます。デフォルト値は [Letter] です。

- **方向 (Orientation)** [縦] (Portrait) と [横] (Landscape) から選択することができます。デフォルト値は [縦] (Portrait) です。

表示

[表示] (View) エリアでは、作業で使用するデザインビュー、出力をプレビュー表示する際のデータタイプ、取得するレコードの最大数、データパネルおよびクエリパネルの外観、使用する出力ターゲットを設定します。

- **デザインビュー (Design View)** [インタラクティブ] (Interactive) と [クエリ] (Query) から選択することができます。[インタラクティブ] (Interactive) を選択すると、[プレビュー方法] (Preview Method) ドロップダウンメニューが有効になります。デフォルト値は [インタラクティブ] (Interactive) です。
- **プレビュー方法 (Preview Method)** [ライブデータでプレビュー] (Preview with Source Data) と [サンプルデータでプレビュー] (Preview with Sample Data) から選択することができます。このメニューは、[デザインビュー] (Design View) ドロップダウンメニューから [インタラクティブ] (Interactive) を選択した場合に有効になります。デフォルト値は [ライブデータでプレビュー] (Preview with Source Data) です。
- **最大レコード数 (Record Limit)** [すべて] (All)、[1]、[10]、[50]、[500] から選択するか、テキストボックスに数値を直接入力します。デフォルト値は [500] です。
- **データパネル (Data Panel)** [論理] (Logical)、[リスト] (List)、[構造] (Structured) から選択することができます。デフォルト値は [論理] (Logical) です。
- **クエリパネル (Query Panel)** [縦横] (2x2)、[縦] (1x4)、[ツリー] (Tree) から選択することができます。デフォルト値は [ツリー] (Tree) です。
- **出力ターゲット (Output Target)** [単一タブ] (Single Tab)、[新規タブ] (New Tab)、[単一ウィンドウ] (Single Window)、[新規ウィンドウ] (New Window) から選択することができます。デフォルト値は [単一タブ] (Single Tab) です。

フォーマット

[フォーマット] (Format) エリアでは、レポート、グラフ、レイアウトの出力タイプを設定します。

- **レポート出力タイプ (Report output type)** [HTML]、[PDF]、[PowerPoint]、[Excel 2007]、[Excel]、[active report]、[active Flash]、[active PDF] から選択することができます。デフォルト値は [HTML] です。

- **グラフ出力タイプ (Chart output type)** [HTML]、[HTML5]、[PDF]、[PowerPoint]、[Excel]、[active report]、[active Flash]、[active PDF] から選択することができます。デフォルト値は [HTML5] です。
- **レイアウト出力タイプ (Document output type)** [HTML]、[PDF]、[PowerPoint]、[Excel]、[active report]、[active Flash]、[active PDF] (レポートのみで構成されるレイアウトの場合) から選択することができます。デフォルト値は [PDF] です。

環境とスタイル

[環境とスタイル](Environment and Styling) エリアでは、[ドキュメントテーマ](Document Theme) を指定してレポートおよびグラフのスタイルを設定します。

デフォルト設定のスタイルシートを使用することや、使用可能なテーマから選択することができます。[参照] (Browse) ボタンをクリックして [テンプレート - 定義済みテンプレートファイルを参照] (Templates - Browse predefined template files) ダイアログボックスを開き、既存のスタイルシートを検索することができます。また、[デフォルトスタイルシート] (Use Default Stylesheet) をクリックし、デフォルトスタイルシートに戻すこともできます。

InfoAssist インターフェースのナビゲート

トピックス

- InfoAssist アプリケーションウィンドウ
- アプリケーションメインメニュー
- クイックアクセスツールバー
- リボン
- ホームタブ
- 挿入タブ
- フォーマットタブ
- データタブ
- スライサタブ
- レイアウトタブ
- 表示タブ
- フィールドタブ
- シリーズタブ
- リソースパネルの理解
- 結果パネルの理解
- ナビゲーションタスクバーの使用
- ステータスバーの使用

アプリケーションウィンドウ構成要素の使用方法について説明します。

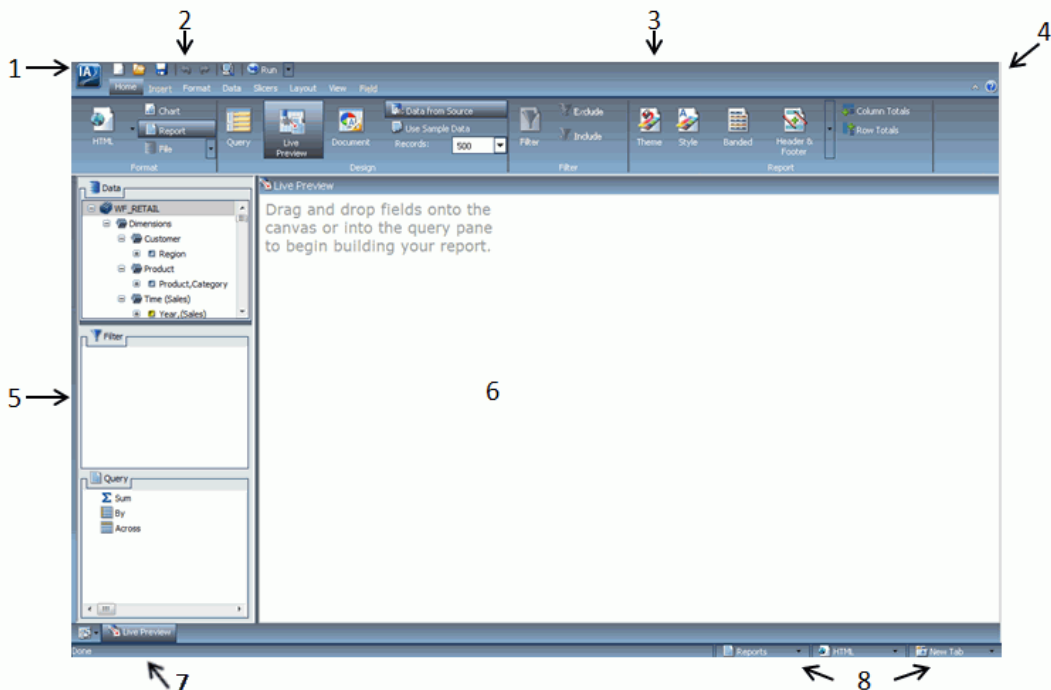
InfoAssist には、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを作成するための、高度で柔軟なレイアウト環境が用意されています。

アプリケーションウィンドウには、直観的な操作が可能なメニューやツールバー、レポート設計の機能エリアごとに分類された特別グループにアクセスできる多目的リボン、出力を選択するタスクバー、出力を指定するステータスバーがあります。

また、アプリケーションには、データの選択とソートのためのリソースエリアに加え、レポート設計、レポート出力のプレビュー、実際のレポート出力を表示する多角的結果エリアも用意されています。

InfoAssist アプリケーションウィンドウ

下図は、InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントを示しています。



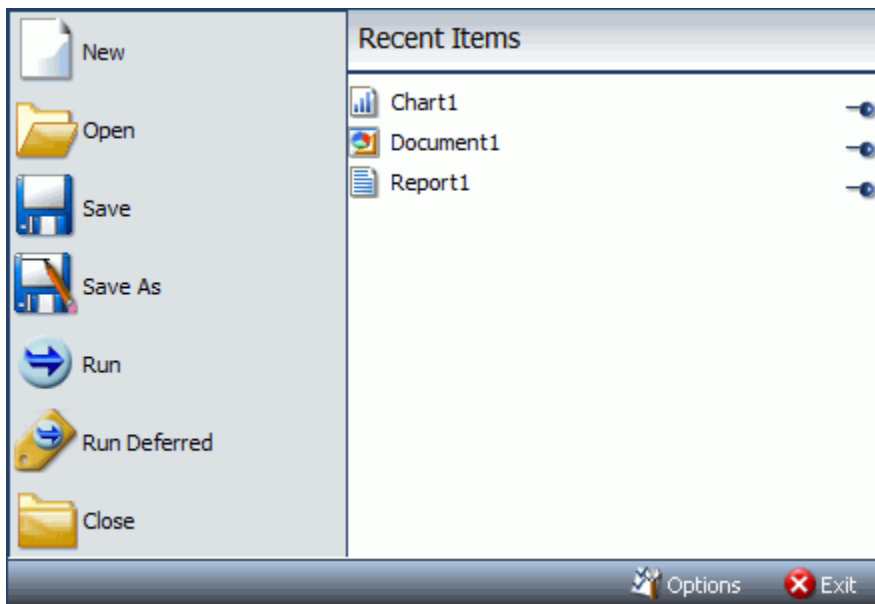
以下は、上図の InfoAssist インターフェースで注釈が付けられた主要コンポーネントの説明です。

- 1. アプリケーションボタン** アプリケーションメニューを開いて、プロシジャ関連のコマンドを表示します。
- 2. クイックアクセスツールバー** このツールバーには、よく使用するコマンドが常時表示されます。たとえば、[新規作成] (New)、[開く] (Open)、[保存] (Save)、[元に戻す] (Undo)、[やり直し] (Redo)、[プロシジャの表示] (View code)、[実行] (Run)、[プレビュー] (Preview) コマンドがあります。詳細は、30 ページの「[クイックアクセスツールバー](#)」を参照してください。

3. **リボン** レポート、グラフ、レイアウトの作成に必要なコマンドが表示されます。[ヘルプ] (Help) メニューも表示されます。詳細は、31 ページの「[リボン](#)」を参照してください。
4. **ヘルプ** InfoAssist のオンラインマニュアルおよび Focal Point Web サイトを、新しいブラウザウィンドウで開きます。
5. **リソースパネル** [データ] (Data) ウィンドウに、選択したデータソースのフィールドを表示します。また、[クエリ] (Query) デザインビューを除き、[データ] (Data) ウィンドウの下部に[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを表示します。詳細は、101 ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。
6. **結果パネル** [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウ、レイアウトキャンバス、[出力] (Output) ウィンドウのいずれかを表示します。
 - [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウは、[クエリ] (Query) デザインビューが選択された場合に表示されます。
 - ライブプレビューモードでレポートを作成または編集する際は、レイアウトキャンバスが表示されます。[ライブプレビュー] (Live Preview) モードでは、作成中のレポートのプレビューが結果パネルに表示されます。
 - レポートを実行すると、[出力] (Output) ウィンドウが表示されます。
詳細は、101 ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。
7. **ナビゲーションタスクバー** 作業中のレポートとレポート出力に、すばやくアクセスして表示を変更するためのグループとアイコンを表示します。詳細は、139 ページの「[ナビゲーションタスクバーの使用](#)」を参照してください。
8. **ステータスバー** 出力フォーマットボタンをクリックして、現在選択されているフォーマットを確認したり、出力ターゲットボタンをクリックして、現在選択されている出力先 (新規ウィンドウや新規タブ) を確認したりすることができます。詳細は、141 ページの「[ステータスバーの使用](#)」を参照してください。

アプリケーションメインメニュー

InfoAssist インターフェース左上の [IA]  ボタンをクリックすると、下図のようなアプリケーションメインメニューが開きます。

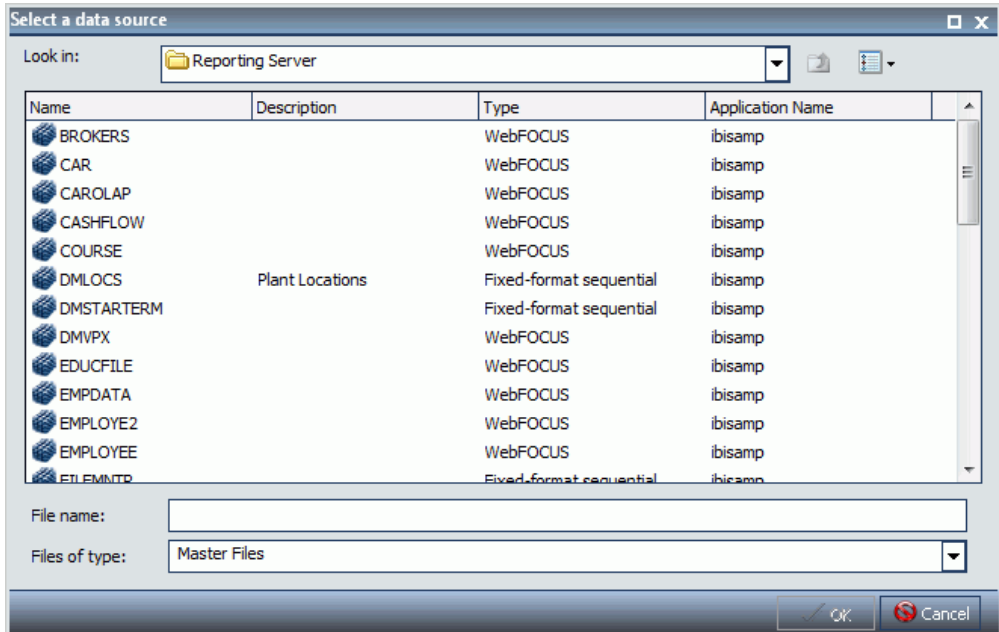


アプリケーションメインメニューから次のコマンドを実行することができます。

- **新規作成 (New)** 新しいレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを作成します。[新規作成] (New) コマンドの実際の機能は、現在の InfoAssist セッションによって異なります。

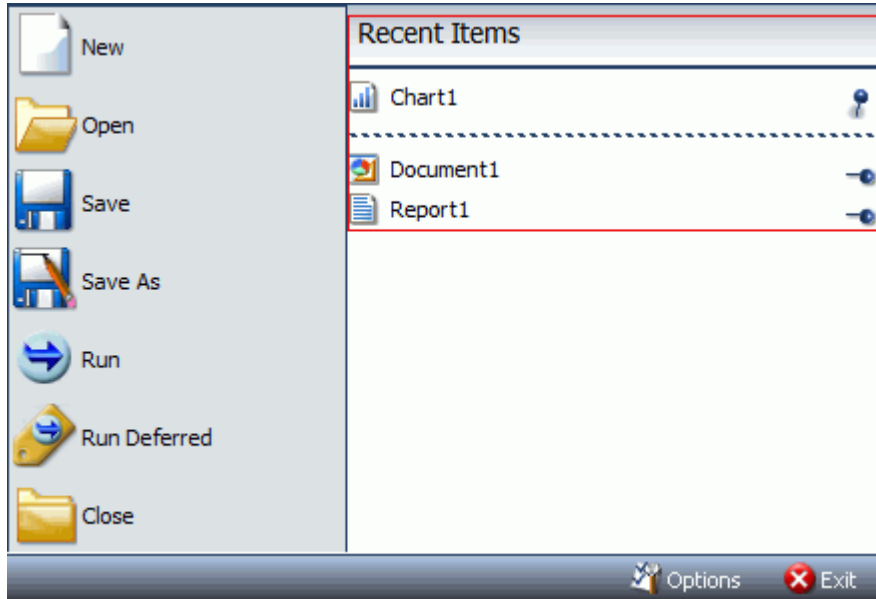
InfoAssist からレポートオブジェクトを開き、[新規作成] (New) をクリックすると、レポートオブジェクトから新しいレポートが生成されます。レポートオブジェクトから作成するレポートタイプを選択するよう要求されます。

InfoAssist の新しいセッションを開始し、[新規作成] (New) をクリックすると、新しいレポートが作成されます。下図のように、データソースの選択が要求されます。



- **開く (Open)** 既存の項目を開きます。
- **保存 (Save)** レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを保存します。
- **名前を付けて保存 (Save As)** レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを新しい名前です保存します。
- **実行 (Run)** レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを即時に実行します。
- **ディファード実行 (Run Deferred)** 別の作業を継続しながら、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトをバックグラウンドで実行します。
- **閉じる (Close)** 現在アクティブのレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを閉じます。

- **最近使ったファイル (Recent Items)** 最近使ったレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトのほか、メニューにピンで固定されたファイルを表示します。下図は、InfoAssist アプリケーションメインメニューの [最近使ったファイル] (Recent Items) エリアを示しています。



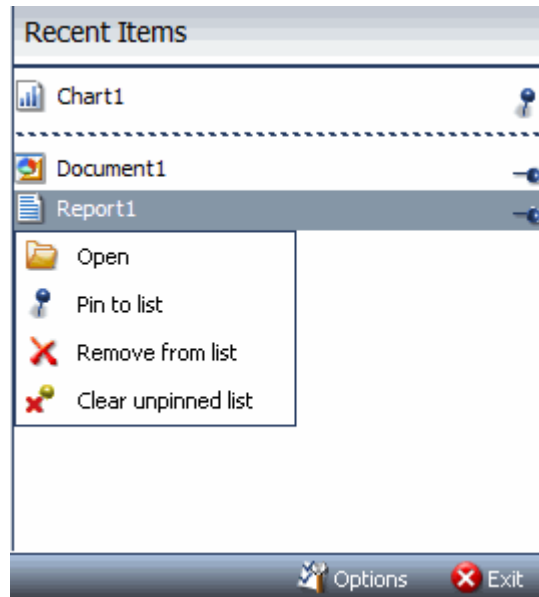
ピンで固定されたレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトは、青色のピン アイコンをクリックします。ピンで固定されたファイルは、リストの上部にアルファベット順で表示されます。

最近使ったレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトは、横向き青色ピン アイコンをクリックします。最近使ったファイルは、作成された順序で区切り線の下に表示され、最新のファイルが最上位に配置されます。

重要なレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトの表示をアプリケーションメインメニューの [最近使ったファイル] (Recent Items) エリアの最上位に固定しておくこと、これらのファイルにすばやく簡単にアクセスできます。最近使ったレポートを、ピンで固定されたレポートに変更するには、横向き青色ピンアイコンをクリックします。青色ピンのアイコンが直立した状態になり、レポートが [最近使ったファイル] (Recent Items) ウィンドウの固定レポートエリアに移動します。レポートは、固定が解除されるまで、この位置に表示されます。

固定を解除するには、青色のピンのアイコンをクリックします。青色のピンが横向きになり、レポートが区切り線の下に移動します。

アプリケーションメインメニューの [最近使ったファイル] (Recent Items) に表示されたレポートを右クリックして、コンテキストメニューを開くこともできます。下図は、このメニューを示しています。



メニューのオプションには次のものがあります。



- **開く (Open)** 選択したレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを開きます。
- **リストに追加 (Pin to list)** 最近使ったレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトをピンで固定して、区切り線の上の固定レポートリストに移動します。
- **リストから除外 (Remove from list)** ピンで固定されたレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを、固定レポートリストから除外します。
- **未追加リストを削除 (Clear unpinned list)** [最近使ったファイル] (Recent Items list) リストから、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトをすべて削除します。

- **オプション (Options)** [オプション] (Options) ウィンドウを開いて、ユーザ設定をカスタマイズします。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。
- **終了 (Exit)** アプリケーションを終了します。

クイックアクセスツールバー

クイックアクセスツールバーは、下図のように表示され、よく使用する機能にアクセスするためのコマンドが配置されています。クイックアクセスツールバーは、アプリケーションメインメニューの右側にあり、選択したオプションに関係なく、常に画面に表示されます。[新規作成] (New)、[開く] (Open)、[保存] (Save)、[実行] (Run) コマンド (26 ページの「[アプリケーションメインメニュー](#)」を参照) のほかに、[元に戻す] (Undo)、[やり直し] (Redo)、[プロシジャの表示] (View code) コマンドにもアクセスすることができます。クイックアクセスツールバーの [実行] (Run) メニューには、複数のコマンドが表示されます。[実行] (Run) メニューには、[実行] (Run) コマンド以外に、[プレビュー] (Preview)、[SQL トレース] (SQL Trace)、[SQL プレビュートレース] (SQL Preview Trace) コマンドが含まれています。



- **元に戻すとやり直し** [元に戻す] (Undo)  アイコンをクリックして、最後の操作を元に戻します。[やり直し] (Redo)  アイコンをクリックして、最後の操作をやり直します。

[元に戻す] (Undo) アイコンは、元に戻す操作が存在する場合に有効 (青色) になります。それ以外の場合は、無効 (灰色) になります。[やり直し] (Redo) アイコンは、やり直す操作が存在する場合に有効 (青色) になります。それ以外の場合は、無効 (灰色) になります。

たとえば、レポートを作成する際に、最初の操作として、レポートにデータベースフィールドを追加する場合について考察します。データベースフィールドを追加すると、[元に戻す] (Undo) アイコンが青色に変わります。ここで、[元に戻す] (Undo) アイコンをクリックして、レポートからデータベースフィールドを削除します。[元に戻す] (Undo) アイコンは灰色に、[やり直し] (Redo) アイコンは青色に変わります。フィールドをレポートに戻すには、青色の [やり直し] (Redo) アイコンをクリックします。

また、操作を元に戻すには **Ctrl+Z**、やり直すには **Ctrl+Y** を押すこともできます。

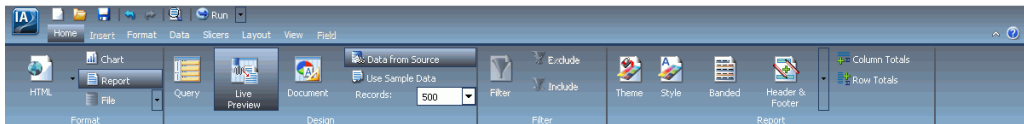
セッションごとに、最大で 25 個の操作を元に戻してやり直すことができます。InfoAssist では、レポートを切り替えた場合でも、「元に戻す」、「やり直し」操作のリストが保持されます。

アプリケーションウィンドウにダイアログボックスが開いている場合は、[元に戻す] (Undo) アイコンと [やり直し] (Redo) アイコンを使用することはできません。[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じると、アイコンは使用可能になります。[元に戻す] (Undo) または [やり直し] (Redo) を一度クリックするだけで、ダイアログボックスで実行したすべての操作を元に戻す、またはやり直すことができます。

- **プロシジャの表示 (View code)** レポートのコードを表示します。
- **実行 (Run)** [実行] (Run) ボタンをクリックして、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを即時実行します。下向き矢印をクリックして [実行] (Run) メニューを開くと、次の追加オプションが表示されます。
 - **プレビュー (Preview)** [ホーム] (Home) タブの [デザイン] (Design) グループで設定された最大レコード数を限度として、選択したフォーマットでレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトを実行します。詳細は、37 ページの「[デザイングループ](#)」を参照してください。
 - **SQL トレース (SQL Trace)** リクエストの SQL コマンドを返します。
 - **SQL プレビュートレース (SQL Preview Trace)** 実行したライブプレビューの SQL コマンドを返します。

リボン

リボンは、InfoAssist アプリケーションウィンドウ上部に横方向に表示され、複数のボタンがグループ別に分類された矩形領域です。下図は、[ホーム] (Home) タブを選択した場合のリボンを示しています。



リボンは、9 つのタブで構成されています。各タブに表示される一連の InfoAssist 機能は、論理的に関係するコントロールとコマンドをグループ別に分類したものであり、それぞれがグラフィカルなアイコンで識別されます。

次のタブがあります。

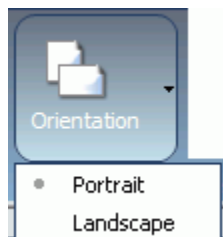
- ホーム (Home)

- 挿入 (Insert)
- フォーマット (Format)
- データ (Data)
- スライサ (Slicers)
- レイアウト (Layout)
- 表示 (View)
- フィールド (Field)
- シリーズ (Series) (グラフを作成する場合)

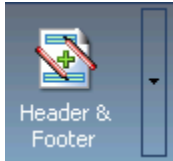
[ホーム](Home) タブは、InfoAssist を最初に開いたときにデフォルト設定で選択されています。

タブのいずれかを選択すると、そのタブに固有のリボンが開き、実行するタスクに関連したコントロールおよびコマンドがグループ別に表示されます。

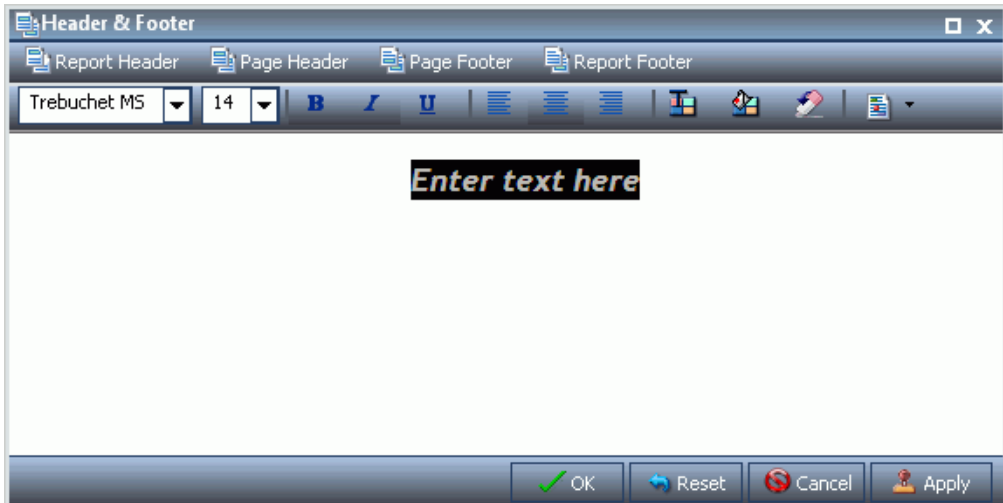
リボンに表示される矢印ボタンには、2つのタイプがあります。1つ目のタイプは、クリックしたときにメニューを開くボタンです。このタイプのボタンの例として、[レイアウト](Layout) タブの [ページ設定](Page Setup) グループに表示される [方向](Orientation) ボタンがあります。下図のように、[方向](Orientation) ボタンをクリックすると、オプションのメニューが開きます。



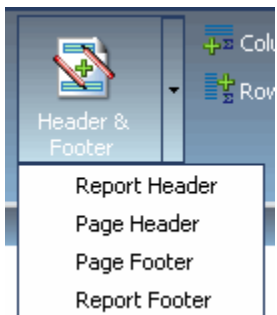
2つ目のタイプは、分割ボタンです。分割ボタンの左側をクリックすると、デフォルトのアクションが実行されます。分割ボタン右側の下向き矢印をクリックすると、オプションのメニューが開きます。分割ボタンの例として、[ホーム](Home) タブの[レポート](Report) グループに表示される [見出し/脚注] (Header & Footer) ボタンがあります。下図は、その画面を示しています。



下図のように、[見出し/脚注] (Header & Footer) ボタンの左側をクリックすると、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスが開きます。

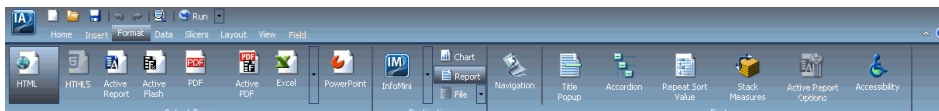


下図のように、右側の下向き矢印をクリックすると、オプションのメニューが開きます。

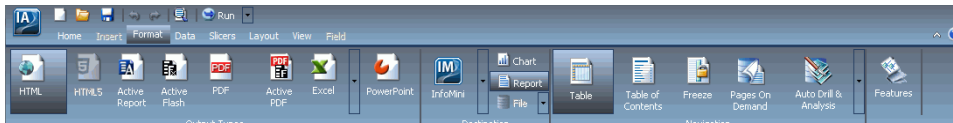


オプションによっては、ダイアログボックスが開いて、追加のコマンドやオプションのリストが表示される場合があります。

リボンにはコントロールおよびコマンドがすべて表示されますが、モニタやアプリケーションウィンドウのサイズにより、アイコンおよびグループのサイズが異なります。下図の例では、[機能] (Features) グループが展開され、そのグループのアイコンがすべて表示されています。



アプリケーションウィンドウのサイズを小さくすると、使用可能な領域サイズに基づいて、一部のグループが単一アイコン表示に切り替わります。下図では、[フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループが単一アイコン表示に切り替わっています。



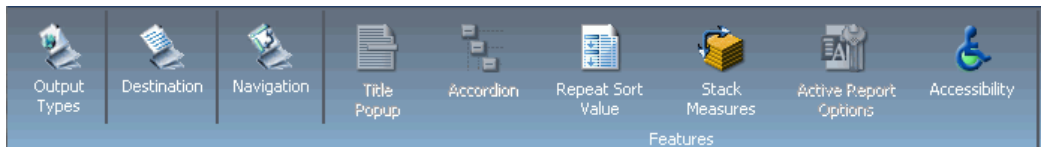
グループが単一アイコン表示に切り替わると、個々のアイコンは、それぞれ使用可能な状態で一時的に画面に表示されなくなります。単一表示に切り替わったグループアイコンをクリックすると、そのグループが標準のフルサイズに戻り、個々のアイコンがすべて表示されます。

単一アイコン表示のグループを展開すると、隣接するグループが単一アイコン表示に切り替わり、選択したグループの展開に必要な領域が確保されます。

メニューまたはダイアログボックスのアイコン、ボタン、オプションが灰色で表示されている場合、その機能を実行中のレポートで使用することはできません。機能の中には、レポートのみ、グラフのみ、レイアウトのみで使用できるものがあります。

状況によっては、あるオプションを選択すると、そのオプションに適合しない他のオプションが無効になります。その場合、選択できないオプションは灰色で表示されます。レポートの作成や変更を行う際に、状況に適合しないオプションは自動的に無効(灰色表示)になります。

下図は、選択した出力タイプにオプションが適合しないために、そのオプションが無効になる例を示しています。この例では、[フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output) グループで、レポートの出力タイプとして [PDF] が選択されています。PDF 出力ではアコーディオンレポートを作成できないため、[アコーディオン] (Accordion) ボタンが灰色で表示され、無効になっています。



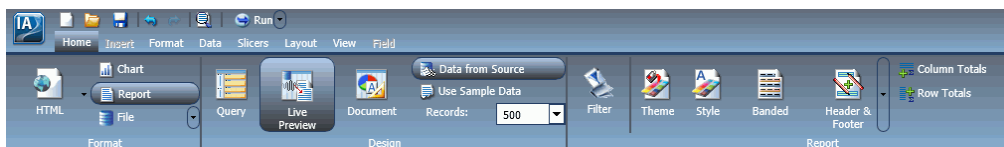
注意：特定のオプションにアクセスできない場合は、管理者にお問い合わせください。

ホームタブ

トピックス

フォーマットグループ
デザイングループ
フィルタグループ
レポートグループ
レポートスタイルダイアログボックス
色ダイアログボックス

[ホーム] (Home) タブには、よく使用するコマンドおよびオプションが表示され、[フォーマット] (Format)、[デザイン] (Design)、[フィルタ] (Filter)、[レポート] (Report) グループに分類されています。下図は、その画面を示しています。



フォーマットグループ

[フォーマット] (Format) グループには、出力フォーマットのメニューと、レポート作成 (デフォルト) とグラフ作成を切り替えるボタンが表示されます。また、グラフからイメージファイルを作成するメニューも表示されます。

- **現在の出力フォーマット (Current Output Format)** ドロップダウンメニューが開き、サポートされている出力フォーマットがすべて表示されます。
 - HTML (グラフおよびレポートのデフォルト)
 - HTML5 (グラフでのみ使用可能)
 - active report (レイアウト (入力フォーム) のデフォルト)
 - active Flash
 - PDF (レイアウトのデフォルト)
 - active PDF

- Excel 2007 ([ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- Excel
- Excel Formula ([ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- Excel 2007 Formula ([ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- Excel Pivot ([ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューでデザインされたレポートのみ)
- PowerPoint

レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットオプションは、[フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output Types) グループおよびステータスバーの出力フォーマットドロップダウンメニューから選択することもできます。

- **レポート (Report)/グラフ (Chart)** InfoAssist で使用する機能を、レポートに特化した機能にするか、グラフに特化した機能するかを決定します。InfoAssist の各セッションで作成した新しいレポートまたはグラフには、「レポートX」または「グラフY」というデフォルト名が付けられます。ここで、X および Y は、作成したレポートまたはグラフごとに、1 から始まり、1 ずつ増加する値を表します。複数レポート間の切り替えについての詳細は、81 ページの「[表示タブ](#)」を参照してください。
- **ファイル (File)** グラフからイメージファイル、またはレポートからデータファイルを作成します。詳細は、387 ページの「[レポートおよびグラフの出力フォーマット](#)」を参照してください。

デザイングループ

[デザイン] (Design) グループには、レポート作成時のデザインモードを選択するコマンド、およびデータアクセス時のデザインプレビューオプションが表示されます。下図は、[デザイン] (Design) グループを示しています。



デザインレビューオプションには次のものがあります。

- **クエリ (Query) (デザインビュー)** 結果パネルに [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを表示します。[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウは、レポートを作成するための広い作業領域です。
- **ライブプレビュー (Live Preview) (デザインビュー)** 結果パネルに作成中のレポートを表示します。[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでは、フィールドの追加、削除、整列を行えるほか、レポートのスタイルを設定することができます。
- **レイアウト (Document) (デザインビュー)** 結果パネルのレイアウトキャンバスでレイアウトを開きます。レイアウトキャンバスでは、テキスト、イメージ、線、レポート、グラフを追加して、レイアウト (入力フォーム) やレイアウトを作成することができます。[レイアウト] (Layout Design) デザインビューについての詳細は、346 ページの「[レイアウトデザインビューへのアクセス](#)」を参照してください。

デザインオプションには次のものがあります。

- **ライブデータ (Data from Source)** 選択したデータソースを使用して、結果パネルに出力のライブプレビューを表示します。
- **サンプルデータ (Use Sample Data)** サンプルデータを表示します。実際のデータソースにアクセスする必要がないため、処理時間が短縮されます。
- **件数 (Records)** [ライブプレビュー] (Live Preview) が選択されている場合に、データソースから取得する行数を制限します。これは、大規模なデータを扱う際のレスポンス時間の短縮に役立ちます。[件数] (Records) テキストボックスに件数を直接入力するか、ドロップダウンメニューから設定済みの件数を選択します。設定済みの選択肢は、[すべて] (All rows)、[1]、[10]、[50]、[100]、[500]、[1000]、[2000]、[5000]、[10000] です。

注意：[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでは、割り当て済みの領域内に表示が収まらないフィールドの横に警告アイコンが表示されます。割り当てられる領域のサイズは、ページレベルのスタイル設定で決定されます。ページレベルのスタイル設定には、ページサイズ、ページの方向、マージン、フォントサイズがあります。

1 ページあたりに収まる文字数の制限を定義する方法はありません。この制限は、選択したページやフォントスタイルによって異なります。ページサイズが大きくフォントが小さいほど、1 ページあたりに収まる文字数は増加します。

フィルタグループ

[フィルタ](Filter) グループには、フィルタを作成するコマンドが表示されます。次のコマンドを使用します。

- **フィルタ (Filter)** フィルタを作成するための [フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを表示します。フィルタを使用することで、必要なデータのみを選択し、それ以外を除外することができます。

[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスでは、[値] (Values)、[プロンプト] (Prompt)、[論理演算子] (Relational Operators) メニューを使用してフィルタを作成することができます。詳細は、88 ページの「[フィールドタブ](#)」を参照してください。高度なフィルタ作成についての詳細は、60 ページの「[データタブ](#)」を参照してください。

- **条件の解除 (Exclude)** フィルタをオフにします。
- **条件の設定 (Include)** フィルタをオンにします。

レポートグループ

[レポート](Report) グループには、レポートを拡張するコマンドが表示されます。次のコマンドを使用します。

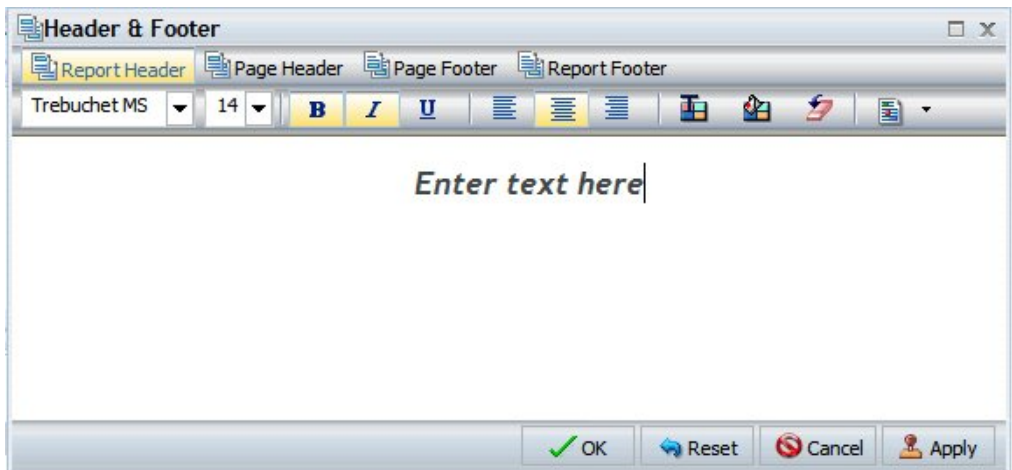
- **テーマ (Theme)** ダイアログボックスを開いて、レポートまたはグラフのスタイルに使用するテーマを選択します。[デフォルトスタイルシート] (Use Default Stylesheet) ボタンをクリックして、デフォルトスタイルシートを使用することもできます。

また、ドキュメントスタイルテーマやアプリケーションテーマを選択して、InfoAssist で作成するすべてのレポートに、スタイルを設定することもできます。これらのテーマを選択するには、アプリケーションメインメニューで [オプション] (Options) をクリックし、[オプション] (Options) ウィンドウの [環境とスタイル] (Environment and Styling) セクションを使用します。

- **スタイル (Style)** [レポートスタイル] (Report Style) ダイアログボックスを開いて、レポート全体にグローバルスタイルを適用します。[レポートスタイル] (Report Style) ダイアログボックスについての詳細は、43 ページの「[レポートスタイルダイアログボックス](#)」を参照してください。レポートのスタイル設定についての詳細は、「[Styling Report](#)」を参照してください。

- **バンド (Banded) [色] (Color)** ダイアログボックスを開いて、レポートの代替色スキームを選択することができます。レポート出力のデータ行には、白の背景色と選択した色の背景色が 1 行ごとに交互に表示されます。このパターンはレポート全体に適用されます。[色] (Color) ダイアログボックスについての詳細は、44 ページの「[色ダイアログボックス](#)」を参照してください。バンドスタイルについての詳細は、「[Style Rows of Data With Alternating Colors in a Report](#)」を参照してください。
- **見出し/脚注 (Header & Footer) [見出しと脚注] (Header & Footer)** ダイアログボックスを開いて、見出しと脚注を追加し、スタイルを設定することができます。
 - レポートの場合は、レポート見出し、ページ見出し、ページ脚注、レポート脚注の追加とスタイル設定が行えます。ダイアログボックスでは、デフォルト設定で、[レポート見出し] (Report Header) タブが選択されています。
 - グラフの場合は、ページ見出し、ページ脚注の追加とスタイル設定が行えます。グラフでは、デフォルト設定で [ページ見出し] (Page Header) が選択されています。
 - [データ] (Data) ウィンドウから [見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスにフィールドをドラッグすることができます。

下図の [見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスでは、[レポート見出し] (Report Header) タブが表示されています。




[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスにアクセスするには、[見出し/脚注] (Header & Footer) ボタン横の下向き矢印をクリックする方法もあります。この操作でドロップダウンメニューを開き、操作の対象として、見出しまたは脚注を選択することができます ([レポート見出し] (Report Header)、[ページ見出し] (Page Header)、[ページ脚注] (Page Footer)、[レポート脚注] (Report Footer))。選択を行った後、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスが開き、選択した見出しまたは脚注がアクティブになります。

[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスでは、有効な見出しまたは脚注を追加してスタイルを設定したり、タブを選択して、操作対象の見出しまたは脚注を変更したりすることができます。タブを切り替えても、[適用] (Apply) または [OK] を押さない限り、変更は保存されません。[適用] (Apply) をクリックした場合、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスは開いたままになります。[OK] をクリックした場合、ダイアログボックスは閉じます。

[スタイル] (Styling) ツールバーのオプションを使用して、選択した見出しと脚注にスタイルを設定することができます。左から順に、フォントタイプ、フォントサイズ、フォントスタイル (太字、斜体、下線) をカスタマイズすることができます。テキストの配置 (左揃え、中央揃え、右揃え)、文字色と背景色の選択が行えるほか、スタイル設定をテンプレートのデフォルト設定に戻すこともできます。

また、見出しと脚注に「定型句」を挿入することも可能です。定義済みの語句が、定型句として提供されています。これには、レポートやグラフの識別情報として役立つ情報が含まれています。定義済みテキストのドロップダウンメニューから、次のテキストを選択することができます。

- 草案 (Draft)
- ページ X / Y (Page X of Y)
- 社外秘 (Confidential)
- 日付 (複数のフォーマット)
- 時間 (複数のフォーマット)
- 作成者 (Created by) (ユーザ名が後に続く)

グラフの場合は、スタイルリボンの右端の  アイコンが有効になります。このアイコンには、ページ見出しと脚注の配置方法を制御する 2 つのオプションがあります。デフォルトオプションの [見出しと脚注をテキストとして作成] (Create Header and Footer as Text) を選択すると、見出しと脚注は、グラフィイメージとは別のテキスト要素として表示されます。[見出しと脚注をグラフに埋め込み] (Embed Header and Footer in the Chart) オプションを選択すると、見出しと脚注は、グラフィイメージの一部として表示されます。

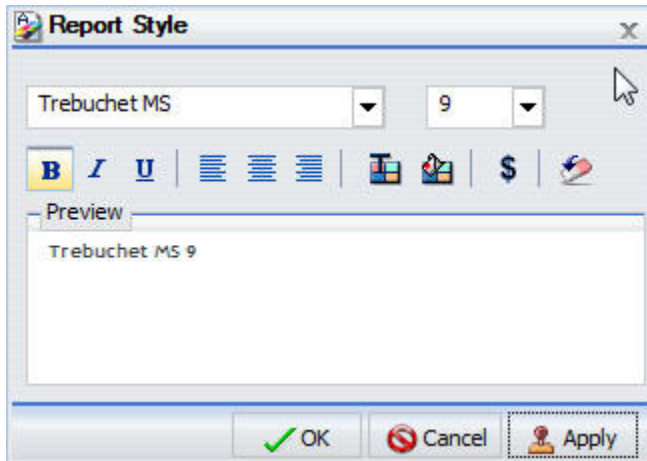
見出しまたは脚注をレポートやグラフに追加した後は、デザインモードの作業領域でこれらをダブルクリックすると、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスが再度開きます。デザインモードで既存の見出しまたは脚注を右クリックし、メニューから [編集] (Edit) を選択して、ダイアログボックスを開くこともできます。

見出しと脚注の追加とスタイル設定についての詳細は、「[Add Headings and Footings to a Report](#)」および 331 ページの「[ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定](#)」を参照してください。

- **総合計 (Column Totals)** (レポートのみ) レポートの下部に総合計行を追加し、各列の数値データを集計します。詳細は、「[Add Column Totals to a Report](#)」を参照してください。
- **行合計 (Row Totals)** (レポートのみ) レポートの右側に総合計列を追加し、各行の数値データを集計します。詳細は、「[Add Row Totals to a Report](#)」を参照してください。

レポートスタイルダイアログボックス

下図のように、[レポートスタイル] (Report Style) ダイアログボックスには、レポートにスタイルを設定するオプションが表示されます。



[レポートスタイル] (Report Style) ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- **フォント (Font)** ドロップダウンメニューを使用して、フォントを変更します。
- **フォントサイズ (Font size)** ドロップダウンリストを使用して、フォントサイズの数値を変更します。
- **フォントスタイル (Font style)** 該当するボタン (太字、斜体、下線) をクリックして、選択したテキストのスタイルを設定します。
- **テキスト配置 (Text alignment)** 該当するボタン (左揃え、中央揃え、右揃え) をクリックして、選択したテキストの位置を揃えます。
- **文字色 (Font color)** このボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択します。詳細は、44 ページの「[色ダイアログボックス](#)」を参照してください。
- **背景 (Background)** このボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、レポートの背景色を選択します。
- **文字色 (Font color)** このボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択します。
- **通貨記号 (Currency symbol)** このボタンをクリックして、米国ドル、英国ポンド、日本円、ユーロ、イスラエル新シェケルの通貨記号にアクセスします。

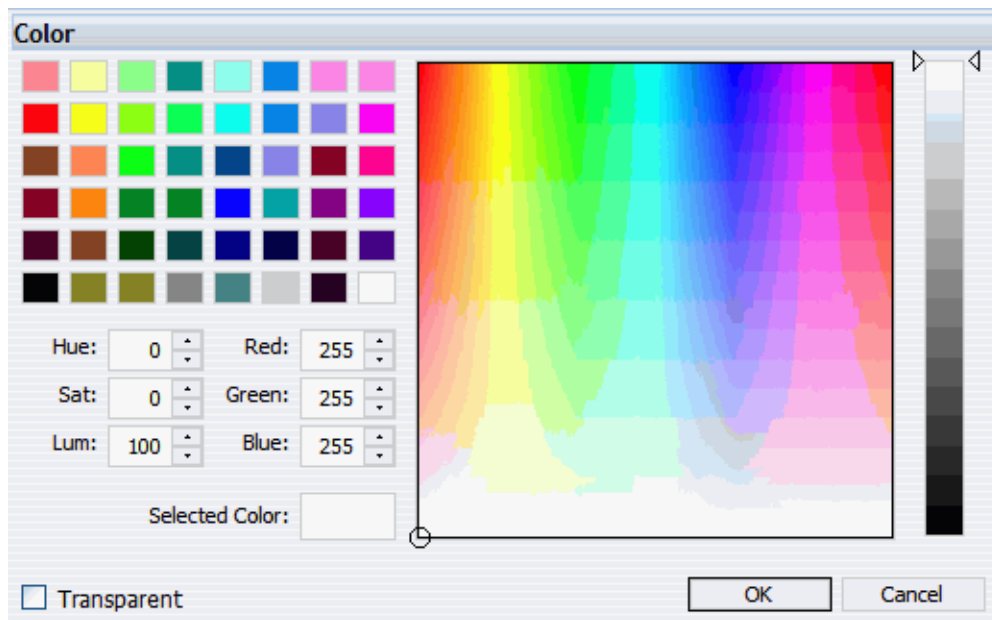
注意：通貨記号のイスラエル新シェケルは、次の設定のみで表示することができます。

- サーバコードページ = 1255、65001、424、65002
- クライアントコードページ = 1255 または 65001
- Application Server エンコード = Cp1255 または UTF8
- フォント名 = Lucida Sans Unicode または Arial Unicode MS
- スタイルのリセット (Reset to template style)** このボタンをクリックして、設定をリセットします。

注意：リセットは、[レポートスタイル] (Report Style) ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK] をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] (Undo) コマンドを使用します。

色ダイアログボックス

下図の [色] (Color) ダイアログボックスのオプションを使用して、レポート内の色を操作します。



[色] (Color) ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

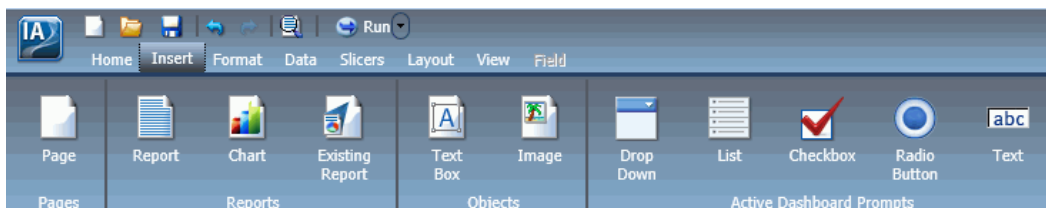
- **標準の色見本** ダイアログボックスの左側で、定義済みの 48 色から色を選択します。選択した色が、[色] (Selected Color) フィールドに表示されます。
- **カスタム色パレット** ダイアログボックスの右側のパレットで、カスタム色を定義します。選択した色が、[色] (Selected Color) フィールドに表示されます。
- **輝度バー** スライダをドラッグして、色の輝度 (相対的な明るさまたは暗さ) を変更します。対応する数値が、[輝度] (Lum) テキストボックスに表示されます。
- **色合い (Hue)** 選択した色の色合い値を示します。色合い値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **鮮明度 (Sat)** 選択した色の彩度の値を示します。鮮明度値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **輝度 (Lum)** 選択した色の輝度 (明るさまたは暗さ) を示します。輝度値を直接入力することも、上下の矢印を使用して値を増減させることもできます。
- **赤 (Red)** 赤色を表す数値 (0 から 255) です。
- **緑 (Green)** 緑色を表す数値 (0 から 255) です。
- **青 (Blue)** 青色を表す数値 (0 から 255) です。
- **色 (Selected Color)** 選択した色が表示されます。
- **透過 (Transparent)** 色を透明にします。

挿入タブ

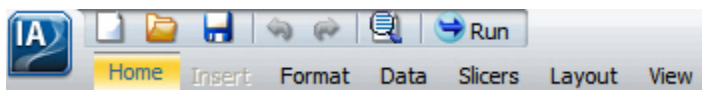
トピックス

ページグループ
レポートグループ
オブジェクトグループ
入力フォームグループ

[挿入] (Insert) タブには、[レイアウト] (Document) デザインビューの作業領域にレポート、グラフ、既存レポート、テキスト、イメージ、Active フォームコントロール (active report、active PDF、active Flash のみ) を追加するオプションが表示されます。下図は、その画面を示しています。



注意：[挿入] (Insert) タブは、[レイアウト] (Document) デザインビューでのみ使用可能です。



ページグループ

[ページ] (Pages) グループには、レイアウトに新しいページを追加する [ページ] (Page) コマンドが表示されます。

レポートグループ

[レポート] (Reports) グループには、レポート、グラフ、既存レポートをレイアウトに挿入するコマンドが表示されます。1つのレイアウトに、複数のレポートおよびグラフを追加することができます。次のコマンドを使用します。

- **レポート (Report)** 作業領域にレポートのプレースホルダを挿入します。

- **グラフ (Chart)** 作業領域にグラフのプレースホルダを挿入します。
- **取り込み (Existing Report)** [開く] (Open) ダイアログボックスを開いて、作業領域の左上に挿入するレポートを参照することができます。

オブジェクトグループ

[オブジェクト] (Objects) グループには、テキストおよびイメージをレイアウトに挿入するコマンドが表示されます。次のコマンドを使用します。

- **テキスト (Text)** 作業領域の左上にインラインテキストオブジェクトを挿入します。
- **イメージ (Image)** [開く] (Open) ダイアログボックスを開いて、作業領域の左上に挿入するイメージを参照することができます。

入力フォームグループ

[入力フォーム] (active dashboard prompts) グループには、Active フォームコントロールをレイアウトに挿入するコマンドが表示されます。これらのボタンを使用して、作業領域に複数のコントロールを追加できます。このグループは、レイアウトのフォーマットが active report、active PDF、または active Flash の場合にのみ表示されます。次のコマンドを使用します。

- **ドロップダウン (Drop Down)** 作業領域の左上にドロップダウンリストコントロールのプレースホルダを挿入します。
- **リストボックス (List)** 作業領域の左上にリストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
- **チェックボックス (Checkbox)** 作業領域の左上にチェックボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。
- **ラジオボタン (Radio Button)** 作業領域の左上にラジオボタンコントロールのプレースホルダを挿入します。
- **テキスト (Text)** 作業領域の左上にテキストボックスコントロールのプレースホルダを挿入します。

Active フォームコントロールの挿入についての詳細は、431 ページの「[Active テクノロジー レイアウト \(入力フォーム\) の作成](#)」を参照してください。

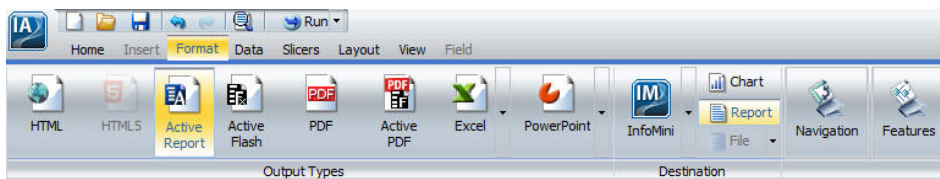
フォーマットタブ

トピックス

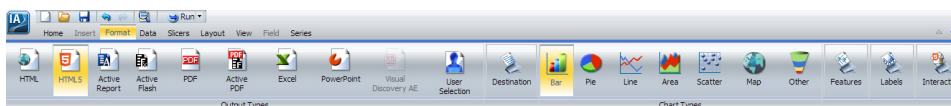
- 出力グループ
- 対象グループ
- ナビグループ (レポートのみ)
- 機能グループ (レポート)
- 機能グループ (グラフ)
- グラフグループ
- ラベルグループ (グラフ)

[フォーマット](Format) タブには、出力フォーマットおよびその他のレポート機能を選択するオプションが表示されます。これらのオプションは、レポートとグラフのどちらを作成しているかによって異なります。

レポートの場合は、[フォーマット](Format) タブには、下図のような[出力](Output Types)、[対象](Destination)、[ナビ](Navigation)、[機能](Features) グループが表示されます。



グラフの場合は、[フォーマット](Format) タブには、下図のような[出力](Output Types)、[対象](Destination)、[グラフ](Chart Types)、[機能](Features)、[ラベル](Labels) グループが表示されます。出力タイプとして HTML5 を選択すると、[グラフ](Chart Types) グループの[マップ](Map) 機能が有効になります。この場合、HTML5 で使用可能な [インタラクティブオプション](Interactive Options) も有効になります。



出力グループ

トピックス

HTML5

追加の出力タイプの有効化

ユーザ選択

[出力] (Output) グループには、下表のサポート対象フォーマットのいずれかで出力を作成するコマンドが表示されます。レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループの出力オプションメニューから選択することもできます。また、ステータスバーの出力フォーマットボタンから出力を選択する方法もあります。レポートで使用可能な追加の Excel フォーマットについての詳細は、147 ページの「[レポート出力](#)」を参照してください。

フォーマット (Format)	レポート (Reports)	グラフ (Charts)	レイアウト (入力フォーム) (Dashboard)、レイアウト (Documents)
HTML	使用可 (デフォルト)	使用可 (デフォルト)	使用可
HTML5	使用不可	使用可	使用不可
active report	使用可	使用可	使用可 (レイアウト (入力フォーム) のデフォルト)
active Flash	使用可	使用可	使用可
PDF	使用可	使用可	使用可 (レイアウトのデフォルト)
active PDF (Adobe Reader 9.0 以降が必要)	使用可	使用可	使用可

フォーマット (Format)	レポート (Reports)	グラフ (Charts)	レイアウト (入力フォーム) (Dashboard)、レイアウト (Documents)
Excel フォーマット	使用可	使用可	使用可
PowerPoint	使用可	使用可	使用可
PDF/GIF (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
PNG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
GIF (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
JPEG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可
SVG (InfoAssist のプロパティでの表示設定が必要)	使用不可	使用可	使用不可

HTML5

HTML5 は、グラフのデフォルト出力フォーマットです。この出力フォーマットでは、ビルトインの JavaScript エンジンを使用して、グラフをブラウザに表示することができます。この出力フォーマットのグラフでは、アニメーション、高品質ベクタ出力、アルファチャンネル、グラデーション効果など、HTML5 Web 標準の最新の機能を活用することができます。

追加の出力タイプの有効化

デフォルト設定では、[出力] (Output Types) グループに PNG、GIF、JPEG、SVG 出力タイプは表示されません。また、[ユーザ選択] (User Selection) もデフォルト設定では表示されません。これらの出力タイプを有効にするには、管理コンソールを開き、[ユーティリティ] (Utilities)、[InfoAssist のプロパティ] (InfoAssist Properties) を順に選択します。

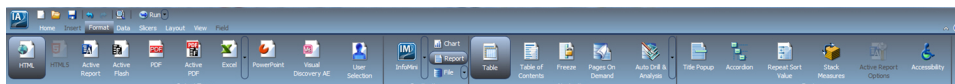
これらのフォーマットが有効になっていない状態で PNG を含む既存のプロシジャを開こうとすると、出力フォーマットは HTML に変更されます。また、次のような警告メッセージが表示される場合があります。

- JPG、GIF、または SVG フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは HTML 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。
- PDF または GIF フォーマットを含む既存のプロシジャを開くと、そのリクエストは現在の構成では許可されず、プロシジャは PDF 出力に変換されることを示す警告メッセージが表示されます。

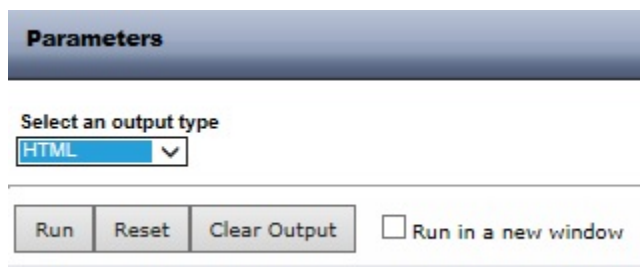
レポートを実行する際、出力は選択されているフォーマットで作成されます。出力フォーマットは、ステータスバーの [出力フォーマット] (Output Format) ボタンで設定することもできます。

ユーザ選択

[ユーザ選択] (User Selection) 出力オプションを使用すると、レポートの出力タイプを実行時に変更することができます。下図のように、[ユーザ選択] (User Selection) は、[フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output Types) グループから選択します。



このオプションを有効にすると、実行時に出力タイプの選択が要求されます。下図は、このダイアログボックスを示しています。



The screenshot shows a dialog box titled "Parameters". Under the heading "Select an output type", there is a dropdown menu with "HTML" selected. Below the dropdown are three buttons: "Run", "Reset", and "Clear Output". To the right of these buttons is a checkbox labeled "Run in a new window" which is currently unchecked.

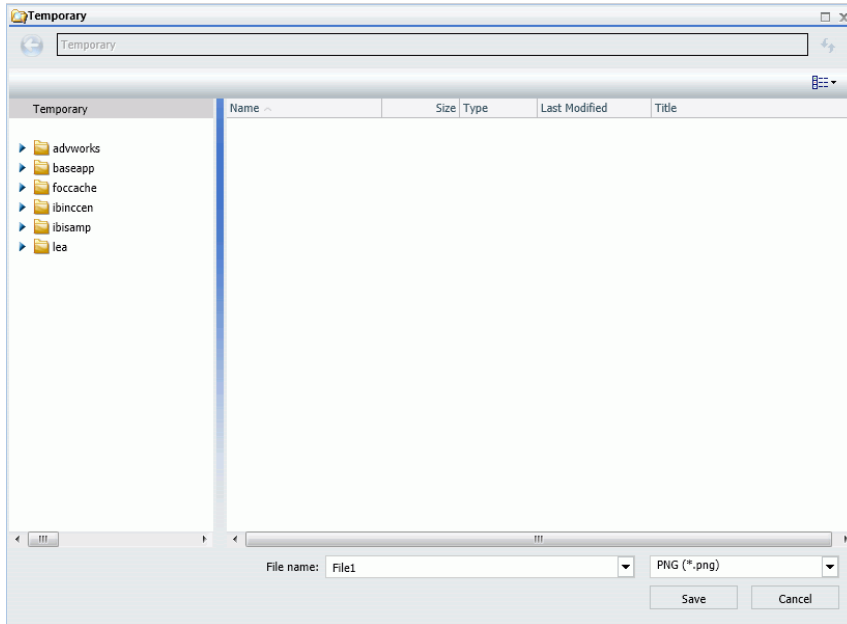
レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) では、次の出力タイプのいずれかを選択することができます。

- レポートの場合、HTML、Active Report、Active Flash、PDF、Active PDF、Excel 2000、Excel Formula、Excel 2007、Excel 2007 Formula、PowerPoint を選択することができます。
- グラフの場合、HTML、HTML5、Active Report、Active Flash、PDF、Active PDF、Excel 2000、PowerPoint を選択することができます。
- レイアウトおよびレイアウト (入力フォーム) の場合、HTML、Active report、Active Flash、PDF、Active PDF、Excel 2000、PowerPoint を選択することができます。

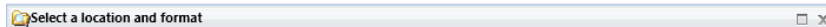
対象グループ

[対象] (Destination) グループには、InfoMini アプリケーション、グラフのイメージ、レポートのデータファイル、HOLD ファイルを作成するコマンドが表示されます。

グラフを選択して [ファイル] (File) ボタンをクリック、または [ファイル] (File) ドロップダウンメニューから [パスとフォーマットの選択] (Select a location and format) を選択すると、下図のような [パスとフォーマットの選択] (Select a location and format) ダイアログボックスが開きます。



注意：「一時ファイル」 (Temporary) というラベルは、ダイアログボックスの上部に表示されます。下図のように、フォルダを選択すると、このラベルは [パスとフォーマットの選択] (Select a location and format) に変更されます。



[パスとフォーマットの選択] (Select a location and format) ダイアログボックスで、ファイル名を指定し、出力タイプを選択することができます。使用可能な出力タイプには、PNG、GIF、SVG、JPEG があります。イメージファイルを作成するには、プロシジャを実行する必要があります。

- **InfoMini** InfoMini アプリケーションの作成を有効にします。詳細は、「[Building InfoMini Applications](#)」を参照してください。
- **レポート** InfoAssist でレポートに特化した機能を使用可能にします。レポートからグラフへ切り替えると、それまでに選択されていたそれぞれのレポートタイプに特化したオプションは、すべて現行セッションでレポートが保存されるまで保持されます。レポートを保存する際には、グラフに特化したオプションは保持されません。

- **グラフ** InfoAssist でグラフに特化した機能を使用可能にします。グラフからレポートへ切り替えると、それまでに選択されていたそれぞれのグラフタイプに特化したオプションは、すべて現行セッションでグラフが保存されるまで保持されます。また、グラフを保存する際には、レポートに特化したオプションは保持されません。

ナビグループ (レポートのみ)

[ナビ] (Navigation) グループには、出力の表示とナビゲーションをカスタマイズするコマンドが表示されます。

注意：このグループから選択可能なオプションは 1 つのみです。

次のコマンドを使用します。

- **テーブル (Table)** (デフォルト設定) 標準のブラウザ出力を生成します。
- **目次 (Table of Contents)** 生成された出力で、一般にレポート出力が表示される左上の位置に目次アイコンを表示します。[目次] (Table of Contents) アイコンをクリックすると、メニューが表示され、このメニューから最初のソート (BY) フィールドの個別値を、一度に 1 つずつ選択して表示することができます。

レポート全体を表示することや、目次を除外するオプションを選択することもできます。詳細は、「[Create Table Reports](#)」を参照してください。

注意

- [目次] (Table of Contents) オプションは、HTML、active report、Excel、PowerPoint 出力フォーマットが選択されている場合にのみ有効になります。
- 目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。詳細は、「[Create Accordion Reports](#)」を参照してください。
- **固定 (Freeze)** 生成された出力で、レポートのページのスクロール時にタイトルを固定して表示します (タイトルを常時表示)。詳細は、「[Freeze Column Titles in Reports](#)」を参照してください。
- **Web ビューア (Pages On Demand)** 選択した出力タイプに応じて、異なる 2 つの機能が提供されます。
 - **HTML** この出力タイプを選択して [Web ビューア] (Pages on Demand) をクリックすると、レポートが Web ビューアに表示されます。

- **active report** この出力タイプを選択して [Web ビューア] (Pages on Demand) をクリックすると、アクティブキャッシュが有効になります。詳細は、408 ページの「[アクティブキャッシュオプションの使用](#)」を参照してください。

機能グループ (レポート)

レポートの [機能] (Features) グループには、レポートに特化した機能が表示されます。次のコマンドを使用します。

- **ポップアップ (Title Popup)** レポート出力の列タイトル上にマウスポインタを置いたときに、タイトルがポップアップ表示されます。詳細は、「[Add Pop-Up Titles to a Report](#)」を選択してください。
- **アコーディオン (Accordion)** 縦ソートフィールドの値ごとにデータを展開して表示できるレポートを作成します。このオプションを選択すると、出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。レポートを手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。詳細は、「[Create Accordion Reports](#)」を参照してください。

注意：目次をアコーディオン機能とともに使用することはできません。詳細は、54 ページの「[ナビグループ \(レポートのみ\)](#)」を参照してください。

- **ソート値の繰り返し (Repeat Sort Value)** デフォルト動作ではソートフィールドの値が変わるたびに最初のソート値のみがレポートに表示され、後続の同一ソート値はブランクになりますが、このオプションを選択すると、ソート値のすべてが繰り返し表示されます。
- **積み重ね基軸 (Stack Measures)** レポート出力列の数値基軸フィールド名すべてに、対応する数値データの値を表示します。詳細は、「[Implement Stack Measures](#)」を選択してください。
- **active report オプション (active report options)** [active report オプション] (active report options) ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、active report のオプションを構成することができます。詳細は、411 ページの「[Active テクノロジレポートの作成](#)」を参照してください。
- **アクセシビリティ (Accessibility)** レポート、グラフ、レイアウトに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。

下表は、各機能の使用可または使用不可を出力タイプ別に示したものです。[はい]は、出力タイプで機能を使用できることを示しています。[いいえ]は、出力タイプで機能を使用できないことを示しています。

	HTML	HTML5	active report	active Flash	PDF	active PDF	Excel	PowerPoint
ポップアップ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
アコーディオン	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
ソート値の繰り返し	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい
積み重ね基軸	はい	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ
active report オプション	いいえ	いいえ	はい	はい	いいえ	はい	いいえ	いいえ
アクセシビリティ (レポート、グラフ)	はい	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ
アクセシビリティ (レイアウト)	いいえ	いいえ	いいえ	いいえ	はい	いいえ	いいえ	いいえ

機能グループ (グラフ)

グラフの [機能] (Features) グループには、グラフに特化した機能が表示されます。

次のコマンドを使用します。

- **3D 表示 (3D Effect)** (デフォルト) 3D 表示のオンまたはオフを設定します。[3D 表示] (3D Effect) 機能は、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。
- **回転 (Rotate)** グラフ表示の縦向きと横向きを切り替えます。詳細は、337 ページの「[グラフを回転するには](#)」を参照してください。[回転] (Rotate) 機能は、円グラフ、散布図、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。

- **参照 (Reference)** ドロップダウンメニューを開いて、[Y 軸に参照線を追加] (Add Reference Line to Y-axis) および [X 軸に参照線を追加] (Add Reference Line to X-axis) オプションを表示します。これらのオプションの 1 つを選択すると、対応する [参照線] (Reference Line) ダイアログボックスが開いて、テキストの入力、X 軸または Y 軸値の設定、グラフ参照線の配置の設定を行うことができます。詳細は、338 ページの「[静的参照線を表示するには](#)」を参照してください。[参照] (Reference) 機能は、円グラフ、3D グラフ、株価グラフ、メータグラフ、温度計グラフ、パレートグラフ、ブロック地図、じょうごグラフでは使用できません。
- **注釈 (Annotate)** ドロップダウンメニューを開いて、[注釈の追加] (Add an annotation) オプションを表示します。このオプションを選択すると、[注釈] (Annotation) ダイアログボックスが開いて、テキストの入力とグラフ注釈行の配置の設定を行うことができます。詳細は、343 ページの「[グラフに注釈を表示するには](#)」を参照してください。

注意：注釈のオプションは、HTML5 では使用できません。注釈のオプションは、InfoAssist Basic では使用できません。
- **罫線 (Grid)** ドロップダウンメニューを開いて、[横罫線] (Horizontal Gridlines) と [縦罫線] (Vertical Gridlines) のオプションを選択することができます。どちらのオプションを選択した場合でも、主罫線と補助罫線を有効または無効にできます。[罫線詳細オプション] (More Options) を選択すると、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。詳細は、250 ページの「[罫線のフォーマット設定](#)」を参照してください。
- **フレームと背景 (Frame & Background)** [フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスを開いて、グラフの背景スタイルとフレームを編集することができます。選択したグラフタイプに応じて、このダイアログボックスには、異なるオプションが表示されます。詳細は、284 ページの「[フレームおよび背景のフォーマット設定](#)」を参照してください。
- **メータ (Gauge)** [メータ] (Gauge) ダイアログボックスを開いて、メータグラフを編集することができます。このボタンは、メータグラフを選択した場合にのみ使用可能になります。詳細は、328 ページの「[メータ針のスタイルを設定するには](#)」を参照してください。
- **active report オプション (active report options)** [active report オプション] (active report options) ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、active report のオプションを構成することができます。このボタンは、出力タイプが active report、active Flash、または active PDF に設定されている場合に使用可能です。

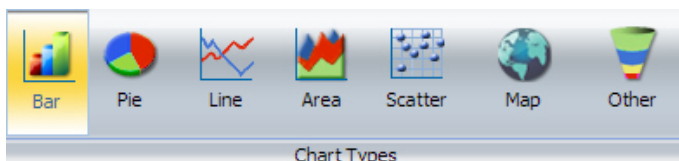
注意：注釈は、HTML5 では使用できません。

- **アクセシビリティ (Accessibility)** レポート、グラフ、またはレイアウトに、セクション 508 (米国リハビリテーション法 508 条) に準拠するタイトルを追加できるようにします。このオプションは、出力タイプが HTML または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。レイアウトの場合は、出力タイプを PDF に設定する必要があります。

注意：作成中のグラフの出力が active report、active Flash、または active PDF フォーマットに設定されている場合、グラフ機能は無効になります。

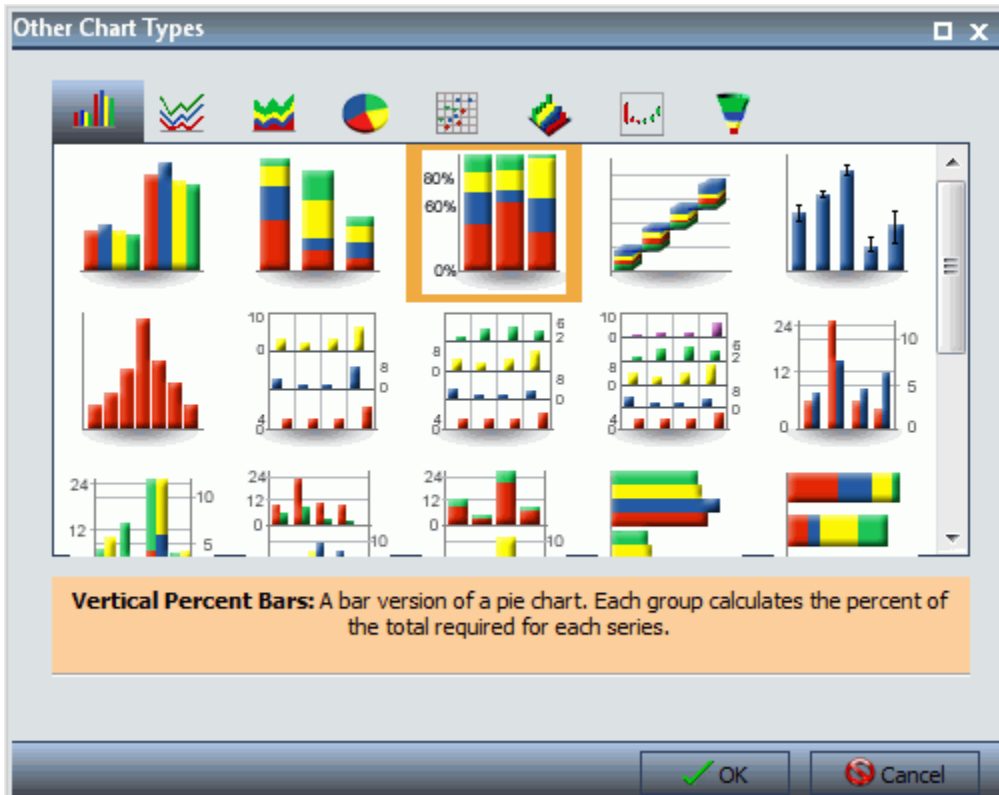
グラフグループ

[グラフ] (Chart Types) グループには、よく使用するグラフタイプとして、[棒] () (デフォルト)、[円] (Pie)、[折れ線] (Line)、[面] (Area)、[散布図] (Scatter) などが表示されます。また、出力タイプとして HTML5 を選択した場合は、[マップ] (Map) にアクセスすることもできます。



[その他] (Other) をクリックすると、下図のような [その他のグラフタイプ] (Other Chart Types) ダイアログボックスが表示されます。ダイアログボックス上部に、アイコンで表されたタブが横方向に表示されます。各タブは、グラフタイプカテゴリを表しています。デフォルト設定で選択されている左端のタブは、棒グラフカテゴリを表します。このタブが選択されている場合、InfoAssist でサポートされる棒グラフのサムネイルイメージが表示されます。

この例では、「パーセント縦棒」(Vertical Percent Bar) というタイプが選択されています。イメージの下に、選択したグラフタイプの説明が表示されます。



選択可能なグラフタイプについての詳細は、150 ページの「[グラフの選択](#)」を参照してください。

ラベルグループ (グラフ)

グラフの [ラベル] (Labels) グループには、[軸] (Axes) および [凡例] (Legend) ドロップダウンメニューが表示されます。

次のコマンドを使用します。

- **軸 (Axes)** ドロップダウンメニューを開いて、横軸および縦軸のラベルを表示、交互に表示、回転することができます。また、[横軸詳細オプション] (More Horizontal Axis Options) または [縦軸詳細オプション] (More Vertical Axis Options) を選択して、軸ラベルを編集することもできます。詳細は、268 ページの「[軸ラベルのフォーマット設定](#)」を参照してください。
- **凡例 (Legend)** ドロップダウンメニューを開き、[凡例の表示] (Show Legend) オプションを選択してグラフに凡例を表示したり、選択を解除して凡例を非表示にしたりできます。また、凡例のデフォルト位置やデフォルト方向を変更することも可能です。詳細は、238 ページの「[凡例フォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

データタブ

トピックス

演算グループ

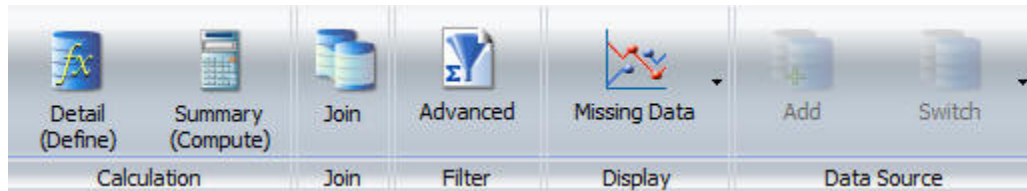
JOIN グループ

フィルタグループ

表示グループ

データソースグループ

[データ] (Data) タブには、データ操作およびデータ表示のオプションが表示され、これらは [演算] (Calculation)、[JOIN]、[フィルタ] (Filter)、[表示] (Display)、[データソース] (Data Source) グループに分類されています。下図は、その画面を示しています。



演算グループ

[演算] (Calculation) グループには、一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) フィールドを定義するコマンドが表示されます。

一時項目 (DEFINE) および一時項目 (COMPUTE) は、それぞれ異なるタイプの一時フィールドです。一時項目とは、その値自体はデータソースに保存されていないが、既存のデータから計算を行ったり、絶対値を割り当てたりできるフィールドです。一時項目には保存場所は不要です。保存場所は必要に応じて作成されます。

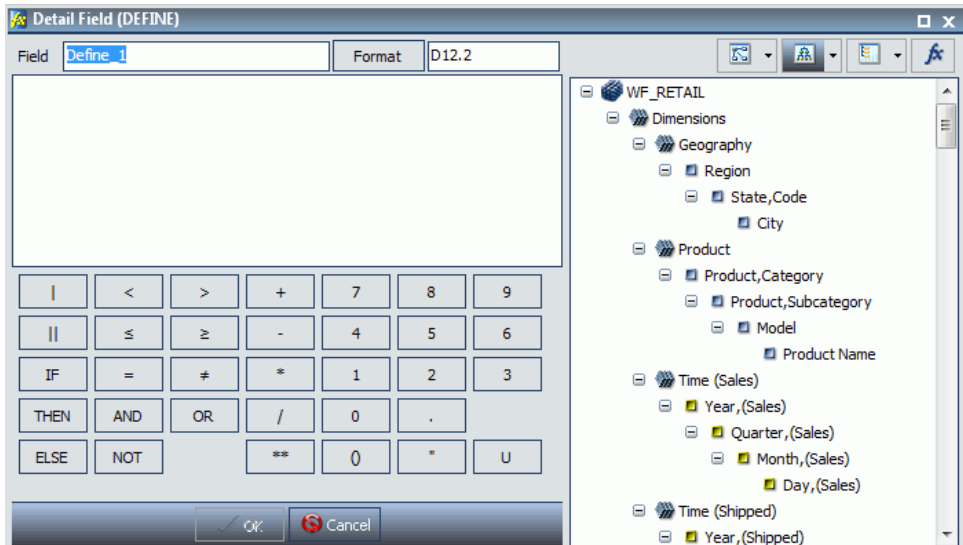
一時項目を作成する場合、式を記述してその値を生成します。1つの値を生成するために、式にはフィールド、定数、演算子を組み合わせて使用することができます。

ユーザが独自に式を指定することもできますが、特定の計算や操作を行うために用意されたさまざまな関数の中から必要なものを選択することもできます。さらに、単純な式および関数を構成要素としてさらに複雑な式を作成したり、特定の一時項目を使用してその他の一時項目の評価を行ったりすることも可能です。

一時項目 (DEFINE) は、選択条件に一致するレコードをデータソースから取得する際に評価されます。式の結果は、データソースに実際に保存されている実フィールドのように扱われます。

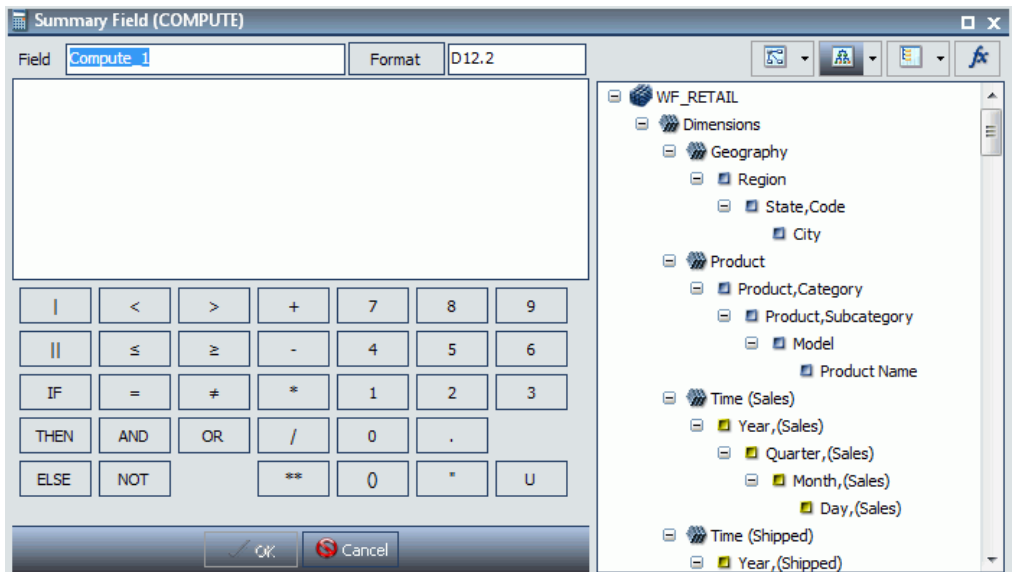
一時項目 (COMPUTE) は、選択条件に一致するすべてのデータが検索、ソート、集計された後で評価されます。その結果、この計算はフィールド集計値を使用して実行されます。

- **一時項目 (DEFINE)** [PRINT フィールド (DEFINE)] (Detail Field (DEFINE)) ダイアログボックスを開いて、一時項目 (DEFINE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。一時項目 (DEFINE) は、実際のデータに追加されます。下図は、[PRINT フィールド (DEFINE)] ダイアログボックスを示しています。



- 一時項目 (**COMPUTE**) [SUM フィールド (COMPUTE)] (Summary Field (COMPUTE)) ダイアログボックスを開いて、一時項目 (COMPUTE) を作成し、フィールド名とフォーマットを入力することができます。

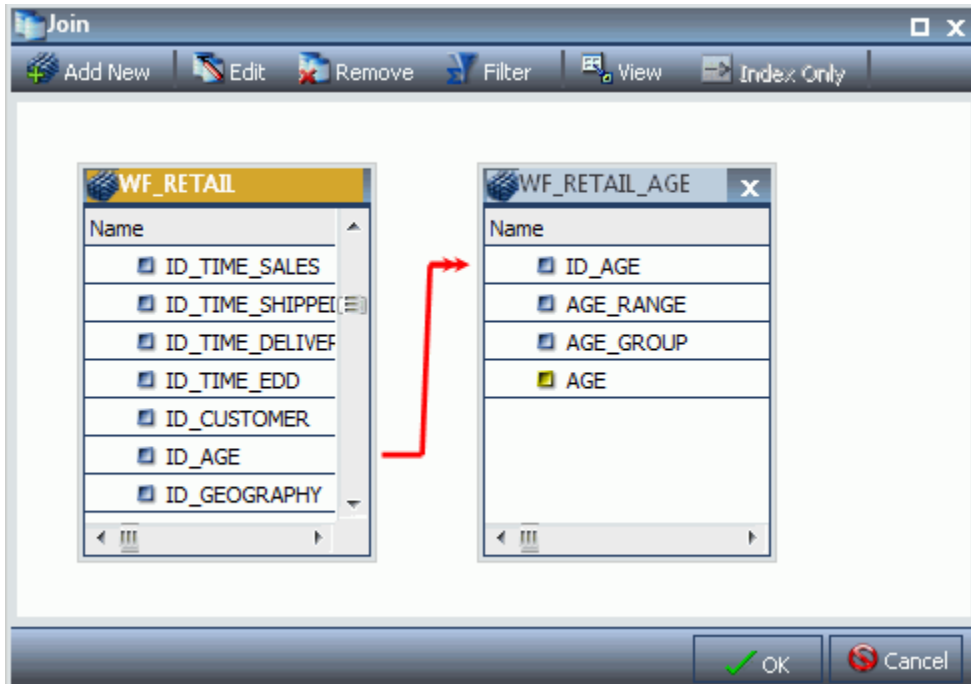
[一時項目 (DEFINE)] (Detail) または [一時項目 (COMPUTE)] (Summary) をクリックして開くダイアログボックスでは、フィールドをツリー表示、ディメンション表示、リスト表示するオプションなど、両方のダイアログボックスで同様の機能を使用できます。また、[関数] (Functions) ボタンを選択すると、データソースフィールドではなく、関数一式を表示することができます。下図は、[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスを示しています。



JOIN グループ

[JOIN] グループの [JOIN] ボタンをクリックして [JOIN] ダイアログボックスを開き、新しい JOIN の作成、既存の JOIN の編集や削除、データソースの JOIN への追加を行えます。

下図の [JOIN] ダイアログボックスでは、2つのデータソースが共通の ID_AGE インデックスフィールドで結合されています。

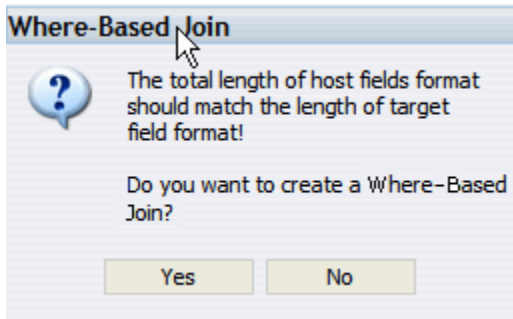


条件付き JOIN を使用すると、フィールド間の等価性とは別の条件に基づいて JOIN を設定することができます。さらに、ホストおよびクロスリファレンス JOIN フィールドに同一フォーマットを含めたり、クロスリファレンスフィールドにインデックスを付ける必要がなくなります。

注意：[JOIN] ダイアログボックスの [編集] (Edit) をクリックし、[説明] (Description) セクションに入力することで、JOIN の説明を編集することができます。この説明には、文字、数字、アンダースコア () のみを使用できます。特殊文字を使用することはできません。

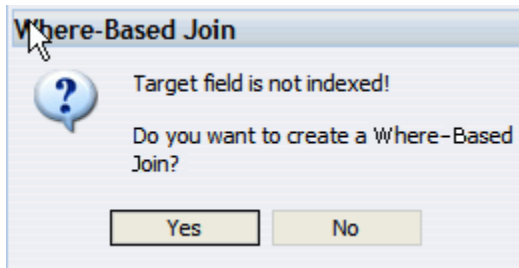
条件付き JOIN は、すべてのリレーショナルデータアダプタでサポートされます。各データソースは複雑な条件の処理能力において異なるため、WHERE 構文の最適化は JOIN に関わる特定データソースおよび条件の複雑さにより異なります。

データソースによっては、ホスト JOIN フィールドとクロスリファレンス JOIN フィールドに共通するフォーマットがない場合、次のメッセージが表示されます。



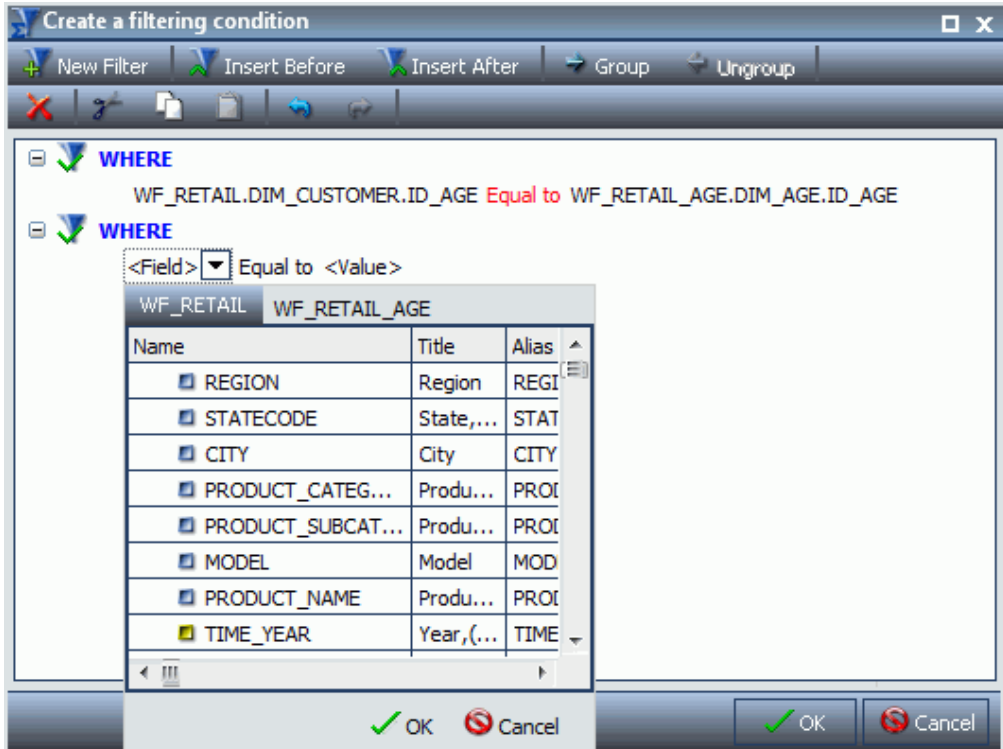
注意：[はい] (Yes) をクリックすると、[フィルタの作成] (Advanced Filter) ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

クロスリファレンス JOIN フィールドにインデックスがない場合、次のメッセージが表示されます。



注意：[はい] (Yes) をクリックすると、[フィルタの作成] (Advanced Filter) ダイアログボックスが開いて、WHERE ベースの JOIN を作成することができます。

WHERE ベースの JOIN を作成するには、下図のようなフィルタ条件を作成します。



フィルタグループ

[フィルタ] (Filter) グループの [高度な設定] (Advanced Filter) ボタンをクリックして [フィルタの作成] (Advanced Filter) ダイアログボックスを開き、高度なフィルタオプションを設定します。高度なフィルタオプションには、単一式の WHERE、WEHRE TOTAL、AND 論理積、OR 論理積があります。

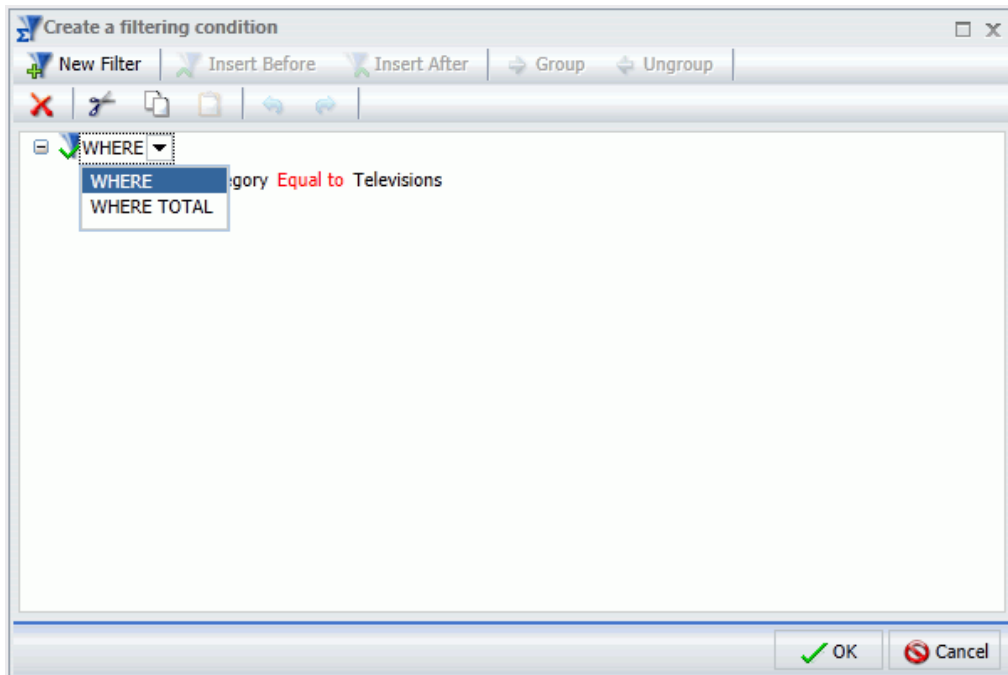
レポートを作成する際に、リクエストのさまざまな箇所でフィールドを参照します。たとえば、表示コマンド (PRINT、SUM)、ソート句 (BY、ACROSS)、選択条件 (WHERE、WHERE TOTAL、IF) でフィールドを参照します。

WHERE 句を使用して、レポートに表示するレコードをデータソースから選択します。データは、データソースから検索される前に選択条件に従って評価されます。選択条件の定義には、必要な数の WHERE 句を任意に使用することができます。

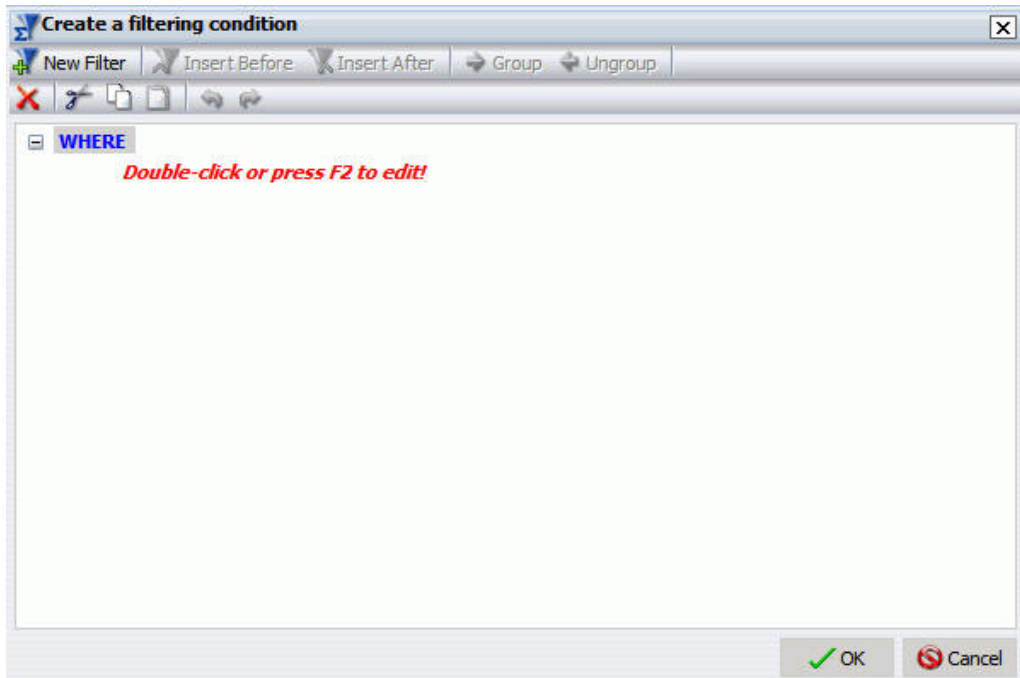
逆に、WHERE TOTAL テストでは、すべてのデータが取得、処理された後でそのデータが選択されます。

単純なフィルタ条件内では、条件と式をグループ化することができます。また、条件内で関数や演算を適用することもできます。このオプションでは、[フィルタ](Filter) ダイアログボックスよりも多くの機能を選択することができます。単純なフィルタについての詳細は、88 ページの「[フィールドタブ](#)」を参照してください。

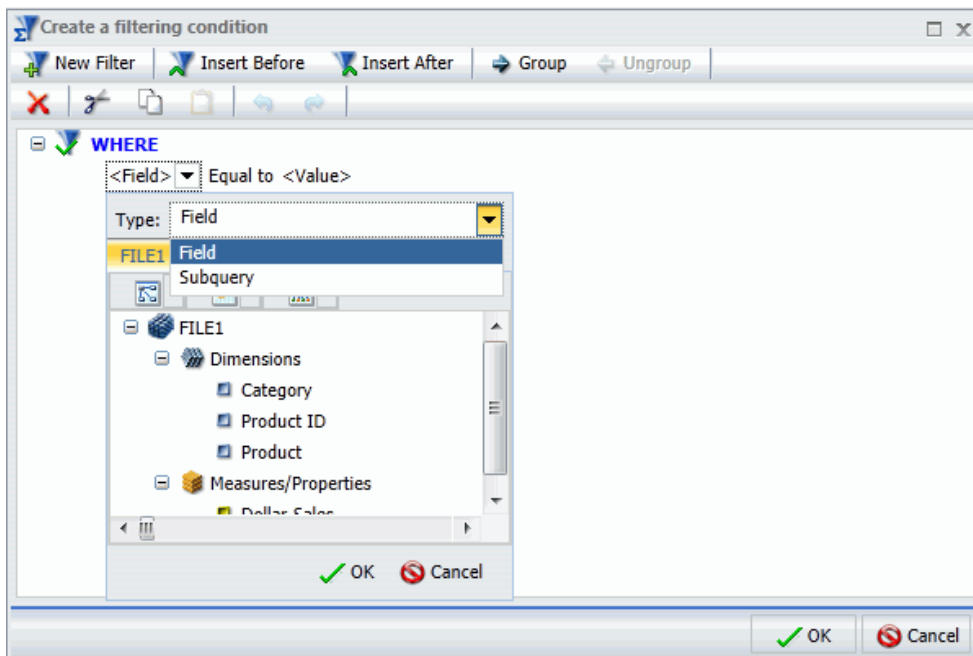
下図のように、[フィルタの作成] (Advanced Filter) ダイアログボックスで [WHERE] をクリックすると、WHERE 条件および WHERE TOTAL 条件によるフィルタを作成することができます。



[ダブルクリックするか、F2 キーを押して編集してください。] (Double-click or press F2 to edit!) をダブルクリックすると、2 番目の図のように、<フィールド> (Field)、<サブクエリ> (Subquery)、<演算子> (Operator)、<値> (Value) のドロップダウンリストが開きます。

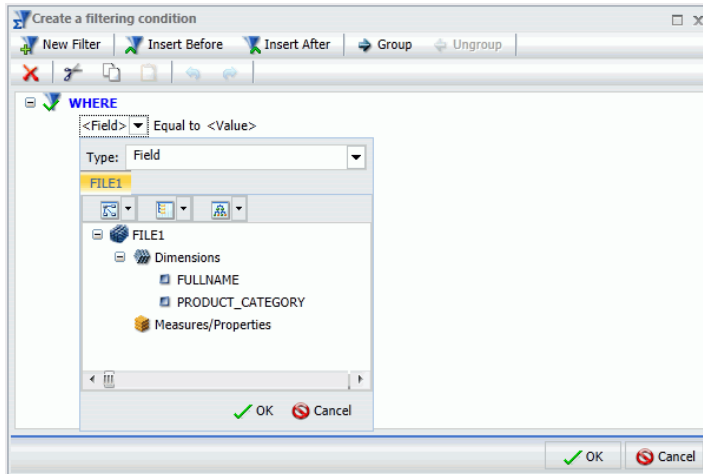


フィールドと値はマスターファイルおよびデータソース、サブクエリは HOLD ファイルから取得することができます。

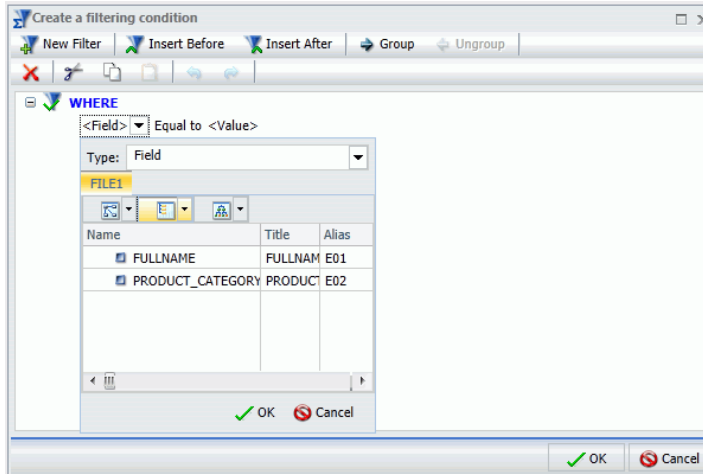


[フィールド](Field) ドロップダウンリストには、マスターファイルのフィールドリストが表示されます。フィールドリストには、次の表示方法があります。

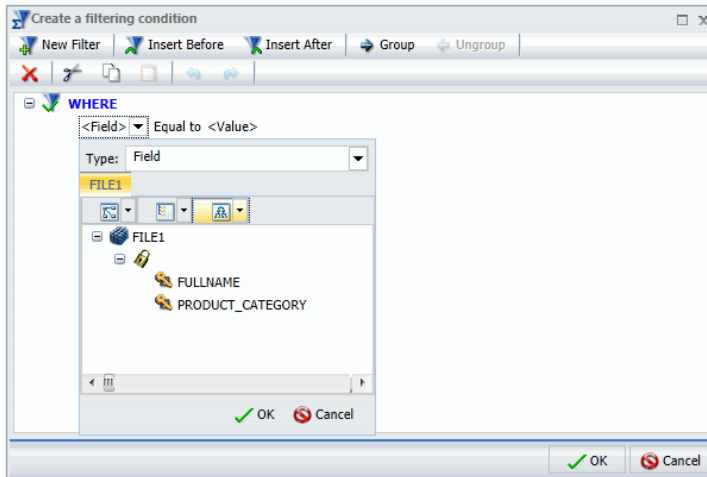
- ビジネス順 (デフォルト設定)



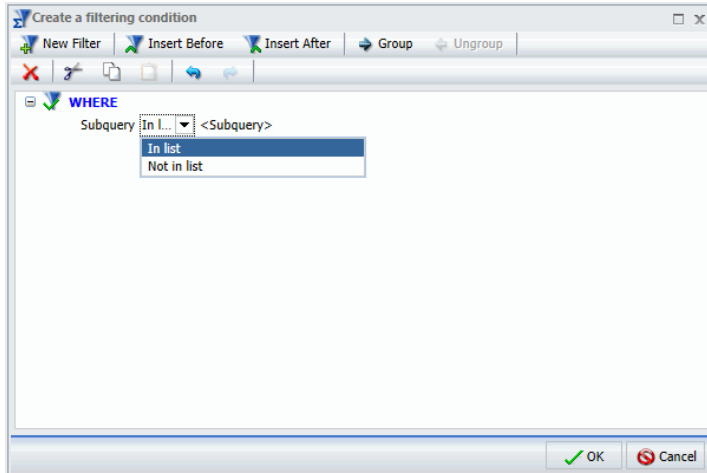
- ソート可能なリスト形式



□ データの階層構造



- 下図のように、[サブクエリ](Subquery)を選択すると、[演算子](Operator) ドロップダウンリストがメニューに変化し、[リストに存在する](In list)、[リストに存在しない](Not in list) オプションが表示されます。



- **リストに存在する (In list)** 式の右端のドロップダウンリストを有効にします。このドロップダウンリストには、使用中のマスターファイルから作成されたすべてのサブクエリの一覧が表示されます。

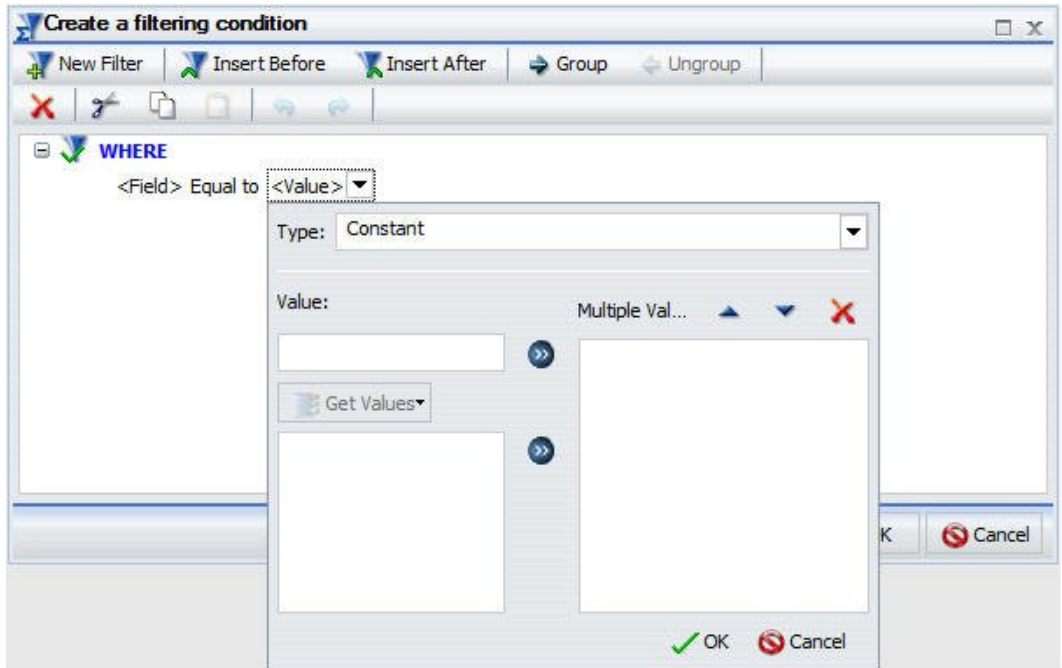
[既存](EXISTING)をクリックすると、[開く](Open) ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

- **リストに存在しない (Not in list)** [開く] (Open) ダイアログボックスが開き、別のマスターファイルからサブクエリを選択することができます。

[演算子] (Operator) (デフォルト設定) ドロップダウンリストには、次の演算子が表示されます。

- 等しい (Equal to)
- 等しくない (Not equal to)
- より大きい (Greater than)
- より小さい (Less than)
- 以上 (Greater than equal to)
- 以下 (Less than or equal to)
- リテラルリストに存在する (In literal list)
- リテラルリストに存在しない (Not in literal list)
- ミッシング (Missing)
- ミッシングでない (Not missing)
- 値 1 から値 2 (From - To)
- 値 1 から値 2 以外 (Not From - To)
- リテラルリストを含む (Includes literal list)
- リテラルリストを含まない (Excludes literal list)
- 文字列を含む (Contains characters)
- 文字列を含まない (Omits characters)
- 文字マスク (Like character mask)
- 文字マスク以外 (Not like character mask)

下図のように、[値] (Value) ドロップダウンリストで、複数のオプションを提供するダイアログボックスを開くことができます。



[タイプ] (Type) ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

- **定数 (Constant)** リテラル定数値を入力することができます。
- **パラメータ (Parameter)** テキストボックスに名前と説明を入力してパラメータを指定し、パラメータタイプ (実行時に入力、静的、動的) を選択することができます。
- **フィールド (Field)** 比較するフィールド名を指定することができます。

[値] (Values) エリアには、テキストボックスがあり、値を手動で入力することができます。また、[値の取得] (Get Values) ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

- **すべて (All)** 選択したフィールドの値をすべて取得します。
- **最初 (First)** 選択したフィールドの最初の値を取得します。
- **最後 (Last)** 選択したフィールドの最後の値を取得します。
- **最小 (Minimum)** 選択したフィールドの最小値を取得します。

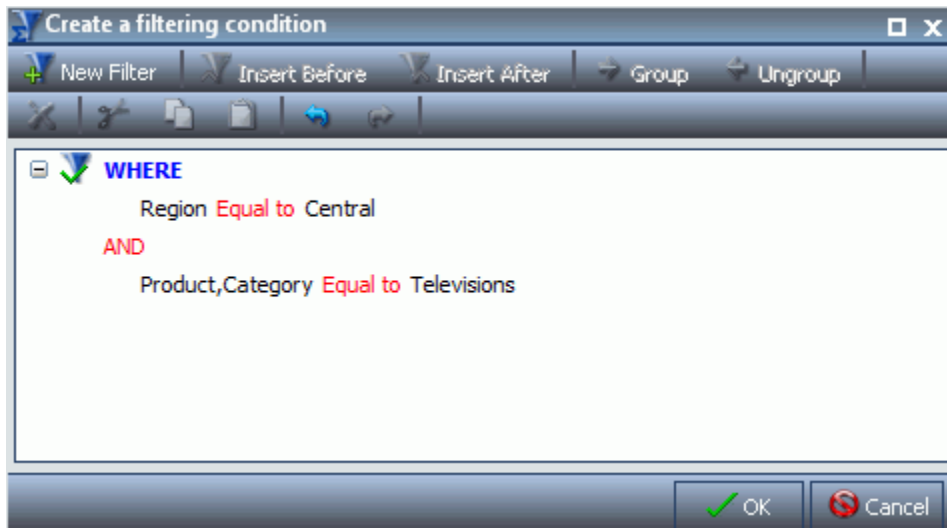
- **最大 (Maximum)** 選択したフィールドの最大値を取得します。
- **ファイルから (From File)** 指定された値を取得します。このオプションを選択すると、[ファイルから選択] ダイアログボックスが表示されます。

注意：[値の取得] (Get Values) ドロップダウンリストにアクセスするには、フィールドを選択する必要があります。

目的の値を選択後、左右の矢印を使用して、その値を [複数値] (Multiple Values) エリアに追加したり、[複数値] (Multiple Values) エリアから削除したりできます。上下の矢印で値の順序を変更することや、削除アイコンで値を削除することもできます。

条件の作成後、[フィルタの設定] (Advanced Filter) ダイアログボックス上部の [前に挿入] (Insert Before) ボタンと [後に挿入] (Insert After) ボタンを使用して、作成した条件の前後に条件を追加することができます。[AND] または [OR] 接続詞を使用して条件を結合することや、[グループ] (Group) ボタンおよび [グループ解除] (Ungroup) ボタンを使用して条件をネスト、整理することができます。

[フィルタの作成] (Advanced Filter) のダイアログボックス上部の [新規フィルタ] (New Filter) ボタンをクリックして、新しいフィルタを作成することもできます。



フィルタの作成後、[OK] をクリックしてフィルタを保存、適用します。これらにアクセスするには、リソースパネルの [フィルタ] (Filter) ウィンドウを使用します。

表示グループ

[表示] (Display) グループの [ミッシングデータ] (Missing) メニューには、グラフにミッシングデータ値を表示するかどうかを制御するオプションが表示されます。

[ミッシングデータ] (Missing Data) オプションには、次のものがあります。

- **ミッシングデータ (Missing Data)** [間隔あり] (Gap)、[ゼロ表示] (Zero)、[補間線] (Interpolated Line) オプションが表示されます。
- **間隔あり (Gap)** 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフで、ミッシング値を空白部分 (隙間) として表示します。
- **ゼロ表示 (Zero)** 棒グラフでは、ゼロ線上に棒を表示します。折れ線グラフでは、ミッシング値と後続の値とを接続する実線を表示します。面グラフでは、ゼロ線上に面を表示します。
- **補間線 (Interpolated Line)** 折れ線グラフでは、ミッシング値を、その点の直前と直後の 2 点を接続する補間点線として表示します。棒グラフでは、ミッシング値を補間された棒として表示します。面グラフでは、ミッシング値を面として表示します。

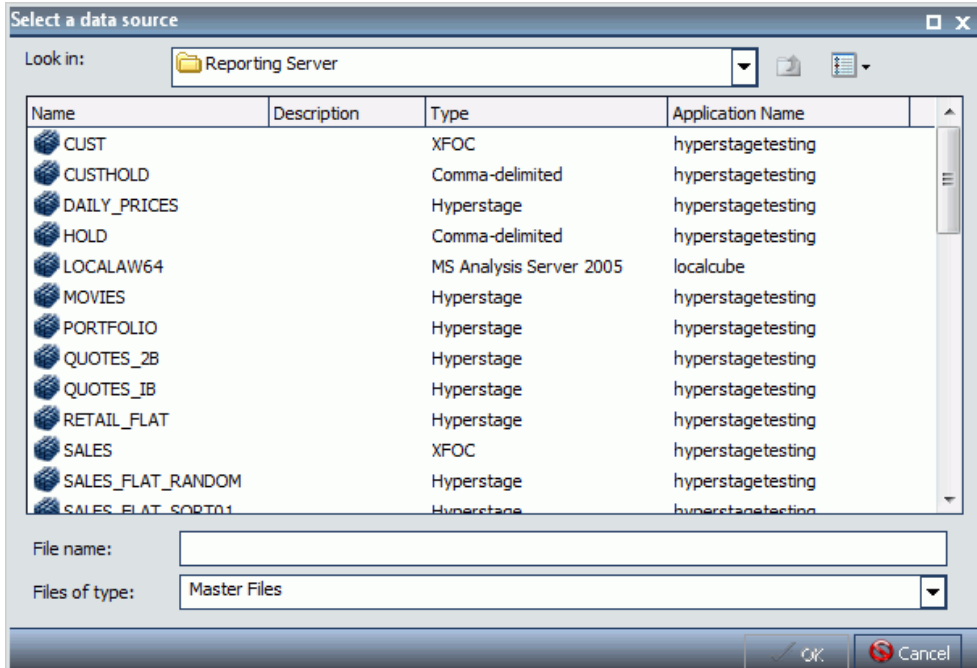
データソースグループ

[データソース] (Data Source) グループには、データソースの追加および切り替えを行うための [追加] (Add) コマンドおよび [切り替え] (Switch) ドロップダウンメニューが表示されます。[データソース] (Data Source) グループは、レイアウトモードでのみ使用可能になります。

注意：レポートオブジェクトで作業している場合、[データソース] (Data Source) グループは無効になります。

次のコマンドを使用します。

- **追加 (Add)** [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを開いて、レイアウトに別のデータソースを追加することができます。これにより、同一レイアウトに複数の異なるデータソースのレポートを挿入することが可能になります。下図は、[データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスを示しています。



- **切り替え (Switch)** ドロップダウンメニューを開いて、追加済みデータソースをすべて表示します。現在アクティブなデータソース、および新しいレポート作成に使用するデータソースを選択することができます。

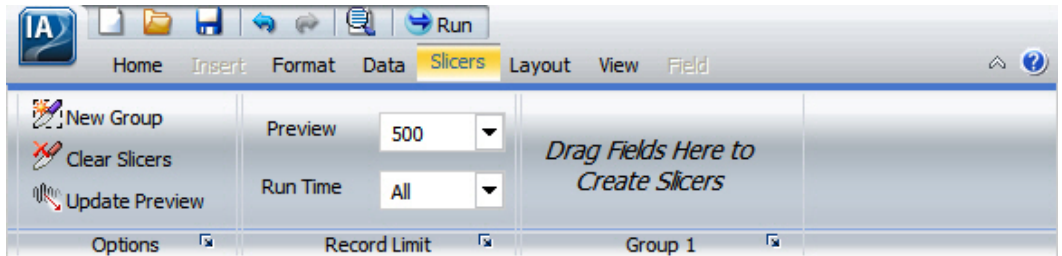
データソースを切り替えるには、現在アクティブなデータソースとは異なるデータソースを使用するレポートを選択することもできます。

スライサタブ

トピックス

オプショングループ
 最大レコード数グループ
 グループ番号グループ

[スライサ] (Slicers) タブでは、スライサを作成、編集することができます。スライサは、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトで使用可能な動的フィルタです。スライサについての詳細は、「[Using Slicers](#)」を参照してください。下図は、[スライサ] (Slicers) タブを示しています。



オプショングループ

[オプション] (Options) グループには、スライサに関連するコマンドが表示されます。次のコマンドを使用します。

- **新規グループ (New Group)** 類似したスライサのグループを新規に作成します。
- **スライサのクリア (Clear Slicers)** すべてのスライサをリセットして、フィルタが適用されていない状態に戻します。
- **プレビューの更新 (Update Preview)** スライサをプレビューに適用します。

最大レコード数グループ

[最大レコード数] (Record Limit) グループには、[プレビュー] (Preview) ドロップダウンメニューおよび [実行時] (Run Time) ドロップダウンメニューがあります。

- **プレビュー (Preview)** プレビュー時にデータソースから取得するレコード数を設定します。次のオプションがあります。

- すべて (All)
 - 1
 - 10
 - 50
 - 100
 - 500
 - 1000
 - 2000
 - 5000
 - 10000
- 実行時 (Run Time)** 実行時に取得するレコード数を設定します。次のオプションがあります。
- すべて (All)
 - 50
 - 100
 - 500
 - 1000
 - 5000
 - 10000
 - 50000

グループ番号グループ

[グループ番号] (Group Number) グループには、追加したスライサグループが、番号付きのグループとして表示されます。デフォルトのスライサグループは「グループ 1」 (Group 1) です。このグループにフィールドをドラッグして、スライサを作成することができます。

レイアウトタブ

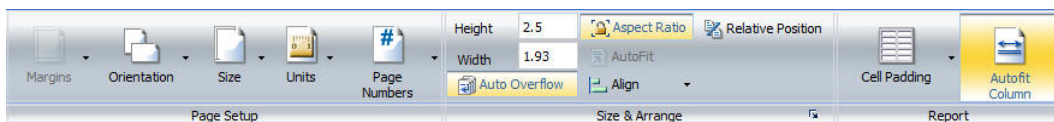
トピックス

ページ設定グループ

サイズと整列グループ

レポートグループ

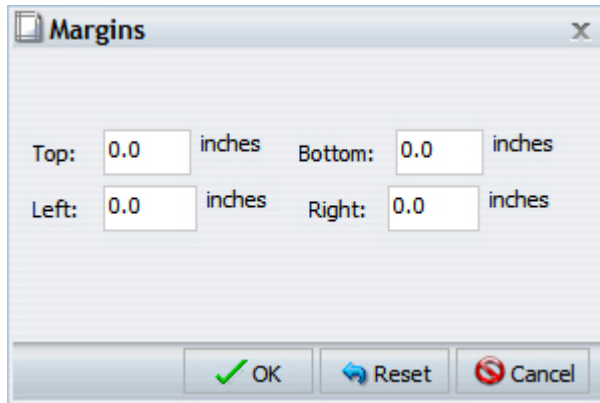
[レイアウト] (Layout) タブには、ページの表示とレイアウトのオプションが表示され、[ページ設定] (Page Setup)、[サイズと整列] (Size & Arrange)、[レポート] (Report) グループに分類されています。下図は、その画面を示しています。



ページ設定グループ

[ページ設定] (Page Setup) グループには、レポート出力のページ設定をカスタマイズするための [マージン] (Margins)、[方向] (Orientation)、[サイズ] (Size)、[単位] (Units)、[ページ番号] (Page Numbers) (レポートのみ) コマンドが表示されます。

- **マージン (Margins)** [標準 (各辺 1.0 インチ)] (Normal (1 inch all around))、[狭く (各辺 0.50 インチ)] (Narrow (.5 inch all around))、[中間 (左/右 0.50 インチ)] (Moderate (.5 inch left or right))、[広く (左/右 1.50 インチ)] (Wide (1.5 inch left or right))、[カスタム] (Custom) から、マージン値を選択することができます。[カスタム] (Custom) を選択すると、下図のような[マージン] (Margins) ダイアログボックスが開いて、マージンサイズを指定することができます。



- **方向 (Orientation)** レポートの方向を [縦] または [横] に設定することができます。
- **サイズ (Size)** 印刷時の用紙サイズを選択することができます。[A3]、[A4]、[A5]、[Letter]、[Tabloid]、[Legal]、[Power Point]、[E] (Large Size) から選択できます。
- **単位 (Units)** レポートやグラフの高さと幅をカスタマイズする際の測定単位を選択することができます。[インチ] (Inches)、[センチメートル] (Centimeters)、[ポイント] (Points) から選択できます。
- **ページ番号 (Page Numbers)** (レポートのみ) ページ番号オプションを選択することができます。次のいずれかを選択します。
 - NOLEAD (No Lead) (見出しスペースなし)
 - オン (On) (ページ番号のみ)
 - オフ (Off) (見出しスペースあり、ページ番号スペースなし)
 ページ番号の値は、見出しと脚注のテキストオプションによって上書きされます。

サイズと整列グループ

[サイズと整列] (Size & Arrange) グループには、グラフおよびレイアウトコンポーネントのサイズを設定するコマンドが表示されます。[サイズと整列] (Size & Arrange) グループのコマンドは、[高さ] (Height)、[幅] (Width)、[オーバーフロー] (Overflow)、[縦横比] (Aspect Ratio)、[自動調整] (Autofit)、[整列] (Align)、[相対配置] (Relative Position) です。[サイズと整列] (Size & Arrange) グループは、グラフおよびレイアウトで作業中の場合に使用可能です。

[サイズと整列] (Size & Arrange) グループのオプションを使用してレイアウトにコンポーネントを配置する方法についての詳細は、366 ページの「[レイアウト内のコンポーネントの編集](#)」を参照してください。

レポートグループ

[レポート] (Report) グループには、レポートの間隔設定をカスタマイズするコマンドが表示されます。[セルパディング] (Cell Padding) および [自動調整] (Autofit Column) コマンドは、レポートでのみ使用可能です。

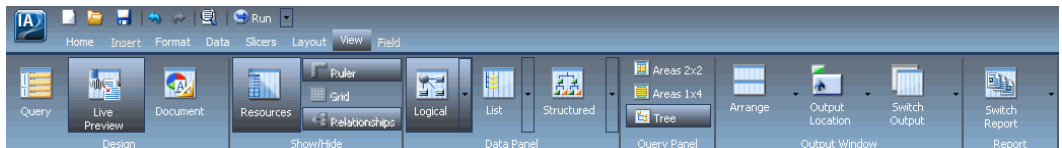
- **セルパディング (Cell Padding)** [セルパディング] (Cell Padding) ダイアログボックスを開いて、レポートの行列間隔を指定することができます。詳細は、「[Use Cell Padding in a Report](#)」を選択してください。
- **自動調整 (Autofit Column)** レポートの列幅が、各フィールドの最大幅以内に収まるように調整されます。[自動調整] (Autofit Column) は、デフォルト設定で選択されています。

表示タブ

トピックス

デザイングループ
 表示グループ
 データグループ
 クエリグループ
 ウィンドウグループ
 レポートグループ (レポート)

[表示] (View) タブには、レポートデザイン表示オプションが表示され、[デザイン] (Design)、[表示] (Show/Hide)、[データ] (Data Panel)、[クエリ] (Query Panel)、[ウィンドウ] (Output Window)、[レポート] (Report) グループに分類されています。下図は、[表示] (View) タブを示しています。



デザイングループ

[デザイン] (Design) グループには、レポート作成時のデザインモードを選択するコマンド、およびデータアクセス時のデザインプレビューオプションが表示されます。詳細は、37 ページの「デザイングループ」を参照してください。

表示グループ

[表示] (Show/Hide) グループには、レポートおよび出力の作成中に、別の表示オプションを選択するためのコマンドが表示されます。表示のデフォルト設定では、リソースパネルと結果パネルが、同時に表示されます。

次のコマンドを使用します。

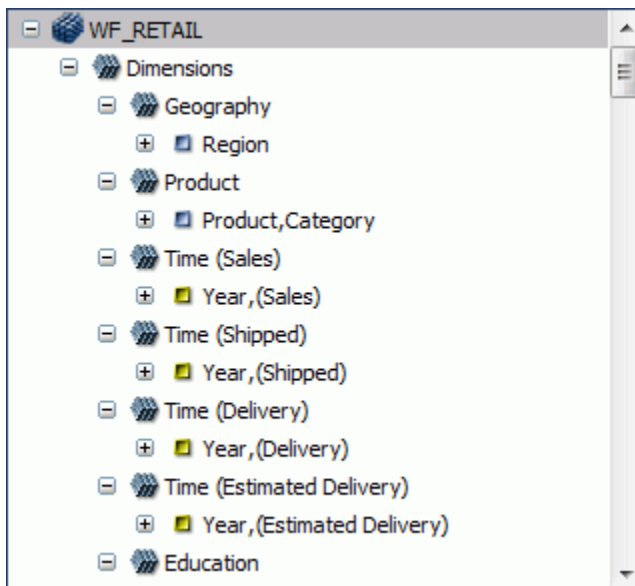
- **リソース (Resources)** リソースパネルを最小化し、通常リソースパネルが表示される位置まで結果パネルを拡張します。結果パネルには、レポートのプレビュー、レポートの出力、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを表示することができます。

- **ルーラ (Ruler)** レイアウトの作業領域の上および左にルーラを表示します。
- **グリッド (Grid)** レイアウト内のオブジェクトを整列するための視覚的な補助線としてグリッドを表示します。
- **関係 (Relationships)** (レイアウトのみ) 複数のオブジェクト間の相対的な位置関係を表示します。

データグループ

[データ] (Data Panel) グループには、[データ] (Data) ウィンドウ (リソースパネル) でのフィールドの表示モードを変更するコマンドが表示されます。これらの表示モードには、[論理] (Logical) (デフォルト)、[リスト] (List)、[構造] (Structured) があります。これら3つの表示モードには、各フィールドを[タイトル] (Title)、[説明] (Description)、[フィールド] (Field)、[エイリアス] (Alias) として表示するオプションがあります。[リスト] (List) 表示には、各フィールドの[エイリアス] (Alias) と[フォーマット] (Format) を表示するオプションもあります。

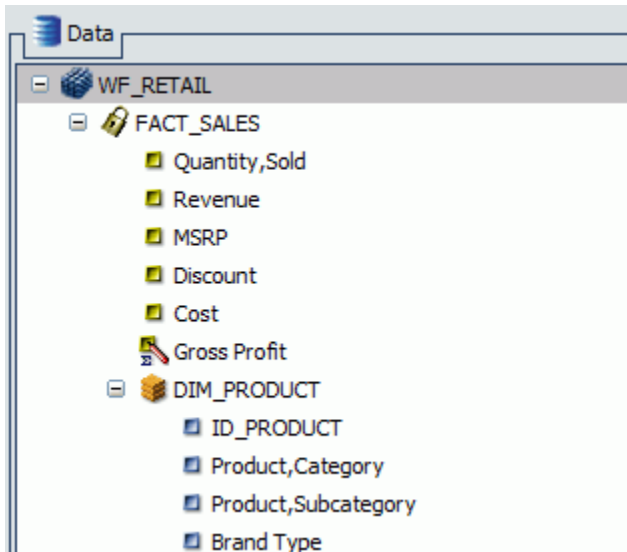
下図は、各フィールドのタイトルを表示するデフォルト設定の[論理] (Logical) 表示を示しています。



下図は、各フィールドの(データソースの)フィールド名を表示する[リスト](List)表示を示しています。

Name	Title	Alias	Format	Segment	Filename	Description
<input type="checkbox"/> REGION	Region	REGION	A15V	DIM_GEOG...	WF_RETAIL	Customer Region
<input type="checkbox"/> STATECODE	State,...	STAT...	A2	DIM_GEOG...	WF_RETAIL	Customer State (Code)
<input type="checkbox"/> CITY	City	CITY	A50V	DIM_GEOG...	WF_RETAIL	Customer City
<input type="checkbox"/> PRODUCT_CATEG...	Produ...	PROD...	A40V	DIM_PROD...	WF_RETAIL	Product,Category
<input type="checkbox"/> PRODUCT_SUBCAT...	Produ...	PROD...	A50V	DIM_PROD...	WF_RETAIL	Product,Subcategory
<input type="checkbox"/> MODEL	Model	MODEL	A50V	DIM_PROD...	WF_RETAIL	Model
<input type="checkbox"/> PRODUCT_NAME	Produ...	PROD...	A150V	DIM_PROD...	WF_RETAIL	Product Name
<input type="checkbox"/> TIME_YEAR	Year,(...	TIME_...	I6	DIM_TIME_...	WF_RETAIL	Year,(Sales)
<input type="checkbox"/> TIME_QTR	Quart...	TIME_...	I6	DIM_TIME_...	WF_RETAIL	Quarter,(Sales)
<input type="checkbox"/> TIME_MTH	Month...	TIME_...	I6	DIM_TIME_...	WF_RETAIL	Month,(Sales)

下図は、各フィールドの説明を表示するデフォルト設定の[構造](Structured)表示を示しています。

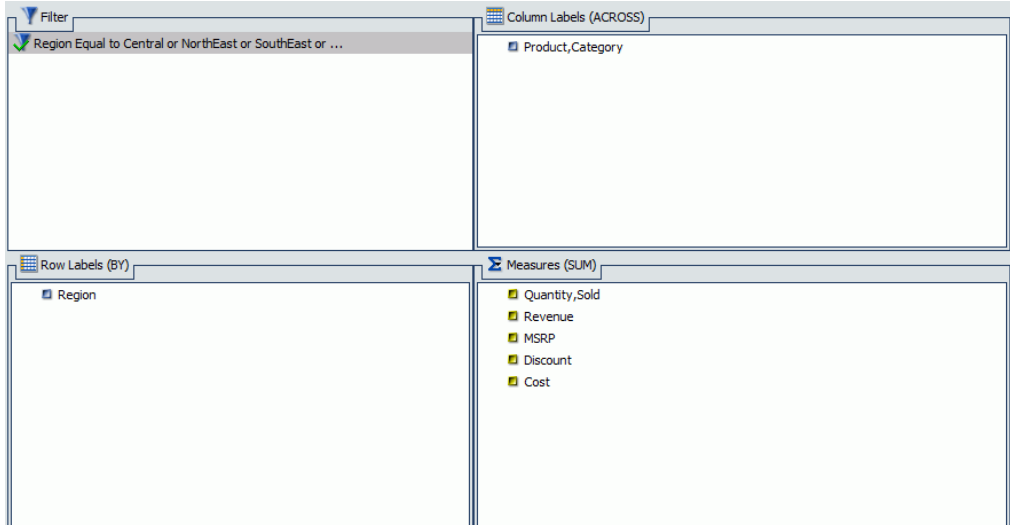


クエリグループ

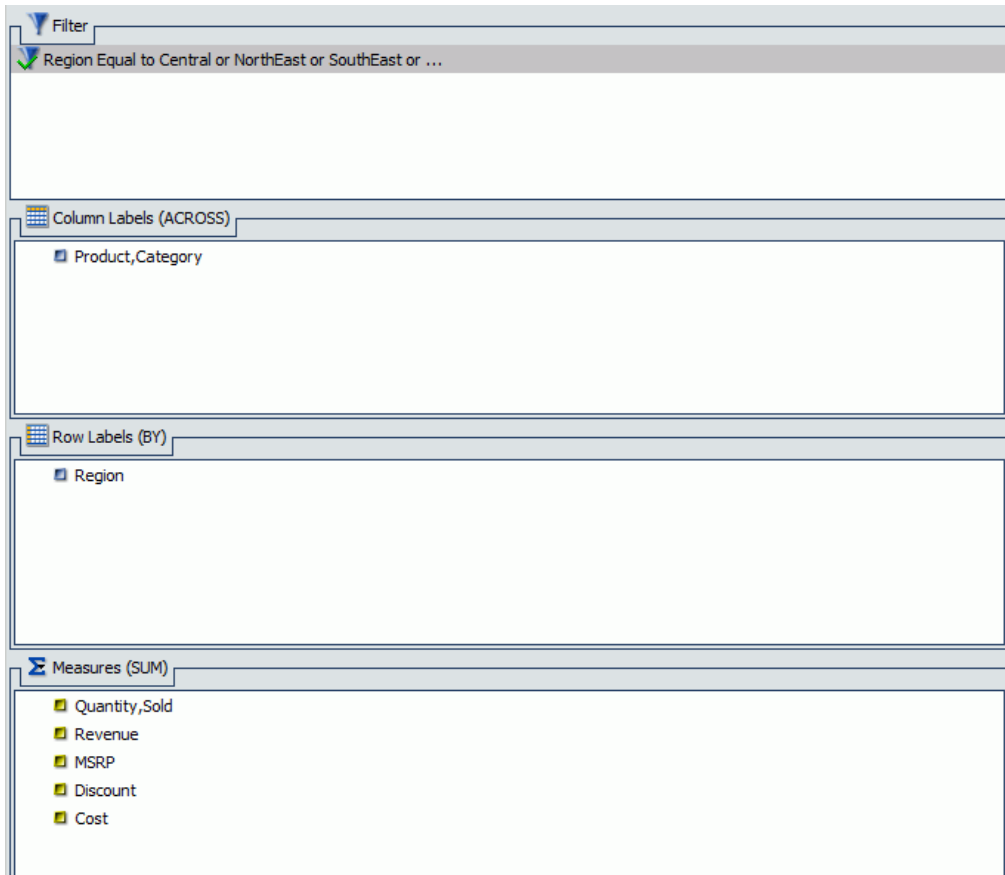
[クエリ](Query Panel) グループには、[クエリデザイン](Query Design) ウィンドウでのフィルタとデータソースフィールドの表示方法を変更するためのコマンドが表示されます。
[縦横表示](Areas 2x2)、[縦表示](Areas 1x4)、[ツリー表示](Tree) (デフォルト設定) があります。

- **縦横表示 (Areas 2x2)** データを縦 2 列、横 2 行に分割して表示します。
- **縦表示 (Areas 1x4)** データを縦 1 列、横 4 行に分割して表示します。
- **ツリー表示 (Tree)** (デフォルト) データを、縦横に分割して表示するのではなく、ツリー構造で表示します。

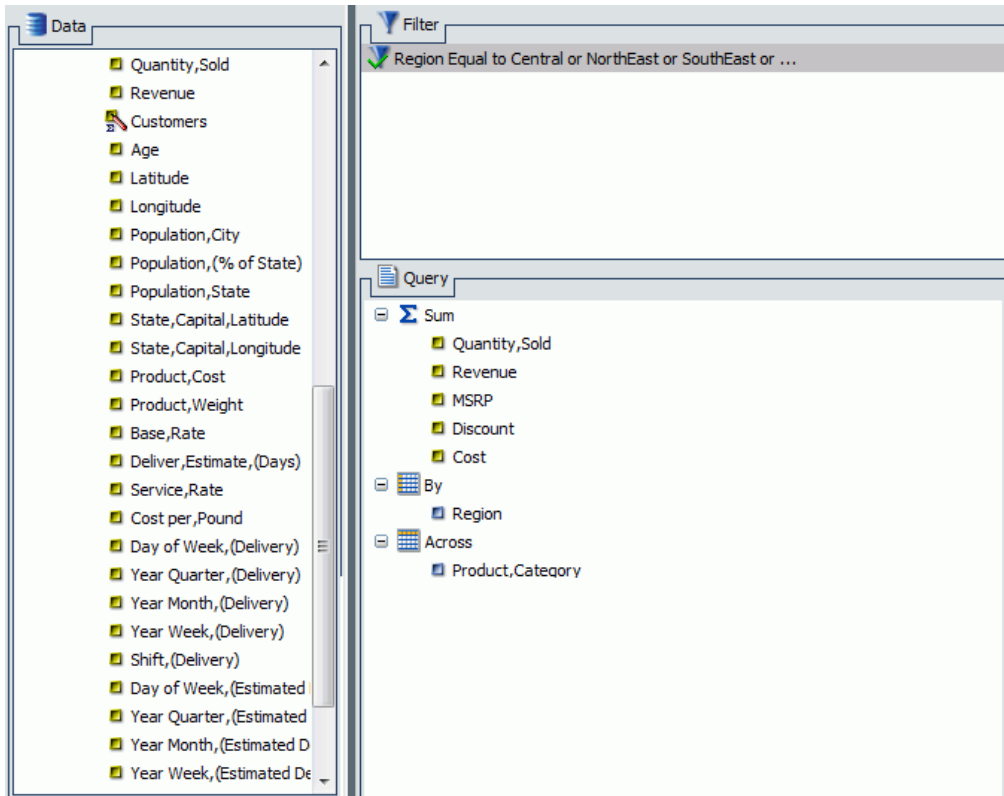
下図は、レポートで [縦横表示] (Areas 2x2) を選択した場合の [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを示しています。



下図は、レポートで[縦表示] (Areas 1x4) を選択した場合の[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを示しています。



下図は、レポートで[ツリー表示](Tree)を選択した場合の[クエリデザイン](Query Design)ウィンドウを示しています。



ウィンドウグループ

[ウィンドウ] (Output Window) グループには、出力表示設定に関する 3 つのメニューが表示されます。次のメニューがあります。

- **整列 (Arrange)** ドロップダウンメニューを開いて、複数の出力ウィンドウの表示方法として、[重ねて表示] (Cascade)、[縦に並べて表示] (Tile Horizontally)、[横に並べて表示] (Tile Vertically) を選択します。

下図の例では、[横に並べて表示] (Tile Vertically) を選択した場合に、3つのウィンドウがどのように表示されるかを示しています。

Product	Region	State	Unit Sales
Biscotti	Midwest	IL	294
		MO	294
		TX	275
	Northeast	CT	462
		MA	470
		NY	515
	Southeast	FL	406
		GA	436
		TN	355
	West	CA	435
		WA	266
Capuccino	Northeast	CT	125
		MA	155
		NY	170
	Southeast	FL	245
		GA	275

Product	Unit Sales	Region	Dollar Sales
Biscotti	421377	West	5263317
Capuccino	189217	West	2381590
Coffee	186534	West	2337567
Grinder			
Coffee	190695	West	2449585
Pot			
Croissant	630054	West	7749902
Espresso	308986	West	3906243
Latte	878063	West	10943622
Mug	360570	West	4522521
Scone	333414	West	4216114
Thermos	190081	West	2385829

Product	Sales	Region	Dollar Sales
Biscotti	145242	Northeast	18020
Capuccino	44785	Northeast	5420
Coffee	40977	Northeast	5092
Grinder			
Coffee	46185	Northeast	5907
Pot			
Croissant	137394	Northeast	16708
Espresso	68127	Northeast	8501
Latte	222866	Northeast	27718
Mug	91497	Northeast	11442
Scone	70732	Northeast	9071
Thermos	48870	Northeast	6040

- **出力方法 (Output Location)** ドロップダウンメニューを開いて、[単一タブ] (Single Tab) (デフォルト設定)、[新規タブ] (New Tab)、[単一ウィンドウ] (Single Window)、[新規ウィンドウ] (New Window)のいずれかを選択します。詳細は、129 ページの「[出力オプションの理解](#)」を参照してください。
- **出力の切り替え (Switch Output)** ドロップダウンメニューを開いて、作業中の任意の出力ウィンドウを表示することができます。

レポートグループ (レポート)

レポート作成時の[レポート] (Report) グループには、[レポートの切り替え] (Switch Report) ドロップダウンメニューに、切り替え先として有効なレポートまたはグラフのリストが表示されます。

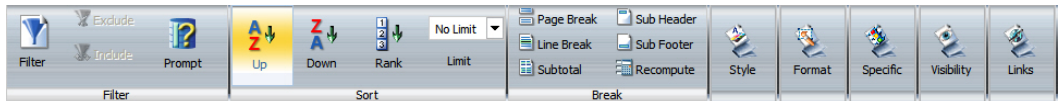
レポートを切り替えるには、ステータスバーを使用することもできます。詳細は、141 ページの「[ステータスバーの使用](#)」を参照してください。

フィールドタブ

トピックス

フィルタグループ
 ソートグループ
 区切りグループ (レポート)
 スタイルグループ
 フォーマットグループ
 表示グループ
 リンクグループ

[フィールド] (Field) タブは、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウまたはレイアウトキャンバスでフィールドを選択した場合に、リボンに表示されます。[フィールド] (Field) タブで選択可能なオプションは、選択したデータタイプによって異なります。数値フィールドと数値以外のフィールドでは、有効なオプションは異なります。[フィールド] (Field) タブには、[フィルタ] (Filter)、[ソート] (Sort)、[区切り] (Break)、[スタイル] (Style)、[フォーマット] (Format)、[表示] (Display)、[リンク] (Links) グループが表示されます。下図は、その画面を示しています。



[フィールド] (Field) タブには、次のグループとオプションがあります。

フィルタグループ

[フィルタ] (Filter) グループには、次のオプションがあります。

- **フィルタ (Filter)** [フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを開いて、WHERE ステートメントを作成または編集することができます。

[値] (Values) ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

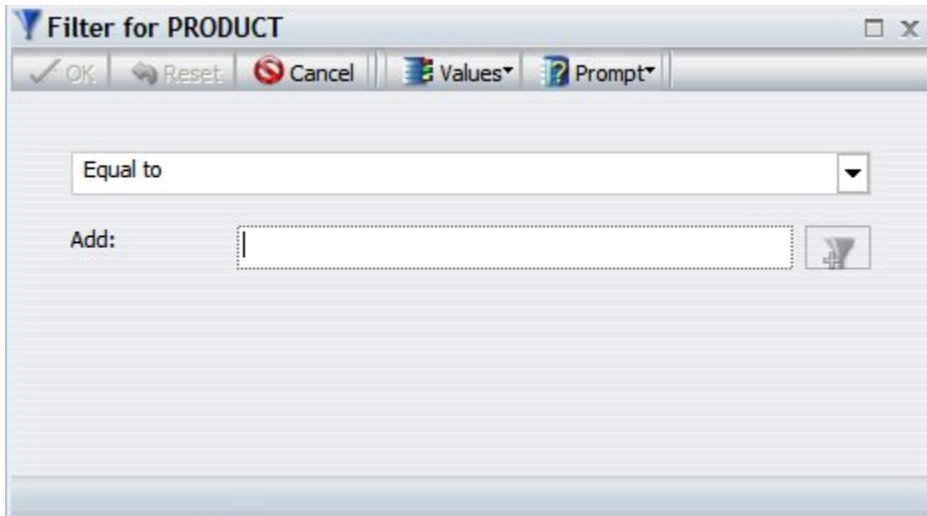
- データソースから値を取得 (Fetch All Values from Source)
- ファイルから値を取得 (Fetch Values from Disk File)
- ソースから最初の値を取得 (Fetch First Value in Source)

- ソースから最後の値を取得 (Fetch Last Value in Source)
- 最小値の取得 (Fetch Minimum)
- 最大値の取得 (Fetch Maximum)

[プロンプト] (Prompt) ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。

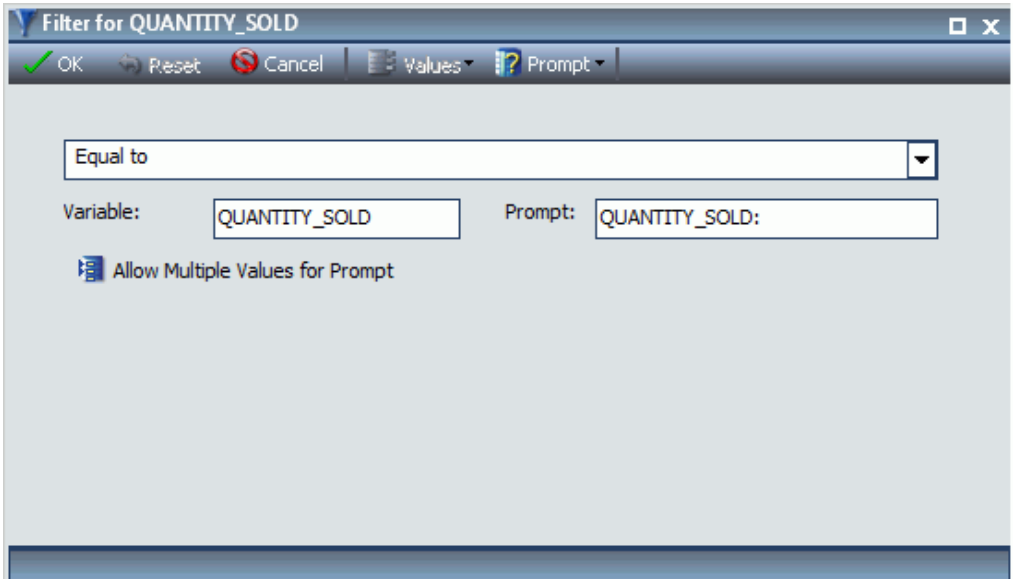
- 値のプロンプトを表示しない (No Value Prompt) (デフォルト設定)
- データ値でプロンプトを表示 (動的) (Prompt using Data Values (Dynamic))
- 選択値でプロンプトを表示 (静的) (Prompt using Selection (Static))
- テキスト入力値でプロンプトを表示 (実行時に入力) (Prompt using Text Input (Simple))

プロンプトオプションのいずれかを選択すると、ダイアログボックスの内容が、オートプロンプトパラメータ作成のための項目に変わります。これらの項目は、レポートを実行する際に選択します。プロンプトオプションの[データ値でプロンプトを表示 (動的)] (Prompt using Data Values (Dynamic)) または [テキスト入力値でプロンプトを表示 (実行時に入力)] (Prompt using Text Input (Simple)) を選択すると、[値] (Values) は無効になります。下図のような [フィルタ] (Filter) ダイアログボックスが表示されます。

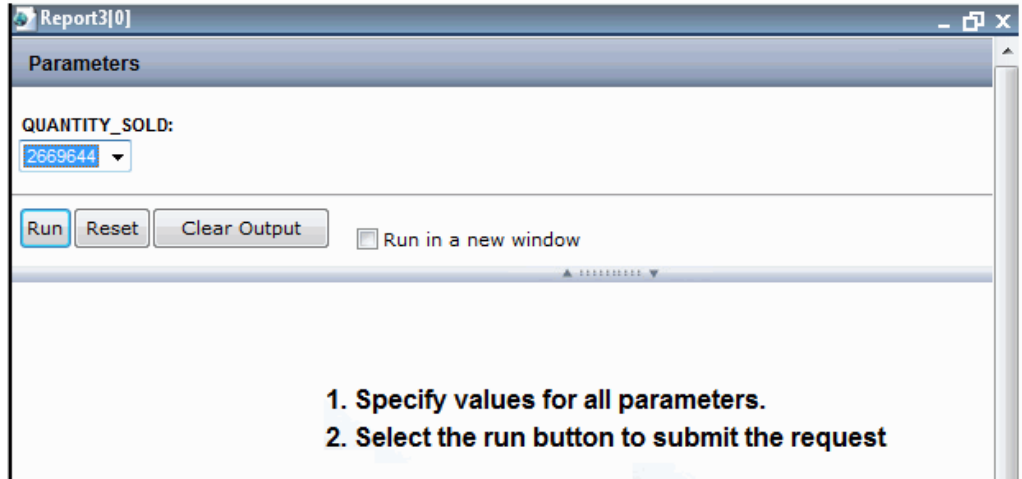


[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [フィルタ] (Filter) エリアで、既存のフィルタを選択して [条件の解除] (Exclude) を選択すると、フィルタは除外されますが、レポートから削除されることはありません。[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [フィルタ] (Filters) エリアで、レポートから以前に解除されたフィルタを選択して [条件の設定] (Include) を選択すると、そのフィルタはレポートに再設定されます。

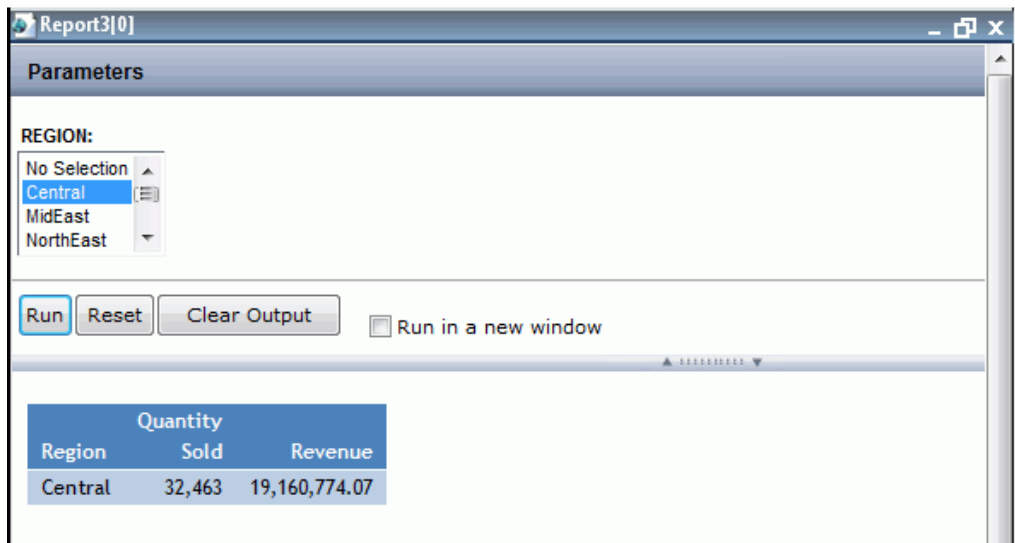
- **プロンプト (Prompt) [フィルタ] (Filter)** ダイアログボックスを開いて、オートプロンプトパラメータを作成することができます。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスは、フィルタとオートプロンプトパラメータの両方の作成に使用されます。[プロンプト] (Prompt) ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。
 - データ値でプロンプトを表示 (動的) (Prompt using Data Values (Dynamic)) - このオプションがデフォルト設定で選択されています。
 - 選択値でプロンプトを表示 (静的) (Prompt using Selection (Static))
 - テキスト入力値でプロンプトを表示 (実行時に入力) (Prompt using Text Input (Simple))
- **プロンプトで複数を許可 (Allow Multiple Values for Prompt)** フィールドの動的オートプロンプトパラメータを作成し、レポートの実行時に出力ウィンドウに複数選択メニューを表示します。下図のように、[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスで、Product フィールドリストに動的オートプロンプトを表示するフィルタを作成すると、レポートの実行時に、動的オートプロンプトが表示されます。動的オートプロンプトには、選択可能な Product が表示されます。



下図の例は、ユーザにパラメータ値の指定を要求するダイアログボックスを示しています。このダイアログボックスは、Product フィールドの動的オートプロンプトパラメータの作成後、レポートを実行した際に表示されます。



動的オートプロンプト作成中に [プロンプトで複数値を許可] (Allow Multiple Values for Prompt) ボタンを選択すると、レポートを実行した際に、複数選択メニューが表示されます。下図のように、複数のパラメータ値を選択すると、同一のパラメータプロンプトダイアログボックスに出力が表示されます。



ソートグループ

[ソート] (Sort) グループには、次のオプションがあります。

- **昇順 (Up)** (デフォルト) 選択したフィールドを昇順にソートします。
- **降順 (Down)** 選択したフィールドを降順にソートします。
- **ランキング (Rank)** BY フィールドを選択した場合に、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドを挿入します。基軸を選択した場合も、BY フィールドのすぐ左に順位付けフィールドが追加されます。基軸で順位付けを行った場合、フィールドのコピーが2つ作成されます。1つは元の基軸で、もう1つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。
- **制限 (Limit)** ドロップダウンリストを開いて、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定することができます。

これらのレポートオプションについての詳細は、「[Using Custom Reporting Features](#)」を参照してください。

区切りグループ (レポート)

[区切り] (Break) グループには、レポートをカスタマイズするための次のオプションが表示されます。

- **改ページ (Page Break)** 主ソートフィールドの値が変わるたびに新しいページを開始します。アイコン右の下向き矢印をクリックしてドロップダウンメニューから [ページ番号のリセット] (Reset Page Numbers) を選択すると、改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。
- **改行 (Line Break)** 主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力に新しい行を挿入します。
- **中間見出し (Sub Header)** ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の列タイトルの直下に追加する中間見出しを入力することができます。
- **中間脚注 (Sub Footer)** ダイアログボックスを開いて、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力の各ページのデータ末尾に追加する中間脚注を入力することができます。
- **中間合計 (Subtotal)** 主ソートフィールドの値が変わるたびにすべての数値フィールドに1行追加し、合計テキスト (TOTAL FIELD 値) と中間合計を挿入します。

これらのレポートオプションについての詳細は、「[Using Custom Reporting Features](#)」を参照してください。

スタイルグループ

[スタイル](Style) グループには、レポートおよびグラフのスタイルを設定するオプションが表示されます。レポートで選択しているフィールドのフォントのタイプ、サイズ、色、背景色をカスタマイズすることや、デフォルト値に戻すことができます。また、フォントスタイル(太字、斜体、下線)、テキストの位置揃え(左揃え、中央揃え、右揃え)を設定することもできます。スタイル設定の適用先として、レポートで選択中のフィールドの[データスタイル](Data Style)(デフォルト設定)、[タイトルスタイル](Title Style)、[データ + タイトル](Data + Title)から選択することができます。

レポートのスタイル設定についての詳細は、「[Styling Report](#)」を参照してください。

フォーマットグループ

[フォーマット](Format) グループには、一時項目(DEFINE)またはフィールドに適用する次のフォーマットオプションが表示されます。

ドロップダウンリストには、選択したフィールドに適用されるフィールドタイプとして、[文字](Alphanumeric)、[整数](Integer)、[倍精度浮動小数点](Decimal)という3つのオプションがあります。4つ目のオプションである[詳細オプション](More options)を選択すると、[フィールドフォーマットオプション](Field Format Options)ダイアログボックスが表示されます。ここで、選択したフィールドのフォーマットオプションの詳細を設定することができます。

また、浮動または固定の通貨オプション、パーセント記号、カンマ(,)を適用することもできます。[小数部](Decimal)のスピンドボタンをクリックして、桁数を増減することもできます。

[通貨](Currency) ボタンは、分割ボタンです。このボタンの左側をクリックして、通貨記号のオンとオフを切り替えます。[通貨](Currency) ボタンをクリックすると、デフォルトの[通貨記号(浮動)](Floating currency) オプションがオンになります。[通貨](Currency) ボタンを再度クリックすると、[通貨記号(浮動)](Floating currency) オプションがオフになります。

[通貨記号 (固定)] (Non floating currency) オプションをオンにするには、ドロップダウンメニューを開き、[通貨起動 (固定)] (Non floating currency) を選択します。[通貨記号 (固定)] (Non floating currency) オプションをオフにするには、[通貨] (Currency) ボタンを再度クリックします。

表示グループ

[表示] (Display) グループには、選択済みのフィールドに適用するための次の追加オプションが表示されます。

- フィールドの非表示 (Hide Field)** 選択したフィールドを非表示にすることができます。
- ミッシングの非表示 (Hide Missing)** 値が存在しないフィールドを非表示にすることができます。
- 集計 (Aggregation)** ドロップダウンメニューを開いて、次のオプションを選択することができます。
 - なし (None) (デフォルト)
 - 集計 (Sum)
 - 平均 (Average)
 - 件数 (Count)
 - 件数 (種類) (Count Distinct)
 - 件数に対するパーセント (Percent of Count)
 - 最初の値 (First Value)
 - 最後の値 (Last Value)
 - 最大 (Maximum)
 - 最小 (Minimum)
 - 合計 (Total)
 - パーセント (Percent)
 - 行に対するパーセント (Row Percent)
 - 平方和の平均 (Average Square)

[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで、[基軸] (Measure) コンテナに数値フィールドを追加した場合、これらすべてのデフォルト集計タイプは [集計] (Sum) になります。[基軸] (Measure) フィールドコンテナを [SUM] (Sum) から [PRINT] (Print)、[件数] (Count)、[リスト] (List) のいずれかに変更すると、割り当て済みの集計タイプ値は、上書きされます。レポートについての詳細は、「[Display Numeric Measure Data Using Aggregation Options in a Report](#)」を参照してください。グラフについての詳細は、212 ページの「[基軸の集計を表示するには](#)」を参照してください。

- **条件スタイル (Traffic Lights)** [条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスで、次のことを行えます。
 - 新しい条件付きスタイルを追加して、選択したフィールドが特定の条件を満たす場合に、出力結果でそのフィールドに条件付きの色を適用する。
 - 既存の条件付きスタイルを変更する。
 - 条件付きドリルダウンを有効にする。

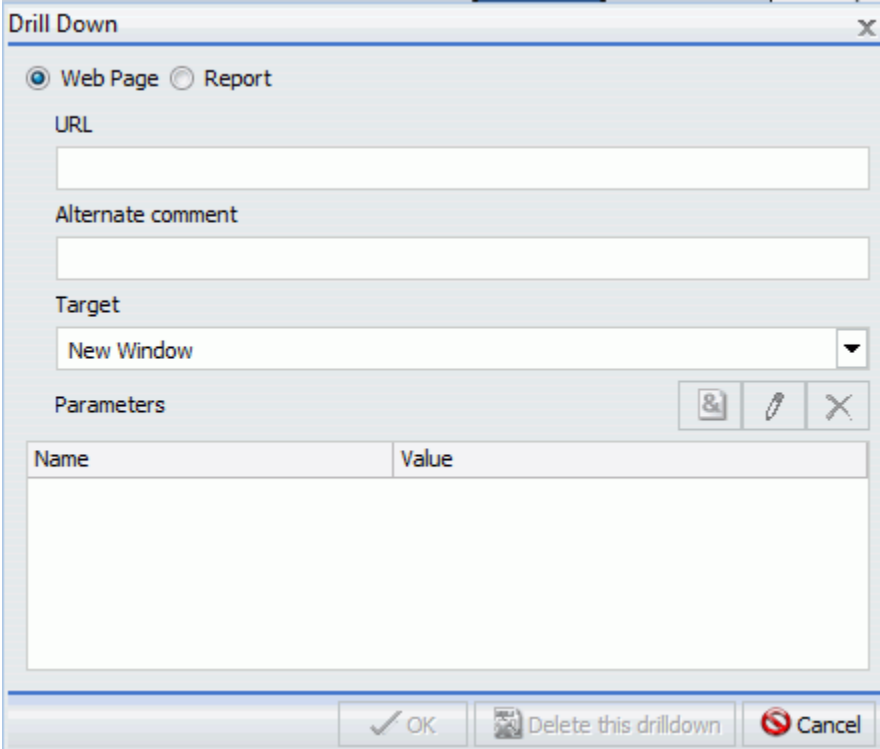
レポートについての詳細は、「[Styling Reports](#)」を参照してください。グラフについての詳細は、187 ページの「[条件付きスタイルルールダイアログボックス](#)」を参照してください。

- **ピアグラフ (Data Bars)** (レポートのみ) 選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列を追加します。この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。詳細は、「[Add Data Visualization Bars to a Report](#)」を参照してください。
- **WITHIN** 集計オプションを適用するレベルを操作することができます。WITHIN 句を使用して、レポートの列全体で集計するのではなく、ソートグループ単位で集計したように、表示フィールドの値を操作することができます。詳細は、「[Access the Within Functionality](#)」を参照してください。

リンクグループ

[リンク] (Links) グループの [ハイパーリンク] (Hyperlink) コマンドを使用して、レポート内の選択したフィールドにハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを追加することができます。

[ハイパーリンク](Hyperlink) をクリックすると、下図のような [ドリルダウン](Drill Down) ダイアログボックスが開きます。[ドリルダウン](Drill Down) ダイアログボックスでは、選択したフィールドのハイパーリンクまたはドリルダウンプロシジャを構成することができます。レポート出力で、そのフィールドをクリックすると、指定された URL にジャンプするか、指定されたプロシジャが実行されます。



Drill Down

Web Page Report

URL

Alternate comment

Target

New Window

Parameters

Name	Value
------	-------

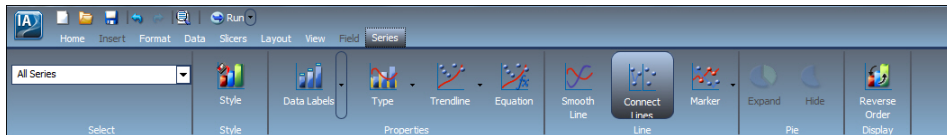
OK Delete this drilldown Cancel

シリーズタブ

トピックス

選択グループ
 スタイルグループ
 プロパティグループ
 折れ線グループ
 円グループ
 表示グループ

[シリーズ](Series) タブは、グラフの作成時にのみリボンに表示されます。このタブでは、[選択](Select)、[プロパティ](Properties)、[折れ線](Line)、[円](Pie)、[表示](Display) グループからグラフオプションにアクセスすることができます。下図は、[シリーズ](Series) タブを示しています。



選択グループ

[選択](Select) グループには、特定の基軸フィールドを選択するドロップダウンメニューが表示されます。[シリーズ](Series) タブで使用可能な一部のオプションは、ここで選択した基軸フィールドに適用されます。デフォルト設定は [すべてのシリーズ](All Series) で、選択したオプションは、クエリ内の基軸フィールドすべてに適用されます。

スタイルグループ

[スタイル](Style) グループには、グラフで選択したシリーズのスタイルオプションを変更するための次のコマンドが表示されます。

- **スタイル (Style)** [シリーズフォーマット](Format Serie) ダイアログボックスを開いて、選択したシリーズのスタイルオプションを編集することができます。このダイアログボックスは、シリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション](More Style Options) を選択する方法でも開くことができます。詳細は、183 ページの「[シリーズのフォーマット設定](#)」を参照してください。

プロパティグループ

[プロパティ] (Properties) グループには、グラフを拡張するための次のコマンドが表示されます。

- **データラベル (Data Labels)** グラフにデータラベルを追加します。このドロップダウンメニューには、次のデータ位置オプションが表示され、グラフ上にデータ値をラベルとして表示する位置を選択することができます。

- 上 (Above) (デフォルト)
- 上端 (On top edge)
- 上端の下 (Below top edge)
- 中央揃え (Center)
- 下 (Base)

[データラベル詳細オプション] (More Data Label Options) を選択すると、[ラベルフォーマット] (Format Labels) ダイアログボックスが開いて、データラベルをさらに編集することができます。詳細は、223 ページの「[データラベルのフォーマット設定](#)」を参照してください。

- **タイプ (Type)** ドロップダウンメニューを開き、次のグラフタイプを選択することができます。

- なし (None) (デフォルト)
- 棒グラフ (Bar)
- 折れ線 (Line)
- 面 (Area)

- **傾向線 (Trendline)** ドロップダウンメニューを開き、次のオプション選択してグラフに傾向線を追加することができます。

- なし (None) (デフォルト)
- 線形 (Linear)
- 2 次曲線 (Quadratic)
- 多項式 (Polynomial)
- 双曲線 (Hyperbolic)
- 対数 (Logarithmic)

- 修正双曲線 (Modified Hyperbolic)
- 有理 (Rational)
- 指数 (Exponential)
- 修正指数 (Modified Exponential)
- 対数 2 次 (Log Quadratic)
- 幾何 (Geometric)

注意

- 傾向線のオプションは、HTML5 では使用できません。

詳細は、197 ページの「[傾向線を追加するには](#)」を参照してください。

- 数式 (Equation)** 選択した傾向線に関連付けられた数式をグラフに表示します。

注意

- 数式は、HTML5 では使用できません。

折れ線グループ

[折れ線] (Line) グループには、グラフの折れ線および線マーカーのフォーマットを設定するための次のオプションが表示されます。

- スムーズ (Smooth Line)** スムージング線を使用してグラフを描画します。詳細は、198 ページの「[折れ線グラフにスムーズ線効果を適用するには](#)」を参照してください。
- 接続線 (Connect Lines)** 折れ線グラフまたは散布図でのマーカー間の接続線の表示を制御します。デフォルト設定では、折れ線グラフの線は接続され、散布図の線は接続されません。
- マーカー (Marker)** ドロップダウンメニューを開いて、折れ線グラフおよび散布図に表示されるデータマーカーおよび凡例マーカーのデフォルト表示方法を変更することができます。[プロンプト]() ドロップダウンリストには、次のオプションがあります。
 - なし (None)
 - 四角 (Square)
 - 丸 (Circle)
 - ダイヤモンド (Diamond)

- プラス記号 (Plus)
- 下向き三角 (Triangle Down)
- 上向き三角 (Triangle Up)
- 右向き三角 (Triangle Right)
- 左向き三角 (Triangle Left)
- パイレーツ (Pirate Plus)
- ホーム (House)
- 六角形 (Hexagon)
- X 強調 (Fat X)
- 5 つ星 (Five Star)
- 6 つ星 (Six Star)
- 砂時計 (Hourglass)
- 横向き砂時計 (Sideways Hourglass)
- 横線 (Horizontal Line)
- 縦線 (Vertical Line)
- 面 (Area)

詳細は、201 ページの「[マーカーの外観を変更するには](#)」を参照してください。

円グループ

[円] (Pie) グループには、円項目を切り離すオプション、および円項目を非表示にするオプションが表示されます。[円] (Pie) グループは、[フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで [円] (Pie) を選択した場合にのみ有効になります。

表示グループ

[表示] (Display) グループには、[選択] (Select) グループで [すべてのシリーズ] (All Series) が選択されている場合に、シリーズの順序を逆にする [順序を逆にする] (Reverse Order) コマンドが表示されます。

[順序を逆にする] (Reverse Order) オプションは、すべてのグラフタイプで使用することができます。

リソースパネルの理解

トピックス

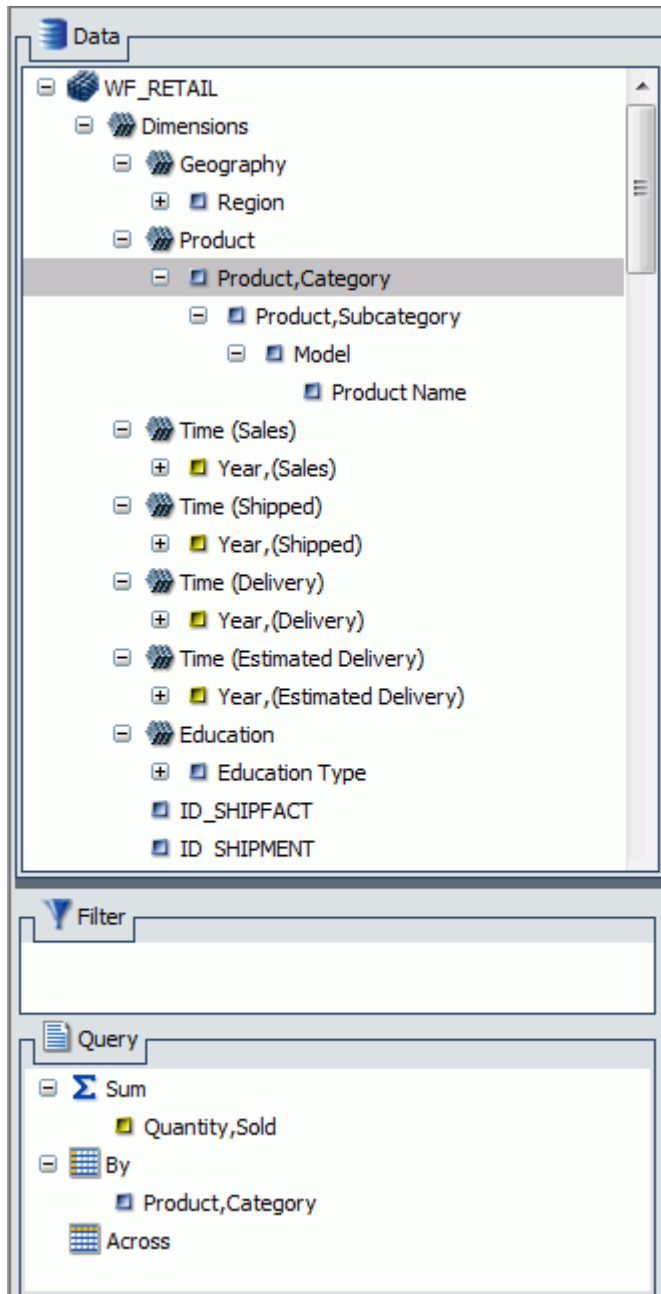
データウィンドウを使用したレポートへのフィールド追加
リソースパネルでのクエリデザインウィンドウの使用
クエリデザインウィンドウでの右クリックフィールドオプションの使用

参照

フィールドイメージリスト
クエリデザインウィンドウのフィルタエリア

デフォルト設定では、リソースパネルの上半分には [データ] (Data) ウィンドウが、下半分には [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウが表示されます。[クエリ] (Query) デザインビューが選択されている場合、リソースパネルには、[データ] (Data) ウィンドウのみが表示されます。[クエリ] (Query) デザインビューを選択するには、[ホーム] (Home) タブの [デザイン] (Design) グループで [クエリ] (Query) をクリックするか、[表示] (View) タブの [デザイン] (Design) グループで [クエリ] (Query) をクリックします。

下図は、リソースパネルのデフォルト表示を示しています。レポートを作成する場合、[クエリデザイン](Query Design) ウィンドウの上部に [データ](Data) ウィンドウが表示されます。



[データ](Data) ウィンドウは、常に表示されます。このウィンドウには、選択したデータソースのフィールドがすべて表示されます。

リソースパネルと結果パネルのサイズは、これら 2 つのパネル間の境界をクリックしてドラッグすることで、手動で調整することができます。マウスポインタを境界上に置きます。マウスポインタが左右の外向き矢印に変わったところで、境界をクリックしてドラッグします。

参照

フィールドイメージリスト

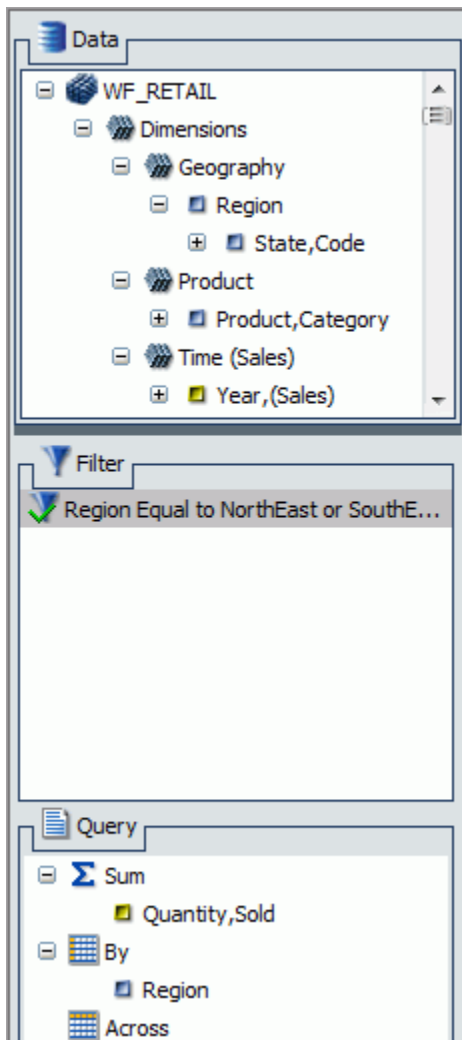
リソースパネルでは、各フィールドに、イメージが関連付けられています。下表は、各イメージとその説明です。

アイコン	タイプ
	データベース
	ディメンションセグメント
	基軸セグメント
	ロックされたセグメント
	ユニークセグメント
	キーフィールド
	インデックスフィールド
	BLOB
	テキストまたは文字フィールド
	日付または日付時間フィールド
	数値フィールド
	一時項目 (日付)
	一時項目 (数値)

アイコン	タイプ
	その他の一時項目
	一時項目 (テキスト)
	キューブ
	キューブディメンション
	キューブのプロパティ
	折りたたまれたフォルダ
	展開済みフォルダ
	基軸
	基軸グループ

参照 クエリデザインウィンドウのフィルタエリア

[クエリデザイン](Query Design) ウィンドウの [フィルタ](Filter) エリアには、選択したレポートで作成済みのフィルタがすべて表示されます。下図は、[フィルタ](Filter) エリアを示しています。



従来のフィルタについての詳細は、88 ページの「フィールドタブ」を参照してください。高度なフィルタについての詳細は、60 ページの「データタブ」を参照してください。

注意：フィルタエリアには、有効 (クエリに含まれている)、無効 (クエリから除外されている) に関わらず、作成されたフィルタがすべて表示されます。

データウィンドウを使用したレポートへのフィールド追加

レポートにフィールドを追加するには、いくつかの方法があります。[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで、[クエリ] (Query) フィールドコンテナまたは [フィルタ] (Filter) に追加するには、[データ] (Data) ウィンドウのフィールドをドラッグアンドドロップ、ダブルクリック、または右クリックします。

フィールドを [クエリ] (Query) フィールドコンテナに追加した後は、フィールドを別のフィールドの上下にドラッグアンドドロップして、フィールドの順序を変更することができます。

ドラッグアンドドロップ この方法でほとんどの操作を実行することができます。フィールドは、[データ] (Data) ウィンドウから、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナまたは [フィルタ] (Filter) のいずれかにドラッグアンドドロップすることができます。

[クエリ] (Query) フィールドコンテナにフィールドをドロップする際の作業領域を広げるには、[クエリ] (Query) デザインビューを選択した上で、[表示] (View) タブの [クエリ] (Query) グループで [縦横表示] (Areas 2x2) または [縦表示] (Areas 1x4) をクリックします。

[クエリ] (Query) デザインビューを選択するには、[ホーム] (Home) タブの [デザイン] (Design) グループで [クエリ] (Query) をクリックするか、[表示] (View) タブの [デザイン] (Design) グループで [クエリ] (Query) をクリックします。[クエリ] (Query) デザインビューを選択すると、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウが拡張されて結果パネルに表示されます。

複数選択 [ライブプレビュー] (Live Preview)、[クエリ] (Query)、[レイアウト] (Document) のすべてのデザインビューでは、複数のフィールドを選択してレポートに追加することができます。複数のフィールドを選択してレポートに追加するには、キーボードの Ctrl キーを押しながら、フィールドを選択します。選択したフィールドは、作業領域にドラッグアンドドロップすることも、[クエリ] (Query) フィールドコンテナに追加することもできます。

ダブルクリック [データ] (Data) ウィンドウでフィールドをダブルクリックすると、フィールドを [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの適切なフィールドコンテナに自動的に追加することができます。

- [データ] (Data) ウィンドウの数値フィールドをダブルクリックすると、[SUM (基軸)] (Sum (Measure)) フィールドコンテナに自動的に追加されます。

- [データ] (Data) ウィンドウのディメンション (数値以外、または日付) フィールドをダブルクリックすると、レポートの [BY] (行ラベル) クエリフィールドコンテナ、またはグラフの [X 軸] (X Axis) クエリフィールドに追加されます。

レポートの [ACROSS] (列ラベル) クエリフィールドコンテナ、またはグラフの [凡例] (Legend) (シリーズ) クエリフィールドコンテナおよび [複数グラフ] (Multi-graph) クエリフィールドコンテナに、フィールドを自動的に追加することはできません。

右クリック [データ] (Data) ウィンドウでフィールドを右クリックして、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [フィルタ] (Filter) エリアまたは [クエリ] (Query) フィールドコンテナにフィールドを追加することができます。レポートの場合、右クリックで利用可能なオプションは次のとおりです。

- **SUM** 軸 (数値) フィールド
- **ソート (Sort)** すべてのタイプのフィールド
- **ACROSS** ディメンション (数値以外、または日付) フィールド
- **複数レポート/グラフ (Include as Coordinated)** レイアウト表示のみ
- **フィルタ (Filter)** すべてのタイプのフィールド
- **スライサ (Slicers)** すべてのタイプのフィールド

グラフの場合、右クリックで利用可能なオプションは次のとおりです。

- **SUM** 軸 (数値) フィールド
- **X 軸 (Include as Category Axis)** ディメンション (数値以外と日付) フィールド
- **シリーズ (Include as Legends Series)** ディメンション (数値以外と日付) フィールド
- **フィルタ (Filter)** すべてのタイプのフィールド
- **スライサ (Slicers)** すべてのタイプのフィールド
- **複数レポート/グラフ (Include as Coordinated)** レイアウト表示のみ


ほとんどの基軸フィールドは数値で、ほとんどのディメンションフィールドは数値以外または日付値で構成されますが、選択したデータソースによっては、例外もあります。

リソースパネルでのクエリデザインウィンドウの使用

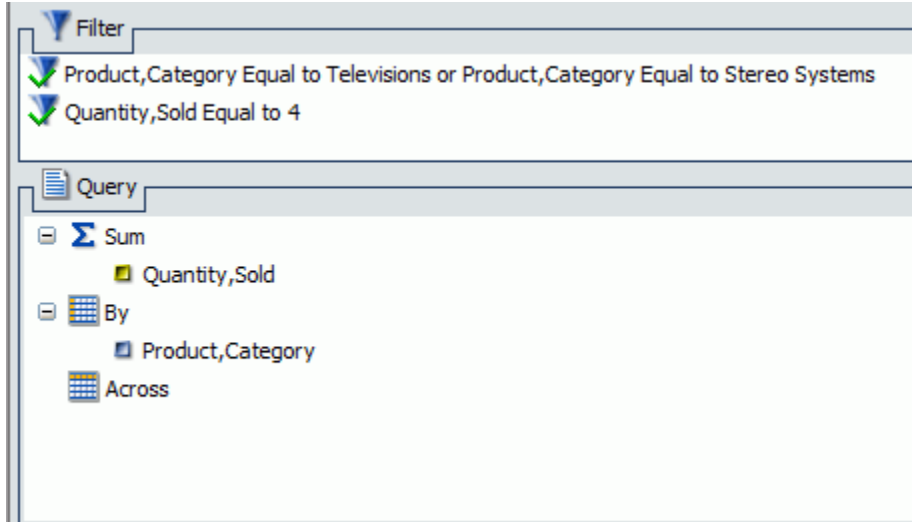
[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウには、[フィルタ] (Filter) と [クエリ] (Query) (フィールドコンテナ) エリアがあり、[データ] (Data) ウィンドウの下部に表示されます。ただし、[クエリ] (Query) デザインビューが選択されている場合は、結果パネルには、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウが拡張されて表示されます。レポートとグラフには、異なるフィールドコンテナがあります。

注意：[SUM]、[BY]、[ACROSS] フィールドコンテナ (レポートの場合)、あるいは [基軸 (SUM)] (Measure (Sum)) または [X 軸] (X-axis) フィールドコンテナ (グラフの場合) に複数の項目が存在する場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで項目を上下にドラッグすることで、レポートまたはグラフでの表示順序を変更することができます。項目の順序を変更すると、[ライブプレビュー] ウィンドウが更新され、変更が反映されます。

レポート すべてのレポートで、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[SUM]、[BY]、[ACROSS] が含まれています。

- [SUM] フィールドコンテナ  を使用して、数値フィールドを集計または表示します。コンテキストメニューには、レポート内のフィールドに適用される [SUM] (デフォルト)、[PRINT]、[件数] (Count)、[リスト] (List) オプションが表示されます。
- [BY] フィールドコンテナは、ディメンションフィールドを縦方向にソートする際に使用します。ディメンションフィールドは通常、数値以外または日付フィールドです。
- [ACROSS] フィールドコンテナは、ディメンション (数値以外と日付) フィールドを横方向にソートして、レポート出力で列ラベルの生成に使用します。

下図は、レポートのリソースパネルに表示される [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [フィルタ] (Filter) と [クエリ] (Query) (フィールドコンテナ) エリアを示しています。

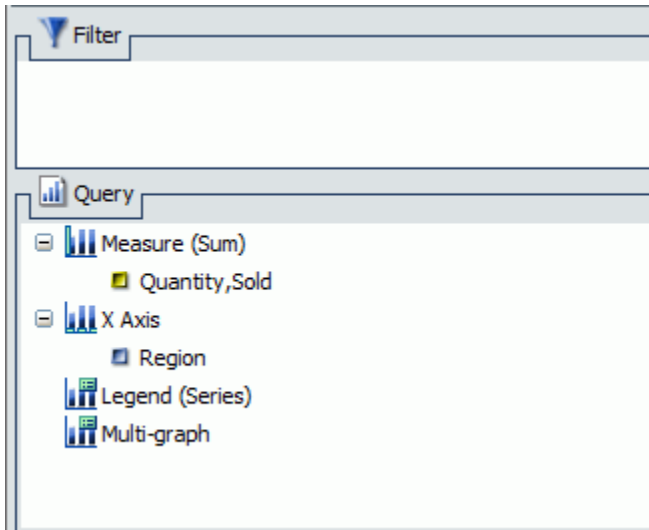


グラフ ほとんどのグラフで、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[基軸 (SUM)] (Measure (Sum))、[X 軸] (X Axis)、[凡例 (シリーズ)] (Legend (Series))、[複数グラフ] (Multi-graph)、[複数レポート/グラフ] (Coordinated) が表示されます。より多くのデータディメンションを使用する複雑なグラフの場合は、それ以外のフィールドコンテナが表示されます。

- **基軸 (SUM) (Measures (Sum))** このフィールドコンテナは、数値基軸フィールド値の集計と表示に使用されます。
- **X 軸 (X Axis)** このフィールドコンテナは、グラフ出力のディメンション (数値以外と日付) フィールドをソートするために使用されます。
- **凡例 (シリーズ) Legend (Series)** このフィールドコンテナは、ディメンション (数値以外と日付) フィールドを、色分け表示された値として表示するために使用されます (折れ線グラフ、棒グラフ、面グラフ、散布図)。これらの色は、グラフの下部に表示される凡例に表示される、色分けされたディメンション値と一致します。[凡例 (シリーズ)] (Legend (Series)) は、レポートの [ACROSS] フィールドと類似の機能を提供します。

- **複数グラフ (Multi-graph)** 複数のグラフを作成する際に、このフィールドコンテナで最上位のソートフィールドを作成し、改ページとして機能させることができます。[複数グラフ] (Multi-graph) コンテナに追加したソートフィールドはグラフに表示されませんが、ユニークソートフィールド値のそれぞれが、各グラフに表示されます。
- **複数レポート/グラフ (Coordinated)** このフィールドコンテナは、共通ソートグループでソートして整列する場合に使用します (レイアウトの場合)。

下図は、[ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューで、ほとんどの円グラフのリソースパネルに表示される、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [フィルタ] (Filter) および [クエリ] (Query) (フィールドコンテナ) エリアを示しています。

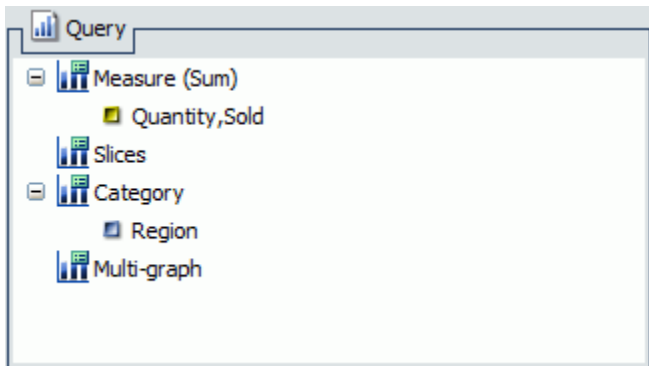


円グラフの場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[基軸 (SUM)] (Measure/Sum)、[円項目] (Slices)、[カテゴリ] (Category)、[複数レポート] (Multi-graph)、[複数レポート/グラフ] (Coordinated) があります。

- **基軸 (SUM) (Measure (Sum))** このフィールドコンテナは、円グラフの数値基軸フィールド値の集計と表示に使用されます。
- **円項目 (Pie slices)** このフィールドコンテナは、ディメンション (数値以外と日付) フィールドを、色分けされた円項目として表示するために使用されます。これらの円項目は、グラフの下部に表示される、凡例で色分けされたディメンション値と一致します。[円項目] (Pie Slices) フィールドコンテナは、他のグラフタイプの [凡例 (シリーズ)] (Legend (Series)) フィールドコンテナと同等です。

- **複数グラフ (Multi-graph)** 複数のグラフを作成する際に、このフィールドコンテナで最上位のソートフィールドを作成し、改ページとして機能させることができます。[複数グラフ] (Multi-graph) コンテナに追加したソートフィールドはグラフに表示されませんが、ユニークソートフィールド値のそれぞれが、各グラフに表示されます。
- **カテゴリ (Category)** このフィールドコンテナは、グラフ出力のディメンション (数値以外と日付) フィールドをソートするために使用されます。[カテゴリ] (Category) フィールドコンテナは、他のグラフタイプの [X 軸] フィールドコンテナと同等です。
- **複数レポート/グラフ (Coordinated)** このフィールドコンテナは、共通ソートグループでソートして整列する場合に使用します (レイアウトの場合)。

下図は、[ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューで、円グラフのリソースパネルに表示される [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) (フィールドコンテナ) エリアを示しています。



クエリデザインウィンドウでの右クリックフィールドオプションの使用

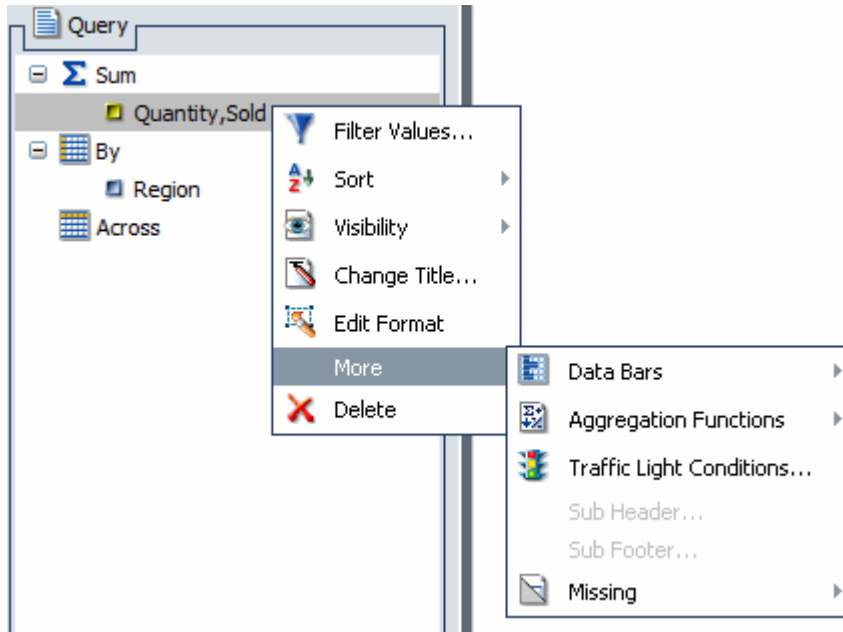
参照

クエリデザインウィンドウの右クリックフィールドオプション

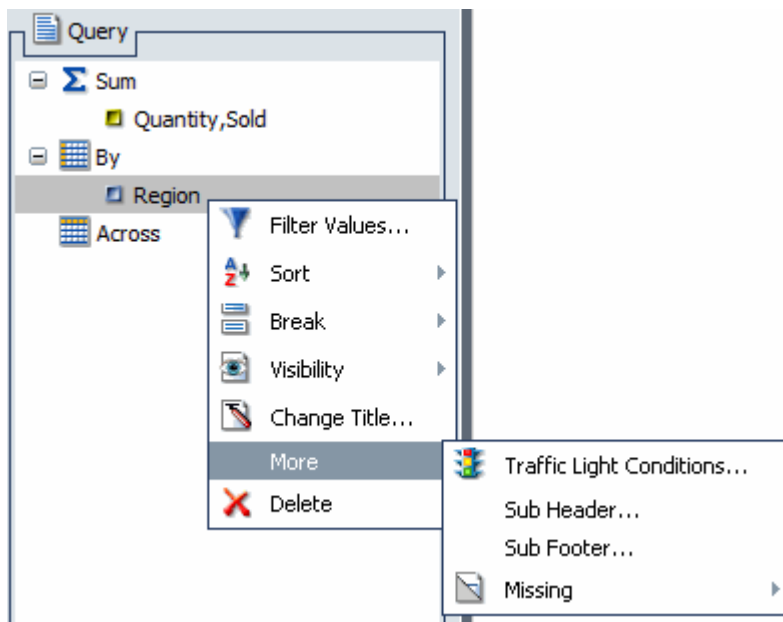
[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウでは、任意のフィールドを右クリックし、メニューに表示されたリストからオプションのいずれかを選択することができます。選択可能なオプションは、フィールドが格納されている [クエリ] (Query) フィールドコンテナ (SUM、BY、ACROSS) と、作成するレポートのタイプ (レポートまたはグラフ) によって異なります。

レポート レポートを作成する場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[SUM]、[BY]、[ACROSS] が含まれています。

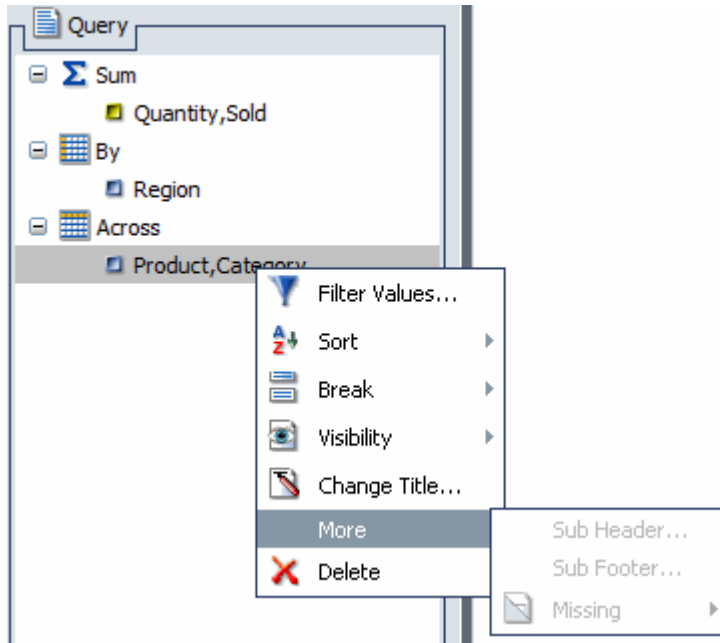
- **SUM** レポートで [SUM] フィールドを右クリックすると、[フィルタ] (Filter Values)、[ソート] (Sort)、[表示] (Visibility)、[タイトルの変更] (Change Title)、[フォーマットの編集] (Edit Format)、[詳細] (More)、[削除] (Delete) オプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[ピアグラフ] (Data Bars)、[集計関数] (Aggregation Functions)、[条件付きスタイル設定] (Traffic Light Conditions)、[ミッシング] (Missing) のオプションにアクセスすることができます。下図は、右クリックメニューを示しています。



- **BY** レポートで [BY] フィールドを右クリックすると、[フィルタ](Filter Values)、[ソート](Sort)、[区切り](Break)、[表示](Visibility)、[タイトルの変更](Change Title)、[詳細](More)、[削除](Delete) オプションが表示されます。[詳細](More) オプションからは、[選択条件](Traffic Light Conditions)、[中間見出し](Sub Header)、[中間脚注](Sub Footer)、[ミッシング](Missing) のオプションにアクセスすることができます。下図は、右クリックメニューを示しています。

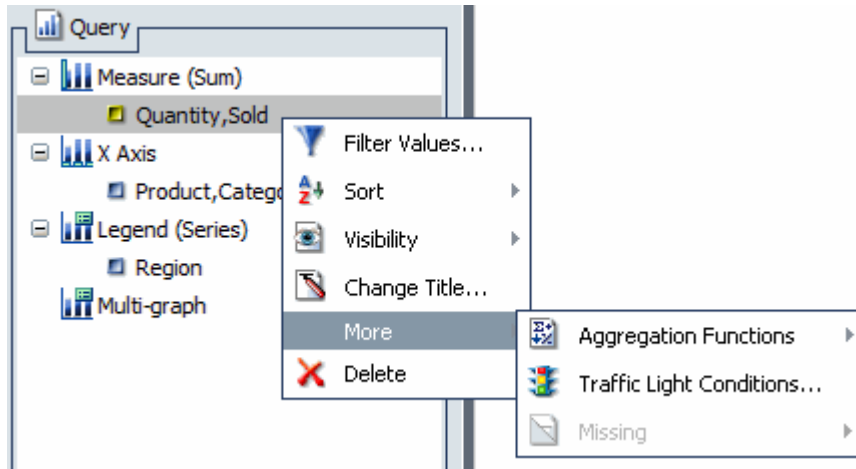


- **ACROSS** レポートで [ACROSS] フィールドを右クリックすると、[フィルタ] (Filter Values)、[ソート] (Sort)、[区切り] (Break)、[表示] (Visibility)、[タイトルの変更] (Change Title)、[詳細] (More)、[削除] (Delete) のオプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[中間見出し] (Sub Header)、[中間脚注] (Sub Footer)、[ミッシング] (Missing) のオプションにアクセスすることができます。下図は、右クリックメニューを示しています。

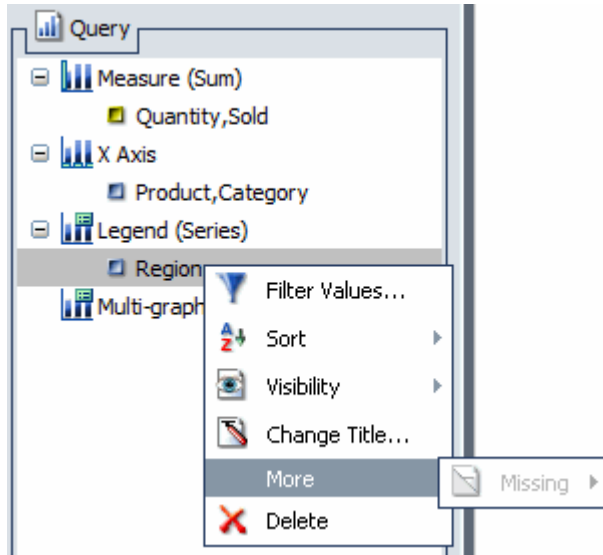


グラフ グラフを作成する場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[基軸 (SUM)] (Measure (Sum))、[X 軸] (X Axis)、[凡例 (シリーズ)] (Legend (Series))、[複数グラフ] (Multi-graph)、[複数レポート/グラフ] (Coordinated) (レイアウトの場合) が表示されます。

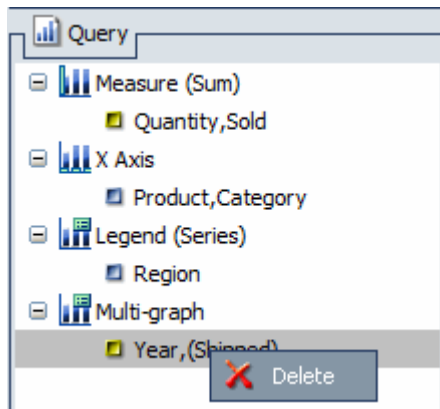
- **基軸 (SUM) (Measure (Sum))** グラフで [基軸 (SUM)] (Measure (Sum)) フィールドを右クリックすると、[フィルタ](Filter Values)、[ソート](Sort)、[表示](Visibility)、[タイトルの変更](Change Title)、[詳細](More)、[削除](Delete) オプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[集計関数] (Aggregation Functions)、[条件付きスタイル設定] (Traffic Light Conditions)、[ミッシング] (Missing) のオプションにアクセスすることができます。下図は、右クリックメニューを示しています。



- **X 軸または凡例 (シリーズ)** グラフで [X 軸] (X Axis) または [凡例 (シリーズ)] (Legend (Series)) フィールドを右クリックすると、[フィルタ] (Filter Values)、[ソート] (Sort)、[表示] (Visibility)、[タイトルの変更] (Change Title)、[削除] (Delete)、[詳細] (More) オプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[ミッシング] (Missing) オプションにアクセスすることができます。下図は、右クリックメニューを示しています。



- **複数レポート/グラフまたは複数グラフ** グラフで [複数レポート/グラフ] (Coordinated) フィールドまたは [複数グラフ] (Multi-graph) フィールドを右クリックした場合は、[削除] (Delete) オプションのみが表示されます。下図は、右クリックメニューを示しています。



参照

クエリデザインウィンドウの右クリックフィールドオプション

下表は、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで、選択したフィールドの右クリックで利用可能なフィールドオプションすべての一覧と説明です。

オプション	説明
フィルタ (Filter Values)	[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを開きます。ここで、WHERE ステートメントを作成して、必要なデータのみを選択し、不要なデータを除外することができます。
値のプロンプト (Prompt for Values)	[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを開きます。ここで、オートプロンプトパラメータを作成します。このパラメータは、レポートを実行する際に選択することができます。
ランキング (Rank)	BY フィールドを選択した場合は、そのフィールドのすぐ左に順位付けフィールドが挿入されます。基軸フィールドを選択した場合は、そのフィールドがBYフィールドとしてコピーされ、BY フィールドの左に順位付けフィールドが追加されます。基軸で順位付けを行った場合、フィールドのコピーが2つ作成されます。1つは元の基軸で、もう1つは順位付けを実行する際に作成される BY フィールドです。
ソート (Sort)	[ソート] (Sort) メニューおよび [制限] (Limit) メニューにアクセスすることができます。[ソート] (Sort) メニューを使用して、データを昇順または降順にソートすることができます。[制限] (Limit) メニューを使用して、追加済みのソートグループで表示するユニーク値の数を指定します。
ピアグラフ (Data Bars)	ピアグラフ表示機能をオンにするメニューがあります。[オン] (On) を選択すると、選択した数値フィールドの右側にピアグラフ列が追加され、この列には、データ値によって長さの異なる、左右に伸びる横棒グラフが表示されます。
集計関数 (Aggregation Functions)	レポートで選択した数値フィールドに、集計タイプ値を割り当てるオプションを選択するメニューがあります。

オプション	説明
中間合計 (Subtotal)	中間合計機能をオンにするメニューがあります。[オン] (On) を選択すると、主ソートフィールドの値が変わるたびに、すべての数値フィールドのレポート出力に1行追加されて、合計テキストと中間合計値が挿入されます。
改ページ (Page Break)	改ページ機能をオンにするメニューがあります。[オン] (On) を選択すると、主ソートフィールドの値が変わるたびにレポート出力で新しいページが開始されます。
ページ番号のリセット (Reset Page Numbers)	改ページの位置でページ番号をリセットし、1 から開始するように設定することができます。
条件付きスタイル設定 (Traffic Light Conditions)	[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを開きます。ここで、新規または既存の条件付きスタイルを追加して、指定した条件に一致した場合に、出力のフィールドに色やその他の属性を適用することができます。
表示 (Visibility)	選択したフィールドの表示を制御するメニューがあります。[非表示] (Hide) を選択すると、選択したフィールドが、レポート出力に表示されなくなります。[表示] (Show) (デフォルト) を選択すると、選択したフィールドは、レポート出力に表示されます。
中間見出し (Sub Header)	[中間見出しと中間脚注] (Sub Header & Sub Footer) ダイアログボックスを開いて、見出しの編集とスタイル設定を行えます。
中間脚注 (Sub Footer)	[中間見出しと中間脚注] (Sub Header & Sub Footer) ダイアログボックスを開いて、脚注の編集とスタイル設定を行えます。
ミッシング (Missing)	値が存在しないフィールドを表示または非表示にすることができます。

オプション	説明
タイトルの変更 (Change Title)	[タイトルの編集] (Change Title) ダイアログボックスを開きます。ここで、[タイトルを入力してください] (Enter Title) テキストボックスに新しいタイトルを入力して、選択したフィールドのタイトルを変更することができます。
フォーマットの編集 (Edit Format)	[フィールドフォーマットオプション] (Field Format Options) ダイアログボックスを開きます。ここで、フィールドタイプおよび表示オプションを編集することができます。
削除 (Delete)	選択したフィールドを削除します。

[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで利用可能な右クリックオプションは、すべて[フィールド] (Field) タブでも使用できます。詳細は、88 ページの「[フィールドタブ](#)」を参照してください。

結果パネルの理解

トピックス

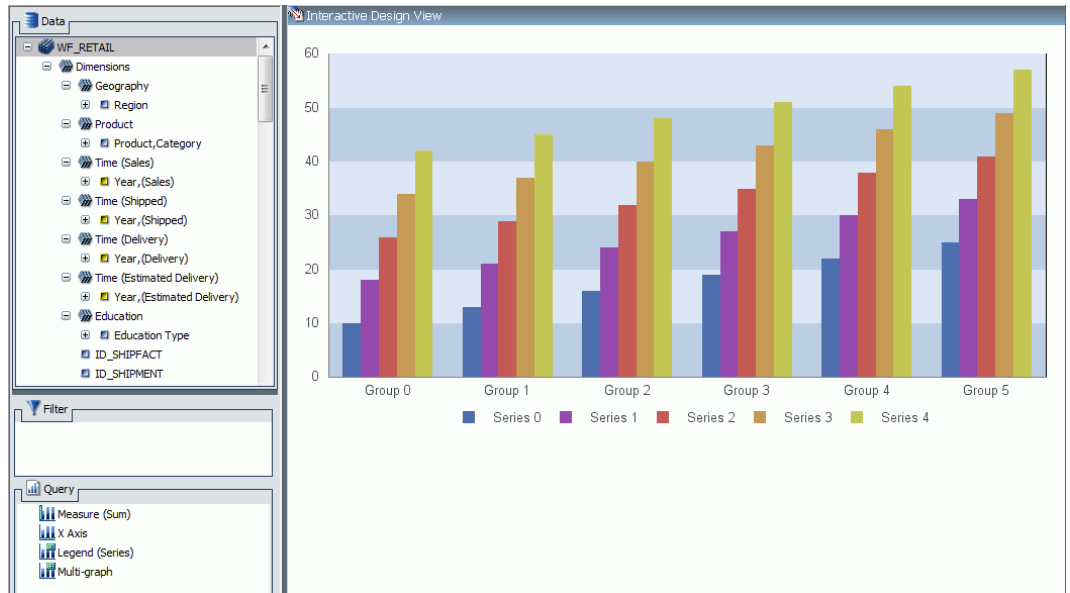
結果パネルでのクエリデザインウィンドウの使用

レイアウトキャンバスの理解

出力オプションの理解

レポートを作成または変更する際、デフォルト設定の [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューの結果パネルには、レイアウトキャンバスが表示されます。また、[クエリ] (Query) デザインビューを選択した場合は、結果パネルには [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウが表示されます。レポートを実行すると、結果パネルに出力ウィンドウが表示されます。出力ウィンドウが閉じているか、プレビューを表示するレポートが存在しない場合、結果パネルには何も表示されません。[クエリ] (Query) または [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューは、[表示] (View) タブまたは [ホーム] (Home) タブの [デザイン] (Design) グループから選択することができます。

下図は、グラフの作成を選択して、InfoAssist を最初に起動した場合の結果パネルを示しています。結果パネルにグラフプレビューが表示されています。リソースパネルは、結果パネルの左側に表示されています。



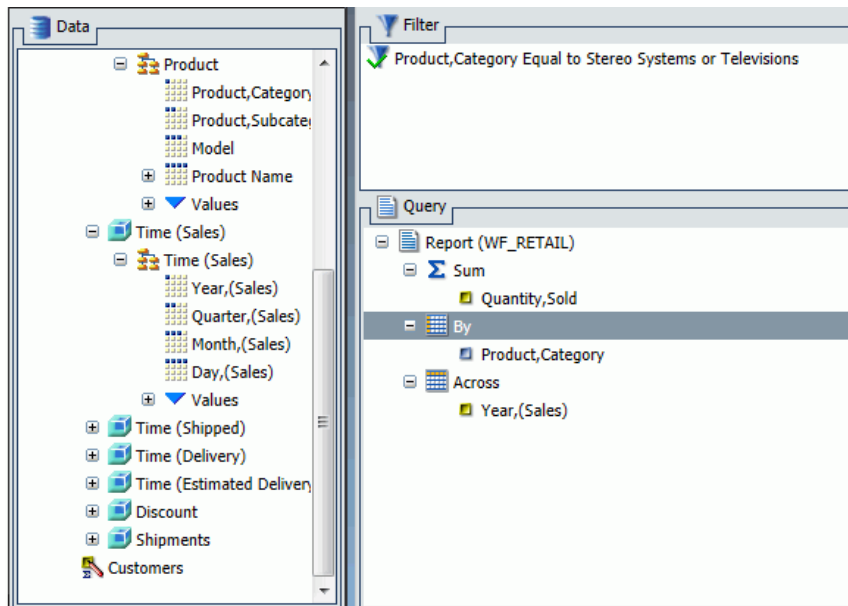
レポートを実行して出力を生成した後、出力ウィンドウを最小化するか閉じると、結果パネルには、ブランクの領域が表示されます。

結果パネルでのクエリデザインウィンドウの使用

[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウには、[フィルタ] (Filter) エリアと [クエリ] (Query) フィールドコンテナが表示されます。デフォルト設定の [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューを選択した場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウは、リソースパネル内の [データ] (Data) ウィンドウの下部に表示されます。

結果パネルには、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウが大きく表示されます。この機能は、複数のフィルタや数値フィールドを使用するレポートを設計する場合に役立ちます。[クエリ] (Query) または [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューは、[ホーム] (Home) タブの [デザイン] (Design) グループ、または [表示] (View) タブの [デザイン] (Design) グループで選択することができます。

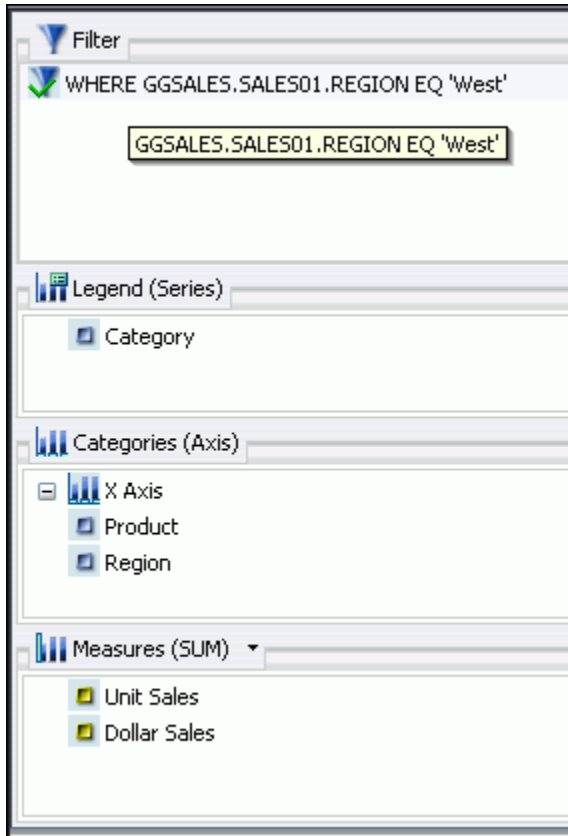
下図は、InfoAssist アプリケーションウィンドウの結果パネルに表示される [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを示しています。このウィンドウには、レポートフィールドコンテナの [フィルタ] (Filter)、[SUM]、[BY]、[ACROSS] が表示されています。



レポートとグラフのどちらを作成しているかによって、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで選択したフィールドの表示に使用されるフィールドコンテナタイプは異なります。

レポートの場合は、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウには、[SUM]、[BY]、[ACROSS] フィールドコンテナが表示されます。

グラフの場合は、下図のように、[クエリデザイン](Query Design) ウィンドウには、[フィルタ](Filter)、[凡例(シリーズ)](Legend (Series))、[カテゴリ(軸)](Categories (Axis))、[基軸(SUM)](Measures (Sum)) フィールドコンテナが表示されます。



レイアウトキャンバスの理解

デフォルト設定の[ライブプレビュー](Live Preview) デザインビューを使用している場合、レイアウトキャンバスには、結果パネルで作成中または編集中のレポートのプレビューが表示されます。[ライブプレビュー](Live Preview) デザインビューを選択するには、[ホーム](Home) タブの[デザイン](Design) グループに移動して[ライブプレビュー](Live Preview) をクリックするか、[表示](View) タブの[デザイン](Design) グループで[ライブプレビュー](Live Preview) をクリックします。レイアウトキャンバスは、常に(結果パネル内で)最大化されています。最小化、重ねて表示、並べて表示することはできません。ただし、レポートが存在しない場合、ブランクのキャンバスが開きます。

レイアウトキャンバスには、ライブデータまたはサンプルデータのいずれかが表示されません。

[ホーム](Home) タブの[デザイン](Design) グループで[ライブデータ](Data from Source) (デフォルト)を選択した場合は、レイアウトキャンバスにライブデータが表示されます。

[ホーム](Home) タブの[デザイン](Design) グループで[サンプルデータ](Use Sample Data)を選択した場合は、レイアウトキャンバスにサンプルデータが表示されます。

[ライブデータ](Data from Source) を選択した場合、レポート内のフィールドを追加、削除、スタイル設定した際に、レイアウトキャンバスで作成中のレポートのプレビューが更新されます。

[サンプルデータ](Use Sample Data) を選択した場合、レイアウトキャンバスには、ライブデータを表示する際に使用するものと同じのフォーマットとスタイルでサンプルデータが表示されます。

下図は、[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューのレイアウトキャンバスに表示されるレポートのプレビューを示しています。

The screenshot displays the 'Interactive Design View' interface. On the left, the 'Data' panel lists various dimensions and measures. The 'Measures/Properties' section is expanded, showing 'Quantity, Sold' and 'Revenue' selected. Below it, the 'Query' panel shows a 'Sum' of 'Quantity, Sold' and 'Revenue', grouped 'By' 'Region'. The right side of the interface shows a preview of the resulting report, which is a table with the following data:

Region	Quantity	
	Sold	Revenue
Central	42	26,696.44
MidEast	25	13,596.76
NorthEast	34	9,144.28
NorthWest	43	22,685.62
SouthEast	34	29,932.52
SouthWest	9	2,118.41
West	32	29,704.27

[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでレポートを作成する場合、レポートフィールドを左右にドラッグすることで、ユーザの好みに応じて、列の表示順序を変更することができます。レポートフィールドが数値の場合は、下図のように、[SUM としてドロップ] (Drop as Sum) オプションおよび [ソートとしてドロップ] (Drop as Sort) オプションが表示されます。

注意：[ソートとしてドロップ] (Drop as Sort) を選択すると、個別にソートされた値が表示されます。[SUM としてドロップ] (Drop as Sum) を選択すると、該当する行の値が集計されます。デフォルト設定は [SUM としてドロップ] (Drop as Sum) です。

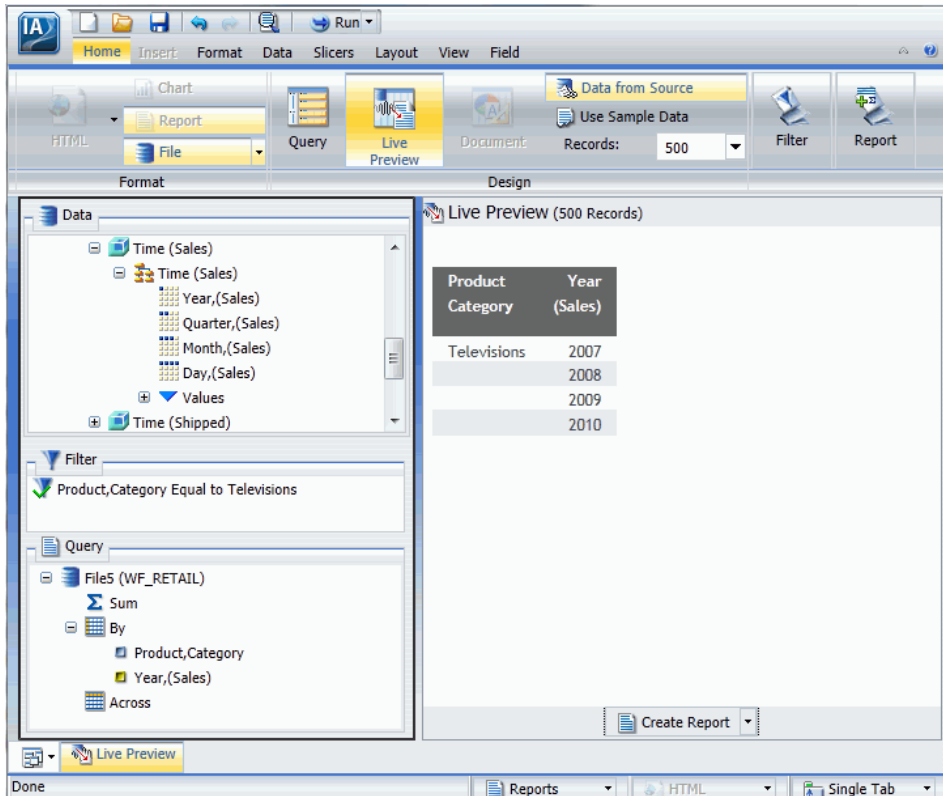
Region	Revenue	Quantity Sold
Central	29.708,92	37
MidEast	16.564,70	24
NorthEast	22.685,64	37
NorthWest	2.727,05	8
SouthEast	37.873,97	48
SouthWest	2.462,22	10
West	21.855,80	42

フィールドを別の位置に移動する際は、移動先の位置を示す赤色のインジケータバーが表示されます。これにより、実際に操作を行う前に、フィールドが配置される位置を確認することができます。下図は、このダイアログボックスを示しています。

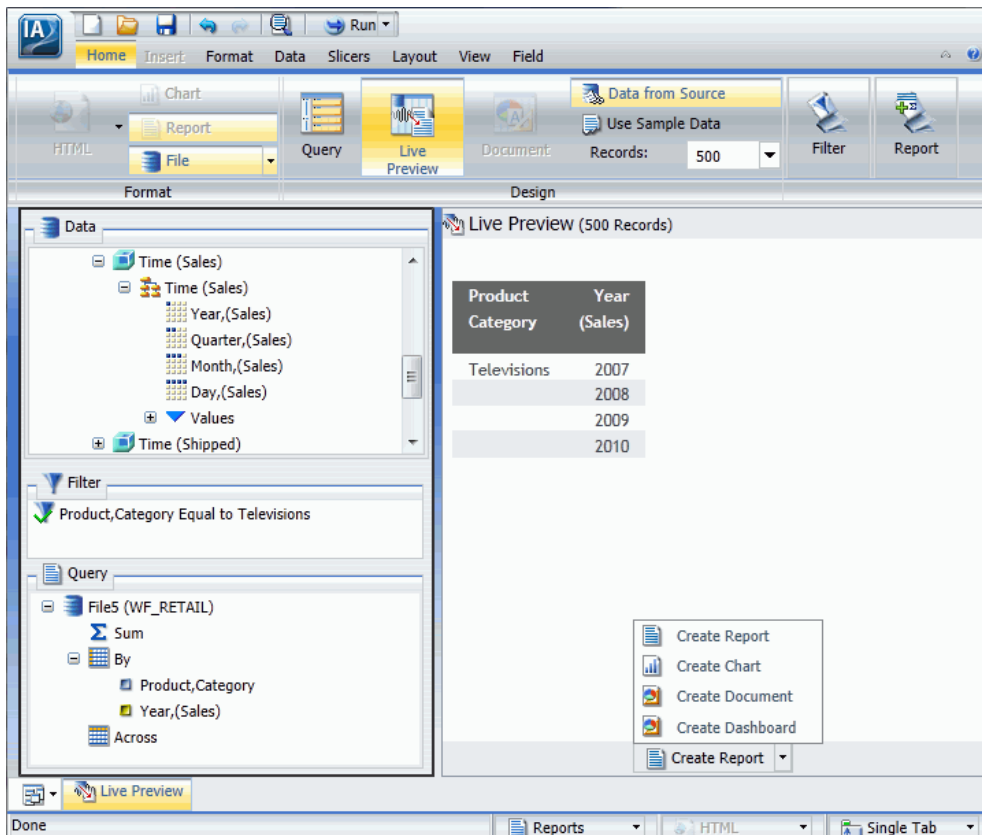
Region	Revenue	Quantity Sold
Central	29.708,92	37
MidEast	16.564,70	24
NorthEast	22.685,64	37
NorthWest	2.727,05	8
SouthEast	37.873,97	48
SouthWest	2.462,22	10
West	21.855,80	42

注意：フィールドのソート順序を変更するには、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウでフィールドコンテナ内のフィールドをドラッグすることもできます。詳細は、109 ページの「リソースパネルでのクエリデザインウィンドウの使用」を参照してください。

作成済みのフィルタが存在する場合は、[フィルタ](Filter) ウィンドウにフィルタが表示され、ライブプレビューの [結果] (Results) ウィンドウ下部に [レポートの作成] (Create Report) ドロップダウンメニューが表示されます。



下図のように、メニューを開いて利用可能なオプションにアクセスします。



出力オプションの理解

参照

出力方法オプション

整列オプション

出力フォーマットオプション

レポートを実行すると、出力結果は、結果パネルのタブまたは新しいブラウザウィンドウのいずれかに表示されます。作成した出力結果は、次のオプションを組み合わせ、さまざまな方法で表示することができます。これらのオプションは、[表示](View) タブの[ウィンドウ](Output Window) グループで選択します。

- 重ねて表示
- 縦に並べて表示
- 横に並べて表示
- 単一タブ
- 新規タブ
- 単一ウィンドウ
- 新規ウィンドウ
- 切り替え

出力ウィンドウとタブのオプションは、ステータスバーでも利用できます。また、出力ウィンドウの表示オプションは、ナビゲーションタスクバーで使用することもできます。

注意：レポートを実行すると、タブフォーカスは出力ウィンドウに移動するため、Tab キーを押して、選択を移動することはできません。タブフォーカスを出力ウィンドウから移動するには、F6 キーを押します。

参照

出力方法オプション

選択可能な出力ターゲットオプションには、次のものがあります。

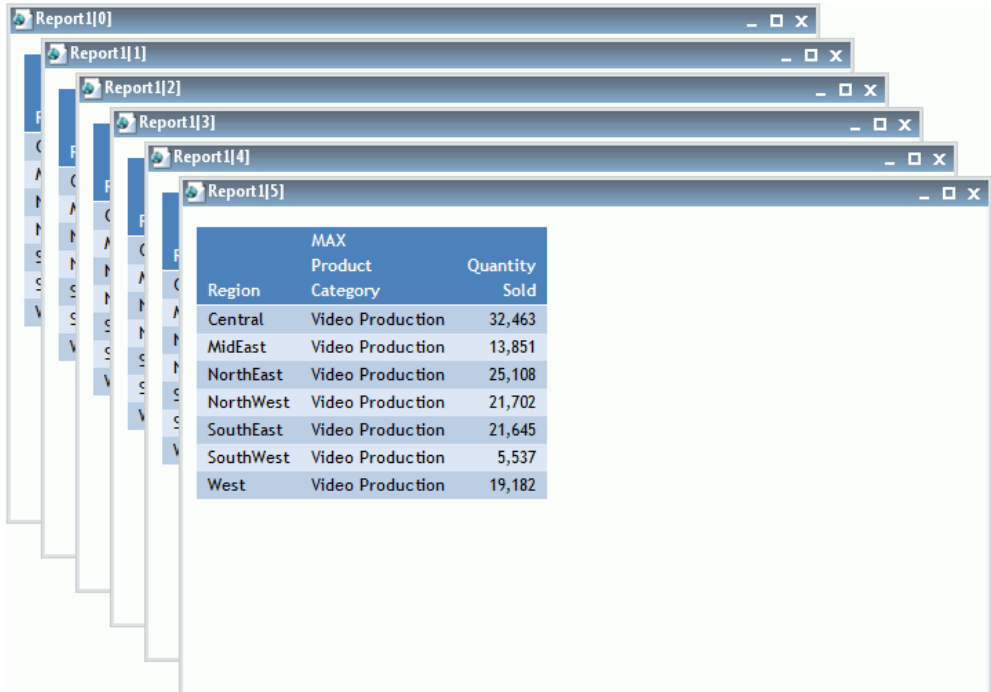
- **単一タブ (Single Tab)** [単一タブ] (Single Tab) を選択してレポートを実行すると、結果パネルに新しい出力ウィンドウが作成され、レポートのインスタンスが 1 つ生成されて、ナビゲーションタスクバーに出力タブが表示されます。レポートが変更されると、レポートが実行されるたびに、同一の出力ウィンドウが更新されます。このオプションがデフォルト設定で、1 つのレポートだけで作業する場合に適しています。
- **新規タブ (New Tab)** [新規タブ] (New Tab) を選択すると、レポートが実行されるたびに、結果パネルに新しい出力ウィンドウが作成されます。また、新しいレポートインスタンスが作成され、ナビゲーションタスクバーに新しい出力タブが追加されて、レポートが保持されます。各出力タブは、対応する出力ウィンドウを生成するレポートの状態を保持します。ナビゲーションタスクバーで、任意の出力タブを選択して右クリックのメニューから [ビューのロード] (Load View) を選択すると、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウにロードされます。
- **単一ウィンドウ (Single Window)** [単一ウィンドウ] (Single Window) を選択してレポートを実行すると、新しいブラウザウィンドウが開いて、レポート出力の結果が表示されます。レポートが変更されると、レポートが実行されるたびに、同一のブラウザウィンドウが更新されます。ブラウザウィンドウが閉じた状態でレポートが実行されると、再度新しいブラウザウィンドウが開いて、その後レポートが実行されるたびに、このウィンドウが更新されます。出力は結果パネルには表示されず、ナビゲーションタスクバーに出力タブは追加されません。
- **新規ウィンドウ (New Window)** [新規ウィンドウ] (New Window) を選択すると、レポートが実行されるたびに新しいブラウザウィンドウが開いて、レポート出力の結果が表示されます。出力は結果パネルには表示されず、ナビゲーションタスクバーに出力タブが追加されることはありません。

参照

整列オプション

選択可能な [整列] (Arrange) オプションには、次のものがあります。

- **重ねて表示 (Cascade)** 複数の出力ウィンドウが存在する場合に [重ねて表示] (Cascade) を選択すると、下図のように、ウィンドウは、結果パネルの対角線上に重ねて表示されます。このオプションは、[新規ウィンドウ] (New Window) または [単一ウィンドウ] (Single Window) を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。



- **縦に並べて表示 (Tile Horizontally)** 複数の出力ウィンドウが存在する場合に [縦に並べて表示] (Tile Horizontally) を選択すると、下図のように、ウィンドウは結果パネルに上下に並べて表示されます。このオプションは、[新規ウィンドウ] (New Window) または [単一ウィンドウ] (Single Window) を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。



The image shows five stacked windows, each displaying a report table. The windows are titled Report1[5], Report1[4], Report1[3], Report1[2], and Report1[1] from top to bottom. Each window contains the same table with the following data:

Region	Product Category	Quantity Sold
Central	Video Production	32,463
Midwest	Video Production	12,951

- **横に並べて表示 (Tile Vertically)** 複数の出力ウィンドウが存在する場合に [横に並べて表示] (Tile Vertically) を選択すると、下図のように、ウィンドウは結果パネルに左右に並べて表示されます。このオプションは、[新規ウィンドウ] (New Window) または [単一ウィンドウ] (Single Window) を選択して開いているブラウザウィンドウには影響しません。

Region	MAX Product Category	Quantity Sold
Central	Video Production	32,46
MidEast	Video Production	13,85
NorthEast	Video Production	25,10
NorthWest	Video Production	21,70
SouthEast	Video Production	21,64
SouthWest	Video Production	5,53
West	Video Production	19,18

- **出力の切り替え (Switch Output)** [出力の切り替え] (Switch Output) を選択すると、ドロップダウンメニューが開いて、作業中の任意のレポートを選択して、出力を表示することができます。選択したレポートは、タブオプションによって、出力ウィンドウにロードされます。

参照

出力フォーマットオプション

[出力] ウィンドウに表示できるレポート出力フォーマットには、[HTML]、[HTML5]、[active report]、[active Flash]、[PDF]、[active PDF] があります。

注意： Excel および PowerPoint フォーマットは、InfoAssist 外部のウィンドウに、それぞれのネイティブプログラムで開きます。

下図は、出力ウィンドウに表示された HTML レポート出力を示しています。HTML は、デフォルトの出力フォーマットです。左側にはリソースパネルが表示されています。

The screenshot displays the InfoAssist interface. On the left, the 'Data' pane shows a tree view for 'WF_RETAIL' with folders for Measures (Sales, Shipments), Dimensions (Customer, Product), and a 'Product' folder containing 'Product,Category', 'Product,Subcategory', 'Model', 'Product Name', and 'Values'. Below this is a 'Filter' section and a 'Query' section showing a report for 'WF_RETAIL' with a 'Sum' measure for 'Quantity,Sold', 'Revenue', and 'Customers', grouped 'By' 'Region' and 'Product,Category' across.

The 'Live Preview (500 Records)' window on the right shows the following data table:

Region	Product Category	Quantity		
		Sold	Revenue	Customers
Central	Stereo Systems	11	2,217,89	8
	Televisions	5	7,272,98	5
	Video Players	13	3,734,37	10
MidEast	Video Production	3	973,40	3
	Stereo Systems	4	807,96	4
	Televisions	5	10,726,89	4
NorthEast	Video Players	10	3,749,90	7
	Stereo Systems	15	2,941,50	11
	Televisions	9	15,168,25	8
NorthWest	Video Players	5	1,658,95	4
	Video Production	2	468,99	2
	Stereo Systems	2	399,98	2
SouthEast	Televisions	2	848,99	2
	Video Players	1	599,99	1
	Video Production	1	269,10	1
SouthWest	Stereo Systems	18	4,377,97	11
	Televisions	12	22,194,18	6
	Video Players	6	1,817,94	4
West	Stereo Systems	2	763,30	1
	Televisions	1	148,99	1
	Video Players	4	999,96	2
West	Stereo Systems	15	4,412,38	12
	Televisions	9	10,790,57	5
	Video Players	11	3,885,89	9
	Video Production	2	919,05	2

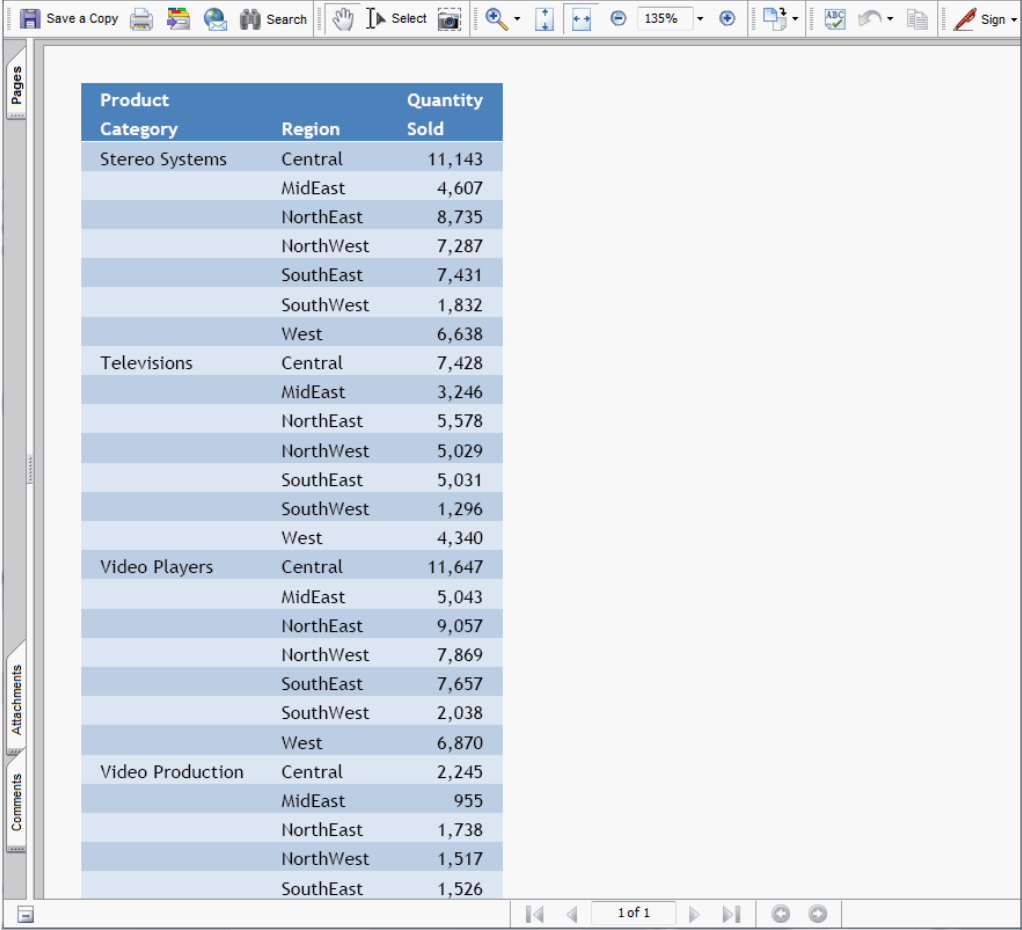
下図は、新しいウィンドウに出力された active report を示しています。最終列のデータで、ドロップダウンメニューが選択され、レポートオプションが表示されています。

28 of 28 records, Page 1 of 1			
Product	Quantity		
Category ▼	Region ▼	Sold ▼	
Stereo Systems	Central	11,7	<ul style="list-style-type: none"> Sort Ascending Sort Descending Filter ▶ Calculate ▶ Chart ▶ Rollup ▶ Pivot (Cross Tab) ▶ Visualize Hide Column Grid Tool Chart/Rollup Tool Pivot Tool Show Records ▶ Comments ▶ Send as E-mail Save Changes Export ▶ Print ▶ Window ▶ Restore Original
	MidEast	4,6	
	NorthEast	8,7	
	NorthWest	7,2	
	SouthEast	7,4	
	SouthWest	1,8	
	West	6,6	
Televisions	Central	7,4	
	MidEast	3,2	
	NorthEast	5,5	
	NorthWest	5,0	
	SouthEast	5,0	
	SouthWest	1,2	
	West	4,3	
Video Players	Central	11,6	
	MidEast	5,0	
	NorthEast	9,0	
	NorthWest	7,8	
	SouthEast	7,657	
	SouthWest	2,038	
	West	6,870	

下図は、新しいウィンドウに出力された active Flash レポートを示しています。

28 of 28 records, Page 1 of 1		
Product Category	Region	Quantity
Stereo Systems	Central	143
	MidEast	607
	NorthEast	735
	NorthWest	287
	SouthEast	431
	SouthWest	832
	West	638
Televisions	Central	428
	MidEast	246
	NorthEast	578
	NorthWest	1029
	SouthEast	1031
	SouthWest	296
	West	340
Video Players	Central	647
	MidEast	1043
	NorthEast	1057
	NorthWest	869
	SouthEast	657
	SouthWest	1038
	West	870
Video Products	Central	245
	MidEast	955
	NorthEast	738
	NorthWest	1,517
	SouthEast	1,526
	SouthWest	371
	West	1,334

下図は、新しいウィンドウに出力された PDF レポートを示しています。



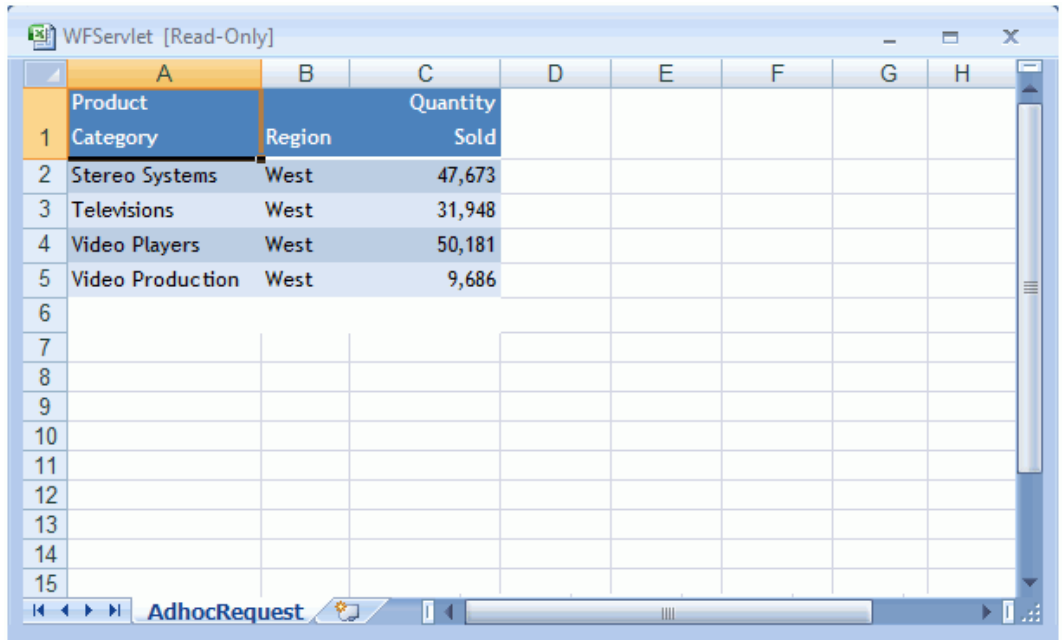
The screenshot shows a PDF viewer window with a table of sales data. The table has three columns: Product Category, Region, and Quantity Sold. The data is grouped by Product Category.

Product Category	Region	Quantity Sold
Stereo Systems	Central	11,143
	MidEast	4,607
	NorthEast	8,735
	NorthWest	7,287
	SouthEast	7,431
	SouthWest	1,832
	West	6,638
Televisions	Central	7,428
	MidEast	3,246
	NorthEast	5,578
	NorthWest	5,029
	SouthEast	5,031
	SouthWest	1,296
	West	4,340
Video Players	Central	11,647
	MidEast	5,043
	NorthEast	9,057
	NorthWest	7,869
	SouthEast	7,657
	SouthWest	2,038
	West	6,870
Video Production	Central	2,245
	MidEast	955
	NorthEast	1,738
	NorthWest	1,517
	SouthEast	1,526

下図は、新しいウィンドウに出力された active PDF レポートを示しています。

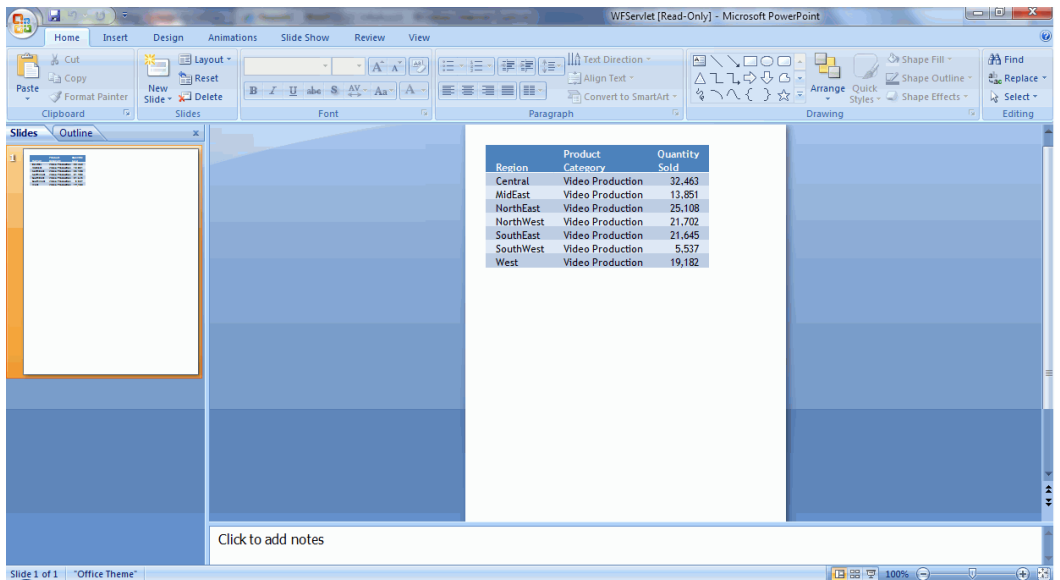
注意： active PDF 出力は、Adobe Reader 9.0 以降がインストールされている場合にのみ表示されます。

下図は、新しいウィンドウに出力された Excel レポートを示しています。



	A	B	C	D	E	F	G	H
	Product		Quantity					
1	Category	Region	Sold					
2	Stereo Systems	West	47,673					
3	Televisions	West	31,948					
4	Video Players	West	50,181					
5	Video Production	West	9,686					
6								
7								
8								
9								
10								
11								
12								
13								
14								
15								

下図は、新しいウィンドウに出力された PowerPoint レポートを示しています。



Region	Product Category	Quantity Sold
Central	Video Production	32,463
MidEast	Video Production	13,851
NorthEast	Video Production	25,108
NorthWest	Video Production	21,702
SouthEast	Video Production	21,645
SouthWest	Video Production	5,537
West	Video Production	19,182

ナビゲーションタスクバーの使用

ナビゲーションタスクバーエリアからは、作業中の出力ウィンドウと、その出力生成のためのレポートデザインすべてに、すばやくアクセスすることができます。タスクバーの [デザインビューの表示] (Display Design View) をクリックして、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウで最後に編集していたレポートに戻ることができます。InfoAssist では、下図のようなナビゲーションタスクバーが、常に表示されます。表示位置は、アプリケーションウィンドウの下部付近、ステータスバーのすぐ上です。



作業中の出力ウィンドウそれぞれのナビゲーションタスクバーには、タブが表示されます。タブを選択すると、その出力ウィンドウが、結果パネルに表示されます。レポートを変更するたびに固有の名前で保存すると、レポートを実行して新しいウィンドウが生成される際に、タスクバーのタブとして固有の名前が表示されます。一意の名前で保存せずに、レポートの変更と実行を続行した場合は、保存済みの元のレポート名に括弧付きの番号が付けられて、複数の出力ウィンドウが区別されます。

ナビゲーションタスクバーでレポート出力を選択する際の動作は、ステータスバーまたは [表示] (View) タブの [出力ウィンドウ] (Output Window) グループで選択した出力ウィンドウオプションに従います。詳細は、141 ページの「[ステータスバーの使用](#)」 Status Bar または、129 ページの「[出力オプションの理解](#)」を参照してください。

ナビゲーションタスクバーで各レポートのタブを右クリックすると、メニューに次のオプションが表示されます。

- サイズを元に戻す (Restore)
- 最小化 (Minimize)
- 最大化 (Maximize)
- 閉じる (Close)
- ビューのロード (Load View)
- 自動サイズ変更 (Auto Resize)

[サイズを元に戻す] (Restore)、[最小化] (Minimize)、[最大化] (Maximize)、[閉じる] (Close) は、すべてのブラウザウィンドウとソフトウェアアプリケーションで利用可能な、標準オプションです。下図のように、[最小化] (Minimize)、[最大化] (Maximize) (ウィンドウが最大化されていない場合)、[サイズを元に戻す] (Restore)、[閉じる] (Close) は、出力ウィンドウの右上隅にもあります。



Region	Product Category	Quantity Sold
Central	Video Production	32,463
MidEast	Video Production	13,851
NorthEast	Video Production	25,108
NorthWest	Video Production	21,702
SouthEast	Video Production	21,645
SouthWest	Video Production	5,537
West	Video Production	19,182

各出力ウィンドウの基になるレポートデザインは、タスクバーで、作業中の出力ウィンドウを右クリックして、[ビューのロード] (Load View) を選択することで、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウにロードすることができます。[自動サイズ変更] (Auto Resize) オプションを使用して、フィールドを追加または削除する際に、必要に応じて、出力ウィンドウのサイズを変更することができます。

ナビゲーションタスクバーの左端にある [ウィンドウオプション] (Window Options) ポップアップメニューからは、作業中の出力ウィンドウを結果パネルに表示するオプションを選択することができます。選択可能な表示オプションには、[重ねて表示] (Cascade)、[縦に並べて表示] (Tile Horizontally)、[横に並べて表示] (Tile Vertically)、[すべて元に戻す] (Restore All)、[すべて最小化] (Minimize All)、[すべて閉じる] (Close All) があります。メニューの最下部には、現在開いている出力ウィンドウの名前が表示されます。

[ウィンドウオプション] (Window Options) ポップアップメニューのオプションは、[表示] (View) タブの [出力ウィンドウ] (Output Window) グループで利用可能なオプションと直接リンクしています。

ステータスバーの使用

ステータスバーには、最後に選択した操作のステータスが表示されるほか、選択したフォーマットを表示する [出力フォーマット] (Output Format) ボタン、新規出力先 (ウィンドウまたはタブ) として選択したオプションを表示する [出力ターゲット] (Output Target) ボタンがあります。下図は、ステータスバーを示しています。



レポートボタンをクリックすると、メニューが開いて、現在開いているレポートのいずれかを選択するオプションが表示されます。レポートはそれぞれ、レポート名、およびレポートタイプ (レポート、グラフ、レイアウト) を表すアイコンとともに表示されます。選択したレポートがアクティブになります。

出力フォーマットのボタンをクリックすると、メニューが開いて、別の出力フォーマットを選択するオプションが表示されます。オプションの完全なリストは、49 ページの「[出力グループ](#)」を参照してください。

出力ターゲットのボタンをクリックすると、メニューが開いて、[単一タブ] (Single Tab) (デフォルト)、[新規タブ] (New Tab)、[単一ウィンドウ] (Single Window)、[新規ウィンドウ] (New Window) のいずれかを選択するオプションが表示されます。129 ページの「[出力オプションの理解](#)」を参照してください。

2 | InfoAssist 出力のカスタマイズ

InfoAssist のレポートおよびグラフは、カスタマイズすることができます。

トピックス

- 基本レポートの作成
- グラフの作成およびカスタマイズ
- レイアウトの作成とカスタマイズ

基本レポートの作成

トピックス

レポート出力

手順/構文

BI Portal ツリーからレポートを作成するには

アプリケーションメインメニューからレポートを作成するには

クイックアクセスツールバーからレポートを作成するには

既存のグラフからレポートを作成するには

BI Portal および InfoAssist で基本レポートを作成するには、次の手順を実行します。

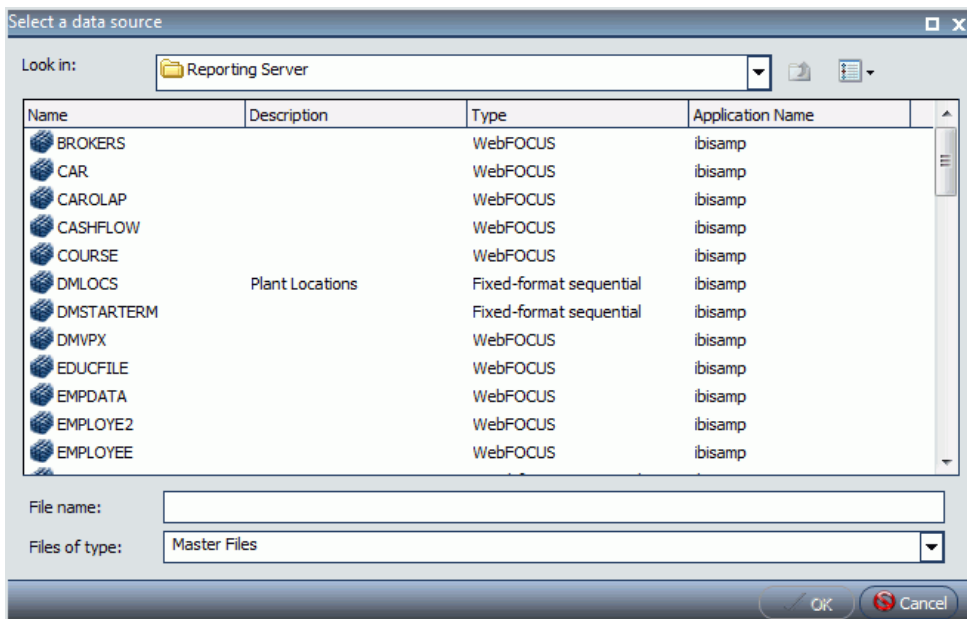
手順

BI Portal ツリーからレポートを作成するには

BI Portal にログイン後、ツリー内の既存のフォルダを使用するか、新しいフォルダを作成して、それらのフォルダをレポートの格納先にすることができます。

1. 使用するフォルダを右クリックし、[新規作成](New)、[レポート](Report) を順に選択します。

下図のように、[データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスが表示されます。



2. [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスで、使用するデータソースを選択し、[OK] をクリックします。

選択したデータソースが、[リソース] (Resources) パネルの [データ] (Data) ウィンドウに表示されます。

3. フィールドを作業領域または [クエリ] (Query) ウィンドウにドラッグアンドドロップして、レポートの作成を開始します。

下図は、基本レポートを示しています。

Region	Quantity	
	Sold	Revenue
Central	42	26,696.44
MidEast	25	13,596.76
NorthEast	34	9,144.28
NorthWest	43	22,685.62
SouthEast	34	29,932.52
SouthWest	9	2,118.41
West	32	29,704.27

手順

アプリケーションメインメニューからレポートを作成するには

1. InfoAssist インターフェースの左上で、[IA] ボタンをクリックしてアプリケーションメニューを開きます。
2. アプリケーションメインメニューから [新規作成] (New) を選択します。
InfoAssist のスプラッシュスクリーンが開きます。
3. InfoAssist のスプラッシュスクリーンで、[レポートの作成] (Build a Report) を選択します。
[データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスが開きます。
4. [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスで、使用するデータソースを選択し、[OK] をクリックします。
選択したデータソースが、[リソース] (Resources) パネルの [データ] (Data) ウィンドウに表示されます。
5. フィールドを作業領域または [クエリ] (Query) ウィンドウにドラッグアンドドロップして、レポートの作成を開始します。

手順

クイックアクセスツールバーからレポートを作成するには

1. クイックアクセスツールバーで、[新規作成] (New) アイコンをクリックします。
InfoAssist のスプラッシュスクリーンが開きます。

2. InfoAssist のスプラッシュスクリーンで、[レポートの作成] (Build a Report) を選択します。
[データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスが開きます。
3. [データソースを選択] (Select a data source) ダイアログボックスで、使用するデータソースを選択し、[OK] をクリックします。
選択したデータソースが、[リソース] (Resources) パネルの [データ] (Data) ウィンドウに表示されます。
4. フィールドを作業領域または [クエリ] (Query) ウィンドウにドラッグアンドドロップして、レポートの作成を開始します。

手順

既存のグラフからレポートを作成するには

1. InfoAssist で作成したグラフを開きます。
2. [ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。
データがレポートとして表示されます。

レポート出力

レポートに使用可能な出力タイプには次のものがあります。

- HTML
- active report
- active Flash
- PDF
- active PDF
- Excel
- PowerPoint

注意：[レイアウト] (Document) デザインビューでレポートを作成する場合は、Excel 出力タイプの中で、[Excel] のみを使用できます。

[ライブプレビュー] (Live Preview) または [クエリ] (Query) デザインビューでレポートを作成する場合は、次の Excel 出力タイプを使用できます。

- **Excel** レポートを Excel フォーマットで出力します。
- **Excel 2007** レポートを Excel 2007 フォーマットで出力します。
- **Excel Formula** 合計と演算に Excel の数式を使用してレポートを出力します。
- **Excel 2007 Formula** 列合計、行合計、中間合計など、集計情報に Excel の数式を使用してレポートを出力します。
- **Excel Pivot** レポートをピボットテーブル付きの Excel フォーマットで出力します。

グラフの作成およびカスタマイズ

トピックス

グラフによるデータの視覚化

グラフの選択

グラフの作成

グラフフォーマットツールへのアクセス

シリーズのフォーマット設定

データラベルのフォーマット設定

凡例のフォーマット設定

罫線のフォーマット設定

軸ラベルのフォーマット設定

フレームおよび背景のフォーマット設定

メータグラフのフォーマット設定

ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定

その他のフォーマット機能の使用

グラフを作成してカスタマイズする方法について説明します。また、利用可能なグラフタイプと出力フォーマットの概要についても説明します。

InfoAssist では、単純なものから複雑なものまで、さまざまなグラフを簡単に作成することができます。さまざまなグラフタイプと出力フォーマットから選択し、グラフにカスタム機能を追加することができます。

また、任意の既存 InfoAssist レポートから、グラフを作成することもできます。

グラフによるデータの視覚化

データの意味を伝える場合、そのデータを表形式で表現するよりも、グラフを使用した方が分かりやすい場合がよくあります。グラフを使用すると、量的情報を視覚的に伝達することができます。グラフデータに形状やフォームを適用することで、多数のデータ値間のパターンや関係を明らかにすることができます。グラフでは、詳細な調査を要する異常値が明確になります。レポートとグラフのどちらでデータを表示するかを決定する際には、考慮する点がいくつかあります。

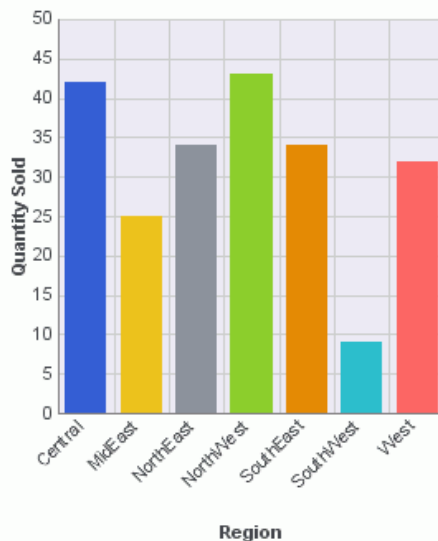
Use a Table to:

- Look up individual values.
- Compare individual values.
- Use values precisely.

Degree Type	Customer Income Range
Associate Degree	A: \$0 TO \$24,999
	B: \$25,000 TO \$49,999
	C: \$50,000 TO \$74,999
	D: \$75,000 TO \$99,999
	E: \$100,000 OR MORE
Bachelor's Degree	B: \$25,000 TO \$49,999
	C: \$50,000 TO \$74,999
	D: \$75,000 TO \$99,999
	E: \$100,000 OR MORE
Master's Degrees	A: \$0 TO \$24,999
	B: \$25,000 TO \$49,999
	C: \$50,000 TO \$74,999
	D: \$75,000 TO \$99,999
	E: \$100,000 OR MORE

Use a Chart to:

- Show overall shape of values.
- Show relationship among multiple values using patterns and trends.



グラフの選択

トピックス

棒グラフ

円グラフ

折れ線グラフ

面グラフ

複数軸グラフ

XY プロットグラフ

3D グラフ

株価グラフ

その他のグラフ

複合グラフ

マップ

データの表示に適したグラフを選択することが重要です。InfoAssist には、基本グラフと詳細グラフの両方が含まれたグラフライブラリが用意されています。多種多様なグラフから、データの表示に最適なグラフを選択することができます。

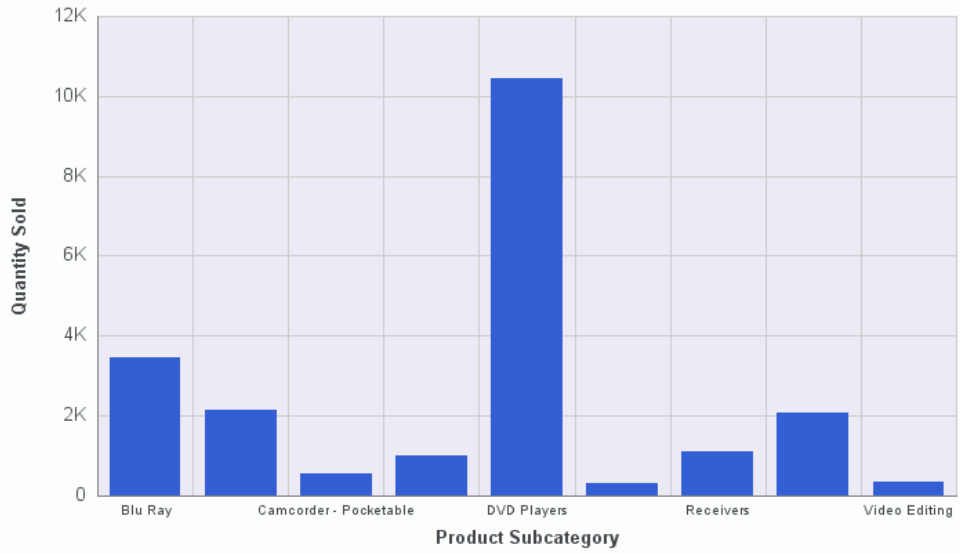
棒グラフ

トピックス

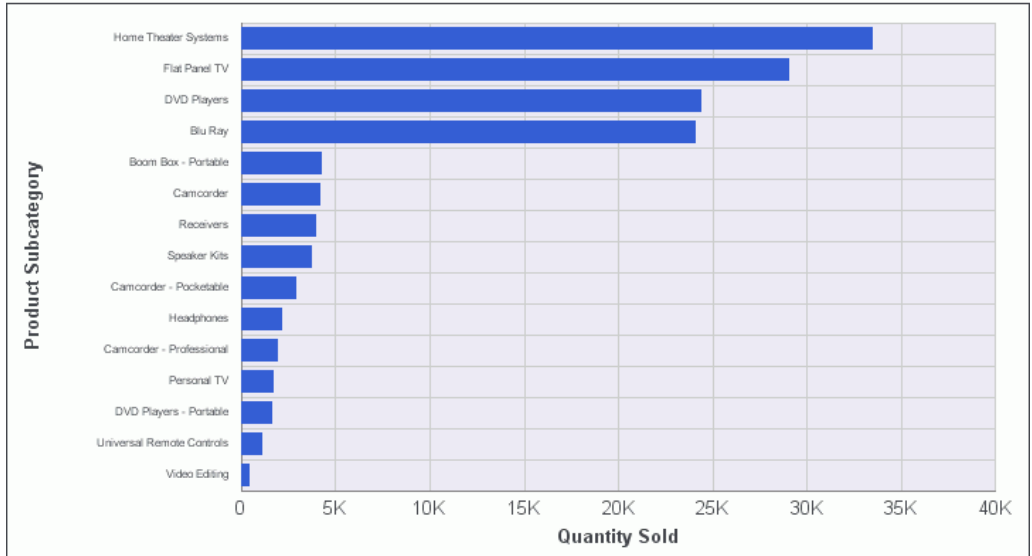
棒グラフのタイプ

棒グラフは、スケール (グラフの軸に沿って表示される数値または変数の尺度) を基準にした長方形のブロックを表示することによって、数値データを表します。棒の長さは、各データの値または数量に相当します。棒の相対的な高さで、データシリーズ (フィールド) を比較することができます。棒グラフは、数値データの分布を表します。作成可能な棒グラフには、横棒グラフと縦棒グラフがあります。

用途 棒グラフは、個々の値が重要な意味を持つ場合に使用します。下図の例は、販売された個々の製品と、各製品の売上総数を比較する基本的な縦棒グラフです。販売店では、売れ筋製品や各製品の売上高を知ることが重要になります。



横棒グラフは、値の大きい方から並べて順位を強調する場合や、X軸ラベルが長すぎて横に並べて表示できない場合に使用すると便利です。下図の例は、販売店で売上高の多い順に製品を順位付けした基本的な横棒グラフです。



棒グラフのタイプ

下表は、使用可能な棒グラフタイプの一覧です。

棒グラフのタイプ	
集合縦棒	集合横棒
積み上げ縦棒	積み上げ横棒
2 軸集合縦棒	2 軸集合横棒
2 軸積み上げ縦棒	2 軸積み上げ横棒
2 極集合縦棒 (HTML5 では使用不可)	2 極集合横棒 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦棒 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横棒 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦棒	パーセント横棒

棒グラフのタイプ	
縦ヒストグラム	横ヒストグラム
縦滝型	横滝型
複数 Y 軸 (3) 縦棒 (HTML5 では使用不可)	複数 Y 軸 (4) 縦棒 (HTML5 では使用不可)
複数 Y 軸 (5) 縦棒 (HTML5 では使用不可)	エラーバー

円グラフ

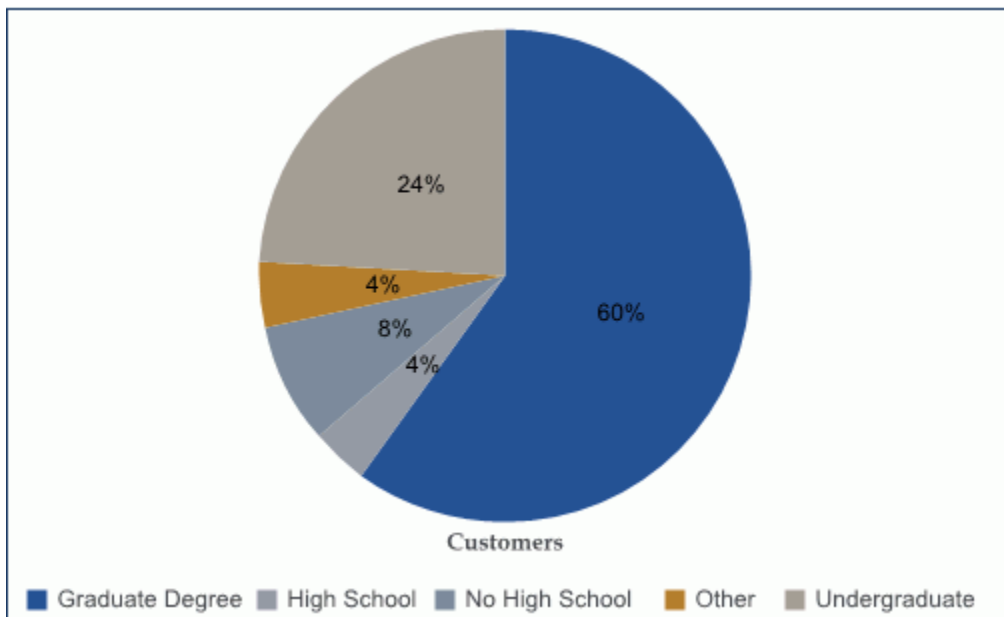
トピックス

円グラフのタイプ

円グラフは、全体に対する各要素の割合を表す円形のグラフです。円グラフは、特定のデータが全体の中でどの程度の位置を占めるかを強調します。円グラフは、データがいくつかの大規模なセグメントで構成されている場合に、最も効果的です。円グラフに使用する基軸数は、5以下にすることをお勧めします。使用する基軸数が多すぎると、円全体が細かい円項目に分割され、判別が困難になる場合があります。個々のセグメントに異なる色やテキストを適用すると、視覚的に区別しやすくなります。

注意：円グラフで負の値のデータを描画することはできません。

用途 円グラフは、データがいくつかの大きな区分で構成され、そのデータ全体を表示する場合に使用します。下図の例は、販売店の顧客の学歴を示した円グラフです。



円グラフのタイプ

下表は、使用可能な円グラフタイプの一覧です。

XY プロットグラフ	
複数円	複数リング
複数比例円 (HTML5 では使用不可)	複数比例リング (HTML5 では使用不可)
円	リング
補助縦棒付き円 (HTML5 では使用不可)	補助縦棒付きリング (HTML5 では使用不可)

折れ線グラフ

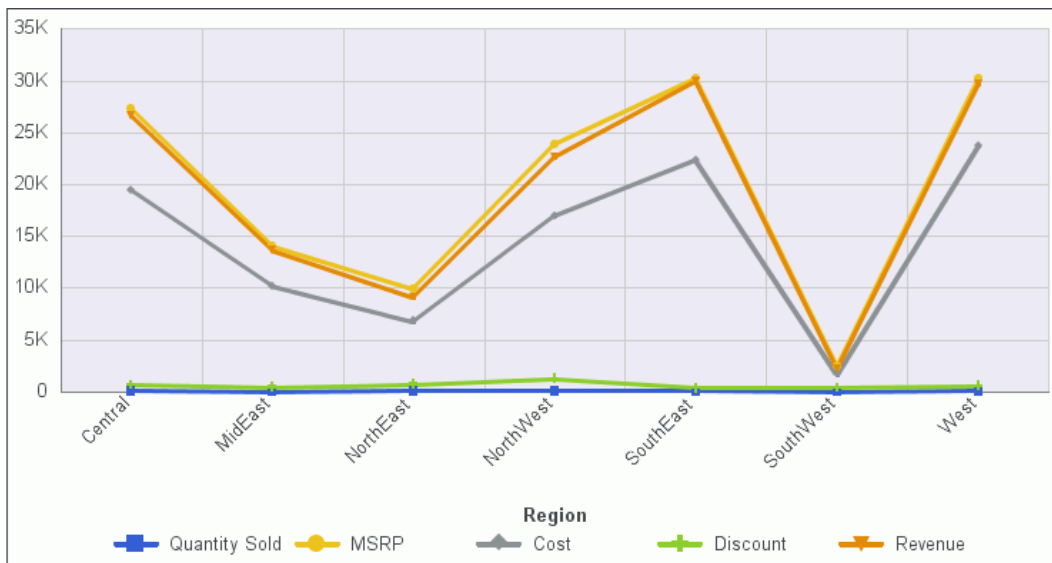
トピックス

折れ線グラフのタイプ

折れ線グラフは、時間の経過に沿った数値データの動向 (傾向) を強調する際に役立ちます。これらを使用して、過去の時点にさかのぼったり、データを補間したりして、特定のデータ点の変化を追跡することができます。高低のレベル、遅速の動き、安定に向けての傾向などのトレンドタイプについて説明する場合は、折れ線グラフが適しています。

また、折れ線グラフに複数のスケールを使用して、異なる期間におけるの同一または複数のデータ値を比較することもできます。

用途 折れ線グラフは、時間の経過とともに変化するデータの動向を表す場合に使用します。たとえば、雇用統計の月別変化や、全製品の中で特定の製品の年別の売上高などがあります。下図の例は、4年間にわたる4つの製品の売上総利益の動向を示した折れ線グラフです。



レーダーグラフは、基本的に折れ線グラフに類似していますが、スケールが円形状に配置されている点が異なります。レーダーグラフは、2つ以上のデータセットを比較する場合に使用します。年月のような周期データについて説明する場合は、レーダーグラフが適しています。レーダー線グラフは折れ線グラフカテゴリから、レーダー面グラフは面グラフカテゴリから、それぞれ選択可能です。複数の軸または多角形を使用して、データセットを交差線状に表現することができます。

折れ線グラフのタイプ

下表は、使用可能な折れ線グラフタイプの一覧です。

折れ線グラフのタイプ	
絶対値縦折れ線	絶対値横折れ線
積み上げ縦折れ線	積み上げ横折れ線
2 軸絶対値縦折れ線	2 軸絶対値横折れ線
2 軸積み上げ縦折れ線	2 軸積み上げ横折れ線
2 極絶対縦折れ線 (HTML5 では使用不可)	2 極絶対値横折れ線 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦折れ線 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横折れ線 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦折れ線	パーセント横折れ線
レーダー線	

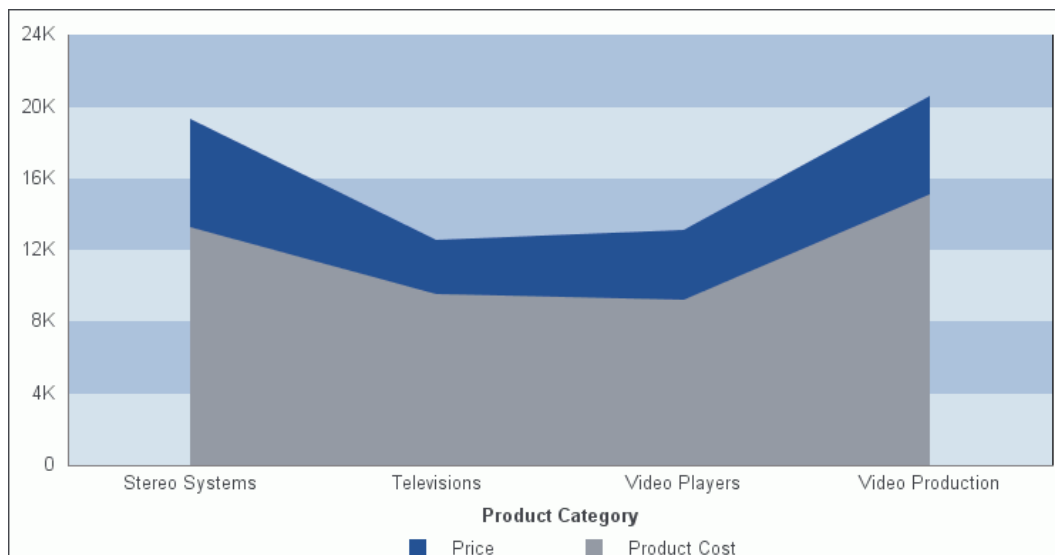
面グラフ

トピックス

面グラフのタイプ

面グラフは、折れ線グラフに類似していますが、データ線とゼロ線（軸線）との間の領域に色が適用されている点が異なります。面グラフでは、1つのデータの上に別のデータを積み上げることができます。データを積み上げることで、データシリーズ間の関係を強調して、あるデータシリーズが別のデータシリーズに接近したり、追い付いたりする様子を表現することができます。

用途 面グラフは、データ量を色で強調することでデータをより明確に識別する場合に使用します。下図の例は、4つの製品の価格と製品コストを示した基本的な面グラフです。折れ線グラフと比較すると、このグラフではデータがより明確に区別されます。



面グラフのタイプ

下表は、使用可能な面グラフタイプの一覧です。

面グラフのタイプ	
絶対値縦側面	絶対値横側面

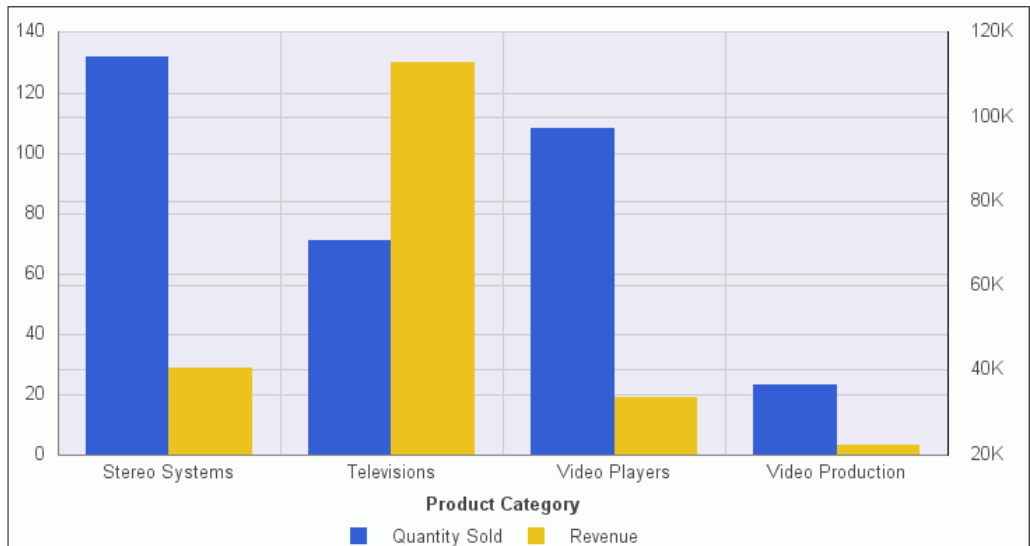
面グラフのタイプ	
積み上げ縦面	積み上げ横面
2 極絶対値縦面 (HTML5 では使用不可)	2 極絶対値横面 (HTML5 では使用不可)
2 極積み上げ縦面 (HTML5 では使用不可)	2 極積み上げ横面 (HTML5 では使用不可)
パーセント縦面	パーセント横面
レーダー面	

複数軸グラフ

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフには、複数軸オプションがあります。たとえば、2 軸グラフや、1 つの X 軸値を複数の Y 軸基軸と比較できる複数 Y 軸グラフがあります。

InfoAssist では、Y1 から Y5 までの軸にそれぞれ個別のシリーズを割り当てることができます。詳細は、172 ページの「[2 軸グラフを作成するには](#)」を参照してください。

用途 複数軸グラフは、複数の軸に値を表示し、複数のデータセットをそれぞれ異なるスケールで比較する場合に使用します。下図の例は、各製品の売上数量と売上高を示した 2 軸グラフです。



XY プロットグラフ

トピックス

XY プロットグラフタイプ

XY プロットグラフは、複数のデータシリーズの数値間の関係を表します。このグラフでは、X 値と Y 値がすべて 1 対 1 の関係にある 2 組の数値がポイントで表示されます。その結果、各ポイントは XY 座標で表されます。

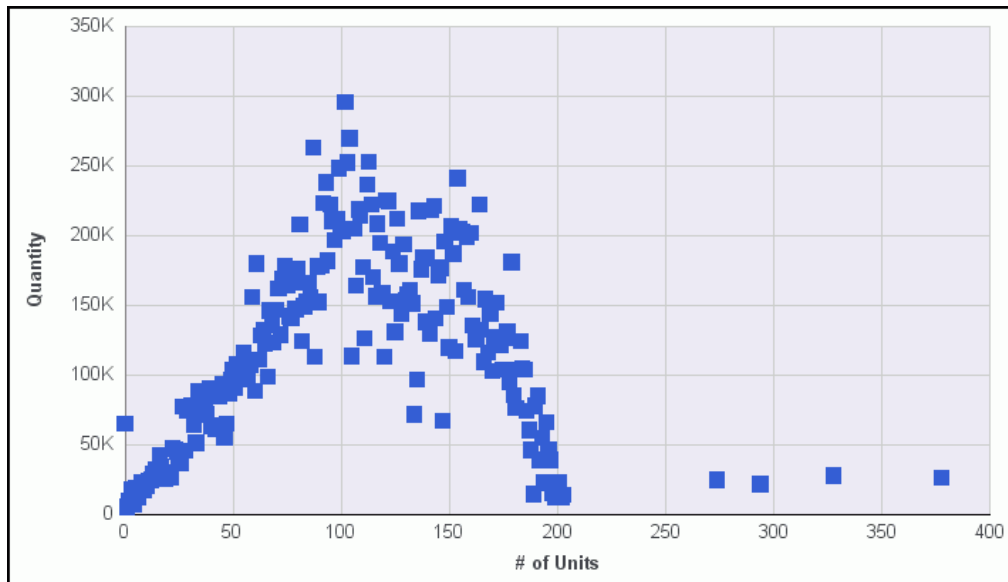
用途 XY プロットグラフは、比較する 2 組の数値があり、これらの数値の動向分析を行う場合に使用します。

- **散布図** 散布図は、X 値と Y 値の関係を表します。散布図は、2 組の数値を一度に比較し、そのパターンや傾向を明確にします。

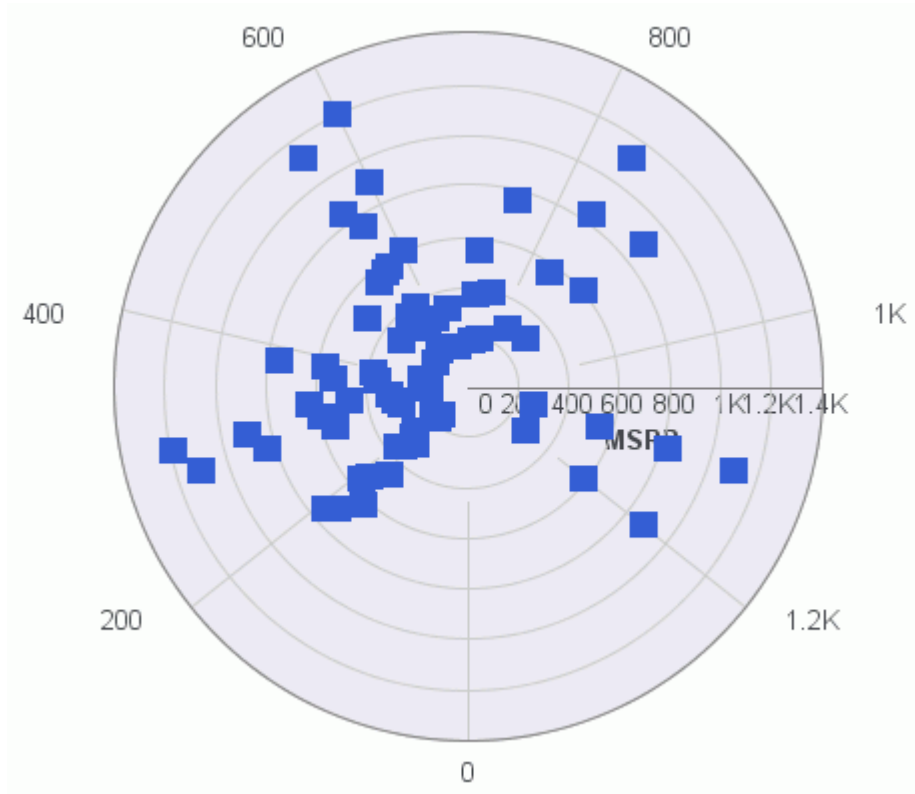
両軸上の変数スケールを使用して、データを表示することができます。散布図を使用すると、データは基本的な折れ線パターンを使用して表されるため、特定点の周囲でのデータ値の密集度や、データパターンの識別が可能です。デフォルト設定では、数値 X 軸、つまりソートフィールドからは、常に散布図が生成されます。

グラフに表示されたデータポイントが密集している場合、X 値と Y 値の相関性が高いことを示しています。データポイントが散在している場合、相関性が低い、または相関性がないことを示しています。

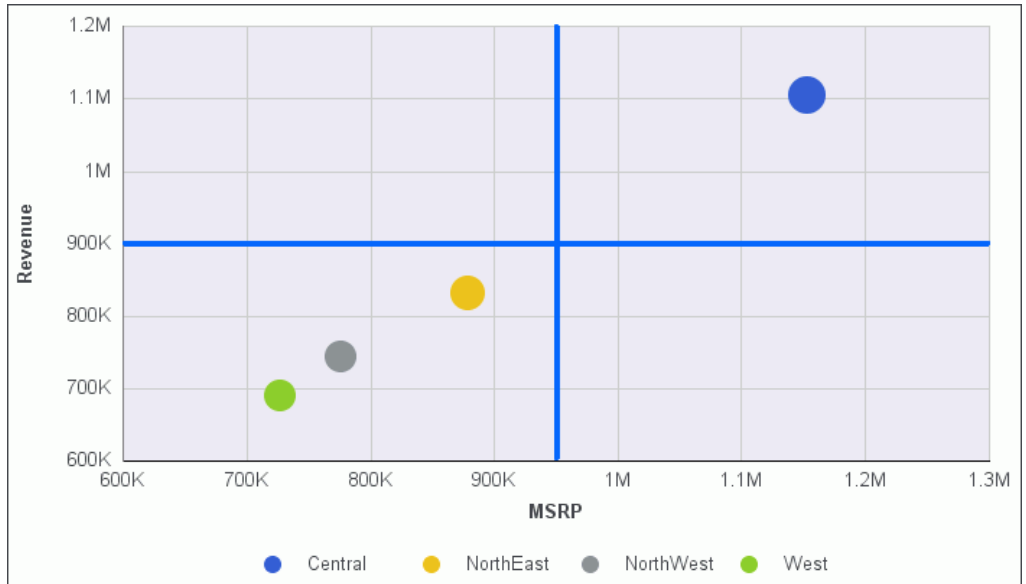
散布図には、折れ線グラフの特性と類似している点が多くあります。散布図および折れ線グラフは、X軸のフォーマットのみによって、識別することができます。折れ線グラフは、データ点を線で接続しなければ散布図のように表示され、散布図は、データ点を線で接続すれば折れ線グラフのように表示されます。



- **極** 極グラフは、円形のグラフです。極グラフでは、データは値と角度によって表されます。極グラフは、散布図の特性と類似しています。極グラフでは、1つの列フィールドのみを使用することができます。この場合、列フィールドに X (角度)、ACROSS フィールドまたは BY フィールドに Y (中心からの距離) をこの順序で指定します。



- **バブルグラフ** バブルグラフは、データポイントをバブルで表したグラフです。バブルグラフは、XとYのデータ値を表す2つのフィールドで構成することも、X、Y、Zのデータ値をこの順序で表す3つのフィールドで構成することもできます。3つ目の変数(Z)は、サイズを表します。各バブルのサイズは、データの相対的な重要度を表すために使用します。



XY プロットグラフタイプ

下表は、利用可能なXYプロットグラフタイプの一覧です。

利用可能なXYプロットグラフタイプ	
散布図	極グラフ
バブル	

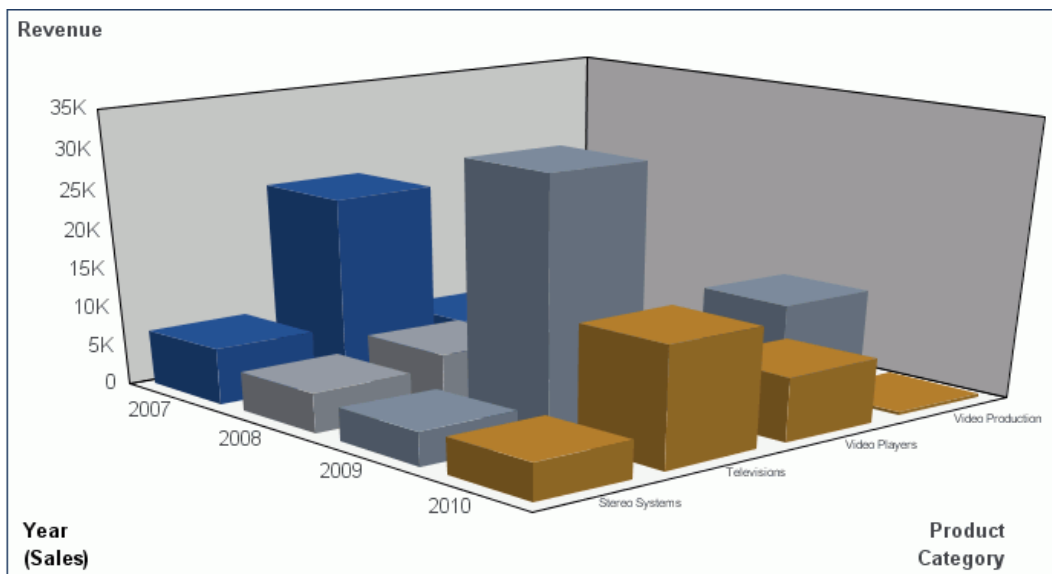
3D グラフ

トピックス

3D グラフのタイプ

3D グラフは、X、Y、Z の 3 つの軸を使用して、2 つ以上のデータセットのデータを表示します。これにより、データの傾向がより明確になります。下図の例は、4 つの製品の売上高を年度別に示した 3D グラフです。

用途 3D 棒 (角柱) グラフは、データの全体像を表示するとともに、グラフの外観に視覚的な奥行きを追加する場合に使用します。3D グラフは、グラフ内の値の判読が困難なため、正確な値の表示には適していません。



3D グラフのタイプ

下表は、使用可能な 3D グラフタイプの一覧です。

3D グラフのタイプ	
角柱	3D ピラミッド (HTML5 では使用不可)
八角柱 (HTML5 では使用不可)	円柱 (HTML5 では使用不可)

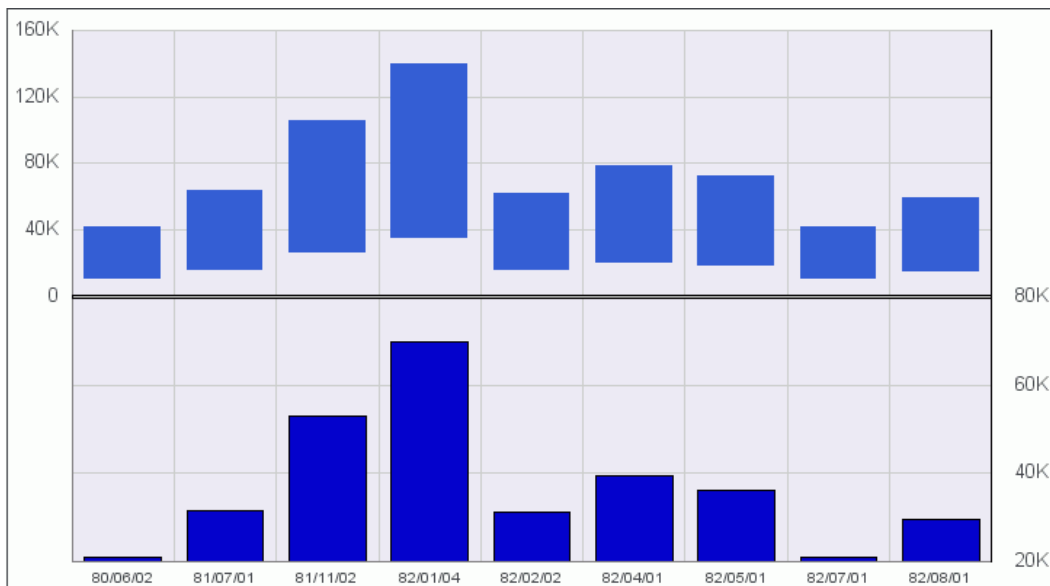
3D グラフのタイプ	
浮遊キューブ (HTML5 では使用不可)	浮遊ピラミッド (HTML5 では使用不可)
3D 連続シリーズ面	3D 連続シリーズリボン
3D 連続グループ面	3D 連続グループリボン
3D 円錐 (HTML5 では使用不可)	3D バブル (HTML5 では使用不可)
3D 表面	3D 側面付き表面 (HTML5 では使用不可)
滑らかな等高線 (HTML5 では使用不可)	滑らかな等高線 (側面あり) (HTML5 では使用不可)
3D 格子状 (HTML5 では使用不可)	

株価グラフ

トピックス

株価グラフのタイプ

株価グラフは、特定の株価のトレンドを追跡する際に使用します。株価の出来高、始値と終値、特定期間内の上値と底値が表示されます。データは棒および折れ線 (またはそのいずれか) によって表現されます。



株価グラフのタイプ

下表は、使用可能な株価グラフタイプの一覧です。

株価グラフのタイプ	
株価 Hi-Lo (HTML5 では使用不可)	出来高付き株価 Hi-Lo (HTML5 では使用不可)
株価 Hi-Lo Open-Close (HTML5 では使用不可)	出来高付き株価 Hi-Lo Open-Close (HTML5 では使用不可)

株価グラフのタイプ	
株価 (ロウソク)	出来高付き株価 (ロウソク) (HTML5 では使用不可)

その他のグラフ

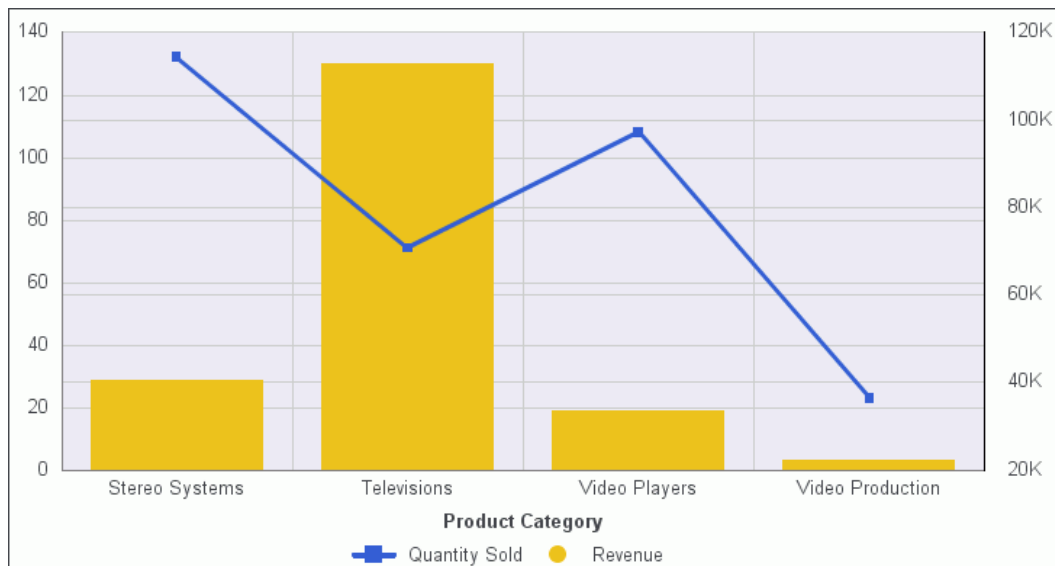
その他のグラフには、さまざまな追加のグラフタイプが含まれています。

- **メータ** メータグラフは、所定の範囲に単一データ値の現在の位置を示します。このグラフは、円形のグラフです。
- **温度計** 温度計グラフは、所定の目盛り範囲に単一データ値の現在の位置を示します。温度計型のグラフです。このグラフは HTML5 では使用できません。
- **パレート** パレートグラフでは、X軸の目盛りがグループのメンバーを、Y軸の目盛りが各グループが属するグループすべての総計に対するパーセント値を、それぞれ表します。データグループごとの差異を強調します。
- **縦方向ボックスプロット** 縦方向ボックスプロットは、垂直ボックスプロットで、上限値、上側四分位数、中央値、下側四分位数、下限値の 5 つの数値で、データの分布を示します。このグラフは「ウイスカ」とも呼ばれる異常値を追加または除外して表示することができます。
- **横方向ボックスプロット** 横方向ボックスプロットは、水平ボックスプロットで、上限値、上側四分位数、中央値、下側四分位数、下限値の 5 つの数値で、データの分布を示します。このグラフは「ウイスカ」とも呼ばれる異常値を追加または除外して表示することができます。
- **じょうご** じょうごグラフは、円グラフと類似し、最初のシリーズから最後のシリーズまでの 1 グループのデータのみをじょうごの下部に一度に表示します。
- **ピラミッド** ピラミッドグラフは、円グラフと類似し、最初のシリーズから最後のシリーズまでの 1 グループのデータのみをピボットの下部に一度に表示します。
- **ブロック地図** ブロック地図グラフは、行と列のマトリックスマーカーで構成され、マーカーがデータ値に応じて色分けされます。

複合グラフ

複合グラフは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのうち、2つ以上の異なるグラフタイプを使用して複数のシリーズを表示したグラフです。これらのグラフを組み合わせることで、表示されたデータの意味が明確になり、1つのグラフでさまざまなデータセットの関係が強調されます。この複合グラフは、混合グラフ、合成グラフ、重ね合わせグラフとも呼ばれます。

用途 たとえば、販売店で売上高を表示する棒グラフと、売上数量を表示する折れ線グラフを統合する場合に使用します。



マップ

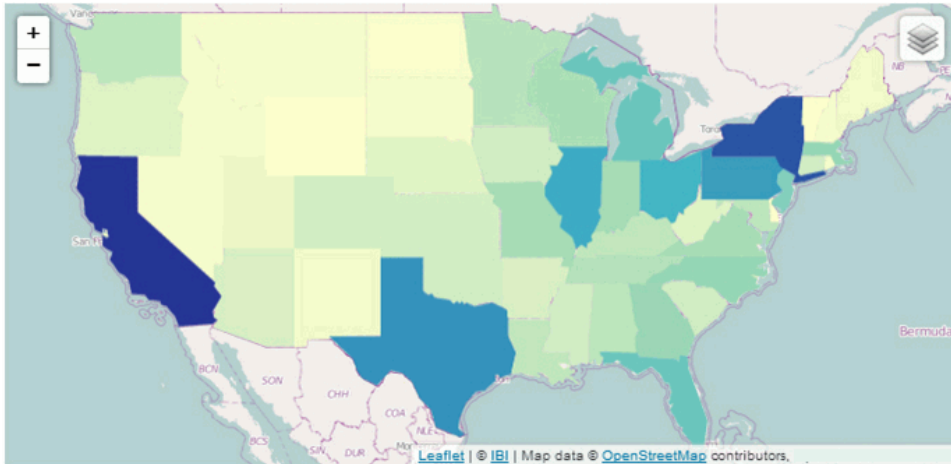
地図機能を使用して、関連するデータを地域的に表示することができます。付属の地理情報システム (GIS) 機能を使用すると、データ値を地図に変換し、パターンや傾向をグラフ化することができます。具体的には、州、国、郵便番号など、位置情報に関連付けられたデータを、マップビューアに統合されたシンボルレイヤとして表示することができます。この地図機能は、バブルマーカーやヒートマップ (コロプレス) など、使用頻度の高いさまざまなフォーマットをサポートします。地図フォーマットには、次のものがあります。

- **コロプレス** 地理情報に基づくヒートマップです。このグラフは、位置に基づくデータ、傾向、地域分布のグラフ化に役立ちます。

- **プロポーショナルシンボル (バブル)** サイズの異なるシンボルで、地域や位置それぞれに関連するデータを表示します。

地図の作成についての詳細は、173 ページの「[地図を作成するには](#)」を参照してください。

下図は、生成可能な地図タイプの一例を示しています。



地図作成アーキテクチャは、ズーム、パン、縮尺コントロールを備えた HTML5 マップビューアを提供します。また、9段階のズームを備えたマップサーバも含まれています。

注意：地図上のプラス (+) とマイナス (-) の符号を使用して、別の領域を拡大縮小することができます。また、左マウスボタンを使用して、拡大することもできます。

すべての HTML5 グラフ化機能と同様、地図上で選択されたマーカーおよび領域でのドリルダウン、マルチドリルダウン、ツールヒント情報がサポートされます。

用途：地図機能は、ビジネスユーザの情報に基づく意思決定を支援します。また、データの位置情報に関連するパターン、傾向、関係をグラフ化することもできます。

グラフの作成

トピックス

グラフ出力

手順/構文

基本グラフを作成するには

詳細グラフを作成するには

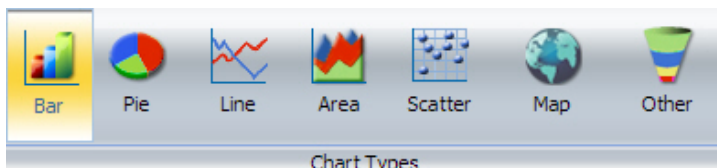
複合グラフを作成するには

2 軸グラフを作成するには

複数軸グラフを作成するには

地図を作成するには

[フォーマット](Format) タブの [グラフ](Chart Types) グループには、最も使用頻度の高い 5 つのグラフタイプのボタンが用意されています。下図のように、[棒](Bar) (デフォルト設定)、[円](Pie)、[折れ線](Line)、[エリア](Area)、[散布図](Scatter) ボタンがあります。また、[マップ](Map) ボタンを使用して、地図作成機能にアクセスすることができます。[その他](Other) ボタンをクリックすると、詳細グラフのグラフライブラリが表示されます。



注意：InfoAssist の各バージョンの開始方法についての詳細は、「[Getting Started With InfoAssist](#)」を参照してください。

手順

基本グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ](Query) または [ライブプレビュー](Live Preview) デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット](Format) タブの [グラフ](Chart Types) グループで、作成するグラフのボタンをクリックします。デフォルト設定では、棒グラフが選択されています。

作業領域にグラフが表示されます。

2. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。
 - データのディメンションおよび基軸をグラフ上にドラッグする。
 - データのディメンションおよび基軸を [クエリ] (Query) ウィンドウのフィールドコンテンツナにドラッグする。

手順

詳細グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ] (Query) または [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、[その他] (Other) をクリックします。

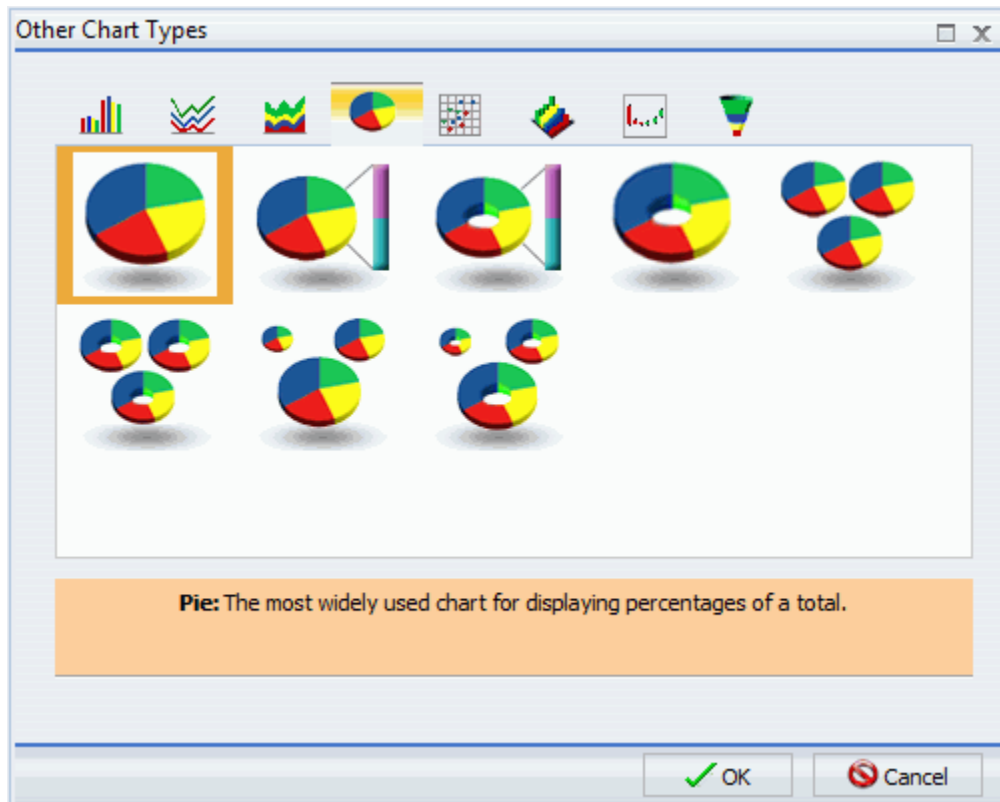
[その他のグラフタイプ] (Other Chart Types) ダイアログボックスが開きます。ダイアログボックス上部の各タブは、それぞれグラフタイプを表しています。
2. マウスポインタをタブ上に置くと、グラフタイプの名前が表示されます。

グラフタイプは、左から順に、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフ、円グラフ、XYプロットグラフ、3D グラフ、株価グラフ、その他のグラフです。
3. グラフタイプをクリックします。

グラフタイプでサポートされるすべてのバリエーションが、サムネイルイメージとして下部のエリアに表示されます。
4. カテゴリ内で、イメージの1つをクリックして、そのグラフタイプの詳細な説明を表示します。

グラフタイプの特性が不明な場合は、選択を確定する前に、この説明を必ず読んでください。グラフには、特定の数のデータ値や特定のタイプのデータ値が必要なものがあります。使用するデータが要件を満たさない場合は、グラフでデータを正確に表現することができません。

下図では、[円グラフ](Pie) タブが選択されています(左から4つ目のタブ)。タブの下側には、InfoAssist でサポートされる円グラフタイプがイメージとして表示されています。これらのイメージから特定の円グラフタイプを選択すると、説明が下部に表示されます。



下図のように、マウスポインタをイメージ上に置いて、グラフタイプ名を表示することもできます。



5. [その他のグラフタイプ] (Other Chart Types) ダイアログボックスで、[OK] をクリックして選択を確定し、ダイアログボックスを閉じます。
6. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。
 - データのディメンションおよび基軸をグラフ上にドラッグする。
 - データのディメンションおよび基軸を [クエリ] (Query) ウィンドウのフィールドコンテンツにドラッグする。

手順

複合グラフを作成するには

次の手順は、[クエリ] (Query) または [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューで実行することができます。

1. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、作成するグラフのボタンをクリックします。デフォルト設定では、棒グラフが選択されています。
作業領域にグラフが表示されます。
2. 次のいずれかの方法で、グラフにデータを挿入します。
 - データのディメンションおよび基軸をグラフ上にドラッグする。
 - データのディメンションおよび基軸を [クエリ] (Query) ウィンドウのフィールドコンテンツにドラッグする。
3. 次のいずれかの方法で、シリーズタイプを変更します。
 - **リボン** [シリーズ] (Series) タブの [選択] (Select) グループで、別のグラフタイプで表示するシリーズを選択します。次に、[プロパティ] (Properties) グループの [タイプ] (Type) ドロップダウンメニューから、グラフタイプを選択します。
 - **右クリックメニュー** 別のグラフタイプで表示するシリーズを右クリックし、[グラフタイプ] (Series Type) からグラフタイプを選択します。
選択したシリーズが新しいグラフタイプで表示されます。

手順

2軸グラフを作成するには

2軸グラフを作成する場合、1つのデータシリーズを Y1 軸に割り当て、別のデータシリーズを Y2 軸に割り当てます。

1. グラフを作成します。

2. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、[その他] (Other) をクリックします。
[その他のグラフタイプ] (Other Chart Types) ダイアログボックスが開きます。
3. 2 軸グラフ (例、2 軸棒グラフ) を選択し、[OK] をクリックします。
4. 1 つ目のフィールドを [Y1] フィールドにドラッグし、次に 2 つ目のフィールドを [Y2] フィールドにドラッグします。

手順

複数軸グラフを作成するには

複数軸グラフを作成する場合、1 つのデータシリーズを Y1 軸に割り当て、使用する軸数に応じて、別のデータシリーズを Y2、Y3、Y4、Y5 軸に割り当てます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、[その他] (Other) をクリックします。
[その他のグラフタイプ] (Other Chart Types) ダイアログボックスが開きます。
3. 複数軸グラフを選択し、[OK] をクリックします。
4. 使用する軸数に応じて、フィールドを [Y1]、[Y2]、[Y3]、[Y4]、[Y5] フィールドにドラッグします。

手順

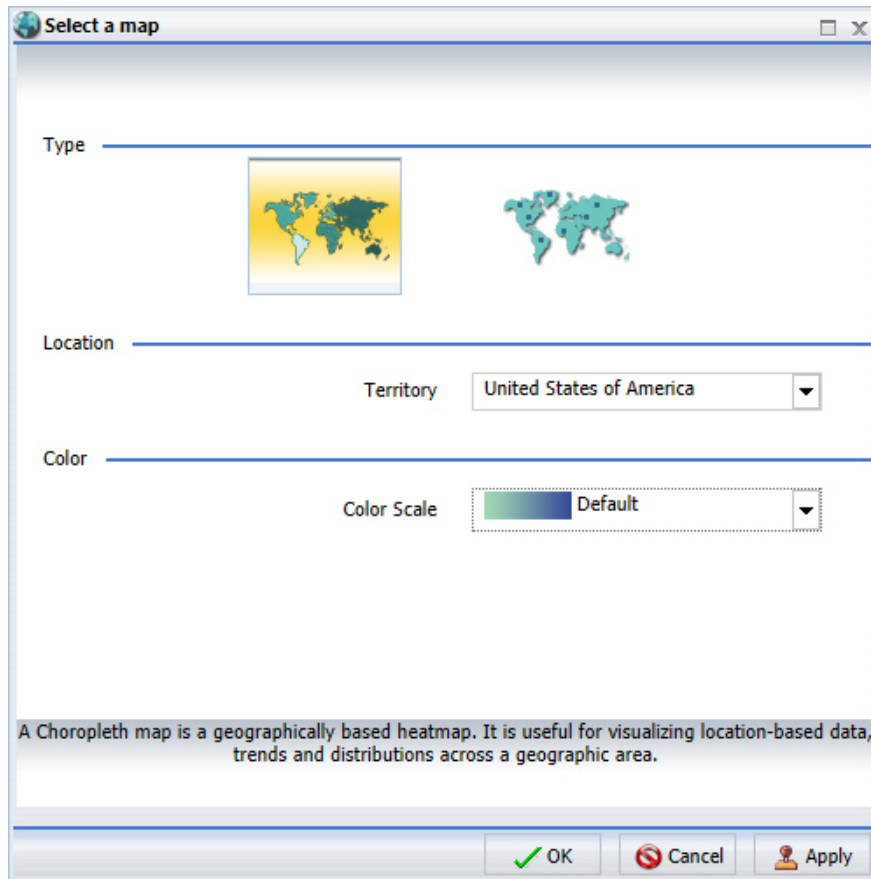
地図を作成するには

地図機能を使用して、InfoAssist で地図を作成することができます。

注意：この機能にアクセスするには、HTML5 出力フォーマットを選択する必要があります。

1. InfoAssist をグラフモードで起動します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、[マップ] (Map) をクリックします。

下図のように、[マップの選択] (Select a map) ダイアログボックスが表示されます。

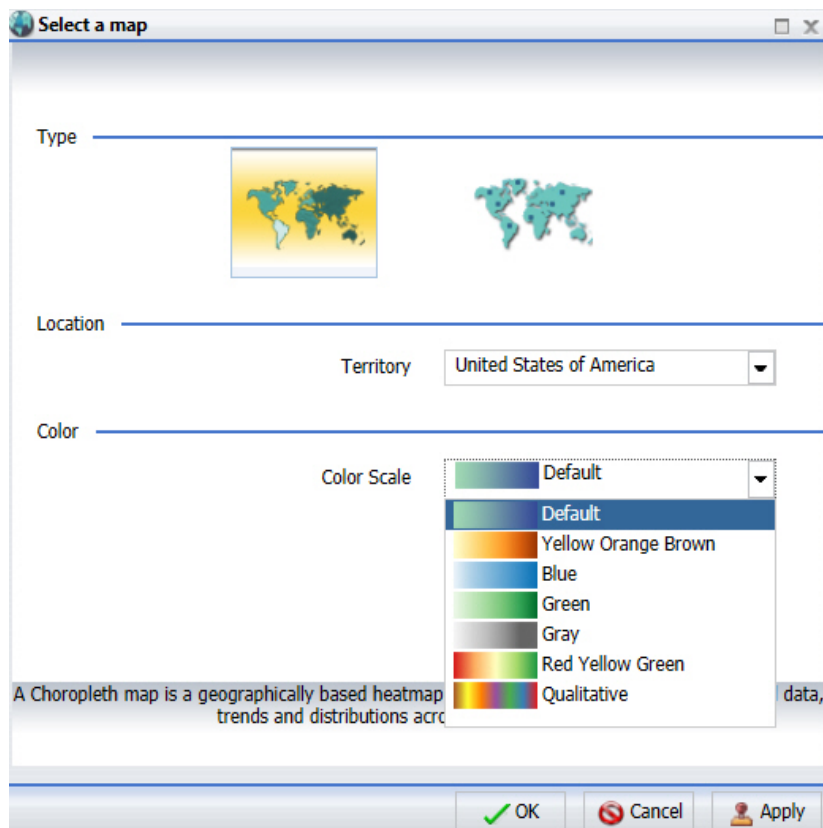


3. [タイプ] (Type) グループから [プロポーショナルシンボル (バブル)] (Proportional Symbol (Bubble)) を選択するか、デフォルト設定で選択されている [コロプレス] (Choropleth) を使用します。
4. [位置] (Location) グループの [地域] (Territory) ドロップダウンから地域 (例、アメリカ合衆国) を選択します。

注意：このセクションを使用して、地図を有効にする位置情報を選択することができます。ドロップダウンリストから地域を選択できます。たとえば、選択可能な地域には、[世界] (World)、[ヨーロッパ] (Europe)、[アメリカ合衆国] (United States) などがあります。

5. [色] グループの [色スケール] ドロップダウンリストから、色スケールを選択します。たとえば、[定性的] (Qualitative) を選択します。

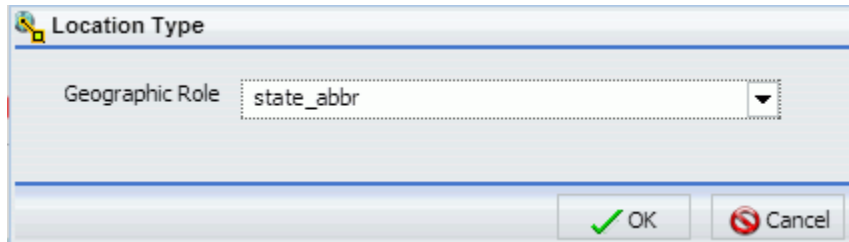
注意：下図のように、このセクションを使用して、コロプレスマップの色スケールを選択することができます。プロポーショナルシンボル (バブル) マップの場合は、色の選択オプションは無効になります。



6. [OK] をクリックします。
7. グラフに次のディメンションを追加します。
- a. 基軸 (例、Discount)
 - b. 位置フィールド (例、State)

下図のように、[ロケーションタイプ] ダイアログボックスが開きます。

注意：[ロケーションタイプ] (Location Type) は、特定の地理的ディメンション (例、郵便番号、州、国) にフィールドを割り当て、地図座標に正しく一致させるための、ジオコーディング処理が必要です。ジオコーディング処理は、地理フィールドを [位置] (Location) データコンテナに追加した時点で実行されます。

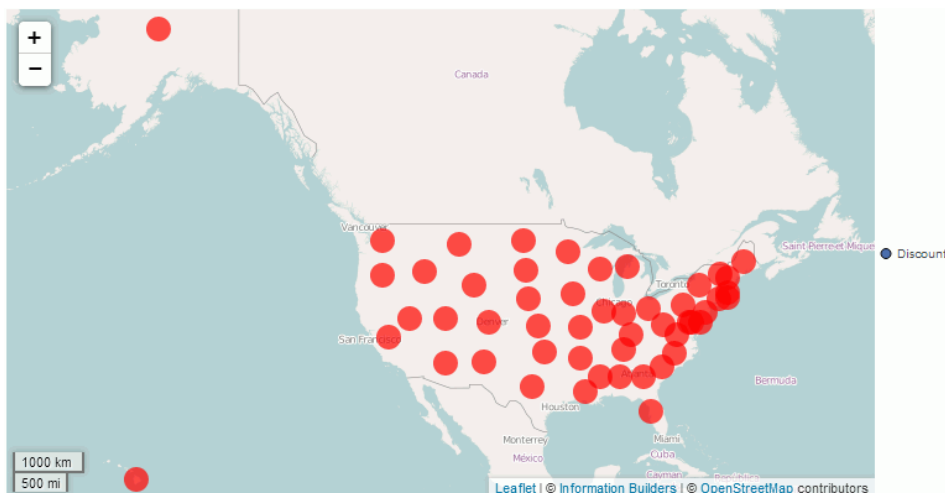


注意：[ロケーションタイプ] (Location Type) ダイアログボックスにアクセスするには、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [位置] (Location) ディメンションを右クリックすることもできます。メニューから、[地理上の役割] (Geographic Role) を選択します。ロケーションタイプを選択するための [ロケーションタイプ] (Location Type) ダイアログボックスが開きます。

8. [地理上の役割] (Geographic Role) ドロップダウンリストから、[state_name] を選択します。
9. [OK] をクリックします。

[タイプ] (Type)、[位置] (Location)、[色] (Color) に基づいて、地図が表示されます。

たとえば、次の地図には、プロポーショナルシンボルマップを使用して、アメリカ合衆国の州別値引きデータに関する位置データが表示されています。



グラフ出力

グラフは、次のいずれかの出力フォーマットで作成することができます。

- HTML
- HTML (デフォルト)
- active report
- active Flash
- PDF
- active PDF
- Excel
- PowerPoint

HTML5 出力では、ビルトインの JavaScript エンジンを使用して、グラフをブラウザに表示することができます。この出力フォーマットのグラフでは、アニメーション、高品質ベクタ出力、アルファチャンネル、グラデーション効果など、HTML5 Web 標準の最新の機能を活用することができます。

注意：グラフタイプによっては、上記のフォーマットで出力できないものもあります。作成するグラフを目的のフォーマットで出力できることを確認するには、そのグラフタイプのトピックを参照してください。

グラフフォーマットツールへのアクセス

トピックス

グラフ要素の識別

ライブプレビューの使用

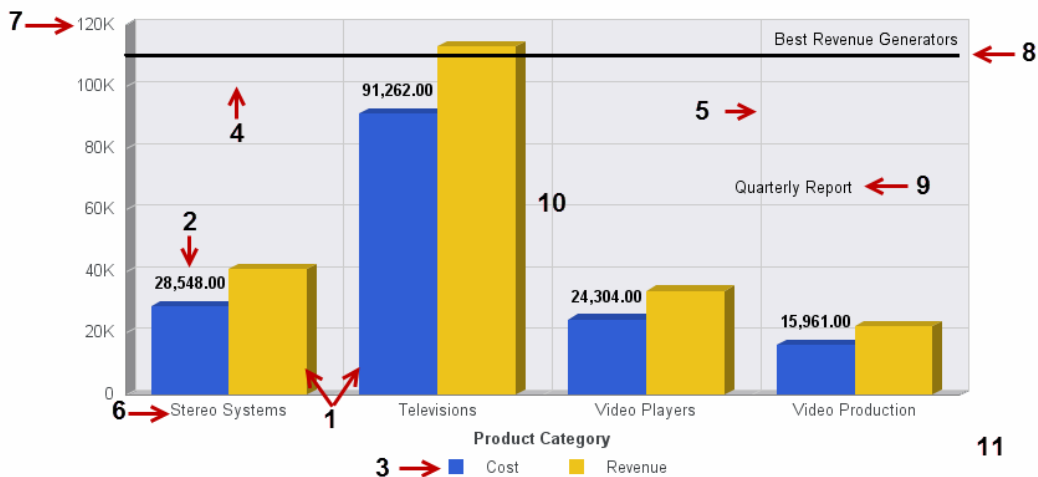
クエリデザインウィンドウでの右クリックフィールドオプションの使用

データをグラフ化する目的は、意図したメッセージを対象者に伝えることです。InfoAssistのさまざまなグラフ機能を使用して、対象者のニーズに応え、メッセージを伝えることができます。たとえば、グラフの表示方法の変更、情報レイヤの追加、グラフ上のデータを識別するラベルのカスタマイズなどが可能です。

グラフ要素の識別

下図は、グラフ上でカスタマイズが可能な基本的な要素を示しています。この図で注釈が付けられている要素は、縦棒グラフで使用される要素です。使用可能な要素および各要素の右クリックメニューオプションは、作成するグラフタイプによって異なります。

注意：デフォルト設定では、3D 表示は無効になっています。下図では、グラフの外観を強調するために 3D 表示が有効にされています。3D オプションにアクセスするには、[フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[3D 表示] (3D Effect) をクリックします。

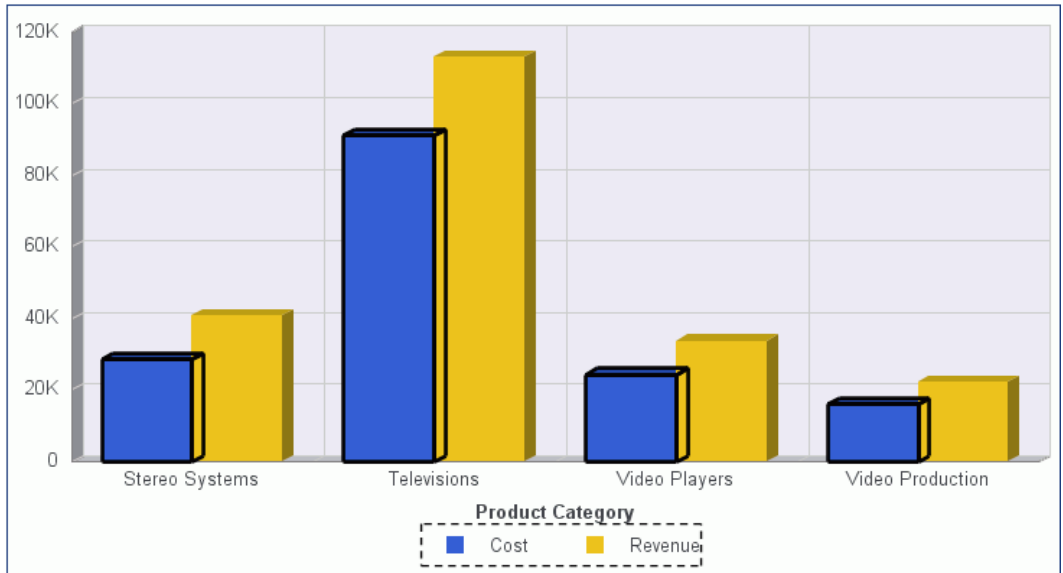


1. シリーズ
2. データラベル
3. 凡例
4. 横罫線
5. 縦罫線
6. X 軸ラベル
7. Y 軸ラベル
8. 参照線
9. 注釈
10. フレーム
11. 背景

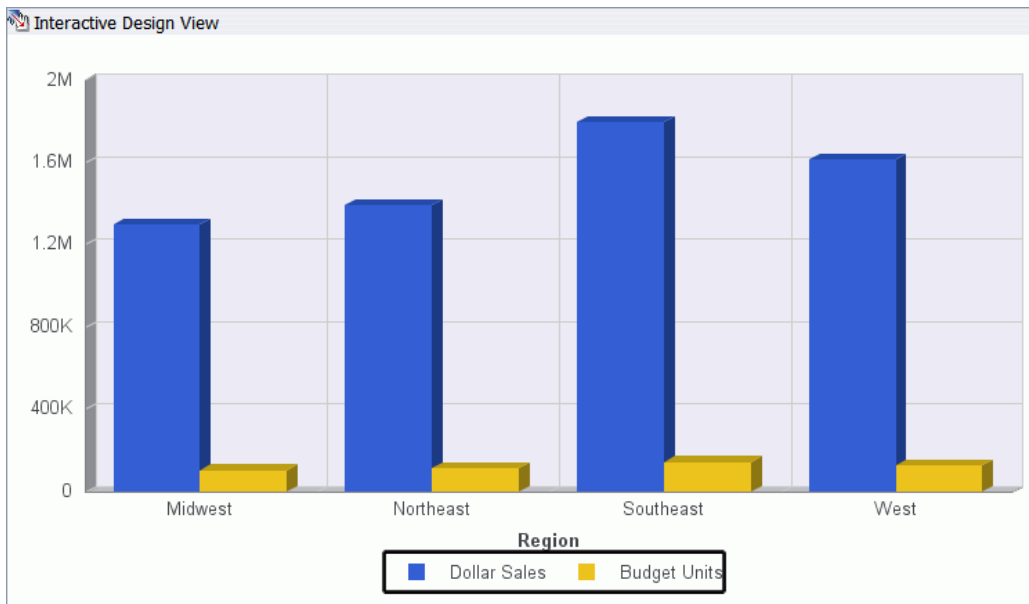
ライブプレビューの使用

[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでは、ウィンドウ右側の作業領域に、作成中のレポートまたはグラフのプレビューが表示されます。これは、状況依存のプレビューです。つまり、選択した要素に応じて使用可能なオプションが異なります。

[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでは、グラフ要素 (例、凡例、軸ラベル、タイトル) の上にマウスポインタを置くと、境界エリアが点線でハイライト表示されます。下図では、凡例がハイライト表示されています。

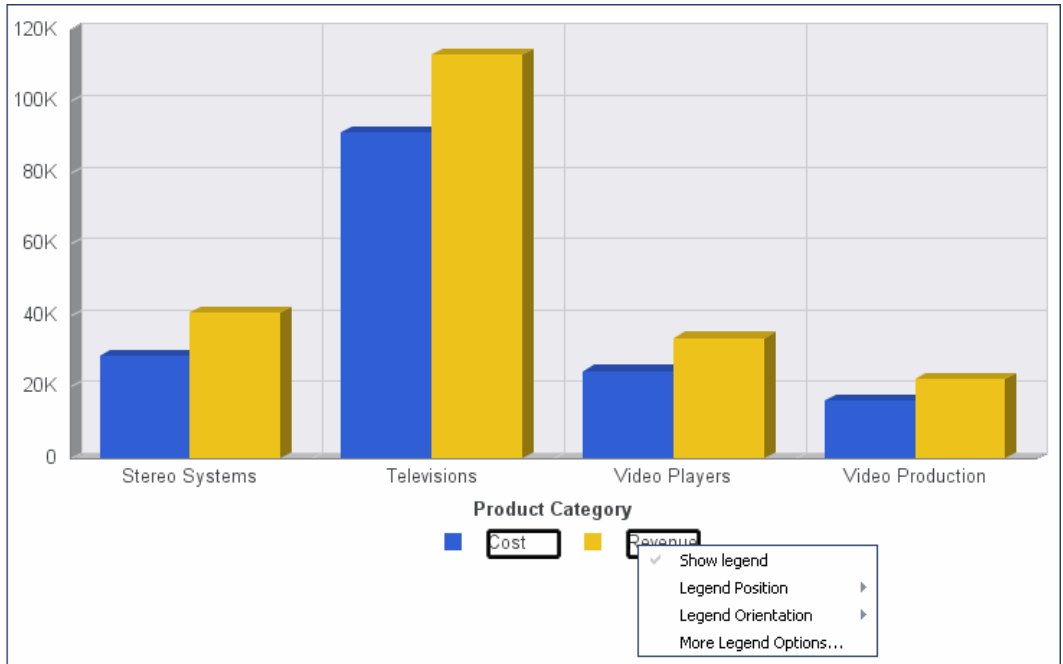


[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでは、グラフ要素 (例、凡例、軸ラベル、タイトル) を選択すると、境界エリアが実線でハイライト表示されます。下図では、凡例が選択されています。



グラフ要素を選択すると、リボン上で使用可能なすべてのデザインオプションにアクセスすることができます。また、要素を右クリックして、よく使用するデザインオプションのメニューを開くこともできます。リボンまたはメニューからデザインオプションを選択すると、そのオプションがグラフ要素に即座に適用され、結果に直接反映されます。

下図は、[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでの棒グラフのライブプレビューを示しています。この例では、シリーズ (フィールド) 要素の右クリックメニューが開いています。



右クリックメニューは、使用するデータソースのサンプルデータ、ライブデータのどちらで生成されたグラフでも有効になります。

ここでは、[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでグラフをデザインする際に使用可能なグラフ要素、リボンオプション、右クリックメニューについて説明します。

クエリデザインウィンドウでの右クリックフィールドオプションの使用

[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウでは、任意のフィールドを右クリックし、表示されたメニューからオプションを選択することができます。選択可能なオプションは、フィールドが格納されているクエリフィールドコンテナのタイプと、作成するグラフのタイプによって異なります。

グラフを作成する場合、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウの [クエリ] (Query) フィールドコンテナには、[基軸 (SUM)] (Measure (Sum))、[X 軸] (X Axis)、[凡例 (シリーズ)] (Legend (Series))、[複数グラフ] (Multi-graph)、[複数レポート/グラフ] (Coordinated) (レイアウトの場合) が表示されます。

グラフの [基軸 (SUM)] (Measure (Sum)) フィールドを右クリックすると、[フィルタ] (Filter Values)、[ソート] (Sort)、[表示] (Visibility)、[タイトルの変更] (Change Title)、[詳細] (More)、[削除] (Delete) オプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[集計関数] (Aggregation Functions)、[条件付きスタイル設定] (Traffic Light Conditions)、[ミッシング] (Missing) のオプションにアクセスすることができます。

グラフの [X 軸] (X Axis) または [凡例 (シリーズ)] (Legend (Series)) フィールドを右クリックすると、[フィルタ] (Filter Values)、[ソート] (Sort)、[表示] (Visibility)、[タイトルの変更] (Change Title)、[削除] (Delete)、[詳細] (More) オプションが表示されます。[詳細] (More) オプションからは、[ミッシング] (Missing) オプションにアクセスすることができます。

グラフで [複数レポート/グラフ] (Coordinated) フィールドまたは [複数グラフ] (Multi-graph) フィールドを右クリックした場合は、[削除] (Delete) オプションのみが表示されます。

詳細は、112 ページの「[クエリデザインウィンドウでの右クリックフィールドオプションの使用](#)」を参照してください。

シリーズのフォーマット設定

トピックス

関連するダイアログボックス

シリーズ要素の右クリックメニュー

シリーズプロパティの使用

シリーズは、グラフに含めるフィールド (基軸フィールド) です。シリーズのフォーマットは、さまざまな方法で設定することができます。たとえば、シリーズ色の変更、シリーズへの傾向線の追加、シリーズマーカーの外観の変更などを行えます。

[シリーズ] (Series) タブおよび [フィールド] (Field) タブから、すべてのフォーマットオプションにアクセスすることができます。詳細は、97 ページの「[シリーズタブ](#)」および 88 ページの「[フィールドタブ](#)」を参照してください。

また、グラフのシリーズ要素を右クリックし、オプションのメニューを開くことで、よく使用する一連のオプションにアクセスすることもできます。

ヒント：メニューに表示されるオプションは、作成中のグラフのタイプによって異なります。たとえば、[グラフタイプ] (Series Type) オプションは、円グラフのメニューに表示されませんが、棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフのメニューには表示されます。

関連するダイアログボックス

トピックス

- シリーズフォーマットダイアログボックス
- タイトルの編集ダイアログボックス
- 条件付きスタイルルールダイアログボックス

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用してシリーズオプションにアクセスすると、ダイアログボックスが表示されます。シリーズのフォーマット設定でよく使用するダイアログボックスには、次のものがあります。

- シリーズフォーマット (Format Series)
- タイトルの編集 (Edit Title)
- 条件付きスタイルルール (Traffic Light Condition)

これらのダイアログボックスを開く方法についての詳細は、195 ページの「[シリーズプロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

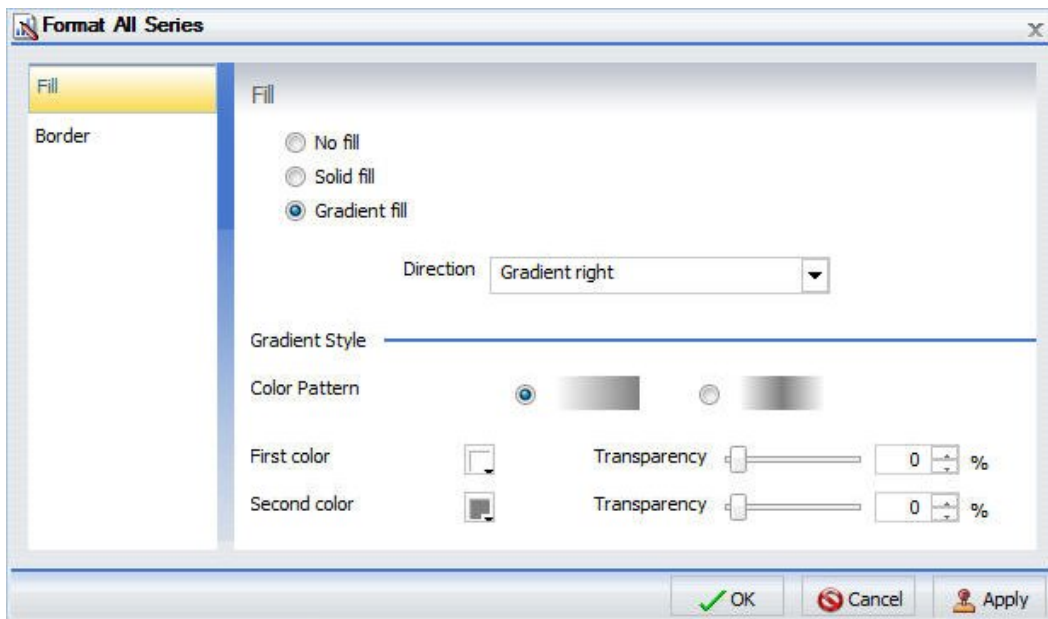
シリーズフォーマットダイアログボックス

[シリーズフォーマット](Format Series) ダイアログボックスには、グラフの各シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するオプションが表示されます。

[シリーズフォーマット](Format Series) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 塗りつぶし (Fill)
- 境界 (Border)

[塗りつぶし] (Fill) タブでは、グラフシリーズの色を変更します。下図は、[塗りつぶし] (Fill) タブを示しています。

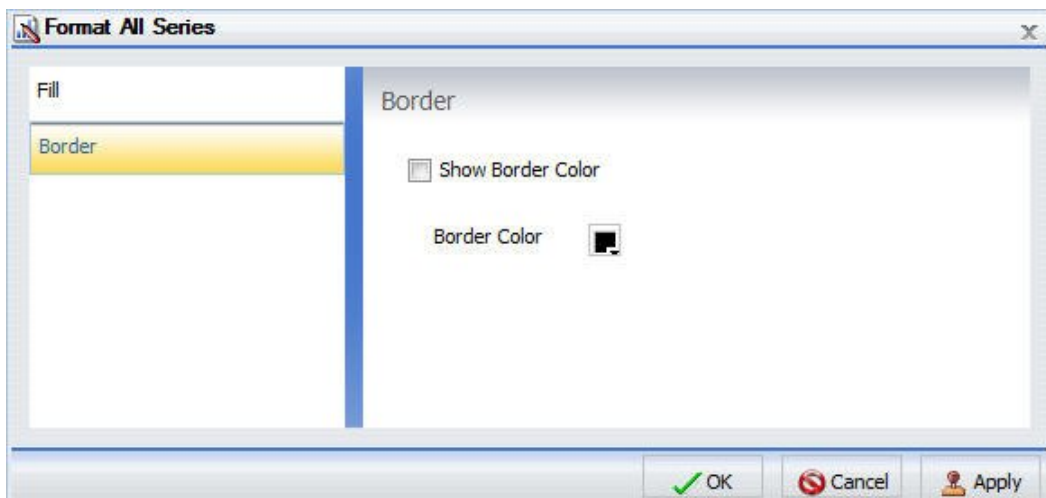


[塗りつぶし] (Fill) タブには、次のオプションがあります。

- **塗りつぶしなし (No fill)** このオプションを選択して、シリーズから色を削除します。
- **単色 (Solid fill)** このオプションを選択して、[色] (Color) および [透明度] (Transparency) オプションを表示します。
 - **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、シリーズの色を選択します。
 - **透明度 (Transparency)** スライダーを移動して、透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
- **グラデーション (Gradient fill)** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
 - **方向 (Direction)** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。次のオプションがあります。

- グラデーション - 右 (Gradient right)
- グラデーション - 左 (Gradient left)
- グラデーション - 下 (Gradient down)
- グラデーション - 上 (Gradient up)
- グラデーション - 下左 (Gradient down left)
- グラデーション - 上左 (Gradient up left)
- グラデーション - 下右 (Gradient down right)
- グラデーション - 上右 (Gradient up right)
- 放射状 (Radial)
- 放射状 - 上左 (Radial top left)
- 放射状 - 上右 (Radial top right)
- 放射状 - 下左 (Radial bottom left)
- 放射状 - 下右 (Radial bottom right)
- 放射状円 (Radial pie)
- 放射状円 (反転) (Radial pie inverted)

[境界] (Border) タブでは、グラフシリーズの境界を指定します。下図は、[境界] (Border) タブを示しています。

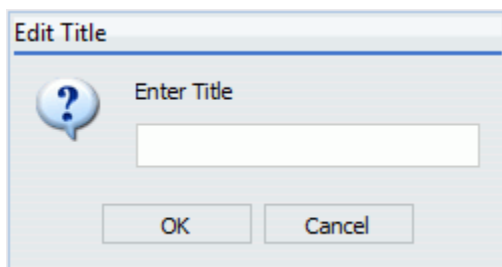


[境界] (Border) タブには、次のオプションがあります。

- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、各シリーズの周囲に境界を表示します。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、境界の色を選択します。

タイトルの編集ダイアログボックス

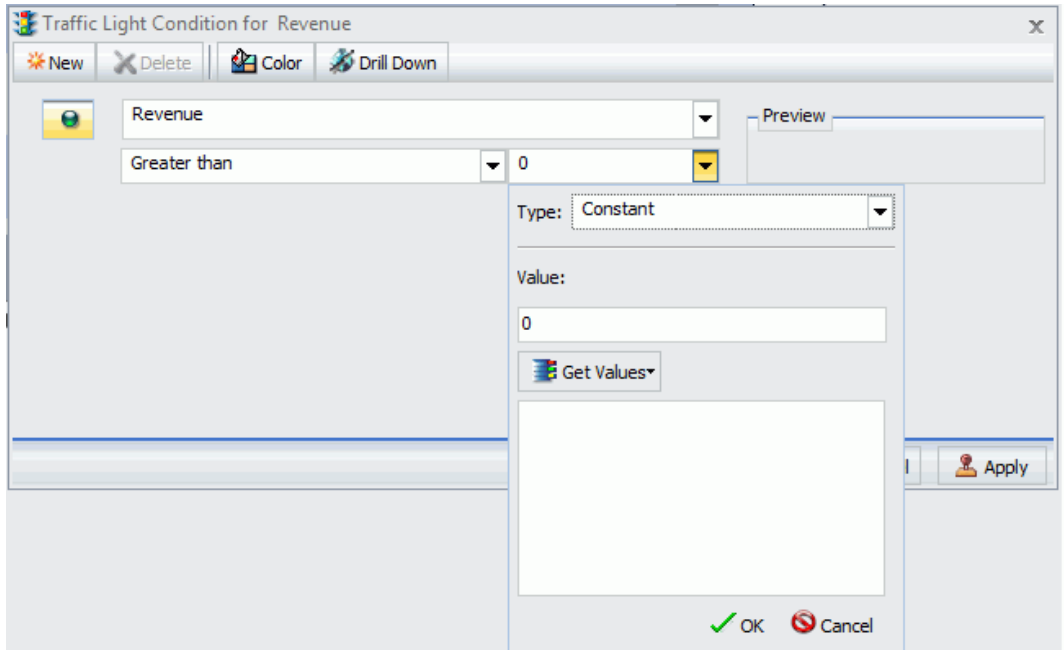
[タイトルの編集] (Edit Title) ダイアログボックスには、グラフのシリーズタイトルを入力するテキストボックスが表示されます。[OK] をクリックすると、入力したタイトルがグラフに表示されます。



条件付きスタイルルールダイアログボックス

[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスでは、新しい条件付きスタイルを追加したり、既存の条件付きスタイルを変更したりして、選択したフィールドに条件付きスタイル色を適用することができます。

下図は、[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを示しています。

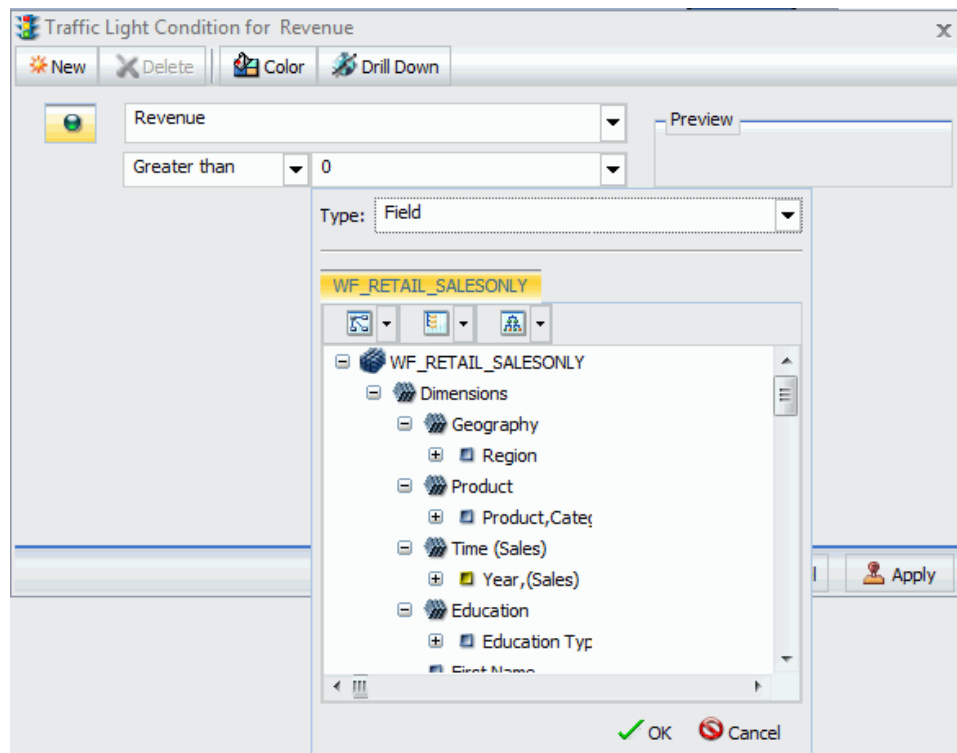


[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスには、次のテキストボックスが表示されます。

- **関係演算子** このドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。次のオプションがあります。
 - 等しい (Equal to)
 - 等しくない (Not equal to)
 - より大きい (Greater than)
 - より小さい (Less than)
 - 以上 (Greater than or equal to)
 - 以下 (Less than or equal to)
- **タイプ/値 (Type/Value)** このテキストボックス (ラベルなし) をクリックしてダイアログボックスを開き、次のオプションを表示します。

- **タイプ (Type)** ドロップダウンメニューから、[定数] (Constant) または [フィールド] (Field) を選択します。[定数] (Constant) を選択して、定数値を入力します。[フィールド] (Field) を選択して、データソース内のフィールドを一覧表示します。
- **値の取得 (Get Values)** このドロップダウンメニューからオプションを選択します。次のオプションがあります。
 - すべて (All)
 - 最初 (First)
 - 最後 (Last)
 - 最小 (Minimum)
 - 最大 (Maximum)
 - ファイルから (From File)

下図は、フィールドの一覧表示を示しています。



[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスには、次のボタンが表示されます。

- **選択した条件 (Selected Condition)** このアイコンをクリックして、設定対象の条件を選択します。
- **新規作成 (New)** 新しいルールを作成します。
- **削除 (Delete)** ルールを削除します。
- **色 (Color)** [色] (Color) ダイアログボックスを開きます。
- **ドリルダウン (Drill Down)** 下図のように [ドリルダウン] (Drill Down) ダイアログボックスを開いて、Web ページ (URL) またはレポートへのドリルダウンを指定することができます。次のオプションを指定します。
 - Web ページの URL またはレポートのパス
 - 代替コメント
 - ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ、ユーザ入力値)

- 使用するパラメータ (名前、値)

Drill Down

Web Page Report

URL

Alternate comment

Target

New Window

Parameters

Name	Value

OK Delete this drilldown Cancel

シリーズ要素の右クリックメニュー

グラフ上でシリーズを右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。このメニューには、[フィールド] (Field) タブおよび [シリーズ] (Series) タブで選択可能なオプションが含まれています。

下表は、これらのメニューオプションの説明です。説明内のリンクを使用して、このマニュアルに記載された各メニューオプションのセクションに移動することもできます。

オプション	説明
フィルタ (Filter Values)	<p>[フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを使用して、WHERE ステートメントを作成、変更することができます。WHERE ステートメントでは、表示するデータのみを選択し、不要なデータを除外します。</p> <p>データにフィルタを設定する方法についての詳細は、60 ページの「データタブ」および88 ページの「フィールドタブ」を参照してください。</p>
ソート (Sort)	<p>シリーズを昇順または降順にソートすることができます。</p>
表示 (Visibility)	<p>グラフで、選択したシリーズ (フィールド) の表示を制御します。[非表示] (Hide) を選択すると、シリーズは非表示になります。デフォルト設定は [表示] (Show) で、シリーズが表示されます。</p> <p>詳細は、211 ページの「シリーズのフィールドを非表示にするには」を参照してください。</p>
タイトルの変更 (Change Title)	<p>選択したシリーズのタイトルを編集することができます。[タイトルの編集] (Edit Title) ダイアログボックスの [タイトルを入力してください] (Enter Title) テキストボックスに新しいタイトルを入力し、[OK] をクリックします。</p> <p>詳細は、219 ページの「シリーズのタイトルを変更するには」を参照してください。</p>
グラフタイプ (Series Type)	<p>選択したシリーズのグラフタイプを、[棒グラフ] (Bar)、[折れ線グラフ] (Line)、[面グラフ] (Area) のいずれかに変更します。[なし] (None) (デフォルト) を選択すると、変更前に選択されていたグラフタイプに戻ります。このオプションは、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフにのみ適用されます。</p> <p>詳細は、196 ページの「シリーズのグラフタイプを変更するには」を参照してください。</p>
シリーズ色 (Series Color)	<p>[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、選択したシリーズの色を指定することができます。詳細は、44 ページの「色ダイアログボックス」を参照してください。</p>

オプション	説明
スタイル詳細オプション (More Style Options)	[シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスを開きます。詳細は、184 ページの「 シリーズフォーマットダイアログボックス 」を参照してください。
データラベル	<p>選択したシリーズのデータラベル(値)の表示を制御します。デフォルト設定の [非表示] (Hide) では、ラベルが非表示になり、[表示] (Show) に設定するとラベルが表示されます。</p> <p>このオプションは、温度計グラフには適用されません。</p> <p>詳細は、236 ページの「データラベルの表示と非表示を切り替えるには」を参照してください。</p>
色モード	<p>グラフのシリーズ (基軸フィールド) への色の適用方法を制御します。設定の選択肢には、[シリーズ] (By Series) (デフォルト設定) と [グループ] (By Group) があります。たとえば、1つのシリーズのみで構成される棒グラフについて考察します。[シリーズ] (Series) を選択すると、シリーズ内の棒すべてに同一色が適用されます。[グループ] (Group) を選択すると、各棒に異なる色が適用されます。</p> <p>詳細は、220 ページの「色モードを制御するには」を参照してください。</p>
傾向線の追加 (Add Trendline)	<p>統計的傾向を示す線をグラフに追加します。</p> <p>このオプションは、円、じょうご、3D、温度計、株価グラフには適用されません。</p> <p>傾向線を含むグラフの例は、197 ページの「傾向線を追加するには」を参照してください。</p>

オプション	説明
<p>詳細 (More)</p>	<p>集計関数、条件付きスタイルルール、ミッシングのオプションがあります。</p> <p>レポートの数値フィールドに、集計値を割り当てます。詳細は、212 ページの「基軸の集計を表示するには」を参照してください。</p> <p>設定した条件によって、出力の数値フィールド色を指定することができます。[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを使用して、条件と色を指定することができます。</p> <p>詳細は、214 ページの「ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値基軸フィールドに適用するには (定数の使用)」および 217 ページの「ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値基軸フィールドに適用するには (フィールドの使用)」を参照してください。</p> <p>値が存在しないフィールドを表示または非表示にすることができます。</p>
<p>削除 (Delete)</p>	<p>選択したシリーズをレポートから削除し、ライブプレビューを更新します。</p>

シリーズプロパティの使用

トピックス

- シリーズタブの選択グループ
- シリーズタブのスタイルグループ
- シリーズタブのプロパティグループ
- シリーズタブの折れ線グループ
- シリーズタブの円グループ
- シリーズタブの表示グループ
- フィールドタブのフィルタグループ
- フィールドタブのソートグループ
- フィールドタブの表示グループ

ここでは、シリーズをカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

シリーズタブの選択グループ

[選択] (Select) グループには、特定の基軸フィールドを選択するドロップダウンメニューが表示されます。[シリーズ] (Series) タブで使用可能な一部のオプションは、ここで選択した基軸フィールドに適用されます。

手順

シリーズを選択するには

1. グラフを作成します。
2. [シリーズ] (Series) タブの [選択] (Select) グループのドロップダウンメニューから、カスタマイズするシリーズを選択します。
選択したシリーズが、ドロップダウンメニューのテキストボックスに表示されます。

シリーズタブのスタイルグループ

[スタイル] (Style) グループを使用して、[選択] (Select) グループで指定したシリーズに、スタイルオプションを適用することができます。

手順 シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [シリーズフォーマット] ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [シリーズ] (Series) タブの [スタイル] (Style) グループで、[スタイル] (Style) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[スタイル詳細オプション] (More Style Options) を選択します。[シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスが開きます。
3. 塗りつぶしおよび境界オプションを使用して、シリーズのフォーマットを設定します。

詳細は、184 ページの「[シリーズフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。
4. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

[シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスが閉じます。指定したフォーマットが、シリーズの塗りつぶしおよび境界に適用されます。
5. [実行] (Run) をクリックしてレポートを生成します。

シリーズタブのプロパティグループ

[プロパティ] (Properties) グループには、グラフタイプの変更や傾向性の追加など、選択されたシリーズのグラフオプションを拡張するためのコマンドが表示されます。

手順 シリーズのグラフタイプを変更するには

1. 棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのいずれかを作成します。
2. 次のいずれかの方法でシリーズのグラフタイプリストにアクセスします。
 - **リボン** [シリーズ] (Series) タブの [プロパティ] (Properties) グループで、[グラフ] (Type) ドロップダウンメニューを開きます。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[グラフタイプ] (Series Type) を選択します。
3. シリーズに適用するグラフタイプを選択します。

シリーズの新しいグラフタイプがグラフに表示されます。

手順

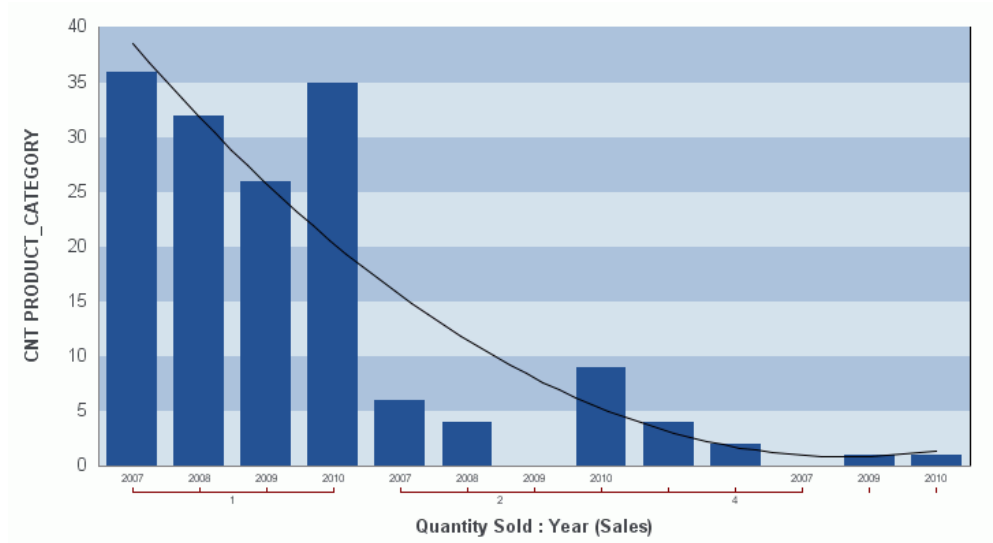
傾向線を追加するには

傾向線は、グラフのプロットエリアの上部に表示される線で、データ点のパターンを示します。パターンにより、統計的傾向を明らかにすることができます。

注意：線形回帰の傾向線は、HTML5 のバブルグラフでは使用できません。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で傾向線タイプのメニューにアクセスします。
 - **リボン** [シリーズ] (Series) タブの [プロパティ] (Properties) グループで、[傾向線] (Trendline) ドロップダウンメニューを開きます。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[傾向線の追加] (Add Trendline) を選択します。
3. 表示する傾向線のタイプを選択します。
選択した傾向線がグラフに表示されます。
4. 必要に応じて、[シリーズ] (Series) タブの [プロパティ] (Properties) グループで [数式] (Equation) をクリックし、選択した傾向線オプションの数式を表示します。

下図は、[線形] (Linear) オプションを使用して表示した傾向線を示しています。



シリーズタブの折れ線グループ

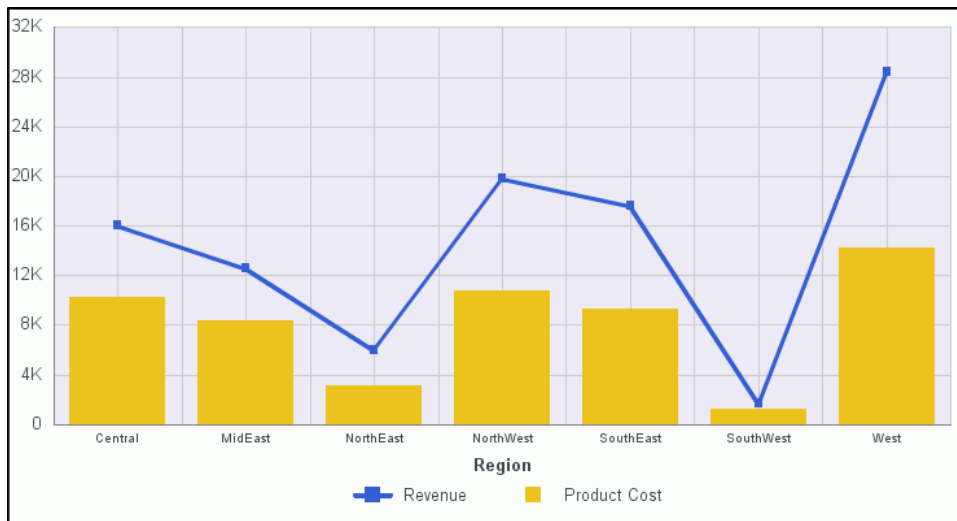
[折れ線] グループには、グラフの折れ線および線マーカのフォーマットを設定するためのオプションが表示されます。

手順

折れ線グラフにスムージング線効果を適用するには

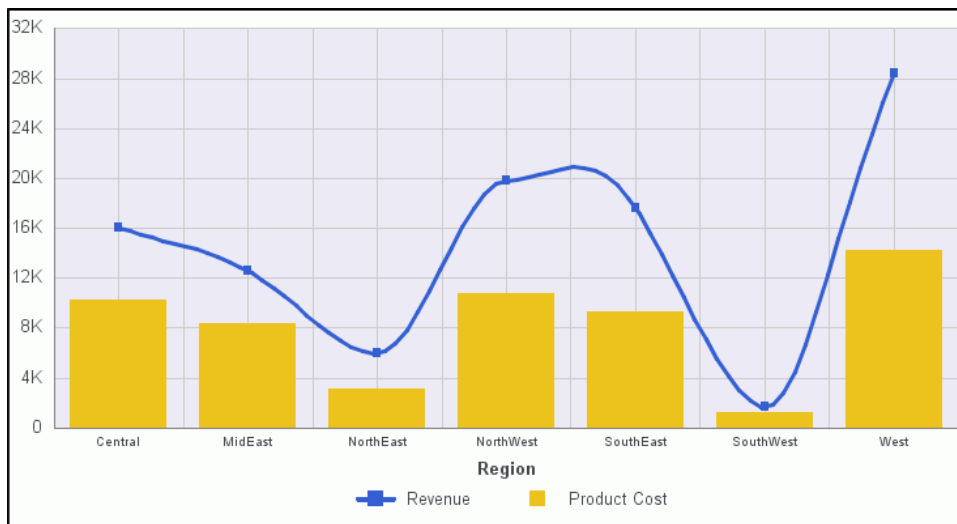
1. スムージング線効果が適用されていない折れ線グラフを作成します。

下図は、スムージング線効果が適用されていない折れ線グラフを示しています。



2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] (Series) タブの [折れ線] (Line) グループで、[スムーズ] (Smooth Line) をクリックします。

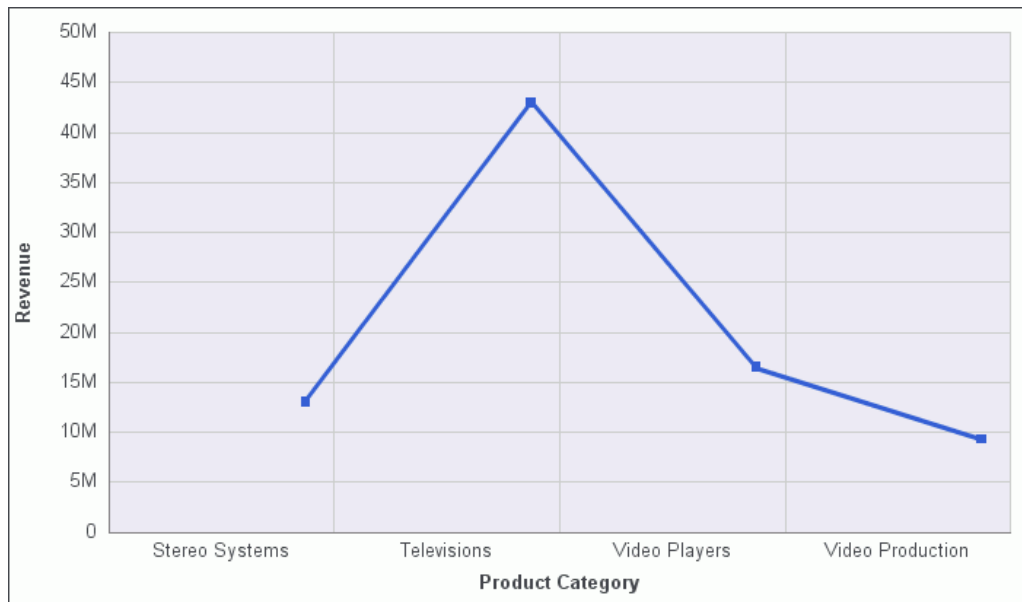
下図では、シリーズにスムージング線効果が適用されています。



手順

マーカー間のシリーズ線を非表示にするには

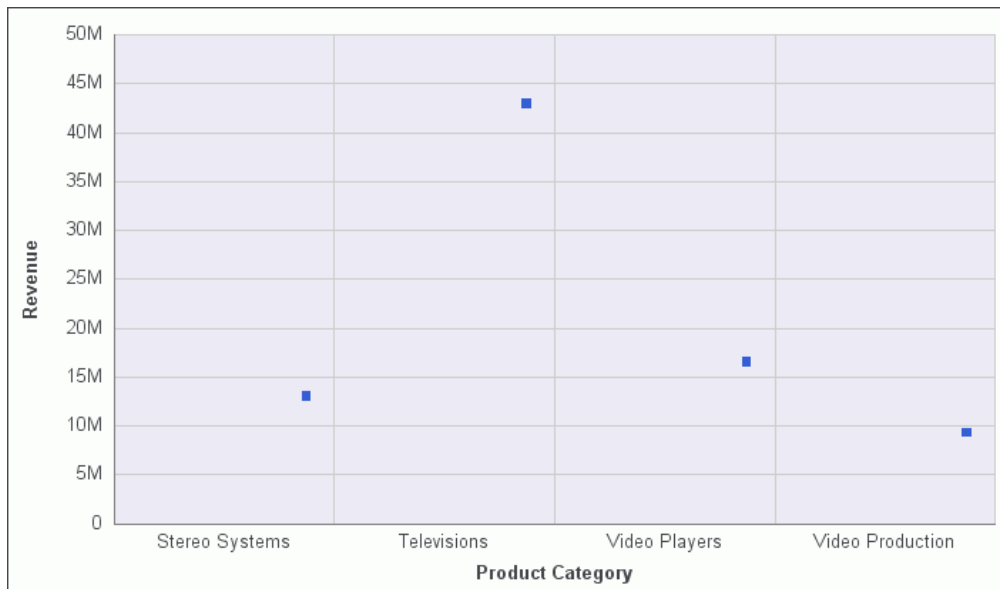
下図のように、デフォルト設定ではマーカー間の線が表示されます。



マーカー間のシリーズ線を非表示にするには、次の手順を実行します。

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] (Series) タブの [シリーズ] (Series) グループのドロップダウンメニューから、接続線を非表示にするシリーズを選択します。
4. [折れ線] (Line) グループで、[接続線] (Connect Lines) をクリックします。

下図のように、マーカー間のシリーズ線が非表示になります。



シリーズ線を再表示するには、[接続線] (Connect Lines) を再度クリックします。

手順

マーカーの外観を変更するには

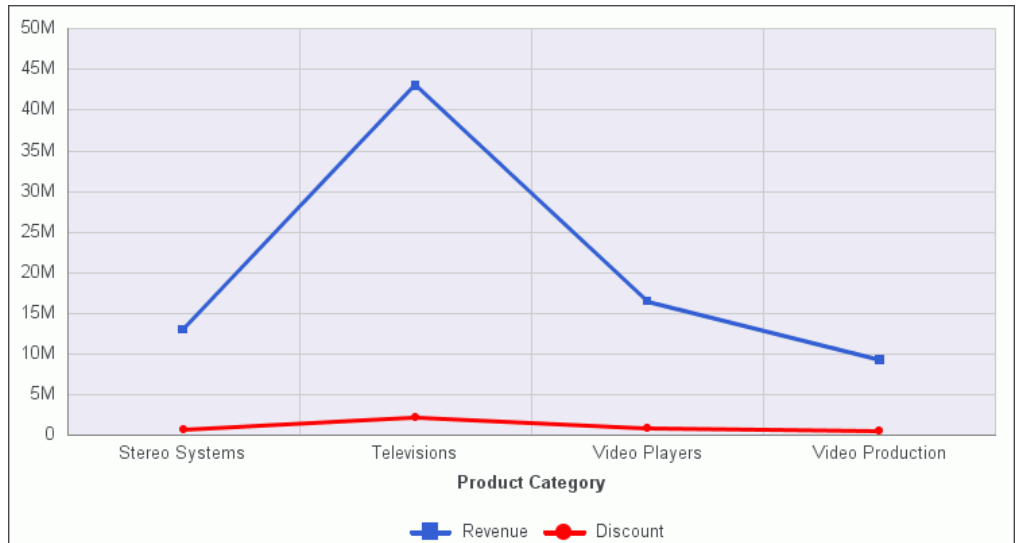
マーカーは、折れ線グラフ上のデータ点の表示に使用されます。また、グラフ上のデータを識別するために凡例でも使用されます。形状の異なるマーカーを使用することで、各シリーズが区別しやすくなります。

1. 折れ線グラフを作成します。
2. 折れ線グラフ上でシリーズを選択します。
3. [シリーズ] (Series) タブの [折れ線] (Line) グループで、[マーカー] (Marker) ドロップダウンメニューを開きます。
4. [マーカー] (Marker) ドロップダウンメニューから、マーカー形状を選択します。次のオプションがあります。
 - なし (None)
 - 四角 (Square) (デフォルト)
 - 丸 (Circle)

- ダイヤモンド (Diamond)
- プラス記号 (Plus)
- 下向き三角 (Triangle Down)
- 上向き三角 (Triangle Up)
- 右向き三角 (Triangle Right)
- 左向き三角 (Triangle Left)
- パイレーツ (Pirate Plus)
- ホーム (House)
- 六角形 (Hexagon)
- X 強調 (Fat X)
- 5 つ星 (Five Star)
- 6 つ星 (Six Star)
- 砂時計 (Hourglass)
- 横向き砂時計 (Sideways Hourglass)
- 線 (Line)

選択した形状がマーカーに適用されます。

下図では、[Dollar Sales] に四角のマーカ、[Quantity] に丸のマーカが使用されています。



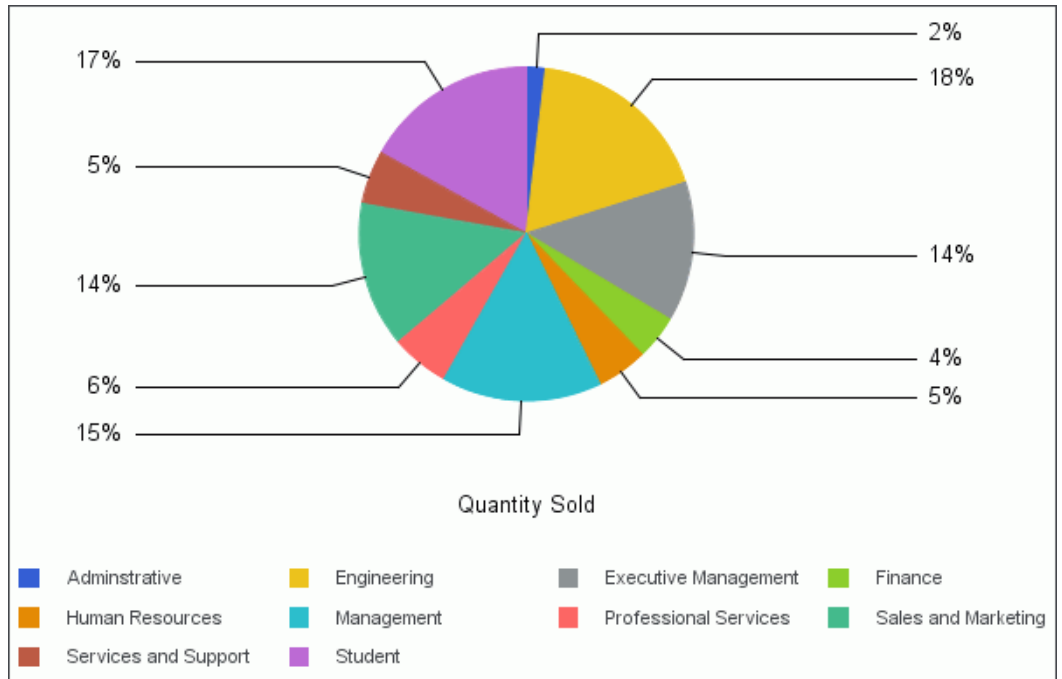
シリーズタブの円グループ

[円] グループには、円項目の拡張および非表示のためのオプションが表示されます。

手順

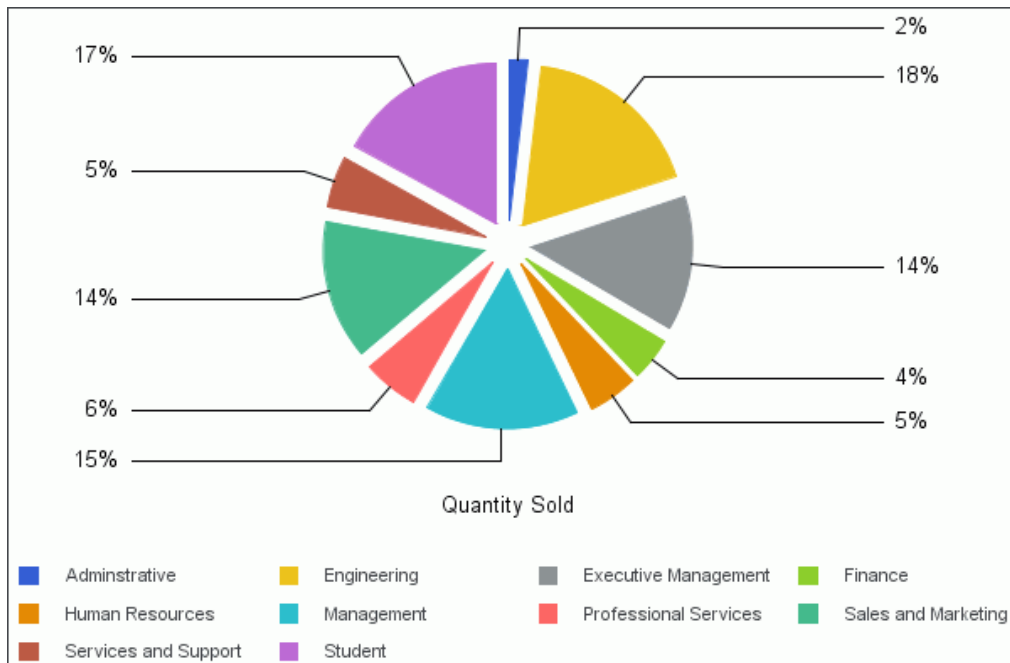
円項目を切り離すには

下図は、円項目を切り離す前の基本的な円グラフを示しています。



1. 円グラフを作成します。
2. [シリーズ] (Series) タブの [選択] (Select) グループのドロップダウンメニューから、次のいずれかを選択します。
 - [すべてのシリーズ] (All Series) を選択すると、すべての円項目が円の中心から切り離されます。
 - 特定のシリーズを選択すると、その円項目のみが円の中心から切り離されます。
3. [円] (Pie) グループで、[展開] (Expand) をクリックします。
円項目が切り離されます。

下図は、すべての円項目が切り離された円グラフを示しています。



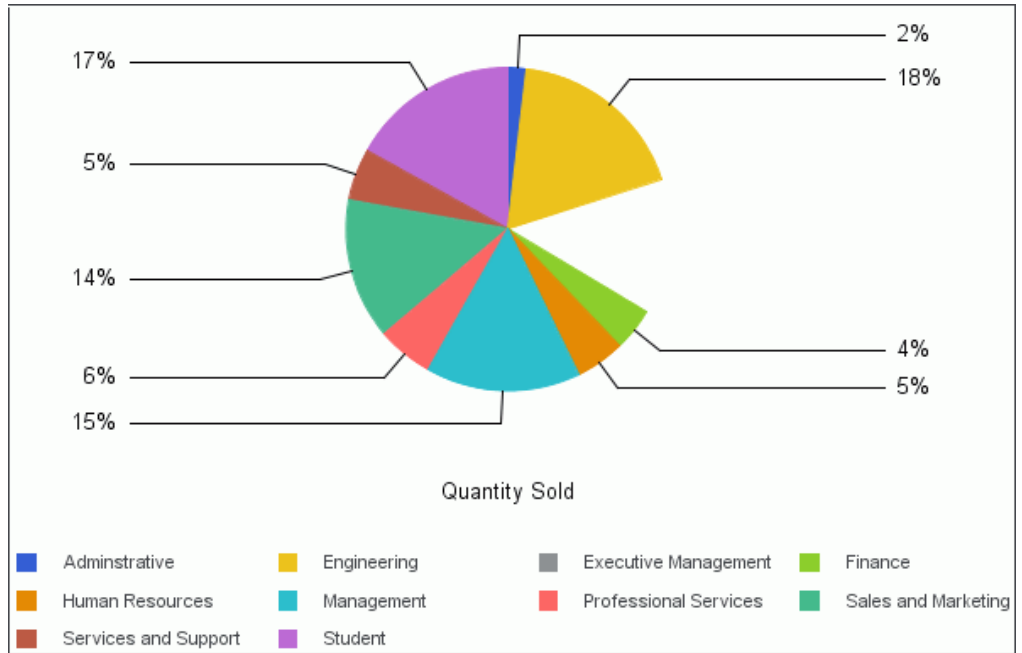
手順

円項目を非表示にするには

1. 円グラフを作成します。
2. [シリーズ] (Series) タブの [選択] (Select) グループのドロップダウンメニューから、非表示にするシリーズを選択します。[円] (Pie) グループで、[非表示] (Hide) をクリックします。

円項目が非表示になります。

下図は、円項目の 1 つを非表示にした円グラフを示しています。



シリーズタブの表示グループ

[表示] (Display) グループには、[選択] (Select) グループで [すべてのシリーズ] (All Series) が選択されている場合に、シリーズの順序を逆にする [順序を逆にする] (Reverse Order) コマンドが表示されます。

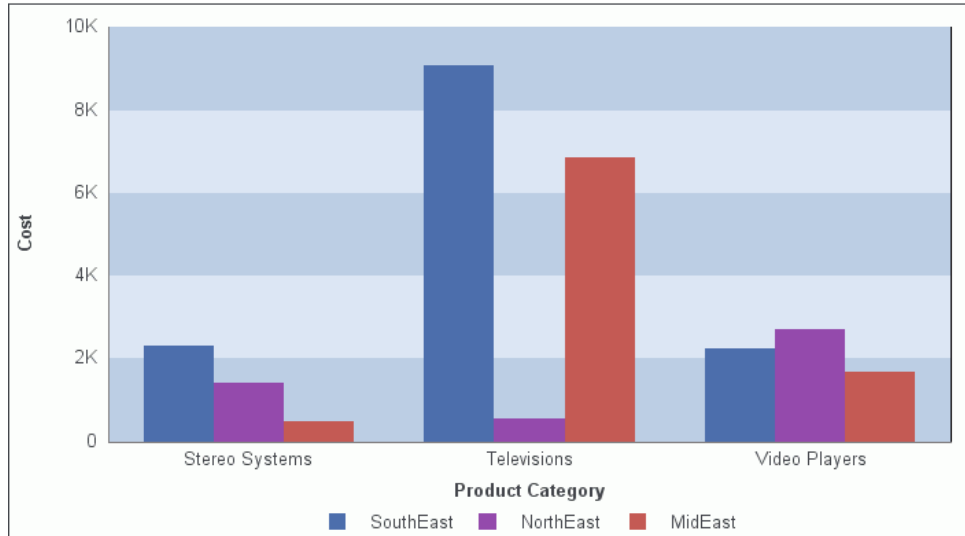
手順

シリーズの順序を逆にするには

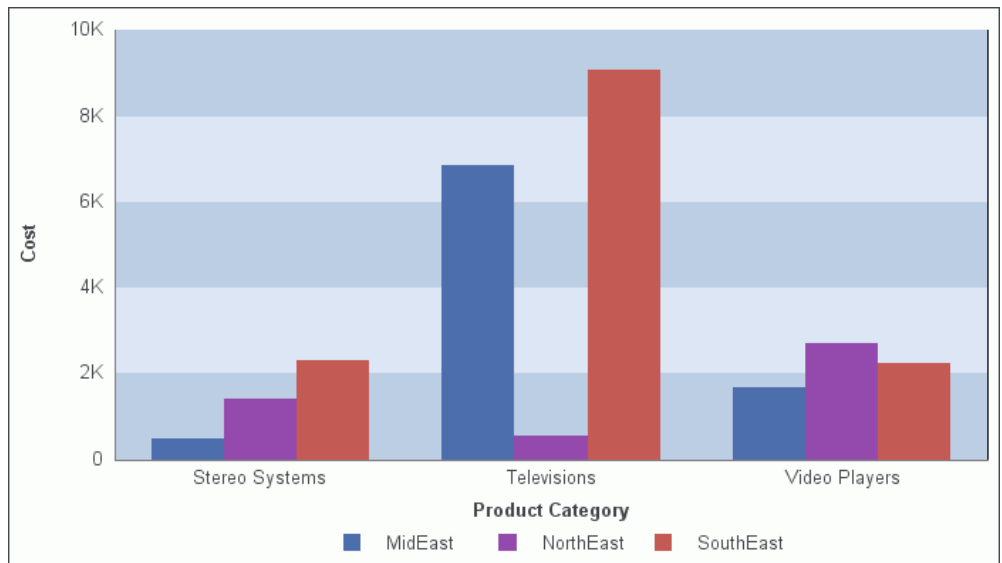
1. グラフを作成します。
2. [シリーズ] (Series) タブの [表示] (Display) グループで、[順序を逆にする] (Reverse Order) をクリックします。

シリーズの順序が逆になります。

下図は、縦棒グラフを示しています。



下図は、シリーズの順序を逆にした同一データを示しています。



フィールドタブのフィルタグループ

[フィルタ] (Filter) グループには、さまざまなフィルタオプションが表示され、選択したフィールドに、これらのオプションを適用することができます。

手順 シリーズの値をフィルタするには

1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを選択します。
3. 次のいずれかの方法で [フィルタ] (Filter) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フィールド] (Field) タブの [フィルタ] (Filter) グループで、[フィルタ] (Filter) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** シリーズを右クリックし、[フィルタ] (Filter Values) を選択します。

[高度なフィルタの設定] (Filter) ダイアログボックスが開きます。詳細は、39 ページの「[フィルタグループ](#)」を参照してください。

4. [値] (Value) および [プロンプト] (Prompt) ドロップダウンメニューから値を選択します。
5. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
シリーズの値がフィルタされます。

フィールドタブのソートグループ

[ソート] (Sort) グループには、グラフのフィールドをソートするためのオプションが表示されます。

手順 シリーズのフィールドをソートするには

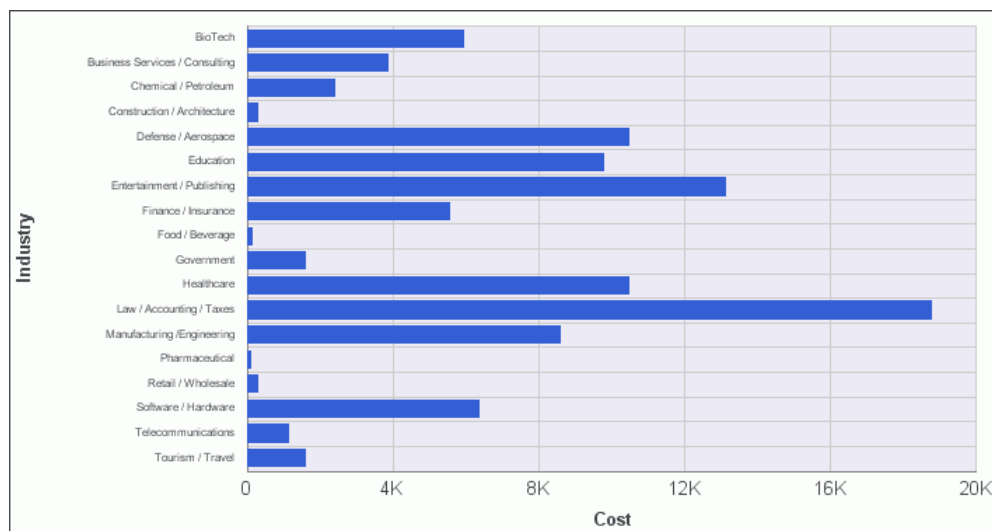
1. グラフを作成します。
2. シリーズを選択します。
3. 次のいずれかの方法でシリーズをソートします。

- **リボン [フィールド] (Field) タブの [ソート] (Sort) グループで、[昇順] (Up) をクリックしてシリーズの値を昇順 (小さい値から大きい値へ) でソートするか、[降順] (Down) をクリックしてシリーズの値を降順 (大きい値から小さい値へ) でソートします。**
- **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[ソート] (Sort)、[ソート] (Sort) を順に選択します。[昇順] (Ascending) を選択してシリーズの値を昇順 (小さい値から大きい値へ) でソートするか、[降順] (Descending) を選択してシリーズの値を降順 (大きい値から小さい値へ) でソートします。右クリックメニューから [ソート] (Sort)、[制限] (Limit) を順に選択して値のリストを開き、ソートグループに表示する値の個数を制限します。

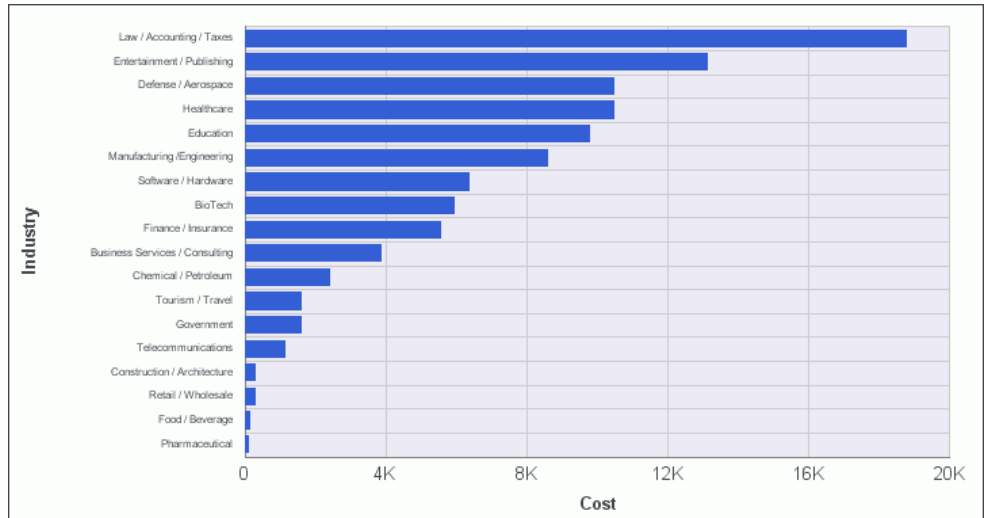
指定した方法でグラフのシリーズがソートされます。

詳細は、92 ページの「[ソートグループ](#)」を参照してください。

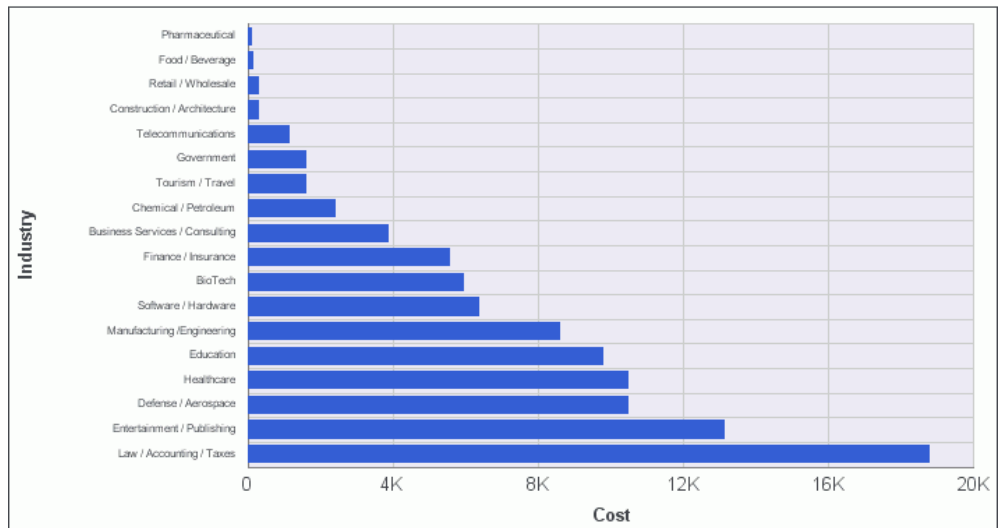
下図は、ソートを適用する前の縦棒グラフを示しています。



下図は、降順(大きい値から小さい値へ)でソートされた同一データを示しています。



下図は、昇順(小さい値から大きい値へ)でソートされた同一データを示しています。



フィールドタブの表示グループ

[表示](Display) グループには、フィールドを制御するための追加のオプションが表示されます (例、フィールドを非表示にする)。

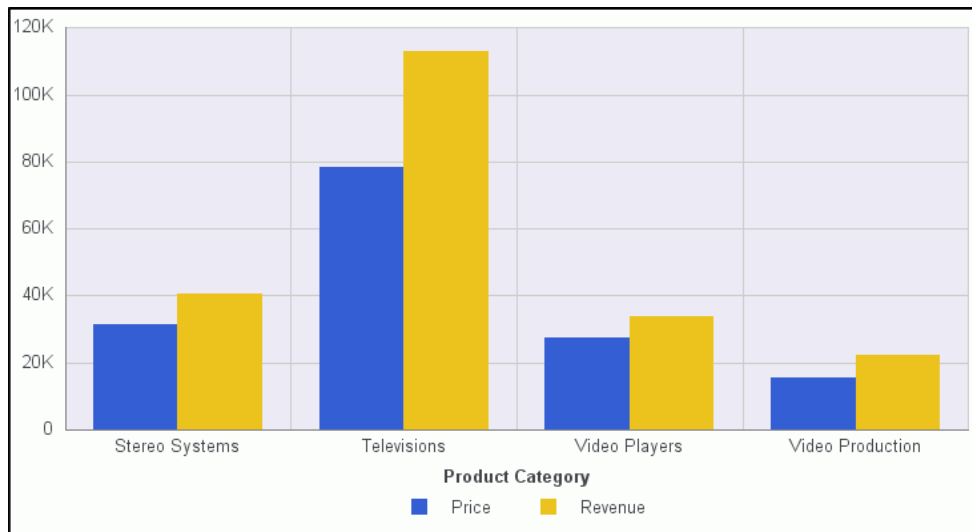
手順

シリーズのフィールドを非表示にするには

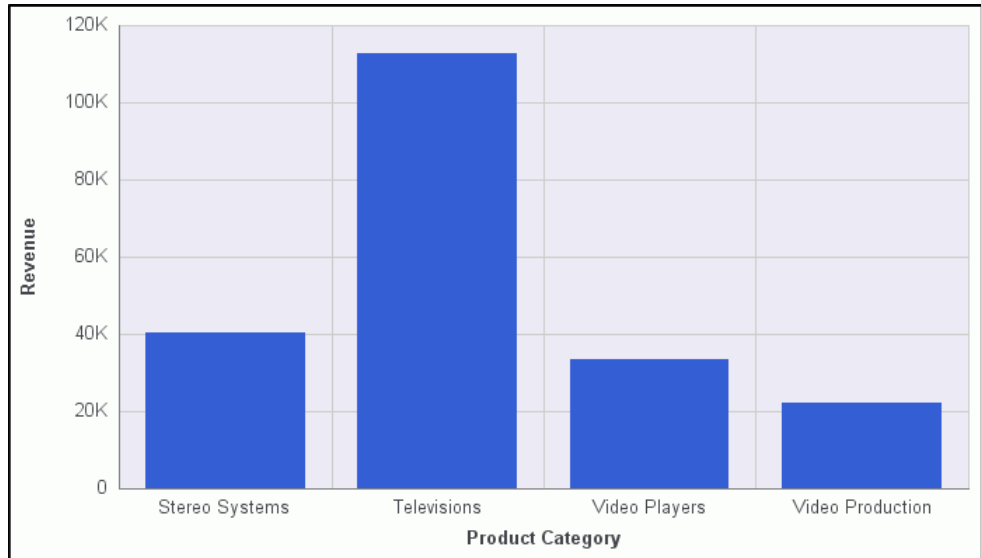
1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法でシリーズのフィールドを非表示にします。
 - [クエリ] (Query) ウィンドウでフィールドを選択する。
 - グラフ上でフィールドを右クリックする。
 - **リボン** [クエリ] (Query) ウィンドウでフィールドを選択するか、グラフ上でフィールドを右クリックします。[フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで、[フィールドの非表示] (Hide Field) をクリックします。シリーズを再表示するには、[フィールドの非表示] (Hide Field) を再度クリックします。
 - **右クリックメニュー** [クエリ] (Query) ウィンドウまたはグラフ上でシリーズを右クリックし、[表示] (Visibility)、[非表示] (Hide) を順に選択します。シリーズを再表示するには、同一のシリーズを右クリックし、[表示] (Visibility)、[表示] (Show) を順に選択します。

選択したフィールドが非表示になります。

下図は、各シリーズが表示された縦棒グラフを示しています。



下図は、[Price] フィールドを非表示にした同一データを示しています。



手順

基軸の集計を表示するには

数値データは、さまざまな集計値を使用して表示することができます。

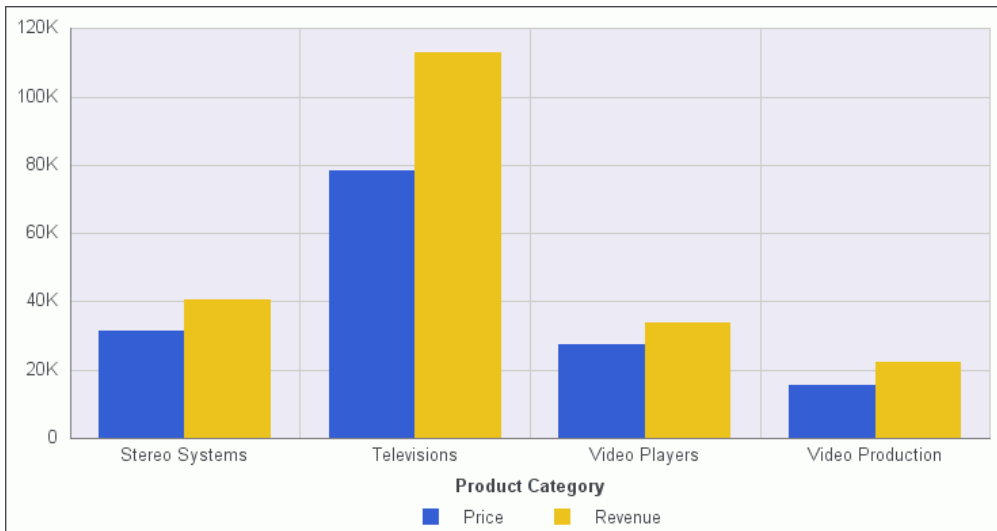
詳細は、74 ページの「[表示グループ](#)」を参照してください。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で集計オプションのリストを開きます。
 - **リボン [フィールド](Field) タブの [表示](Display) グループで、[集計](Aggregation) ドロップダウンメニューを開きます。**
 - **右クリックメニュー** シリーズを右クリックし、[詳細](More)、[集計関数](Aggregation) を順に選択します。
3. 集計関数を選択します。

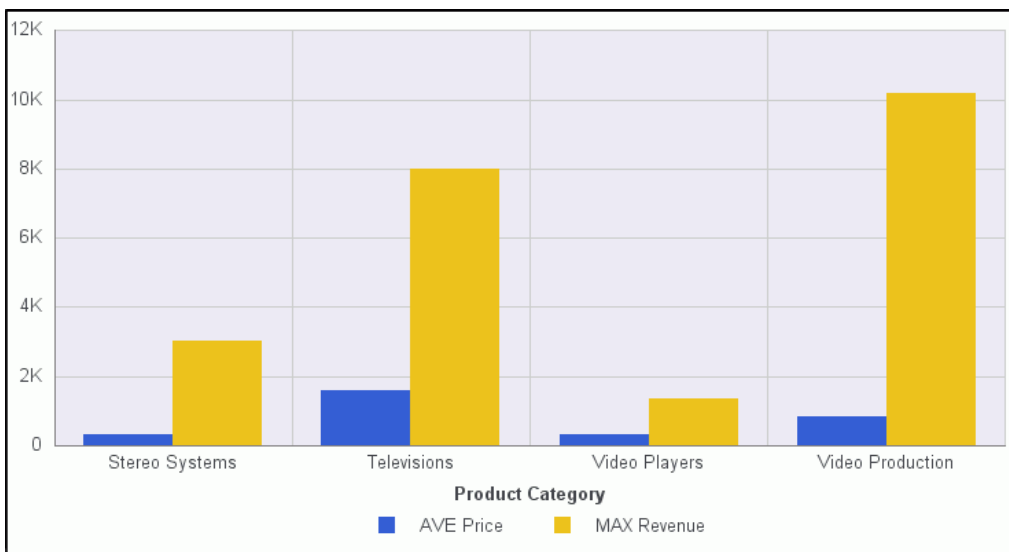
選択した集計関数がシリーズに適用されます。

注意：[基軸] (Measure (Sum)) フィールドコンテナを [SUM] から [PRINT]、[件数] (Count)、[リスト] (List) に変更すると、割り当て済みの集計タイプ値はすべて上書きされます。

下図は、集計値が適用されていない縦棒グラフを示しています。



下図は、[Price] フィールドに平均 (AVE.) の集計値が適用され、[Revenue] フィールドに最大値 (MAX.) の集計値が適用された同一データを示しています。applied to revenue.



手順

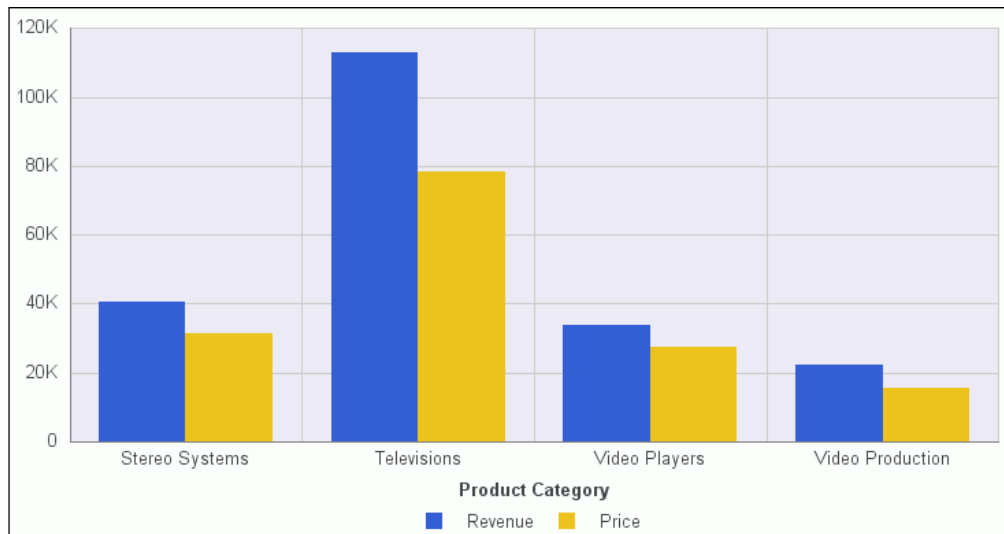
ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値基軸フィールドに適用するには (定数の使用)

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [クエリ] (Query) ウィンドウでフィールドを選択し、[フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで [条件スタイル] (Traffic Lights) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でフィールドを右クリックし、[詳細] (More)、[条件付きスタイル設定] (Traffic Light Conditions) を順に選択します。

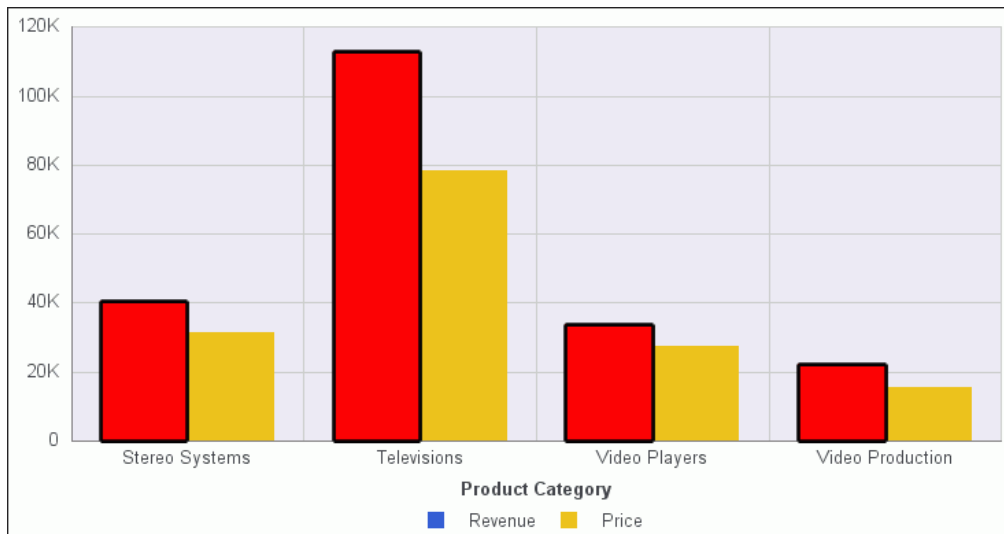
[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスが開きます。
187 ページの「[条件付きスタイルルールダイアログボックス](#)」を参照してください。
3. フィールド名の下の関係演算子ドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。次のオプションがあります。
 - 等しい (Equal to)
 - 等しくない (Not equal to)
 - より大きい (Greater than)
 - より小さい (Less than)
 - 以上 (Greater than equal to)
 - 以下 (Less than or equal to)
4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、タイプドロップダウンメニューの下向き矢印をクリックします。

[タイプ] (Type) ダイアログボックスが開きます。
5. [タイプ] (Type) ダイアログボックスで、[定数] (Constant) を選択します。
6. [値] (Value) テキストボックスに値を入力するか、次の操作を実行します。
 - a. [値の取得] (Get Values) ドロップダウンメニューから、[すべて] (All)、[最初] (First)、[最後] (Last)、[最小] (Minimum)、[最大] (Maximum)、[ファイルから] (From File) のいずれかを選択します。選択した値が [値の取得] (Get Values) テキストボックスに表示されます。

下図は、条件付きスタイルルールが設定されていない縦棒グラフを示しています。



下図は、上記の縦棒グラフに条件付きスタイルルールを適用した例を示しています。この例では、[Revenue] シリーズの値が 14399.46 を超えた場合に [Revenue] シリーズを赤色で表示する条件が設定されています。



手順

ドリルダウンを含む条件付きスタイルルールを数値基軸フィールドに適用するには(フィールドの使用)

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスを開きます。

- **リボン [クエリ] (Query) ウィンドウ**でフィールドを選択し、[フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで [条件スタイル] (Traffic Lights) をクリックします。
- **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[詳細] (More)、[条件付きスタイル設定] (Traffic Light Conditions) を順に選択します。

[条件付きスタイルルール] (Traffic Light Condition) ダイアログボックスが開きます。
187 ページの「[条件付きスタイルルールダイアログボックス](#)」を参照してください。

3. フィールド名の下の関係演算子ドロップダウンメニューから、関係演算子を選択します。次のオプションがあります。
 - 等しい (Equal to)
 - 等しくない (Not equal to)
 - より大きい (Greater than)
 - より小さい (Less than)
 - 以上 (Greater than equal to)
 - 以下 (Less than or equal to)

4. 関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスで、タイプドロップダウンメニューの矢印をクリックします。

[タイプ] (Type) ダイアログボックスが開きます。

5. [タイプ] (Type) ダイアログボックスで、[フィールド] (Field) を選択します。

[タイプ] (Type) ダイアログボックスには、データの [ディメンション] (Dimensions) および [基軸/プロパティ] (Measures and Properties) が表示されます。次の方法でデータを表示することができます。

- フィールドをビジネス順に表示する。[タイトル] (Title)、[説明] (Description)、[名前] (Name)、[エイリアス] (Alias) オプションのいずれかを選択します。

- フィールドをソート可能なリスト形式で表示する。[名前] (Name)、[タイトル] (Title)、[エイリアス] (Alias)、[フォーマット] (Format)、[セグメント] (Segment)、[ファイル名] (Filename)、[説明] (Description)、[参照] (Reference) オプションのいずれかを選択します。
 - データの階層構造を表示する。[タイトル] (Title)、[説明] (Description)、[名前] (Name)、[エイリアス] (Alias) オプションのいずれかを選択します。
6. フィールドを選択します。
 7. [OK] をクリックします。

選択したフィールドが、関係演算子ドロップダウンメニュー右側のテキストボックスに表示されます。
 8. [スタイル] (Style) ボタンをクリックした後、[色] (Color) ボタンをクリックします。

[フォーマット] (Format) ダイアログボックスが開きます。
 9. 色を選択します。

選択した色が [プレビュー] (Preview) ボックスに表示されます。
 10. [OK] をクリックします。
 11. [ドリルダウン] (Drill Down) ボタンをクリックします。

[ドリルダウン] (Drill down) ダイアログボックスが開きます。
 12. [ドリルダウン] (Drill Down) ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。
 - レポートまたは Web ページへのドリルダウン
 - Web ページの URL
 - 代替コメント
 - ターゲット (新規ウィンドウ、同一ウィンドウ)
 - 使用するパラメータ (名前、値)
 13. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
 14. 別のフィールドに条件付きスタイルルールを設定するには、[新規作成] (New) ボタンをクリックします。

手順

シリーズのタイトルを変更するには

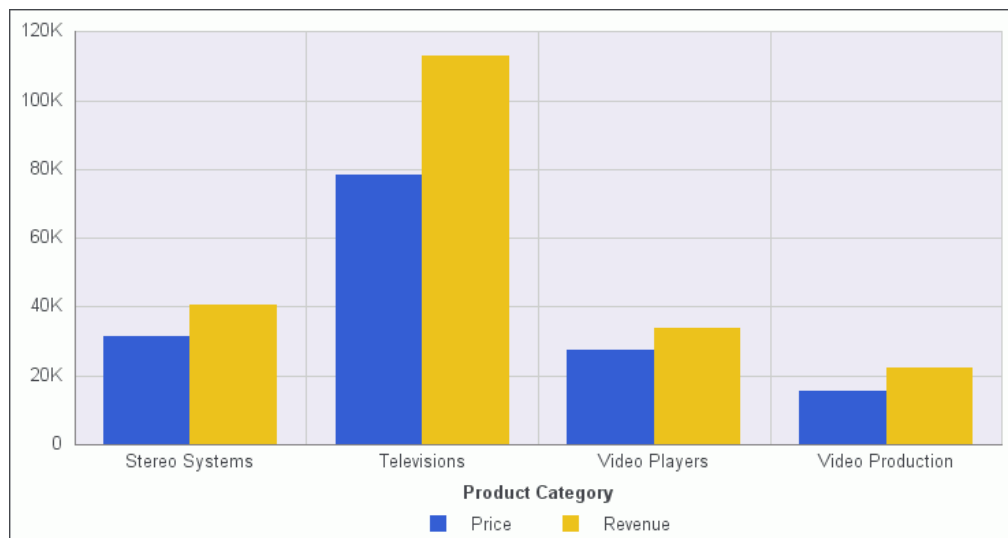
1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [タイトルの変更] (Edit Title) ダイアログボックスを開きます。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[タイトルの変更] (Change Title) を選択します。
 - **[クエリ] (Query) ウィンドウ** シリーズを右クリックし、[タイトルの変更] (Change Title) を選択します。

[タイトルの編集] (Edit Title) ダイアログボックスが開きます。

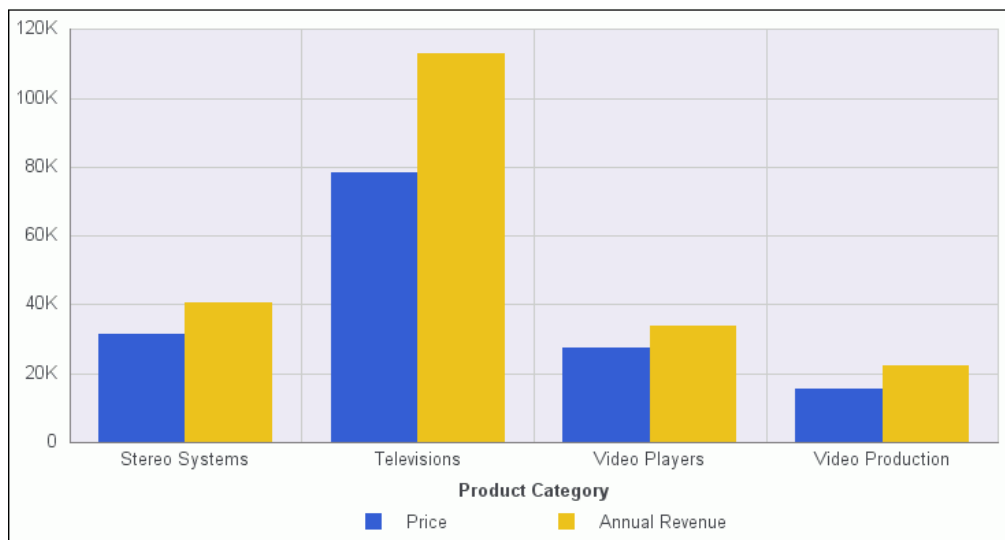
3. [タイトルを入力してください] (Enter Title) テキストボックスに、シリーズの新しい名前を入力します。
4. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。

新しいタイトルがシリーズに適用されます。

下図は、[Price] シリーズと [Revenue] シリーズが表示された縦棒グラフを示しています。



下図では、シリーズタイトルの「Revenue」が「Annual Revenue」に変更されています。

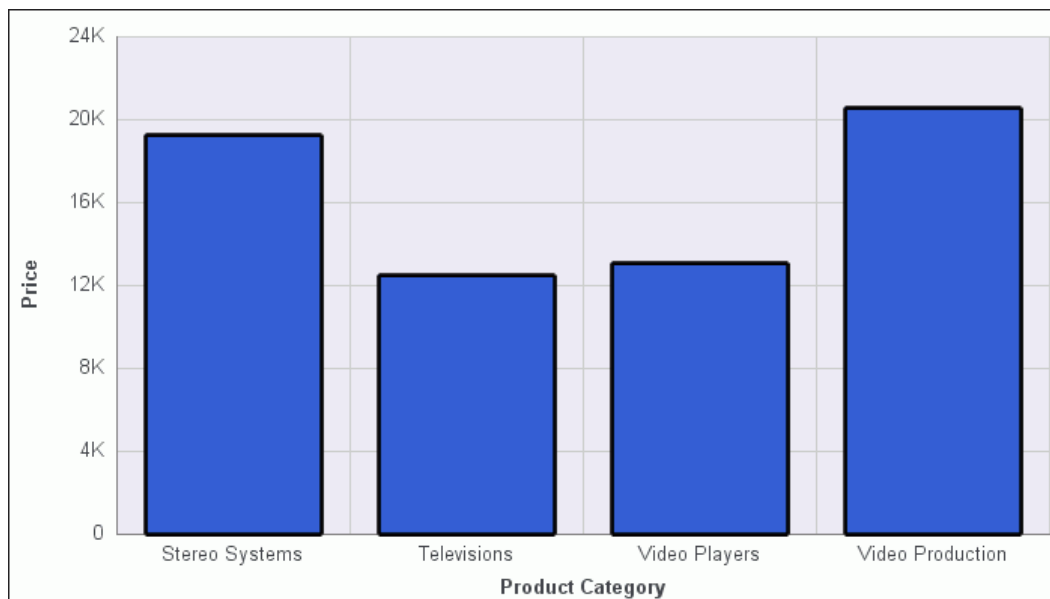


手順

色モードを制御するには

単一シリーズのグラフを作成すると、すべてのシリーズグループが同一色で表示されます。グループごとに異なる色を使用するには、色モードを [グループ] (Group) に設定します。

下図は、すべてのシリーズグループが同一色で表示された単一シリーズグラフを示しています。

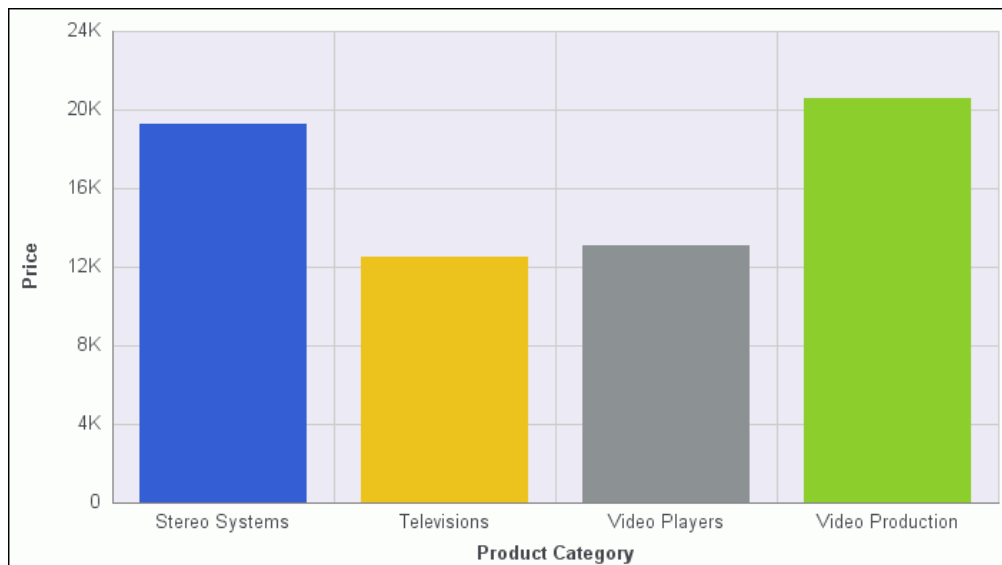


1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを右クリックし、[色モード] (Color Mode)、[グループ] (By Group) を順に選択します。

シリーズの各グループにそれぞれ異なる色が適用されます。シリーズを同一色で表示するデフォルト設定に戻すには、シリーズを右クリックし、[色モード] (Color Mode)、[シリーズ] (By Series) を順に選択します。

3. [実行] (Run) をクリックしてレポートを生成します。

下図は、シリーズの各グループに異なる色が適用された単一シリーズグラフを示しています。



手順

シリーズを削除するには

1. グラフを作成します。
2. グラフ上でシリーズを右クリックし、[削除] (Delete) を選択します。

シリーズが削除されます。

データラベルのフォーマット設定

トピックス

- 関連するダイアログボックス
- データラベル要素の右クリックメニュー
- データラベルプロパティの使用

データラベルを使用すると、グラフ上の重要なデータポイントが強調されます。正確な数値を識別する役割もあります。データラベルをさまざまな方法でカスタマイズすることで、グラフ上のデータラベルをより明確に表示することができます。たとえば、データラベルの位置、角度、色、サイズを変更します。

関連するダイアログボックス

トピックス

- ラベルフォーマットダイアログボックス
- スタイルダイアログボックス
- 線スタイルダイアログボックス

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用してデータラベルオプションにアクセスすると、ダイアログボックスが表示されます。データラベルのフォーマット設定でよく使用するダイアログボックスには、次のものがあります。

- ラベルフォーマット (Format Labels)
- スタイル (Style)
- 線スタイル (Line Style)

これらのダイアログボックスを開く方法についての詳細は、235 ページの「[データラベルプロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

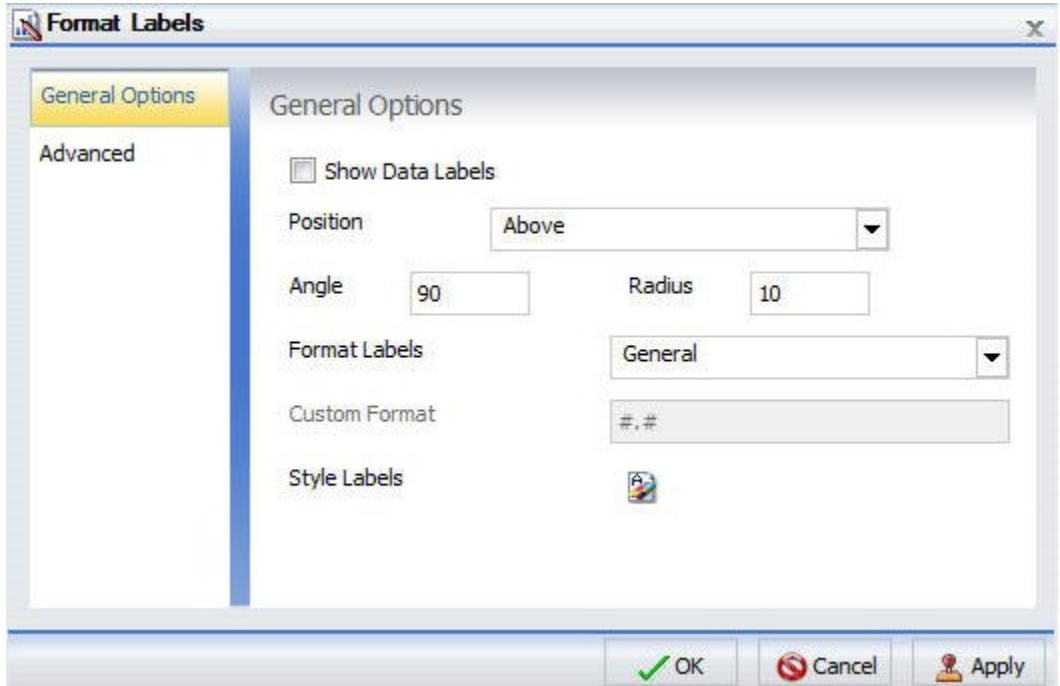
ラベルフォーマットダイアログボックス

[ラベルフォーマット](Format Labels) ダイアログボックスには、データラベルを編集するオプションが表示されます。棒グラフ、円グラフ、面グラフでは、同一のタブが表示されます。

[ラベルフォーマット] (Format Labels) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般オプション (General Options) (オプションはグラフタイプごとに異なります)
- 詳細 (Advanced) (オプションはグラフタイプごとに異なります)

[全般オプション] (General Options) タブでは、データラベルをグラフに追加したり、データラベルの位置、角度、ラジラスを設定したりします。下図は、[全般オプション] (General Options) タブを示しています。



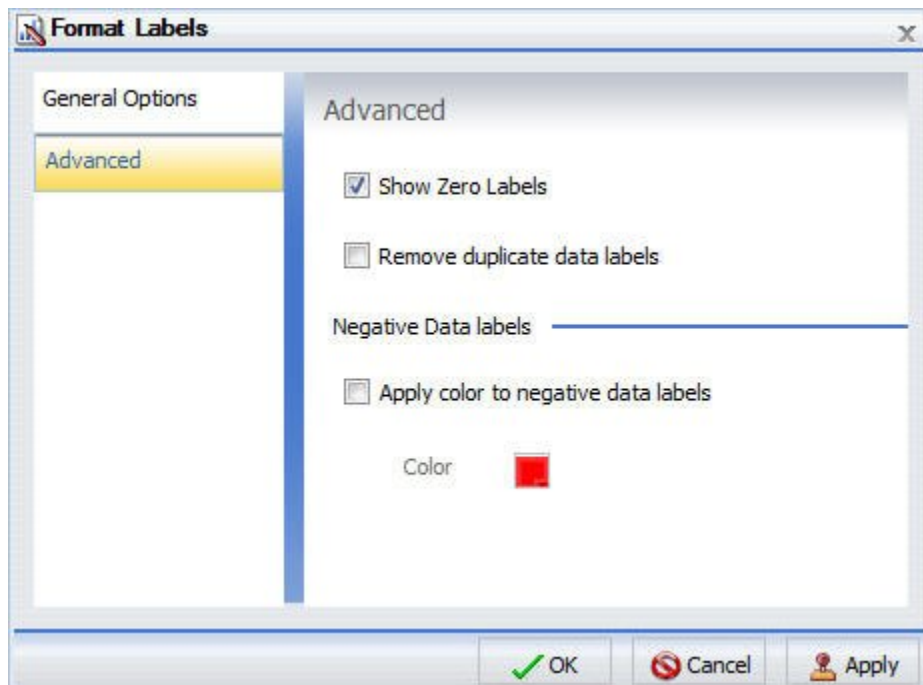
[全般オプション] (General Options) タブには、次のオプションがあります。

- **データラベルの表示 (Show Data Labels)** このオプションを選択して、グラフ上にデータラベルを表示します。このオプションの選択を解除すると、データラベルが非表示になります。
- **位置 (Position)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、データラベルを表示する位置を指定します。次のオプションがあります。
 - カスタム (Custom)
 - 上 (Above)

- 上端 (On top edge)
- 上端の下 (Below top edge)
- 中央揃え (Center)
- 下 (Base)
- 中央背面 (Center back)
- 角度 (Angle)** データラベルの角度を設定します。位置を [カスタム] (Custom) に設定した場合、角度のプロパティを定義してデータラベルのカスタム位置を作成することができます。
- ラジウス (Radius)** データラベルのラジウスを設定します。位置を [カスタム] (Custom) に設定した場合、ラジウスのプロパティを定義してデータラベルのカスタム位置を作成することができます。
- ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。次のオプションがあります。
 - パターンの使用 / 100 (Use Pattern / 100)
 - パターンの使用 (Use Pattern)
 - 全般 (General)
 - 小数点以下 0 桁 (No Decimal)
 - パーセント、小数点以下 0 桁 (Percent with no decimal)
 - パーセント、小数点以下 1 桁 (Percent with one decimal)
 - パーセント、小数点以下 2 桁 (Percent with two decimals)
 - 通貨 - 標準 (Currency general)
 - 通貨 - 小数点以下 0 桁 (Currency with no decimal)
 - 全般 - 1000 単位 (General in thousands)
 - 通貨 - 1000 単位 (Currency in thousands)
 - 通貨 - 100 万単位 (Currency in millions)
 - 全般 - 10 億単位 (General in billions)
 - 全般 - 1 兆単位 (General in trillions)

- 通貨 - 1 兆単位 (Currency in trillions)
- 3 桁区切り、小数点以下 0 桁 (Thousands separator no decimal)
- 3 桁区切り、小数点以下 2 桁 (Thousands separator two decimals)
- 日付 (短い) (Date short)
- 日付 (中間) (Date medium)
- 日付 (長い) (Date long)
- 日付 (完全) (Date full)
- パーセント (小数点以下 0 桁) / 100 (Percent with no decimal / 100)
- パーセント (小数点以下 1 桁) / 100 (Percent with one decimal / 100)
- パーセント (小数点以下 2 桁) / 100 (Percent with two decimals / 100)
- **カスタムフォーマット (Custom Format)** データラベルの標準数値フォーマットパターンを入力します。このオプションは、[ラベルフォーマット](Format Labels) ドロップダウンメニューから [パターンの使用](Use Pattern) を選択した場合にのみ使用可能になります。
- **ラベルスタイル (Style Labels)** このアイコンをクリックして [スタイル](Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。詳細は、233 ページの「[スタイルダイアログボックス](#)」を参照してください。

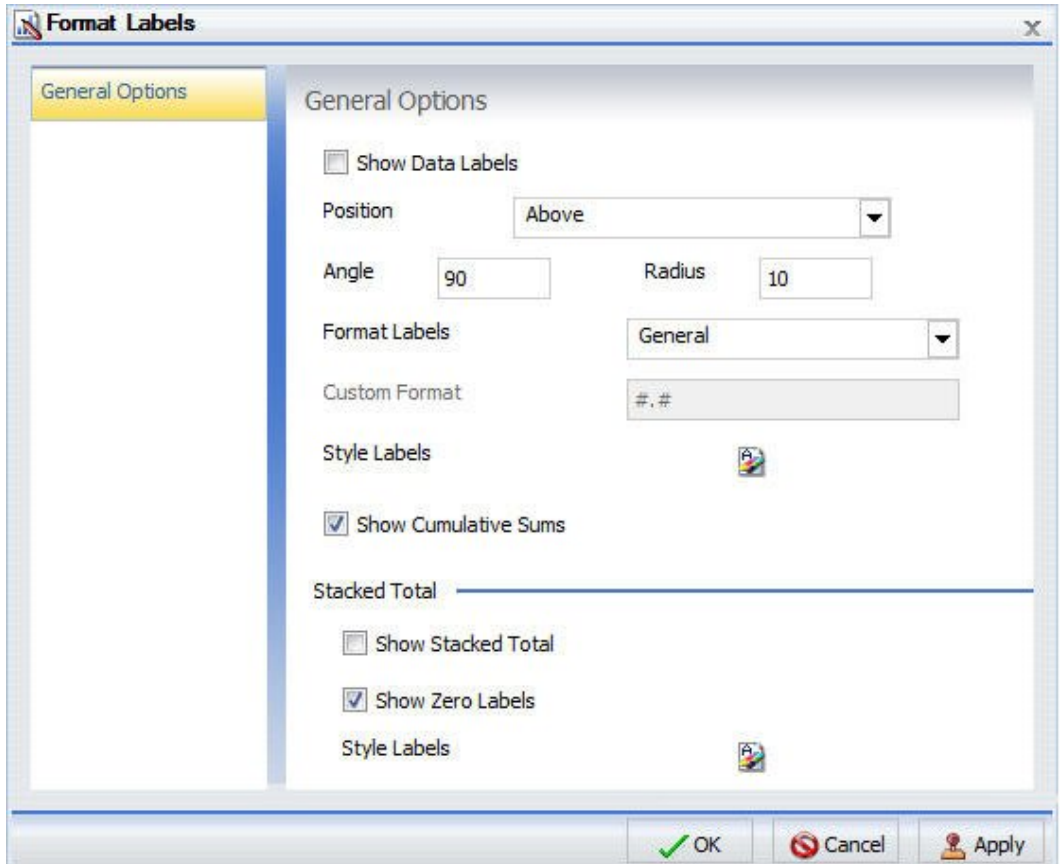
[詳細] (Advanced) タブでは、データラベルの追加プロパティを変更します。下図は、[詳細設定] (Advanced) タブを示しています。



[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

- **ゼロラベルの表示 (Show Zero Labels)** このオプションを選択して、グラフに 0 (ゼロ) 値を表示します。このオプションの選択を解除すると、0 (ゼロ) を除くデータ値がすべて表示されます。
- **重複するデータラベルを削除 (Remove duplicate data labels)** このオプションを選択して、同一値を共有する複数のデータラベルがある場合に、重複するデータラベルを削除します。その結果、1 つの値のみが表示されます。
- **負の値のデータラベルに色を適用 (Apply color to negative data labels)** このオプションを選択して、正の値のデータラベルとは別に、負の値のデータラベルにスタイルを設定することができます。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、負の値の色を選択します。

[全般オプション](General Options) タブには、積み上げグラフに固有のオプションがあります。下図は、積み上げグラフの [全般オプション](General Options) タブを示しています。



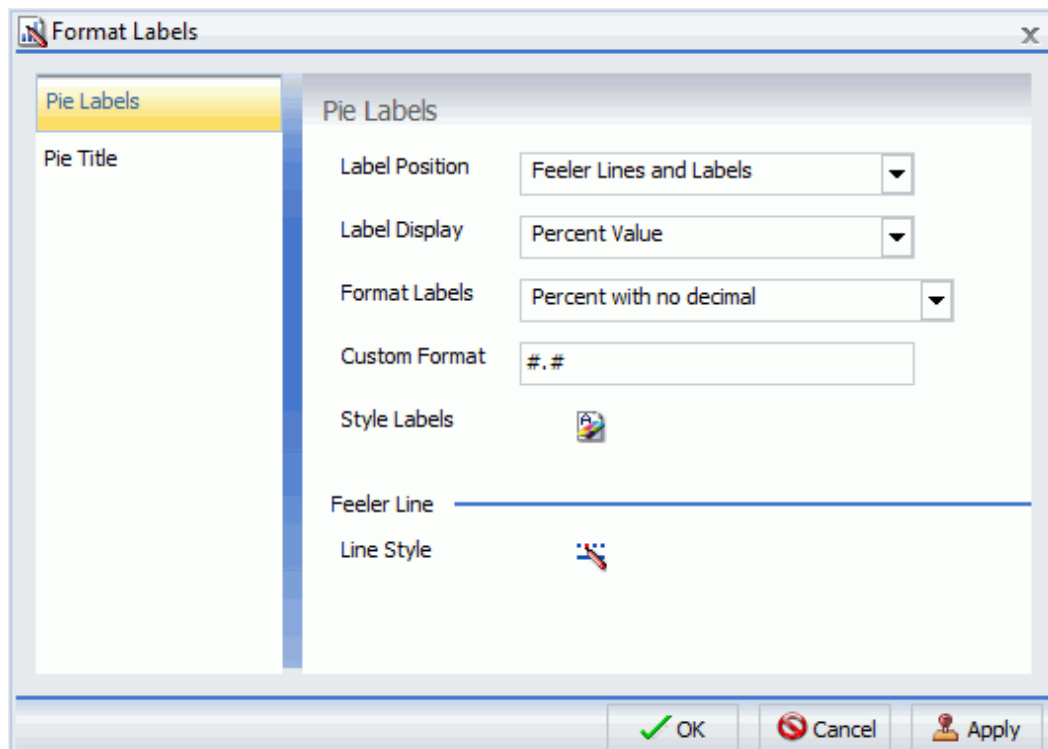
積み上げグラフに固有のオプションには、次のものがあります。

- **累計の表示 (Show Cumulative Sums)** このオプションを選択して、データテキストラベルに累計を表示します。このオプションの選択を解除すると、データテキストラベルに個別の集計が表示されます。
- **積み上げ合計の表示 (Show Stacked Total)** このオプションを選択して、積み上げ合計を表示します。積み上げ合計を表示するには、[データ位置](Data position)を [中央](Center) に設定する必要があります。

バブルグラフと株価グラフの [全般オプション] (General Options) および [詳細] (Advanced) タブは、[カスタムラベル] (Custom Label) を除き、棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフと同一です。

円グラフの場合、[全般オプション] (General Options) と [詳細] (Advanced) タブは、[円ラベル] (Pie Labels) および [円タイトル] (Pie Title) で置き換えられます。

[円ラベル] (Pie Labels) タブでは、円データラベルをカスタマイズします。下図は、[円ラベル] (Pie Labels) タブを示しています。



[円ラベル] (Pie Labels) タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの位置 (Label Position)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、円グラフのフィーラ線およびラベルの表示を制御します。
- **ラベルの表示形式 (Label Display)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、円グラフのフィーラ線の横に表示するラベルの表示形式を制御します。
- **ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。

- **カスタムフォーマット (Custom Format)** 定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、下表を参照してください。
- **ラベルスタイル (Style Labels)** このボタンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。
- **リングラベル (Ring Label)** これらのオプションは、リンググラフのタブに表示されます。

フィーラ線 (Feeler Line)

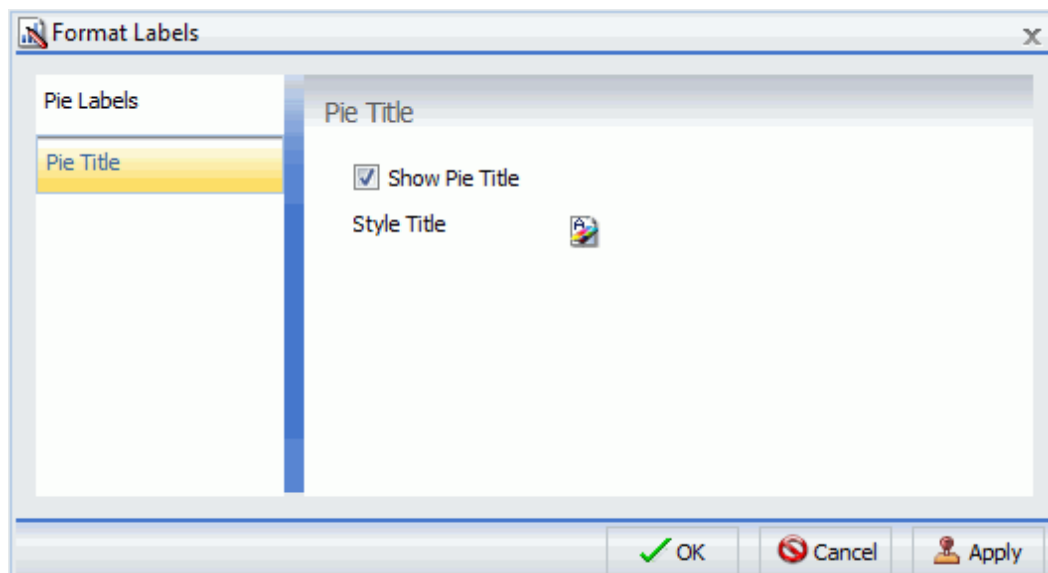
- **リングラベルの表示 (Show Ring Label)** このオプションを選択して、リンググラフでの合計ラベルの表示を制御します。
- **ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット (Custom Format)** 定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。詳細は、下表を参照してください。
- **ラベルスタイル (Style Labels)** このボタンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベルフォーマット] (Format Labels) ドロップダウンメニューには、ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストが表示されます。[パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合は、[カスタムフォーマット] (Custom Format) テキストボックスでパターンを定義する必要があります。下表は、カスタムフォーマットで使用可能な文字の説明です。

文字	説明
#	桁を表します。
0 (ゼロ)	非表示にします。
. (ピリオド)	小数点の区切り文字に使用するプレースホルダです。
, (カンマ)	位の区切り文字に使用するプレースホルダです。
; (セミコロン)	複数のフォーマットを区別します。

文字	説明
- (ダッシュ)	デフォルトの負の接頭語です。
% (パーセント)	100 で除算してパーセントで表示します。
x	接頭語または接尾語にその他の文字を使用できることを指定します。
' (アポストロフィ)	接頭語または接尾語に使用する特殊文字をこの引用符で囲みます。

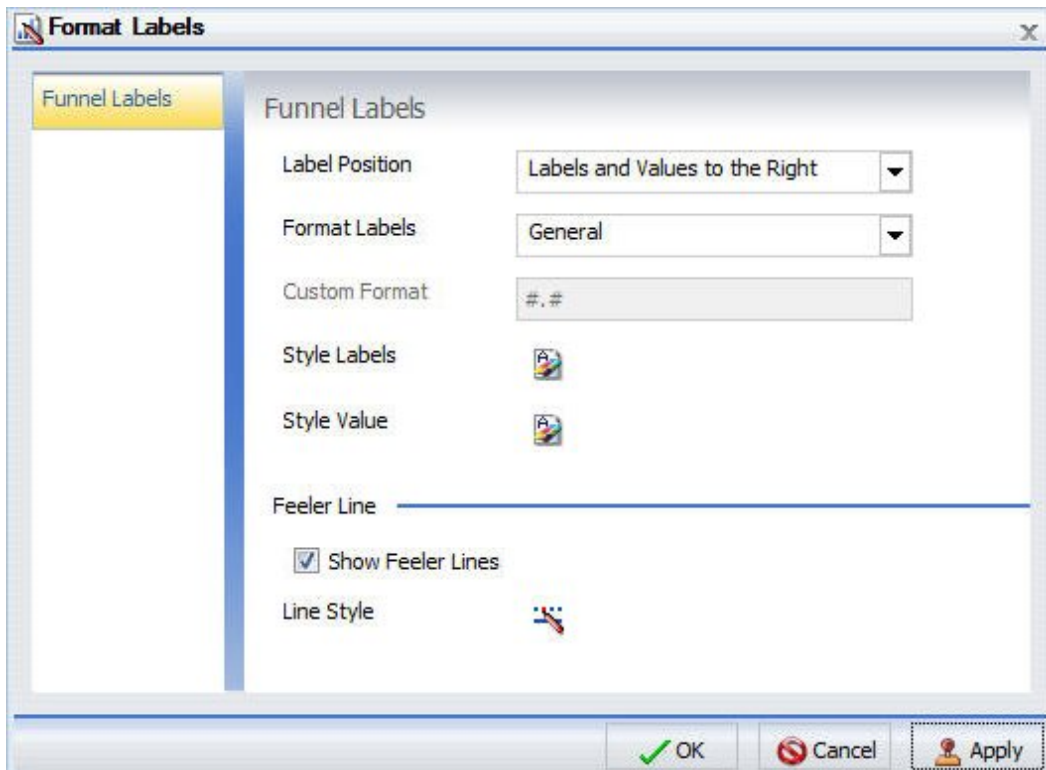
[円タイトル] (Pie Title) タブでは、円タイトルを作成し、スタイルを設定します。下図は、[円タイトル] (Pie Title) ダイアログボックスを示しています。



[円タイトル] (Pie Title) タブには、次のオプションがあります。

- **円タイトルの表示 (Show Pie Title)** (デフォルト) このオプションの選択を解除すると、円タイトルが非表示になります。このオプションを選択すると、円タイトルが表示されます。
- **タイトルスタイル (Style Title)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、円タイトルテキストのスタイルを設定することができます。

[じょうごラベル](Funnel Labels) タブでは、じょうごグラフまたはピラミッドグラフのラベルをカスタマイズします。下図は、[じょうごラベル](Funnel Labels) タブを示しています。



[じょうごラベル] (Funnel Labels) タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの位置 (Label Position)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、じょうごグラフのフィーラ線およびラベルの表示を制御します。
- **ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット (Custom Format)** 定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、前のセクションの表を参照してください。
- **ラベルスタイル (Style Labels)** このボタンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

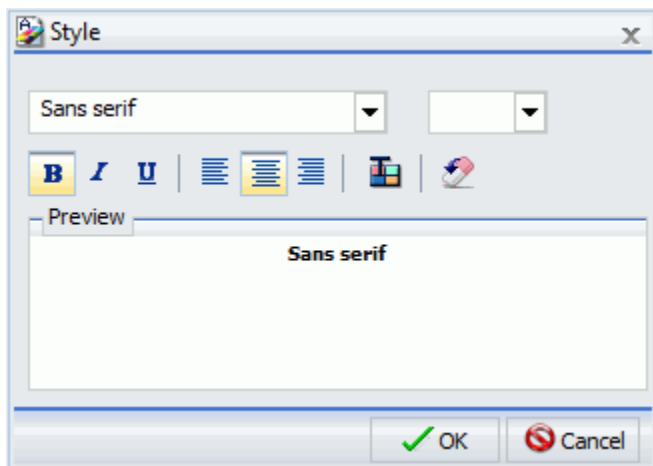
- **値スタイル (Style Value)** [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開いて、値のスタイルを設定することができます。

フィーラ線 (Feeler Line)

- **フィーラ線の表示 (Show Feeler Lines)** (デフォルト) このオプションの選択を解除すると、フィーラ線が非表示になります。このオプションを選択すると、フィーラ線が表示されます。
- **線スタイル (Line Style)** このボタンをクリックして [線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを開き、フィーラ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

スタイルダイアログボックス

[スタイル] (Style) ダイアログボックスには、データラベルのスタイルを設定するオプションが表示されます。下図は、[スタイル] (Style) ダイアログボックスを示しています。



[スタイル] (Style) ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

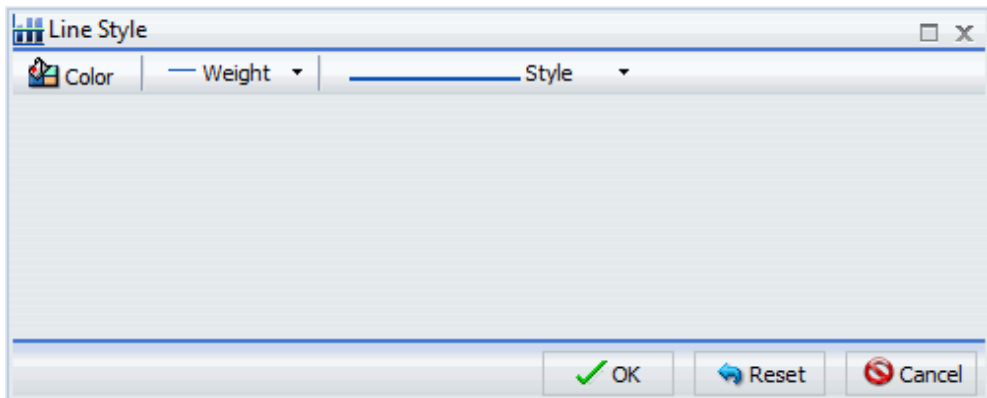
- **フォント (Font)** ドロップダウンメニューを使用して、フォントを変更します。
- **フォントサイズ (Font size)** ドロップダウンリストを使用して、フォントサイズの数値を変更します。
- **フォントスタイル (Font style)** 該当するボタン (太字、斜体、下線) をクリックして、選択したテキストのスタイルを設定します。
- **テキスト配置 (Text alignment)** 該当するボタン (左揃え、中央揃え、右揃え) をクリックして、選択したテキストの位置を揃えます。

- **文字色 (Font color)** このボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フォントの色を選択します。
- **スタイルのリセット (Reset to Quick Styles from Template)** このボタンをクリックして、設定をリセットします。

注意：リセットは、[スタイル] (Style) ダイアログボックスが開いている場合にのみ実行可能です。[OK]をクリックすると、すべての変更が確定されます。確定したグローバルスタイル設定を元に戻すには、クイックアクセスツールバーの [元に戻す] (Undo) コマンドを使用します。

線スタイルダイアログボックス

[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスには、グラフ上の線のスタイルを設定するオプションが表示されます。下図は、[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを示しています。



[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスには、次のオプションがあります。

- **色 (Color)** このボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、線の色を選択します。
- **太さ (Weight)** このボタンをクリックしてドロップダウンメニューを開き、線の太さオプションを選択します。
- **スタイル (Style)** このボタンをクリックしてドロップダウンメニューを開き、線のスタイルオプションを選択します。
- **リセット (Reset)** このボタンをクリックして線をリセットし、デフォルトオプションに戻します。

データラベル要素の右クリックメニュー

棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフのデータラベルを右クリックすると、メニューに次のオプションが表示されます。

- **データラベル (Data Labels)** このオプションを選択して、[表示] (Show) と [非表示] (Hide) を切り替えます。
- **ラベル詳細オプション (More Label Options)** このオプションを選択して、[ラベルフォーマット] (Format Labels) ダイアログボックスを開きます。

この右クリックメニューには、[シリーズ] (Series) タブで選択可能なオプションが含まれています。

円グラフ上でデータラベルを右クリックすると、メニューに次のオプションが表示されます。

- **自動配置 (Smart Positioning)** このオプションをして、データラベルの自動配置を使用します。たとえば、円グラフの円項目が多すぎるためにデータラベルが判別できなくなる場合、データラベルが自動的に円項目の外側に移動し、データラベルと円項目がフィーラ線で接続されます。
- **円項目上 (On Slice)** このオプションを選択して、データラベルを円項目上に表示します。
- **円項目の外側 (Outside Slice)** このオプションを選択して、データラベルを円項目の外側に表示します。
- **外側、フィーラ線付き (Outside with feeler lines)** このオプションを選択して、データラベルをフィーラ線付きで円項目の外側に表示します。

データラベルプロパティの使用

トピックス

シリーズタブのプロパティグループ

ここでは、データラベルをカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

シリーズタブのプロパティグループ

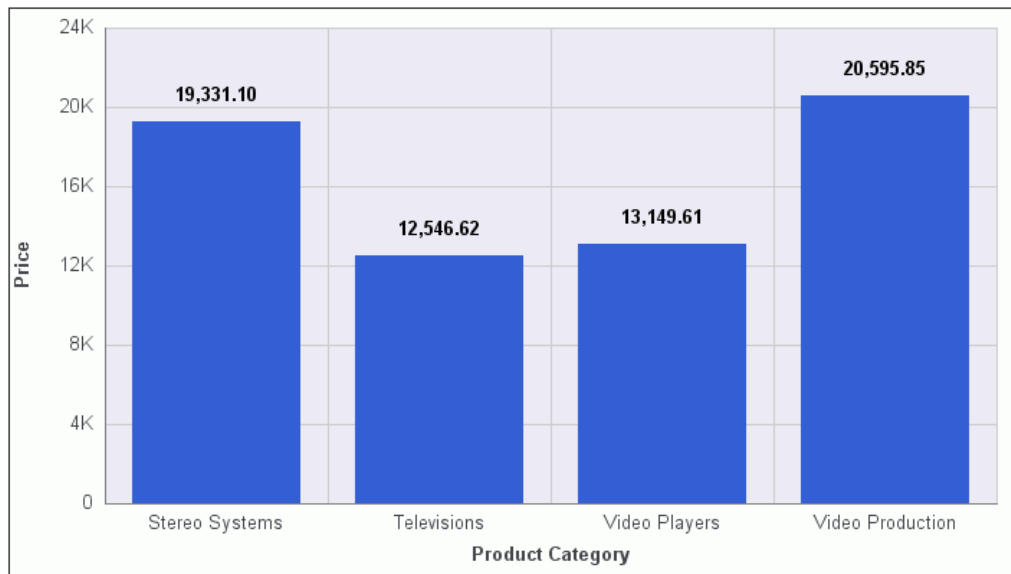
[プロパティ] (Properties) グループには、グラフタイプの変更や傾向性の追加など、選択されたシリーズのグラフオプションを拡張するためのコマンドが表示されます。

手順 データラベルの表示と非表示を切り替えるには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、データラベルを表示するオプションにアクセスし、設定します。
 - **リボン [シリーズ] (Series) タブの [プロパティ] (Properties) グループ**で [データラベル] (Data Labels) ドロップダウンメニューを開き、[データラベル詳細オプション] (More Data Labels Options) を選択して [ラベルフォーマット] (Format Labels) ダイアログボックスを表示します。[全般オプション] (General Options) タブで [データラベルの表示] (Show Data Labels) オプションを選択し、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。このダイアログボックスを使用して、データラベルのフォーマットの指定とスタイルの設定を行えます。詳細は、223 ページの「[ラベルフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。データラベルを非表示にするには、このオプションの選択を解除します。
 - **右クリックメニュー** グラフ上でシリーズを右クリックし、[データラベル] (Data Labels)、[表示] (Show) を順に選択します。データラベルを非表示にするには、グラフ上でシリーズを右クリックし、[データラベル] (Data Labels)、[非表示] (Hide) を順に選択します。

指定したフォーマットおよびスタイルがデータラベルに適用されます。

下図は、データラベルが表示されたグラフを示しています。

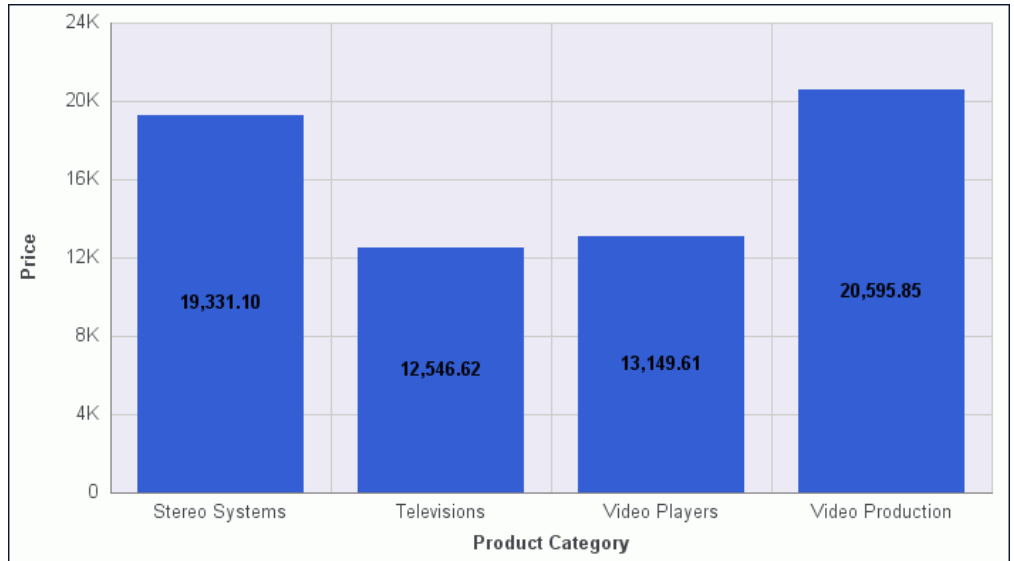


手順

データラベルの位置を変更するには

1. [シリーズ](Series) タブの [プロパティ](Properties) グループで、[データラベル](Data Labels) ドロップダウンメニューを開きます。
2. メニューから、データラベルの位置を選択します。
選択した位置にデータラベルが表示されます。

下図は、データラベルが中央に表示されたグラフを示しています。



凡例のフォーマット設定

トピックス

凡例フォーマットダイアログボックス

凡例要素の右クリックメニュー

凡例プロパティの使用

凡例には、グラフのデータを正確に解釈するために必要な情報が含まれています。デフォルト設定では、グラフには、基軸フィールドが1つの場合は縦軸タイトル、基軸フィールドが複数の場合は凡例が、それぞれ表示されます。

凡例フォーマットダイアログボックス

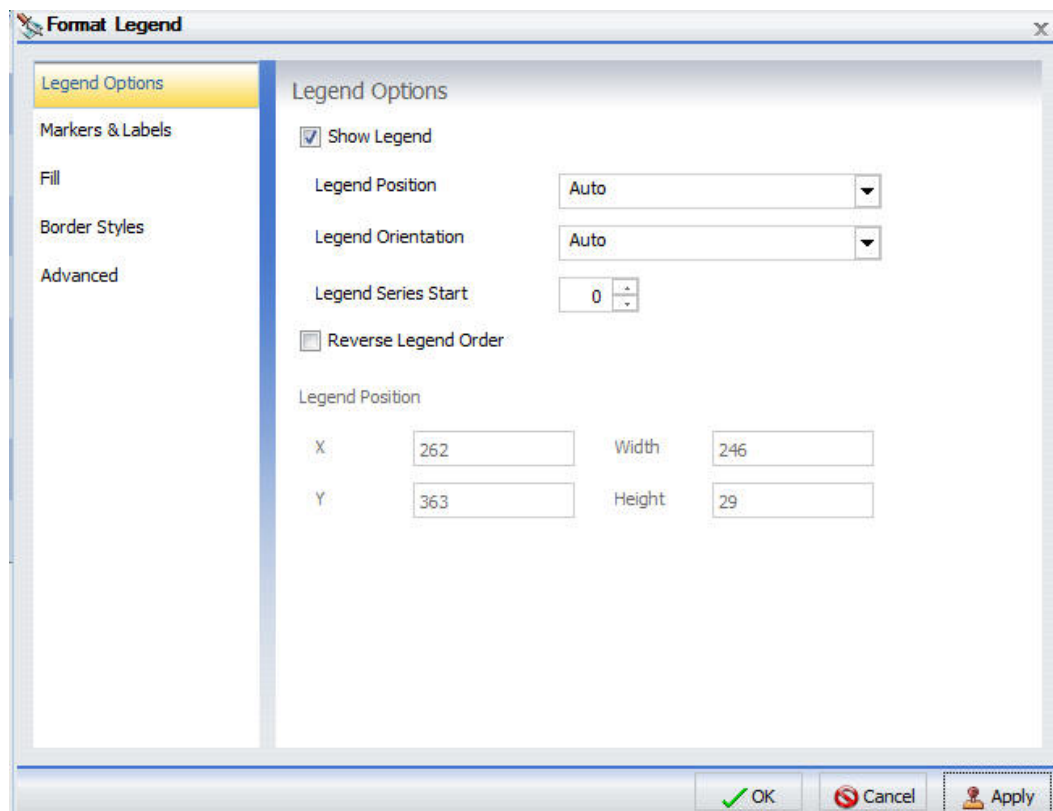
リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用して凡例オプションにアクセスすると、[凡例フォーマット] (Format Legend) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、245 ページの「[凡例プロパティの使用](#)」を参照してください。

[凡例フォーマット] (Format Legend) ダイアログボックスには、グラフ上の凡例のフォーマットを設定するオプションがあります。このダイアログボックスには、次のタブが表示されます。

- ❑ 凡例オプション (Legend Options)
- ❑ マーカーとラベル (Markers & Labels)
- ❑ 塗りつぶし (Fill)
- ❑ 境界スタイル (Border Styles)
- ❑ 詳細 (Advanced)

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、245 ページの「[凡例プロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

[凡例オプション] (Legend Options) タブでは、グラフの凡例の外観をカスタマイズします。下図は、[凡例オプション] (Legend Options) タブを示しています。

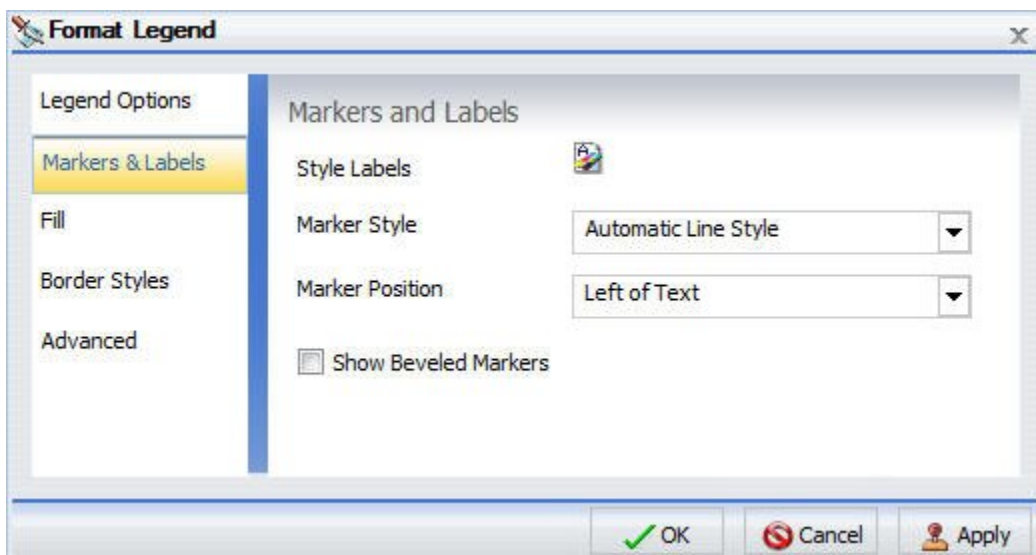


[凡例オプション] (Legend Options) タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **凡例の表示 (Show Legend)** このオプションを選択して、グラフ上に凡例を表示します。このオプションの選択を解除して、グラフ上の凡例を非表示にします。
- ❑ **凡例の位置 (Legend Position)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、グラフ上の凡例の位置を指定します。次のオプションがあります。
 - ❑ 自動 (Auto)
 - ❑ 下 (Bottom)
 - ❑ 右 (Right)
 - ❑ 左 (Left)
 - ❑ 上 (Top)
 - ❑ 右上 (Right Top)
 - ❑ 右下 (Right Bottom)
 - ❑ 左上 (Left Top)
 - ❑ 左下 (Left Bottom)
 - ❑ 下左 (Bottom Left)
 - ❑ 下右 (Bottom Right)
 - ❑ 上左 (Top Left)
 - ❑ 上右 (Top Right)
 - ❑ 自由配置 (Free Float)
- ❑ **凡例の方向 (Legend Orientation)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、凡例エリアの凡例マーカースの方向を制御します。選択可能なオプションには、[自動] (Auto)、[横] (Horizontal)、[縦] (Vertical) があります。
- ❑ **凡例シリーズの開始位置 (Legend Series Start)** このオプションを使用して、凡例エリアに表示する最初のシリーズを指定します。
- ❑ **凡例順を逆にする (Reverse Legend Order)** このオプションを選択して、表示する凡例の順序を逆にします。このオプションの選択を解除して、凡例を通常の順序で表示します。
- ❑ **凡例の位置 (Legend Position)**

- **X** 凡例の左上隅の位置を制御します。
- **幅 (Width)** 凡例の幅を制御します。
- **Y** 凡例の左上隅の位置を制御します。
- **高さ (Height)** 凡例の高さを制御します。

[マーカーとラベル] (Markers & Labels) タブでは、凡例のマーカーとラベルの外観をカスタマイズします。下図は、[マーカーとラベル] (Markers & Labels) タブを示しています。



[マーカーとラベル] (Markers & Labels) タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルスタイル (Style Labels)** このボタンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。
- **マーカースタイル (Marker Style)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、凡例の線スタイルを編集します。次のオプションがあります。
 - マーカーのみ (Markers Only)
 - 線スタイルのみ (Line Style Only)
 - マーカーと線スタイル (Markers and Line Style)
 - 線スタイル自動 (Automatic Line Style)

- **マーカーの位置 (Marker Position)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、テキストの位置を基準として凡例マーカーの相対的な位置を設定します。次のオプションがあります。
 - テキストの左 (Left of Text)
 - テキストの右 (Right of Text)
 - テキストの上 (Above Text)
 - テキストの下 (Below Text)
 - テキスト上 (On Text)

- **凡例斜角 (Show Beveled Markers)** このオプションを選択して、マーカーを斜角付きで表示します。このオプションの選択を解除して、マーカーの斜角を削除します。

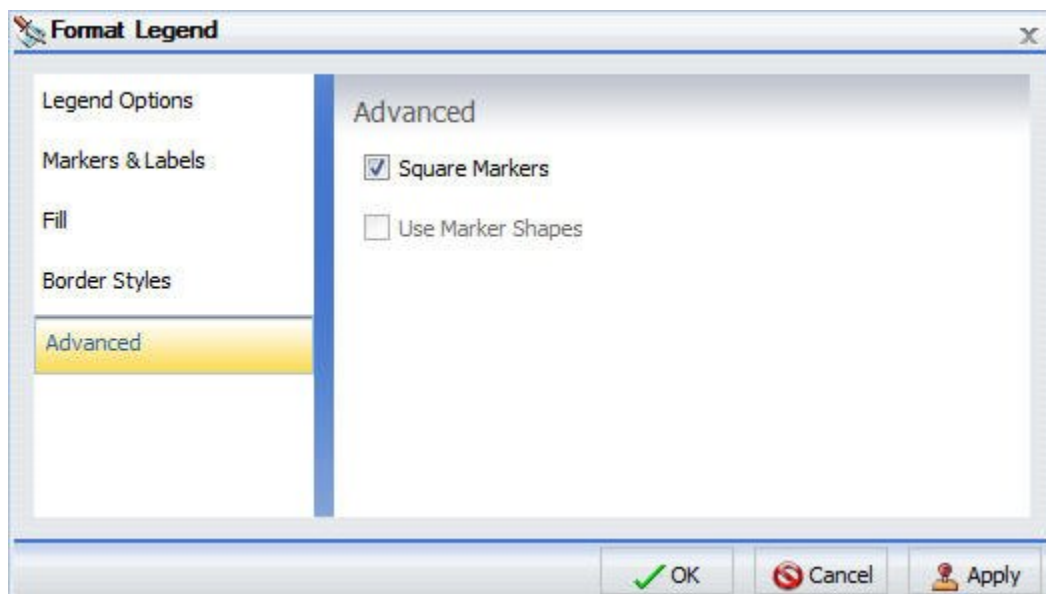
[塗りつぶし](Fill) タブでは、凡例領域の色を変更します。詳細は、184 ページの「[シリーズフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

[境界スタイル](Border Styles) タブでは、凡例の周囲に境界を配置します。詳細は、184 ページの「[シリーズフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

[境界スタイル](Border Styles) タブには、次のオプションがあります。

- **境界の表示 (Show Borders)** このオプションを選択して、凡例の周囲に境界を配置します。
- **色 (Color)** [境界の表示](Show Border) オプションを選択した場合に、このボタンをクリックして [色](Color) ダイアログボックスを開き、境界の色を選択することができます。

[詳細] (Advanced) タブでは、四角い凡例マーカの表示、およびマーカ形状の使用を制御します。下図は、[詳細設定] (Advanced) タブを示しています。



[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

- **四角いマーカ (Square Markers)** このオプションを選択して、凡例に四角いマーカを表示します。
- **マーカ形状を使用 (Use Marker Shapes)** このオプションを選択して、凡例にマーカ形状を表示します。

凡例要素の右クリックメニュー

グラフ上で凡例を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。このメニューには、[フォーマット] (Format) タブで選択可能なオプションが含まれています。

凡例の背景エリアを右クリックすると、[凡例領域色] (Legend Area Color) と [凡例の境界色] (Legend Border Color) という 2 つの追加オプションが表示されます。下表は、これらの右クリックメニューオプションの説明です。説明内のリンクを使用して、このマニュアルに記載された各メニューオプションのセクションに移動することもできます。

オプション	説明
凡例表示 (Show Legend)	<p>凡例の表示を制御します。デフォルト設定では、凡例は表示されます。このオプションの選択を解除すると、凡例が非表示になります。詳細は、245 ページの「凡例プロパティの使用」を参照してください。</p> <p>背景の右クリックメニューオプションで、非表示の凡例を再表示することができます。</p>
凡例の位置 (Legend Position)	<p>グラフの凡例の配置を制御します。詳細は、245 ページの「凡例プロパティの使用」を参照してください。</p>
凡例の方向 (Legend Orientation)	<p>グラフの凡例の方向を制御します。詳細は、245 ページの「凡例プロパティの使用」を参照してください。</p>
凡例領域色 (Legend Area Color)	<p>[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、凡例領域の背景色を指定することができます。</p> <p>このオプションは、凡例周囲のエリアを右クリックした場合にのみ有効になります。詳細は、245 ページの「凡例プロパティの使用」を参照してください。</p>
凡例の境界色 (Legend Border Color)	<p>[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、凡例の境界色を指定することができます。</p> <p>このオプションは、凡例周囲のエリアを右クリックした場合にのみ有効になります。詳細は、245 ページの「凡例プロパティの使用」を参照してください。</p>
凡例詳細オプション (More Legend Options)	<p>[凡例フォーマット] (Format Legend) ダイアログボックスを開きます。</p>

凡例プロパティの使用

トピックス

フォーマットタブのラベルグループ

ここでは、凡例をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

フォーマットタブのラベルグループ

手順

凡例を非表示にするには

1. 複数の基軸フィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [凡例の表示] (Show legend) オプションの選択を解除します。
 - **リボン [フォーマット](Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [凡例] (Legend) ドロップダウンメニューを開き、[凡例の表示] (Show legend) オプションの選択を解除します。**
 - **右クリックメニュー** 凡例を右クリックし、[凡例の表示] (Show Legend) オプションの選択を解除します。

凡例が非表示になります。

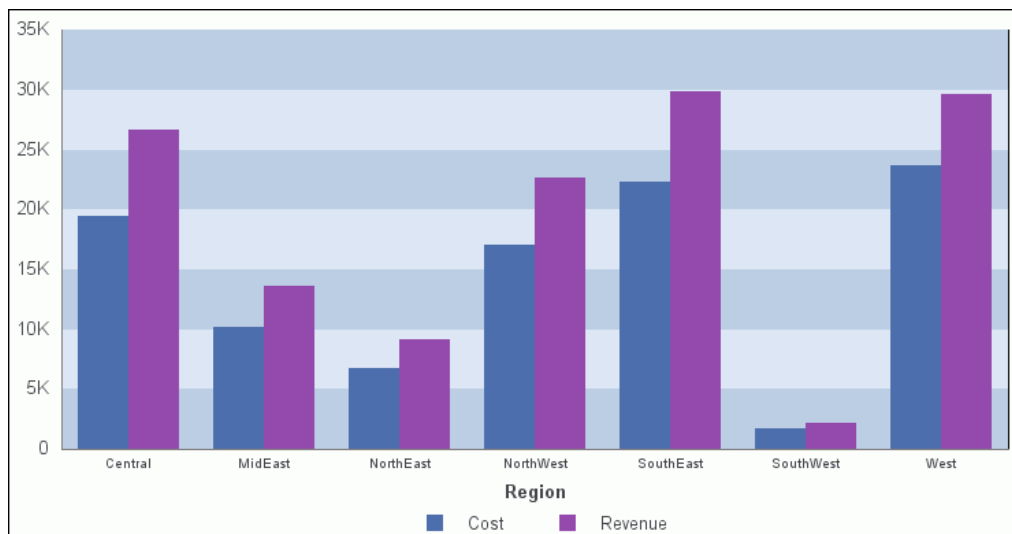
手順

凡例の位置を指定するには

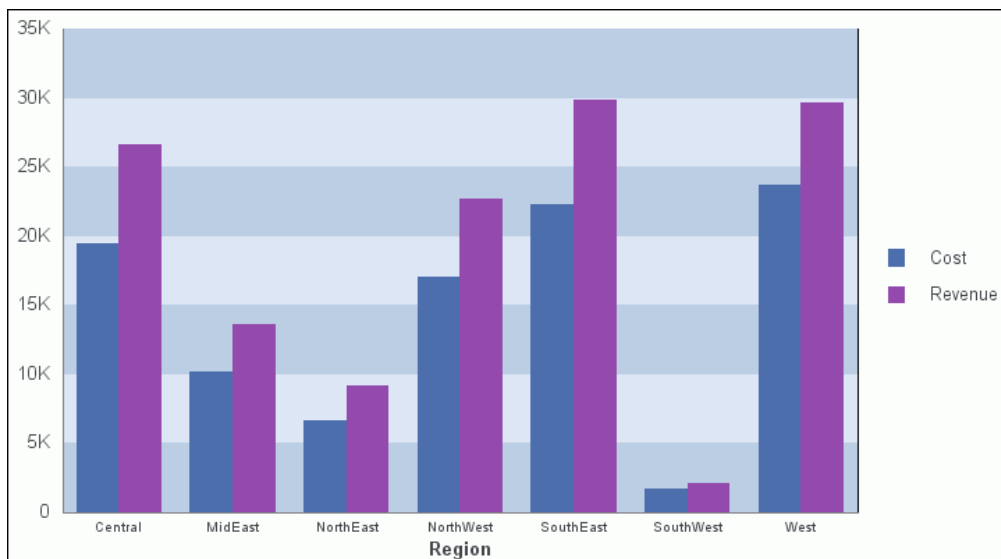
1. 複数の基軸フィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法でラベル位置オプションのメニューを開きます。
 - **リボン [フォーマット](Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [凡例] (Legend) ドロップダウンメニューを開き、[凡例の位置] (Legend Position) オプションを選択します。**
 - **右クリックメニュー** 凡例を右クリックし、[凡例の位置] (Legend Position) を選択します。
3. 凡例の位置を選択します。次のオプションがあります。
 - 自動 (Auto)

- 下 (Bottom)
- 右 (Right)
- 左 (Left)
- 上 (Top)
- 右下 (Right bottom)
- 右上 (Right top)
- 左下 (Left bottom)
- 下右 (Bottom right)
- 上右 (Top right)
- 下左 (Bottom left)
- 上左 (Top left)

下図のグラフでは、凡例がグラフの下側に表示されています。これがデフォルトの位置です。



下図は、凡例を右側に移動したグラフを示しています。

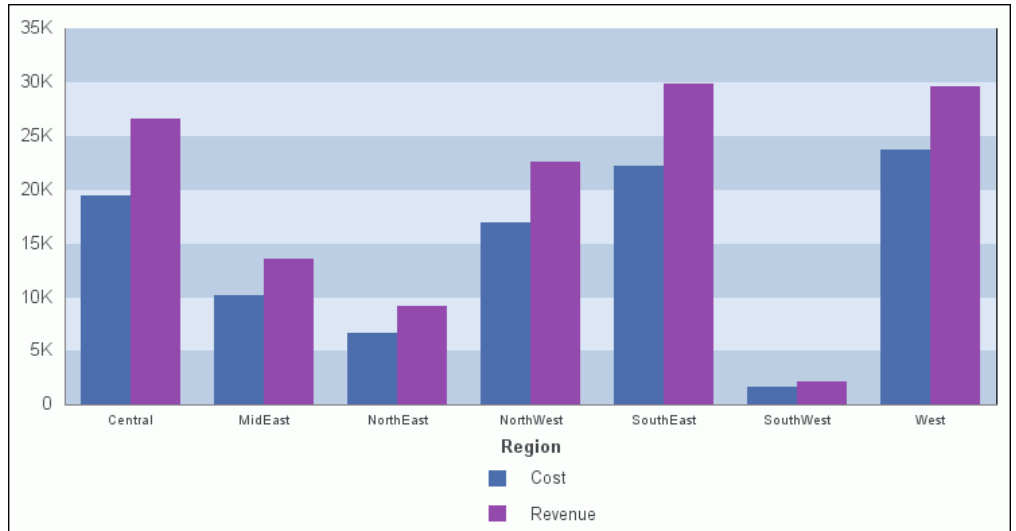


手順

凡例の方向を制御するには

1. 複数の基軸フィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で凡例方向オプションのメニューを開きます。
 - リボン** [フォーマット](Format) タブの [ラベル](Labels) グループで [凡例](Legends) ドロップダウンメニューを開き、[凡例の方向] (Legend Orientation) オプションを選択します。
 - 右クリックメニュー** 凡例を右クリックし、[凡例の方向] (Legend Orientation) を選択します。
3. 凡例の方向を選択します。
次のオプションがあります。
 - 自動 (Auto)
 - 縦 (Vertical)
 - 横 (Horizontal)

下図は、凡例が縦方向に表示されたグラフを示しています。



手順

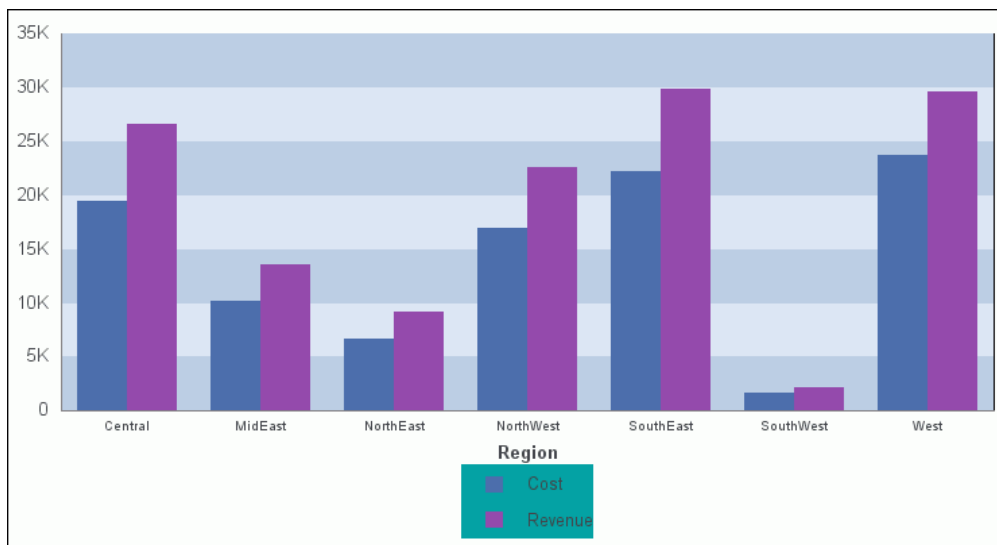
凡例の背景色を指定するには

1. 複数の基軸フィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [凡例フォーマット] (Format Legends) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [凡例] (Legends) ドロップダウンメニューを開き、[凡例詳細オプション] (More Legend Options) を選択します。**
 - **右クリックメニュー** 凡例を右クリックし、[凡例詳細オプション] (More Legend Options) を選択します。

[凡例フォーマット] (Format Legends) ダイアログボックスが開きます。詳細は、238 ページの「[凡例フォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

3. [塗りつぶし] (Fill) タブで、凡例の背景に適用する塗りつぶし、色、透明度のオプションを設定します。
4. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
指定したフォーマットが凡例に適用されます。

下図は、凡例の背景色が青緑に設定されたグラフを示しています。



手順

凡例の境界色を指定するには

1. 複数の基軸フィールドを使用してグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [凡例フォーマット] (Format) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [凡例] (Legends) ドロップダウンメニューを開き、[凡例詳細オプション] (More Legend Options) を選択します。
 - 右クリックメニュー 凡例を右クリックし、[凡例詳細オプション] (More Legend Options) を選択します。

[凡例フォーマット] (Format Legends) ダイアログボックスが開きます。詳細は、238 ページの「[凡例フォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

3. [境界スタイル] (Border Styles) タブで、[境界の表示] (Show Border) オプションを選択します。
4. [色] (Color) アイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、凡例の境界色を設定することができます。
5. [OK] をクリックして、[色] (Color) ダイアログボックスを閉じます。

6. [OK] をクリックして、[凡例フォーマット] (Format Legend) ダイアログボックスを閉じます。

指定したフォーマットが凡例の境界に適用されます。

罫線のフォーマット設定

トピックス

罫線のフォーマットダイアログボックス

罫線要素の右クリックメニュー

罫線プロパティの使用

グラフで罫線を参照として使用すると、データの数量および値が理解しやすくなるとともに、軸の情報が解析しやすくなります。グラフ上で表示および編集が可能な罫線には 4 つのタイプがあります。

- 横主罫線
- 横補助罫線
- 縦主罫線
- 縦補助罫線

主罫線を表示することで、値の読み取りが容易になります。また、補助罫線は主罫線を補完するものです。プロットポイントが主罫線と主罫線の間配置される場合、補助罫線を使用すると、データをより正確に解釈することができます。

- 縦方向のグラフでは、縦罫線は X 軸に交差します。
- 縦方向のグラフでは、横罫線は Y 軸に交差します。
- 横主罫線を使用すると、Y 軸の目盛りのみを使用する場合に比べて、値の読み取りがより正確になります。多くのグラフでは、横罫線はデフォルト設定で有効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。
- 横補助罫線は、デフォルト設定では無効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。

- ❑ 縦主罫線を使用すると、X 軸の目盛りのみを使用する場合に比べて、値の読み取りがより正確になります。これらは、デフォルト設定で有効になっています。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。
- ❑ 縦補助罫線は、デフォルト設定では無効になっています。これらは、X 軸が数値の散布図およびバブルグラフにのみ適用されます。これらは、円グラフ、3D グラフ、メータグラフ、ブロック地図、じょうごグラフには適用されません。

注意：使用可能な罫線オプションは、グラフの方向により決定されます。

罫線のフォーマットダイアログボックス

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用して罫線オプションにアクセスすると、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、グラフ上の縦横罫線、色バンド、フレームのフォーマットを設定します。

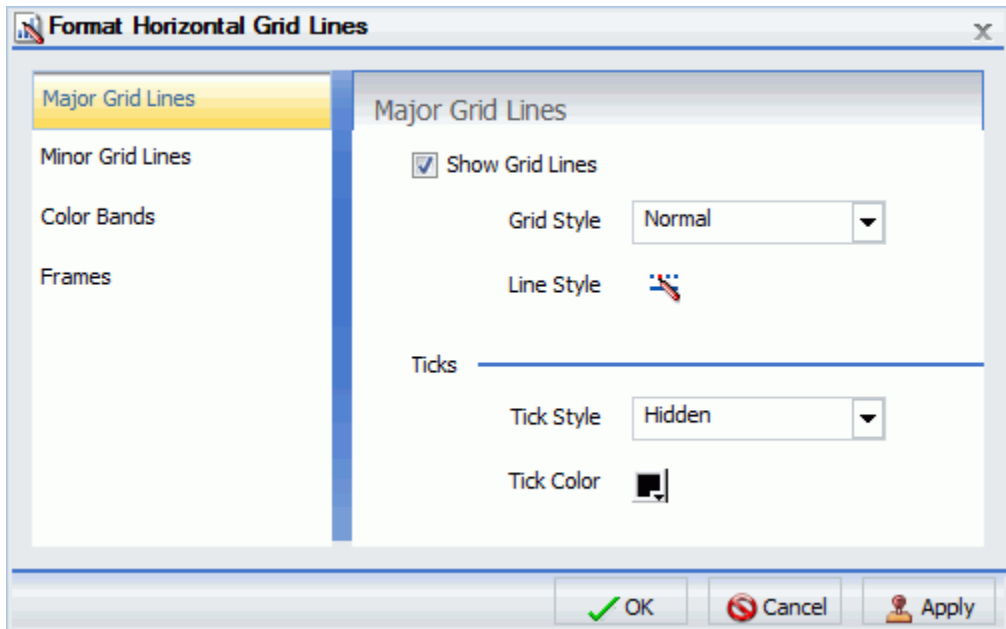
色バンドは 2 色で構成され、各バンドにそれぞれ異なる色を使用します。色バンドは、グラフ上のシリーズの背後に、連続したパターンとして表示されます。交互に配色することで、グラフの読み取りが容易になります。

代替フォーマットを使用して、軸の各セクション（「領域」と呼ばれる）にそれぞれ異なる色を適用することができます。

[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- ❑ 主罫線を表示 (Major Grid Lines)
- ❑ 補助罫線を表示 (Minor Grid Lines)
- ❑ 色バンド (Color Bands)
- ❑ フレーム (Frames)

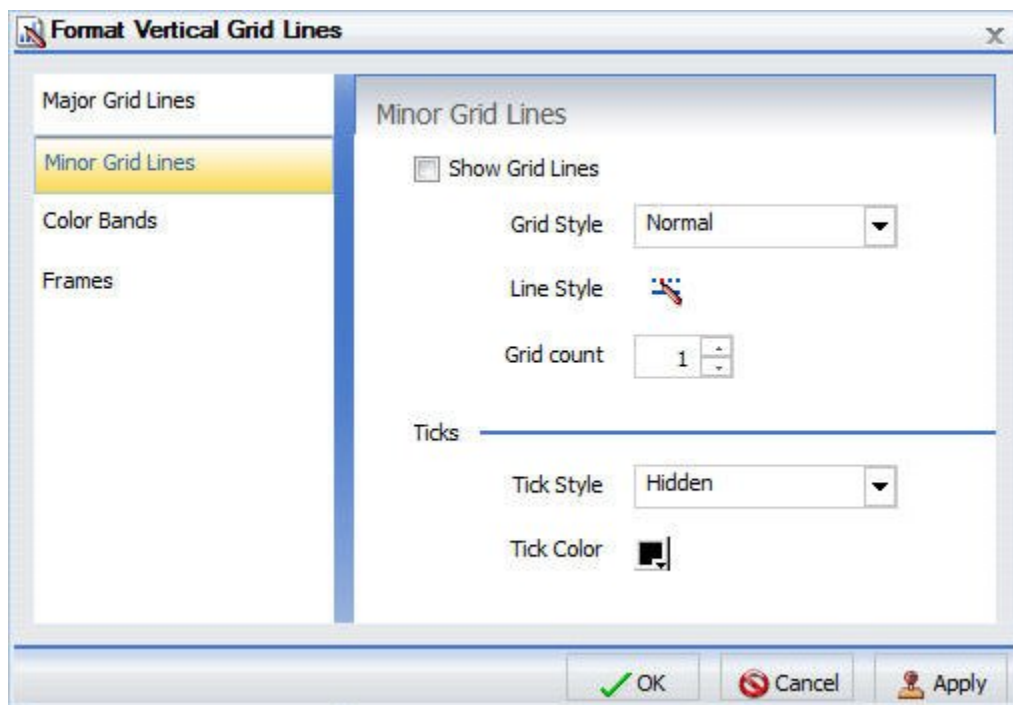
[主罫線] (Major Grid Lines) タブでは、グラフの主罫線のフォーマットを設定します。下図は、[主罫線] (Major Grid Lines) タブを示しています。



[主罫線] (Major Grid Lines) タブには、次のオプションがあります。

- **罫線の表示 (Show Grid Lines)** デフォルト設定でグラフに補助罫線のみが表示されている場合、このオプションを選択してグラフに主罫線を表示します。
- **罫線スタイル (Grid Style)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、目盛りを罫線の内側または外側に追加するなど、罫線のスタイルを編集することができます。
- **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **目盛りスタイル (Tick Style)** このドロップダウンメニューから目盛りスタイルを選択します ([内側] (Inside)、[外側] (Outside)、[両側] (Spanning)、[非表示] (Hidden))。
- **目盛りの色 (Tick Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、目盛りの色を編集することができます。

[補助罫線] (Minor Grid Lines) タブでは、グラフの補助罫線のフォーマットを設定します。下図は、[補助罫線] (Minor Grid Lines) タブを示しています。

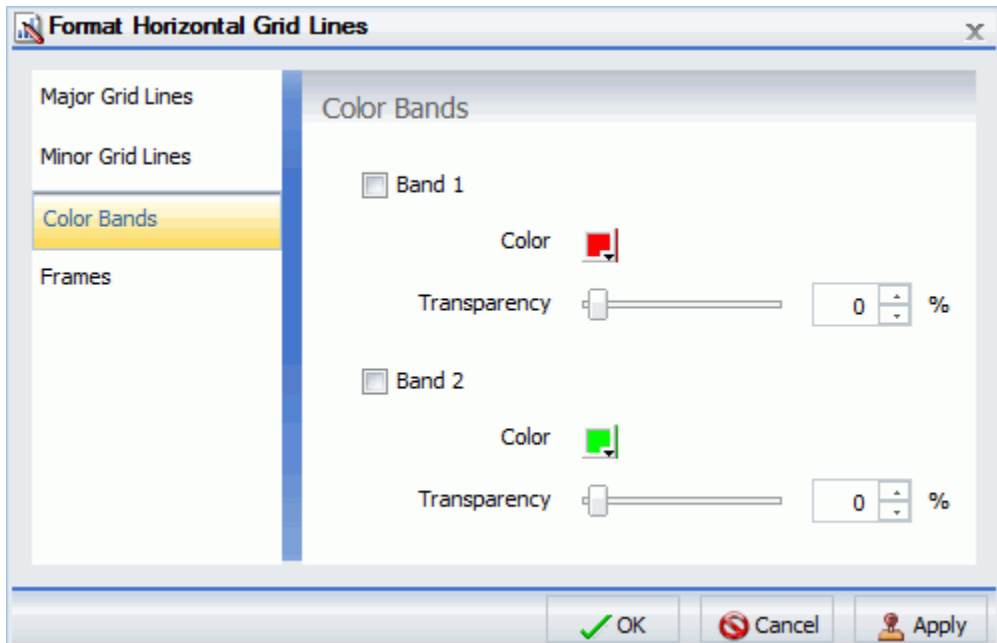


[補助罫線] (Minor Grid Lines) タブには、次のオプションがあります。

- **罫線の表示 (Show Grid Lines)** このオプションを選択して、グラフに補助罫線を表示します。デフォルト設定では、このオプションは有効に設定されています。
- **罫線スタイル (Grid Style)** このドロップダウンメニューからオプションを選択して、罫線のスタイルを編集します。次のオプションがあります。
 - 標準 (Normal)
 - 標準 - 外側に目盛り (Normal with tick outside)
 - 標準 - 内側に目盛り (Normal with tick inside)
 - 両側に目盛り (Tick spanning)
- **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを開き、罫線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **罫線間隔 (Grid count)** 主罫線間に表示する補助罫線数を設定します。

- **目盛りスタイル (Tick Style)** このドロップダウンメニューから目盛りスタイルを選択します。次のオプションがあります。
 - 内側 (Inside)
 - 外側 (Outside)
 - 両側 (Spanning)
 - 非表示 (Hidden)
- **目盛りの色 (Tick Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、目盛りの色を編集することができます。

[色バンド] (Color Bands) タブでは、グラフの色バンドのフォーマットを設定します。下図は、[色バンド] (Color Bands) タブを示しています。

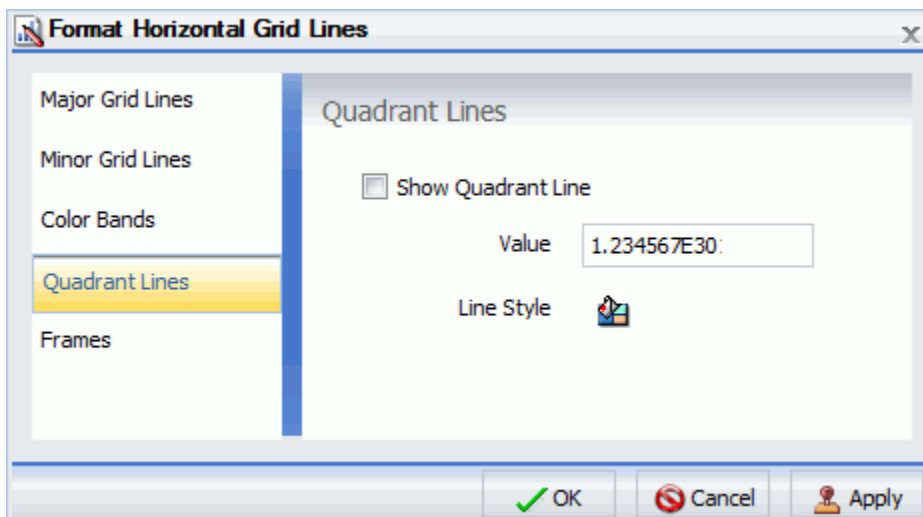


[色バンド] (Color Bands) タブには、次のオプションがあります。

- **バンド 1 (Band 1)** このオプションを選択して、バンド 1 をグラフに追加します。
 - **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、バンド 1 の色を編集することができます。

- **透明度 (Transparency)** スライダーを移動して、バンド 1 の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
- **%** バンド 1 の透明度のパーセントを入力または選択します。
- **バンド 2 (Band 2)** このオプションを選択して、バンド 2 をグラフに追加します。
 - **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、バンド 2 の色を編集することができます。
 - **透明度 (Transparency)** スライダーを移動して、バンド 2 の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
 - **%** バンド 2 の透明度のパーセントを入力または選択します。

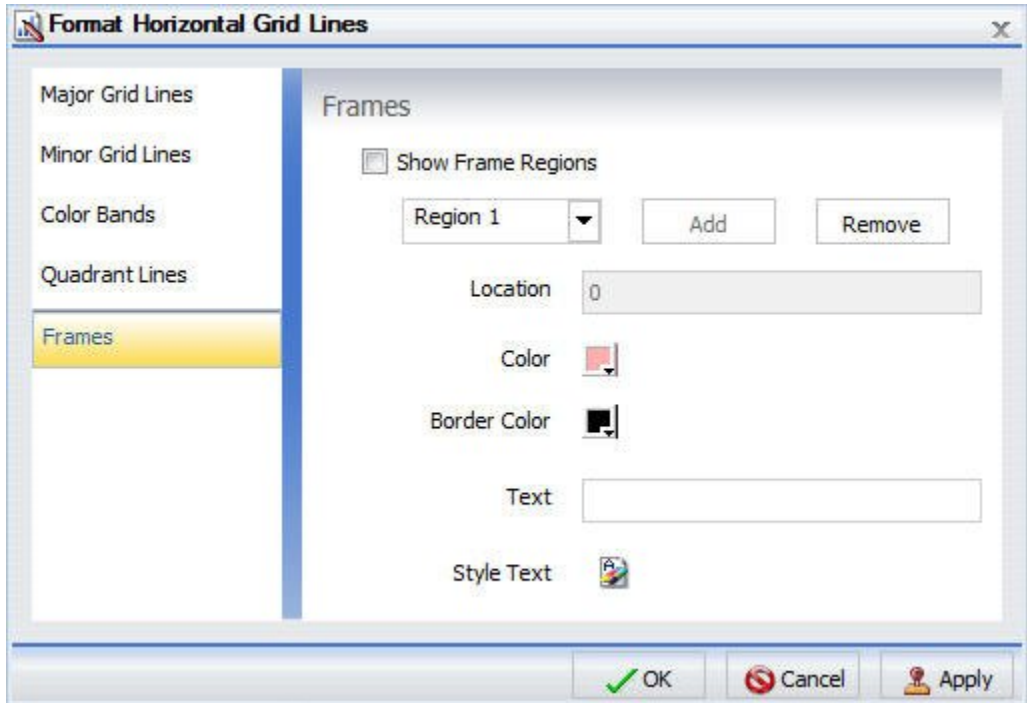
[四分線] (Quadrant Lines) タブでは、散布図およびバブルグラフの四分線の配置およびスタイルを制御します。下図は、[四分線] (Quadrant Lines) タブを示しています。



[四分線] (Quadrant Lines) タブには、次のオプションがあります。

- **四分線の表示 (Show Quadrant Line)** このオプションを選択して、四分線を表示します。このオプションの選択を解除して、四分線を非表示にします。
- **値 (Value)** X 軸上に配置する四分線の位置を制御する値を入力します。
- **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを開き、四分線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

[フレーム](Frames) タブでは、フレーム領域の表示と非表示を切り替えたり、フレームテキストの位置とスタイルを設定したりします。下図は、[フレーム](Frames) タブを示しています。



[フレーム](Frames) タブには、次のオプションがあります。

- **フレーム領域の表示 (Show Frame Regions)** このオプションを選択して、フレーム領域を表示します。このオプションの選択を解除して、フレーム領域を非表示にします。
- **領域 (Region)** このドロップダウンメニューから、フォーマットを設定する領域を選択します。
- **追加 (Add)** このボタンをクリックして、領域を追加します。
- **削除 (Remove)** このボタンをクリックして、領域を削除します。
- **位置 (Location)** 領域の位置を入力します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] ダイアログボックスを開き、フレームの色を編集します。

- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フレーム境界の色を編集します。
- **テキスト (Text)** フレーム上に表示するテキストを入力します。
- **テキストスタイル (Style Text)** このアイコンをクリックして、フレームテキストのスタイルを設定します。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、258 ページの「[罫線プロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

罫線要素の右クリックメニュー

グラフ上で罫線を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。下表は、罫線要素のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
横主罫線 横補助罫線	削除 (Delete)	グラフから罫線を削除し、[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューを更新します。
縦主罫線 縦補助罫線	線色の設定 (Set Line Color)	[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、罫線の色を指定することができます。詳細は、44 ページの「 色ダイアログボックス 」を参照してください。
	罫線詳細オプション (More Grid Lines Options)	[罫線フォーマット] (Format Gridlines) ダイアログボックスを開きます。詳細は、251 ページの「 罫線のフォーマットダイアログボックス 」を参照してください。

罫線プロパティの使用

トピックス

フォーマットタブの機能グループ

ここでは、罫線をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

フォーマットタブの機能グループ

グラフの [機能] (Features) グループには、グラフの回転や注釈オプションなど、カスタムグラフ機能を選択するためのコマンドが表示されます。

手順

横主罫線を表示するには

デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。

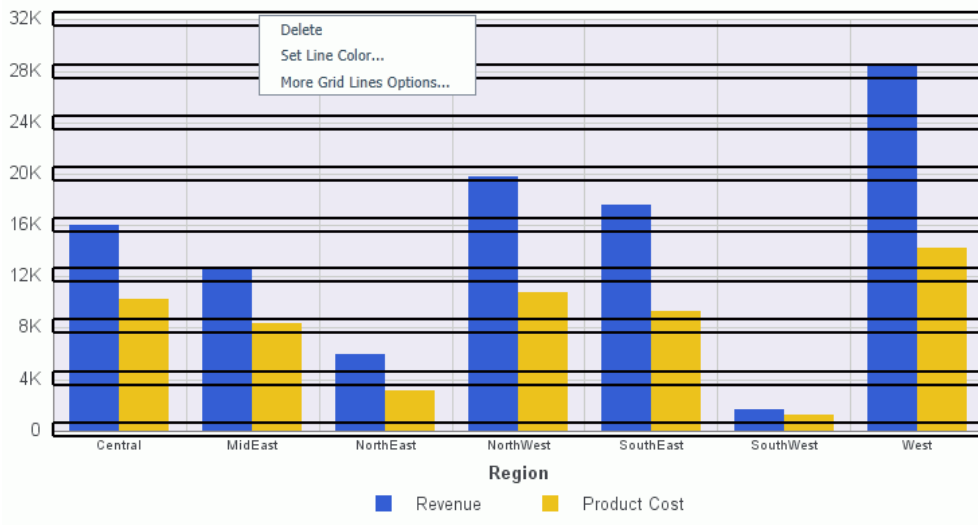
1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで [罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開き、[横罫線] (Horizontal Gridlines)、[罫線詳細オプション] (Major Gridlines) を順に選択します。

[横罫線のフォーマット] (Format Horizontal Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。

3. [主罫線] (Major Grid Lines) タブで、[主罫線の表示] (Show Major Grid Lines) を選択します。

横主罫線がグラフに追加されます。

下図は、横主罫線が表示されたグラフを示しています。この図では、横主罫線がハイライト表示され、右クリックメニューが開いています。



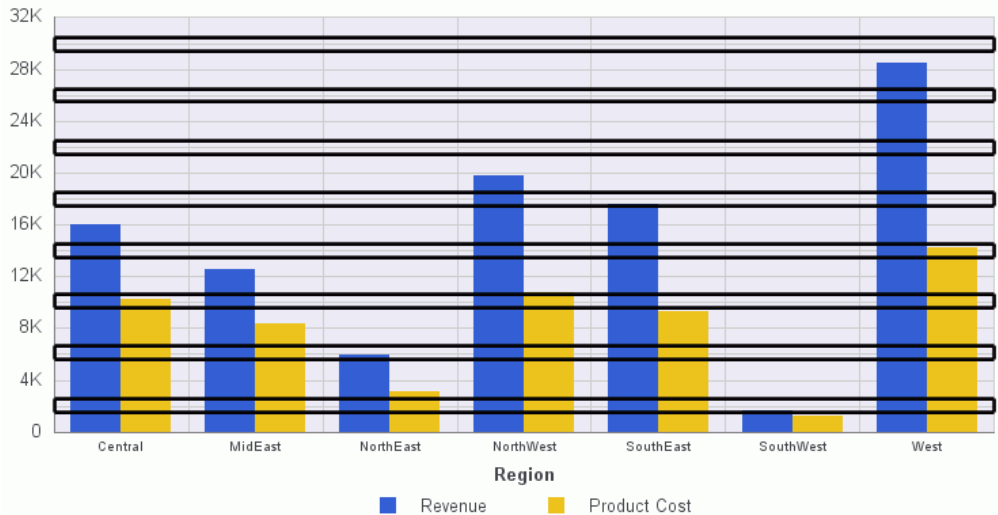
手順

横補助罫線を表示するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスし、表示させます。
 - **リボン [フォーマット](Format) タブの [機能](Features) グループで、[罫線](Grid) ドロップダウンメニューを開きます。** [罫線](Grid) ドロップダウンメニューから、[横罫線](Horizontal Gridlines)、[罫線詳細オプション](More Grid Lines Options) を順に選択します。
 - **右クリックメニュー** グラフ上の横主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション](More Grid Line Options) を選択します。[横罫線のフォーマット](Format Horizontal Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。[補助罫線](Minor Grid Lines) タブで、[罫線の表示](Show Minor Grid Lines) を選択します。

横補助罫線がグラフに追加されます。

下図は、横補助罫線が表示されたグラフを示しています。この図では、横補助罫線がハイライト表示されています。



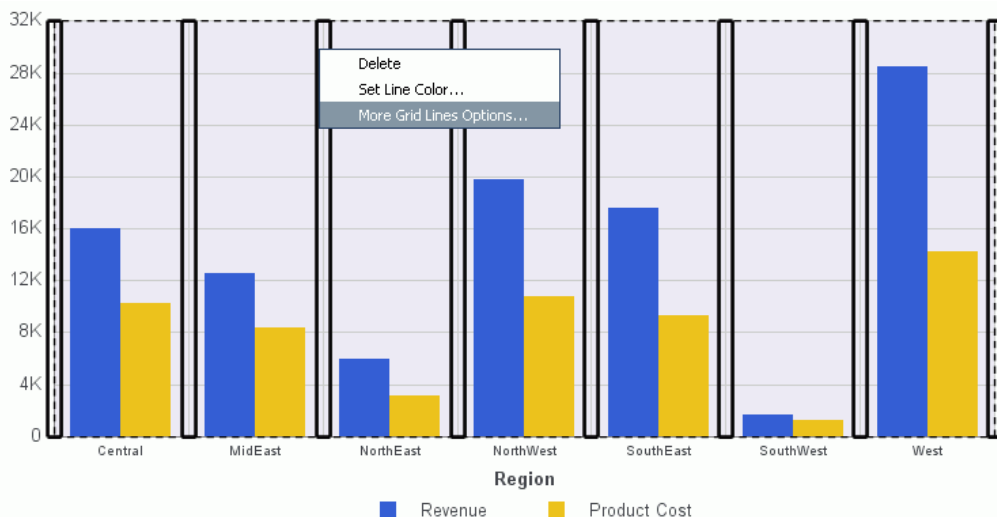
手順

縦主罫線を表示するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスします。
 - **リボン [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開き、[縦罫線] (Vertical Gridlines)、[罫線詳細オプション] (Major Gridlines) を順に選択します。**
 - **右クリックメニュー** グラフ上の縦主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] (More Grid Line Options) を選択します。[縦罫線のフォーマット] (Format Vertical Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。デフォルト設定でグラフに罫線が表示されていない場合は、この手順に従って罫線を表示することができます。[主罫線] (Major Grid Lines) タブで、[主罫線の表示] (Show Major Grid Lines) を選択します。

縦主罫線がグラフに追加されます。

下図は、縦主罫線が表示されたグラフを示しています。この図では、縦主罫線がハイライト表示され、右クリックメニューが開いています。



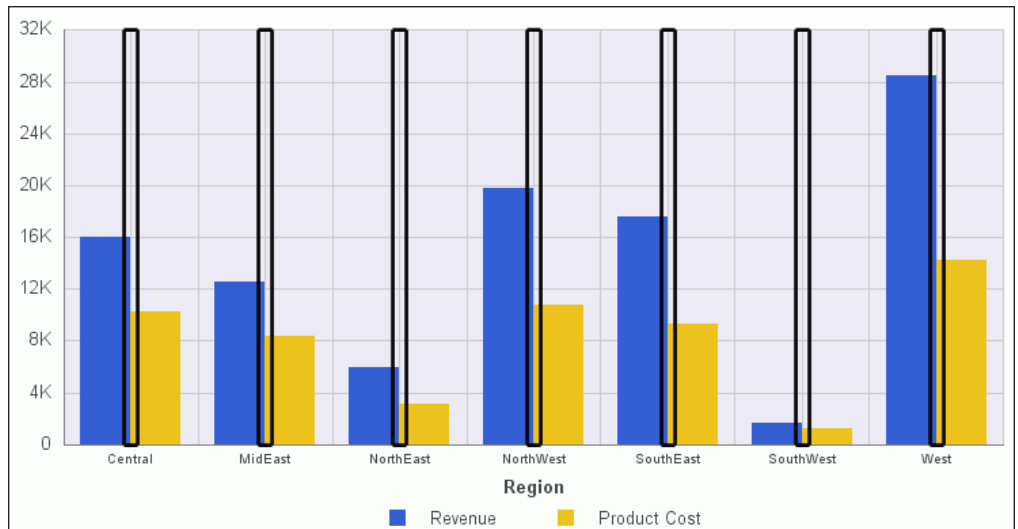
手順

縦補助罫線を表示するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、罫線を表示するオプションにアクセスし、表示させます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開きます。[罫線] (Grid) ドロップダウンメニューから、[縦罫線] (Vertical Gridlines)、[罫線詳細オプション] を順に選択します。
 - **右クリックメニュー** グラフ上の縦主罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] (More Grid Line Options) を選択します。[縦罫線のフォーマット] (Format Vertical Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。[補助罫線] (Minor Grid Lines) タブで、[罫線の表示] (Show Grid Lines) を選択します。

縦補助罫線線がグラフに追加されます。

下図は、縦補助罫線が表示されたグラフを示しています。この図では、縦補助罫線がハイライト表示されています。



手順

罫線の色、太さ、スタイルを設定するには

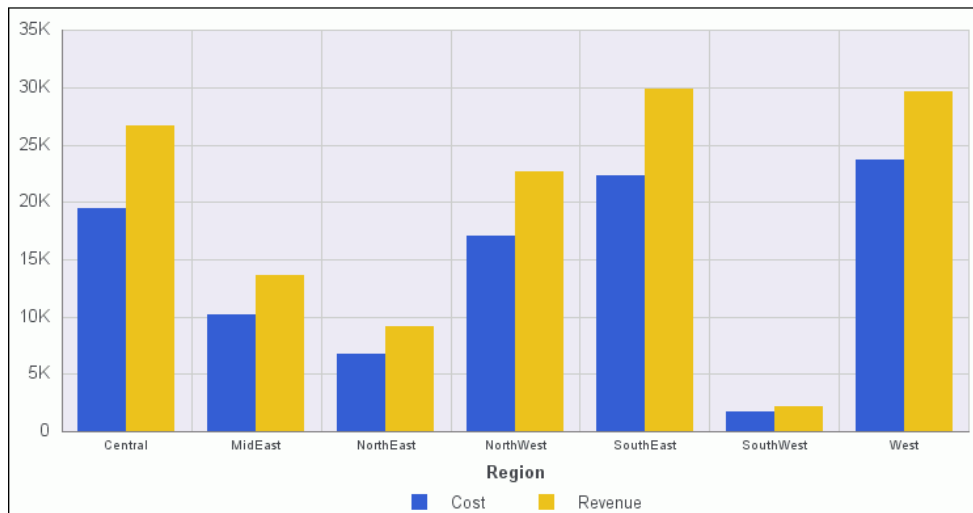
1. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで [罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線タイプを選択した後、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。
 - **右クリックメニュー** 罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。

[横罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。

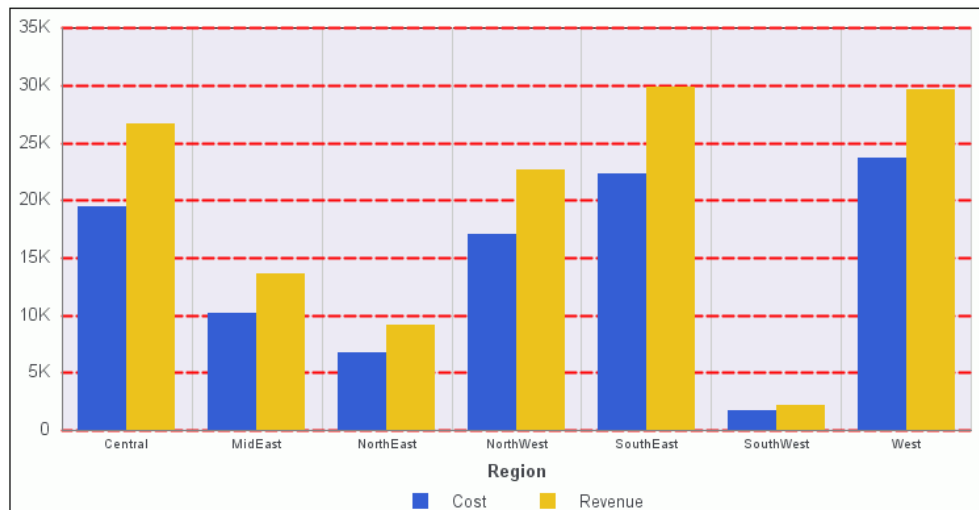
2. [線スタイル] (Line Style) アイコンをクリックします。
[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスが開きます。
3. 罫線の色、太さ、スタイルを設定します。
4. [OK] をクリックして、[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスを閉じます。
5. [OK] を再度クリックして、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを閉じます。

指定したフォーマットが罫線に適用されます。

下図は、デフォルトの罫線スタイルが適用されたグラフを示しています。



下図は、赤色、破線、太さがふつうの罫線スタイルが適用された同一グラフを示しています。



手順

目盛りを設定するには

目盛りは、軸に垂直に交わる短い線です。軸に特定の間隔で目印を付ける場合に目盛りを使用します。

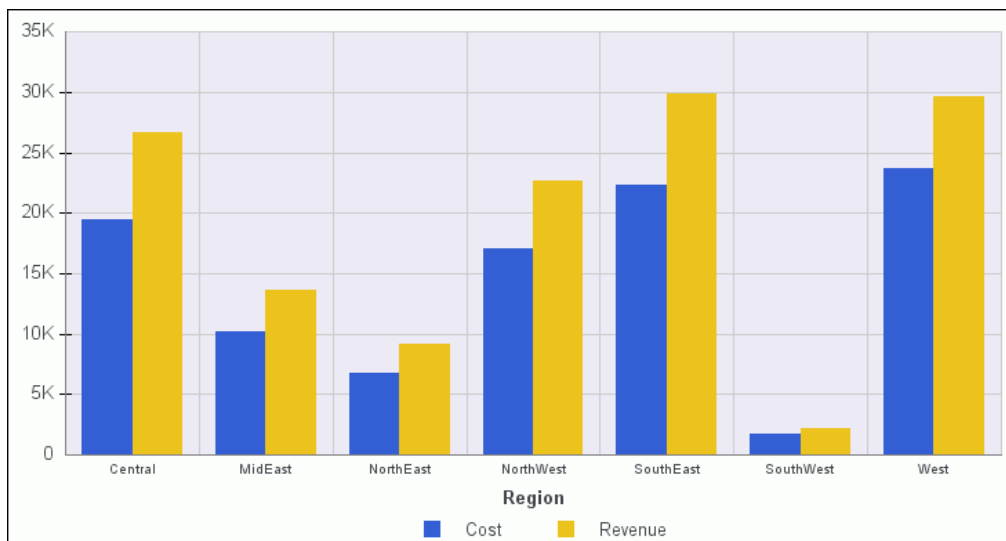
1. 罫線が表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで [罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線タイプを選択した後、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。
 - **右クリックメニュー** 罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。

[横罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。

3. [目盛りスタイル] (Tick Style) ドロップダウンメニューから、目盛りスタイルオプションを選択します。次のオプションがあります。
 - 非表示 (Hidden)
 - 内側 (Inside)
 - 外側 (Outside)
 - 両側 (Spanning)
4. [色] (Color) アイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、目盛りの色を設定することができます。
5. [OK] をクリックして、[色] (Color) ダイアログボックスを閉じます。
6. [OK] を再度クリックして、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを閉じます。

指定したフォーマットが目盛りに適用されます。

下図は、グラフフレーム全体に目盛りが表示されたグラフを示しています。



手順

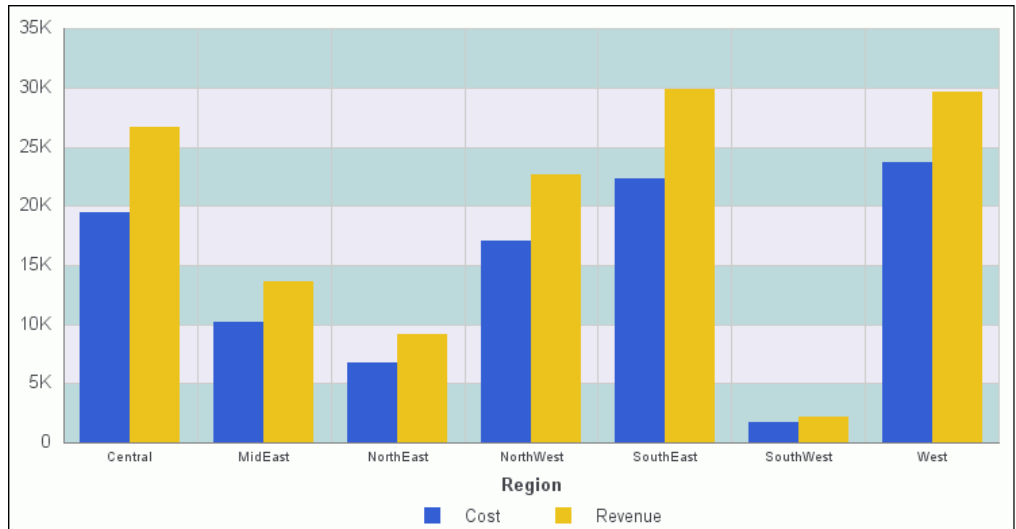
色バンドを設定するには

1. 罫線を表示したグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで [罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開き、フォーマットを設定する罫線を選択した後、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。
 - 右クリックメニュー 罫線を右クリックし、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。

[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。
3. [色バンド] (Color Bands) タブを選択し、[色] (Color) アイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、色バンドの色を設定することができます。[OK] をクリックして、[色] (Color) ダイアログボックスを閉じます。
4. 透明度スライダを使用するか、パーセントボックスを使用して、色に適用する透明度のパーセントを入力または選択します。
5. [OK] をクリックして、[色] (Color) ダイアログボックスを閉じます。

6. [OK] をクリックして、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを閉じます。

下図は、[バンド 1] (Band 1) を緑色に、透明度を 80 パーセントに設定したグラフを示しています。



手順

罫線を削除するには

1. 罫線を表示したグラフを作成します。
2. 罫線を選択します。
3. 次のいずれかの方法で罫線を削除します。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[罫線] (Grid) ドロップダウンメニューを開きます。メニューから、フォーマットを設定する罫線を選択し、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines) を選択して [罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを開きます。削除する罫線のタブで、[罫線の表示] (Show Grid Lines) の選択を解除し、[OK] をクリックします。
 - **右クリックメニュー** 罫線を右クリックし、メニューから [削除] (Delete) を選択します。

選択した罫線がグラフから削除されます。

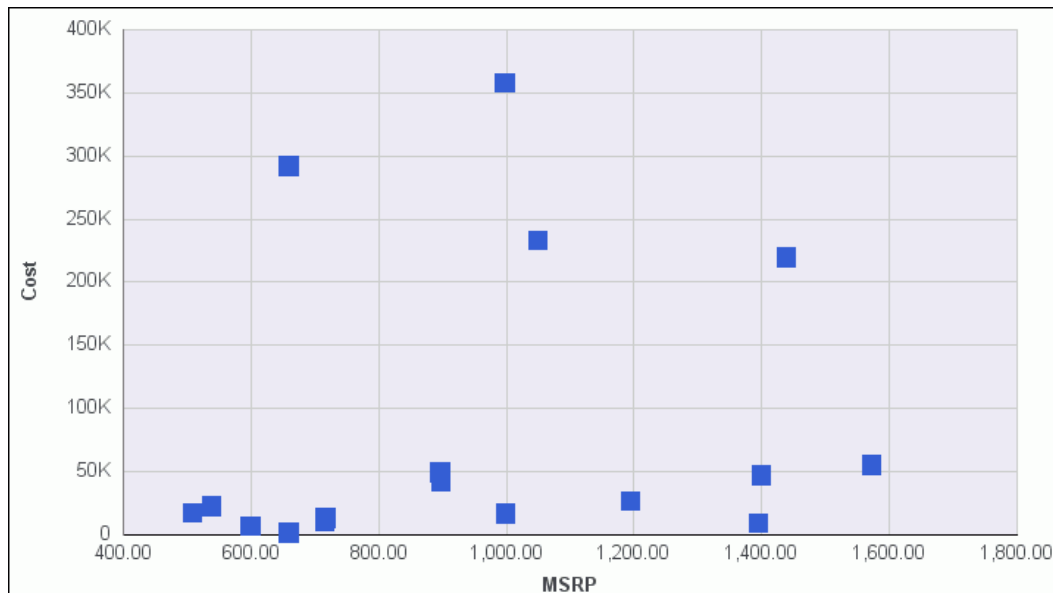
手順

四分線を表示するには

[四分線] (Quadrant Lines) タブのオプションを使用して、散布図およびバブルグラフの四分線の配置およびスタイルを制御します。

注意：デフォルト設定では、四分線はバブルグラフではオンに、散布図ではオフに指定されています。

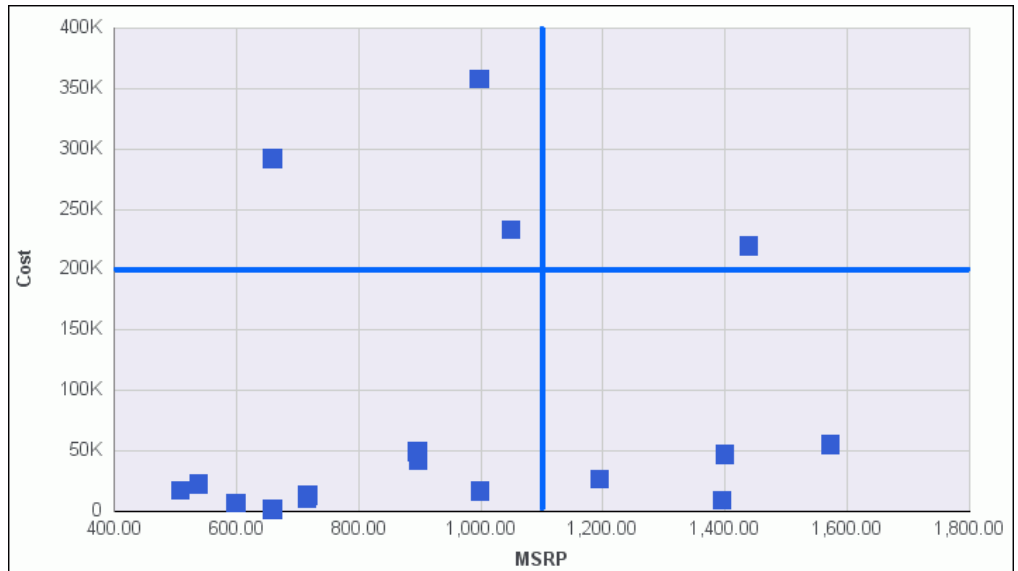
下図は、四分線が表示されていない散布図を示しています。



1. 散布図を作成します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[罫線] (Grid) をクリックします。
3. ドロップダウンメニューから、[横罫線] (Horizontal Gridlines) または [縦罫線] (Vertical Gridlines) を選択し、[罫線詳細オプション] (More Grid Lines Options) を選択します。
[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスが開きます。
4. [四分線] (Quadrant Lines) タブで、[四分線の表示] (Show Quadrant Line) を選択します。
グラフに四分線が表示されます。

5. [OK] をクリックして、[罫線のフォーマット] (Format Grid Lines) ダイアログボックスを閉じます。

下図は、四分線が表示された同一グラフを示しています。



軸ラベルのフォーマット設定

トピックス

- 軸のフォーマットダイアログボックス
- 軸要素の右クリックメニュー
- 軸プロパティの使用

縦軸と横軸は、グラフの方向に基づいて決定されます。たとえば、縦方向のグラフの場合、横軸は X 軸、縦軸は Y 軸です。横方向のグラフの場合、横軸は Y 軸、縦軸は X 軸です。オプションはグラフの方向によって変化するため、このことに注意する必要があります。

グラフには、次のような軸ラベルを含めることができます。

- 横軸ラベルは、X 軸を表します。これらは、円グラフ、じょうごグラフ、メータグラフには、適用されません。

- 縦軸ラベルは、単一軸グラフの Y1 軸を表します。これらは、数値のスケールを表し、通常、縦方向のグラフの左側に表示されます。
- 横軸 2 ラベルおよび縦軸 2 ラベルは、2 軸グラフを選択した場合にのみ使用することができます。

軸のフォーマットダイアログボックス

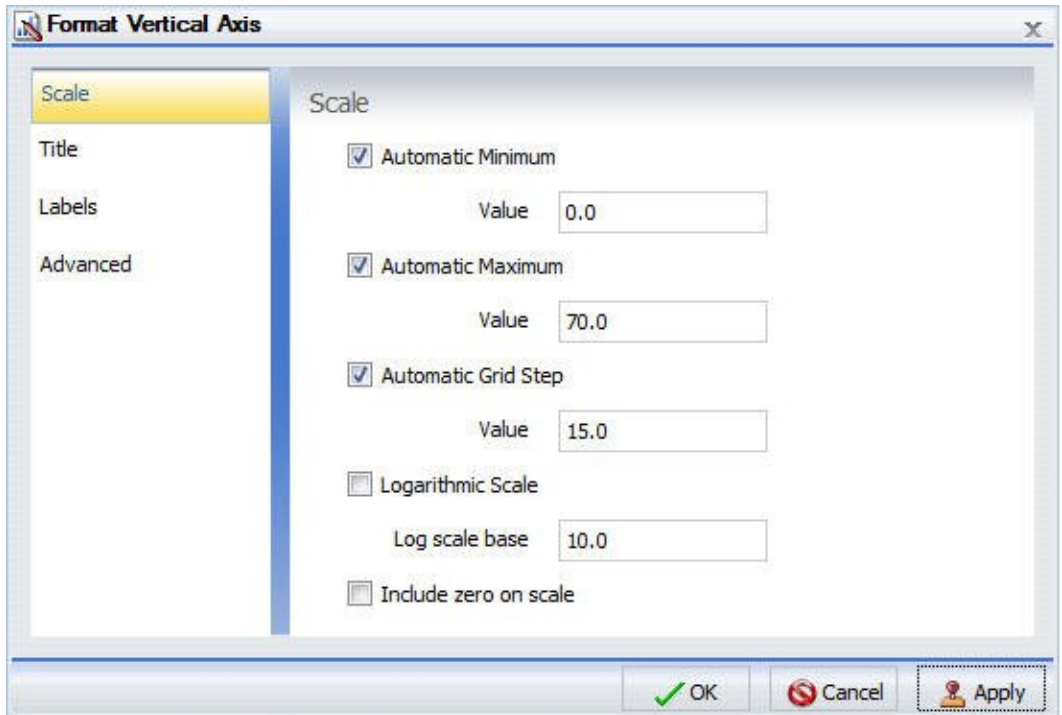
トピックス

軸 2 オプション

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用して軸オプションにアクセスすると、[軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、縦軸および横軸のフォーマットを設定します。[軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 小数部 (Scale)
- タイトル (Title)
- ラベル (Labels)
- 詳細 (Advanced)

[目盛り] (Scale) タブでは、目盛りのプロパティを変更します。下図は、[目盛り] (Scale) タブを示しています。

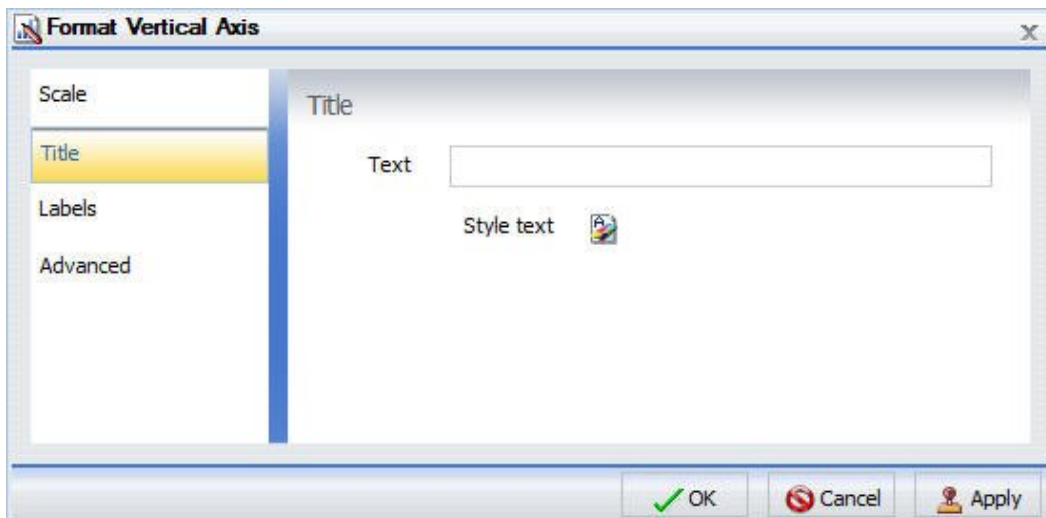


[目盛り] (Scale) タブには、次のオプションがあります。

- **自動最小値 (Automatic Minimum)** このオプションを選択すると、Y 軸目盛りに最小値が自動的に割り当てられます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。最小値を設定するには、[値] (Value) テキストボックスに数値を入力します。
- **値 (Value)** [自動最小値] (Automatic Minimum) を選択しなかった場合、このテキストボックスに最小値を入力します。
- **自動最大値 (Automatic Maximum)** このオプションを選択すると、Y 軸目盛りに最大値が自動的に割り当てられます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] (Value) テキストボックスに値を入力して最大値を設定します。
- **値 (Value)** [自動最大値] (Automatic Maximum) を選択しなかった場合、このテキストボックスに最大値を入力します。

- **自動目盛間隔 (Automatic Grid Step)** このオプションを選択すると、主罫線の間隔が自動的に計算されます。手動目盛りを使用するには、このオプションの選択を解除します。次に、[値] (Value) テキストボックスに値を入力して最小値を設定します。
- **値 (Value)** [自動目盛間隔] (Automatic Grid Step) を選択しなかった場合、このテキストボックスに値を入力します。
- **対数目盛り (Logarithmic Scale)** このオプションを選択して、Y 軸目盛りを、線形的に増加させるのではなく、対数的に増加させるかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で無効になっています。このオプションを選択すると、対数の底が 10.0 に設定されますが、この値は、別の値を入力して変更することができます。
- **対数目盛りの底 (Log scale base)** 対数目盛りに表示する底の値を入力します。
- **目盛りにゼロを表示 (Include zero on scale)** このオプションを選択して、目盛りに 0 (ゼロ) 値を表示するかどうかを制御します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。

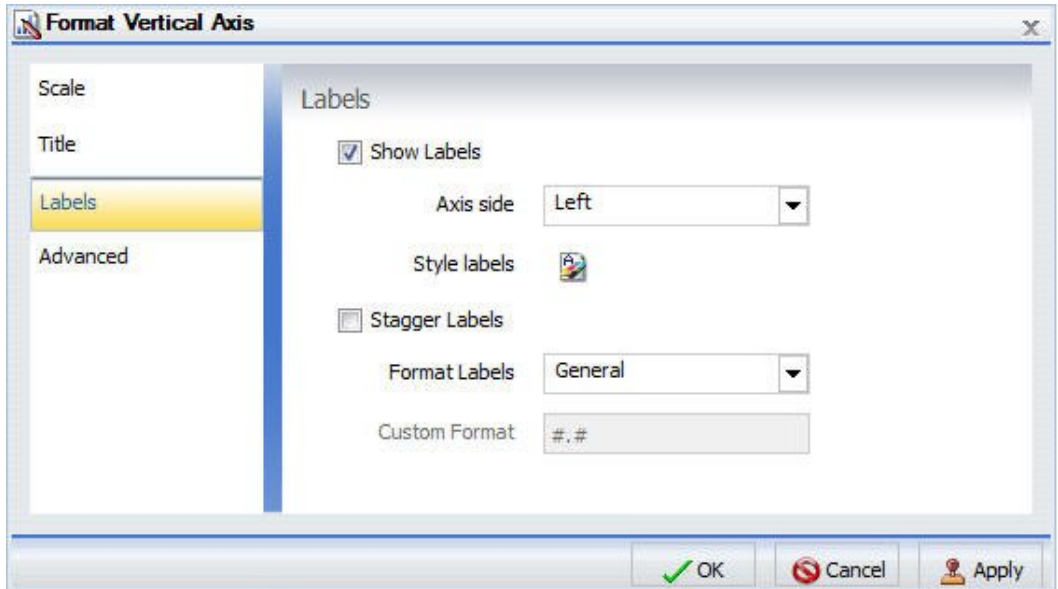
[タイトル] (Title) タブでは、軸のタイトルを作成し、スタイルを設定します。下図は、[タイトル] (Title) タブを示しています。



[タイトル] (Title) タブには、次のオプションがあります。

- **テキスト (Text)** 軸のタイトルを入力します。
- **スタイル (Style)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

[ラベル] (Labels) タブでは、軸ラベルのフォーマットを設定します。下図は、[ラベル] (Labels) タブを示しています。



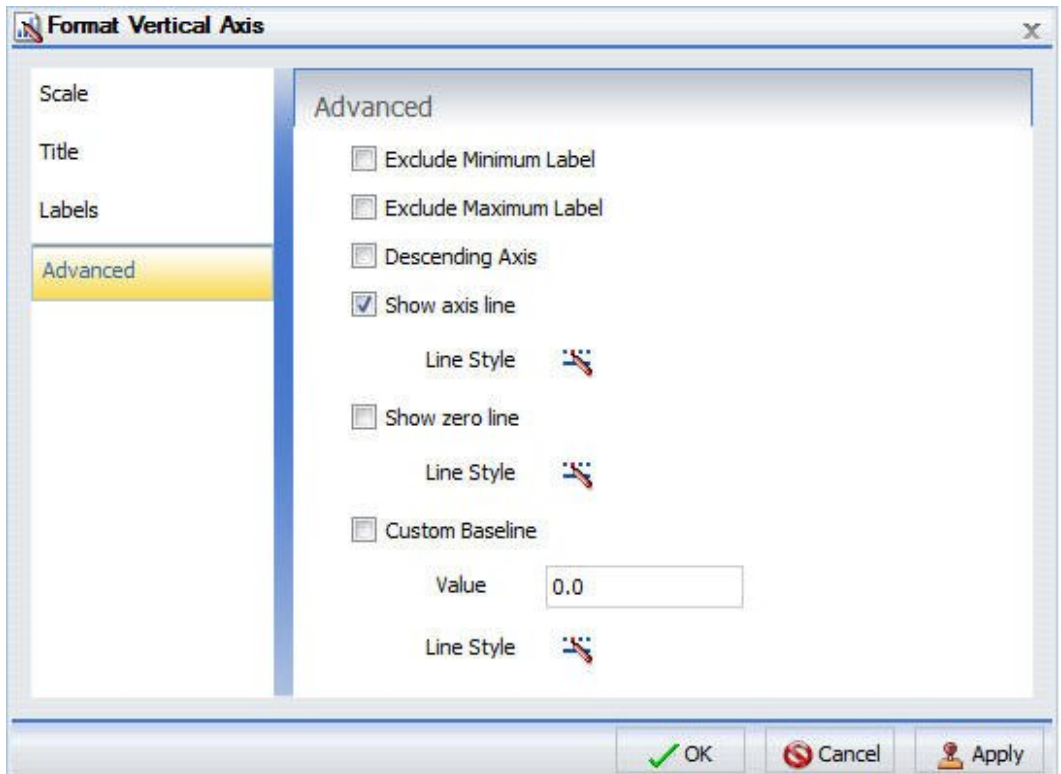
[ラベル] (Labels) タブには、次のオプションがあります。

- **ラベルの表示 (Show Labels)** このオプションを選択して、軸の横にラベルを表示します。このオプションは、デフォルト設定で有効になっています。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
- **軸の表示 (Axis side)** このドロップダウンメニューから、軸に表示するラベルの位置オプションを選択します。オプションには、[左] (Left) (デフォルト)、[右] (Right)、[両側] (Both) があります。
- **ラベルスタイル (Style labels)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。
- **ラベルを交互に表示 (Stagger Labels)** このオプションを選択して、ラベルを交互に表示します。
- **ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。
- **カスタムフォーマット (Custom Format)** 定義済みフォーマットのリストから [パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合に、このテキストボックスでカスタムフォーマットを定義します。

[ラベルフォーマット](Format Labels) ドロップダウンメニューには、ラベルに適用可能な定義済みフォーマットのリストが表示されます。[パターンの使用](Use Pattern) を選択した場合は、[カスタムフォーマット](Custom Format) テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字のリストおよび説明については、下表を参照してください。

文字	説明
#	桁を表します。
0 (ゼロ)	非表示にします。
. (ピリオド)	小数点の区切り文字に使用するプレースホルダです。
, (カンマ)	位の区切り文字に使用するプレースホルダです。
; (セミコロン)	複数のフォーマットを区別します。
- (ダッシュ)	デフォルトの負の接頭語です。
% (パーセント)	100 で除算してパーセントで表示します。
x	接頭語または接尾語にその他の文字を使用できることを指定します。
' (アポストロフィ)	接頭語または接尾語に使用する特殊文字をこの引用符で囲みます。

[詳細] (Advanced) タブでは、軸ラベルの追加プロパティを変更します。下図は、[詳細設定] (Advanced) タブを示しています。



[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

- ❑ **最小ラベルの非表示 (Exclude Minimum Label)** このオプションを選択して、軸の最小値ラベルをグラフから除外します。
- ❑ **最大ラベルの非表示 (Exclude Maximum Label)** このオプションを選択して、軸の最大値ラベルをグラフから除外します。
- ❑ **降順軸 (Descending Axis)** このオプションを選択して、軸を降順で表示します。
- ❑ **軸線の表示 (Show axis line)** このオプションを選択して、軸ベースラインの表示を制御します。
- ❑ **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、軸線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

- **ゼロ線の表示 (Show zero line)** このオプションを選択して、ゼロ線の表示を制御します。
- **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、ゼロ線の色、太さ、スタイルを編集することができます。
- **カスタムベースライン (Custom Baseline)** このオプションを選択して、カスタムベースラインの表示を制御します。
- **値 (Value)** カスタムベースラインの値を入力します。
- **線スタイル (Line Style)** このアイコンをクリックして [線スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、カスタムベースラインの色、太さ、スタイルを編集することができます。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、278 ページの「[軸プロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

軸 2 オプション

2 軸グラフでは、軸 2 にフォーマットを設定するオプションがあります。たとえば、縦 2 軸グラフの場合、縦軸 2 は Y2 軸です。

縦軸および横軸の [軸 2 のフォーマット] (Format Secondary Axis) ダイアログボックスには、次のタブが表示されます。

- **全般 (General)** 詳細は、269 ページの「[軸のフォーマットダイアログボックス](#)」の [目盛り] タブのオプションを参照してください。
- **タイトル (Title)** 詳細は、269 ページの「[軸のフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。
- **ラベル (Label)** 詳細は、269 ページの「[軸のフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。
- **詳細 (Advanced)** 詳細は、269 ページの「[軸のフォーマットダイアログボックス](#)」を参照してください。

軸要素の右クリックメニュー

[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューでグラフの軸ラベルを右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。下表は、軸ラベル要素を右クリックした場合のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
横ラベル (Horizontal Labels)	削除 (Delete)	グラフからラベルを削除し、ライブプレビューを更新します。
	交互に表示 (Stagger)	ラベルの配置を制御します。値を [オン] (On) に設定すると、ラベルは交互に表示されます。デフォルト設定の [オフ] (Off) を選択した場合、ラベルは 1 行に表示されます。
	回転 (Rotate)	指定した角度でラベルを回転します。
	ラベルスタイル (Style Labels)	[スタイル] (Style) ダイアログボックスを使用して、ラベルにスタイルを適用することができます。詳細は、233 ページの「 スタイルダイアログボックス 」を参照してください。
	軸詳細オプション (More Axis Options)	[軸フォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスを開きます。詳細は、268 ページの「 軸ラベルのフォーマット設定 」を参照してください。

要素	オプション	説明
縦ラベル (Vertical Labels)	削除 (Delete)	グラフからラベルを削除し、ライブプレビューを更新します。
	交互に表示 (Stagger)	ラベルの配置を制御します。値を [オン] (On) に設定すると、ラベルは交互に表示されます。デフォルト設定の [オフ] (Off) を選択した場合、ラベルは 1 行に表示されます。
	回転 (Rotate)	指定した角度でラベルを回転します。
	ラベル フォーマット (Format Labels)	次の値を指定して、ラベルにフォーマットを設定することができます。
	ラベルスタイル (Style Labels)	[スタイル] (Style) ダイアログボックスを使用して、ラベルにスタイルを適用することができます。詳細は、233 ページの「 スタイルダイアログボックス 」を参照してください。
	軸詳細オプション (More Axis Options)	[軸フォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスを開きます。詳細は、268 ページの「 軸ラベルのフォーマット設定 」を参照してください。

軸プロパティの使用

手順/構文

軸ラベルを削除するには

軸ラベルを交互に表示するには

軸ラベルを回転するには

軸ラベルのフォーマットを設定するには

軸目盛りを手動で設定するには

軸タイトルを追加するには

軸の詳細プロパティを設定するには

ここでは、軸をカスタマイズする方法について説明します。以下の手順では、各手順に関連するオプションが、リボンのタブ別およびグループ別に分類されています。

軸ラベルはデフォルト設定で表示されます。

手順

軸ラベルを削除するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で軸ラベルを削除することができます。
 - **リボン [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[ラベルの表示] (Show Labels) オプションの選択を解除します。**
 - **右クリックメニュー** グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[削除] (Delete) を選択します。

グラフから軸ラベルが削除されます。

手順

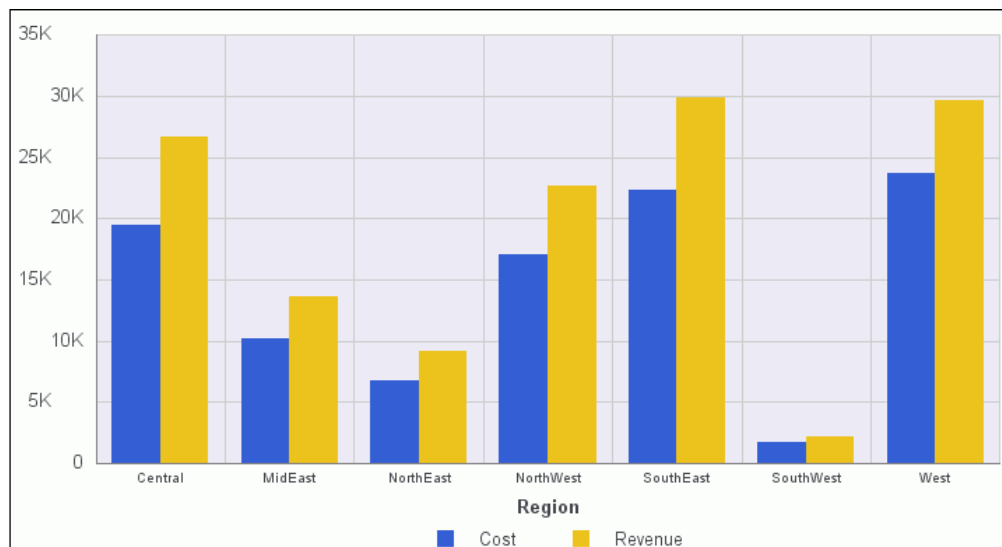
軸ラベルを交互に表示するには

1. 少なくとも 1 つの軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [交互に表示] (Stagger) オプションにアクセスし、表示させます。

- **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[ラベルを交互に表示] (Stagger Labels) オプションを選択します。
- **右クリックメニュー** グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[交互に表示] (Stagger)、[オン] (On) を順に選択します。

軸ラベルが交互に表示されます。

下図は、縦軸ラベルが交互に表示されたグラフを示しています。



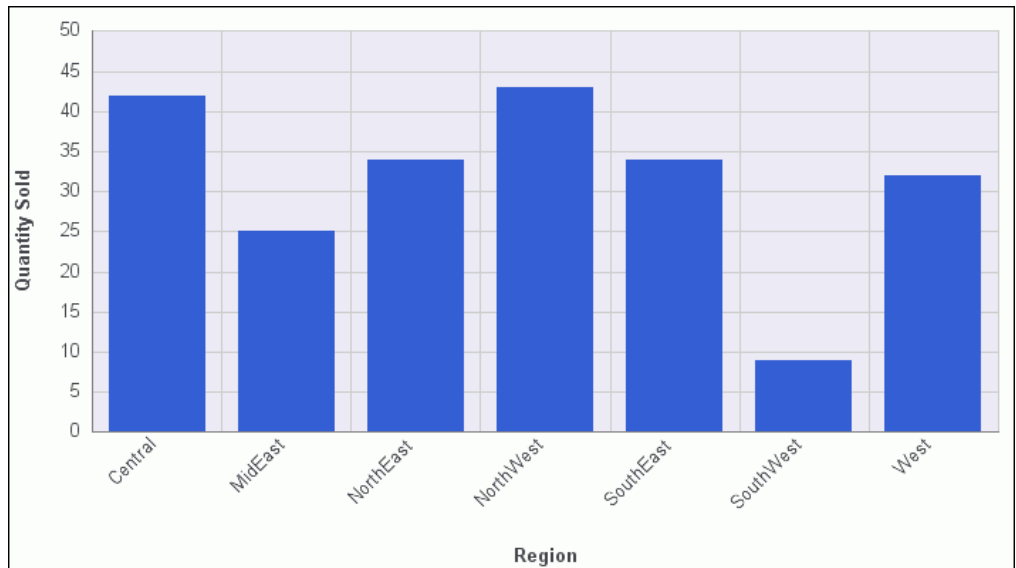
手順

軸ラベルを回転するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [回転] (Rotate) オプションにアクセスし、表示させます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[ラベルの回転] (Rotate Labels) を選択した後、軸ラベルの回転角度を選択します。
 - **右クリックメニュー** グラフ上で軸ラベルを右クリックし、[回転] (Rotate) を選択した後、軸ラベルの回転角度を選択します。

軸ラベルが回転されます。

下図は、横軸ラベルが 45 度回転されたグラフを示しています。



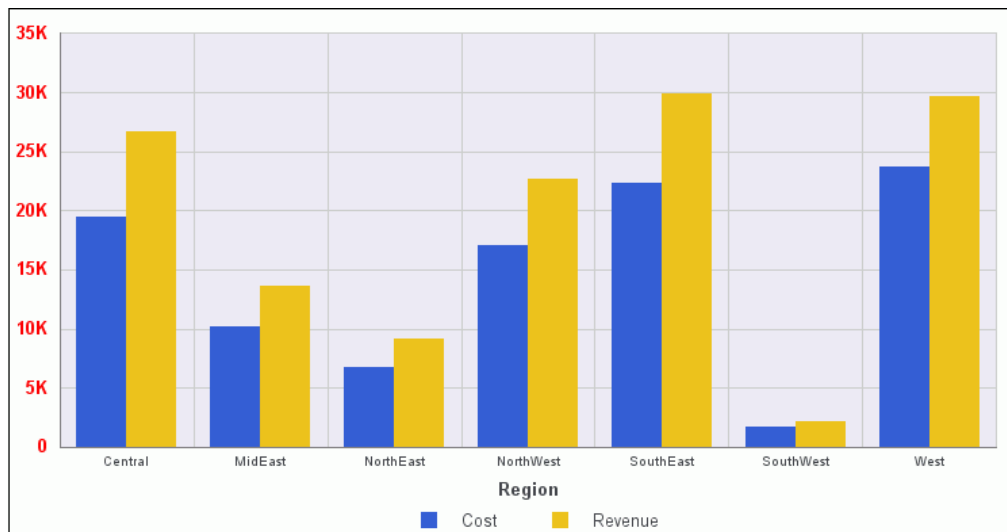
手順

軸ラベルのフォーマットを設定するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で軸ラベルオプションのリストにアクセスし、表示させます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] (More Axis Options) を選択して [軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスを開きます。[ラベル] (Labels) タブの [ラベルフォーマット] (Format Labels) ドロップダウンメニューから、設定するフォーマットオプションを選択します。
 - **右クリックメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[ラベルフォーマット] (Format Labels) を選択した後、設定するフォーマットオプションを選択します。

指定したフォーマットが軸ラベルに適用されます。

下図は、縦軸ラベルのスタイルが、赤色、太字、Arial フォントに設定されたグラフを示しています。



手順

軸目盛りを手動で設定するには

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で[軸のフォーマット](Format Axis) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン [フォーマット](Format) タブの [ラベル](Labels) グループで [軸](Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション](More Axis Options) を選択します。
 - 右クリックメニュー グラフ上で軸の値を右クリックし、[軸詳細オプション](More Axis Options) を選択します。

[軸のフォーマット](Format Axis) ダイアログボックスが開きます。
3. [目盛り](Scale) タブで [自動最小値](Automatic Minimum) オプションの選択を解除し、[値](Value) テキストボックスに最小値を入力します。
4. [自動最大値](Automatic Maximum) オプションの選択を解除し、[値](Value) テキストボックスに最大値を入力します。

5. [自動目盛間隔] (Automatic Grid Step) オプションの選択を解除し、[値] (Value) テキストボックスに目盛間隔値を入力します。
6. 必要に応じて、[対数目盛り] (Logarithmic Scale) オプションを選択し、その名前のテキストフィールドに対数目盛りの底を入力することもできます。また、軸に 0 (ゼロ) を表示しない場合は、[目盛りにゼロを表示] (Include zero on scale) オプションの選択を解除してください。
7. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
指定した設定が軸目盛りに適用されます。

手順

軸タイトルを追加するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] (More Axis Options) を選択します。
 - **右クリックメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[軸詳細オプション] (More Axis Options) を選択します。

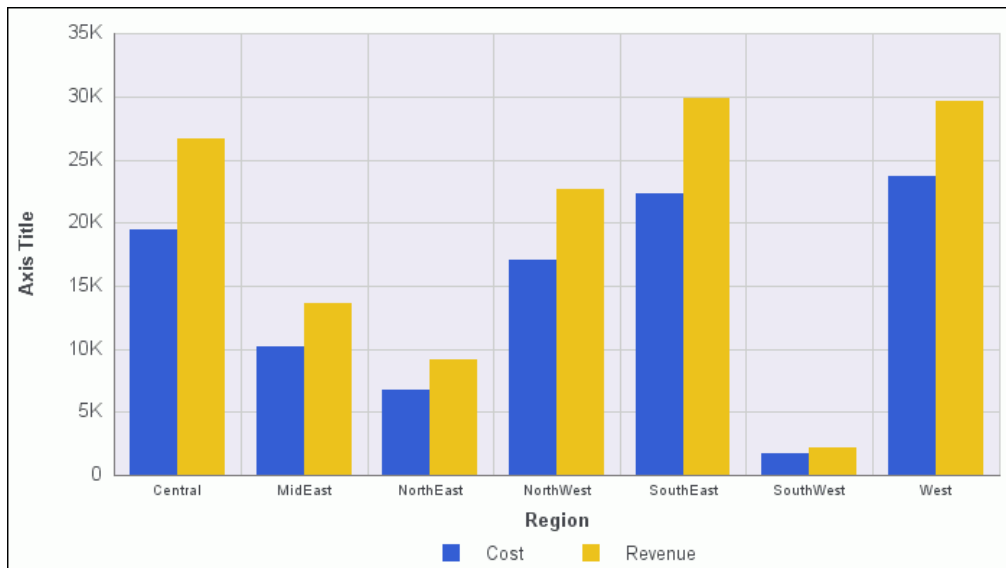
[軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスが開きます。

3. [タイトル] (Title) タブで、[テキスト] (Text) テキストボックスに軸タイトルを入力します。
4. [テキストスタイル] (Style text) アイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、テキストのスタイルを設定することができます。

指定したスタイルが軸タイトルに適用されます。

注意：軸タイトルを削除、変更、スタイル設定するには、軸タイトルを右クリックします。

下図は、縦軸にタイトルが追加されたグラフを示しています。



手順

軸の詳細プロパティを設定するには

1. 軸ラベルが表示されたグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン** [フォーマット] (Format) タブの [ラベル] (Labels) グループで [軸] (Axes) ドロップダウンメニューを開き、対象となる軸を選択し、[軸詳細オプション] (More Axis Options) を選択します。
 - 右クリックメニュー** 軸ラベルを右クリックし、[軸詳細オプション] (More Axis Options) を選択します。

[軸のフォーマット] (Format Axis) ダイアログボックスが開きます。

3. [詳細] (Advanced) タブでは、次のオプションを設定します。
 - 最小ラベルの非表示 (Exclude Minimum Label)
 - 最大ラベルの非表示 (Exclude Maximum Label)
 - Y 軸を降順にする (Descending Axis)

- 軸線の表示およびスタイル (Show axis line)
- ゼロ線の表示およびスタイル (Show zero line)
- カスタムベースライン (値) (Custom Baseline (Value))

[線スタイル] (Line Style) ダイアログボックスで設定したすべての線の色、太さ、スタイルを編集することができます。

4. [OK] をクリックします。

設定した詳細オプションが軸に適用されます。

フレームおよび背景のフォーマット設定

トピックス

フレームと背景ダイアログボックス

フレームと背景の右クリックメニュー

フレームと背景のプロパティの使用

グラフのフレームは、プロットポイントが格納されるエリアです。また、縦横の罫線が描かれるエリアでもあります。

グラフの背景は、フレームの周囲のエリアです。

フレームおよび背景の外観を変更することで、グラフの視覚的効果を調整することができます。例として、グラフのフレーム線の外観やグラフの背景色を変更します。

フレームと背景ダイアログボックス

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用してフレームおよび背景のオプションにアクセスすると、[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、グラフのフレームと背景のフォーマットを設定します。[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

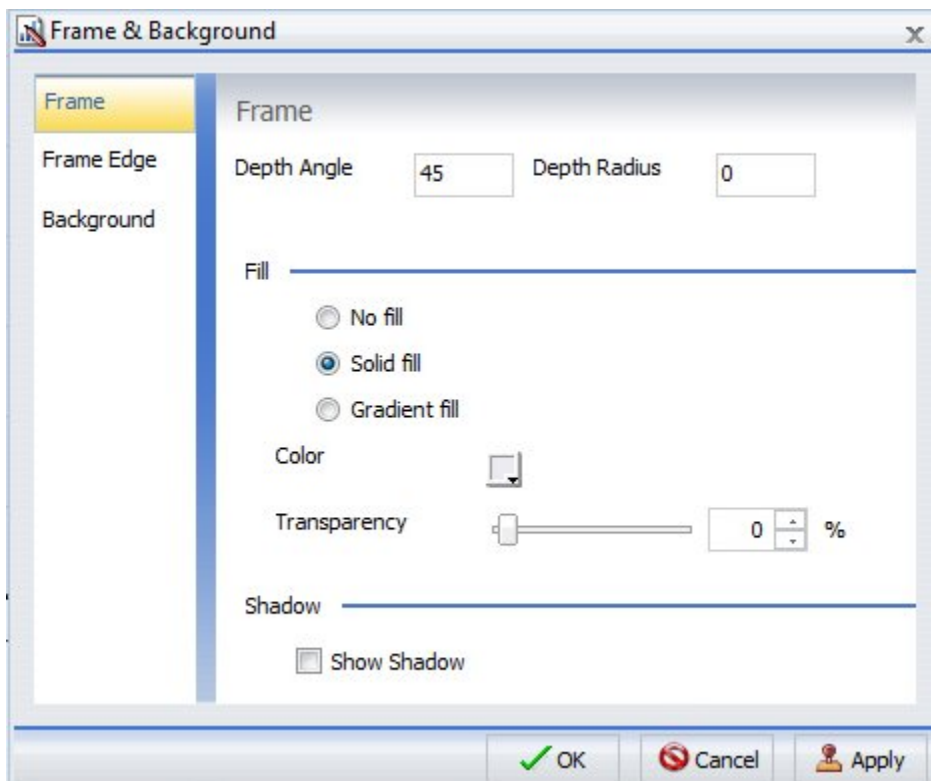
- フレーム (Frame)
- フレームの端 (Frame Edge)
- 背景 (Background)

ここでは、次のグラフタイプの [フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスおよび付属のタブについて説明します。

- 2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフ ([フレーム] (Frame) および [フレームの端] (Frame Edge) タブ)
- 円グラフ ([フレーム] (Frame) および [フレームの端] (Frame Edge) タブ)
- 3D グラフ ([左側面] (Left Wall)、[右側面] (Right Wall)、[底面] (Floor)、[詳細] (Advanced) タブ)

注意：[フレーム] (Frame) タブのオプションは、選択したグラフタイプにより異なります。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] (Frame) タブでは、フレームの奥行きおよび奥行きラジラスの設定、フレームの塗りつぶしの選択、フレームの影の設定を行えます。下図は、2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] (Frame) タブを示しています。



2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] (Frame) タブには、次のオプションがあります。

- **奥行き (Depth Angle)** グラフの前面から背面への角度を入力します。グラフのライザおよびフレームはこの角度で描画されます。奥行きは、0 (ゼロ) 度から 180 度に設定することができますが、この設定は、[奥行きラジウス] とともに使用する必要があります。
- **奥行きラジウス (Depth Radius)** フレームを押し出す距離を入力します。0 (ゼロ) などの小さい値を設定すると、グラフの厚みが非常に小さくなります。大きい値 (最大値は 100) を設定すると、グラフの厚みが大きくなります。

塗りつぶし (Fill)

- **塗りつぶしなし (No fill)** (デフォルト) このオプションを選択して、フレームを無色にします。
- **単色 (Solid fill)** このオプションを選択して、[色] (Color) および [透明度] オプションを表示します。
 - **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。
 - **透明度 (Transparency)** スライダーを移動して、フレームの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
- **グラデーション (Gradient fill)** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
 - **方向 (Direction)** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。次のオプションがあります。
 - グラデーション - 右 (Gradient right)
 - グラデーション - 左 (Gradient left)
 - グラデーション - 下 (Gradient down)
 - グラデーション - 上 (Gradient up)
 - グラデーション - 下左 (Gradient down left)
 - グラデーション - 上左 (Gradient up left)

- グラデーション - 下右 (Gradient down right)
- グラデーション - 上右 (Gradient up right)
- 放射状 (Radial)
- 放射状 - 上左 (Radial top left)
- 放射状 - 上右 (Radial top right)
- 放射状 - 下左 (Radial bottom left)
- 放射状 - 下右 (Radial bottom right)
- 放射状円 (Radial pie)
- 放射状円 (反転) (Radial pie inverted)

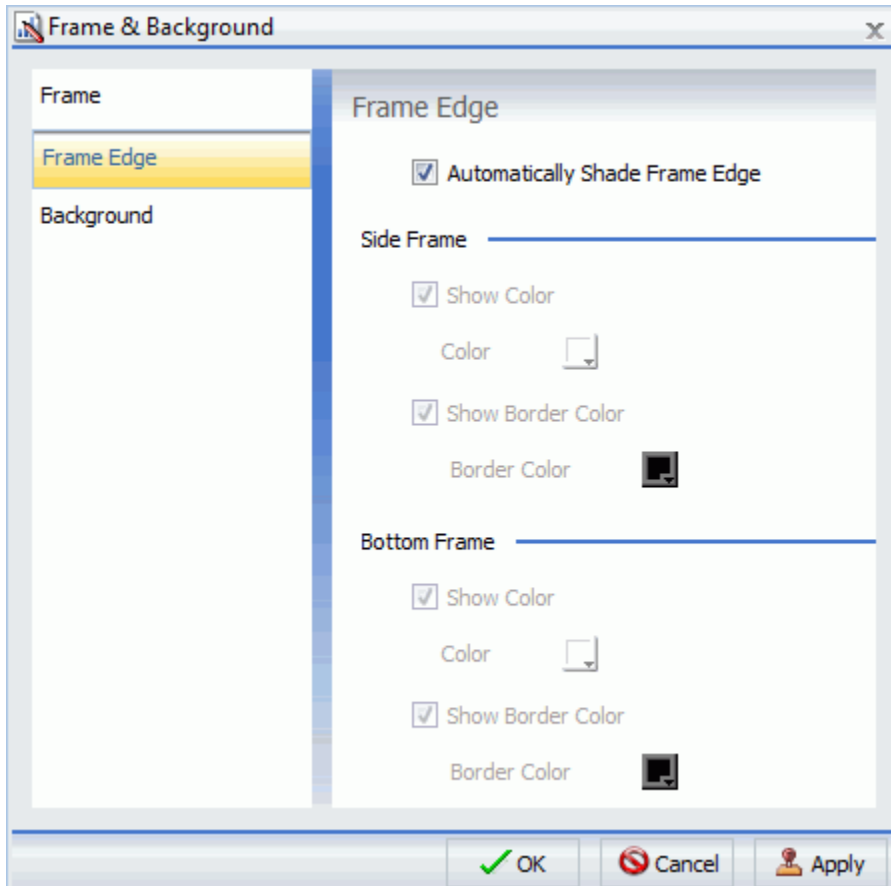
グラデーションスタイル (Gradient style)

- 色パターン (Color Pattern)** データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1) から [2 番目の色] (color2) へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1)、[2 番目の色] (color2)、[1 番目の色] (color1) の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
- 1 番目の色 (First Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
- 2 番目の色 (Second Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

影 (Shadow)

- 影の表示 (Show Shadow)** このオプションを選択して、影を付けます。

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレームの端] (Frame Edge) タブでは、フレームの端への自動影付けを設定します。自動影付けを使用しない場合は、サイドフレームおよび下フレームのフレーム色と境界色を設定することができます。下図は、[フレームの端] (Frame Edge) タブを示しています。



2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフの [フレーム] (Frame) タブには、次のオプションがあります。

- **フレームの端自動影付け (Automatically Shade Frame Edge)** このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。このオプションの選択を解除すると、[サイドフレーム] (Side Frame) および [下フレーム] (Bottom Frame) オプションが有効になります。

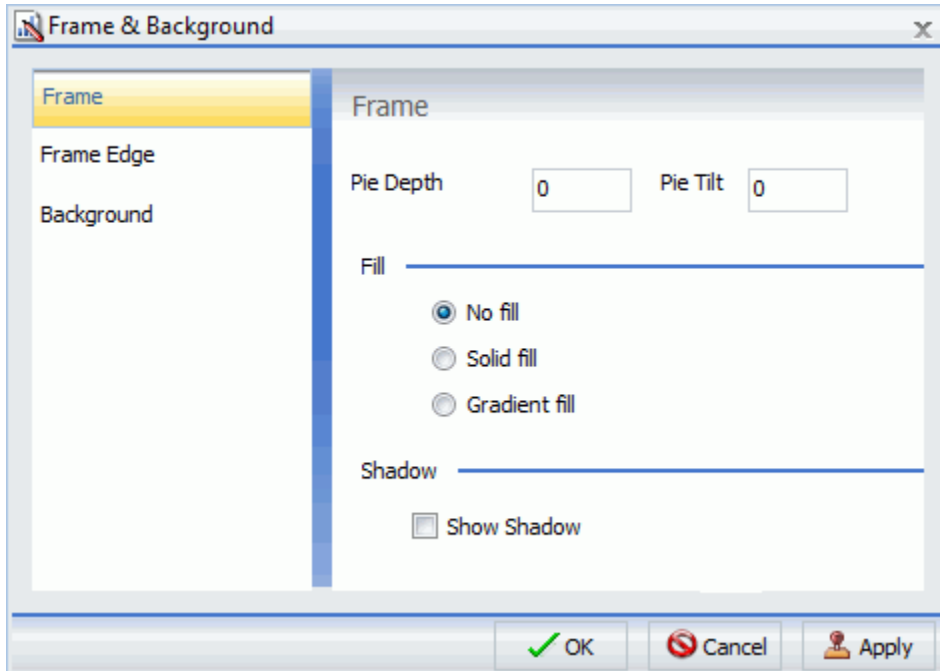
サイドフレーム (Side Frame)

- **色の表示 (Show Color)** このオプションを選択して、サイドフレームの色を表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、サイドフレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、サイドフレームの境界色を表示します。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、サイドフレームの境界色を選択することができます。

下フレーム (Bottom Frame)

- **色の表示 (Show Color)** このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、下フレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、下フレームの境界色を選択することができます。

円グラフの [フレーム] (Frame) タブでは、円の奥行きおよび角度の設定、円フレームの塗りつぶしおよび色の選択、フレームの影の設定を行えます。下図は、[フレーム] (Frame) タブを示しています。



円グラフの [フレーム] (Frame) タブには、次のオプションがあります。

- **円グラフの厚み (Pie Depth)** 円グラフの側面の奥行きを設定します。0 (ゼロ) から 100 までの値を選択して、側面の厚みを設定できます。
- **円の角度 (Pie Tilt)** 円グラフの傾斜角度を設定します。小さい値に設定すると、円グラフがより平面的になります。大きい値に設定すると、表示される側面の割合が増加します。

塗りつぶし (Fill)

- **塗りつぶしなし (No fill)** (デフォルト) 円の端に色は追加されません。
- **単色 (Solid fill)** このオプションを選択して、[色] (Color) および [透明度] オプションを表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。

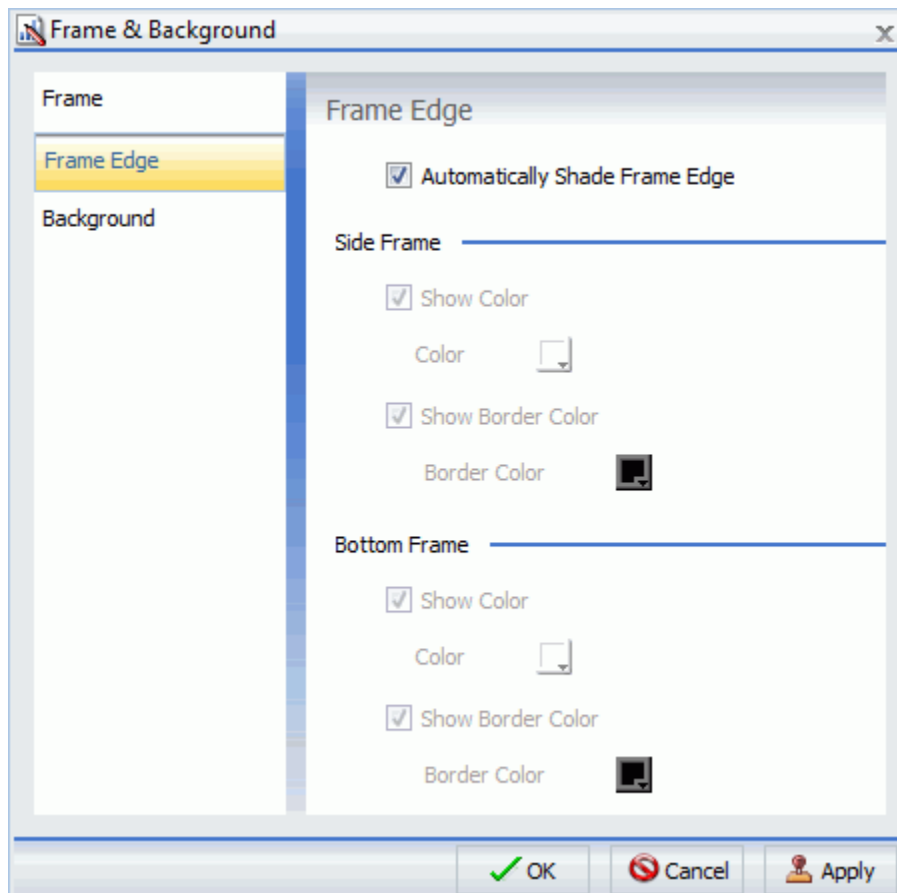
- **透明度 (Transparency)** スライダを移動して、塗りつぶしの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) までの間で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
- **グラデーション (Gradient fill)** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
- **方向 (Direction)** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。次のオプションがあります。
 - グラデーション - 右 (Gradient right)
 - グラデーション - 左 (Gradient left)
 - グラデーション - 下 (Gradient down)
 - グラデーション - 上 (Gradient up)
 - グラデーション - 下左 (Gradient down left)
 - グラデーション - 上左 (Gradient up left)
 - グラデーション - 下右 (Gradient down right)
 - グラデーション - 上右 (Gradient up right)
 - 放射状 (Radial)
 - 放射状 - 上左 (Radial top left)
 - 放射状 - 上右 (Radial top right)
 - 放射状 - 下左 (Radial bottom left)
 - 放射状 - 下右 (Radial bottom right)
 - 放射状円 (Radial pie)
 - 放射状円 (反転) (Radial pie inverted)
- **グラデーションスタイル (Gradient Style)**

- **色パターン (Color Pattern)** データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1) から [2 番目の色] (color2) へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1)、[2 番目の色] (color2)、[1 番目の色] (color1) の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
- **1 番目の色 (First Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
- **2 番目の色 (Second Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

影 (Shadow)

- **影の表示 (Show Shadow)** このオプションを選択して、フレーム周囲に影を付けます。

円グラフの [フレームの端] (Frame Edge) タブでは、円フレームの端のオプションを設定します。下図は、[フレームの端] (Frame Edge) タブを示しています。



円グラフの [フレームの端] (Frame Edge) タブには、次のオプションがあります。

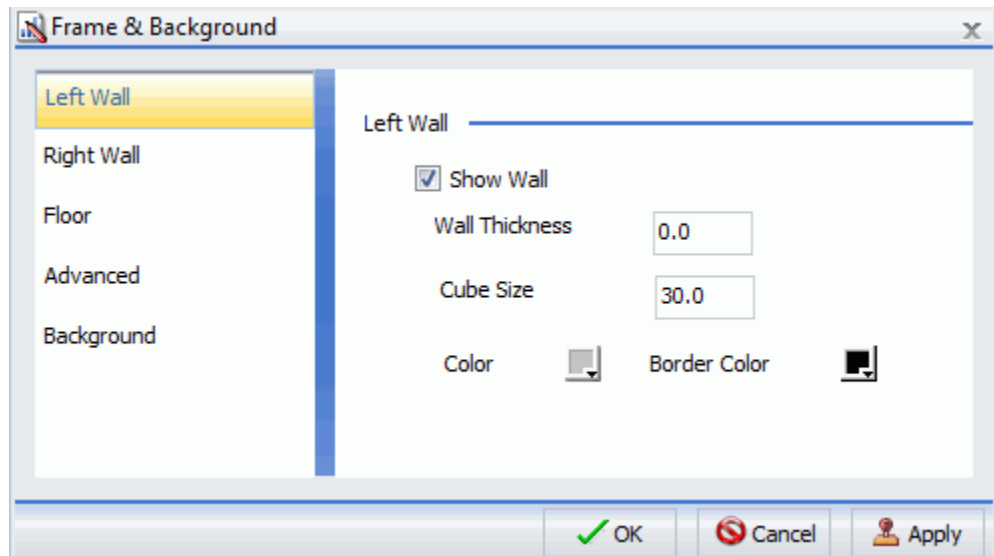
- **フレームの端自動影付け (Automatically Shade Frame Edge)** このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。このオプションの選択を解除すると、[サイドフレーム] (Side Frame) および [下フレーム] (Bottom Frame) オプションが有効になります。
- **色の表示 (Show Color)** このオプションを選択して、サイドフレームの色を表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、サイドフレームの色を選択することができます。

- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、サイドフレームの境界色を表示します。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、サイドフレームの境界色を選択することができます。

下フレーム (Bottom Frame)

- **色の表示 (Show Color)** このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、下フレームの色を選択することができます。
- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、下フレームの色を表示します。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、下フレームの境界色を選択することができます。

[側面] (Wall) および [底面] (Floor) タブでは、3D グラフの側面と底面のオプションを設定します。下図は、[左側面] (Left Wall) タブを示しています。

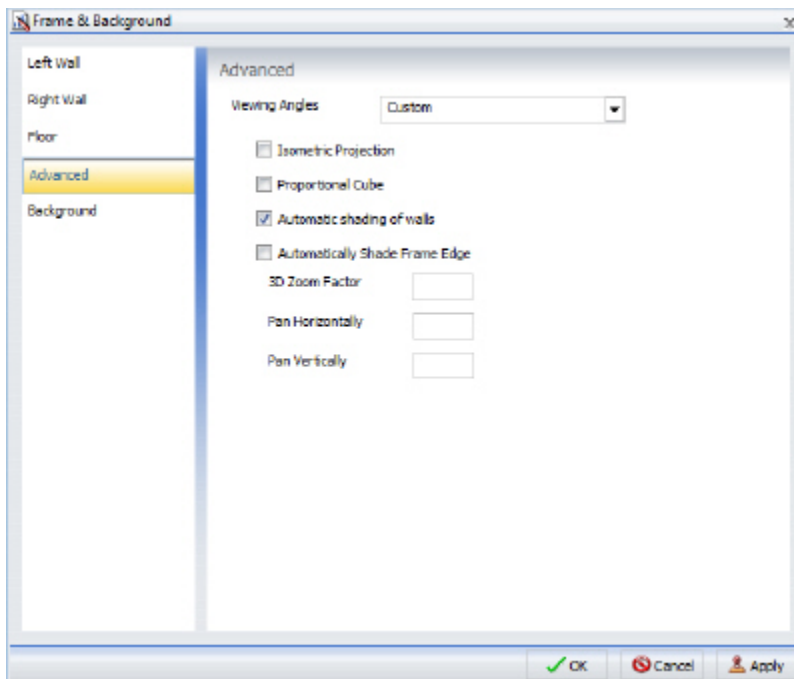


[側面] (Wall) および [底面] (Floor) タブには、次のオプションがあります。

- **側面の表示 (Show Wall)** または **底面の表示 (Show Floor)** このオプションを選択して、3D グラフの側面または底面を表示します。

- **側面の厚み (Wall Thickness)** 側面または底面の厚みを指定します。
- **キューブサイズ (Cube Size)** 側面または底面のキューブサイズを指定します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、側面または底面の色を選択することができます。
- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、側面または底面の境界色を選択することができます。
- **側面の表示 (左側面) (Show Wall (Left Wall))** このオプションを選択して、左側面を表示します。
- **側面の表示 (右側面) (Show Wall (Right Wall))** このオプションを選択して、右側面を表示します。
- **底面の表示 (Show Floor)** このオプションを選択して、底面を表示します。

3D グラフの [詳細] (Advanced) タブでは、3D フレームの追加プロパティを変更します。下図は、3D グラフの [詳細] (Advanced) タブを示しています。

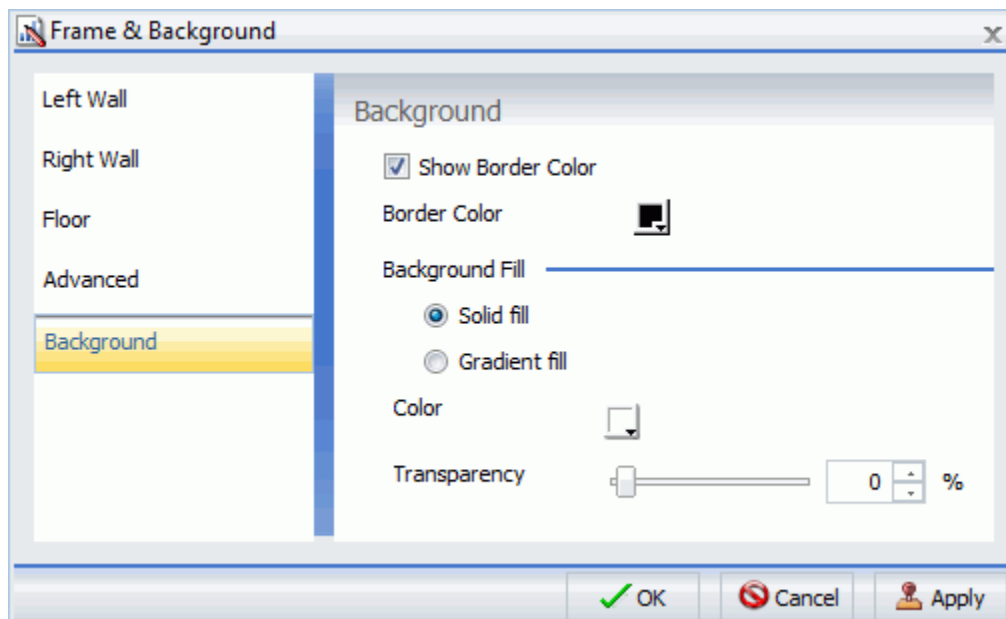


[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

- **表示角度 (Viewing Angles)** ドロップダウンメニューから、3D グラフの表示角度を選択します。次のオプションがあります。
 - 標準 (Standard)
 - グループ (Group View)
 - シリーズ (Series View)
 - 変形 (Distorted Value)
 - 標準等角投影 (Isometric Standard)
 - 標準変形 (Distorted Standard)
 - 強調グループ (Emphasize Group)
 - ブラスト (Blast-O-Vision)
 - 側面を薄く (Thin Wall)
 - 等角投影グループ (Isometric Group View)
 - 等角投影グループ #2 (Isometric Group View #2)
 - 壁面を高く (High Backed)
 - 上に変形 (Upward Distorted)
 - 下に変形 (Down Tilt)
 - 狭域等角投影 (Narrow Isometric)
 - グループ等角投影 (Isometric view by groups)
 - カスタム (Custom)
- **等角投影 (Isometric Projection)** このオプションを選択して、等角投影表示で投影されるグラフキューブの遠近歪み係数を無視します。
- **キューブプロポーションアル (Proportional Cube)** このオプションを選択して、シリーズ数またはグループ数に比例して軸のサイズを定義します。
- **側面自動影付け (Automatic shading of walls)** このオプションを選択して、グラフの側面に影を付けます。
- **フレームの端自動影付け (Automatically Shade Frame Edge)** このオプションを選択して、フレームの端に自動的に影を付けます。

- **3D ズームファクタ (3D Zoom Factor)** テキストボックスに値を入力して、3D グラフのズームインとズームアウトのグローバル倍率を設定します。値を小さくすると、グラフがズームアウトされ、フレーム内でグラフが小さく表示されます。値を大きくすると、グラフがズームインされ、フレーム内でグラフが大きく表示されます。
- **横方向にパンを適用 (Pan Horizontally)** テキストボックスに値を入力して、3D グラフを横方向に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが左に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが右に移動します。
- **縦方向にパンを適用 (Pan Vertically)** テキストボックスに値を入力して、3D グラフを縦方向に移動します。値を小さくすると、グラフのフレームが上に移動します。値を大きくすると、グラフのフレームが下に移動します。

[背景] (Background) タブでは、グラフの境界を設定、カスタマイズします。下図は、[背景] (Background) タブを示しています。



[背景] (Background) タブには、次のオプションがあります。

- **境界色の表示 (Show Border Color)** このオプションを選択して、境界の色を表示します。

- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、境界の色を選択します。
- **単色 (Solid fill)** このオプションを選択して、[色] (Color) および [透明度] (Transparency) オプションを表示します。
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、フレームの色を選択することができます。
- **透明度 (Transparency)** スライダを移動して、背景の透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。
- **グラデーション (Gradient fill)** このオプションを選択して、グラデーションの方向、グラデーションの色パターン、およびグラデーションを構成する 2 色の透明度を設定します。グラデーションとは、ある色から別の色への滑らかな色の変化または混合のことです。グラデーションに使用する色の数は、「stop」または「pin」という要素で定義されます。
- **方向 (Direction)** このドロップダウンメニューから、グラデーションの方向を選択します。次のオプションがあります。
 - グラデーション - 右 (Gradient right)
 - グラデーション - 左 (Gradient left)
 - グラデーション - 左 (Gradient left)
 - グラデーション - 下 (Gradient down)
 - グラデーション - 上 (Gradient up)
 - グラデーション - 下左 (Gradient down left)
 - グラデーション - 上左 (Gradient up left)
 - グラデーション - 下右 (Gradient down right)
 - グラデーション - 上右 (Gradient up right)
 - 放射状 (Radial)
 - 放射状 - 上左 (Radial top left)
 - 放射状 - 上右 (Radial top right)
 - 放射状 - 下左 (Radial bottom left)
 - 放射状 - 下右 (Radial bottom right)

- 放射状円 (Radial pie)
- 放射状円 (反転) (Radial pie inverted)

グラデーションスタイル (Gradient Style)

- **色パターン (Color Pattern)** データシリーズの色パターンを選択します。左側の色パターンオプション (AB 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1) から [2 番目の色] (color2) へ移行します (例、赤から緑へ)。右側の色パターンオプション (ABA 形式) を選択すると、2つの色が [1 番目の色] (color1)、[2 番目の色] (color2)、[1 番目の色] (color1) の順序で移行します (例、赤から緑、緑から赤へ)。
- **1 番目の色 (First Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、1 番目の色を選択することができます。
- **2 番目の色 (Second Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、2 番目の色を選択することができます。

このダイアログボックスを開く方法についての詳細は、300 ページの「[フレームと背景のプロパティの使用](#)」の手順を参照してください。

フレームと背景の右クリックメニュー

グラフの背景を右クリックすると、オプションのメニューが表示されます。下表は、背景要素とフレーム要素のオプションと、その説明です。

要素	オプション	説明
背景 (Background)	背景色 (Background Color)	[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、背景色を指定することができます。詳細は、303 ページの「 背景色を変更するには 」を参照してください。
	凡例の表示 (Show legend)	背景の凡例表示を制御します。選択すると、凡例が表示されます。選択を解除すると、凡例が非表示になります。
	フレームと背景の詳細オプション (More Frame and Background Options)	[フレームと背景] (Frame and Background Options) ダイアログボックスを開きます。詳細は、284 ページの「 フレームと背景ダイアログボックス 」を参照してください。

要素	オプション	説明
フレーム (Frame)	フレーム色 (Frame Color)	[色] (Color) ダイアログボックスを使用して、フレーム色を指定することができます。詳細は、44 ページの「 色ダイアログボックス 」を参照してください。
	3D 表示 (Show 3D)	フレームの奥行きを制御します。[オン] (On) を選択すると、フレームが 3D 表示になります。[オフ] (Off) にすると、フレームは線で表示されます。 詳細は、335 ページの「 棒グラフで 3D 表示を設定するには 」を参照してください。
	フレームと背景の詳細オプション (More Frame and Background Options)	[フレームと背景] (Frame and Background Options) ダイアログボックスを開きます。詳細は、284 ページの「 フレームと背景ダイアログボックス 」を参照してください。

フレームと背景のプロパティの使用

手順/構文

フレーム色を変更するには

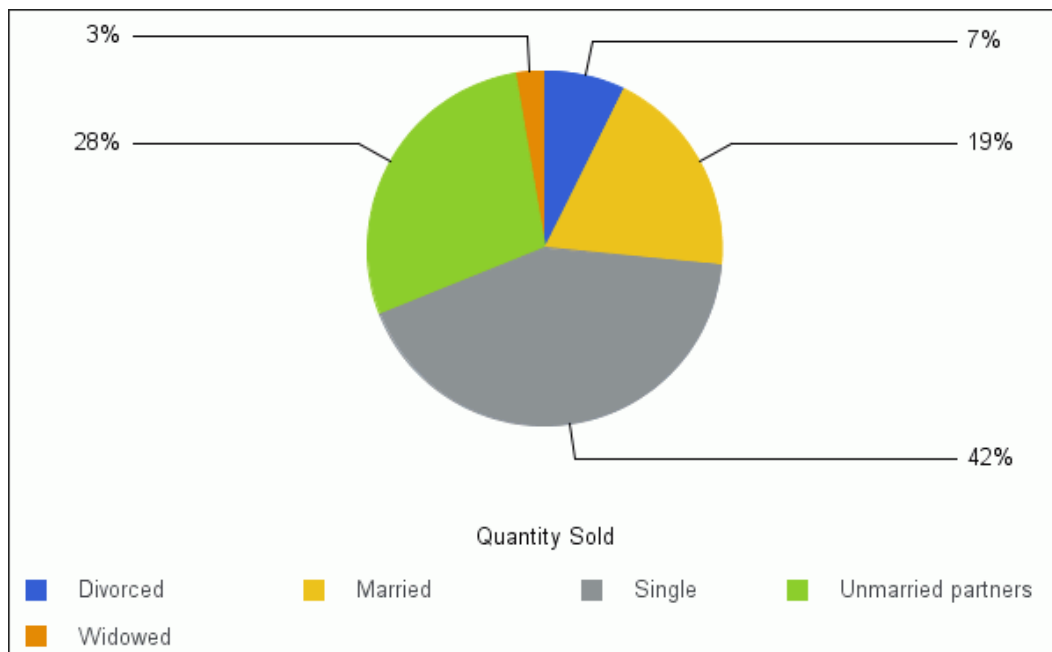
背景色を変更するには

ここでは、フレームと背景のプロパティをカスタマイズする方法について説明します。次の手順では、[フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループのオプションを使用します。

手順

フレーム色を変更するには

グラフのデフォルトフレーム色は、[オプション] (Options) ウィンドウで選択したドキュメントテーマにより決定されます。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。下図は、デフォルトのフレーム色を使用したグラフを示しています。



次の手順では、フレーム色の変更方法について説明します。

1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスにアクセスします。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[フレームと背景] (Frame & Background) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** グラフを右クリックし、[フレームと背景の詳細オプション] (More Frame & Background Options) を選択します。

[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスが開きます。

3. [フレーム] (Frame) タブの [塗りつぶし] (Fill) エリアで、[色] (Color) アイコンをクリックします。

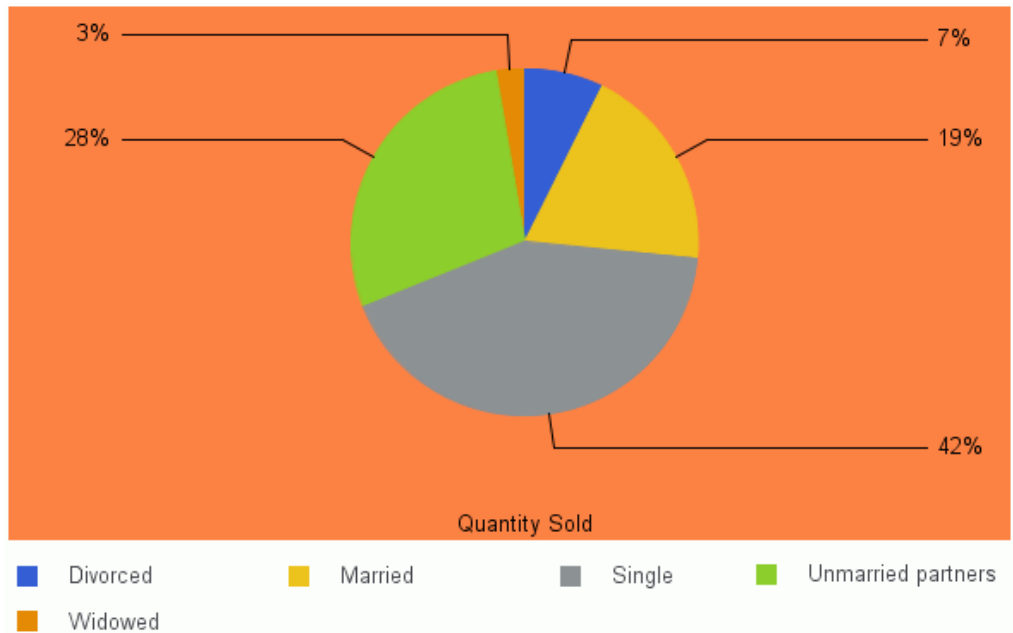
注意：[色] (Color) アイコンを表示するには、[単色] (Solid fill) を選択しておく必要があります。

[フォーマット] (Format) ダイアログボックスが開きます。フレームの新しい色を選択します。[色] (Color) ダイアログボックスについての詳細は、44 ページの「[色ダイアログボックス](#)」を参照してください。また、フレームの奥行き角度や奥行きラジウスを設定したり、フレームの影を設定したりすることもできます。

4. [OK] をクリックします。

グラフに新しいフレーム色が表示されます。

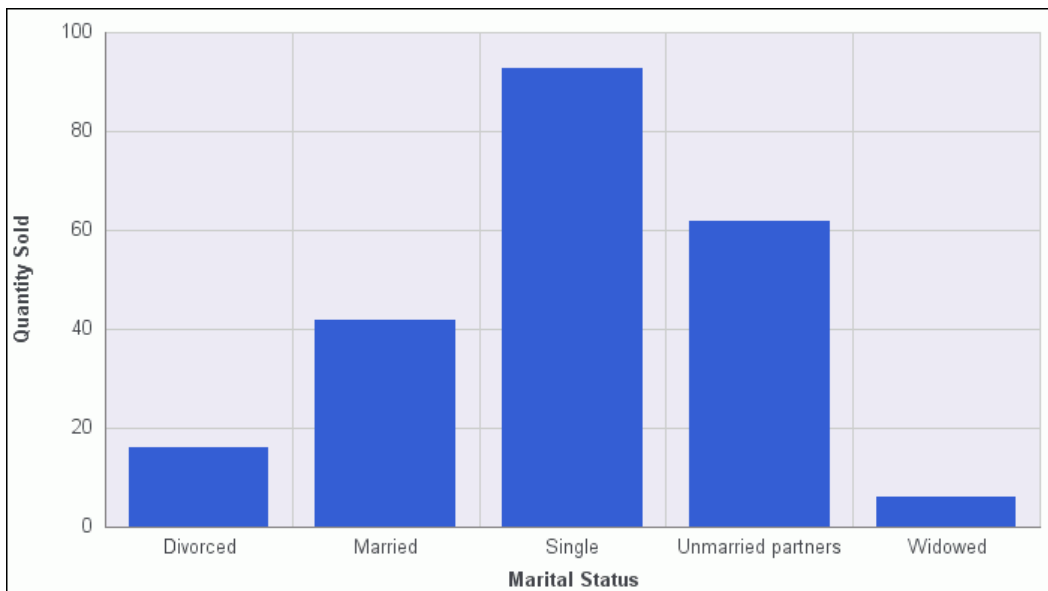
下図は、新しいフレーム色が適用された同一グラフを示しています。



手順

背景色を変更するには

グラフのデフォルト背景色は、[オプション] (Options) ウィンドウで選択したドキュメントテーマにより決定されます。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。下図は、デフォルト背景色のグラフを示しています。



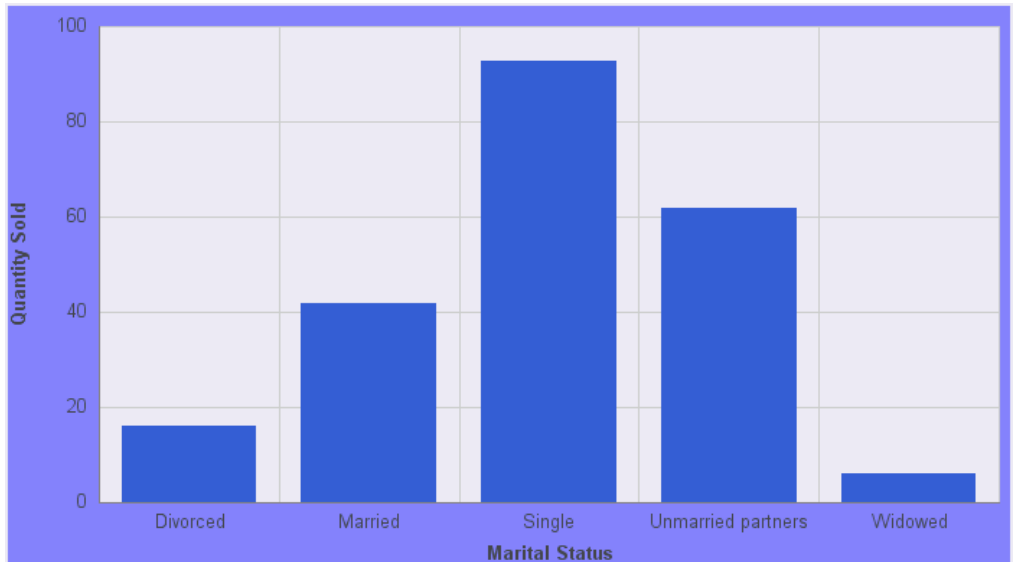
1. グラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[フレームと背景] (Frame & Background) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** グラフの背景を右クリックし、[フレームと背景の詳細オプション] (More Frame & Background Options) を選択します。[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスが開きます。
3. [背景] (Background) タブの [背景塗りつぶし] (Background fill) エリアで、[色] (Color) アイコンをクリックします。

[色] (Color) ダイアログボックスが開きます。新しい背景色を選択します。[色] (Color) ダイアログボックスについての詳細は、44 ページの「[色ダイアログボックス](#)」を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

グラフに新しい背景色が表示されます。

下図では、グラフに新しい背景色が表示されています。



メータグラフのフォーマット設定

トピックス

メータフォーマットダイアログボックス

メータ要素の右クリックメニュー

メータプロパティの使用

メータグラフは、所定の日盛り範囲に単一データ値の現在位置を示す円形のグラフです。下図は、メータグラフを示しています。



[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスのメータグラフオプションを使用して、メータグラフの外観を変更することができます。

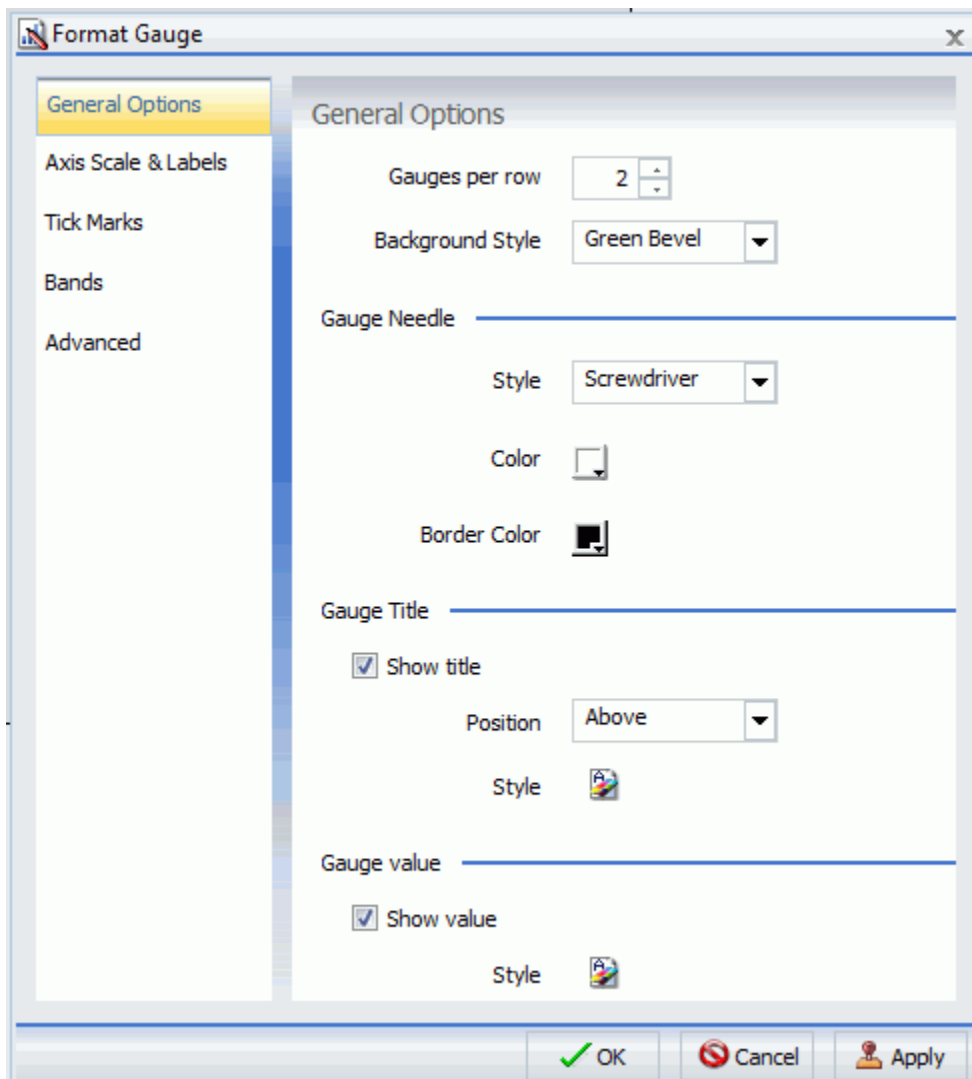
メータフォーマットダイアログボックス

リボンまたは右クリックメニューのいずれかを使用してメータオプションにアクセスすると、[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、メータグラフのフォーマットを設定します。メータグラフのタイトルを設定し、スタイルを適用するオプション、目盛りを設定するオプション、色バンドを有効にし、スタイル設定するオプションのほか、メータの始点角度および終点角度の設定などの詳細設定があります。

[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般オプション (General Options)
- 軸目盛りとラベル (Axis Scale & Labels)
- 目盛り (Tick Marks)
- バンド (Bands)
- 詳細 (Advanced)

[全般オプション](General Options) タブでは、一般的なメータオプションを設定します。下図は、[全般オプション](General Options) タブを示しています。



[全般オプション](General Options) タブには、次のオプションがあります。

- **複数のメータ (Gauges per row)** 各行に表示するメータの個数を入力または選択します。デフォルト設定では、2つのメータグラフが表示されます。各行には、最大で32個のメータグラフを表示することができます。

注意：1 行に表示されるグラフの数は、選択した出力フォーマットによって異なる場合があります。たとえば、HTML フォーマットの場合は 1 行に 2 つのグラフが表示され、HTML5 の場合は 4 つのグラフが表示されます。

- **背景スタイル (Background Style)** ドロップダウンメニューから、背景のスタイルを選択します。次のオプションがあります。
 - 緑 (リング) (Green Bevel) (デフォルト)
 - 灰色 (リング) (Grey Bevel)
 - ゴールド (リング) (Gold Bevel)
 - 灰色 (リング) #2 (Grey Bevel 2)
 - ゴールド (リング) #2 (Gold Bevel 2)
 - 黒 (Thin Black)
 - 黒 #2 (Thin Black 2)
 - 灰色 (リング) #3 (Grey Bevel 3)
 - 灰色 (Grey)
 - 青 (リング) (Blue Bevel)
 - 灰色 (Grey Flat)
 - 碧青 (リング) (Turquoise Bevel)

メータ針 (Gauge Needle)

- **スタイル (Style)** ドロップダウンメニューから、メータ針に適用するスタイルオプションを選択します。次のオプションがあります。
 - 細い (Thin)
 - 太い (Thick)
 - 標準 (Normal) (デフォルト)
 - ドライバー (Screwdriver)
 - ペンシル (Pencil)
- **色 (Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、メータ針の色を選択します。

注意：複数のシリーズを使用してメータグラフを作成する場合は、[シリーズフォーマット](Format Series) ダイアログボックスでメータ針およびその境界のフォーマットを設定します。

- **境界色 (Border Color)** このアイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、メータ針の境界色を選択します。

注意：複数のシリーズを使用してメータグラフを作成する場合は、[シリーズフォーマット](Format Series) ダイアログボックスでメータ針およびその境界のフォーマットを設定します。

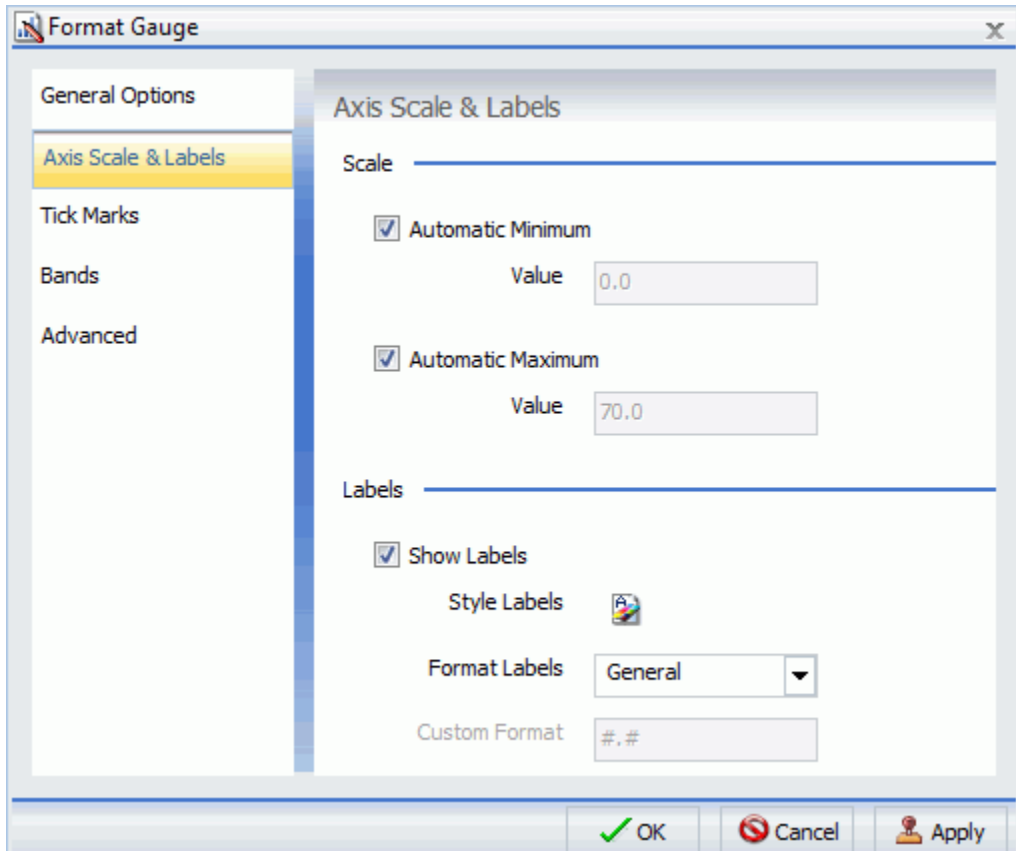
メータタイトル (Gauge Title)

- **タイトルの表示 (Show title)** (デフォルト) 各メータのメータタイトルを表示します。このオプションの選択を解除して、タイトルを非表示にします。
- **位置 (Position)** メータタイトルの位置を選択します。次のオプションがあります。
 - 上 (Above) (デフォルト)
 - 中央揃え (Center)
 - 下 (Below)
- **スタイル (Style)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、メータタイトルテキストのスタイルを設定することができます。

メータ値 (Gauge value)

- **値の表示 (Show value)** (デフォルト) このオプションの選択を解除して、メータ値を非表示にします。
- **スタイル (Style)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、メータ値テキストのスタイルを設定することができます。

[軸目盛りとラベル] (Axis Scale & Labels) タブでは、メータ針の軸目盛りおよびラベルのプロパティを設定します。下図は、[軸目盛りとラベル] (Axis Scale & Labels) タブを示しています。



[軸目盛りとラベル] (Axis Scale & Labels) タブには、次のオプションがあります。

小数部 (Scale)

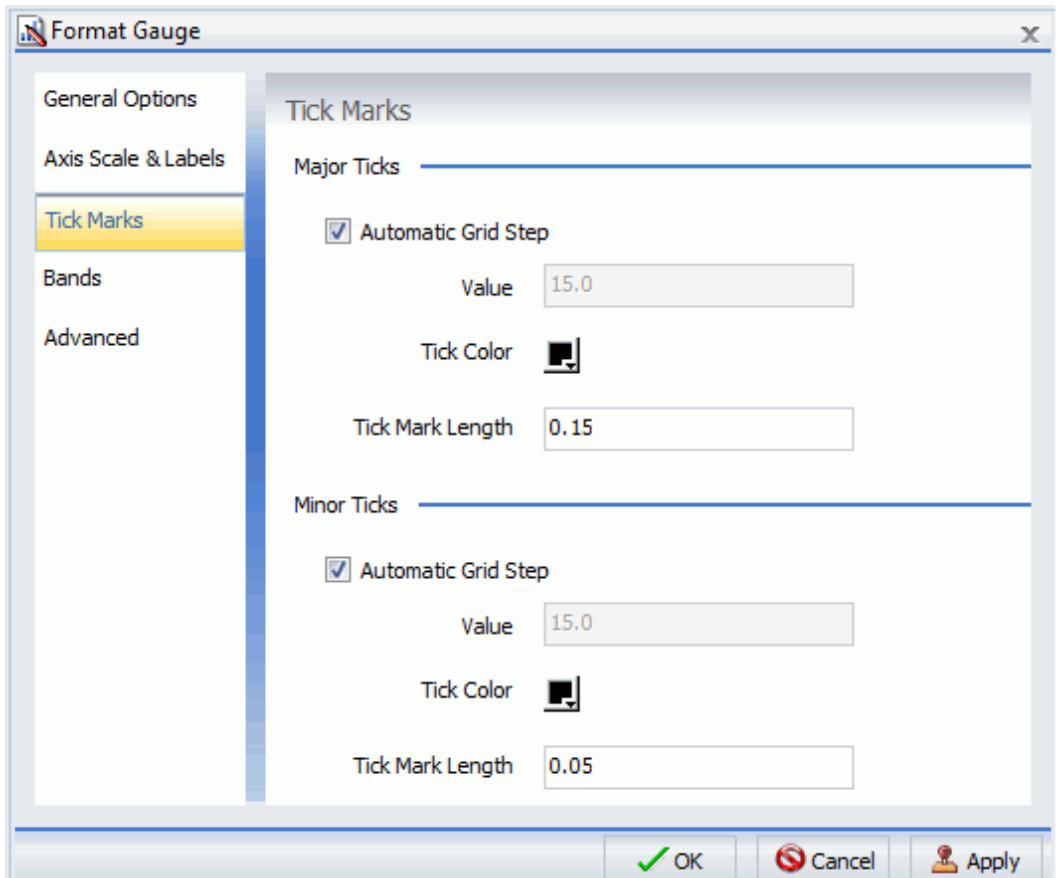
- **自動最小値 (Automatic Minimum)** (デフォルト) 目盛りの最小値を自動的に設定します。最小値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値] (Value) テキストボックスに数値を入力します。
- **値 (Value)** [自動最小値] (Automatic Minimum) を選択しなかった場合、このテキストボックスに最小値を入力します。

- **自動最大値 (Automatic Maximum)** (デフォルト) 目盛りの最大値を自動的に設定します。最大値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値] (Value) テキストボックスに数値を入力します。
- **値 (Value)** [自動最大値] (Automatic Maximum) を選択しなかった場合、このテキストボックスに最大値を入力します。

ラベル (Labels)

- **ラベルの表示 (Show Labels)** (デフォルト) 軸の横にラベルを表示します。このオプションの選択を解除すると、ラベルが非表示になります。
- **ラベルスタイル (Style Labels)** このアイコンをクリックして [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開き、ラベルのスタイルを設定することができます。
- **ラベルフォーマット (Format Labels)** このドロップダウンメニューから定義済みフォーマットを選択して、ラベルに適用することができます。[カスタムフォーマット] (Custom Format) を選択する場合は、カスタムフォーマットパターンを使用し、フォーマットを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字の一覧およびその説明については、223 ページの「[データラベルのフォーマット設定](#)」の表を参照してください。
- **カスタムフォーマット (Custom Format)** 使用するカスタムフォーマットを [カスタムフォーマット] (Custom Format) テキストボックスに入力します。

[目盛り](Tick Marks) タブには、メータグラフの目盛りのフォーマットを設定するオプションが表示されます。下図は、[目盛り](Tick Marks) タブを示しています。

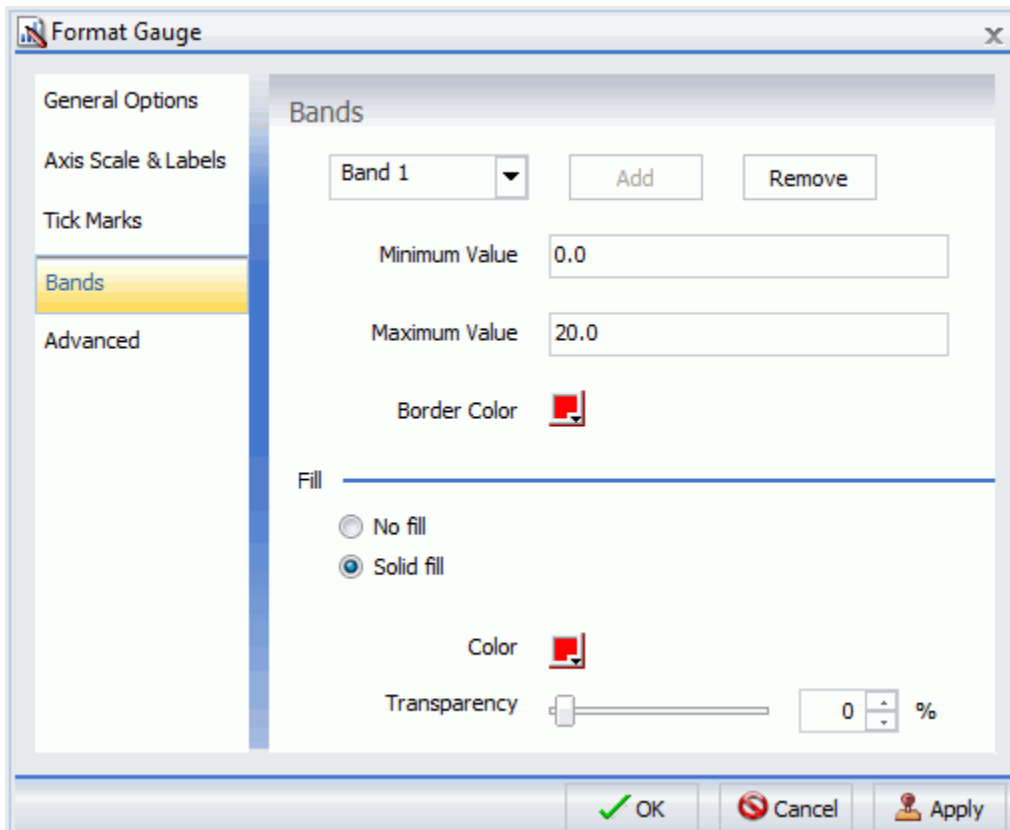


[目盛り](Tick Marks) タブには、次のオプションがあります。

- **罫線間隔自動 (Automatic Grid Step)** (デフォルト) メータグラフの主目盛り間隔を自動的に計算します。値を手動で設定するには、このオプションの選択を解除し、[値](Value) テキストボックスに数値を入力します。
- **値 (Value)** [罫線間隔自動](Automatic Grid Step) を選択しなかった場合、このテキストボックスに値を入力します。
- **目盛りの色 (Tick Color)** このアイコンをクリックして [色](Color) ダイアログボックスを開き、目盛りの色を選択します。

- **目盛りの長さ (Tick Mark Length)** メータグラフの主目盛りの相対的な長さの値を入力します。値の範囲は 0.0 から 0.5 です。最小値に設定すると、主目盛りが非表示になります。

[バンド] (Bands) タブには、メータグラフの目盛りのフォーマットおよび背景色を設定するオプションがあります。下図は、[バンド] (Bands) タブを示しています。



[バンド] (Bands) タブには、次のオプションがあります。

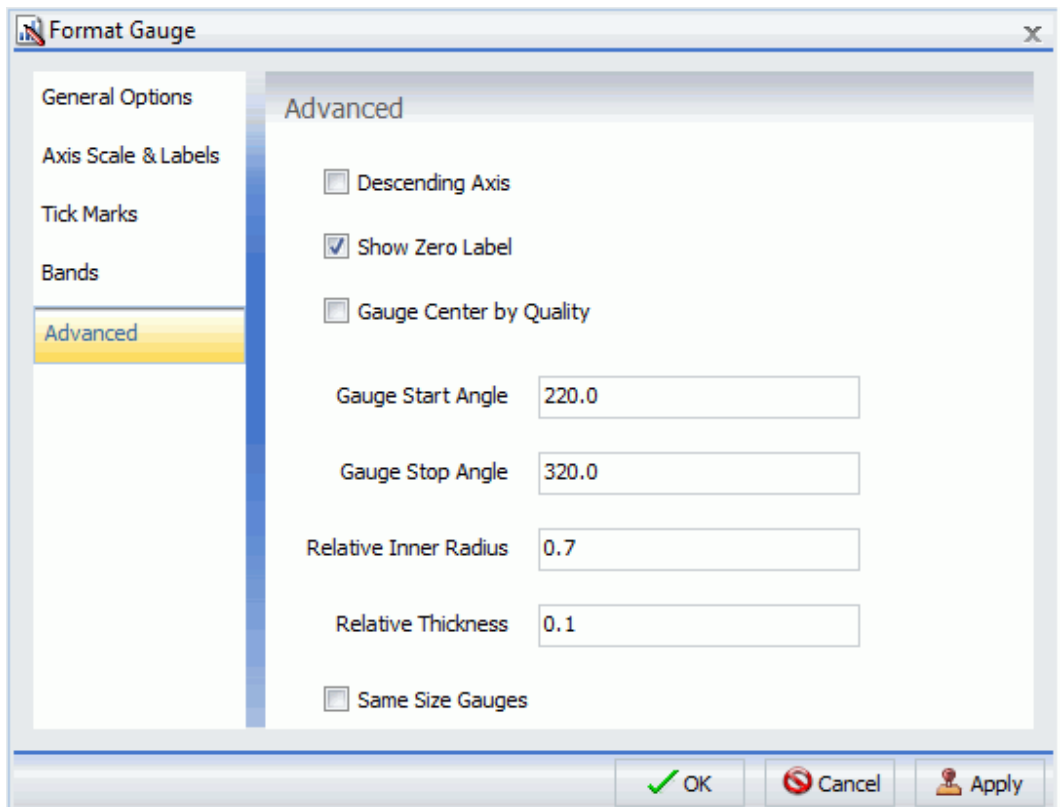
- **バンド 1 (Band 1)** ドロップダウンメニューに、使用可能なバンドが表示されます。
 - **追加 (Add)** ドロップダウンメニューから選択したバンドをメータグラフに追加します。メータグラフには最大で 5 つのバンドを作成することができます。
 - **削除 (Remove)** ドロップダウンメニューから選択したバンドをメータグラフから削除します。
- **最小値 (Minimum Value)** メータグラフのクオリティバンドの最小値を入力します。

- ❑ **最大値 (Maximum Value)** メータグラフのクオリティバンドの最大値を入力します。
- ❑ **境界色 (Border Color)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、メータバンドの境界色を編集することができます。

塗りつぶし (Fill)

- ❑ **塗りつぶしなし (No fill)** クオリティバンドから塗りつぶしを削除します。
- ❑ **単色 (Solid fill)** (デフォルト) クオリティバンドに単一色を適用します。
- ❑ **色 (Color)** このオプションをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、クオリティバンドの色を選択することができます。
- ❑ **透明度 (Transparency)** スライダーを移動して、バンドの透明度を不透明 (0%) から透明 (100%) の範囲で設定します。デフォルト値は 0 パーセントです。

[詳細] (Advanced) タブには、メータ針の追加プロパティを設定するオプションが表示されます。下図は、その画面を示しています。



[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

- **降順軸 (Descending Axis)** このオプションを選択して、メータ目盛りを降順で表示します。このオプションの選択を解除すると (デフォルト)、メータ目盛りが昇順で表示されます。
- **ゼロラベルの表示 (Show Zero Label)** (デフォルト) 軸目盛りにゼロラベルを表示します。このオプションの選択を解除して、メータの軸目盛りを別の値から開始します。
- **クオリティで中央揃え (Gauge Center by Quality)** このオプションを選択して、メータ針の中心に、メータ針が指し示しているバンド色と同一の色を表示します。
- **メータ始点角度 (Gauge Start Angle)** 回転角度を入力して、メータが回転する範囲の始点を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) 度から 359 度までです。デフォルト値は、220 度です。
- **メータ終点角度 (Gauge Stop Angle)** 回転角度を入力して、メータが回転する範囲の終点を設定します。値の範囲は、0 (ゼロ) 度から 359 度までです。デフォルト値は 320 度です。始点角度を 0 (ゼロ)、終点角度を 180 に設定すると、メータの回転範囲が半円になります。
- **相対内部ラジウス (Relative Inner Radius)** 値を入力して、メータのバンドおよびラベルの内側半径を、メータ外側との相対値で定義します。値を小さくすると (例、0.0)、内部半径がメータの中心寄りに配置されます。最大値 1.0 に設定すると、内側半径がメータの外側付近に配置されます。
- **相対的な厚み (Relative Thickness)** 値を入力して、メータバンドの相対的な厚みを定義します。値の範囲は、0.0 から 1.0 までです。
- **メータサイズを揃える (Same Size Gauge)** このオプションは、複数カテゴリのメータグラフに適用されます。各行のメータの個数が 3 以上の場合、このオプションを選択して、すべてのメータを同一サイズで表示することができます。

メータ要素の右クリックメニュー

メータグラフを右クリックすると、メニューに [メータ詳細オプション] (More Gauge Options) が表示されます。このオプションを選択して、[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。

メータプロパティの使用

手順/構文

各行のメータの個数を設定するには

軸目盛りの最大値と最小値を設定するには

軸ラベルのスタイルを設定するには

軸ラベルのフォーマットを設定するには

軸ラベルを回転するには

メータ目盛りを設定するには

メータの色バンドを設定するには

メータ針の中心にバンドと同一色を表示するには (クオリティで中央揃え)

メータ針のスタイルを設定するには

複数シリーズのメータグラフでメータ針の色を設定するには

ここでは、メータプロパティの使用方法について説明します。[メータ](Gauges) オプションは、[フォーマット](Format) タブの [機能](Features) グループにあります。

注意：このオプションは、メータグラフを作成する場合にのみ使用できます。

手順

各行のメータの個数を設定するには

グラフに複数のメータを表示する場合、各行に表示するメータの個数を指定することができます。下図では、各行のメータの個数が 2 に設定されています。



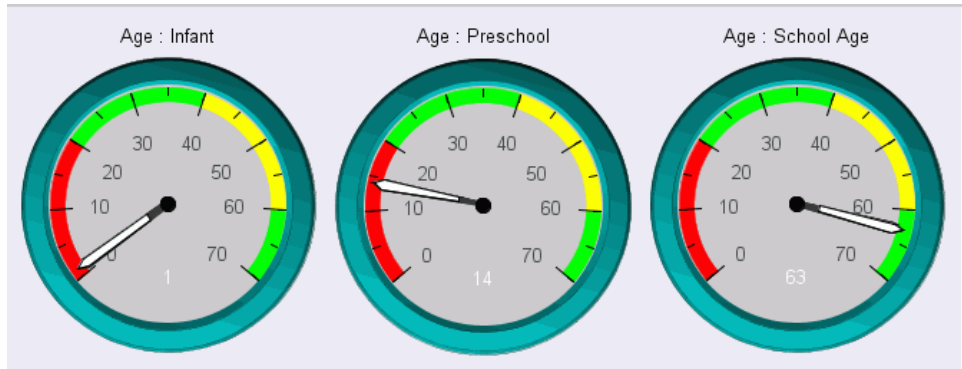
1. 複数の値を含むメータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット](Format) タブの [機能](Features) グループで、[メータ](Gauges) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション](More Gauge Options) を選択します。

[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスが開きます。
3. [全般オプション](General) タブの [複数のメータ](Gauges per row) テキストボックスで、各行に表示するメータの個数を入力または選択します。

4. [OK] をクリックします。

複数のメータが 1 行に表示されます。

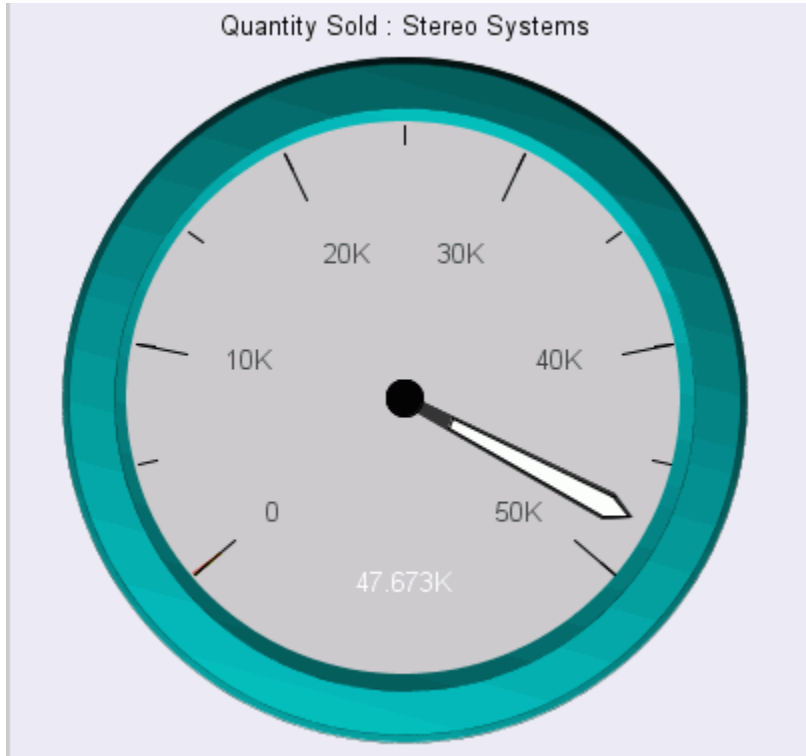
各行に表示するメータの個数をデフォルト値の 2 から 3 に変更した結果、すべてのグラフが 1 行に表示されています。



手順

軸目盛りの最大値と最小値を設定するには

下図は、目盛りの値が自動的に割り当てられたメータグラフを示しています。

**1.** メータグラフを作成します。

下図は、デフォルト設定を使用したメータグラフを示しています。

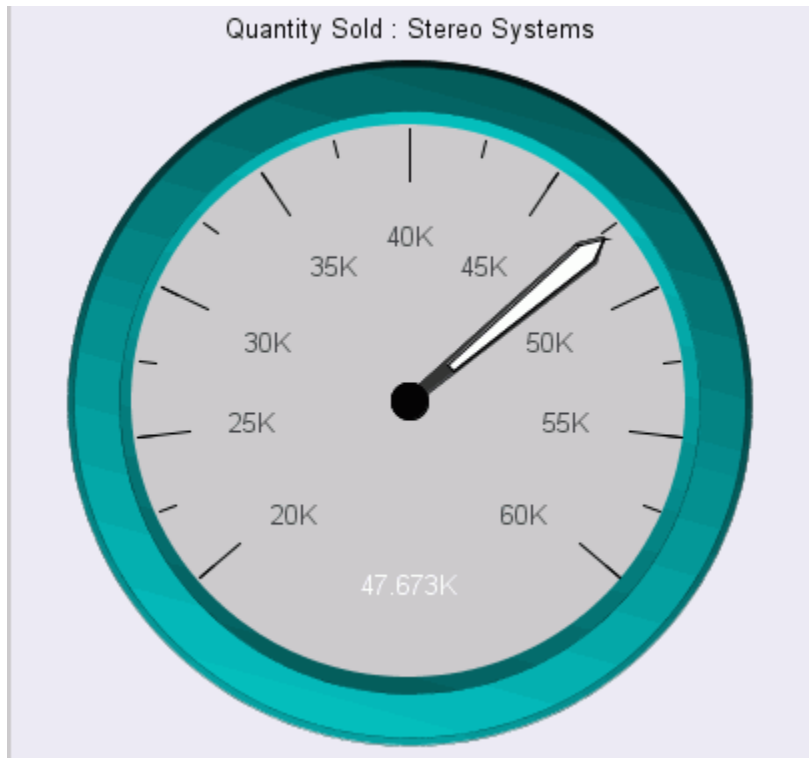
- 2.**
- 次のいずれかの方法で[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。
- リボン** [フォーマット](Format) タブの[機能](Features) グループで、[メータ](Gauges) をクリックします。
 - 右クリックメニュー** メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション](More Gauge Options) を選択します。

[メータフォーマット](Format Gauge) ダイアログボックスが開きます。

3. [軸目盛りとラベル] (Axis Scale & Labels) タブの [目盛り] (Scale) エリアで、自動的に割り当てられる目盛りの最小値と最大値を受容するか、[値] (Value) テキストボックスに新しい値を入力します。
4. [適用] (Apply) をクリックします。

選択したオプションがメータ目盛りに反映されます。

下図は、上図のメータグラフに軸目盛りの変更が適用された後のメータグラフを示しています。自動最小値がクリアされ、値が 20000 に設定されています。自動最大値がクリアされ、値が 60000 に設定されています。



手順

軸ラベルのスタイルを設定するには

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [スタイル] (Style) ダイアログボックスを開きます。

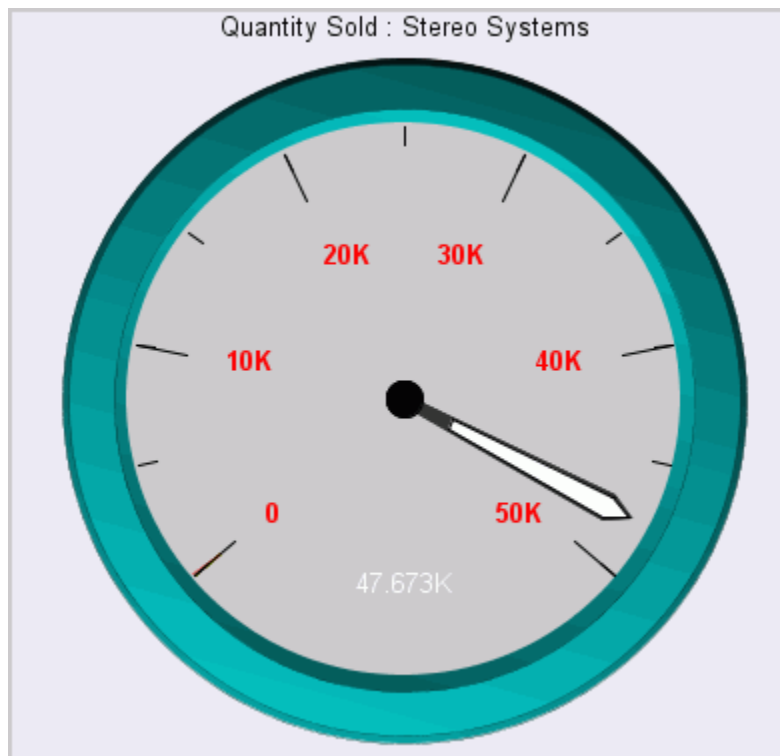
- **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックして [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスで [軸目盛りとラベル] タブを開きます。[ラベル] (Labels) エリアで、[ラベルスタイル] (Style Labels) アイコンをクリックします。
- **右クリックメニュー** ラベルを右クリックし、[ラベルスタイル] (Style Labels) を選択します。

[スタイル] (Style) ダイアログボックスが開きます。

3. [軸目盛りとラベル] タブの [ラベル] エリアでラベルスタイルを設定します。
4. [OK] をクリックします。

選択したスタイルが軸ラベルに反映されます。

下図は、軸ラベルのスタイルが、赤色、太字、Courier フォントに設定されたグラフを示しています。



手順 軸ラベルのフォーマットを設定するには

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で、軸ラベルのフォーマットオプションにアクセスします。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックして [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスで [軸目盛りとラベル] (Axis Scale & Labels) タブを開きます。[ラベル] (Labels) エリアで、[ラベルフォーマット] (Format Labels) ドロップダウンメニューを開きます。
 - **右クリックメニュー** ラベルを右クリックし、[フォーマット] (Format) を選択します。

選択可能なフォーマットオプションのメニューが開きます。

3. フォーマットオプションを選択します。

注意：[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスでカスタムフォーマット ([パターンの使用] (Use Pattern) または [パターンの使用 /100]) (Use Pattern / 100) を選択した場合、[カスタムフォーマット] (Custom Format) メニューが使用可能になります。[パターンの使用] (Use Pattern) を選択した場合は、[カスタムフォーマット] (Custom Format) テキストボックスでパターンを定義する必要があります。カスタムフォーマットで使用可能な文字の一覧およびその説明については、223 ページの「[データラベルのフォーマット設定](#)」の表を参照してください。

4. [OK] をクリックします。

選択したフォーマットが軸ラベルに反映されます。

手順 軸ラベルを回転するには

1. メータグラフを作成します。
2. 軸ラベルを右クリックします。
3. 右クリックメニューから [回転] (Rotate) を選択した後、ラベルの回転角度を選択します。

下図は、軸ラベルを 45 度回転させたメータグラフを示しています。



手順 **メータ目盛りを設定するには**

ここでは、主目盛りおよび補助目盛りの罫線間隔、色、長さを設定する方法について説明します。

下図は、デフォルトの目盛りを使用したメータグラフを示しています。

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックします。
 - 右クリックメニュー** メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] (More Gauge Options) を選択します。

[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスが開きます。

3. [目盛り] (Tick Marks) タブで、[罫線間隔自動] (Automatic Grid Step) を選択して自動設定される値を受容するか、[値] (Value) テキストボックスに値を入力します。
4. [目盛りの色] (Tick Color) アイコンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、目盛りの色を選択することができます。
5. [目盛りの長さ] (Tick Mark Length) では、自動的に設定される値を受容するか、[値] (Value) テキストボックスに値を入力します。

下図は、同一のメータグラフを示しています。主目盛りの色が、黒から赤に変更されています。長さは、元のサイズの 0.15 インチから、2 倍の 0.30 インチに変更されています。補助目盛りの色は、黒から青に変更されています。補助目盛りの長さも増加されています。長さは、0.05 インチの代わりに、0.10 インチが使用されています。



手順 メータの色バンドを設定するには

下図は、色バンドが設定されていないメータグラフを示しています。



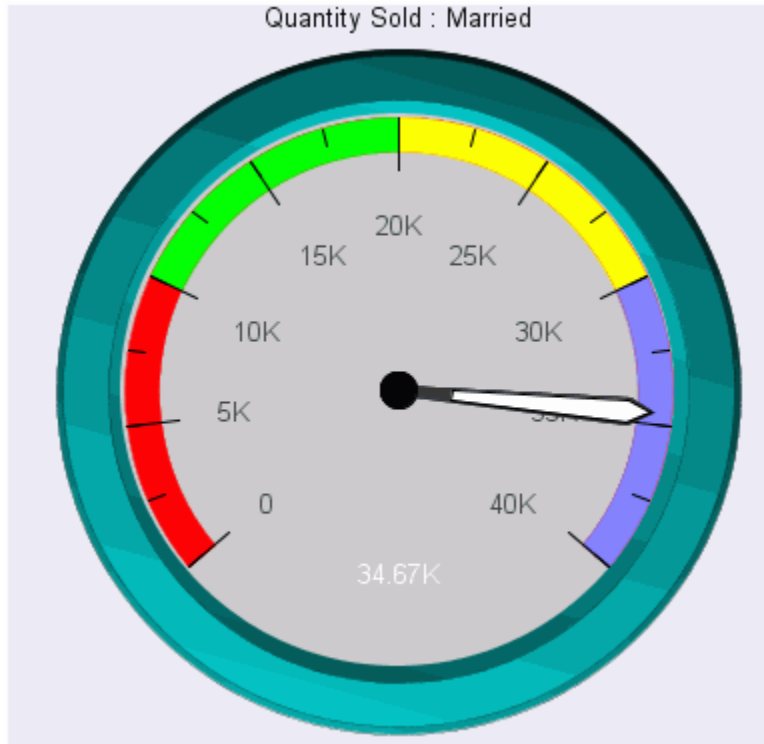
1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。
 - リボン [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックします。
 - 右クリックメニュー メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] (More Gauge Options) を選択します。[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスが開きます。
3. [バンド] タブでメータグラフに表示するバンドごとに、最小値および最大値を設定します。
4. それぞれの色バンドの塗りつぶしおよび境界の色を設定します。

注意：色バンドでは、グラデーションオプションは使用できません。

5. [OK] をクリックして、[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを閉じます。

指定したフォーマットが色バンドに適用されます。

下図は、色バンドが適用されたメータグラフを示しています。



手順

メータ針の中心にバンドと同一色を表示するには (クオリティで中央揃え)

このオプションを使用して、メータ針の中心に、メータ針が指し示しているバンドと同一の色を表示することができます。

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。

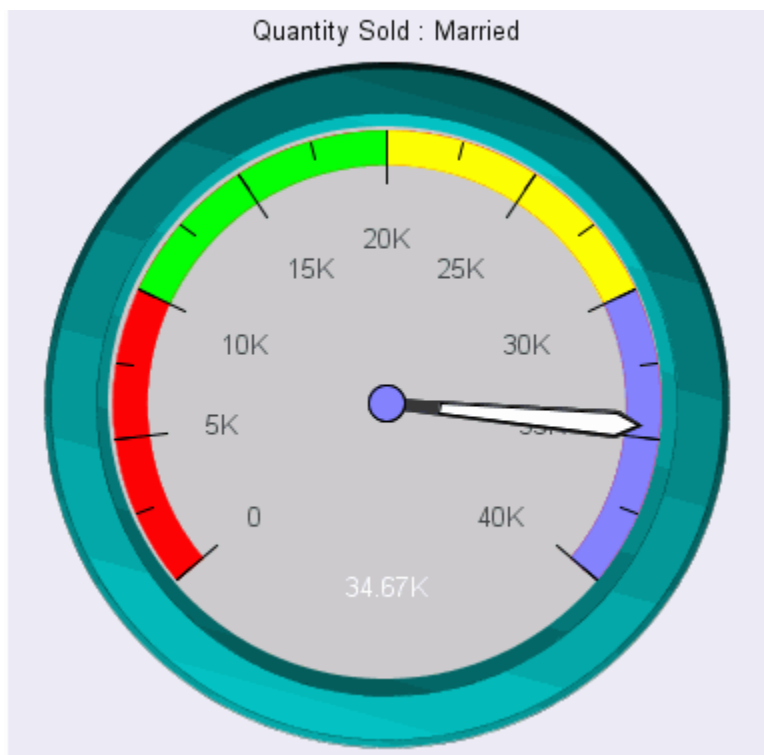
- **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックします。
- **右クリックメニュー** メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] (More Gauge Options) を選択します。

[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスが開きます。

3. [バンド] (Bands) タブで、メータグラフに表示するバンドごとに最小値および最大値を設定します。
4. それぞれの色バンドの塗りつぶしおよび境界の色を設定します。
注意：メータ針では、グラデーションおよび透明度のオプションは使用できません。
5. [詳細] (Advanced) タブで、[クオリティで中央揃え] (Gauge Center by Quality) を選択します。
6. [OK] をクリックして、[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを閉じます。

メータ針の中心に、バンドと同一の色が表示されます。

下図のメータグラフでは、メータ針の中心に、メータ針が指し示しているバンドと同一の色が表示されています。



手順 **メータ針のスタイルを設定するには**

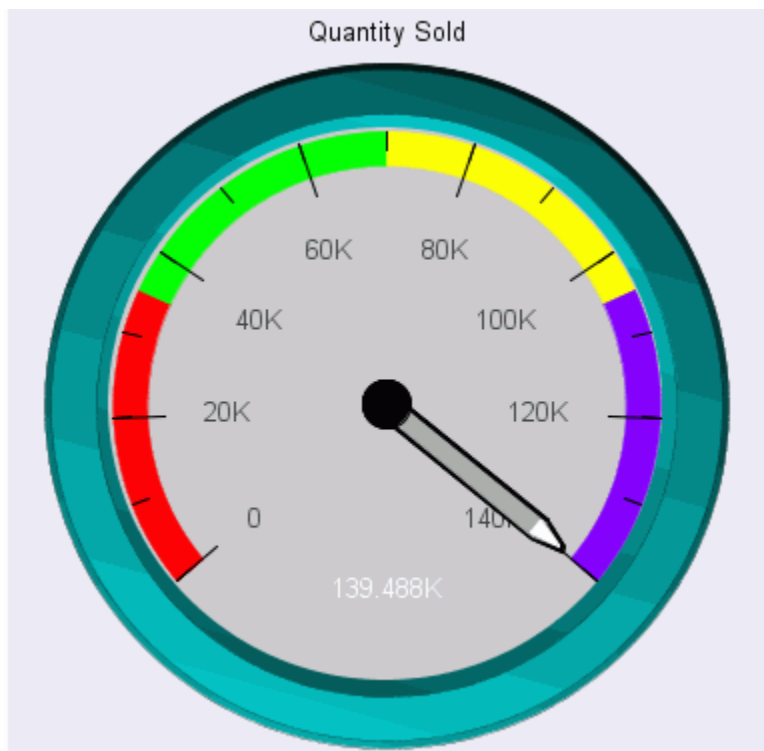
ここでは、メータ針のスタイルを [標準] (Normal) から [ペンシル] (Pencil) に変更する方法について説明します。

1. メータグラフを作成します。
2. 次のいずれかの方法で [メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスを開きます。
 - **リボン** [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[メータ] (Gauges) をクリックします。
 - **右クリックメニュー** メータグラフを右クリックし、[メータ詳細オプション] (More Gauge Options) を選択します。

3. [メータフォーマット] (Format Gauges) ダイアログボックスが開きます。
4. [全般オプション] (General) タブの [メータ針] (Gauge Needle) セクションで、[スタイル] (Style) ドロップダウンメニューから [ペンシル] (Pencil) を選択します。
5. [OK] をクリックします。

メータ針のスタイルがペンシルになります。

下図は、ペンシルスタイルに設定されたメータグラフを示しています。

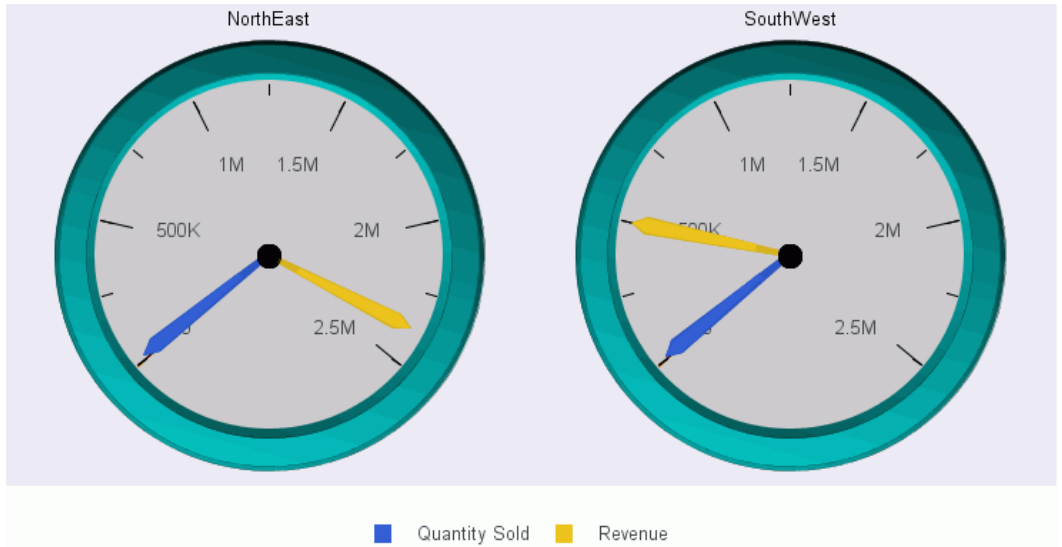


手順

複数シリーズのメータグラフでメータ針の色を設定するには

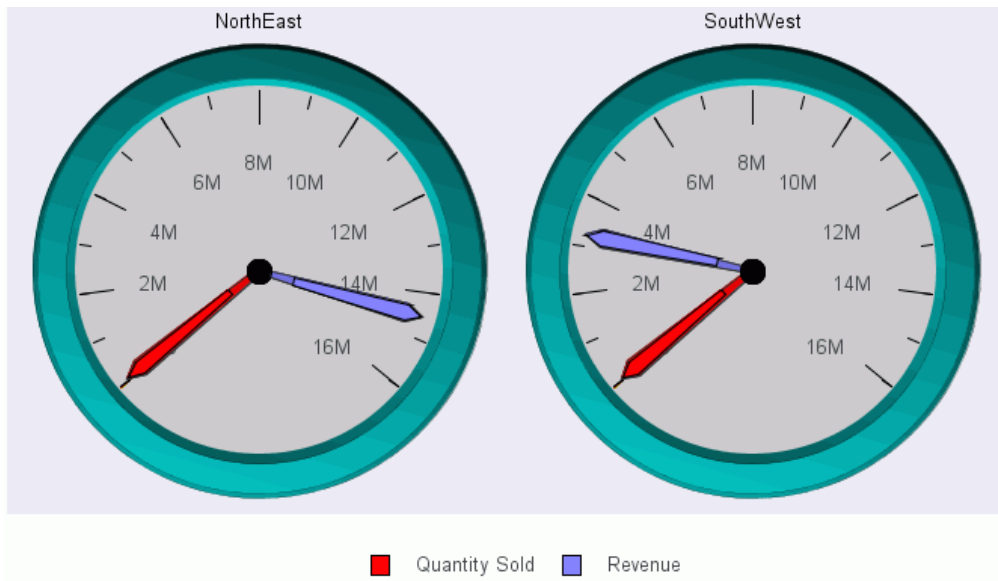
複数シリーズのメータグラフの場合、[メータフォーマット] (Format Gauge) ダイアログボックスの [全般オプション] (General Options) タブでメータ針の塗りつぶし色および境界色を変更することはできません。これを行うには、[シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスを使用します。ただし、[全般オプション] (General Options) タブでメータ針のスタイルを変更することは可能です。

下図は、2つのデータシリーズが表示されたメータグラフを示しています。



1. 複数の基軸を使用したメータグラフを作成します。
2. [シリーズ] (Series) タブの [選択] (Select) グループのドロップダウンメニューから、スタイルを適用するシリーズを選択します。
3. [スタイル] (Style) グループで、[スタイル] (Stle) をクリックします。
[シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスが開きます。
4. [塗りつぶし] (Fill) タブで、選択したシリーズのメータ針に適用する塗りつぶしおよび色のオプションを選択します。
5. メータ針に境界を表示する場合は、[境界] (Border) タブで [境界色の表示] (Show Border) を選択します。境界の色を選択することもできます。
6. [適用] (Apply) をクリックします。
7. メータ針にスタイルを適用するシリーズごとに、手順 2 から 5 を繰り返します。
8. すべての設定が完了した後、[OK] をクリックして [シリーズフォーマット] (Format Series) ダイアログボックスを閉じます。
メータ針の色および境界が変更されます。

下図は、メータ針に新しい色が適用された同一グラフを示しています。このグラフでは、[境界色の表示] (Show Border Color) オプションを有効にし、境界色にデフォルト色の黒が使用されています。



ページ見出しおよびページ脚注のフォーマット設定

手順/構文

グラフにページ見出しとページ脚注を追加するには
ページ見出しとページ脚注の表示方法を制御するには

ページ見出しとページ脚注は、グラフの目的、対象、作成者など、状況および主要な情報を提供します。ページ見出しとページ脚注によって、視覚的効果をも高めることもできます。

手順

グラフにページ見出しとページ脚注を追加するには

この手順では、サンプルの値を使用しますが、実際のグラフは、各自の実際の値を入力することができます。

この機能は、[クエリ](Query)、[ライブプレビュー](Live Preview)、[レイアウト](Document) デザインビューで使用可能です。

1. グラフを作成します。
2. グラフを開いた状態で、[ホーム] (Home) タブの [レポート] (Report) グループで [見出し/脚注] (Header & Footer) をクリックします。

[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスが開きます。

ヒント：[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスにアクセスするには、[見出しと脚注] (Header & Footer) ボタン横の矢印をクリックする方法もあります。これにより、ドロップダウンメニューが開き、操作の対象として、見出しまたは脚注を選択することができます。選択を行った後、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスが開き、選択した見出しまたは脚注がアクティブになります。
3. ページ見出しまたはページ脚注のタブをクリックします。

デフォルト設定では、[ページ見出し] (Page Heading) タブが選択されています。この手順では、デフォルト設定を受容して、最初にページ見出しを追加します。
4. このダイアログボックスのデザインエリア内をクリックし、ページ見出しテキストを入力します。

この例では、ページ見出しのテキストとして「Customers By Occupation」と入力します。
5. スタイルリボンを使用して、ページ見出しテキストにスタイルを適用します。

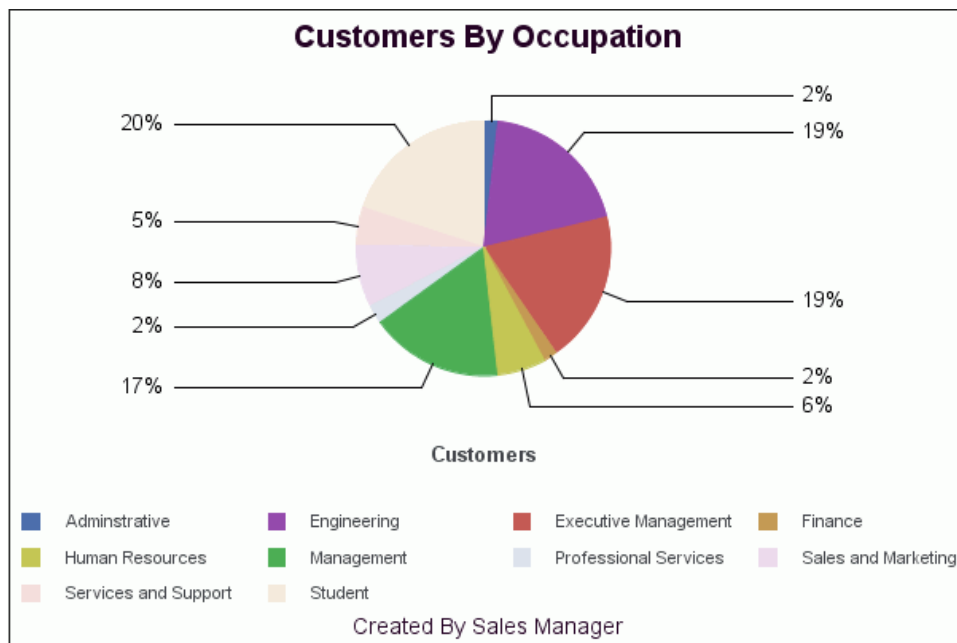
この例では、見出しのスタイルが 14 ポイント、太字の Helvetica フォント、中央揃えに設定されています。
6. [適用] (Apply) をクリックして、ダイアログボックスを閉じずに、これまでに加えた変更を保存します。
7. [ページ脚注] (Page Footer) をクリックして、ページ脚注を追加します。

この手順では、提供されている定型句オプションの 1 つを追加してから、独自のテキストを追加します。
8. [定型句] (preformatted text) ボタン横の下向き矢印をクリックし、ドロップダウンリストから [作成者] (Created by) を選択します
9. 定型句として入力されたテキストに、たとえば「Sales Manager」となるよう、適切なテキストを入力して、テキストを完成させます。
10. 必要に応じて、スタイルを変更します。

- 11** [OK] をクリックして、ページ見出しとページ脚注に加えた変更を保存し、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスを閉じます。

グラフにページ見出しおよびページ脚注が追加され、指定したスタイルが適用されます。

下図は、フォーマット設定後のグラフを示しています。




- 12** ページ見出しまたはページ脚注に変更を加える場合は、デザイン表示に戻ります。見出しまたは脚注を右クリックし、ドロップダウンメニューから [編集] (Edit) を選択します。

手順

ページ見出しとページ脚注の表示方法を制御するには

ページ見出しとページ脚注が実行時にグラフに表示される方法を制御することができます。

1. グラフを作成します。
2. 331 ページの「[グラフにページ見出しとページ脚注を追加するには](#)」の説明に従って、[見出しと脚注] (Header & Footer) ダイアログボックスを開きます。

3. スタイルリボンの [グラフのテキストオプション] (Text options for chart)  ボタンを選択すると、[新規作成] (New)、[開く] (Open)、[保存] (Save)、[実行] (Run)、その他のオプションがポップアップウィンドウで表示されます。

ドロップダウンメニューが開き、ページ見出しとページ脚注の2つの表示オプションが表示されます。

ヒント： ページ見出しに対して選択したオプションは、ページ脚注にも適用されます。また、その逆も同様です。

 - [見出しと脚注をテキストとして作成] (Create Heading and Footing as text) を選択すると、見出しと脚注は、グラフィイメージとは別のテキスト要素として表示されます。このオプションがデフォルト設定で選択されています。
 - [見出しと脚注をグラフに埋め込み] (Embed Header and Footer in the Chart) オプションを選択すると、見出しと脚注は、グラフィイメージの一部として表示されます。
4. [見出しと脚注をグラフに埋め込み] (Embed Header and Footer in the chart) を選択します。

見出しと脚注のテキストがグラフィイメージの一部として表示されます。
5. [OK] をクリックして選択内容を保存し、[見出しと脚注] (Heading & Footing) ダイアログボックスを閉じます。

その他のフォーマット機能の使用

手順/構文

棒グラフで 3D 表示を設定するには

グラフを回転するには

静的参照線を表示するには

動的な参照線を表示するには

グラフに注釈を表示するには

ここでは、グラフで使用可能なその他のフォーマット機能について説明します。

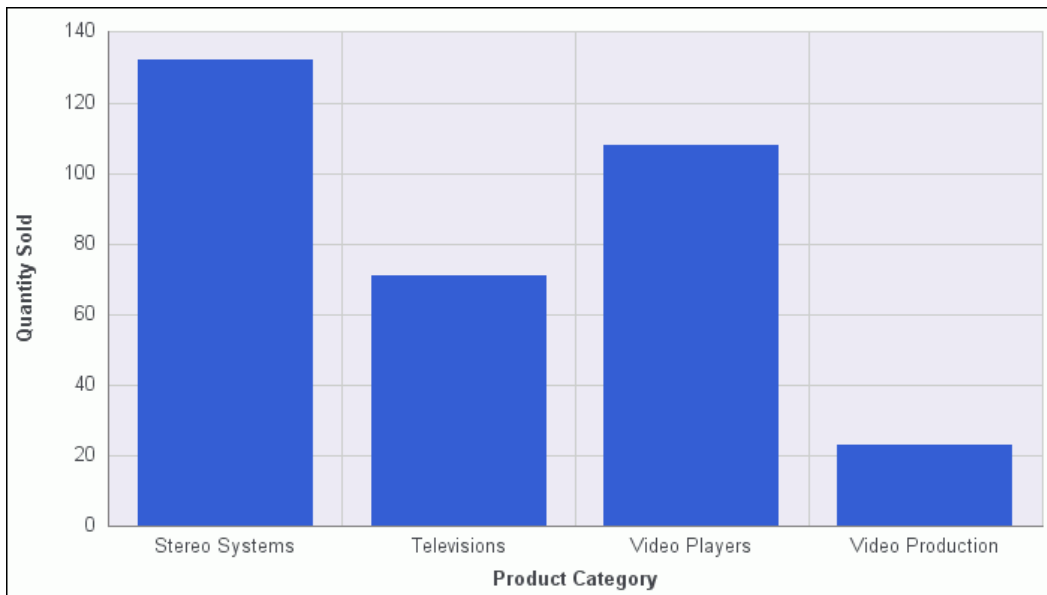
手順

棒グラフで3D表示を設定するには

2D グラフに 3D 表示を適用することができます。

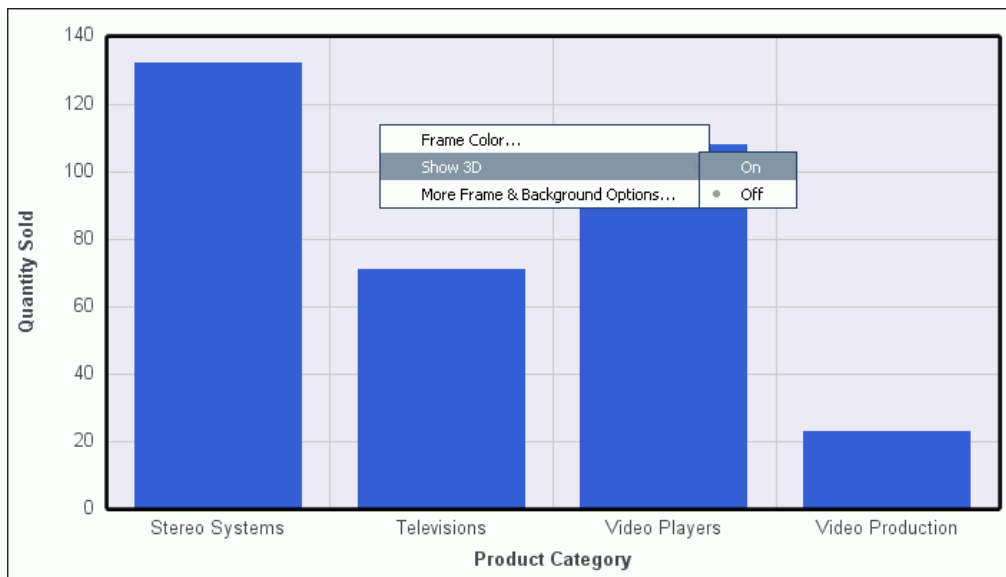
注意：3D 表示の奥行きのために Y 軸目盛り値の判読が困難になる場合は、このオプションをオフにすることができます。この手順では、デフォルトの縦棒グラフに 3D 表示を設定する方法について説明します。

下図は、3D 表示を適用する前の棒グラフを示しています。

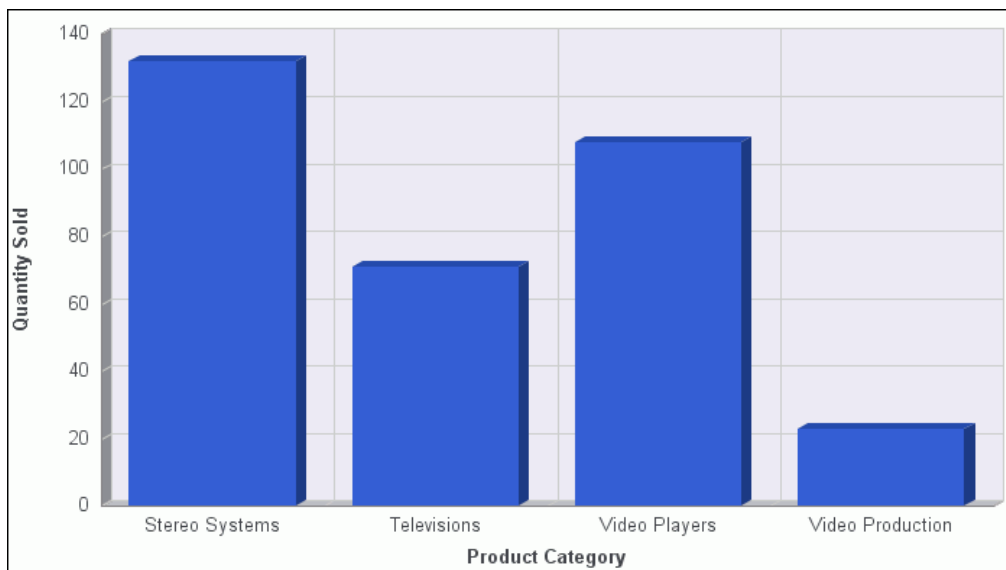


1. 2D グラフを作成します。
2. [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューで、次のいずれかの方法で 3D 表示を適用します。
 - リボン [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[3D 表示] (3D Effect) をクリックします。

- **右クリックメニュー** グラフのフレームを右クリックし、下図のように [3D 表示] (Show 3D)、[オン] (On) を順に選択します。



下図のように、グラフに 3D 表示が適用されます。

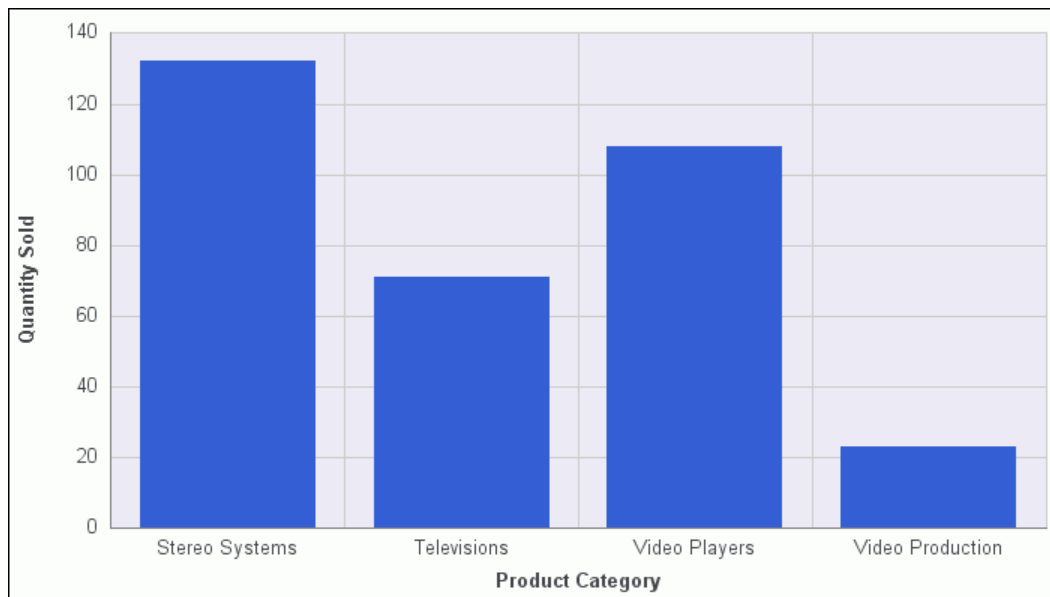


手順

グラフを回転するには

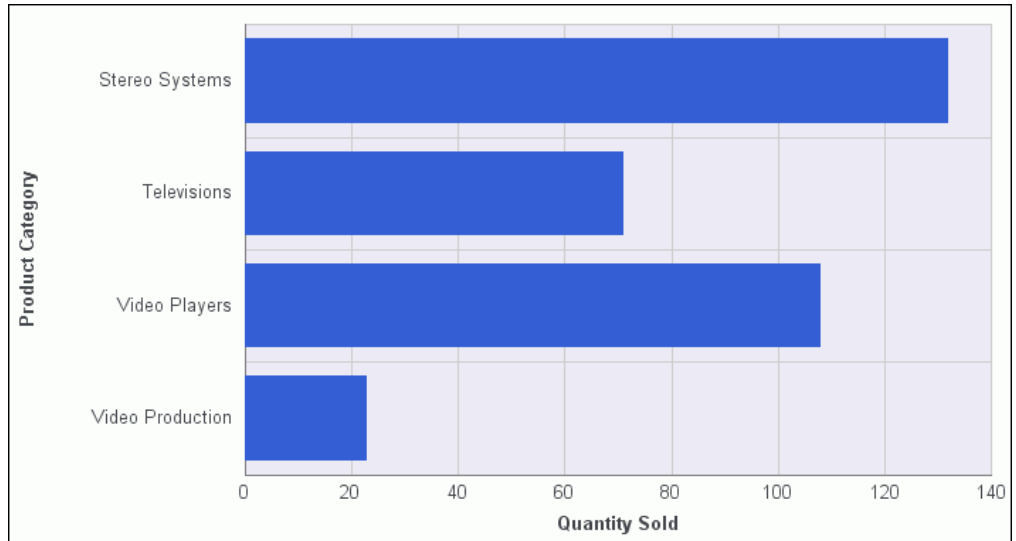
棒グラフ、折れ線グラフ、面グラフを回転させてデータの方向を変更することができます。

下図は、回転する前の棒グラフを示しています。



1. グラフを作成します。
2. [フォーマット](Format) タブの [機能](Features) グループで、[回転](Rotate) をクリックします。

グラフは時計回りに 90 度回転します。下図は、上記と同一のグラフを回転させた例を示しています。



手順

静的参照線を表示するには

グラフには、横 (X 軸) 方向と縦 (Y 軸) 方向に、それぞれ最大で 3 つの参照線を追加し、特定のデータ位置を際立たせることができます。グラフには、横 (X 軸) 方向と縦 (Y 軸) 方向に、それぞれ最大で 3 つの参照線を追加することができます。

InfoAssist では、参照線を定数または一時項目 (COMPUTE) フィールドから作成することができます。

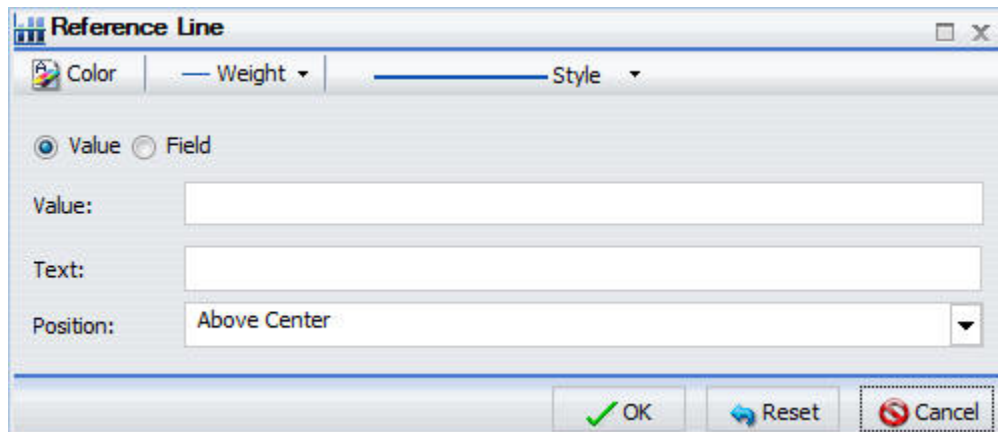
フィールド値を使用すると、プロパティを動的に定義できるため、フィールドに割り当てた値に応じて、グラフ上の参照線の位置を動的に変更することができます。

注意：参照線の値は、「10K」などの単一の値にする必要があります。[参照線] (Reference line) ダイアログボックスで複数値のフィールドを選択すると (例、「Quantity, Sold」)、InfoAssist では最後の値がグラフに表示されます。

1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[参照] (Reference) をクリックします。
3. 開いたドロップダウンメニューで、次のいずれかを選択します。

- Y 軸に参照線を追加 (Add Reference Line to Y axis)
- X 軸に参照線を追加 (Add Reference Line to X axis)

下図のように、[参照線] (Reference Line) ダイアログボックスが開きます。



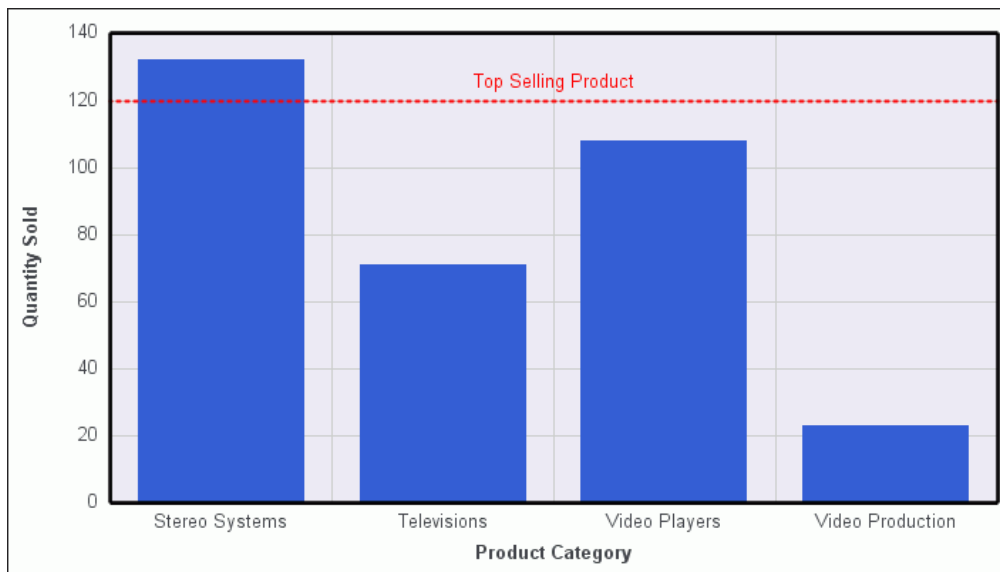
4. 設定済みの静的な値から、参照線を作成します。
 - a. [値] (Value) オプションを選択します。
 - b. [値] (Value) テキストボックスに、参照線で区分する値を入力します。
5. [テキスト] (Text) テキストボックスに、参照線のテキストを入力します。
6. [位置] (Position) ドロップダウンメニューから、参照線の位置を選択します。

次のオプションがあります。

- 中央上 (Above Center) (デフォルト)
 - 左上 (Above Left)
 - 右上 (Above Right)
 - 中央下 (Below Center)
 - 左下 (Below Left)
 - 右下 (Below Right)
7. [スタイル] (Style) ボタンをクリックし、参照線のスタイルを設定します。次のオプションがあります。

- 実線 (Solid) (デフォルト)
 - 点線 1 (Dots)
 - 点線 2 (Many Dots)
 - 破線 1 (Dashed)
 - 一点鎖線 1 (Dashed Dots)
 - 破線 2 (Long Dash)
 - 一点鎖線 2 (Mixed Dashes)
- 8.** [色] (Color) ボタンをクリックして [色] (Color) ダイアログボックスを開き、参照線およびテキストの色を選択することができます。
- 9.** [太さ] (Weight) ボタンをクリックし、参照線の太さを選択します。次のオプションがあります。
- 1px - 細い (1px - Light) (デフォルト)
 - 2px - ふつう (2px - Medium)
 - 3px - 太い (3px - Heavy)
- 10.** [OK] をクリックして、選択したオプションを保存し、[参照線] (Reference Line) ダイアログボックスを閉じます。
- グラフに参照線が追加されます。

下図は、Y 軸に参照線が追加された棒グラフを示しています。参照線を追加する際に、[値] (Value) テキストボックスに「120」、[テキスト] (Text) テキストボックスに「Top Selling Product」が入力されています。参照線には、デフォルト設定の位置である [中央上] (Above Center) が使用されています。フォーマットは、太さがふつうの、赤色、点線に設定されています。



手順

動的な参照線を表示するには

InfoAssist では、参照線を定数または一時項目 (COMPUTE) フィールドから作成することができます。

フィールド値を使用すると、プロパティを動的に定義できるため、フィールドに割り当てた値に応じて、グラフ上の参照線の位置を動的に変更することができます。

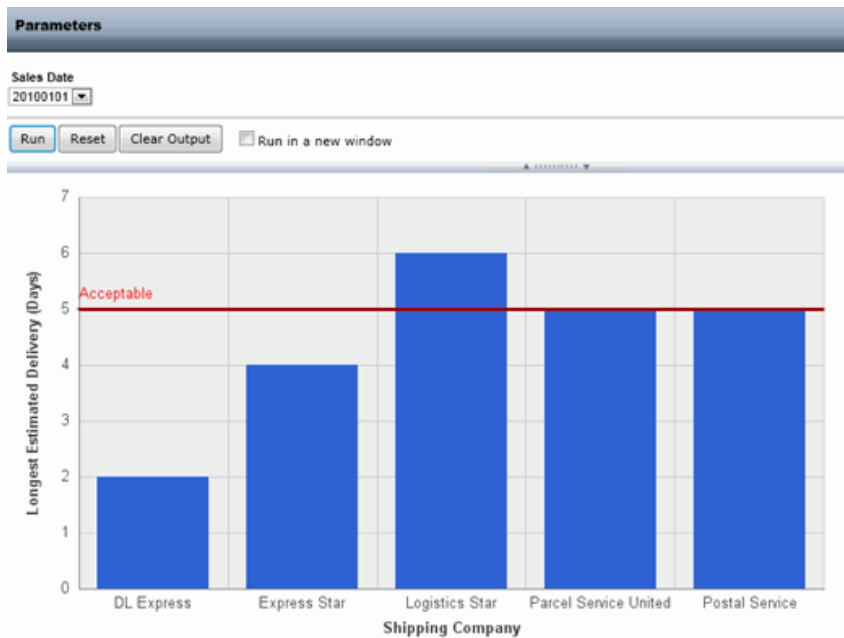
注意：参照線の値は、「10K」などの単一の値にする必要があります。[参照線] (Reference line) ダイアログボックスで複数值のフィールドを選択すると (例、「Quantity, Sold」)、InfoAssist では最後の値がグラフに表示されます。

ここでは動的参照線の作成手順について説明します。この参照線の値は、日付に応じて変化します。この例では、運送会社ごとの配送までの概算日数をトラッキングします。配送までの概算日数は、販売日が祝日かどうかに基づいて計算されます。

1. 参照線を計算する一時項目 (COMPUTE) を作成します。

- a. [データ] (Data) タブの [演算] (Calculation) グループで、[一時項目 (COMPUTE)] (Summary (Compute)) をクリックします。
[SUM フィールド (COMPUTE)] ダイアログボックスが開きます。
 - b. [フィールド] (Field) テキストボックスに、「Reference」と入力します。
 - c. フォーマットを「12」に設定します。
 - d. [式] テキストボックスに、「WF_RETAIL.DIM_TIME_SALES.TIME_HOL EQ 'Y' THEN 5 ELSE 2」と入力します。
 - e. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
2. グラフの [参照] (Reference) フィールドを非表示にします。
 3. 動的な参照線を追加します。
 - a. [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[参照] (Reference) をクリックします。
 - b. ドロップダウンメニューから、[Y 軸に参照線を追加] (Add Reference Line to Y-Axis) を選択します。
[参照線] (Reference Line) ダイアログボックスが開きます。
 - c. [フィールド] (Field) オプションを選択します。
 - d. ドロップダウンメニューから、[参照] (Reference) を選択します。
 - e. [テキスト] (Text) テキストボックスに、「Acceptable」と入力します。
 - f. [太さ] (Weight) ドロップダウンリストから、[2px - ふつう] (2px - Medium) を選択します。
 - g. [位置] (Position) ドロップダウンリストから、[左上] (Above Left) を選択します。
 - h. 必要に応じて、参照線の色とスタイルを変更します。
 - i. [OK] をクリックし、[参照線] (Reference Line) ダイアログボックスを閉じます。
 4. グラフを実行します。

下図のように、オートプロンプトが表示されます。



- a. [20100101] (2010 年 1 月 1 日) を選択して [実行] (Run) をクリックし、この日付が祝日であることから、5 日間が許容される (Acceptable) ことを確認します。
 - b. [20100102] (2010 年 1 月 2 日) を選択して [実行] (Run) をクリックし、この日付が祝日ではないことから、2 日間が許容される (Acceptable) ことを確認します。
5. [保存] (Save) をクリックします。

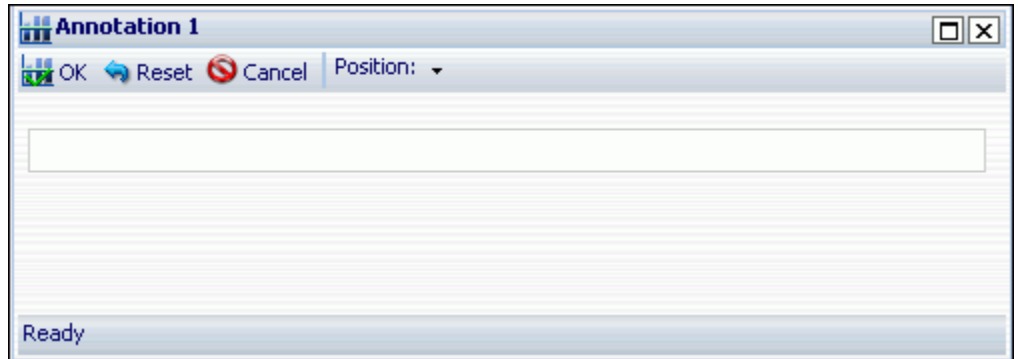
手順

グラフに注釈を表示するには

注釈とは、説明テキストやコメントのことです。グラフには、最大で 8 つの注釈を追加することができます。

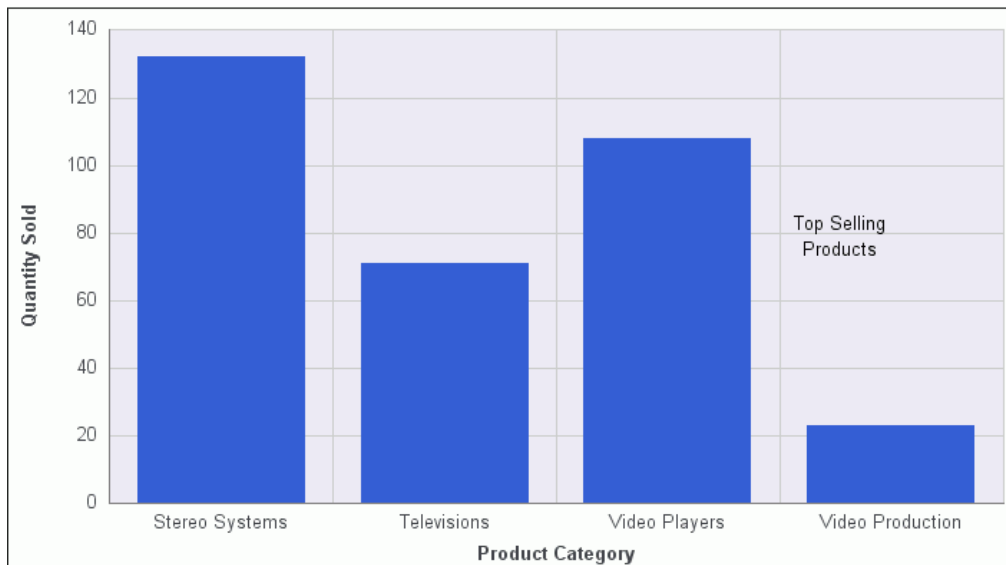
1. グラフを作成します。
2. [フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで、[注釈] (Annotate) をクリックします。
3. 開いたドロップダウンメニューで、[注釈の追加] (Add an annotation) を選択します。

下図のように、[注釈] (Annotation) ダイアログボックスが開きます。



4. テキストボックスに、注釈のテキストを入力します。
5. [位置] (Position) ドロップダウンメニューから、注釈の位置を選択します。次のオプションがあります。
 - 上左 (Top Left)
 - 上中央 (Top Middle)
 - 上右 (Top Right)
 - 中央左 (Middle Left)
 - 中央右 (Middle Right)
 - 下左 (Bottom Left)
 - 下中央 (Bottom Middle)
 - 下右 (Bottom Right)
6. [OK] をクリックして、選択したオプションを保存し、[注釈] (Annotation) ダイアログボックスを閉じます。
グラフに注釈が追加されます。
7. [実行] (Run) をクリックしてレポートを生成します。

下図は、中央右の位置に注釈が追加されたグラフを示しています。



レイアウトの作成とカスタマイズ

トピックス

[レイアウトデザインビューへのアクセス](#)

[レイアウトの作成](#)

[レイアウト] (Document) デザインビューで、テキスト、イメージ、レポート、グラフを追加して、「レイアウト」と呼ばれるドキュメントを作成する方法について説明します。

[レイアウト] (Document) デザインビューでは、テキスト、イメージ、Active フォームコントロール、線、レポート、グラフを追加してレイアウトを作成し、使用するデータに基づいて、高度な外観を持つレポートを生成することができます。

[レイアウト] (Document) モードには、レポート作成機能に、スタイル設定およびカスタムドキュメント表示機能が統合されています。

レイアウトデザインビューへのアクセス

手順/構文

レイアウトデザインビューで新しいレイアウトを作成するには

スプラッシュスクリーンから既存のレポートやグラフをレイアウトデザインビューで開くには

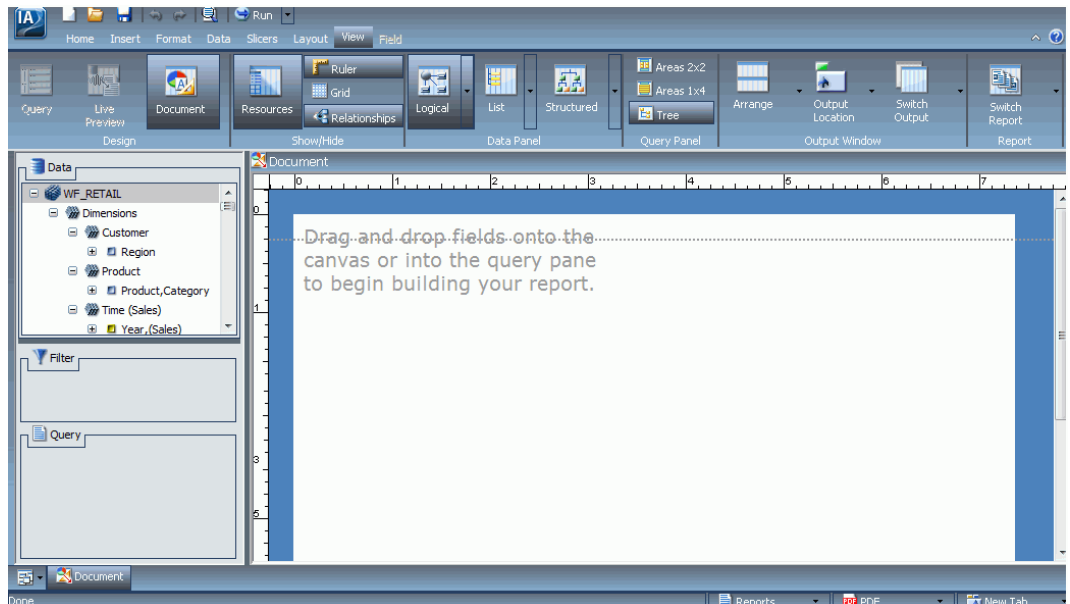
クイックアクセスツールバーから既存のレイアウトをレイアウトデザインビューで開くには

ホームタブおよび表示タブのレイアウトボタンからレイアウトデザインビューにアクセスするには

[レイアウト] (Document) デザインビューでは、次のことが可能です。

- 新しいレイアウトを作成する。
- 既存のレイアウトを開く。
- 既存の単一レポートから新しいレイアウトを作成する。

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、下図のような作業領域が表示されます。



手順

レイアウトデザインビューで新しいレイアウトを作成するには

InfoAssist のスプラッシュスクリーンから [レイアウト] (Document) デザインビューにアクセスして、新しいレイアウトを作成することができます。

注意：この手順を実行するには、InfoAssist の開始時にスプラッシュスクリーンが表示されるよう設定しておく必要があります。スプラッシュスクリーンが表示されるよう設定するには、[オプション] (Options) ウィンドウを使用します。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。

InfoAssist が [レイアウト] (Document) モードで開始されるよう設定されている場合は、スプラッシュスクリーンを使用せずに、手順 3 から操作を開始することができます。

1. 13 ページの「[リソースツリーからの InfoAssist へのアクセス](#)」の手順に従って、InfoAssist を開きます。

スプラッシュスクリーンが表示されます。

2. 任意のフォルダを右クリックし、[新規作成] (New)、[レイアウト] (Document) を選択します。

[データソースを選択] (Select a datasource) ダイアログボックスが表示されます。

3. データソースを選択して、レイアウトの作成を開始します。

注意：レイアウトは、複数のデータソースを使用して作成することができます。ここで選択したソースが作業開始時のデータソースになりますが、後から別のデータソースを追加することができます。データソースの追加についての詳細は、60 ページの「[データタブ](#)」を参照してください。

4. [OK] をクリックします。


InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューが開きます。

手順

スプラッシュスクリーンから既存のレポートやグラフをレイアウトデザインビューで開くには

InfoAssist のスプラッシュスクリーンから、既存のレイアウトを [レイアウト] (Document) デザインビューで開くことができます。



注意：この手順を実行するには、InfoAssist の開始時にスプラッシュスクリーンが表示されるよう設定しておく必要があります。スプラッシュスクリーンが表示されるよう設定するには、[オプション] (Options) ウィンドウを使用します。詳細は、19 ページの「[ユーザ設定の変更](#)」を参照してください。

1. 13 ページの「リソースツリーからの InfoAssist へのアクセス」の手順に従って、InfoAssist を開きます。
スプラッシュスクリーンが表示されます。
2. [既存のレポート/グラフを取り込む] (Open Existing Item) をクリックします。
[開く] (Open) ダイアログボックスが表示されます。
3. レポートかグラフのいずれかを選択します。レイアウトには、[レイアウト] (Document)  アイコンが表示されます。
4. [OK] をクリックします。
選択したレイアウトが [レイアウト] (Document) デザインビューで開きます。
注意：手順 3 で単一レポートを選択した場合、レポートは [クエリ] (Query) または [ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューで開きます。[レイアウト] (Document) デザインビューでレポートのコピーを表示する方法についての詳細は、349 ページの「ホームタブおよび表示タブのレイアウトボタンからレイアウトデザインビューにアクセスするには」を参照してください。

手順

クイックアクセスツールバーから既存のレイアウトをレイアウトデザインビューで開くには

InfoAssist のクイックアクセスツールバーを使用して、既存のレイアウトを [レイアウト] (Document) デザインビューで開くことができます。

1. InfoAssist を開き、クイックアクセスツールバーの [既存のレポート/グラフを取り込む] (Open existing item)  アイコンをクリックします。
[開く] (Open) ダイアログボックスが表示されます。
2. レイアウトのいずれかを選択します。レイアウトには、[レイアウト] (Document)  アイコンが表示されます。
3. [OK] をクリックします。
選択したレイアウトが [レイアウト] (Document) デザインビューで開きます。

注意：手順2で単一レポートを選択した場合、レポートは[クエリ](Query)または[ライブプレビュー](Live Preview) デザインビューで開きます。[レイアウト](Document) デザインビューでレポートのコピーを表示する方法についての詳細は、349ページの「ホームタブおよび表示タブのレイアウトボタンからレイアウトデザインビューにアクセスするには」を参照してください。

手順

ホームタブおよび表示タブのレイアウトボタンからレイアウトデザインビューにアクセスするには

InfoAssist が [ライブプレビュー] (Live Preview) または [クエリ] (Query) デザインビューで開いている場合は、[デザイン] (Design) グループの [レイアウト] (Document) ボタンをクリックすることで、[レイアウト] (Document) デザインビューを開くことができます。[デザイン] (Design) グループは、[ホーム] (Home) タブと [表示] (View) タブの両方にあります。

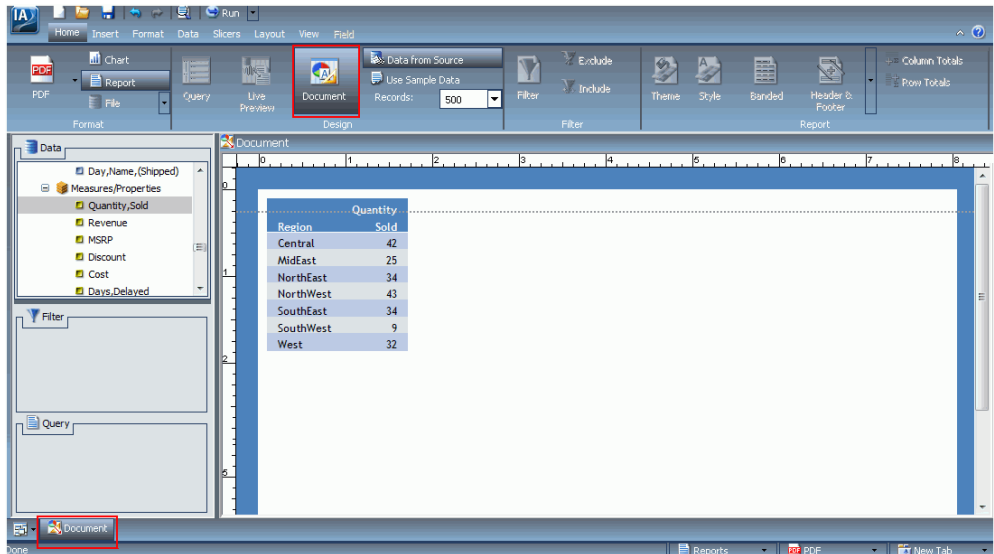
[デザイン] (Design) グループの [レイアウト] (Document) ボタンをクリックして [レイアウト] (Document) デザインビューを開くと、現在の単一レポートのコピーがレイアウトとして作成されます。この方法で、マイコンテンツを [レイアウト] (Document) デザインビューに切り替えることができます。

また、次の手順を実行して、レポートオブジェクトで [レイアウト] (Document) デザインビューを開くこともできます。

注意：レポートオブジェクトを [レイアウト] (Document) デザインビューに変更すると、レポートオブジェクトに存在するレポートおよびグラフが作業領域に追加されます。

1. InfoAssist のレポートを開き、[ホーム] (Home) タブまたは [表示] (View) タブをクリックします。
2. [デザイン] (Design) グループで、[レイアウト] (Document) ボタンをクリックします。
InfoAssist が [レイアウト] (Document) デザインビューになります。

[デザイン] (Design) グループ内およびナビゲーションタスクバー左端で [レイアウト] (Document) アイコンがハイライト表示されます。下図は、ハイライト表示された [レイアウト] (Document) アイコンを示しています。



注意：最初に作成した単一レポートは、元のデザインビューで開いたまま保持されます。単一レポートを開いた状態で [レイアウト] (Document) デザインビューを選択しても、レポートがレイアウトに変換されることはありません。この場合、レポートのコピーが作成され、そのコピーがレイアウトになり、元のレポートは変更されません。

新しいレイアウトと元のレポートを切り替えるには、[レポートの切り替え] (Switch Report) ボタンを使用します。切り替えボタンは、[表示] (View) タブの [レポート] (Report) グループと、ステータスバーにあります。ステータスバーのレポートボタンを使用して、レイアウトとレポートを切り替えることもできます。レポートの切り替えについての詳細は、81 ページの「[表示タブ](#)」を参照してください。

レイアウトの作成

トピックス

複数データソースからのレポート挿入

新規レポートの挿入

新規グラフの挿入

既存レポートの挿入

単一レポートからのレイアウトの作成

テキストとイメージの挿入

レイアウト内のコンポーネントの編集

[レイアウト] (Document) モードでは、同一の作業領域上で、複数のレポートとグラフを作成することができます。[ライブプレビュー] (Live Preview) および [クエリ] (Query) デザインビューのスタイル設定、デザイン、レポート作成の各機能は、[レイアウト] (Document) デザインビューでも使用できます。

また、レイアウトを簡単に作成するための機能も多数用意されています。レポートやグラフの形式で複数のレポートを作成し、それらをレイアウトに挿入することができます。また、視覚効果や編集に関するイメージおよびテキストを挿入することもできます。

複数データソースからのレポート挿入

手順/構文

異なるデータソースを使用する 2 つのレポートを挿入するには

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、作業領域に複数のグラフとレポートを挿入することができます。レポートで使用するデータソースが異なる場合も、それらのレポートを挿入することができます。レイアウトを使用する場合、レイアウトに別のデータソースを追加するオプションがあります。

異なるデータソースを使用する複数のレポートを挿入する場合は、レイアウトに複数のデータソースがロードされている必要があります。データソースの追加および切り替えについての詳細は、60 ページの「[データタブ](#)」を参照してください。

注意：レポートオブジェクトを作成する場合は、複数のデータソースを使用することはできません。

手順

異なるデータソースを使用する2つのレポートを挿入するには

異なるデータソースを使用する複数のレポートを同一のレイアウトに表示することができます。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、グラフまたはレポートを挿入します。
2. レイアウトで使用中のデータソースが1つだけの場合は、追加のデータソースを挿入します。

複数データソースの挿入についての詳細は、60 ページの「[データタブ](#)」を参照してください。

3. 手順 1 で使用したデータソースとは異なるデータソースに切り替えます。

データソースの切り替えについての詳細は、60 ページの「[データタブ](#)」を参照してください。

4. 352 ページの「[新規レポートの挿入](#)」の説明に従って、この新しいデータソースを使用して、グラフまたはレポートを挿入します。

これで、異なるデータソースのデータを使用する複数のレポートがレイアウトに配置されます。追加可能なデータソースの数に、制限はありません。

新規レポートの挿入

手順/構文

挿入タブでレポートを挿入するには

ドラッグアンドドロップでレポートを挿入するには

ダブルクリックでレポートを挿入するには

右クリックでレポートを挿入するには

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、作業領域に複数のグラフとレポートを挿入することができます。ここでは、レイアウトにレポートを挿入する方法について説明します。

[レイアウト] (Document) デザインビューを使用して、次の方法でレポートを挿入することができます。

- [挿入] (Insert) タブを使用する。
- フィールドをダブルクリックする。
- フィールドを右クリックする。
- 作業領域にフィールドをドラッグアンドドロップする。

注意：[挿入] (Insert) タブの使用、フィールドのダブルクリック、フィールドの右クリックのいずれかの方法でレポートを挿入した場合、レポートのプレースホルダは作業領域の左上に挿入されます。

フィールドを作業領域にドラッグアンドドロップした場合、プレースホルダは、フィールドをドロップした位置に挿入されます。

次の手順は、新しいレポートの挿入方法を示しています。既存のレポートの編集方法についての詳細は、375 ページの「[レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。

手順

挿入タブでレポートを挿入するには

[挿入] (Insert) タブは、[レイアウト] (Document) デザインビューでレポートを挿入する場合にのみ使用できます。[挿入] (Insert) タブについての詳細は、46 ページの「[挿入タブ](#)」を参照してください。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[挿入] (Insert) タブをクリックします。
2. [レポート] (Reports) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。

作業領域の左上に、レポートのプレースホルダが表示されます。

これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをレポートに追加することが可能になります。リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101 ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。

手順

ドラッグアンドドロップでレポートを挿入するには

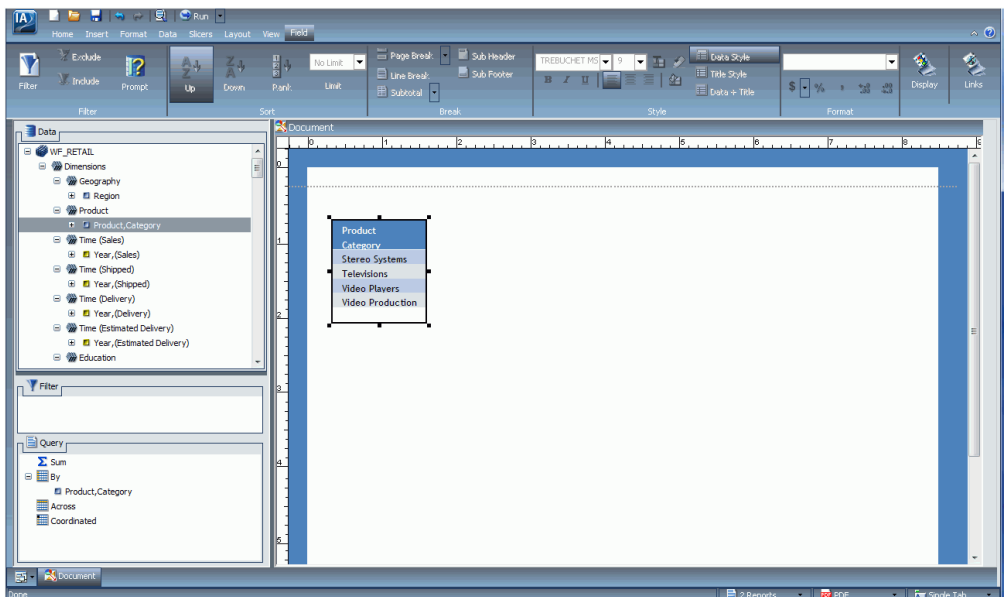
リソースパネルからフィールドをドラッグし、[レイアウト] (Document) デザインビューの作業領域にドロップすることで、レポートを挿入することができます。レポートを挿入する場合は、[フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで [レポート] (Report) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループにもあります。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [対象] (Destination) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。

注意：[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで [レポート] (Report) をクリックすることもできます。

3. リソースパネルの [データ] (Data) ウィンドウでフィールドを選択し、作業領域にドラッグアンドドロップします。フィールドは、他のグラフやレポート上でなく、必ず空き領域にドロップします。

下図のように、結果パネルにレポートのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのレポートが表示されます。



- これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをレポートに追加することが可能になります。リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。

手順

ダブルクリックでレポートを挿入するには

[レイアウト](Document) デザインビューのリソースパネルで、フィールドをダブルクリックすることができます。レポートを挿入する場合は、作業領域でレポートが選択されていないこと、および[フォーマット](Format) タブの[対象](Destination) グループで[レポート](Report) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム](Home) タブの[フォーマット](Format) グループにもあります。

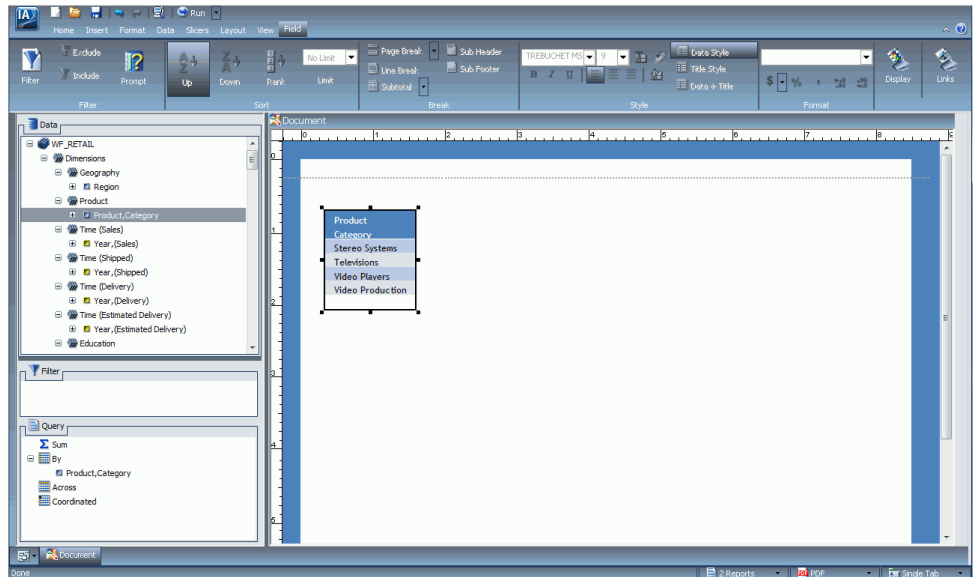
注意：レポートが選択されている場合は、ダブルクリックで新しいレポートを挿入することはできません。レポートが選択されている場合は、作業領域をクリックしてレポートの選択を解除し、作業領域をアクティブオブジェクトにします。

- InfoAssist を [レイアウト](Document) デザインビューで開き、[フォーマット](Format) タブをクリックします。
- [対象](Destination) グループで、[レポート](Report) をクリックします。

注意：[ホーム](Home) タブの[フォーマット](Format) グループで[レポート](Report) をクリックすることもできます。

- リソースパネルのデータパネルに表示されたフィールドをダブルクリックします。

下図のように、結果パネルにレポートのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのレポートが表示されます。



4. これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをレポートに追加することが可能になります。リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。

手順

右クリックでレポートを挿入するには

[レイアウト] (Document) デザインビューでリソースパネルのフィールドを右クリックすることで、レポートを挿入することができます。レポートを挿入する場合は、作業領域でレポートが選択されていないこと、および [フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで [レポート] (Report) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループにもあります。

注意： レポートが選択されている場合は、右クリックで新しいレポートを挿入することはできません。レポートが選択されている場合は、作業領域をクリックしてレポートの選択を解除し、作業領域をアクティブオブジェクトにします。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [対象] (Destination) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。

注意：[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで [レポート] (Report) をクリックすることもできます。

3. [データ] (Data) パネルでデータソースを右クリックします。

メニューが開きます。

4. 次のメニューオプションのいずれかを選択します。

- 集計 (Sum)
- ソート (Sort)
- ACROSS
- 複数レポート/グラフ (Include as Coordinated)
- フィルタ (Filter)
- スライサ (Slicers)

結果パネルにレポートのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのレポートが表示されます。

新規グラフの挿入

手順/構文

挿入タブでグラフを挿入するには

ドラッグアンドドロップでグラフを挿入するには

ダブルクリックでグラフを挿入するには

右クリックでグラフを挿入するには

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、作業領域に複数のグラフとレポートを挿入することができます。ここでは、レイアウトにグラフを挿入する方法について説明します。

[レイアウト] (Document) デザインビューでグラフを挿入するには、次の方法があります。

- [挿入] (Insert) タブを使用する。
- フィールドをダブルクリックする。
- フィールドを右クリックする。

- フィールドをリソースパネルから作業領域にドラッグアンドドロップする。

注意：[挿入] (Insert) タブの使用、フィールドのダブルクリック、フィールドの右クリックのいずれかの方法でグラフを挿入した場合、グラフのプレースホルダは作業領域の左上に挿入されます。

フィールドを作業領域にドラッグアンドドロップした場合、プレースホルダは、フィールドをドロップした位置に挿入されます。

次の手順は、新しいグラフの挿入方法を示しています。既存のグラフの編集方法についての詳細は、377 ページの「[グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。

手順 **挿入タブでグラフを挿入するには**

[挿入] (Insert) タブは、[レイアウト] (Document) デザインビューでグラフを挿入する場合にのみ使用できます。[挿入] (Insert) タブについての詳細は、46 ページの「[挿入タブ](#)」を参照してください。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[挿入] (Insert) タブをクリックします。
2. [レポート] (Reports) グループで、[グラフ] (Chart) をクリックします。

作業領域の左上に、グラフのプレースホルダが表示されます。

これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをグラフに追加することが可能になります。リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101 ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。

手順 **ドラッグアンドドロップでグラフを挿入するには**

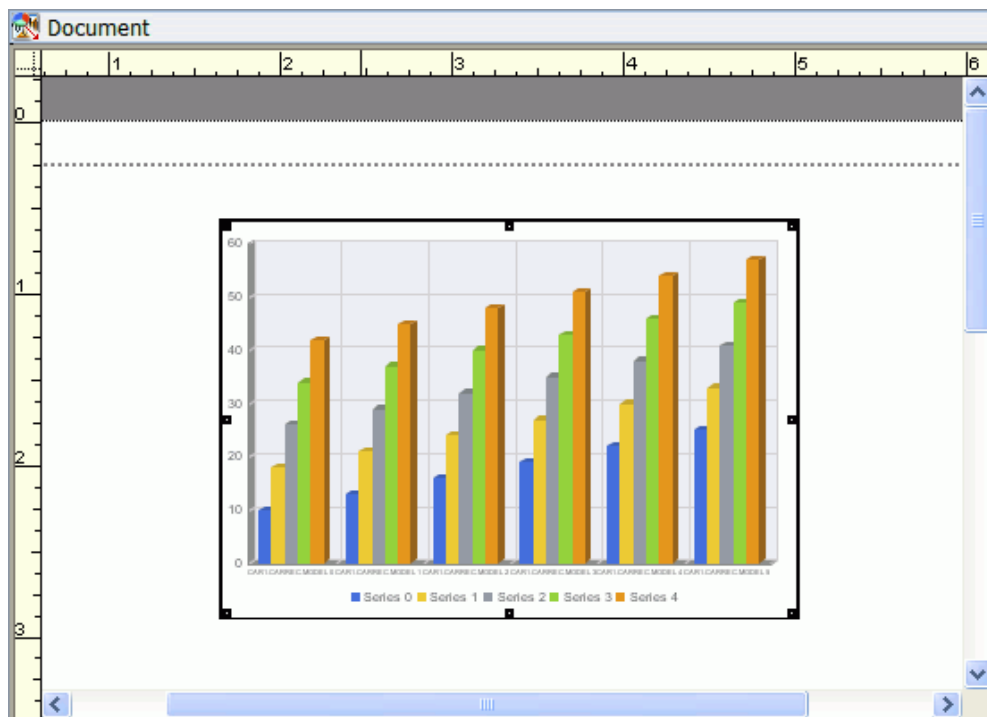
リソースパネルからフィールドをドラッグし、[レイアウト] (Document) デザインビューの作業領域にドロップすることで、グラフを挿入することができます。グラフを挿入する場合は、[フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで [グラフ] (Chart) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループにもあります。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [対象] (Destination) グループで、[グラフ] (Chart) をクリックします。

注意：[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで [グラフ] (Chart) をクリックすることもできます。

- リソースパネルの [データ] (Data) ウィンドウでフィールドを選択し、作業領域にドラッグアンドドロップします。フィールドは、他のグラフやレポート上でなく、必ず空き領域にドロップします。

下図のように、結果パネルにグラフのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのグラフが表示されます。



- これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをグラフに追加することが可能になります。

リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101 ページの「[リソースパネルの理解](#)」を参照してください。

手順

ダブルクリックでグラフを挿入するには

[レイアウト](Document) デザインビューのリソースパネルで、フィールドをダブルクリックすることができます。グラフを挿入する場合は、作業領域でレポートが選択されていないこと、および [フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで [グラフ] (Chart) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループにもあります。

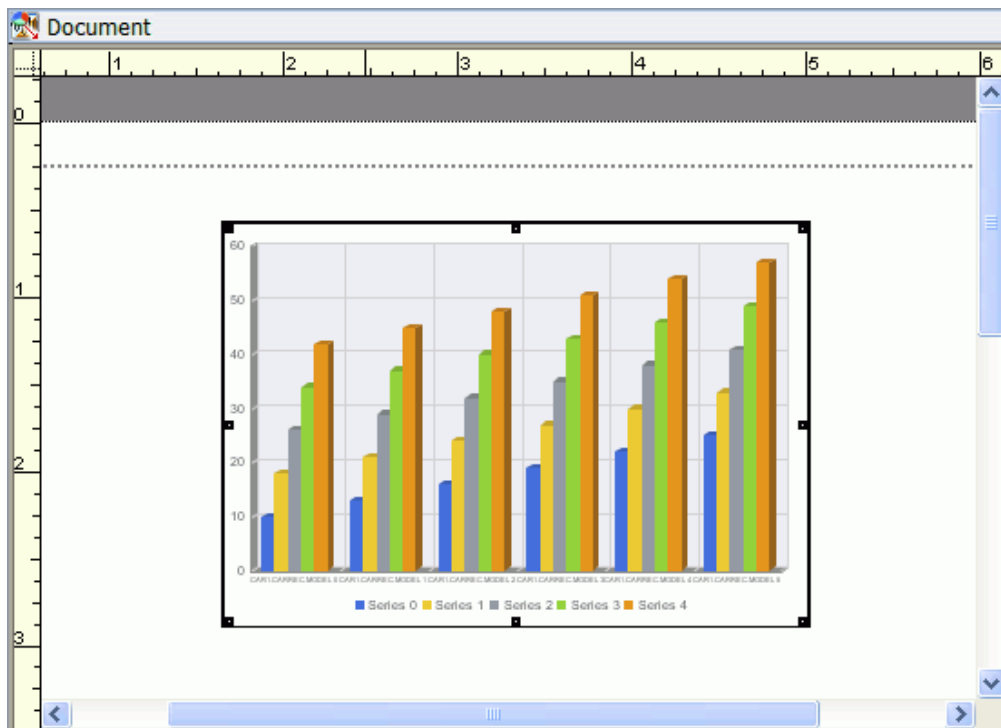
注意：レポートが選択されている場合は、ダブルクリックで新しいグラフを挿入することはできません。レポートが選択されている場合は、作業領域をクリックしてレポートの選択を解除し、作業領域をアクティブオブジェクトにします。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [対象] (Destination) グループで、[グラフ] (Chart) をクリックします。

注意：[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで [グラフ] (Chart) をクリックすることもできます。

3. リソースパネルのデータパネルに表示されたフィールドをダブルクリックします。

下図のように、結果パネルにグラフのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのグラフが表示されます。



- これで、作業領域とリソースパネルを使用して、フィールドをグラフに追加することが可能になります。リソースパネルを使用してレポートにフィールドを追加する方法についての詳細は、101 ページの「リソースパネルの理解」を参照してください。

手順

右クリックでグラフを挿入するには

[レイアウト] (Document) デザインビューでリソースパネルのフィールドを右クリックすることで、グラフを挿入することができます。グラフを挿入する場合は、作業領域でレポートが選択されていないこと、および [フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで [グラフ] (Chart) が選択されていることを確認します。このオプションは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループにもあります。

注意： レポートが選択されている場合は、右クリックで新しいグラフを挿入することはできません。レポートが選択されている場合は、作業領域をクリックしてレポートの選択を解除し、作業領域をアクティブオブジェクトにします。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、 [フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [対象] (Destination) グループで、 [グラフ] (Chart) をクリックします。
注意: [ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで [グラフ] (Chart) をクリックすることもできます。
3. [データ] (Data) パネルでデータソースを右クリックします。
メニューが表示されます。
4. 次のメニューオプションのいずれかを選択します。
 - **X 軸 (Include as Category Axis)** ディメンション (数値以外と日付) フィールド
 - **シリーズ (Include as Legend Series)** ディメンション (数値以外と日付) フィールド
 - **フィルタ (Filter)** すべてのタイプのフィールド
 - **スライサ (Slicers)** すべてのフィールド
 - **複数レポート/グラフ (Coordinated)** [複数レポート/グラフ] (Coordinated) フィールドコンテナには、別のページレイアウトに分割する複数のレポートとグラフの共通ソートフィールドを格納します。 [複数レポート/グラフ] (Coordinated) フィールドのそれぞれの値は、別のページに表示されます。

結果パネルにグラフのプレースホルダが挿入され、選択したデータソースのグラフが表示されます。 X 軸と Y 軸のデータフィールドを選択すると、グラフのプレースホルダは、グラフのライブプレビューに変わります。

既存レポートの挿入

手順/構文

挿入タブで既存レポートを挿入するには

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、 [挿入] (Insert) タブを使用して、作業領域に既存のグラフとレポートを挿入することができます。 次の手順に従って、新規レイアウトにレポートを挿入したり、レポート、テキスト、イメージが追加済みの既存レイアウトにレポートを挿入したりすることができます。

手順

挿入タブで既存レポートを挿入するには

ドメインの [カスタムレポート] (Custom Reports) セクションでレイアウトを作成することや、[スタンダードレポート] (Standard Reports) の項目を既存レポートのコンポーネントとして使用することができます。[カスタムレポート] (Custom Reports) の項目をコンポーネントとして使用することはできません。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[挿入] (Insert) タブをクリックします。
2. [レポート] (Reports) グループで、[取り込み] (Existing Report) をクリックします。
[開く] (Open) ダイアログボックスが表示されます。
3. 挿入するレポートを選択し、[OK] をクリックします。

作業領域の左上にレポートが表示されます。

既存のレポート上にマウスポインタを置くと、レポートタイトルがポップアップ表示されます。

注意：レイアウトに挿入された既存のレポートを編集することはできません。

単一レポートからのレイアウトの作成

[ライブプレビュー] (Live Preview) または [クエリ] (Query) デザインビューで作成された単一レポートを選択してレイアウトに変換し、[レイアウト] (Document) デザインビューで表示することができます。

単一レポートをレイアウトに変換した場合、元のレポートは保持され、そのレポートのコピーがレイアウトとして [レイアウト] (Document) デザインビューで開きます。その後、レポート、グラフ、イメージ、テキストを追加することができます。

テキストとイメージの挿入

手順/構文

テキストを挿入するには

イメージを挿入するには

InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューでは、作業領域にテキストとイメージを挿入することができます。次の手順に従って、テキストおよびイメージを、新規レイアウトに挿入したり、レポート、テキスト、イメージが追加済みの既存レイアウトに挿入したりすることができます。

注意：この操作は、[レイアウト] (Document) デザインビューでのみ実行できます。

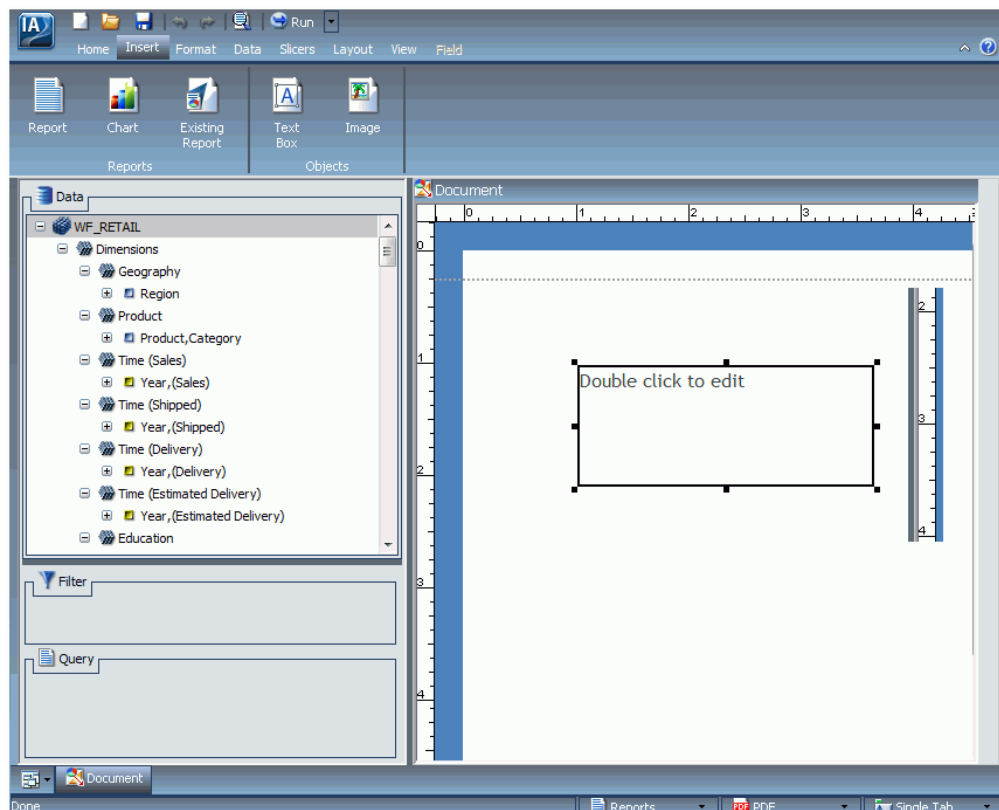
次の手順に従って、テキストとイメージを挿入します。テキストとイメージの編集方法についての詳細は、366 ページの「[レイアウト内のコンポーネントの編集](#)」を参照してください。

手順

テキストを挿入するには

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[挿入] (Insert) タブをクリックします。
2. [オブジェクト] (Objects) グループで、[テキスト] (Text) をクリックします。

下図のように、作業領域の左上に、デフォルトテキストとともにテキストコンポーネントが表示されます。



3. テキストコンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして、テキストを編集します。

テキストの編集とスタイル設定についての詳細は、380ページの「[テキストを編集するには](#)」を参照してください。

手順

イメージを挿入するには

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、[挿入] (Insert) タブをクリックします。
2. [オブジェクト] (Objects) グループで、[イメージ] (Image) をクリックします。
[開く] (Open) ダイアログボックスが表示されます。

3. イメージを選択し、[OK] をクリックします。
選択したイメージが作業領域の左上に表示されます。

レイアウト内のコンポーネントの編集

手順/構文

コンポーネントのサイズを変更するには
コンポーネントを移動するには
コンポーネントを整列するには
レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには
グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには
テキストを編集するには
コンポーネントを削除するには

レイアウト内のレポート、コントロール、テキストは、編集、移動、サイズ変更、削除することができます。コンポーネントのそれぞれを右クリックすると、コンテキストメニューが表示されます。

イメージは、移動、サイズ変更、削除が可能ですが、コンテキストメニューは表示されず、編集することはできません。イメージを右クリックすると、イメージを削除するオプションが表示されます。

手順

コンポーネントのサイズを変更するには

コンポーネントのサイズは、次の方法で変更することができます。

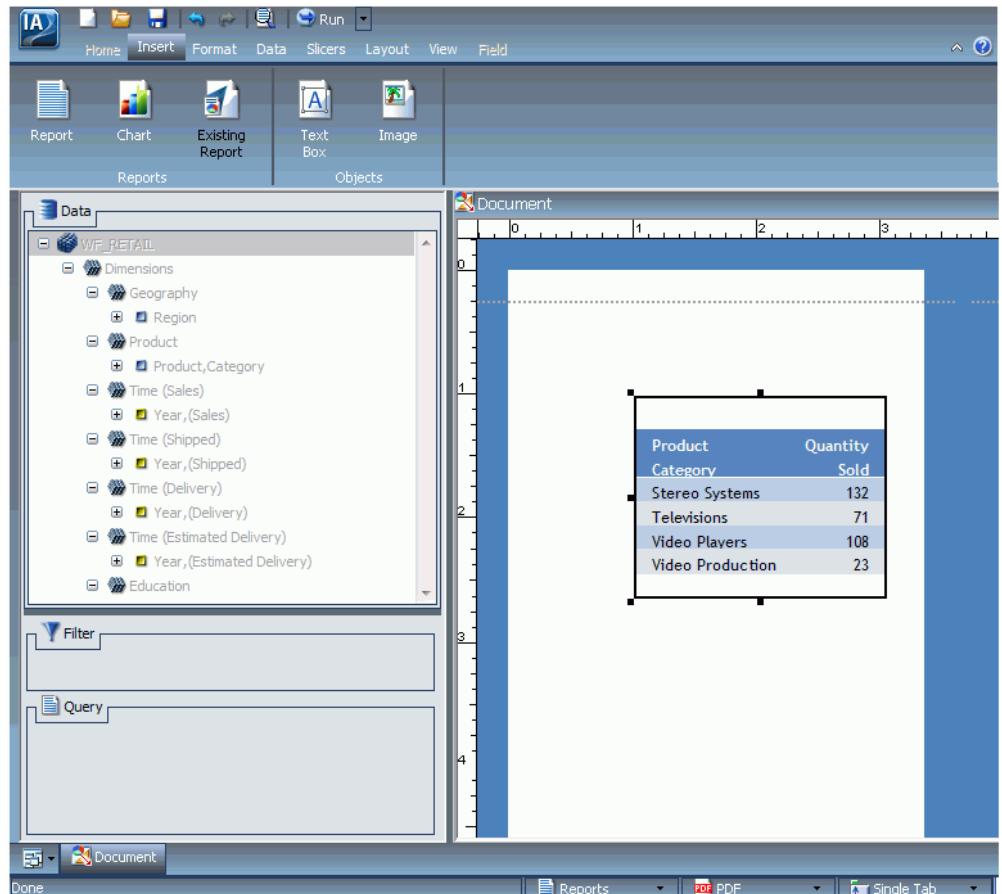
- コンポーネントのサイズハンドルを使用する。
- [レイアウト] (Layout) タブの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループで高さや幅を変更する。
- [サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスの [サイズ] (Size) タブに表示されたオプションを使用する。

サイズの変更機能は、レイアウトに追加可能なすべてのコンポーネントに対して使用できます。


1. レポート、テキストコンポーネント、コントロール、イメージのいずれかが少なくとも 1 つ含まれている既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。

2. 次のいずれかの方法でコンポーネントのサイズを変更します。

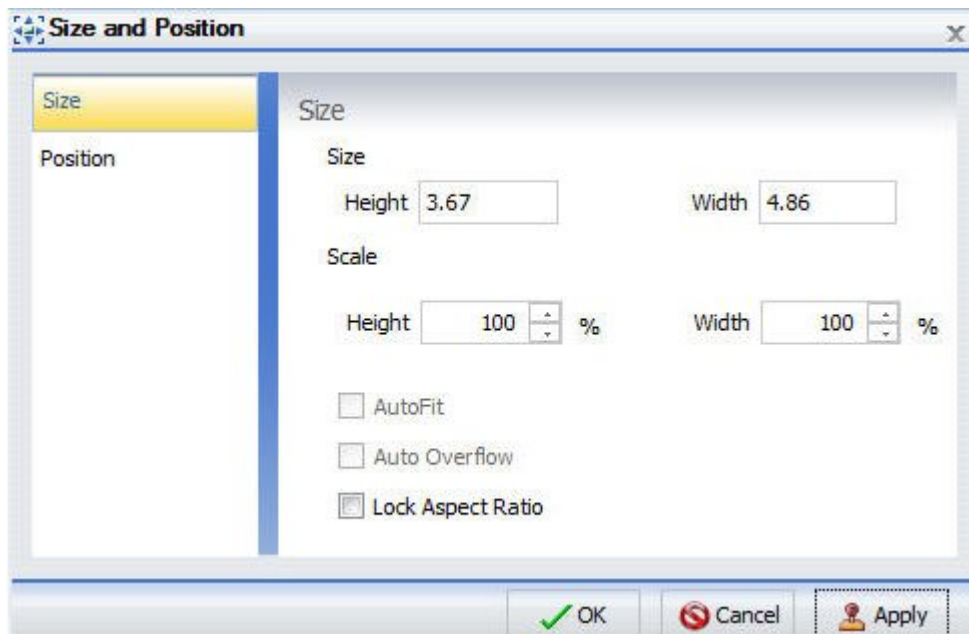
- **サイズハンドル** 下図のように、コンポーネントを選択し、コンポーネント周囲のサイズハンドルをドラッグします。コンポーネントの高さおよび幅を手動で増減すると、[レイアウト] (Layout) タブの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループのそれぞれのテキストボックスに新しい値が表示されます。



- **リボン** 次のいずれかの方法でリボンを使用することができます。
 - レイアウト内のコンポーネントを選択します。[レイアウト] (Layout) タブの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループで、[高さ] (Height) および [幅] (Width) テキストボックスに値を入力します。

- [レイアウト] (Layout) タブの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループで、グループの右下にあるダイアログボックス起動アイコン  をクリックして、[サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスを開きます。
- **右クリックメニュー** コンポーネントを右クリックし、[サイズと位置] (Size and Position) を選択します。[サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスが開きます。

下図のように、[サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスの [サイズ] (Size) タブを開きます。



[高さ] (Height) と [幅] (Width) のオプションを使用して、選択したコンポーネントの位置を変更します。[サイズ] (Size) オプションで、オブジェクトのサイズをピクセル単位で調整することや、[スケール] (Scale) オプションを使用してオブジェクトの拡大縮小率を調整することができます。

[縦横比] (Aspect Ratio) ボタンを使用して、縦横比を固定することができます。このボタンは、[レイアウト] (Document) デザインビューでレポート、グラフ、イメージ、テキストを編集している場合に使用できます。縦横比を固定した場合、幅を変更すると高さが自動的に変更され、コンポーネントの縦横比が保持されます。高さを変更すると、幅が自動的に変更されます。

注意：[オーバーフロー] (Auto Overflow) オプションは、[レイアウト] (Document) デザインビューで作業している場合に限り、[サイズと整列] (Size & Arrange) グループに表示されます。オーバーフローを有効にした場合、レポートの高さおよび幅を手動で設定することはできません。データがすべて表示されるようにレポートの領域が自動的に拡張されます。

[自動調整] (AutoFit) オプションは、グラフの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループにのみ表示されます。[自動調整] (AutoFit) を設定すると、サイズは動的に決定されます。つまり、グラフが埋め込まれた場合に、別のアプリケーションによるグラフサイズの上書きが可能になります。

2つのオブジェクトを選択して [相対位置] (Relative Position) ボタンをクリックすると、ページの上位に位置するコンポーネントの左下角が、下位のコンポーネントの左上角に配置されます。関係の作成後に両方の項目を選択したままにすると、関係を示す矢印が表示されます。

手順

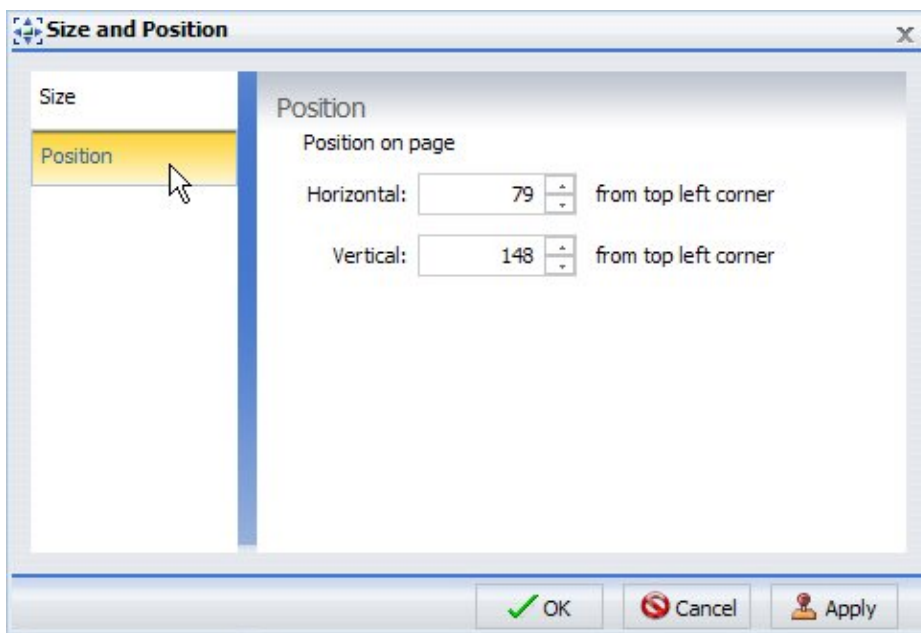
コンポーネントを移動するには

コンポーネントを移動するには、コンポーネントをクリックするか、[サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスの [位置] (Position) セクションを使用します。この機能は、レイアウトに追加可能なすべてのコンポーネントに対して使用できます。

また、複数のコンポーネントを縦または横の位置を基準に整列することもできます。詳細は、371 ページの「[コンポーネントを整列するには](#)」を参照してください。

1. レポート、テキストコンポーネント、コントロール、イメージのいずれかが少なくとも 1 つ含まれている既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。

2. コンポーネントを選択した後、次のいずれかの方法でコンポーネントを移動します。
 - マウスを使用して、コンポーネントを作業領域の任意の位置に移動する。
または
 - コンポーネントを右クリックし、[サイズと位置] (Size and Position) を選択します。
 - 下図のように、[サイズと位置] (Size and Position) ダイアログボックスで [位置] (Position) タブをクリックします。



- [縦] (Vertical) と [横] (Horizontal) のオプションを使用して、選択したコンポーネントの位置を変更します。

手順

コンポーネントを整列するには

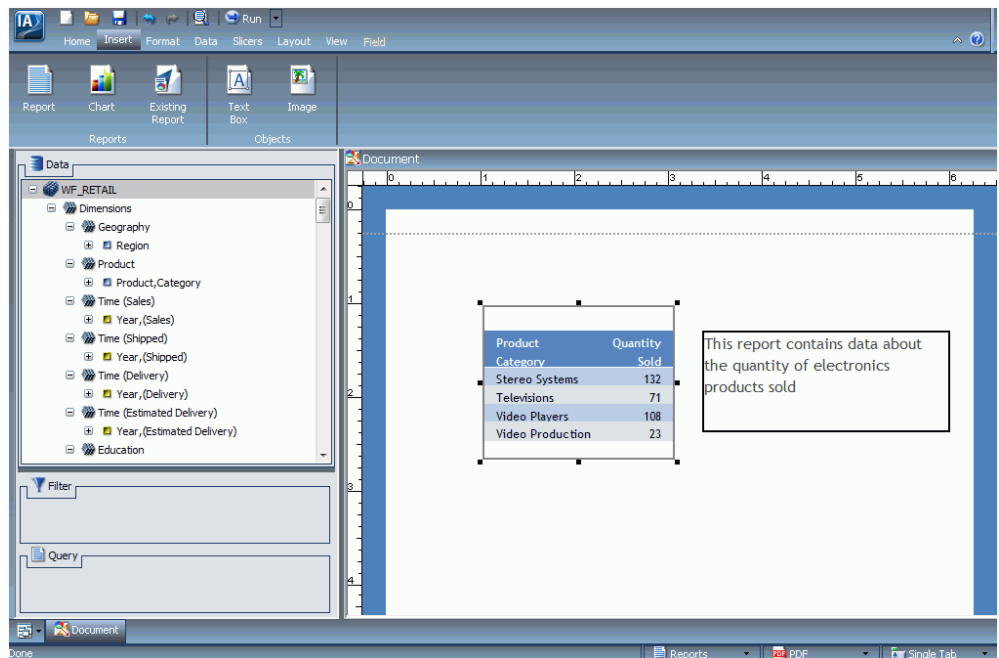
複数のコンポーネントを、縦または横の位置を基準に整列することができます。[整列] (Align) オプションを使用するには、複数のコンポーネントを選択する必要があります。

整列の基準としては、選択した位置のオプションに最も近いコンポーネントが使用されます。たとえば、2つのコンポーネントを選択した後、[左揃え] (Align Left) を選択すると、最も左側にあるコンポーネントを基準にして、これらのコンポーネントが横方向に整列されます。

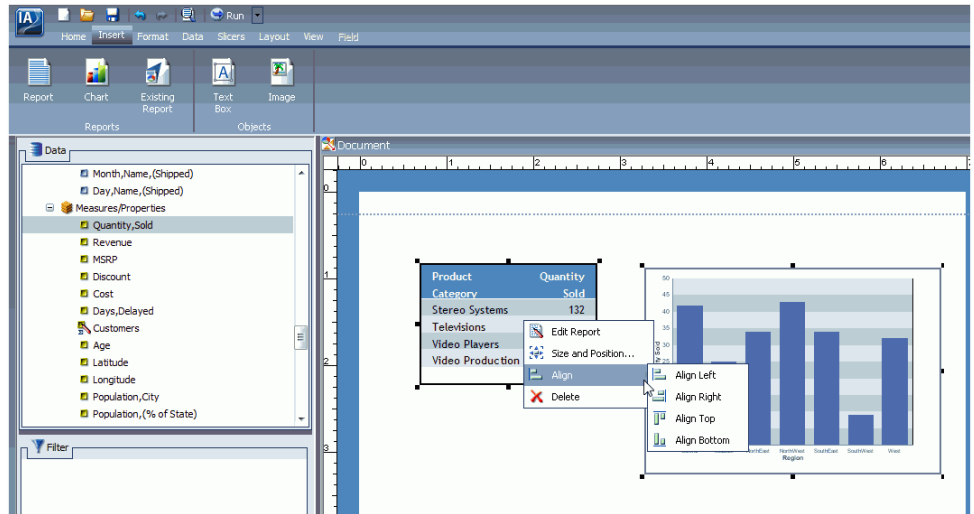
1. 少なくとも2つのコンポーネントで構成される既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。
2. コンポーネントを選択します。
3. Ctrl キーを押しながらコンポーネントをクリックし、2つ目のコンポーネントを選択します。

注意：複数のコンポーネントを同時に選択するには、Ctrl キーを押しながらマウスをドラッグし、複数のコンポーネントを選択ボックスで囲みます。マウスボタンを離すと、選択した各コンポーネントの周囲にサイズハンドルが表示されます。

下図のように、コンポーネントの周囲にサイズハンドルが表示されます。

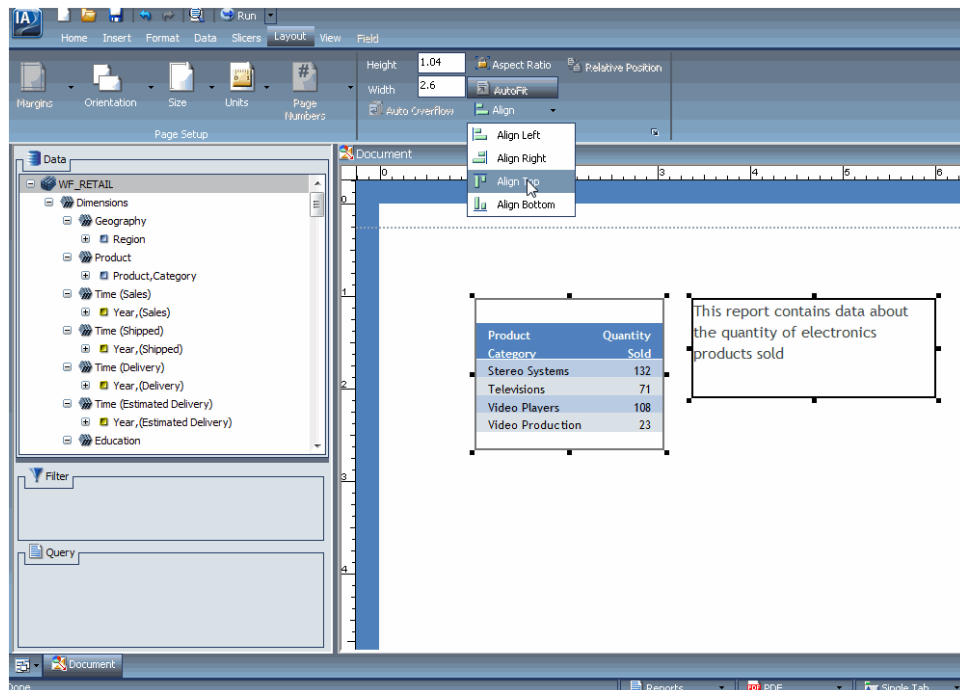


4. 次のいずれかの方法で、コンポーネントを整列します。
- 下図のように、選択済みの複数コンポーネントの1つを右クリックし、[整列] (Align) ドロップダウンメニューから、整列オプションを選択します。

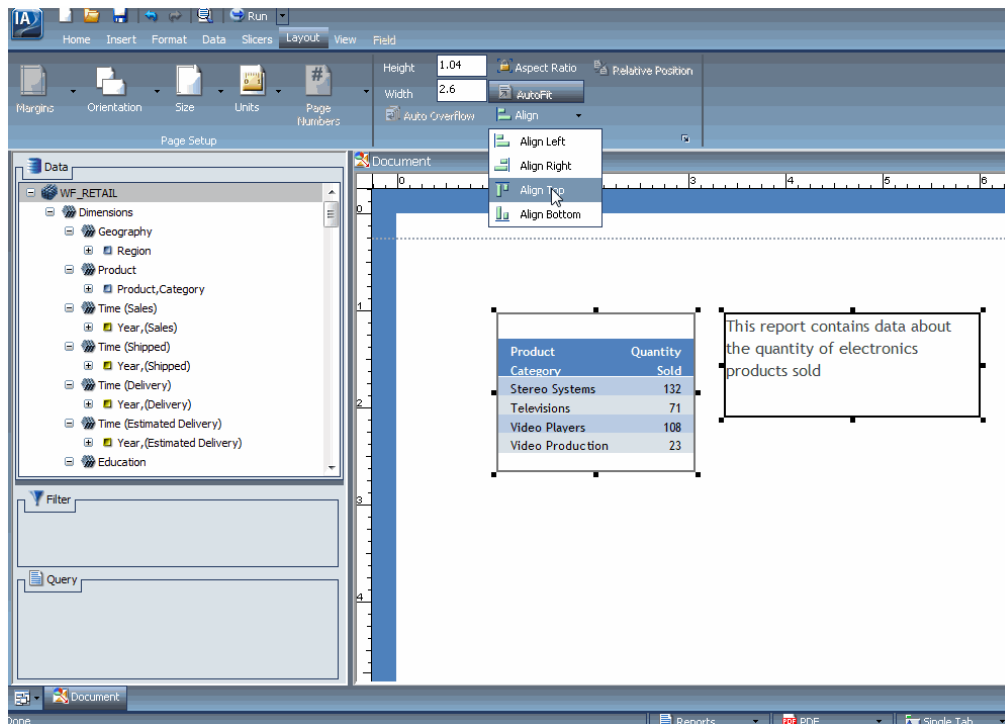


または

- [整列] (Align) ドロップダウンメニューから整列オプションにアクセスします。下図のように、このメニューは [レイアウト] (Layout) タブの [サイズと整列] (Size & Arrange) グループにあります。



下図のように、選択したコンポーネントが整列されます。



5. 作業領域の任意の位置をクリックして、コンポーネントの選択を解除します。

手順

レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには

コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、370 ページの「[コンポーネントを移動するには](#)」を参照してください。コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして個別のフィールドを選択し、コンテキストメニューまたは [フィールド] (Field) タブを使用して、選択したフィールドを編集することができます。

レポートのほかに、グラフやテキストにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。グラフについての詳細は、377 ページの「[グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。テキストについての詳細は、380 ページの「[テキストを編集するには](#)」を参照してください。

注意：イメージを編集することはできません。

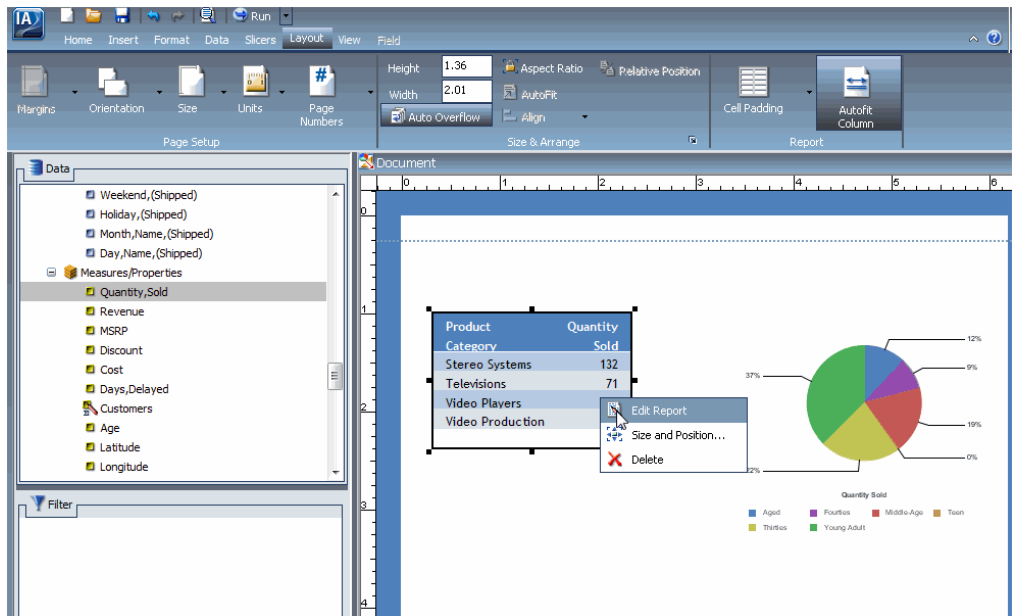
1. 少なくとも1つのレポートで構成される既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。

2. レポートを選択します。

境界線の周囲にサイズハンドルが表示されます。

注意：[フィールド] (Field) タブの各グループは使用不可になります。

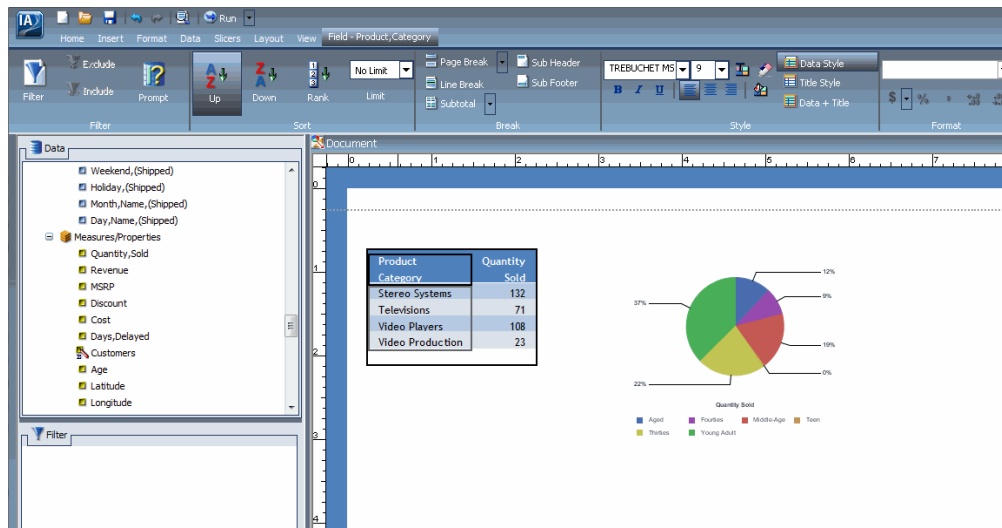
3. 下図のように、レポートを右クリックし、[レポートの編集] (Edit Report) を選択します。



注意：レポートは、ダブルクリックでアクティブにすることもできます。この操作は、右クリックして [レポートの編集] (Edit Report) を選択する場合と同様に機能します。

4. これで、レポートのフィールドを選択することができます。作業領域でフィールドをクリックして選択します。

注意：下図のように、[フィールド] (Field) タブの各グループが使用可能になります。



注意：レポート内のフィールドを選択する別の方法として、リソースパネルの[クエリ] (Query) ウィンドウでフィールドをクリックすることもできます。作業領域で、編集するフィールドを含むレポートが選択されていることを確認します。

ここで、コンテキストメニューやリボンに表示されるコマンドを使用して、選択したレポートを編集することができます。

レポートのスタイル設定およびカスタマイズについての詳細は、「[Customizing and Styling Report](#)」を参照してください。

手順

グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには

コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、370 ページの「[コンポーネントを移動するには](#)」を参照してください。コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして個別のフィールドを選択し、コンテキストメニューまたは [フィールド] (Field) タブでフィールドを編集することができます。

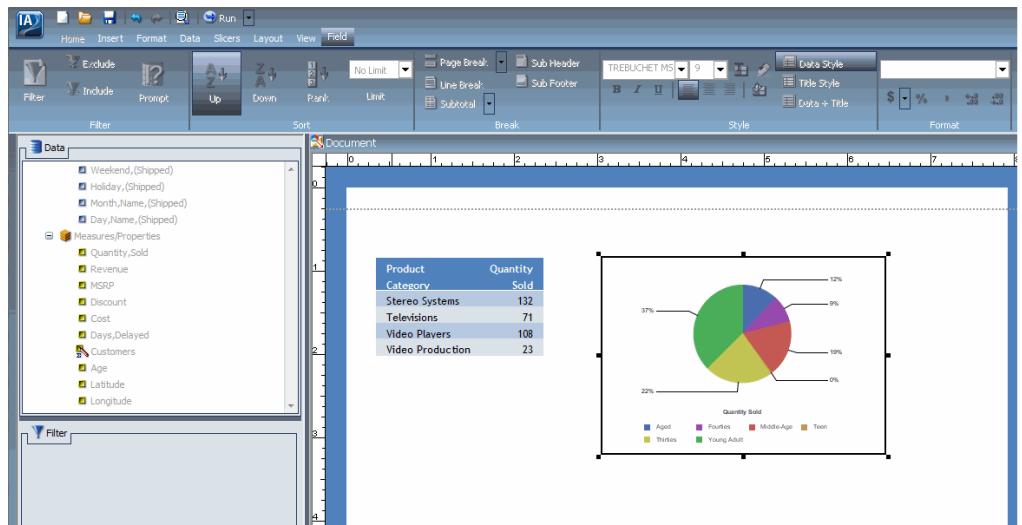
グラフのほかに、レポートやテキストにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。レポートについての詳細は、375 ページの「[レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。テキストについての詳細は、380 ページの「[テキストを編集するには](#)」を参照してください。

注意：イメージを編集することはできません。

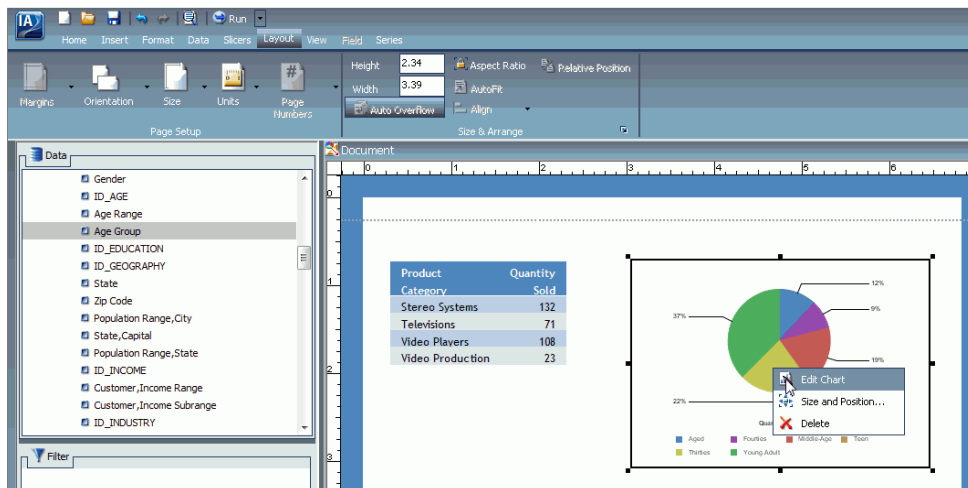
1. 少なくとも 1 つのグラフで構成される既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。
2. グラフを選択します。

下図のように、境界線の周囲にサイズハンドルが表示されます。

注意：[フィールド] (Field) タブの各グループは使用不可になります。



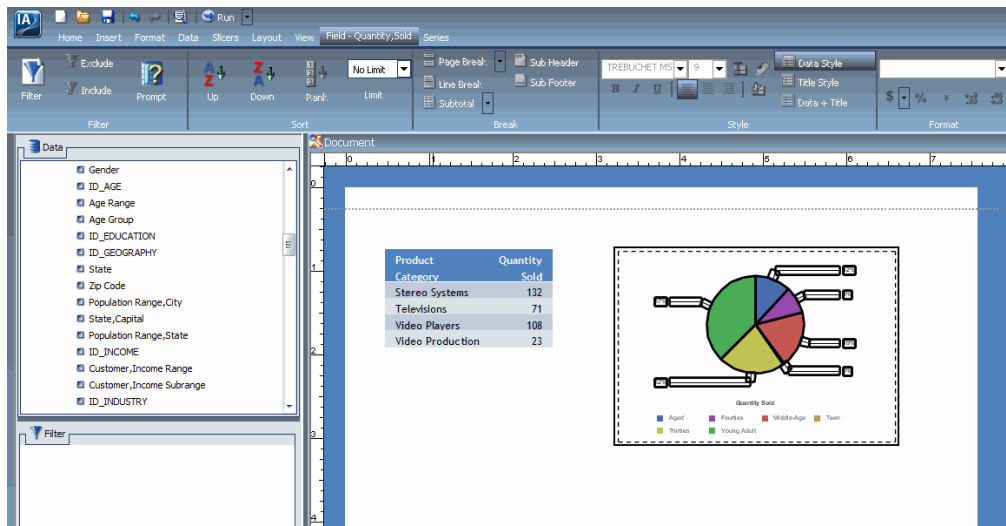
3. 下図のように、グラフを右クリックし、[グラフの編集] (Edit Chart) を選択します。



注意：グラフは、ダブルクリックでアクティブにすることもできます。この操作は、右クリックして[グラフの編集] (Edit Chart) を選択する場合と同様に機能します。

4. これで、グラフのフィールドを選択することができます。作業領域でフィールドをクリックして選択します。

注意：下図のように、[フィールド] (Field) タブの各グループが使用可能になります。



注意：グラフ内のフィールドを選択する別の方法として、リソースパネルの[クエリ] (Query) ウィンドウでフィールドをクリックすることもできます。作業領域で、編集するフィールドを含むグラフが選択されていることを確認します。

ここで、コンテキストメニューやリボンに表示されるコマンドを使用して、選択したグラフを編集することができます。

グラフのスタイル設定およびカスタマイズについての詳細は、「[Customizing and Styling Report](#)」を参照してください。

手順 **テキストを編集するには**

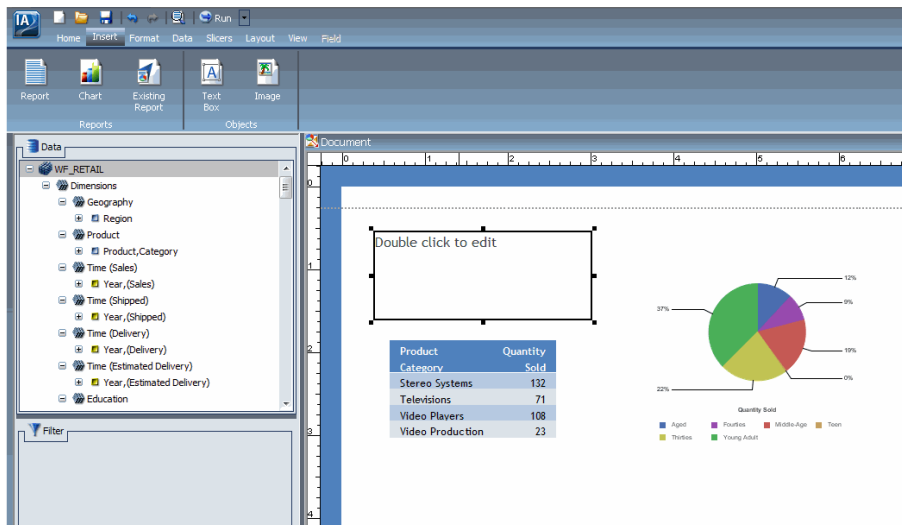
コンポーネントを選択すると、移動やサイズ変更など、コンポーネントに対してさまざまな機能を実行することができます。これらの機能についての詳細は、370 ページの「[コンポーネントを移動するには](#)」を参照してください。コンポーネントのクリック後、リボンを使用して、選択したコンポーネントのフィールド以外のすべての設定を変更することができます。コンポーネントをダブルクリックまたは右クリックして個別のフィールドを選択し、コンテキストメニューまたは[フィールド] (Field) タブでフィールドを編集することができます。

テキストのほかに、レポートやグラフにもスタイルを設定してカスタマイズすることができます。レポートについての詳細は、375 ページの「[レポートにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。グラフについての詳細は、377 ページの「[グラフにスタイルを設定してカスタマイズするには](#)」を参照してください。

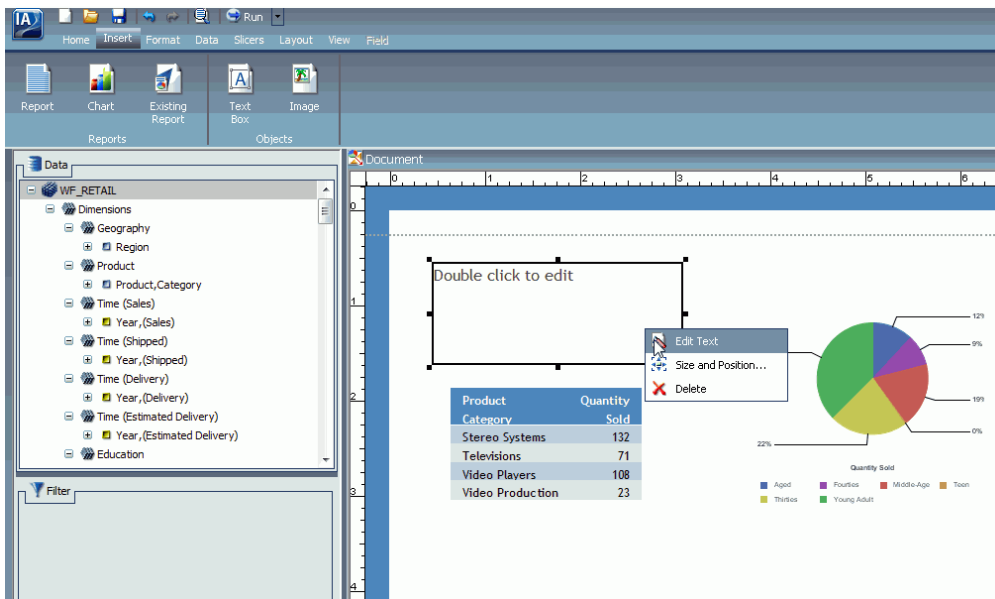
注意：イメージを編集することはできません。

1. 少なくとも1つのテキストで構成される既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。
2. テキストを選択します。

下図のように、境界線の周囲にサイズハンドルが表示されます。



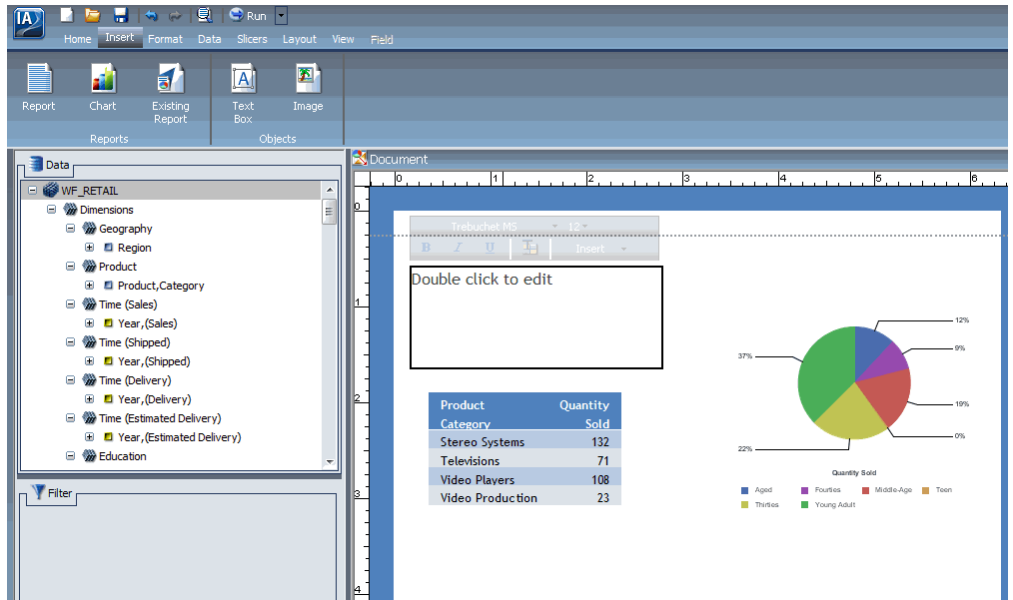
3. 下図のように、テキストを右クリックし、[テキストの編集](Edit Text)を選択します。



注意：テキストをダブルクリックすることで、コンテキストメニューをアクティブにすることもできます。この操作は、右クリックして [テキストの編集] (Edit Text) を選択する場合と同様に機能します。

テキストにカーソルが表示されます。

4. テキストボックスの任意の位置をクリックし、テキストを入力します。



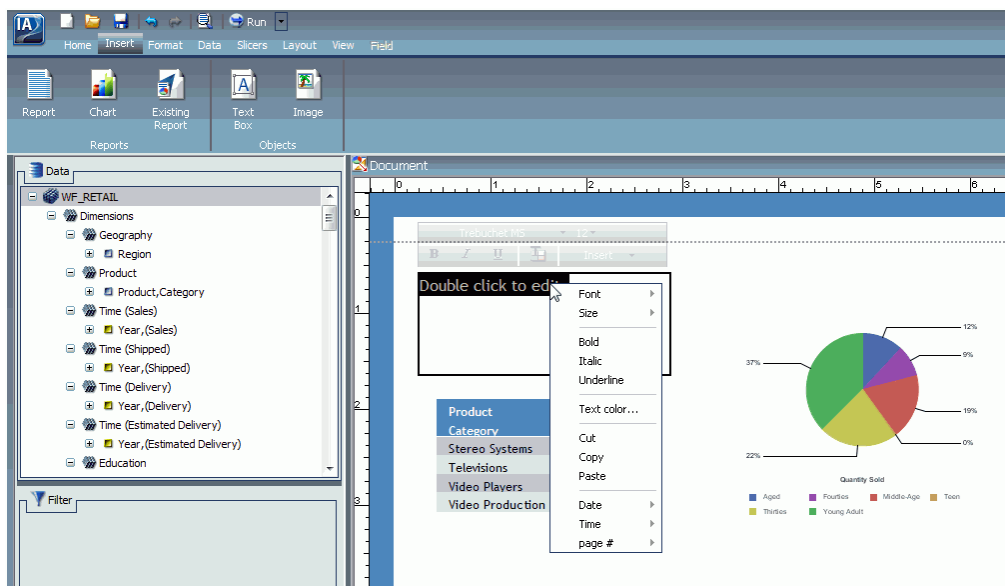
The screenshot displays the IBM Cognos Analytics interface. On the left, the 'Data' pane shows a hierarchy for 'WF_RETAIL' with dimensions like Geography, Product, and Time. The main report area contains a text box with the text 'Double click to edit', a table of product sales, and a pie chart showing the distribution of sales by age group.

Product Category	Quantity Sold
Stereo Systems	132
Televisions	71
Video Players	108
Video Production	23

Quantity Sold by Age Group:

Age Group	Quantity Sold	Percentage
Young Adult	132	37%
Thirties	71	22%
Video Production	23	9%
Video Players	108	19%
Other	0	0%

5. 編集するテキストを選択して右クリックします。オプションのメニューが表示されます。



6. メニューオプションを使用して、テキストにスタイルを設定したり、定型句を挿入したりできます。

テキストコンポーネントのメニューオプションは、次のとおりです。

- **フォント (Font)** 選択したテキストで使用可能なフォントのリストが開きます。
- **サイズ (Size)** 選択したテキストで使用可能なテキストサイズのリストが開きます。
- **太字 (Bold)** 選択したテキストを太字に設定します。
- **斜体 (Italic)** 選択したテキストを斜体に設定します。
- **下線 (Underline)** 選択したテキストを下線付きにします。
- **テキスト色 (Text color)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、選択したテキストの色を指定します。
- **切り取り (Cut)** 選択したテキストを切り取ります。
- **コピー (Copy)** 選択したテキストをクリップボードにコピーします。
- **貼り付け (Paste)** 選択したテキストをクリップボードから貼り付けます。

- **日付 (Date)** さまざまなフォーマットの日付クイックテキストのリストを開きます。
- **時間 (Time)** さまざまなフォーマットの時間クイックテキストのリストを開きます。
- **ページ番号 (page #)** さまざまなフォーマットのページ番号クイックテキストのリストを開きます。

手順

コンポーネントを削除するには

次の手順は、[レイアウト] (Document) デザインビューのすべてのコンポーネントに適用されます。

1. 少なくとも1つのコンポーネントで構成される既存のレイアウトを開くか、新規に作成します。
2. コンポーネントを右クリックし、[削除] (Delete) を選択します。

選択したコンポーネントが作業領域から削除されます。

注意:コンポーネント削除するには、コンポーネントをクリックして **Delete** キーを押すこともできます。

3 | InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

InfoAssist を使用して、HOLD ファイル、レイアウト入力フォーム、アプリケーションを作成することができます。

トピックス

- HOLD ファイルの作成
- 複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームの作成
- InfoAssist での Active テクノロジコンポーネントの作成
- スライサの使用
- InfoMini アプリケーションの作成
- 用語集

HOLD ファイルの作成

トピックス

HOLD ファイルの用途

HOLD ファイルの格納

レポートおよびグラフの出力フォーマット

HOLD ファイルの作成

HOLD ファイルを使用したサブクエリフィルタの作成

レイアウトモード

レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で使用する HOLD ファイルの作成方法、および HOLD ファイルのサブクエリフィルタでの使用方法について説明します。

HOLD ファイルには、別の Web Query プロシジャで使用できる、レポートリクエストを保存できます。

これにより、HOLD ファイルからデータを抽出する新しいレポートリクエストを作成できるため、結果としてマルチステップレポートを作成することができます。

作成した HOLD ファイルは、レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で使用することができます。

HOLD ファイルの用途

HOLD ファイルは、次のことに役立ちます。

- 後続のリクエストでデータをより高速かつ効率的に取得できるよう、大規模なデータソースからフィールドを抽出する。
- 別のリクエストで処理できるよう、リクエストで計算された一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE) の値を格納する。

HOLD ファイルの格納

HOLD ファイルは、作成後一時的に保存して即座に使用することや、将来または繰り返し使用するために保存しておくことができます。

レポートおよびグラフの出力フォーマット

レポートの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- バイナリ (*.ftm)
- FOCUS (*.foc)。詳細は、397 ページの「[FOCUS フォーマットインデックスファイル](#)」を参照してください。
- フィールド名付きカンマ区切りテキストファイル
- テキストファイル (*.ftm)
- タブ区切りテキストファイル (*.tab)
- フィールド名付きタブ区切りテキストファイル (*.tab)
- データベーステーブル (*.sql)
- SQL スクリプト (*.sql)
- XML (*.xml)

グラフの HOLD ファイルは、次のフォーマットで保存することができます。

- PNG
- GIF
- SVG
- JPEG

HOLD ファイルの作成

トピックス

[FOCUS フォーマットインデックスファイル](#)

手順/構文

[HOLD ファイルからレイアウトの複数コンポーネントを作成するには](#)

[HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには](#)

[サブクエリで使用する HOLD ファイルを作成するには](#)

ここでは、HOLD ファイルの使用方法を示す 3 つの例について説明しています。

注意： ACROSS フィールドで HOLD ファイルを使用することはできません。

手順

HOLD ファイルからレイアウトの複数コンポーネントを作成するには

ここでは、フィールドを HOLD ファイルに抽出し、HOLD ファイルからレイアウトの複数のコンポーネントを作成する手順について説明します。

1. データソースを選択します。
2. 後続リクエストで使用するため、抽出が必要なすべてのフィールドを追加します。
3. [ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで、[ファイルとプリンタ] (File & Printer) をクリックします。
4. [対象] (Destination) ドロップダウンリストをクリックし、[ファイル] (File) を選択します。
5. [...] (参照) ボタンをクリックし、[一時ファイル] (Temporary) ダイアログボックスを開きます。
6. [一時ファイル] (Temporary) ダイアログボックスで、ファイル名を入力後、[フォーマット] (Format) ダイアログボックスから HOLD ファイルのフォーマットを選択し、[保存] (Save) をクリックします。

注意： デフォルト設定では、一時 HOLD ファイルが作成されます。このファイルは、レポートまたはグラフの実行後に削除されます。代わりに、アプリケーションパスのフォルダパスを選択し、永続的な HOLD ファイルを作成することもできます。このファイルはプロシジャの実行後も保存されるため、再利用することができます。

7. [レイアウトの作成] (Create Document) を選択します。
8. [挿入] (Insert) タブの [レポート] (Reports) グループで、[グラフ] (Chart) をクリックします。
9. グラフにフィールドを追加します。
10. 別のグラフを挿入します。
11. このグラフにフィールドを追加します。
12. [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart Types) グループで、[円] (Pie) をクリックします。
13. [挿入] (Insert) タブの [レポート] (Reports) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。

14. レポートにフィールドを追加します。
15. 必要な任意の数のレポートおよびグラフを追加し、レイアウトを完成させます。

手順

HOLD ファイルから表形式レポートを作成するには

ここでは、リクエストで計算された一時項目 (DEFINE)、一時項目 (COMPUTE) の値を格納し、別のリクエストで処理する手順について説明します。

この手順を実行し、地区および年度ごとの製品カテゴリ別売上数量を表示する表形式レポートを作成します。また、地区内での割合を示す列も追加します。

1. WF_RETAIL_SALESCLUSTER マスターファイル、またはこれに類似の数値フィールドおよび文字フィールドが格納されている任意のマスターファイルを選択します。
2. [Quantity, Sold] を追加します。
3. タイトルの変更を変更します。
4. [タイトルの変更] (Edit Title) ダイアログボックスで、「Quantity」と入力し、[OK] をクリックします。
5. [Region] を追加します。
6. [ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループで、[ファイルとプリンタ] (File & Printer) をクリックします。
7. [対象] (Destination) ドロップダウンリストをクリックし、[ファイル] (File) を選択します。
8. [...] (参照) ボタンをクリックし、[一時ファイル] (Temporary) ダイアログボックスを開きます。
9. [一時ファイル] (Temporary) ダイアログボックスで、HOLD ファイルの名前を入力し、[保存] (Save) をクリックします。

注意：デフォルト設定では、一時HOLDファイルが作成されます。このファイルは、レポートまたはグラフの実行後に削除されます。代わりに、アプリケーションパスのフォルダパスを選択し、永続的な HOLD ファイルを作成することもできます。このファイルはプロシジャの実行後も保存されるため、再利用することができます。

10. [レポートの作成] (Create Report) ボタンをクリックします。
11. [データ] (Data) タブの [JOIN] グループで、[JOIN] をクリックします。
12. [JOIN] ダイアログボックスで、[追加] (Add New) をクリックします。

13. ドロップダウンメニューから、[既存] (Existing) を選択します。
14. [新規クロスリファレンスマスターファイルを選択] (Please pick a new target master file) ダイアログボックスで、[WF_RETAIL_SALESCUSTER] マスターファイルを選択し、[OK] をクリックします。
2 つの JOIN テーブルが結合されます。
15. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
16. FACT_SALES から、[Quantity, Sold] を追加します。
17. HOLD から、[Quantity, Sold] を追加します。
18. [フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで、[最初の値] (First Value) をクリックし、[Quantity, Sold] に FST 演算接頭語を追加します。
19. [Quantity, Sold] は後続する計算で使用するため、[フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで、[フィールドの非表示] (Hide Field) をクリックし、[Quantity, Sold] を非表示にします。
20. [データ] (Data) タブの [演算] (Calculation) グループで、[一時項目 (COMPUTE)] (Summary (Compute)) をクリックします。
21. [SUM フィールド (Compute)] (Summary Field (Compute)) ダイアログボックスで、次の操作を実行します。
 - [フィールド名] (Field Name) テキストボックスに「XPCT」と入力します。
 - [フォーマット] (Format) テキストボックスに「F6.2%」と入力します。
 - イメージ内に、パーセント値を計算する式を入力します。
22. [OK] をクリックし、ダイアログボックスを閉じます。
23. BY フィールドとして [Region] を追加します。
24. [フィールド] (Field) タブの [表示] (Display) グループで、[中間合計] (Subtotal) ドロップダウンメニューから [単純] (Simple) を選択し、Region の中間合計を作成します。
25. BY フィールドとして [Product, Category] を追加します。
26. ACROSS フィールドとして [Year, (Sales)] を追加します。
27. [ホーム] (Home) タブの [レポート] (Report) グループで、[行合計] (Row Totals) をクリックします。

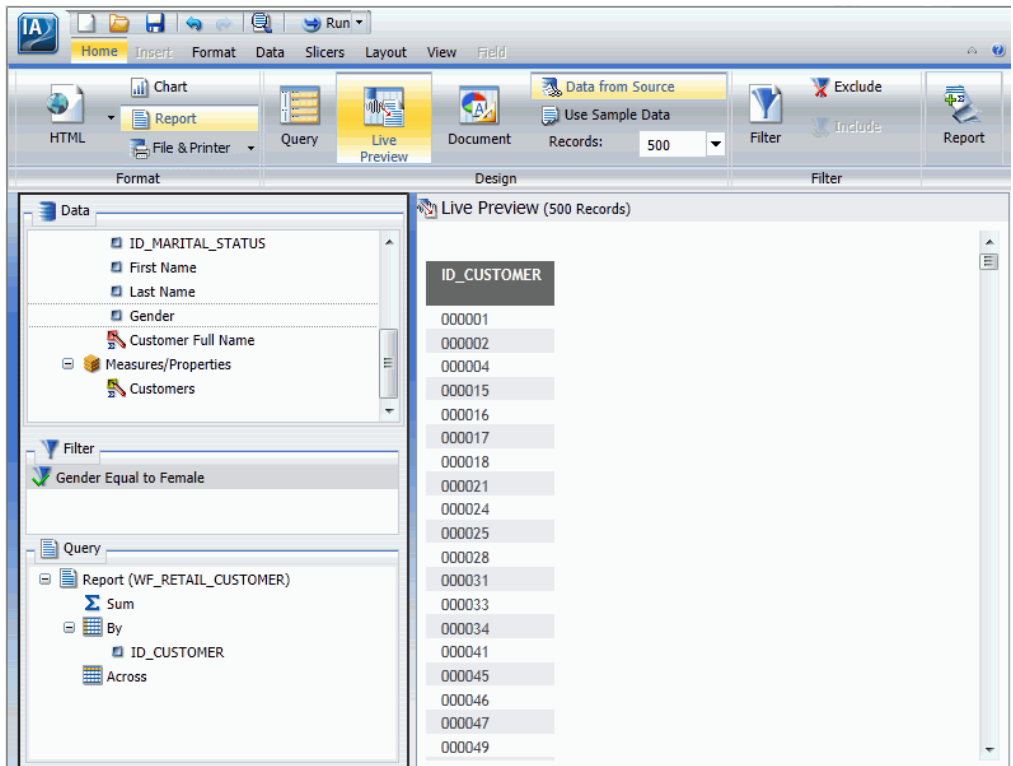
これで、レポートは完成です。

手順

サブクエリで使用する HOLD ファイルを作成するには

この手順では、サブクエリで使用する HOLD ファイルの作成方法について説明します。

1. 少なくとも 1 つのフィルタ条件を設定した新しいレポートを作成します。
たとえば、下図のレポートには、性別が女性の顧客 ID が表示されています。

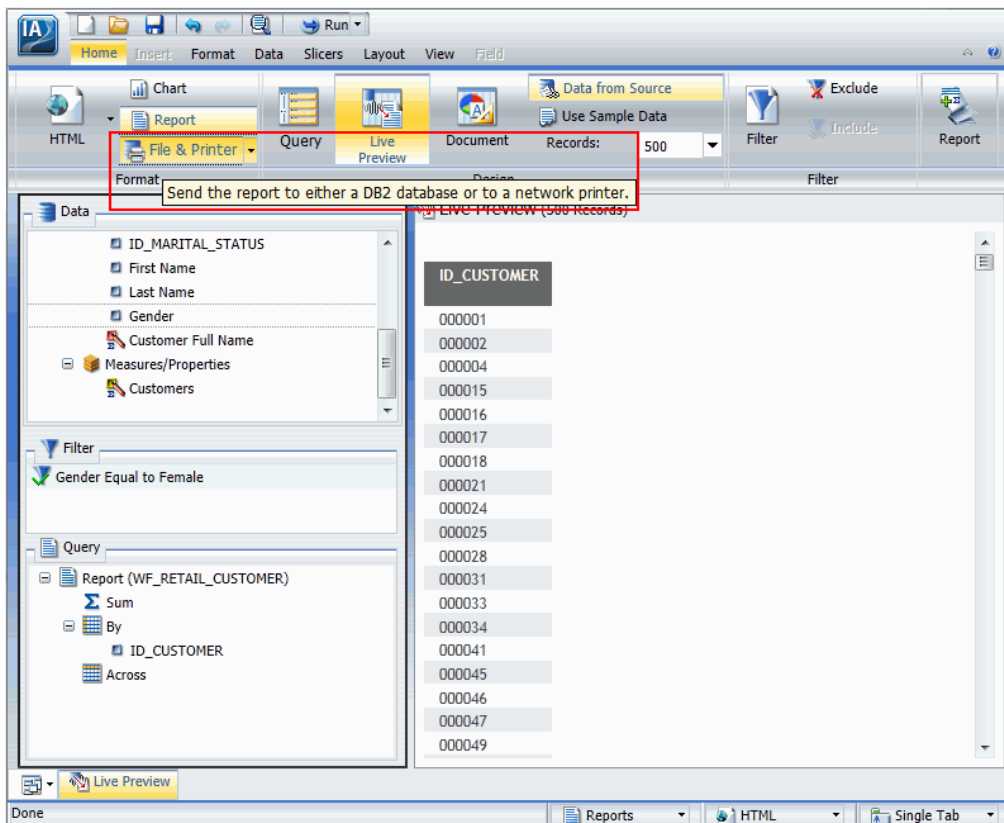


2. [ファイルとプリンタ] (File & Printer) をクリックします。

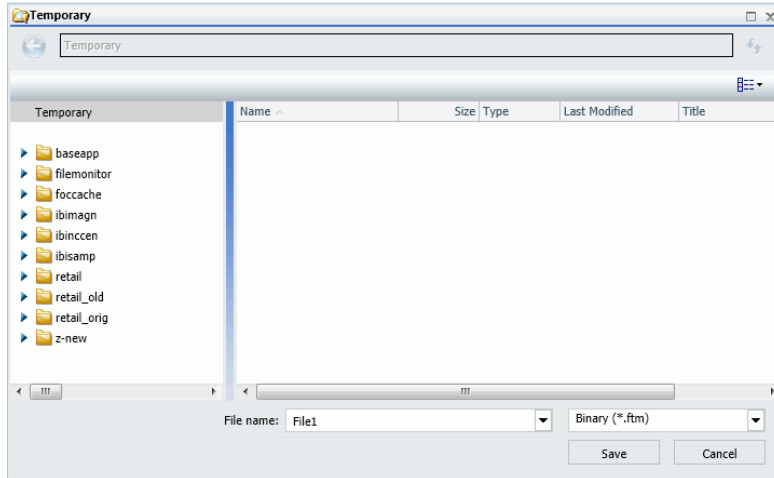
[ファイルとプリンタ] (File & Printer) ボタンは、[ホーム] (Home) タブの [フォーマット] (Format) グループ、および [フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループにあります。

[ファイルとプリンタ] (File & Printer) ボタンは、分割ボタンです。ボタンの左側をクリックすると、[保存] (Save) ダイアログボックスが表示されます。右側の下向き矢印をクリックして [保存] (Save) ダイアログボックスを表示し、最初の設定を行うことや、設定を変更することができます。

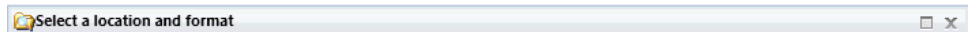
下図は、[ファイルとプリンタ] (File & Printer) ボタンおよびそのツールヒントを示しています。



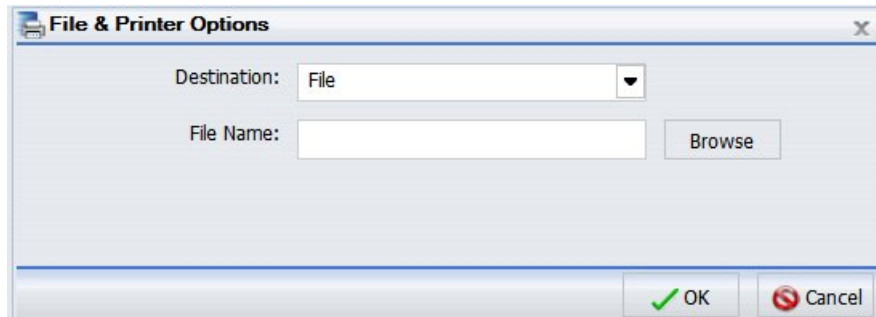
[一時ファイル] (Temporary) ダイアログボックスは、下図のように表示されます。



注意：「一時ファイル」(Temporary) というラベルは、ダイアログボックスの上部に表示されます。フォルダを選択すると、このラベルは「パスとフォーマットの選択」(Select a location and format) に変更されます。



[ファイルとプリンタ] (File & Printer) ダイアログボックスは、下図のように表示されます。



3. [対象] (Destination) ドロップダウンリストをクリックし、[ファイル] (File) を選択して [参照] (Browse) ボタンをクリックします。
4. [パスとフォーマットの選択] (Select a location and format) ダイアログボックスで、次の項目を入力します。

- a. [ファイル名] (File name) テキストボックスに、ファイル名を入力します。
デフォルトのファイル名は「File1」です。
- b. リストメニューから、ファイルフォーマットとして [SQL スクリプト (*.sql)] (SQL Script (*.sql)) を選択します。
- c. HOLD ファイルのパスを選択します。

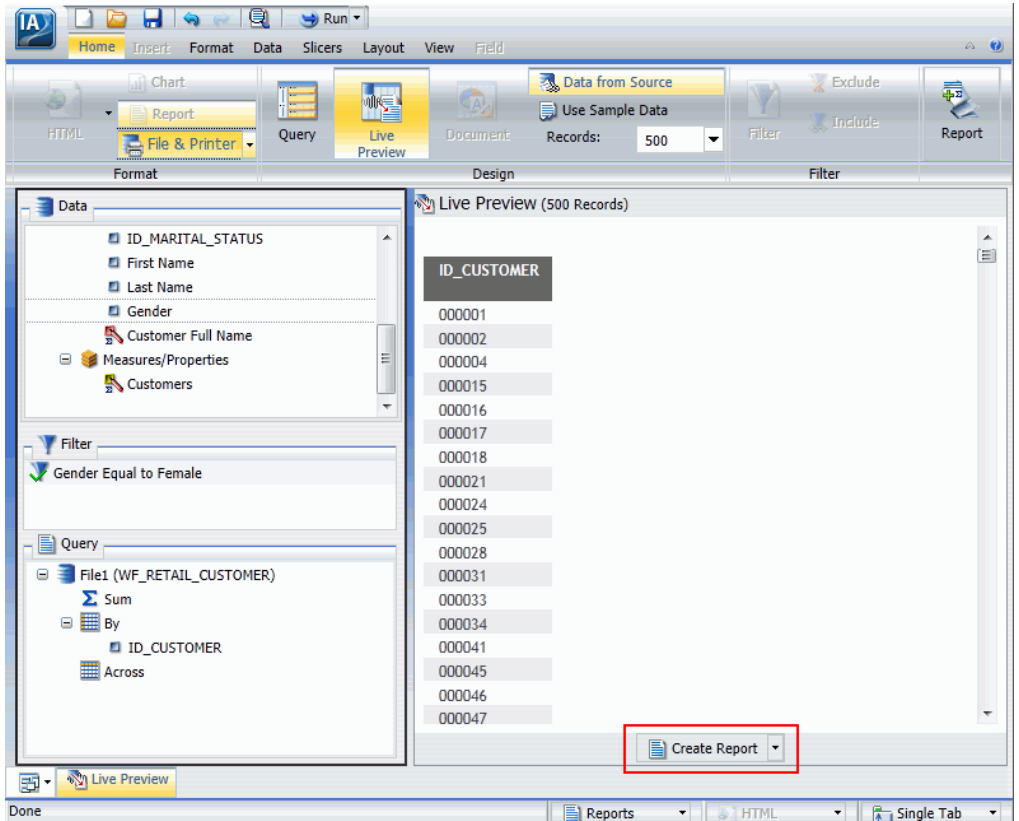
パスは、一時ファイル(デフォルト設定)、書き込み可能なサーバのアプリケーションフォルダのいずれかです。

注意：指定したパスに HOLD ファイル名がすでに存在する場合、[保存] (Save) をクリックすると、警告メッセージは表示されず、既存のファイルは上書きされます。

5. [保存] (Save) をクリックします。

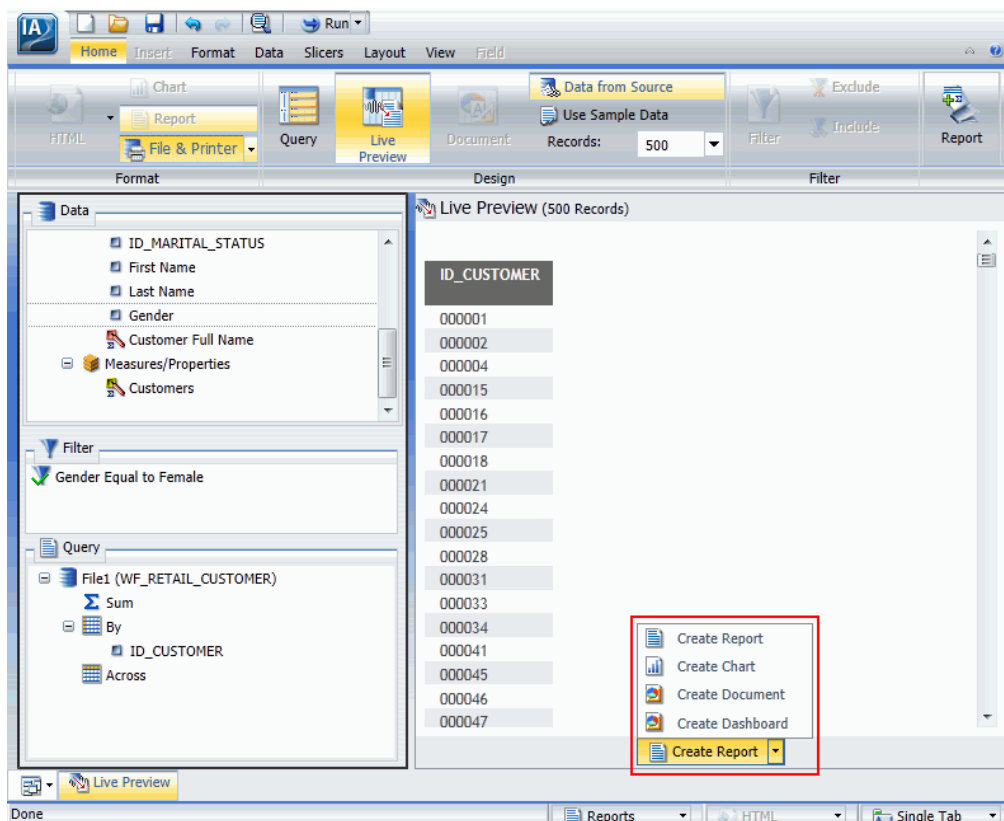
3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

下図のように、InfoAssist のライブプレビューの下部に、[レポートの作成] (Create Report) ボタンが表示されます。

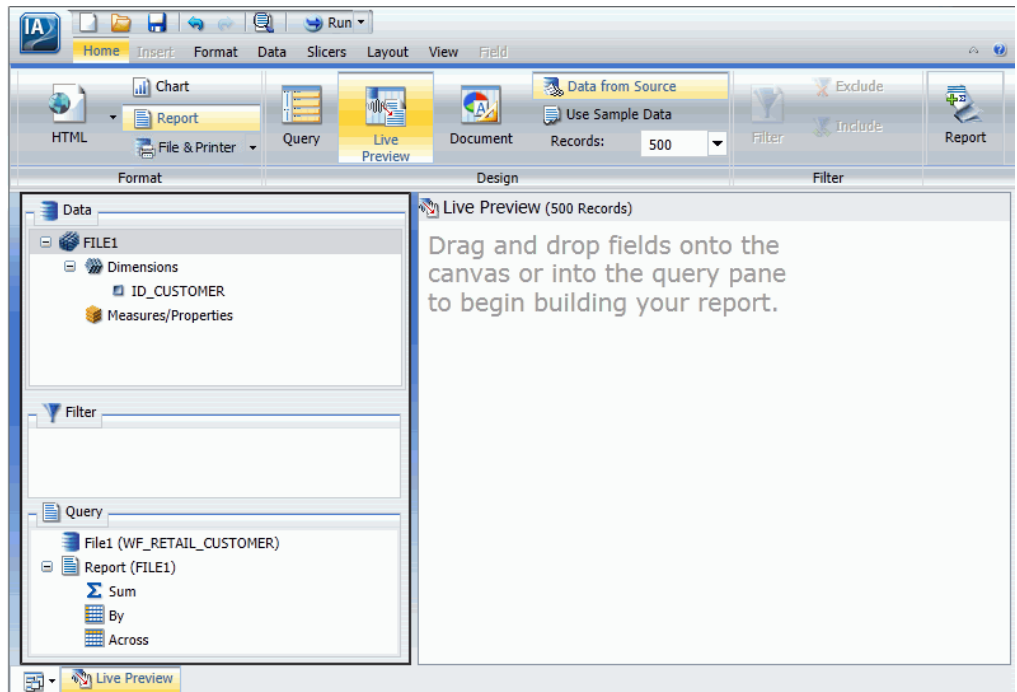


- 手順 2 から 4 を繰り返し、必要な数の HOLD ファイルを作成します。

7. レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で HOLD ファイルを即座に使用する場合は、対応するオプションを選択します。

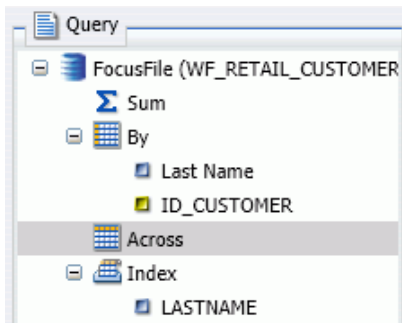


下図は、[レポートの作成] (Create Report) を選択した場合の [ライブプレビュー] (Live Preview) アプリケーションウィンドウの例を示しています。



FOCUS フォーマットインデックスファイル

インデックスフィールドは、FOCUS フォーマットのみでサポートされます。インデックスの追加が可能なフィールドの最大数は、4つです。下図のように、ファイルフォーマットが FOCUS の場合、インデックスは [クエリ] (Query) ウィンドウに表示されます。



HOLD ファイルを使用したサブクエリフィルタの作成

手順/構文

HOLD ファイルを使用してサブクエリフィルタを作成するには

InfoAssist では、HOLD ファイルを使用したサブクエリを作成することができます。サブクエリとは、SQL ステートメントの WHERE 句に追加される、ネストされたクエリのことです。何度も再利用できるという点で、サブクエリを使用すると便利です。

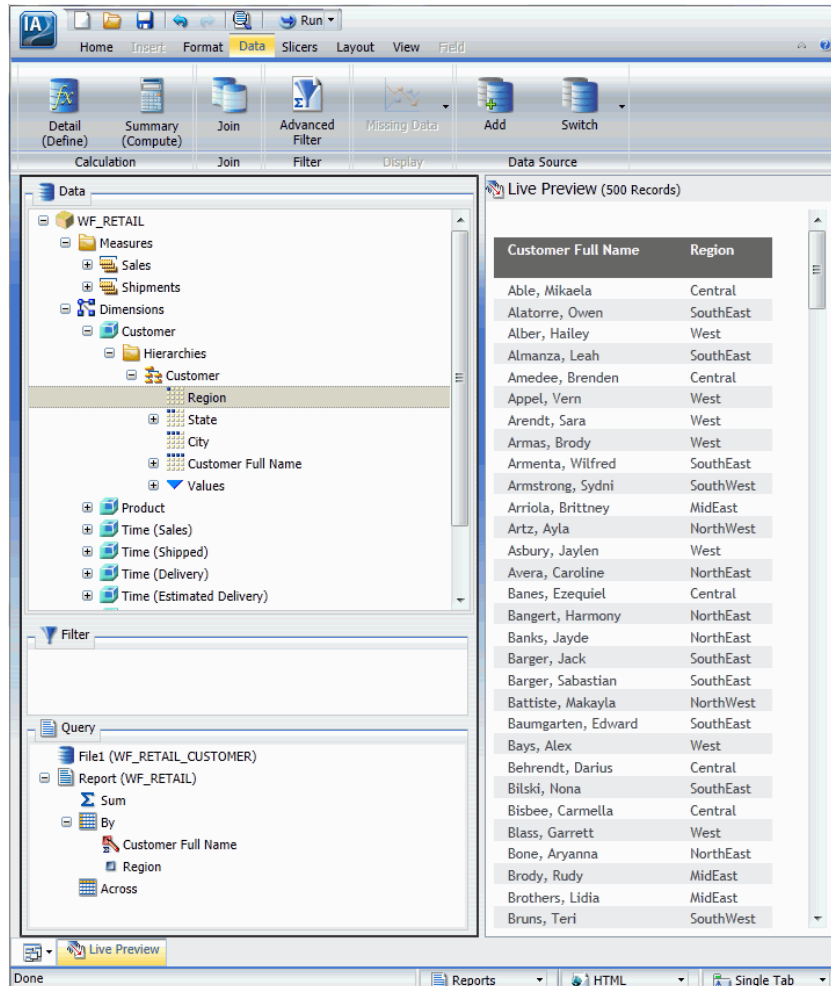
手順

HOLD ファイルを使用してサブクエリフィルタを作成するには

ここでは、上記の手順で作成した HOLD ファイルを使用して、サブクエリフィルタを作成する手順について説明します。

1. レポートを作成します。

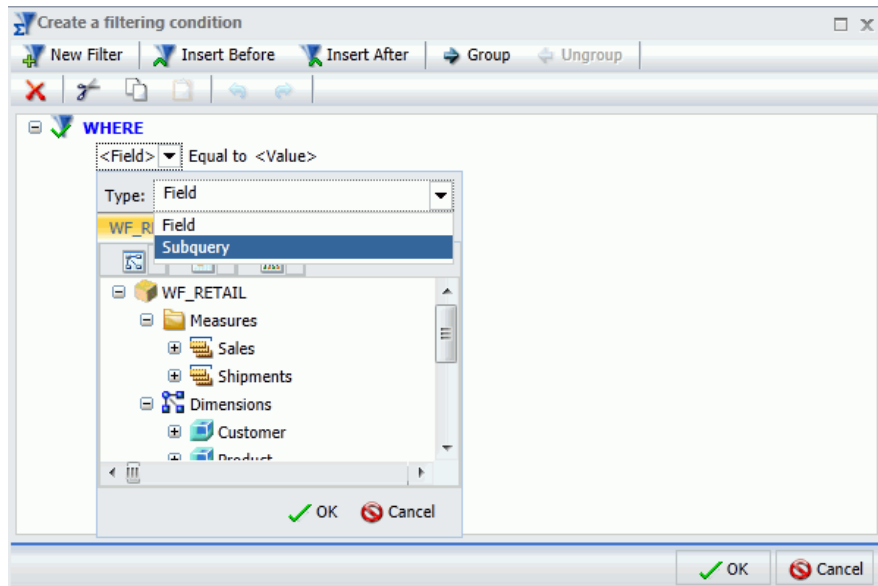
下図は、レポートの一例を示しています。



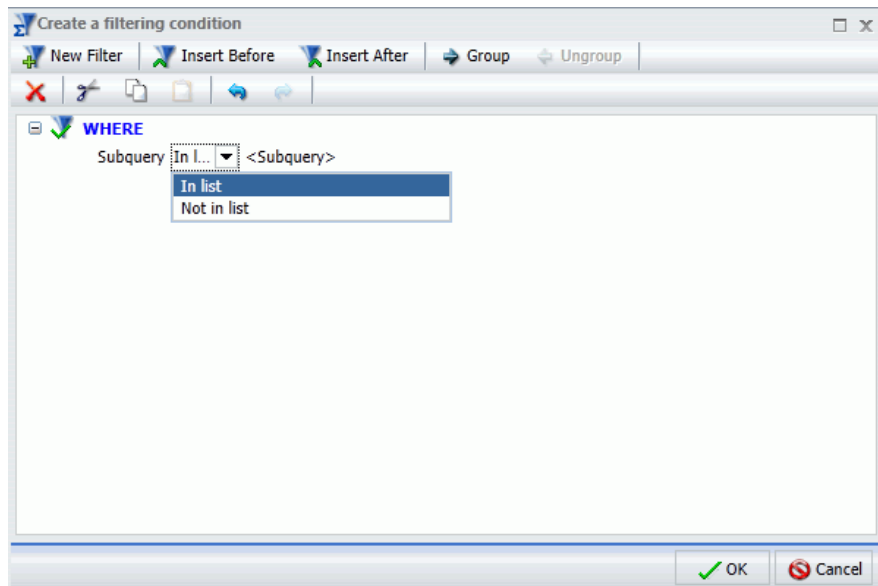
2. [データ](Data) タブの [フィルタ](Filter) グループで、[高度なフィルタの設定](Advanced Filter) をクリックします。

[フィルタの設定] (Advanced Filter) ダイアログボックスが開きます。

3. [フィルタの設定] (Advanced Filter) ダイアログボックスで、[タイプ] (Type) ドロップダウンリストから、[サブクエリ] (Subquery) を選択します。

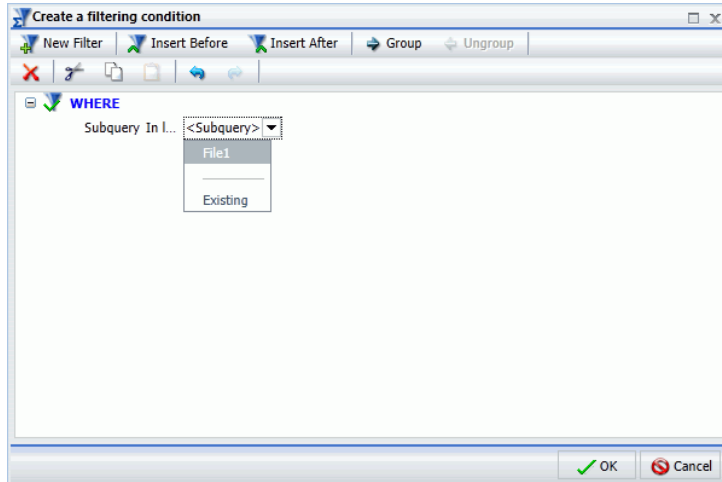


4. 下図のように、[サブクエリ] (Subquery) ドロップダウンリストから [リストに存在する] (In list) を選択します。



5. 式の最も右側の項目として、サブクエリのリストから、作成したサブクエリ (ここでは「File1」) を選択します。

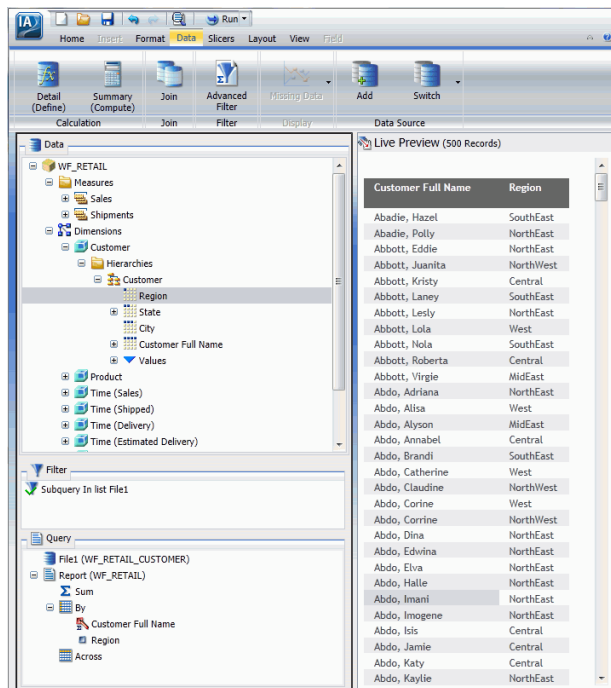
下図は、[サブクエリ](Subquery) ドロップダウンリストを示しています。「File1」サブクエリが表示されます。



6. [OK] をクリックします。

作成したサブクエリで、レポートにフィルタが設定されます。

下図の例では、レポートに顧客の性別 (女性) というフィルタが設定されています。



注意：このリクエストで生成される SQL ステートメントを表示するには、クイックアクセスツールの [実行] (Run) ドロップダウンメニューを開き、[SQL トレース] (SQL Trace) を選択します。

レイアウトモード

レイアウト内のレポートから HOLD ファイルを作成するには、レポートを選択して [ファイルとプリンタ] (File & Printer) をクリックするか、レポートを右クリックして、メニューから [ファイルに変換] (Convert to File) を選択します。続いて、391 ページの「サブクエリで使用する HOLD ファイルを作成するには」の手順に従って HOLD ファイルを作成します。

複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームの作成

トピックス

複数ページのレイアウトの作成

複数ページのレイアウト入力フォームの作成

ページメニューのナビゲート

アクティブキャッシュオプションの使用

InfoAssist によるアクティブキャッシュの有効化

InfoAssist を使用して、複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームを作成する方法、およびアクティブキャッシュを有効にする方法について説明します。

レイアウトモードでは、コンテンツを複数のページに分割して作成することができます。使用可能な出力フォーマットは、PDF、HTML、active report、PowerPoint、Excel、active PDF、active Flash です。

- active report および active Flash 出力フォーマットでは、複数のレポートおよびグラフが 1 つのレイアウトに統合され、タブ付きの active dashboard が生成されます。
- Excel では、複数のレポートが 1 つのブックに統合され、それぞれ個別のワークシートとして作成されます。
- PowerPoint では、複数のレポートおよびグラフが 1 つのスライドに統合されます。

複数ページのレイアウトの作成

手順/構文

複数ページのレイアウトを作成するには

InfoAssist を使用して、複数ページのレイアウトを作成することができます。

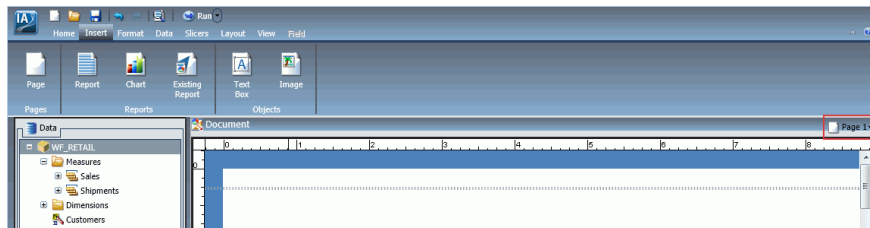
手順

複数ページのレイアウトを作成するには

1. 新しいレイアウトを作成します。

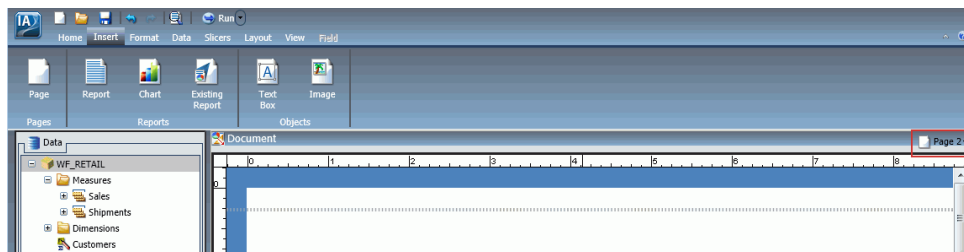
複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームの作成

下図のように、作業領域のタイトルバーに、「ページ 1」(Page 1) と表示されます。



2. [ページ 1] (Page 1) に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次の手順を実行します。
 - [挿入] (Insert) タブの [ページ] (Pages) グループで、[ページ] (Page) をクリックします。
 - 作業領域のタイトルバーで、[ページ] (Page) アイコンをクリックします。表示された [ページ] (Page) メニューから、[新規ページ] (New Page) を選択します。

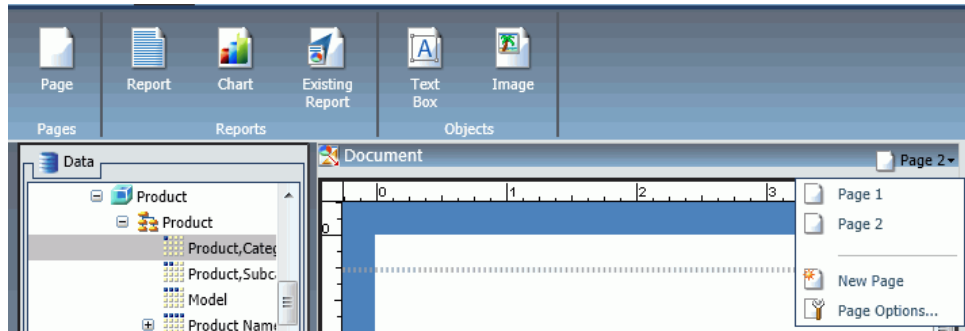
下図のように、現在のページの後に「ページ 2」(Page 2) などの新規ページが挿入され、作業領域に表示されます。



追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」(Page n) のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。

4. [ページ 2] (Page 2) に、コンテンツを追加します。
5. 手順 3 および 4 を繰り返し、レイアウトを完成させます。

下図のように、ページ間を移動するには、作業領域上部の [ページ] (Page) アイコンをクリックして [ページ] (Page) メニューを開きます。



複数ページのレイアウト入力フォームの作成

手順/構文

複数ページのレイアウト入力フォームを作成するには

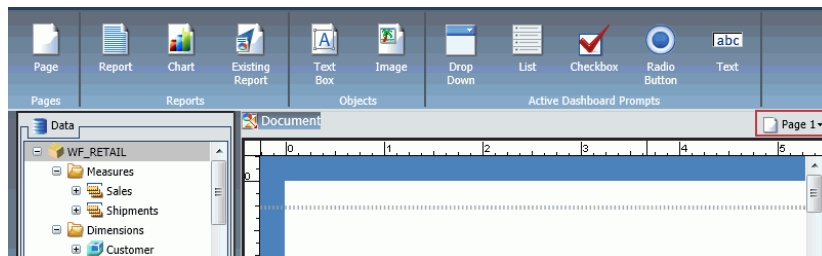
InfoAssist を使用して、複数ページのレイアウト入力フォームを作成することができます。

手順

複数ページのレイアウト入力フォームを作成するには

1. 新しいレイアウト入力フォームを作成します。

下図のように、作業領域のタイトルバーに、「ページ 1」 (Page 1) と表示されます。

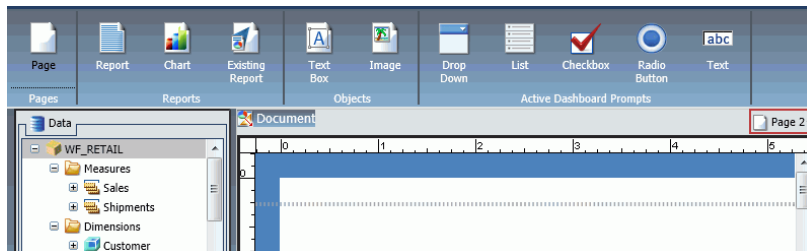


2. [ページ 1] (Page 1) に、新規または既存のレポート、グラフ、テキスト、イメージ、入力フォームなどのコンテンツを追加します。
3. 別のページを追加するには、次の手順を実行します。

複数ページのレイアウトおよびレイアウト入力フォームの作成

- [挿入] (Insert) タブの [ページ] (Pages) グループで、[ページ] (Page) をクリックします。
- 作業領域のタイトルバーで、[ページ] (Page) アイコンをクリックします。表示された [ページ] (Page) メニューから、[新規ページ] (New Page) を選択します。

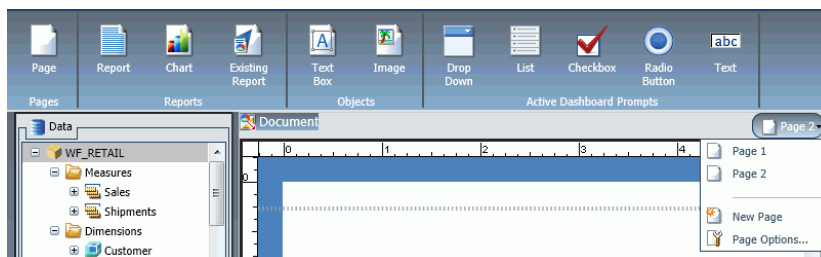
下図のように、現在のページの後に「ページ 2」(Page 2) などの新規ページが挿入され、作業領域に表示されます。



追加されたページのそれぞれの名前は、「ページ n」(Page n) のようになります。ここで、「n」は 1 から始まる連続番号です。

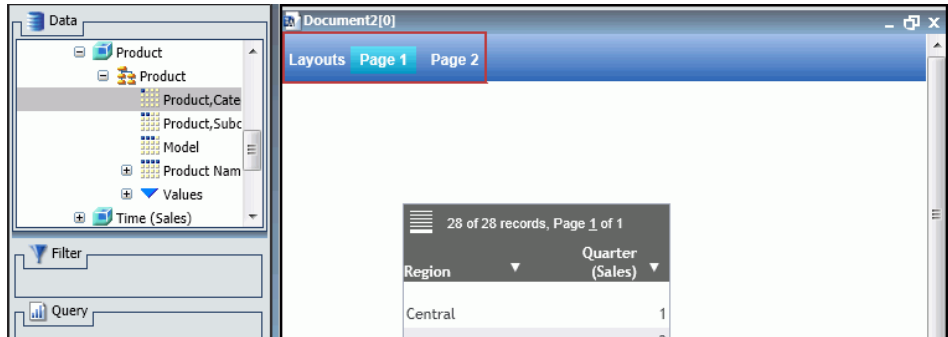
4. [ページ 2] (Page 2) に、コンテンツを追加します。
5. レイアウト入力フォームが完成するまで、手順 3 および 4 を繰り返します。

下図のように、ページ間を移動するには、作業領域上部の [ページ] (Page) アイコンをクリックして [ページ] (Page) メニューを開きます。



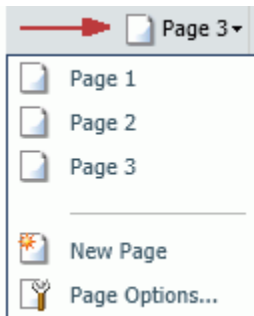
6. レイアウト入力フォームを実行します。

下図のように、作業領域の上部にタブが表示されます。



ページメニューのナビゲート

[ページ] (Page) メニューにアクセスするには、下図のように、デザインモードで [ページ] (Page) アイコンをクリックします。



[ページ] (Page) メニューには、作成された順序でページが表示されます。ページの順序は、ドラッグアンドドロップで変更することができます。また、複数のページを選択して、削除することもできます。

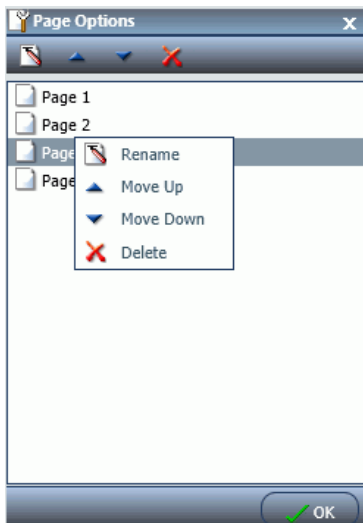
[ページ] (Page) メニューの [新規ページ] (New Page) オプションを使用して、レイアウトに新しいページを追加することもできます。

[ページ] (Page) メニューの [ページオプション] (Page Options) をクリックすると、ダイアログボックスが開き、次のオプションが表示されます。

- ページ名の変更 (Rename Page)
- ページを上へ移動 (Move Page Up)
- ページを下へ移動 (Move Page Down)

□ 削除 (Delete)

下図は、[ページオプション] (Page Options) ダイアログボックスを示しています。



ページを選択すると、ダイアログボックス上部のメニューバーで、[ページ名の変更] (Rename)、[ページを上へ移動] (Move Up)、[ページを下へ移動] (Move Down)、[削除] (Delete) のオプションが有効になります。また、ページを右クリックすると、同一のオプションを提供するコンテキストメニューが開きます。

方向のオプションは、選択したページの位置によって決定されます。たとえば、「ページ 1」 (Page 1) を選択している場合、[上へ移動] (Move Up) は表示されません。最後のページを選択している場合、[下へ移動] (Move Down) は表示されません。

このダイアログボックスを閉じるには、[OK] をクリックします。

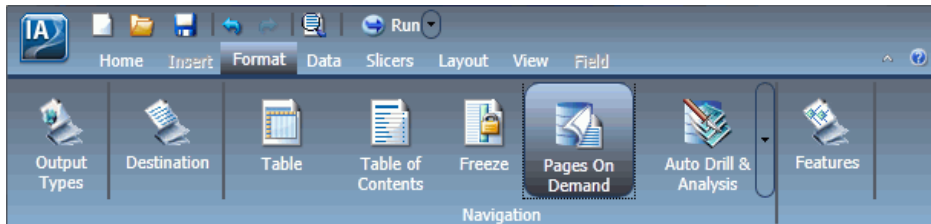
アクティブキャッシュオプションの使用

データ取得後の処理は、すべて Web ブラウザのメモリで実行されるため、active report の取得レコード数は、最大でおよそ 5000 件 (出力で 100 ページ以内) に制限されています。レコード数が 件を超えるアンサセットを作成する場合、アクティブキャッシュオプションを使用すると、active report 出力の最初のページのみをブラウザに送信し、後続のページを Reporting Server の一時キャッシュから取得することが可能になります。

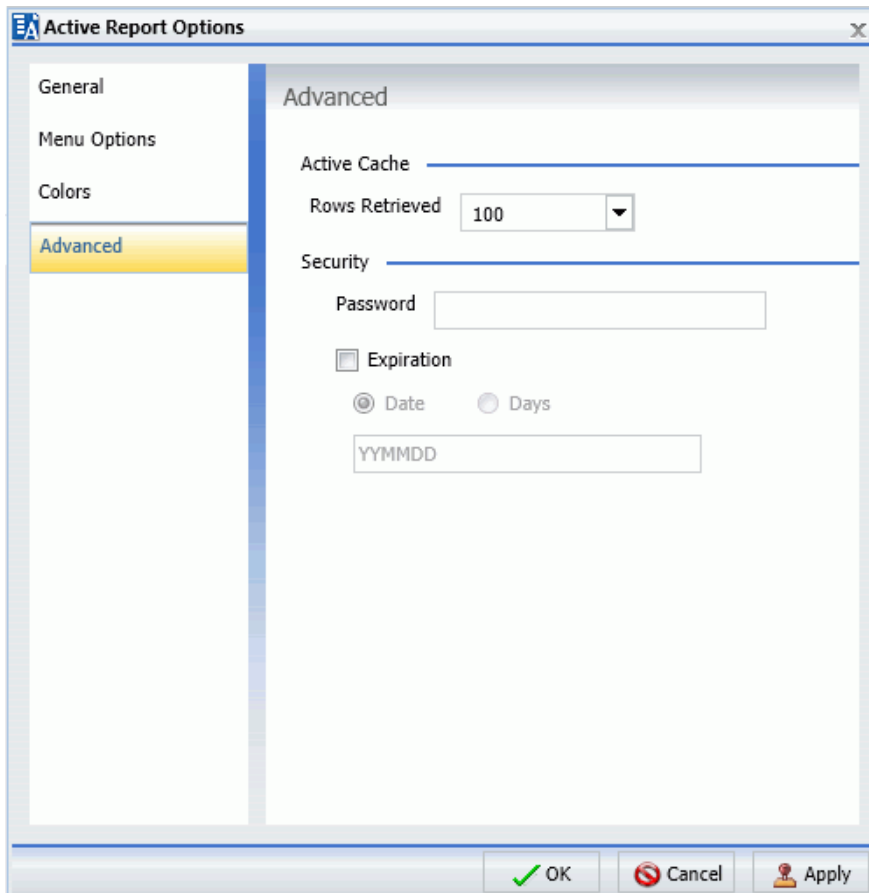
ヒント：取得行数には、1 ページあたりの取得行数 (SET LINES で指定) の 5 倍の値を設定することをお勧めします。取得行数の最小値は 100 です。

InfoAssist によるアクティブキャッシュの有効化

InfoAssist では、出力タイプとして [active report] を選択した場合 ([フォーマット] (Format) タブの [出力タイプ] (Output Types) グループ)、および Web ビューアを有効にした場合 ([フォーマット] (Format) タブの [ナビ] (Navigation) グループ) に、アクティブキャッシュが有効になります。下図は、[Web ビューア] (Pages on Demand) ボタンを示しています。



InfoAssist の [active report オプション] (active report options) ダイアログボックスの [詳細] (Advanced) タブには、[取得行数] (Rows Retrieved) ドロップダウンリストがあります。この設定を使用して、バイナリファイルに格納されたキャッシュデータを出力ウィンドウに送信する単位を指定します。デフォルト値は 100 です。下図は、[詳細設定] (Advanced) タブを示しています。



注意：複数ページのレイアウトでは、アクティブキャッシュをコンポーネントごとに有効にする必要があります。アクティブキャッシュをグローバルに設定することはできません。このため、AHTML フォーマットでレイアウトを作成する場合は、各コンポーネントを個別に選択してアクティブキャッシュを有効にする必要があります。この作業を完了すると、[Web ビューア] (Pages on Demand) ボタンが有効になります。

InfoAssist での Active テクノロジコンポーネントの作成

トピックス

Active テクノロジレポートの作成

Active テクノロジグラフの作成

Active テクノロジレイアウト (入力フォーム) の作成

InfoAssist を使用して、Active テクノロジの機能を有効にしたレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム) を作成する方法について説明します。

ここでは、InfoAssist を使用して、Active テクノロジの機能を有効にしたレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム) を作成する方法について説明します。

これらのレポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム) では、Active テクノロジの完全な機能が使用されます。これらは、active report、active chart、active dashboard とも呼ばれます。

Active テクノロジレポートの作成

トピックス

Active テクノロジレポートのメニューオプション

Active テクノロジレポートオプションの構成

手順/構文

Active テクノロジレポートを作成するには

active report は、オフライン分析用に設計された自己完結型のレポートで、出力ファイル内のデータすべてと JavaScript が含まれています。active report を使用して、次のことを行えます。

- サーバに接続することなく、Excel ブックと同様の分析オプションを使用して、データを対話的に操作する。この分析オプションには、フィルタ設定、ソート、グラフ作成など、さまざまな機能があります。

- 追加のプラグインやプログラムを使用せずに、オフラインで作業する。active report は、自己完結型のレポートで、HTML 出力ファイル内のデータすべてと JavaScript が格納されています。データとインタラクティブ機能が HTML ファイルにパッケージ化されているため、出力結果は、Email による送信時の圧縮性に優れ、セキュリティの透過性を提供します。
- active report 機能付きのレポートをローカルマシンに保存する。データの表示または分析オプションを使用する目的でサーバに接続する必要はないため、レポートの保存場所や使用場所に制限はありません。

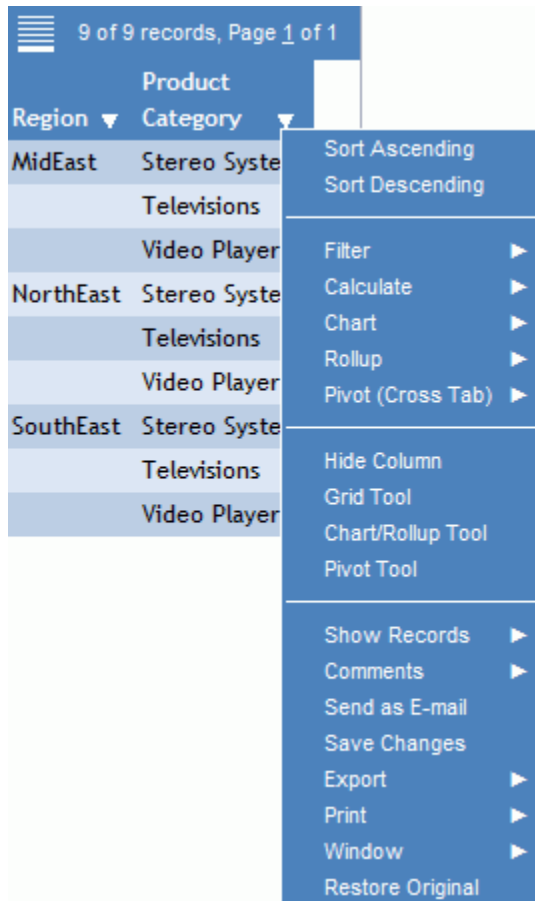
Adobe Flex を使用した active report では、HTML バージョンの active report で使用可能な機能のほとんどが、ユーザフレンドリなレポートフォーマットとして提供されます。自己完結型の Adobe Flash ファイル (.swf) (FLEX) として配信された active report は、大規模データセットのより高速な分析や、active report としてのインタラクティブ分析作業を行うことができます。

手順

Active テクノロジレポートを作成するには

1. InfoAssist をレポート表示で開き、[フォーマット](Format) タブの [出力](Output Types) グループで [active report] をクリックします。
2. レポートを作成します。
3. レポートを実行します。

下図は、[Product Category] 列にメニューオプションが表示された active report を示しています。



Active テクノジレポートのメニューオプション

下表は、Active テクノジレポートのメニューオプションを示しています。

オプション	定義
昇順ソート (Sort Ascending)	列を昇順でソートします。

オプション	定義
降順ソート (Sort Descending)	列を降順でソートします。
フィルタ (Filter)	データにフィルタを設定します。次のオプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"><input type="checkbox"/> 等しい (Equals)<input type="checkbox"/> 等しくない (Not equal)<input type="checkbox"/> より大きい (Greater than)<input type="checkbox"/> 以上 (Greater than equal to)<input type="checkbox"/> より小さい (Less than)<input type="checkbox"/> 以下 (Less than or equal to)<input type="checkbox"/> 間 (Between)<input type="checkbox"/> 文字列を含む (Contains)<input type="checkbox"/> 文字列を含む (大文字と小文字の一致) ()<input type="checkbox"/> 文字列を含まない (Omits)<input type="checkbox"/> 文字列を含まない (大文字と小文字の一致) ()

オプション	定義
演算 (Calculate)	<p>フィールドに適用可能な演算タイプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> クリア (Clear) <input type="checkbox"/> すべてクリア (Clear all) <input type="checkbox"/> 件数 (Count) <input type="checkbox"/> 件数 (種類) (Count distinct) - フィールド内の一意の値の数を示します。 <p>数値フィールドには、次の演算を適用することもできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> SUM <input type="checkbox"/> 平均 (Avg) <input type="checkbox"/> 最小 (Min) <input type="checkbox"/> 最大 (Max) <input type="checkbox"/> 合計のパーセント (% of Total)
グラフ (Chart)	<p>レポートからグラフを作成します。オプションには、[円](Pie)、[折れ線] (Line)、[棒] (Bar)、[散布図] (Scatter) があります。</p>
集約 (Rollup)	<p>集約テーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。</p>
ピボット (クロス集計) (Pivot (Cross Tab))	<p>ピボットテーブルの作成に使用可能なフィールドをすべて表示します。</p>
ピアグラフ (Visualize)	<p>選択した列でピアグラフを追加または削除します。[ピアグラフ] (Visualize) オプションは、数値データ列でのみ使用できません。</p>
列の非表示 (Hide Column)	<p>選択した列をレポート内で非表示にします。</p>

オプション	定義
列の表示 (Show Columns)	<p>レポート内で非表示の列の名前をすべて表示し、それぞれの列を個別に再表示することができます。</p> <p>レポート内の特定の列を再表示するには、非表示の列リストからその列の名前を選択します。</p>
列の固定 (Freeze Column)	<p>レポートを特定の列で固定し、横方向へのスクロール時に、固定した列より左側の列を常に表示された状態にします。</p> <p>注意：ブラウザウィンドウ内にレポート全体を表示できる場合、列の固定は適用されません。[列の固定] (Freeze) オプションは、レポートを折りたたみ付き (アコーディオン) で表示した場合は使用できません。</p>
すべて固定解除 (Unfreeze All)	列の固定を解除します。
リストツール (Grid Tool)	リストツールを開き、active report での列の順序変更、選択した複数列の昇順または降順ソート、列の表示と非表示の切り替え、列への演算結果の追加、中間合計の追加を行えます。
グラフ/集約ツール (Chart/Rollup Tool)	<p>グラフ/集約ツールを開き、複数のグループフィールドを選択して、グラフまたは集約テーブルを生成することができます。グラフ/集約ツールには、active report で使用可能なフィールドのリストが表示され、このリストから [グループ] (Group By) および [基軸] (Measure fields) ボックスにフィールドを追加します。フィールドをドラッグし、追加先のボックスにドロップします。</p>
ピボットツール (Pivot Tool)	<p>ピボットツールを開き、複数のグループフィールドを選択して、グラフまたはピボットテーブルを生成することができます。ピボットツールには、active report で使用可能なフィールドのリストが表示され、このリストから [グループ] (Group By)、[ACROSS]、[基軸] (Measure fields) ボックスにフィールドを追加します。フィールドをドラッグし、追加先のボックスにドロップします。</p>

オプション	定義
レコードの表示 (Show Records)	[レコードの表示] (Show Records) メニューオプションを開き、レポートの1ページあたりに表示可能なレコード件数のリストを表示します。1ページあたりに表示する件数 (例、10件) を選択します。[デフォルト] (Default) を選択すると、レポートプロシジャで指定された1ページあたりのレコード件数 (行数) が表示されます。
コメント (Comments)	active report 出力でセルの下にコメントを表示したり、コメントのインジケータを非表示にしたりします。
Email として送信 (Send as E-mail)	レポートを Email で送信します。 注意： この機能を使用するには、ブラウザのセキュリティ設定で ActiveX を有効にしておく必要があります。 この機能は、Internet Explorer でのみサポートされます。
変更の保存 (Save Changes)	変更内容を保存します。 注意： この機能を使用するには、ブラウザのセキュリティ設定で ActiveX を有効にしておく必要があります。 この機能は、Internet Explorer でのみサポートされます。
エクスポート (Export)	すべてのレコード、またはフィルタされたレコードのみを HTML、CSV、XML のいずれかにエクスポートします。 注意： この機能を使用するには、ブラウザのセキュリティ設定で ActiveX を有効にしておく必要があります。
印刷 (Print)	すべてのレコード、またはフィルタされたレコードのみを印刷します。
ウィンドウ (Window)	複数のレポートを重ねて表示するか、タブ別に表示します。
元に戻す (Restore Original)	active report を、レポートプロシジャで指定されたデフォルトの状態に戻します。

Active テクノジレポートオプションの構成

トピックス

全般タブ

メニューオプションタブ

色タブ

詳細タブ

[active report オプション] (active report options) ダイアログボックスでは、ユーザロールに基づいて、メニューオプションなどの active report オプションを構成することができます。

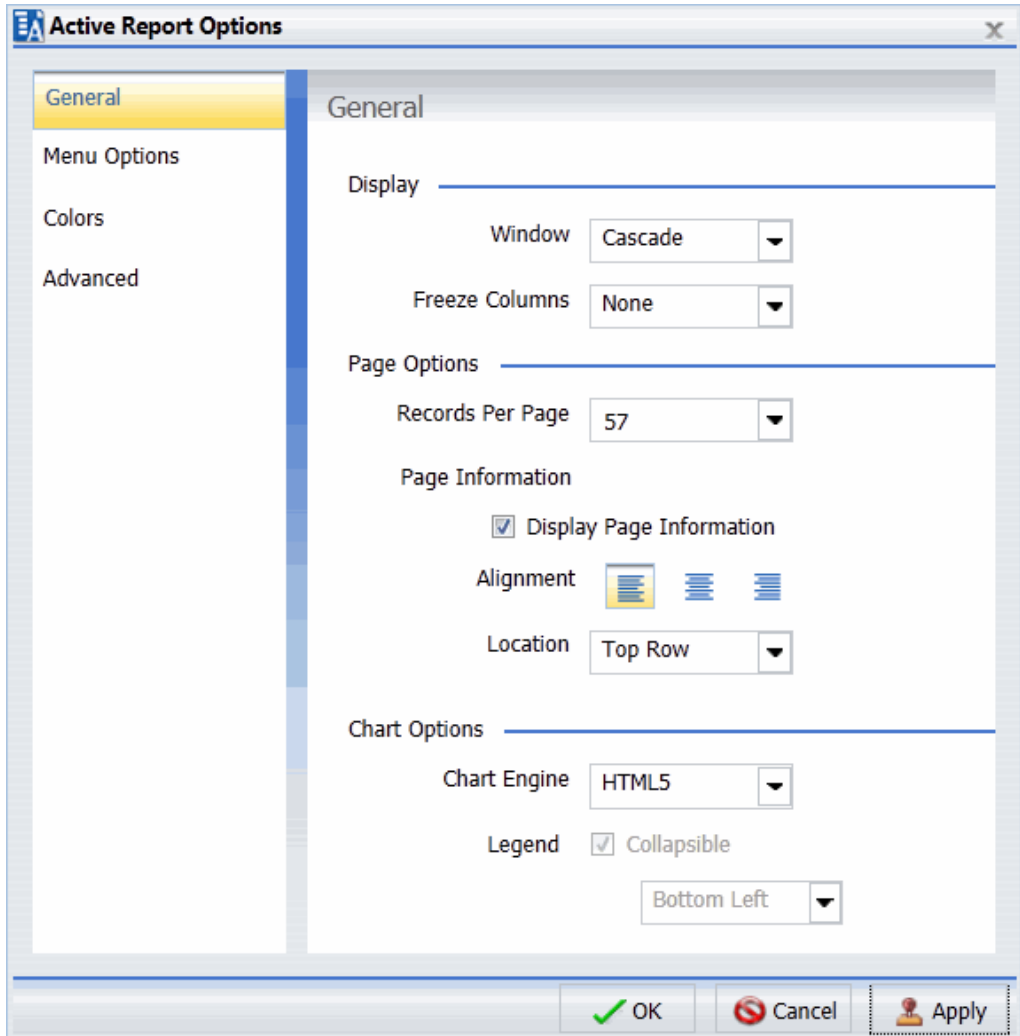
[active report オプション] (active report options) ダイアログボックスにアクセスするには、[フォーマット] (Format) タブの [機能] (Features) グループで [active report オプション] (active report options) ボタンをクリックします。このボタンは、出力タイプとして、[active report]、[active Flash]、[active PDF] のいずれかが選択されている場合に使用可能になります。

[active report オプション] (active report options) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般 (General)
- メニューオプション (Menu Options)
- 色 (Colors)
- 詳細 (Advanced)

全般タブ

[全般] (General) タブでは、active report に固有の全般プロパティを設定します。下図は、[全般] (General) タブを示しています。



[全般] (General) タブには、次のオプションがあります。

画面 (Display) このエリアには、ウィンドウを重ねて表示するか、タブ表示するかを設定するオプション、および列を固定するオプションがあります。

- **ウィンドウ (Window)** ウィンドウ設定を選択します。オプションには、[重ねて表示] (Cascade) と [タブ] (Tabs) があります。
- **列の固定 (Freeze Columns)** 固定する列を選択します。[なし] (None) を選択することもできます。

ページオプション (Page Options) このエリアでは、1 ページあたりのレコード件数の設定、ページ情報の表示の有効化、配置の変更、ページ情報の位置設定を行えます。

- **1 ページの件数 (Records Per Page)** 1 ページに表示するレコードの件数を選択または入力します。デフォルト値は 57 です。次のオプションがあります。
 - すべて (All)
 - 10
 - 20
 - 30
 - 40
 - 50
- **ページ情報の表示 (Display Page Information)** このオプションを選択して、ページ情報を表示します。このオプションの選択を解除すると、ページ情報が非表示になります。
- **配置 (Alignment)** いずれかのボタンをクリックして、ページ情報の配置を設定します。オプションは、[左揃え] (Left)、[中央揃え] (Center)、[右揃え] (Right) です。
- **位置 (Location)** ページ情報の位置を選択します。オプションには、[先頭行] (Top Row) と [最終行] (Bottom Row) があります。

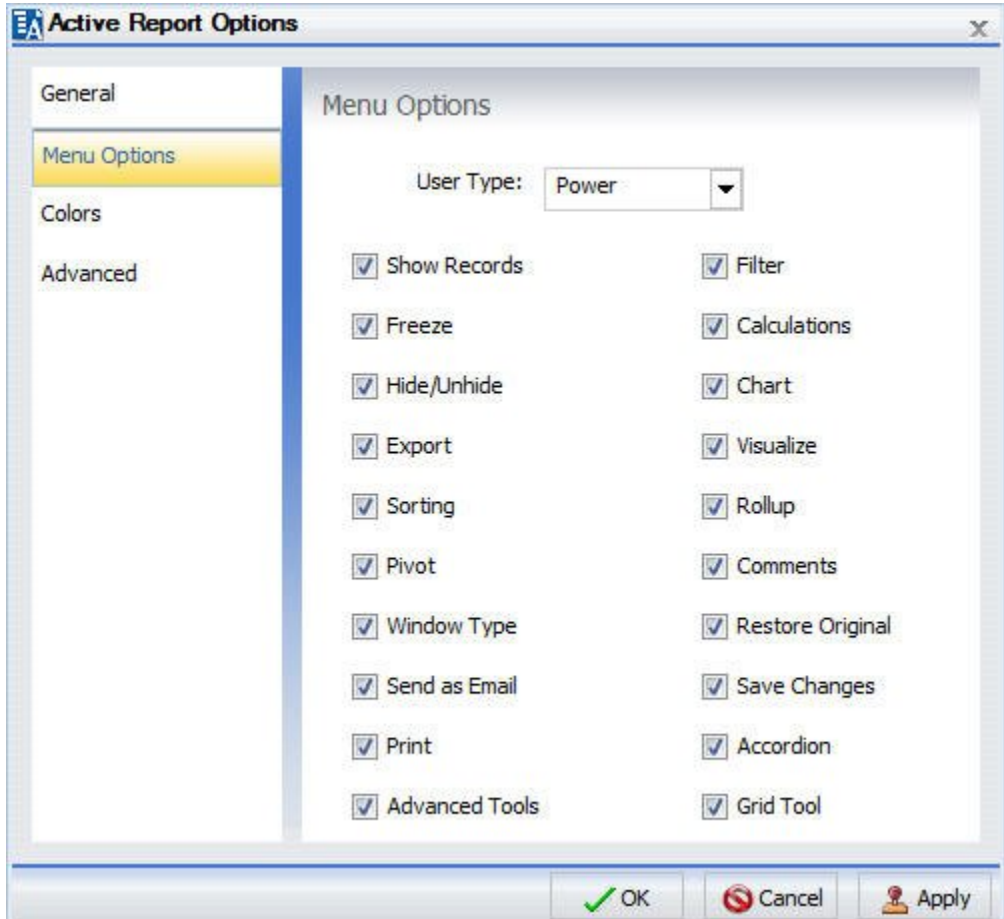
グラフオプション (Chart Options) このエリアには、グラフに関するオプションがあります。

- **グラフエンジン (Chart Engine)** 選択したグラフエンジンに基づいて、作成可能な一連のグラフが決定されます。次のオプションがあります。
 - **標準 (Standard)** Active テクノロジのデフォルトグラフエンジンを使用します。このオプションは、出力フォーマットタイプが AHTML、FLEX、APDF の場合に使用できます。

- **Flash** 出力フォーマットタイプが AHTML および FLEX の場合、この設定がデフォルト値になります。AHTML の場合、新しい JavaScript グラフ機能をサポートしない Flash Player のブラウザでは (例、古いバージョンの Internet Explorer)、デフォルト設定で従来の Flash グラフが使用されます。Flash をサポートしないブラウザでは (例、iPad 上の Safari)、これらのグラフは新しい JavaScript グラフに自動的に切り替わります。
- **HTML5** 出力フォーマットが AHTML の場合、新しい JavaScript グラフを使用します。このグラフは、接続モードと非接続モードの両方で動作します。AHTML の従来の 4 つのデフォルト JavaScript グラフを実行時に使用することはできません。
- **Flex** 出力フォーマットが FLEX または APDF の場合、デフォルトの 4 つの Adobe Flex グラフを使用します。これらは、接続モードと非接続モードの両方で動作する従来のグラフです。これらのグラフタイプ以外を実行時に使用することはできません。
- **凡例 (Legend) (チェックボックス)** このオプションを選択すると、必要に応じて凡例が折りたたまれます。凡例の折りたたみを無効にするには、このオプションの選択を解除します。このオプションは、active Flash および active PDF でのみ使用できます。
- **凡例 (Legend) (メニュー)** 凡例の位置を選択します。このオプションは、active Flash および active PDF でのみ使用できます。次のオプションがあります。
 - 下左 (Bottom Left)
 - 下中央 (Bottom Center)
 - 下右 (Bottom Right)

メニューオプションタブ

[メニューオプション](Menu Options) タブでは、ユーザタイプを選択し、ユーザタイプ別にメニューに表示するオプションを選択します。下図は、[メニューオプション](Menu Options) タブを示しています。



[メニューオプション](Menu Options) タブには、次のオプションがあります。

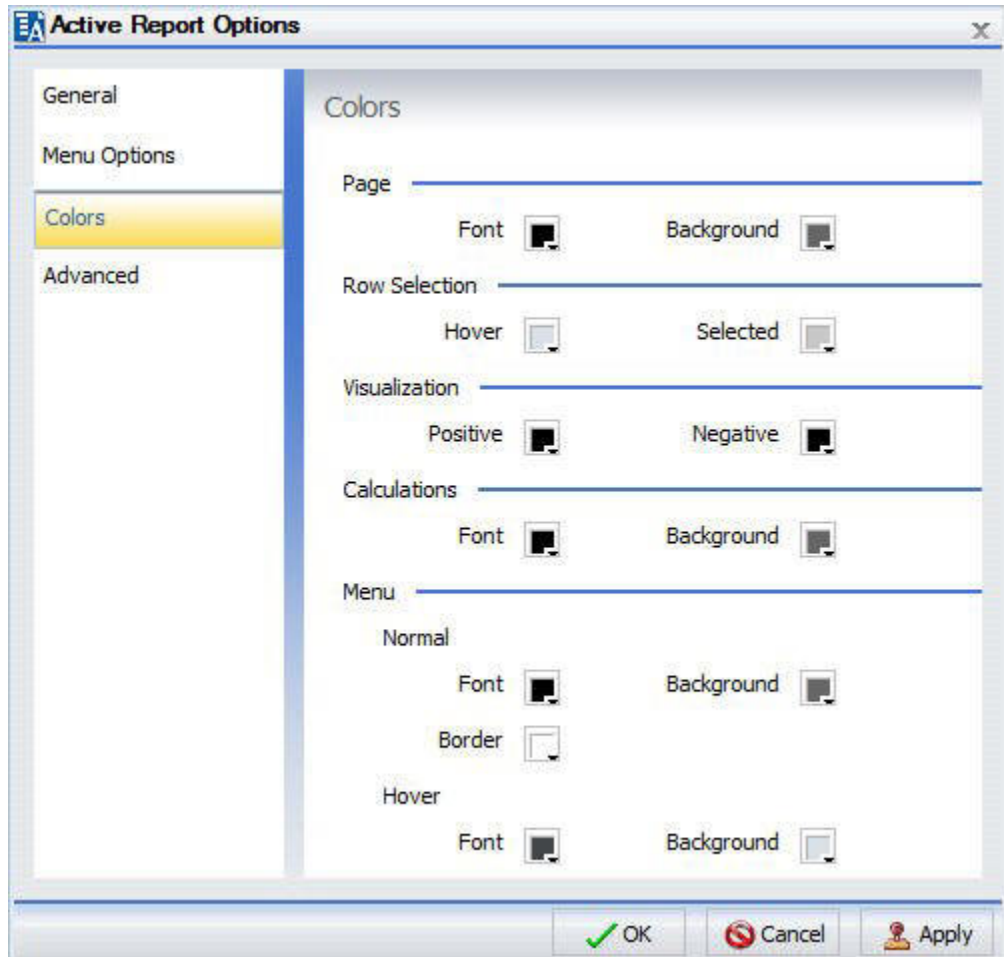
- **ユーザタイプ (User Type)** オプションには、[パワーユーザ] (Power)、[分析ユーザ] (Analyst)、[基本ユーザ] (Basic)、[カスタム] (Custom) があります。
- **パワーユーザ (Power)** これがデフォルト設定のユーザタイプで、すべての機能が有効になります。

- **分析ユーザ (Analyst)** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示] (Show Records)、[固定] (Freeze)、[表示/非表示] (Unhide/Hide)、[エクスポート] (Export)、[ソート] (Sorting)、[ピボット] (Pivot)、[フィルタ] (Filter)、[演算] (Calculations)、[グラフ] (Chart)、[ピアグラフ] (Visualize)、[元に戻す] (Restore Original)、[変更の保存] (Save Changes)、[アコーディオン] (Accordion) です。
- **基本ユーザ (Basic)** このユーザタイプが使用可能な機能は、[レコードの表示] (Show Records)、[固定] (Freeze)、[表示/非表示] (Unhide/Hide)、[ソート] (Sorting)、[フィルタ] (Filter)、[演算] (Calculations)、[ピアグラフ] (Visualize)、[元に戻す] (Restore Original) です。
- **カスタム (Custom)** 選択したオプションの組み合わせが、既存のユーザタイプ (パワーユーザ、分析ユーザ、基本ユーザ) で設定されているオプションの組み合わせと一致しない場合、[ユーザタイプ] (User Type field) テキストボックスに表示されるユーザレベル名は「カスタム」(Custom) になります。これは、デフォルトのユーザタイプでも選択可能なユーザタイプでもありません。このユーザ用のオプションが既存のユーザタイプのいずれにも一致しないことを示すために使用されます。
- **レコードの表示 (Show Records)** すべてのレコードを表示したり、指定した件数のレコードのみを表示したりします。
- **固定 (Freeze)** 列を固定したり、固定を解除したりします。
- **表示/非表示 (Unhide/Hide)** 列を表示したり、非表示にしたりします。
- **エクスポート (Export)** データを HTML、CSV、Excel (XML) フォーマットのいずれかでエクスポートします。
- **ソート (Sorting)** データを昇順または降順でソートします。
- **ピボット (Pivot)** データをピボット表示します。
- **ウィンドウタイプ (Window Type)** 複数のウインドウを重ねて表示したり、タブ表示にしたりします。
- **Email として送信 (Send as Email)** レポートを Email で送信します。
- **印刷 (Print)** すべてのレコードを印刷したり、フィルタされたレコードのみを印刷したりします。
- **詳細ツール (Advanced Tools)** グラフ/集約ツール、ピボットツール、リストツールにアクセスします。
- **フィルタ (Filter)** [フィルタの選択] (Filter Selection) ダイアログボックスを開きます。

- **演算 (Calculations)** [集計] (Sum)、[平均] (Avg)、[最小] (Min)、[最大] (Max)、[件数] (Count)、[固有値 (値の種類)] (Distinct)、[合計のパーセント] (% of Total) の演算を実行します。
- **グラフ (Chart)** レポートを円グラフ、折れ線グラフ、棒グラフ、散布図のいずれかに変換します。
- **ピアグラフ (Visualize)** レポートにピアグラフを追加します。
- **集約 (Rollup)** データの集約を実行します。
- **コメント (Comments)** コメントを追加します。
- **元に戻す (Restore Original)** 元のデータに戻します。
- **変更の保存 (Save Changes)** 変更内容を保存します。
- **アコーディオン (Accordion)** アコーディオンレポートを生成します。
- **リストツール (Grid Tool)** [リストツール] (Grid Tool) ダイアログボックスを開きます。

色タブ

[色] (Colors) タブでは、レポート上のさまざまなオブジェクトの色を選択することができます。下図は、[色] (Colors) タブを示しています。



[色] (Colors) タブには、次のオプションがあります。

ページ (Page) このエリアには、ページテキストのフォントおよび背景の色を設定するオプションがあります。

- **フォント (Font)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、フォントの色を選択することができます。

- **背景 (Background)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、ページテキストの背景色を選択することができます。

行の選択 (Row Selection) このエリアには、マウスポインタをレポートの行の上に置いたり、行を選択したりしたときに表示する色の設定オプションがあります。

- **Hover** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、マウスポインタをレポートの行の上に置いたときに表示する色を選択することができます。
- **選択済み (Selected)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、ハイライトオプションを使用したときに行に表示する色を選択することができます。

ピアグラフ (Visualization) このエリアには、ピアグラフの棒の色を設定するオプションがあります。

- **正の値 (Positive)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、正の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。
- **負の値 (Negative)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、負の値のピアグラフに使用する色を選択することができます。

演算 (Calculations) このエリアには、演算の値に使用する色を設定するオプションがあります。

- **フォント (Font)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、演算のフォント色を選択することができます。
- **背景 (Background)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、演算の背景色を選択することができます。

メニュー (Menu) このエリアには、メニューの色を変更するオプションがあります。

- **標準 (Normal)**

- **フォント (Font)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションに使用するテキストの色を選択することができます。
 - **背景 (Background)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、列メニューの背景色を選択することができます。
 - **境界 (Border)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、列メニューの境界色を選択することができます。
- **Hover**

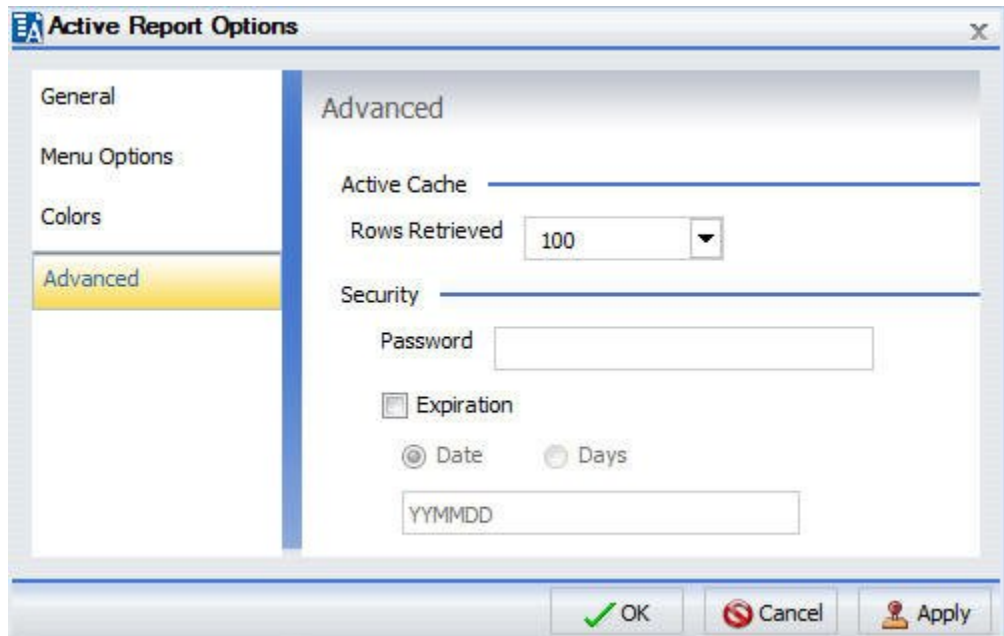
- **フォント (Font)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに表示するテキスト色を選択することができます。
- **背景 (Background)** [色] (Color) ダイアログボックスを開いて、列メニューのオプションにマウスポインタを置いたときに背後に表示する背景色を選択することができます。

詳細タブ

[詳細] (Advanced) タブでは、アクティブキャッシュから取得する行数の制御、およびセキュリティの設定を行います。

注意：アクティブキャッシュは、[フォーマット] (Format) タブの [出力フォーマット] (Output Types) グループで、出力タイプとして [active report] を選択した場合、および [フォーマット] (Format) タブの [ナビ] (Navigation) グループで [Web ビューア] (Pages on Demand) をクリックした場合に有効になります。

下図は、[詳細設定] (Advanced) タブを示しています。



[詳細] (Advanced) タブには、次のオプションがあります。

アクティブキャッシュ (active cache) HTML active report のデータをバイナリファイルにキャッシュし、事前に設定した増加値に基づいてキャッシュデータを出力ウィンドウに返します。

- **取得行数 (Rows Retrieved)** 出力時に取得する行数を選択します。次のオプションがあります。
 - 100 (デフォルト)
 - 500
 - 1000
 - 2000
 - 3000
 - 4000
 - 5000

セキュリティ (Security) このエリアでは、レポートにアクセスするためのパスワードを設定したり、日付または日数に基づいて期限切れを有効にしたりできます。

注意： active report のセキュリティオプションを設定する場合は、セキュリティは、作業領域の各コンポーネントに個別に設定できるが、指定可能なパスワードは、レイアウト全体で 1 つのみであることに注意してください。

Active テクノロジグラフの作成

トピックス

Active テクノロジグラフのオプション

手順/構文

Active テクノロジグラフを作成するには

active report は、オフライン分析のために設計されています。詳細は、411 ページの「[Active テクノロジレポートの作成](#)」を選択してください。

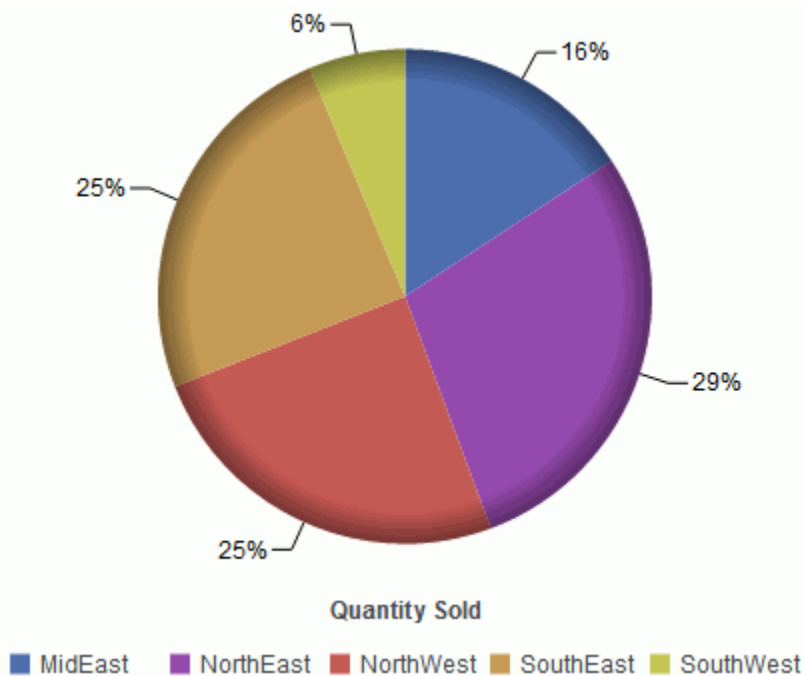
手順

Active テクノロジグラフを作成するには

1. グラフを作成します。

2. [フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output Types) グループで、[active report]、[active PDF]、[active Flash] のいずれかをクリックします。
3. グラフを生成します。

下図は、[Quantity, Sold] フィールドの値を地域別に集計した HTML5 円グラフを示しています。



Active テクノロジグラフのオプション

下表は、Active テクノロジグラフのオプションを示しています。

オプション	定義
グループ (X) (Group By (X))	横方向ソートフィールドのグループを変更します。
追加 (Y) (Add (Y))	縦方向ソートフィールドを追加します。

オプション	定義
エクスポート (Export to)	Excel、Word、PowerPoint にエクスポートします。
上 (Top)	上位の値を表示します。オプションには、[上位 3] (Top 3)、[上位 5] (Top 5)、[上位 10] (Top 10)、[上位のクリア] (Clear Top) があります。
グラフ/集約ツール (Chart/Rollup Tool)	グラフ/集約ツールを開いて、生成するグラフまたは集約テーブルに表示する複数のグループフィールドを選択することができます。グラフ/集約ツールには、active report、グループ、基軸ソートフィールドで使用可能な列のリストが表示されます。列をソートフィールドにドラッグします。
円 (Pie)	データを円グラフで表示します。
横棒 (Bar)	データを棒グラフで表示します。
折れ線 (Line)	データを折れ線グラフで表示します。
散布図 (Scatter)	データを散布図で表示します。
詳細グラフ (Advanced Chart)	グラフ/集約ツールを開きます。
元のグラフ (Original Chart)	active report を、レポートプロシジャで指定されたグラフタイプに戻します。
SUM	[基軸] (Measure) フィールドに [集計] (Sum)、[平均] (Avg)、[最小] (Min)、[最大] (Max)、[件数] (Count)、[固有値 (値の種類)] (Distinct) を適用します。

Active テクノロジレイアウト (入力フォーム) の作成

トピックス

入力フォーム

ターゲットレポート

ターゲットとソースとしての複数レポートの使用

手順/構文

Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには

フィルタ条件を変更するには

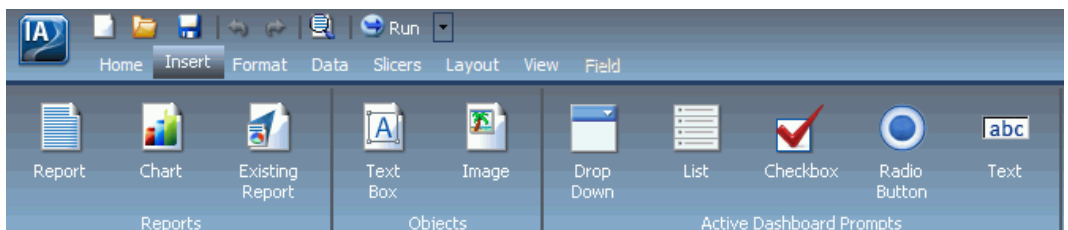
レイアウト (入力フォーム) に複数の入力フォームを追加するには

入力フォームに連鎖を設定するには

レイアウト (入力フォーム) を作成するには、レイアウトに配置した各レポートのフィルタとして機能する入力フォームをレイアウトに挿入します。また、これらの入力フォームに連鎖を設定することで、1つ前の入力フォームで選択された値に基づいて、次の入力フォームに値を自動的に挿入することもできます。入力フォームを追加するには、レイアウト (入力フォーム) の出力フォーマットを [active report]、[active PDF]、[active Flash] のいずれかに設定する必要があります。

入力フォーム

[挿入] (Insert) タブの [入力フォーム] (active dashboard Prompts) グループには、レイアウトに入力フォームを挿入するためのボタンが表示されます。このグループは、レイアウト (入力フォーム) の出力フォーマットが [active report]、[active PDF]、[active Flash] のいずれかに設定されている場合にのみ表示されます。これらの出力フォーマットは、[フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output Types) グループで設定します。下図は、[入力フォーム] (active dashboard Prompts) グループを示しています。



Active テクノロジのレイアウト (入力フォーム) にフィルタを適用する際に使用可能な入力フォームには、次のタイプがあります。

- **ドロップダウン (Drop Down)** ドロップダウン入力フォームのプレースホルダを、作業領域の左上に挿入します。
- **リストボックス (List)** リスト入力フォームのプレースホルダを、作業領域の左上に挿入します。
- **チェックボックス (Checkbox)** チェックボックス入力フォームのプレースホルダを、作業領域の左上に挿入します。
- **ラジオボタン (Radio Button)** ラジオボタン入力フォームのプレースホルダを、作業領域の左上に挿入します。
- **テキスト** テキストボックス入力フォームのプレースホルダを、作業領域の左上に挿入します。

注意：入力フォームに入力される値の表示は、データの設定によって異なります。たとえば、サンプルデータを有効にした場合、入力フォームには、次のようなサンプルデータが表示されます。

[WF_RETAIL1](#)
[WF_RETAIL2](#)
[WF_RETAIL3](#)

詳細は、37 ページの「[デザイングループ](#)」を参照してください。

ターゲットレポート

フィールドを入力フォームにバインドした場合、デフォルトのターゲットレポートは、そのフィールドをドラッグした元のレポートになります。[入力フォームのプロパティ](active dashboard properties)ダイアログボックスでは、ターゲットレポートを入力フォームに追加したり、入力フォームから削除したりできます。[入力フォームのプロパティ](active dashboard properties)ダイアログボックスの使用法についての詳細は、436 ページの「[ターゲットとソースとしての複数レポートの使用](#)」を参照してください。

レポートをターゲットレポートにするには、次の要件のいずれかを満たす必要があります。

- レポートに、ソースフィールド名 (実フィールド名または AS 名) と同名のフィールドが格納されている。
- レポートのマスターファイルに、ソースフィールドと同名のフィールドが存在する。

フィールドのタイトルとユーザが入力したタイトルが同一であるためにターゲットレポートになる要件を満たしている場合、そのタイトルが変更されると、そのレポートは自動的にターゲットから除外されます。

手順

Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには

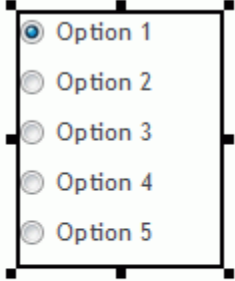
この手順では、レポートを作成し、そのレポートのフィールドの 1 つに単一入力フォームをバインドすることで、レイアウト (入力フォーム) を作成する方法について説明します。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開きます。
2. [フォーマット] (Format) タブの [出力] (Output Types) グループで、Active テクノロジ出力タイプ (active report、active PDF、active Flash) のいずれかを選択します。
3. [挿入] (Insert) タブの [レポート] (Reports) グループで、[レポート] (Report) をクリックします。
作業領域にプレースホルダが表示されます。
4. 作業領域または [クエリ] (Query) ウィンドウにフィールドをドラッグしてレポートを作成し、レイアウト (入力フォーム) の作成を開始します。
5. [挿入] (Insert) タブの [入力フォーム] (active dashboard Prompts) グループで、レイアウトに挿入する入力フォームを選択します。

下図の例では、レイアウトにラジオボタン入力フォームが追加されています。

入力フォームは、作業領域の左上に表示されます。作業領域の左上にレポートが表示されている場合は、下図のように入力フォームをドラッグして、レポートと重ならない位置に移動する必要があります。

Region	Product Category
MidEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
NorthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
SouthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players



6. 次のいずれかの方法で、レポートを選択し、そのレポートのフィールドの1つを入力フォームにバインドします。
 - **[クエリ] (Query) ウィンドウ** レポートを選択します。[クエリ] (Query) ウィンドウから、バインドするフィールドをドラッグし、入力フォーム上にドロップします。
 - **作業領域上のレポート** レポートを右クリックし、[レポートの編集] (Edit Report) を選択します。レポートが編集可能になります。使用するデータが含まれているフィールドを選択し、入力フォーム上にドラッグします。

フィールドを入力フォームにバインドすると、そのフィールドの値が入力フォームに表示されます。

注意：作業領域に入力フォームを追加すると、レイアウトの出力フォーマットは、Active テクノロジー出力フォーマットに固定されます。作業領域に入力フォームが存在する場合、出力フォーマットを [active report]、[active Flash]、[active PDF] 以外に変更することはできません。Active テクノロジー以外の出力フォーマットに切り替えるには、すべての入力フォームを削除する必要があります。

下図の Active テクノジレイアウトでは、レポートの [Product Category] フィールドがラジオボタン入力フォームにバインドされています。

Region	Product Category
MidEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
NorthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
SouthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players

下図の例は、実行時のレイアウト (入力フォーム) を示しています。この active report のラジオボタン入力フォームには、[Product Category] フィールドがバインドされています。入力フォームがラジオボタンで、[Televisions] が選択されていることから、テレビが販売された地域のみがレポートに表示されます。

Region	Product Category
MidEast	Televisions
NorthEast	Televisions
SouthEast	Televisions

ターゲットとソースとしての複数レポートの使用

手順/構文

ターゲットとソースに複数のレポートを使用してレイアウト (入力フォーム) を作成するには

フィールドを変更するには

レイアウト (入力フォーム) には、複数のレポートおよびグラフを追加することができます。各レポートには、複数の入力フォームを関連付けることができます。

手順

ターゲットとソースに複数のレポートを使用してレイアウト (入力フォーム) を作成するには

次の手順では、レイアウト (入力フォーム) の 2 つのレポートに入力フォームを設定する方法について説明します。ここで使用する例では、最初のレポートに、さまざまな地域で販売された家電製品のカテゴリに関する情報が含まれています。[Region] フィールドは、ラジオボタンにバインドされます。各ラジオボタンは、家電製品が販売された地域を表します。特定の地域 (例、Northwest) のラジオボタンを選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

2 つ目のレポートには、家電製品の消費者の性別と年齢層に関する情報が含まれています。[Gender] フィールドは、ドロップダウンリストにバインドされます。ドロップダウンリストには、性別の値 (Male および Female) が表示されます。ドロップダウンリストから性別を選択すると、選択した値に基づいてレポートがフィルタされます。

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、作業領域に少なくとも 2 つのレポートを表示した後、433 ページの「[Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って 2 つの入力フォームを追加します。

3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

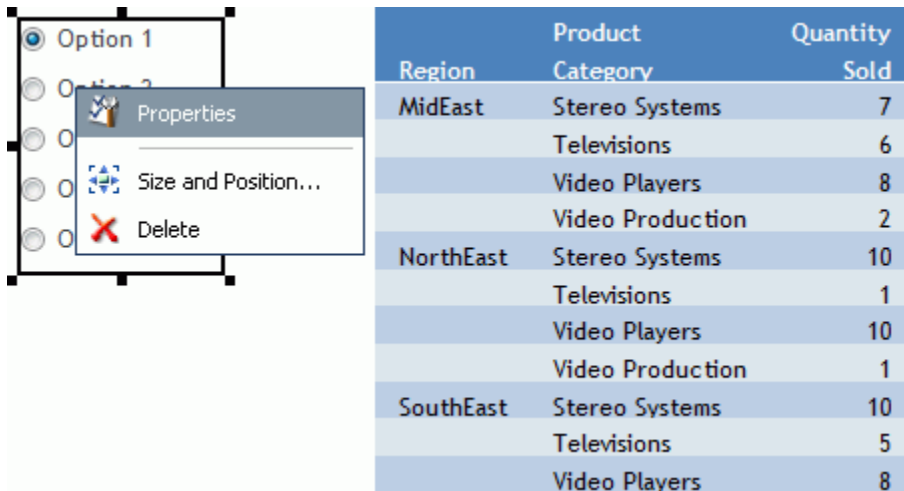
下図は、上記の地域レポートと性別レポートが追加されたレイアウト (入力フォーム) を示しています。地域レポートの横には、ラジオボタン入力フォームが配置されています。性別レポートの横には、ドロップダウンリスト入力フォームが配置されています。この時点では、これらの入力フォームにレポートフィールドはバインドされていません。

Region	Product Category	Quantity Sold
MidEast	Stereo Systems	7
	Televisions	6
	Video Players	8
	Video Production	2
NorthEast	Stereo Systems	10
	Televisions	1
	Video Players	10
	Video Production	1
SouthEast	Stereo Systems	10
	Televisions	5
	Video Players	8

Product Category	Gender	Age Group
Stereo Systems	Female	Thirties
		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
Televisions	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
		Young Adult
Video Players	Female	Thirties
		Young Adult
		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
		Young Adult
Video Production	Female	Thirties
	Male	Young Adult

2. フィールドにバインドする入力フォームを右クリックし、[プロパティ](Properties)を選択します。

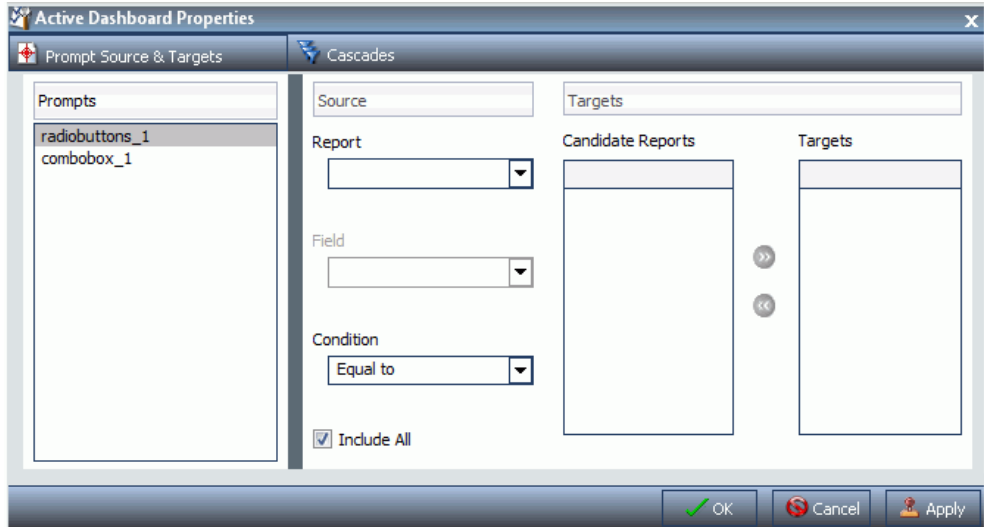
下図の例では、ラジオボタン入力フォームの右クリックメニューが開いています。



下図のように、[入力フォームのプロパティ](active dashboard properties) ダイアログボックスが開きます。

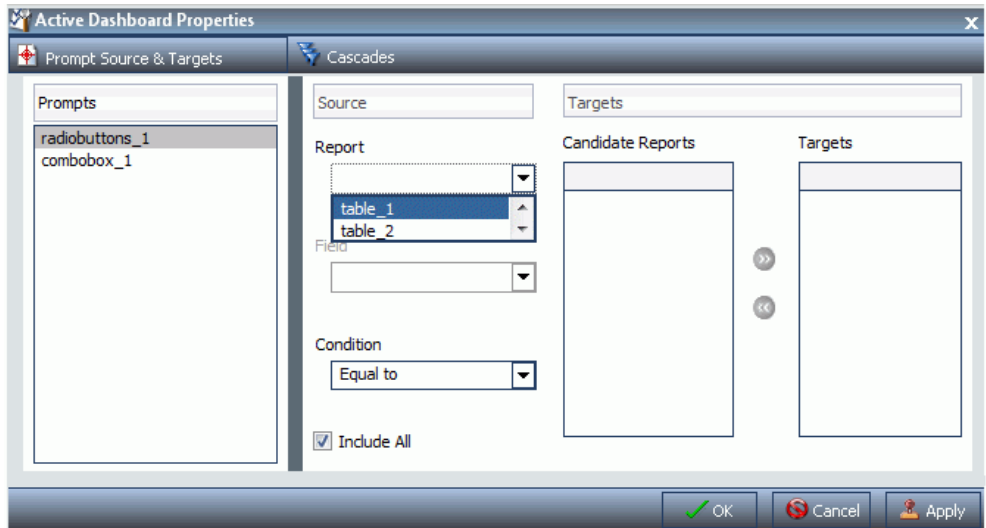
3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

[プロンプト](Prompts) リストには、手順1でレイアウトに追加した2つの入力フォーム (radiobuttons_1 および combobox_1) が表示されます。手順2で選択した入力フォームが [radiobuttons_1] であるため、ここではこの入力フォームが選択されています。



3. [レポート](Report) ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポートを選択します。

この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) を入力フォームとレポートとして、地域レポート (table_1) が選択されています。

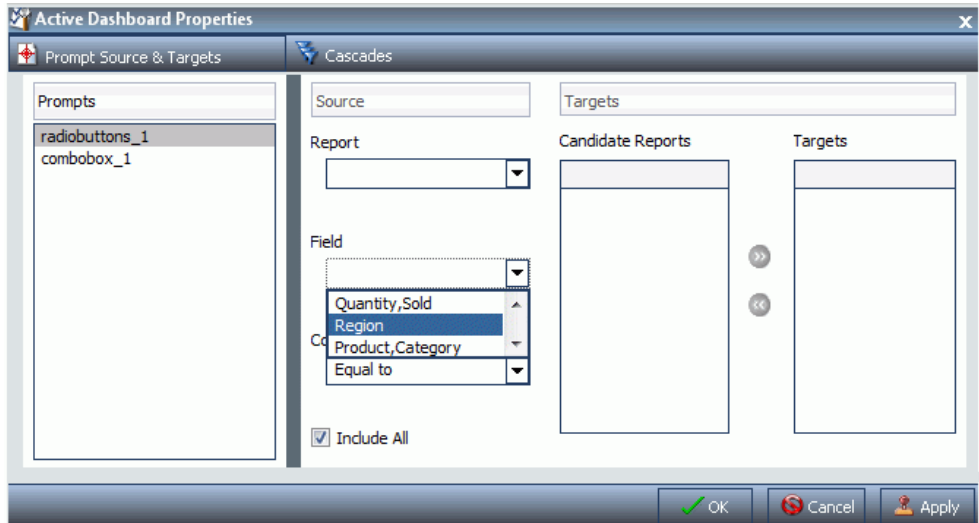


次の手順では、地域レポートの [Region] フィールドをラジオボタンにバインドしてレポートをフィルタする方法について説明します。

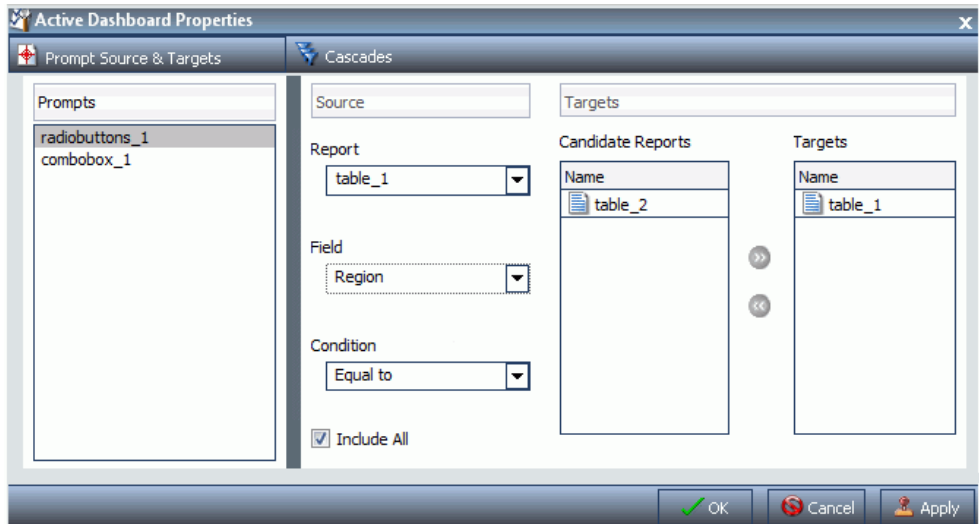
4. [フィールド](Field) ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドを選択します。

3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

この例では、下図のように、ラジオボタン (radiobuttons_1) に対して [Region] フィールドを選択します。



下図では、ラジオボタンに対して [Region] フィールドが選択されています。このフィールドは地域レポートから選択されているため、地域レポート (table_1) がターゲットレポートになります。また、[候補レポート] (Candidate Reports) リストには、性別レポート (table_2) が表示されます。



5. [OK] をクリックします。

これで、入力フォームがレイアウト上のフィールドにバインドされました。

下図では、ラジオボタンが [Region] フィールドにバインドされています。ラジオボタンには、ユーザがレポートをフィルタするための地域がすべて表示されます。

The screenshot shows a radio button group on the left with the following options: [All] (selected), Central, MidEast, NorthEast, NorthWest, SouthEast, SouthWest, and West. To the right is a table with the following data:

Region	Product Category	Quantity Sold
MidEast	Stereo Systems	7
	Televisions	6
	Video Players	8
	Video Production	2
NorthEast	Stereo Systems	10
	Televisions	1
	Video Players	10
	Video Production	1
SouthEast	Stereo Systems	10
	Televisions	5
	Video Players	8

The screenshot shows a dropdown menu on the left with the text "Option 1" and a downward arrow. To the right is a table with the following data:

Product Category	Gender	Age Group
Stereo Systems	Female	Thirties
	Male	Young Adult
Televisions	Female	Teen
	Male	Thirties
Video Players	Female	Thirties
	Male	Young Adult
Video Production	Female	Thirties
	Male	Young Adult

次の手順では、性別レポート (table_2) の [Gender] フィールドをドロップダウンリスト入力フォームにバインドする方法について説明します。

6. フィールドにバインドする 2 つ目の入力フォームを右クリックし、[プロパティ] (Properties) を選択します。

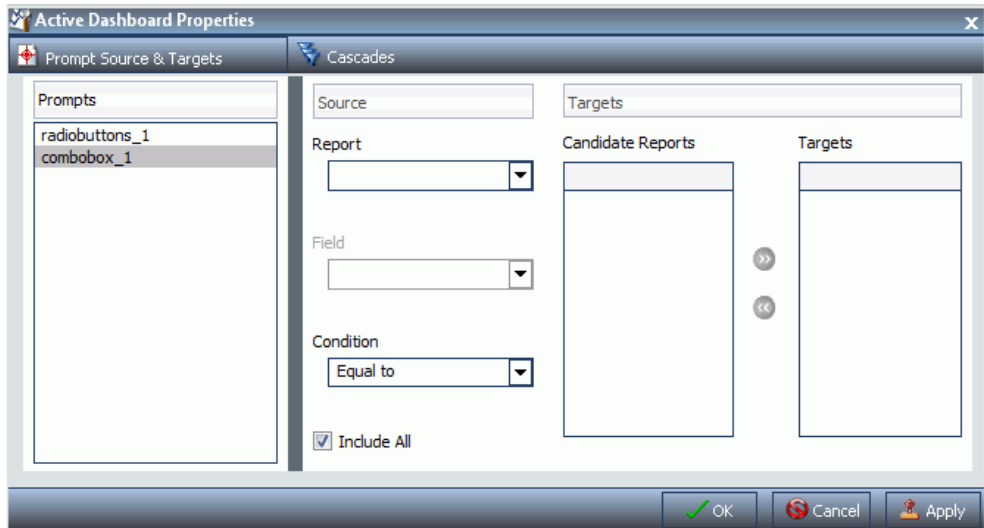
下図の例では、性別レポートの横のドロップダウンリスト入力フォームが選択されています。

The screenshot shows a region selection dropdown menu on the left with the following options: [All] (selected), Central, MidEast, NorthEast, NorthWest, SouthEast, SouthWest, and West. To the right is a table with columns: Region, Product Category, and Quantity Sold. Below the region dropdown is a dropdown menu labeled 'Option 1' with a context menu open showing 'Properties', 'Size and Position...', and 'Delete'. To the right of the 'Option 1' dropdown is another table with columns: Product Category, Gender, and Age Group.

Region	Product Category	Quantity Sold
MidEast	Stereo Systems	7
	Televisions	6
	Video Players	8
NorthEast	Video Production	2
	Stereo Systems	10
	Televisions	1
SouthEast	Video Players	10
	Video Production	1
	Stereo Systems	10
	Televisions	5
	Video Players	8

Product Category	Gender	Age Group
Stereo Systems	Female	Thirties
		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
Televisions	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
	Female	Thirties
Video Players		Young Adult
	Male	Thirties
		Young Adult
	Female	Thirties
Video Production		Young Adult
	Male	Young Adult

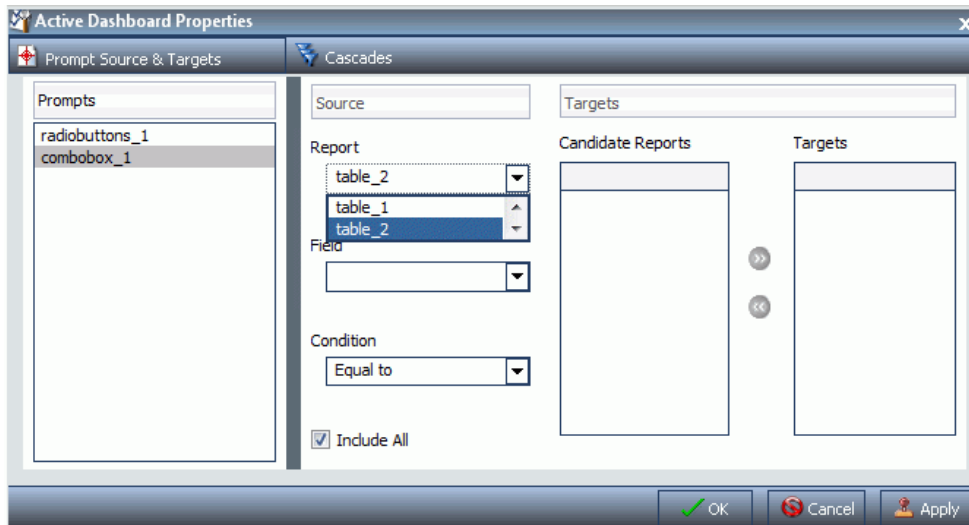
下図のように、[入力フォームのプロパティ] (active dashboard properties) ダイアログボックスが再度開きます。



[プロンプト] (Prompts) リストでは、レイアウト上で選択した入力フォーム (combobox_1) が選択されています。

7. [レポート] (Report) ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドが含まれたレポートを選択します。

この例では、下図のように、ドロップダウンリスト (combobox_1) を入力フォームとするレポートとして、性別レポート (table_2) が選択されています。

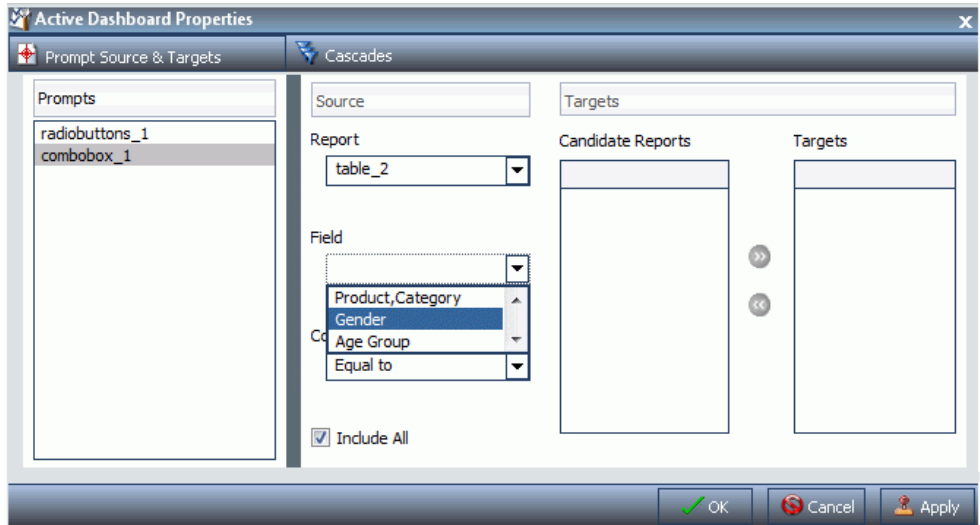


次の手順では、性別レポートの [Gender] フィールドをドロップダウンリストにバインドしてレポートをフィルタする方法について説明します。

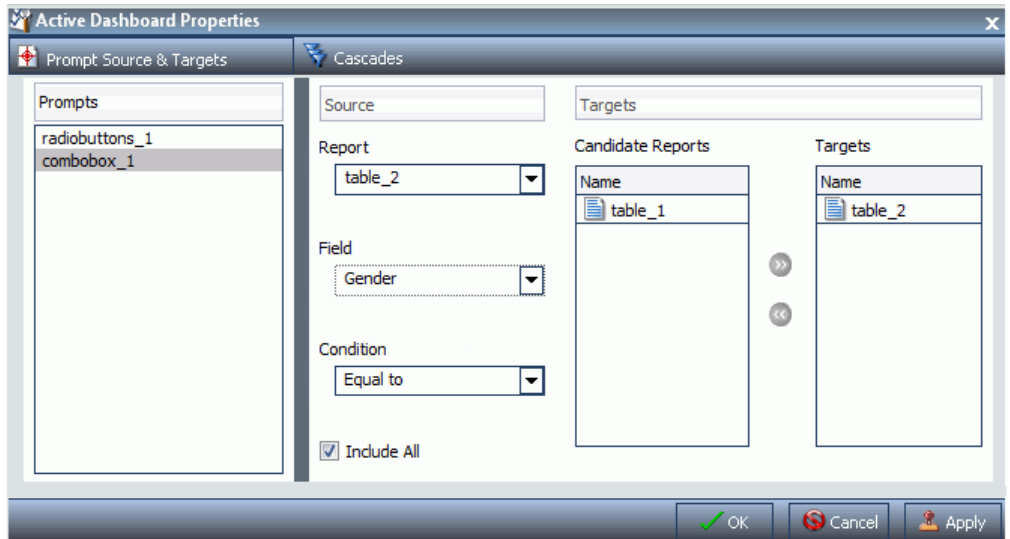
8. [フィールド](Field) ドロップダウンメニューから、入力フォームにバインドするフィールドを選択します。

3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

この例では、下図のように、ドロップダウンリスト (combobox_1) に対して [Gender] フィールドが選択されています。



[Gender] フィールドを選択すると、性別レポート (table_2) が [ターゲット] (Target) リストに表示され、地域レポート (table_1) が [候補レポート] (Candidate Reports) リストに表示されます。



注意：レポートを [候補レポート] (Candidate Reports) リストから [ターゲット] (Target) リストに移動するには、レポートを選択し、[追加] (Add to List) 矢印をクリックします。レポートを [ターゲット] (Target) リストから削除するには、レポートを選択し、[削除] (Remove from List) 矢印をクリックします。複数のレポートを選択するには、Ctrl キーを押しながらレポートを順にクリックします。

9. [OK] をクリックします。

これで、入力フォームがレイアウト上のフィールドにバインドされました。

この例では、ドロップダウンリストが [Gender] フィールドにバインドされています。ユーザは、[Male] または [Female] を選択することで、性別レポートをフィルタすることができます。

下図は、2つのレポートと2つの入力フォームで構成された最終的なレイアウト (入力フォーム) を示しています。

The screenshot displays the following components:

- Filter Menu:** A vertical list of radio buttons with labels: [All] (selected), MidEast, NorthEast, and SouthEast.
- Dropdown Menu:** A dropdown menu with a downward arrow, showing options: [All] (highlighted), Female, and Male.
- Table 1 (Left):** A table with 12 records. The header row is: Region, Product, Quantity Sold. The data rows are:

Region	Product	Quantity Sold
MidEast	Stereo Systems	4,607
	Televisions	3,246
	Video Players	5,043
	Video Production	955
NorthEast	Stereo Systems	8,735
	Televisions	5,578
	Video Players	9,057
	Video Production	1,738
SouthEast	Stereo Systems	7,431
- Table 2 (Right):** A table with 24 records. The header row is: Product Category, Gender, Age Group. The data rows are:

Product Category	Gender	Age Group
Stereo Systems	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
	Male	Teen
		Thirties
		Young Adult

この例では、地域レポートが [NorthEast] 地域でフィルタされ、性別レポートが [Female] でフィルタされています。

[All]
 MidEast
 NorthEast
 SouthEast

Female ▼

4 of 12 records, Page 1 of 1		
Region	Product Category	Quantity Sold
NorthEast	Stereo Systems	8,735
	Televisions	5,578
	Video Players	9,057
	Video Production	1,738

12 of 24 records, Page 1 of 1		
Product Category	Gender	Age Group
Stereo Systems	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
Televisions	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
Video Players	Female	Teen
		Thirties
		Young Adult
Video Production Female		Teen
		Thirties
		Young Adult

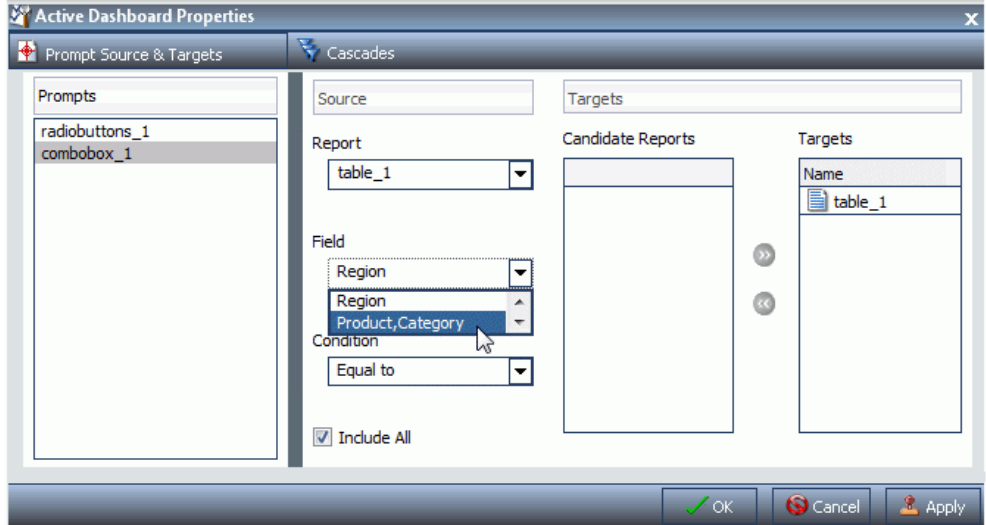
手順

フィールドを変更するには

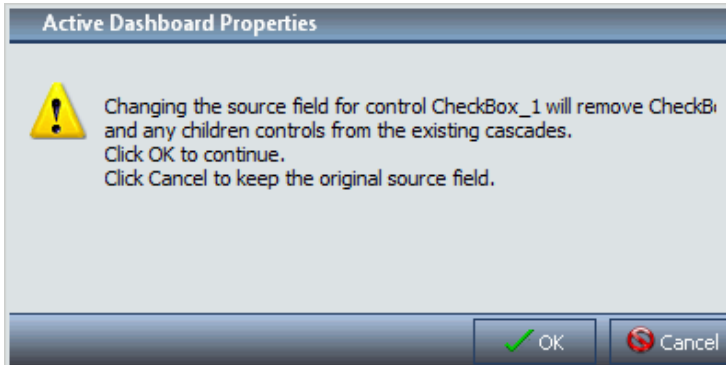
入力フォームのバインド先となるフィールドを変更することができます。

- 436 ページの「ターゲットとソースとしての複数レポートの使用」の説明に従って、InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューで、入力フォームをフィールドにバインドします。
- 構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] (Properties) を選択します。
[入力フォームのプロパティ] (active dashboard properties) ダイアログボックスが表示されます。

3. 下図のように、[フィールド] (Field) メニューから別のフィールドを選択します。



入力フォームのソースフィールドを変更すると、警告メッセージが表示され、既存の入力フォームおよび子の入力フォームのすべてが連鎖から削除されることが確認されます。下図は、警告メッセージを示しています。



4. [OK] をクリックして、警告メッセージを閉じます。
5. [OK] をクリックして、[入力フォームのプロパティ] (active dashboard properties) ダイアログボックスを閉じます。

入力フォームが、新しいソースフィールドで更新されます。

下図の例では、チェックボックス入力フォームが更新され、家電製品の値が表示されています。

	Product
Region	Category
MidEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
NorthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players
SouthEast	Stereo Systems
	Televisions
	Video Players

手順

フィルタ条件を変更するには

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、433 ページの「[Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って、フィールドに入力フォームをバインドします。
2. 変更する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] (Properties) を選択します。
[入力フォームのプロパティ] (active dashboard properties) ダイアログボックスが表示されます。
3. [条件] (Condition) ドロップダウンリストから、入力フォームのフィルタ条件を選択します。オプションには、[等しい] (Equal to)、[等しくない] (Not equal to)、[より小さい] (Less than)、[以下] (Less than or equal to)、[より大きい] (Greater than)、[以上] (Greater than or equal to) があります。
4. [OK] をクリックします。
選択したフィルタ条件が入力フォームに適用されます。

手順

レイアウト (入力フォーム) に複数の入力フォームを追加するには

1. InfoAssist を [レイアウト] (Document) デザインビューで開き、作業領域に少なくとも 1 つのレポートを表示した後、433 ページの「[Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには](#)」の説明に従って 2 つ以上の入力フォームを追加します。

下図は、リスト入力フォームとラジオボタン入力フォームが追加されたレイアウト (入力フォーム) を示しています。

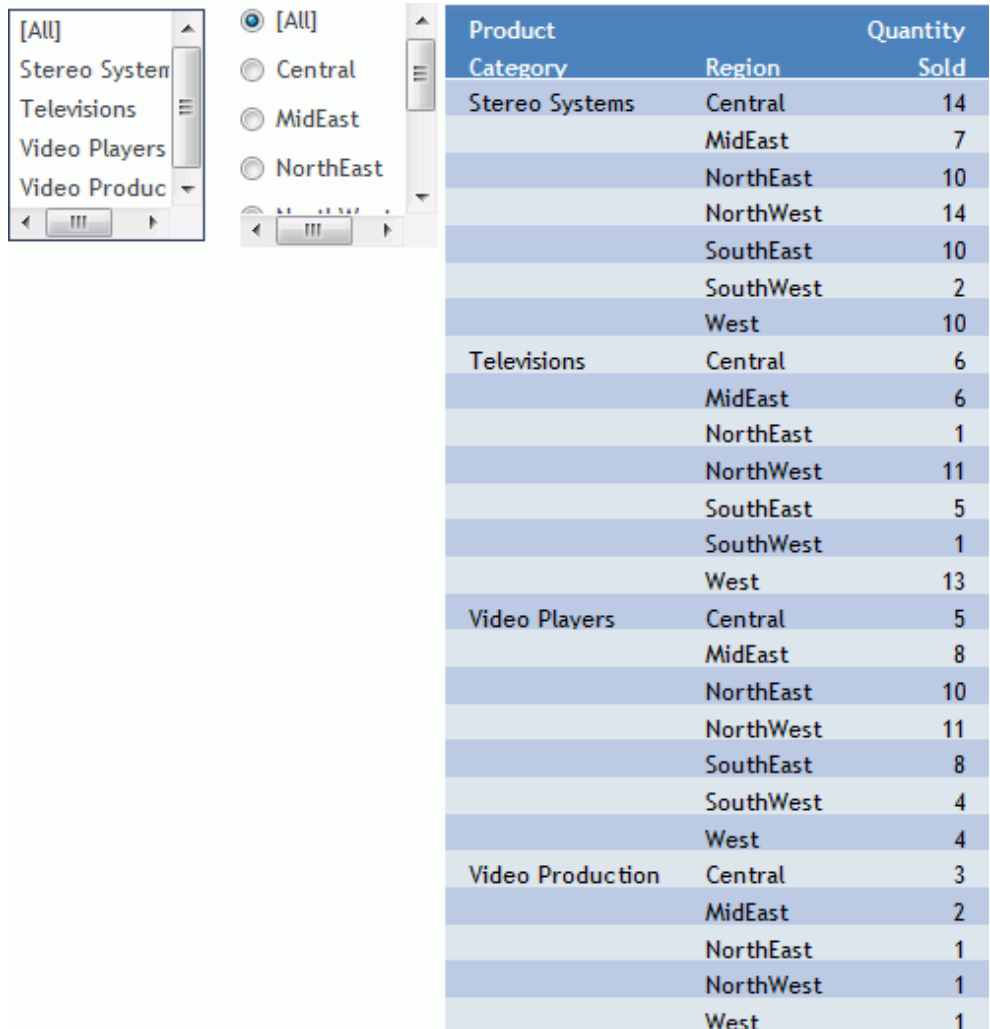
The screenshot displays a user interface with two main components. On the left, there is a list of five options, each with a radio button. The first option, 'Option 1', is selected. To the right of this list is a vertical scrollbar. On the right side of the image is a table with three columns: 'Product', 'Quantity', and 'Sold'. The 'Product' column is further divided into 'Category' and 'Region'. The table contains data for three product categories: Stereo Systems, Televisions, and Video Players, each with five regional entries. The 'Video Production' category is also listed with four regional entries. The 'Quantity' and 'Sold' columns show numerical values for each entry.

Product	Quantity	Sold
Category	Region	Sold
Stereo Systems	Central	14
	MidEast	7
	NorthEast	10
	NorthWest	14
	SouthEast	10
SouthWest	2	
West	10	
Televisions	Central	6
	MidEast	6
	NorthEast	1
	NorthWest	11
	SouthEast	5
SouthWest	1	
West	13	
Video Players	Central	5
	MidEast	8
	NorthEast	10
	NorthWest	11
	SouthEast	8
SouthWest	4	
West	4	
Video Production	Central	3
	MidEast	2
	NorthEast	1
	NorthWest	1
West	1	

2. 433 ページの「Active テクノロジレイアウトに入力フォームを追加するには」の説明に従って、追加した入力フォームにフィールドをバインドします。

3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

下図では、リスト入力フォームに [Product Category] フィールドがバインドされ、ラジオボタン入力フォームに [Region] フィールドがバインドされています。2つの入力フォームは互いに独立して動作し、それぞれ異なる方法でレイアウト (入力フォーム) をフィルタします。



Product Category	Region	Quantity Sold
Stereo Systems	Central	14
	MidEast	7
	NorthEast	10
	NorthWest	14
	SouthEast	10
	SouthWest	2
	West	10
Televisions	Central	6
	MidEast	6
	NorthEast	1
	NorthWest	11
	SouthEast	5
	SouthWest	1
	West	13
Video Players	Central	5
	MidEast	8
	NorthEast	10
	NorthWest	11
	SouthEast	8
	SouthWest	4
	West	4
Video Production	Central	3
	MidEast	2
	NorthEast	1
	NorthWest	1
	West	1

下図は、すべての地域で販売された Stereo System の売上数量を表示するレイアウト (入力フォーム) を示しています。

The screenshot shows a filter menu on the left with 'Stereo Systems' selected. The main table displays sales data for Stereo Systems across seven regions. The table header indicates '7 of 28 records, Page 1 of 1'.

Product Category	Region	Quantity Sold
Stereo Systems	Central	11,143
	MidEast	4,607
	NorthEast	8,735
	NorthWest	7,287
	SouthEast	7,431
	SouthWest	1,832
	West	6,638

下図は、[NorthEast] 地域で販売された家電製品を表示するレイアウト (入力フォーム) を示しています。

The screenshot shows a filter menu on the left with 'NorthEast' selected. The main table displays sales data for various product categories in the NorthEast region. The table header indicates '4 of 28 records, Page 1 of 1'.

Product Category	Region	Quantity Sold
Stereo Systems	NorthEast	8,735
Televisions	NorthEast	5,578
Video Players	NorthEast	9,057
Video Production	NorthEast	1,738

手順 入力フォームに連鎖を設定するには

作業領域に複数の入力フォームが存在する場合、これらの入力フォームに連鎖を設定することで、前の入力フォームで選択された値に基づいて、次の入力フォームに値を挿入することができます。複数の入力フォームに連鎖を設定すると、親子関係が形成され、親の入力フォームに基づいて、子の入力フォームで選択可能なオプションがフィルタされます。

1つの入力フォームを複数の入力フォームの親として使用することはできますが、複数の入力フォームの子として使用することはできません。

1. InfoAssist の [レイアウト] (Document) デザインビューを開き、436 ページの「ターゲットとソースとしての複数レポートの使用」の説明に従って、少なくとも 2 つの入力フォームをフィールドにバインドします。

下図では、家電製品の売上数量を地域別、および各地域の州別に表示するレポートが作成されています。このレポートには、地域を選択するラジオボタンと、州を選択するチェックボックスの 2 つの入力フォームが追加されています。ここでは、最初に上位の入力フォームで地域を選択し、次に下位の入力フォームで州を選択できるようにする連鎖を作成します。



Product Category	Region	State Code	Quantity Sold
Stereo Systems	NorthEast	MA	1
		ME	2
		NJ	2
	SouthEast	NY	6
		AL	1
		FL	5
		GA	3
Televisions	NorthEast	SC	1
		ME	1
	SouthEast	NY	1
		FL	1
		GA	1
Video Players	NorthEast	MS	2
		SC	1
		CT	2
		ME	3
	SouthEast	NJ	1
		NY	2
		VT	2
	SouthEast	AL	1
		FL	3
	LA	2	
	MS	2	
		SC	1

2. 構成する入力フォームを右クリックし、[プロパティ] (Properties) を選択します。

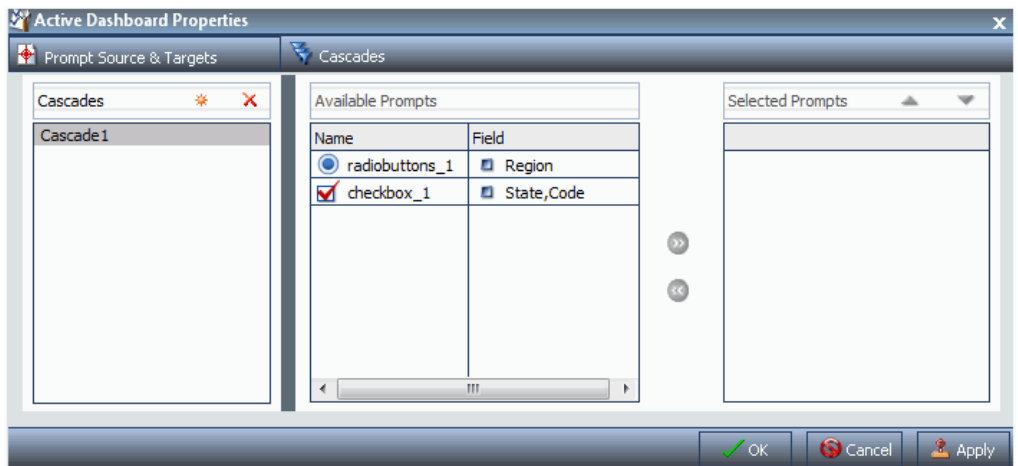
[入力フォームのプロパティ] (active dashboard properties) ダイアログボックスが表示されます。

3. [連鎖] (Cascades) をクリックします。

デフォルト設定では、[入力フォームのプロパティ] (active dashboard Properties) ダイアログボックスの [連鎖] (Cascades) セクションには、「Cascade1」という名前の連鎖が表示されます。

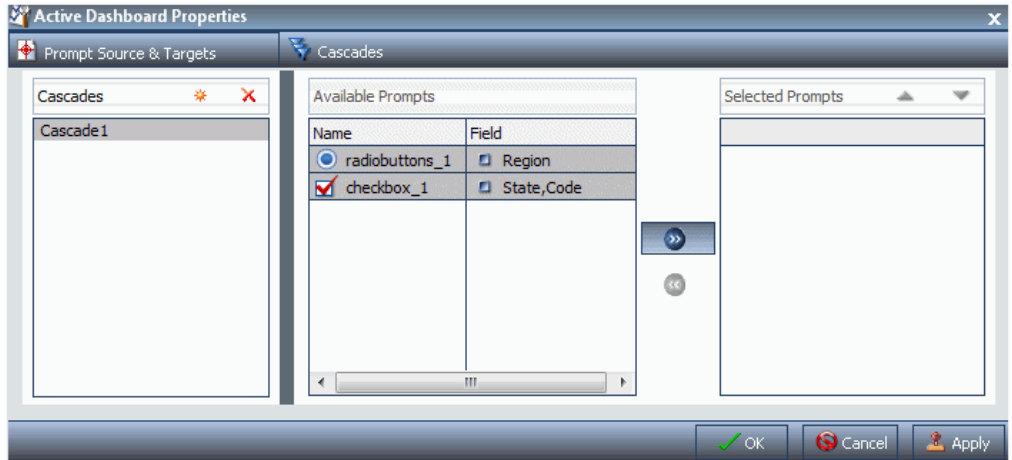
- [連鎖の新規作成] (Create a new cascade)  ボタンをクリックすると、新しい連鎖を作成することができます。
- [選択した連鎖の削除] (Delete selected cascade)  ボタンをクリックすると、選択した連鎖を削除することができます。

下図では、[利用可能なプロンプト] リストで、ラジオボタン入力フォームに [Region] フィールドが関連付けられ、チェックボックス入力フォームに [State Code] フィールドが関連付けられています。



4. 入力フォームを追加する連鎖を選択します。
5. [利用可能なプロンプト] (Available Prompts) リストで、追加する入力フォームを選択します。

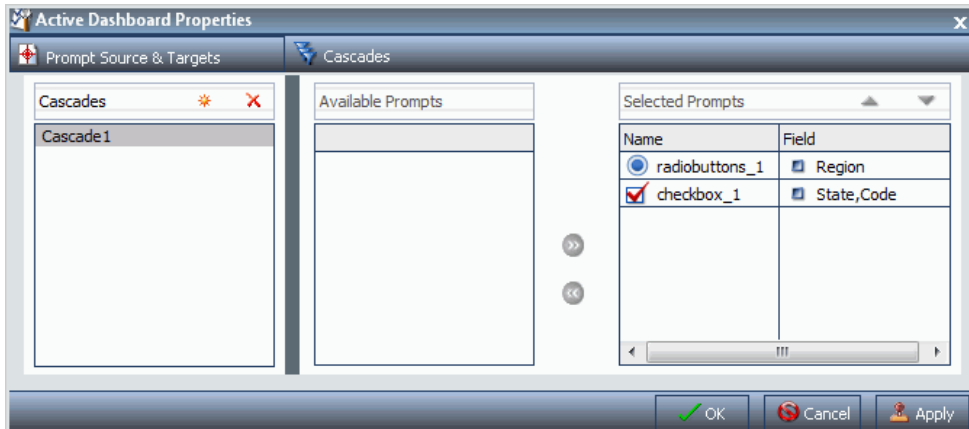
6. 下図のように、[追加] (Add to List) 矢印をクリックし、選択した入力フォームを [選択したプロンプト] (Selected Prompts) リストボックスに移動します。



注意：[選択したプロンプト] (Selected Prompts) リストボックスから入力フォームを削除するには、入力フォームを選択し、[削除] (Remove from list) 矢印をクリックします。

7. 手順 5 と手順 6 を繰り返し、連鎖の一部とする別の入力フォームを追加します。
- デフォルト設定では、入力フォームの階層は [選択したプロンプト] (Selected Prompts) リストに追加した順序で適用されます。入力フォームの連鎖は、上から下の順に設定されます。[選択したプロンプト] (Selected Prompts) リストで、上位の入力フォームが、下位の入力フォームの親になります。

8. 入力フォームの階層を変更するには、下図のように、[選択したプロンプト](Selected Prompts) リストボックスで入力フォームを選択し、[上へ移動] (Move Up) または [下へ移動] (Move Down) の矢印をクリックします。



9. [OK] をクリックします。
これで、連鎖が作成されます。
10. レポートを実行します。

下図は、地域を選択するラジオボタンと、州を選択するチェックボックスが追加されたレポートを示しています。

<input checked="" type="radio"/> NorthEast	<input type="checkbox"/> AL	45 of 45 records, Page 1 of 1		
<input checked="" type="radio"/> SouthEast	<input type="checkbox"/> CT	Product	State	Quantity
	<input type="checkbox"/> FL	Category ▼	Region ▼	Code ▼
	<input type="checkbox"/> GA	Stereo Systems	NorthEast	CT
	<input type="checkbox"/> LA			717
	<input type="checkbox"/> MA			MA
	<input type="checkbox"/> ME			1,073
	<input type="checkbox"/> MS			ME
	<input type="checkbox"/> NH			1,009
	<input type="checkbox"/> NJ			NH
	<input type="checkbox"/> NM			355
	<input type="checkbox"/> NY			NJ
	<input type="checkbox"/> RI			1,307
	<input type="checkbox"/> SC			3,443
	<input type="checkbox"/> VT			NY
				RI
				116
				VT
				715
				SouthEast
				AL
				1,131
				FL
				1,651
				GA
				1,660
				LA
				748
				MS
				704
				NM
				430
				SC
				1,107
				NorthEast
				CT
				475
				MA
				649
				ME
				575

下図は、地域が選択され、連鎖の下位である州が選択された後のレイアウト (入力フォーム) の出力を示しています。

<input checked="" type="radio"/> NorthEast	<input type="checkbox"/> CT
<input type="radio"/> SouthEast	<input checked="" type="checkbox"/> MA
	<input type="checkbox"/> ME
	<input type="checkbox"/> NH
	<input type="checkbox"/> NJ
	<input type="checkbox"/> NY
	<input type="checkbox"/> RI
	<input type="checkbox"/> VT

3 of 45 records, Page 1 of 1			
Product Category	Region	State Code	Quantity Sold
Stereo Systems	NorthEast	MA	1,073
Televisions	NorthEast	MA	649
Video Players	NorthEast	MA	1,003

注意：複数の連鎖を設定した場合、最後に操作した連鎖に基づいてレポートがフィルタされます。

スライサの使用

トピックス

スライサの作成

スライサによるフィルタ設定

スライサの編集ダイアログボックス

スライサの機能について説明します。スライサは、[スライサ](Slicers) タブから使用可能な動的選択条件です。

InfoAssist では、レポート、グラフ、レイアウト (入力フォーム)、レイアウトで動的なフィルタとして機能するスライサを作成することができます。

スライサの作成

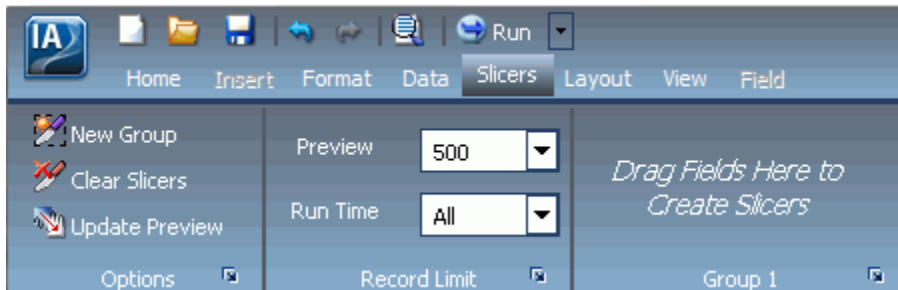
手順/構文

スライサを作成するには

既存のスライサグループにフィールドを追加するには

スライサグループとして階層を追加するには

スライサを作成するには、フィールドを [スライサ] (Slicers) タブにドラッグアンドドロップするか、フィールドのコンテキストメニューを使用します。スライサグループを作成すると、作成されたグループが下図に示す [スライサ] (Slicers) タブに表示されます。



スライサを使用して、InfoAssist で作成中のレポートに、動的なフィルタを設定することができます。InfoMini アプリケーションにスライサを追加しておく、実行時のレポートに、動的なフィルタを設定することができます。詳細は、「[Building InfoMini Applications](#)」を参照してください。

手順

スライサを作成するには

1. [スライサ] (Slicers) タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、新しいスライサを作成します。
 - [新規グループ] (New Group) ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

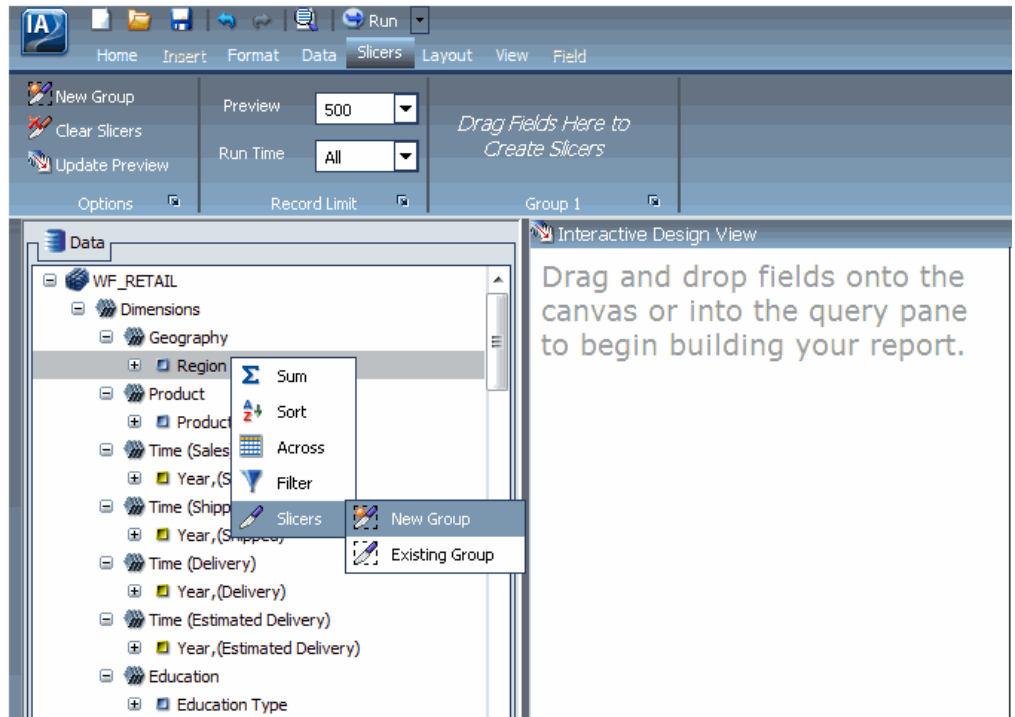
[データ] (Data) ウィンドウでフィールドを選択し、[スライサ] (Slicers) タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」 (Drag Fields Here to Create Slicers) というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

注意：親子階層を [スライサ] (Slicers) タブにドラッグアンドドロップすることはできません。

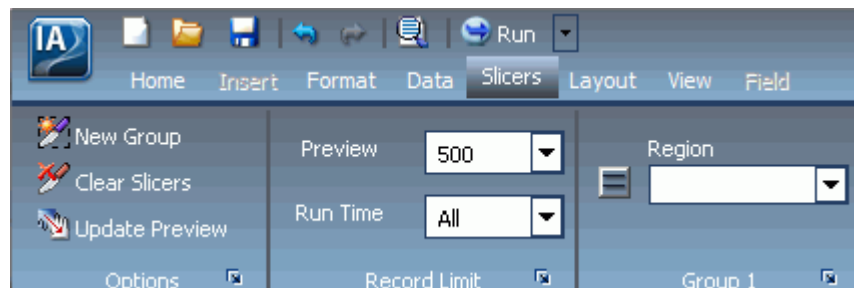
新しいグループに、フィールドが追加されます。

または

- 下図のように、[データ] (Data) ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ] (Slicers)、[新規グループ] (New Group) を順に選択します。



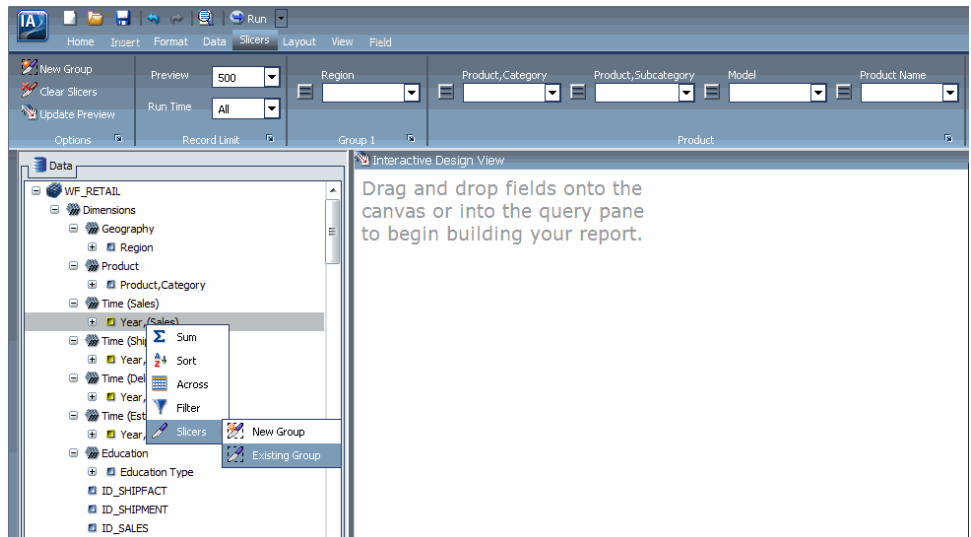
下図のように、選択したフィールドが新しいグループに追加されます。



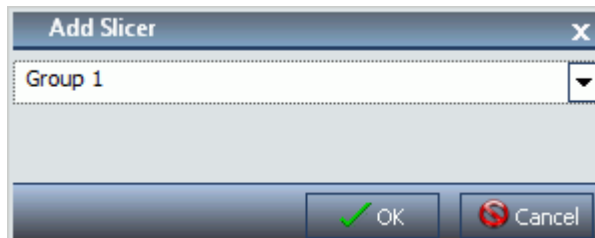
手順

既存のスライサグループにフィールドを追加するには

1. [スライサ] (Slicers) タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、既存のスライサグループにフィールドを追加します。
 - [データ] (Data) ウィンドウでフィールドを選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。
 - または
 - 下図のように、[データ] (Data) ウィンドウでフィールドを右クリックし、[スライサ] (Slicers)、[既存グループ] (Existing Group) を順に選択します。



下図のように、メニューから既存のグループを選択し、[OK] をクリックします。



既存のグループに、フィールドが追加されます。

手順

スライサグループとして階層を追加するには

注意：親子階層を [スライサ] (Slicers) タブにドラッグアンドドロップすることはできません。

1. [スライサ] (Slicers) タブをクリックします。
2. 次のいずれかの方法で、スライサグループとして、階層を追加します。
 - [データ] (Data) ウィンドウで階層を選択し、既存のスライサグループにドラッグアンドドロップします。

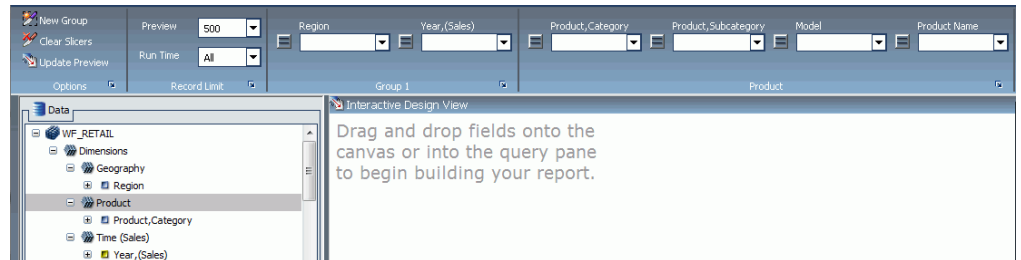
階層は、既存グループのスライサとしてではなく、新しいグループとして追加されます。新しいグループには、階層と同一の名前が付けられます。

または

- [新規グループ] (New Group) ボタンをクリックし、新しいスライサグループを作成します。

[データ] (Data) ウィンドウで階層を選択し、[スライサ] (Slicers) タブの「スライサを作成するフィールドをここにドラッグ」 (Drag Fields Here to Create Slicers) というテキスト上にドラッグアンドドロップします。

下図のように、新しいグループに階層が追加されます。新しいグループの名前は、自動的に階層名に変更されます。



注意：既存のスライサグループに、階層を追加することはできません。階層を既存のスライサグループにドラッグアンドドロップすると、新しいグループが自動的に作成されます。

この階層に、右クリックのコンテキストメニューはありません。階層をスライサグループとして追加するには、新しいスライサグループにドラッグアンドドロップする必要があります。

スライサによるフィルタ設定

トピックス

スライサの連鎖

手順/構文

スライサの関係演算子を変更するには

InfoAssist にスライサを追加後、これらを使用して、レポートにフィルタを設定することができます。スライサメニューから値を選択することや、表示レコード数の変更、新しいグループの作成、既存スライサグループのクリア、レポートプレビューの更新が行えます。

値が選択されていないスライサには、選択済みスライサによってフィルタされた値が表示されます。次のスライサメニューには、前に選択したスライサの条件に一致する値のみが表示されます。スライサへのフィルタは、スライサグループの表示順ではなく、選択された順序で設定されます。スライサの連鎖は、階層の場合にのみ有効になります。

手順

スライサの関係演算子を変更するには

文字フィールドで使用可能な演算子は次のとおりです。

- 等しい (equal to)
- 等しくない (not equal to)

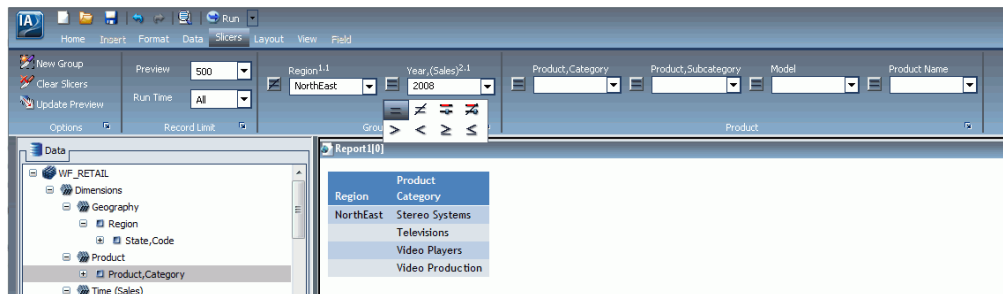
数値フィールドおよび日付フィールドで使用可能な演算子は次のとおりです。

- 等しい (equal to)
- 等しくない (not equal to)
- 値 1 から値 2 (in range)
- 値 1 から値 2 以外 (not in range)
- より大きい (greater than)
- より小さい (less than)
- 以上 (greater than or equal to)
- 以下 (less than or equal to)

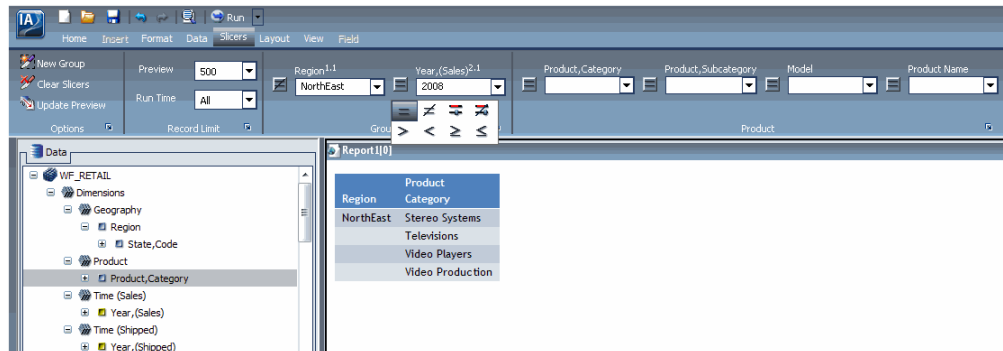
1. レポートに少なくとも 1 つのスライサを追加して、[スライサ] (Slicers) タブをクリックします。
2. スライサで変更する演算の演算子ボタンをクリックします。

下図のように、メニューに演算子のリストが表示されます (数値フィールドの場合)。

注意：文字フィールドでは、[等しい] (Equal) と [等しくない] (Not Equal) の切り替えのみを行います。



3. 使用する演算子をメニューから選択します。演算子の上にマウスポインタを置くと、演算の説明がポップアップ表示されます。



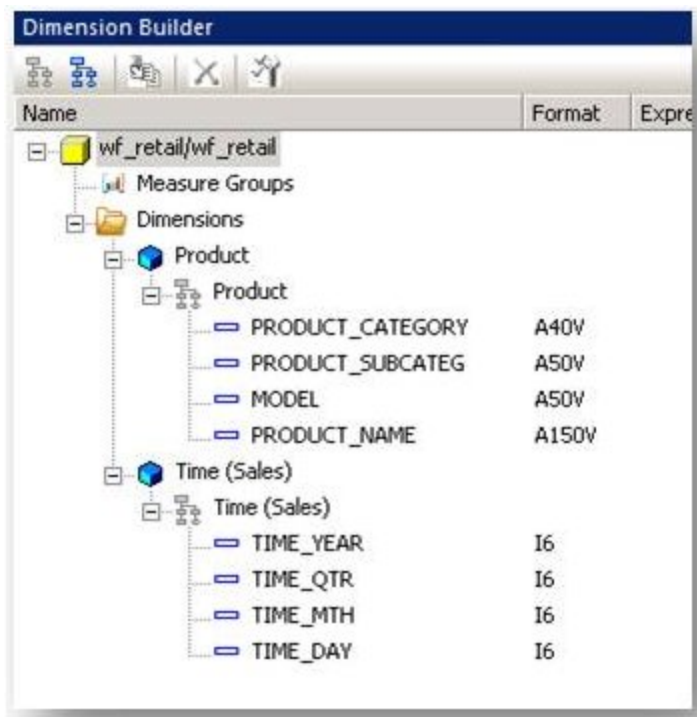
スライサの連鎖

手順/構文

スライサを連鎖するには

階層 (キューブまたはディメンションベース) の場合、スライサの連鎖は、ユーザが操作した順序ではなく、階層内で設定されます。これにより、パフォーマンスの問題が回避されます。

下図は、ディメンションビルダベースの階層を示しています。



手順 **スライサを連鎖するには**

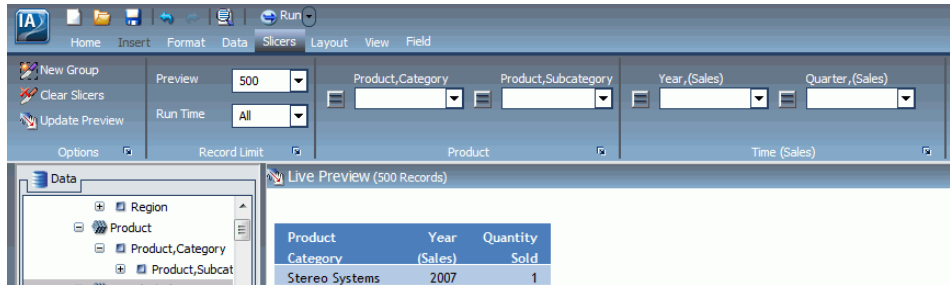
同一階層の各フィールドのコントロールには、互いに連鎖が設定されます。下図の例では、作成されたレポートに、製品の売上数量がカテゴリ別、年度別に表示されています。

Product	Year	Quantity	
Category	(Sales)	Sold	
Stereo Systems	2007	1	
		2	
		4	
	2008	1	
		2	
		3	
	2009	1	
		2	
		4	
	2010	1	
		2	
		4	
Televisions		2007	1
			2
			4
	2008	1	
		2009	1
			2
2010	3		
	1		
	2		
Video Players	2007	1	
		2	

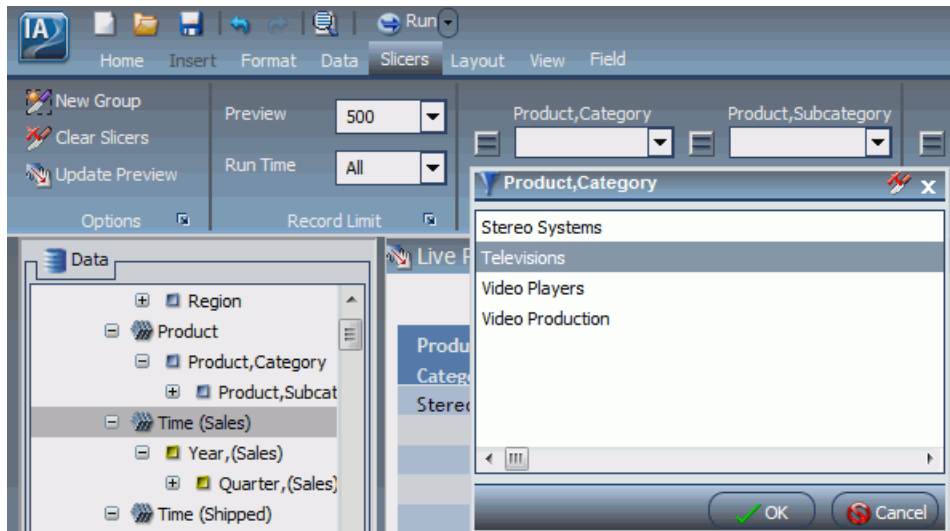
1. レポートを作成します。
2. 461 ページの「スライサを作成するには」の手順に従って、複数のスライサグループを作成します。

3. InfoAssist によるレイアウト入力フォームおよびアプリケーションの作成

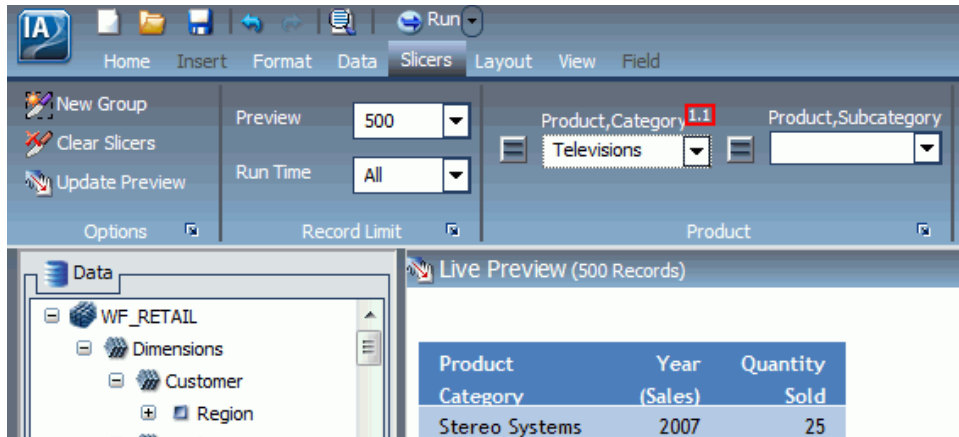
下図の例では、このレポートに2つのグループが作成されています。これらのグループは、[Product] と [Time (Sales)] です。これらは階層から作成されているため、互いに連鎖が設定されます。



下図の例では、[Product] グループの最初のコントロールとして [Televisions] が選択されています。

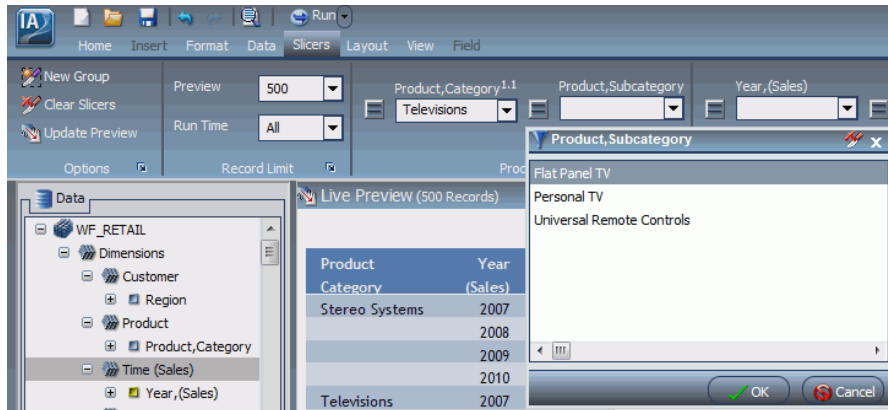


[OK]をクリックすると、下図のようにドロップダウンメニューに新しいコントロールが表示されます。

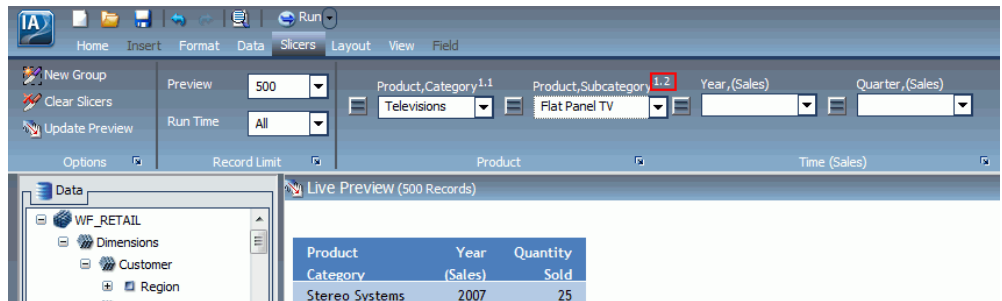


小数点の左側の「1」は、ユーザが操作した連鎖の中で、これが最初の連鎖であることを示しています。小数点の右側の「1」は、その連鎖内のコントロールの中で、これが最初のコントロールであることを示しています。

下図の例では、[Product]グループの2つ目のコントロールとして[Flat Panel TV]が選択されています。フィルタが設定された結果、このメニューには[Televisions]のサブカテゴリのみが表示されています。

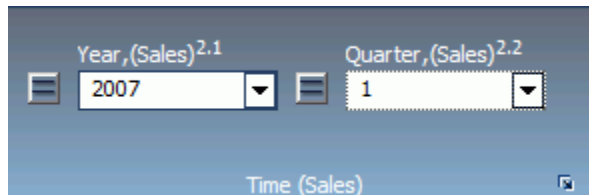


下図のように、[Product] サブカテゴリのドロップダウンメニューに [Flat Panel TV] が表示されます。



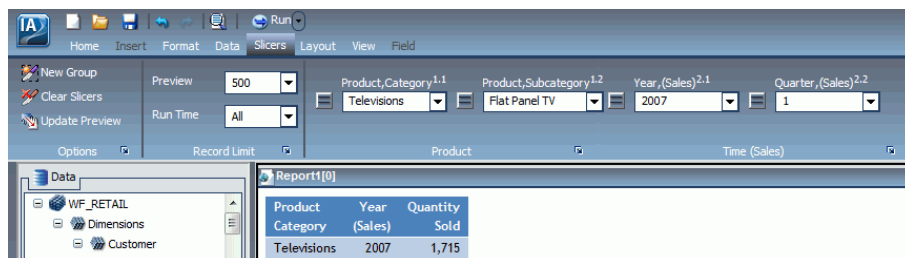
「1.2」という数字は、これが最初の連鎖の2つ目のコントロールであることを示しています。

一方、2つ目のグループとして [Time (Sales)] が作成されています。下図のように、このグループには2つのコントロールがあり、最初のコントロールは [Year (Sales)]、2つ目のコントロールは [Quarter (Sales)] です。



- 作成したスライサグループのコントロールを使用して、レポートにフィルタを設定します。

下図の例では、レポートにフィルタが設定された結果、2007年の第1四半期に販売された Flat Panel TV の数量のみが表示されています。



注意：連鎖の順序は、動的に機能します。たとえば、最初に [Product] サブカテゴリから [Camcorder] を選択した場合、[Product] カテゴリのコントロール値は [Video Production] になります。

スライサの編集ダイアログボックス

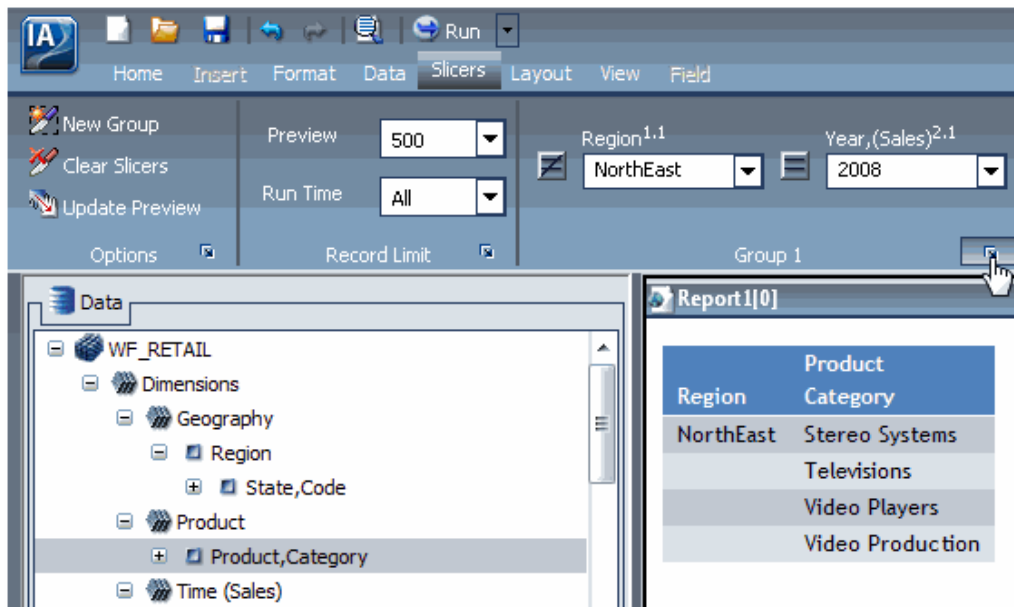
トピックス

全般タブ

最大レコード数タブ

グループタブ

下図のように、[スライサ](Slicers) タブでグループラベル横の[編集](Edit) ボタンをクリックすることで、[スライサの編集](Edit Slicers) ダイアログボックスを表示することができます。



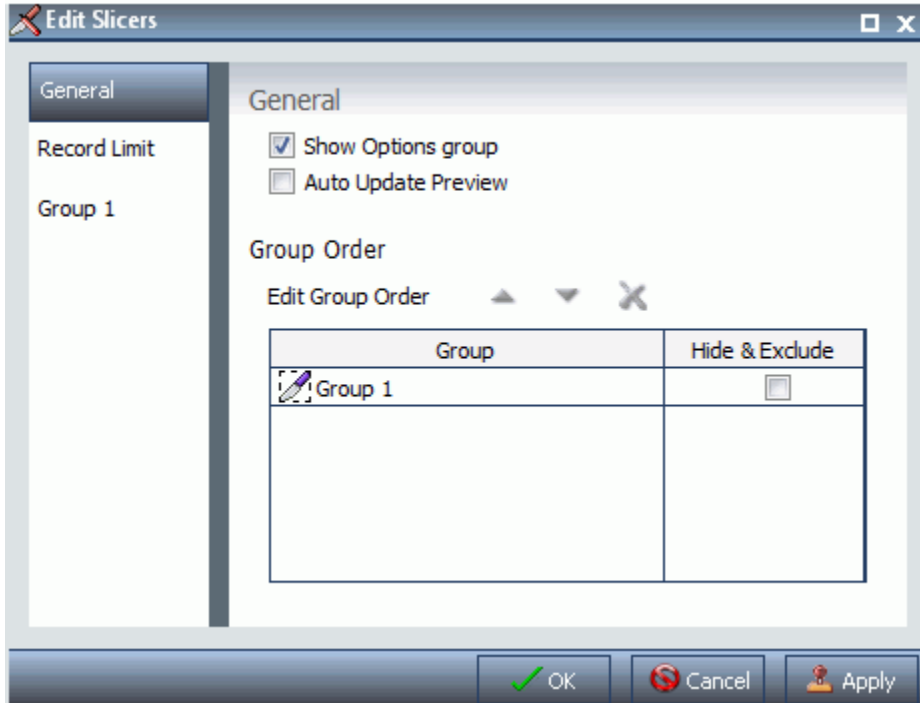
[スライサの編集](Edit Slicers) ダイアログボックスには、次のタブがあります。

- 全般 (General)
- 最大レコード数 (Record Limit)

- グループ # (Group #) (各スライサグループのタブ)

全般タブ

[全般] (General) タブでは、[オプション] (Options) グループの表示と非表示を切り替えたり、ライブプレビューの自動更新を有効にしたりできます。また、このタブで既存グループの順序変更や削除も行えます。下図は、[全般] (General) タブを示しています。



[全般] (General) タブには、次のオプションがあります。

- **[オプション] グループの表示 (Show Options group)** このオプションを選択して、[スライサ] (Slicers) タブに [オプション] (Options) グループを表示します。下図は、[オプション] (Options) グループを示しています。

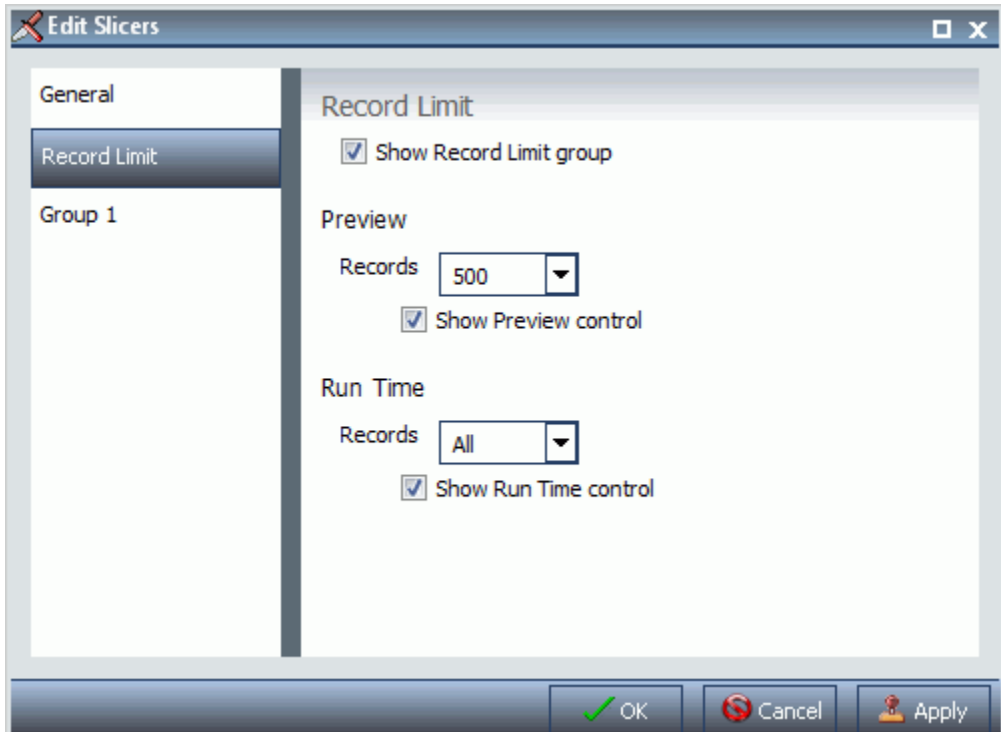


[オプション] (Options) グループには、次のオプションがあります。

- **新規グループ (New Group)** [スライサ] (Slicers) タブに新しいスライサグループを追加します。
- **スライサのクリア (Clear Slicers)** 既存のスライサから、選択済みの値をすべてクリアします。
- **プレビューの更新 (Update Preview)** レポート作成時の作業領域を更新し、それまでに加えた変更をすべて適用します。
- **プレビューの自動更新 (Auto Update Preview)** 作業領域の自動更新を有効にします。
- **グループ順の編集 (Edit Group Order)** グループを選択し、上下の矢印を使用してグループの位置を変更します。グループを選択し、x アイコンを使用してグループを削除します。
- **非表示にして解除 (Hide & Exclude)** グループを選択した後、このオプションを選択してグループを非表示にします。

最大レコード数タブ

下図のように、[最大レコード数] (Record Limit) タブでは、[最大レコード数] (Record Limit) グループ、[プレビュー] (Preview) コントロール、[実行時] (Run Time) コントロールの表示と非表示を切り替えます。このタブでは、プレビュー時および実行時に表示するレコード数を選択することもできます。



[最大レコード数] (Record Limit) タブには、次のオプションがあります。

- **[最大レコード数] グループの表示 (Show Record Limit group)** このオプションを選択して、[スライサ] (Slicers) タブに [最大レコード数] (Record Limit) グループを表示します。下図は、[最大レコード数] (Record Limit) を示しています。

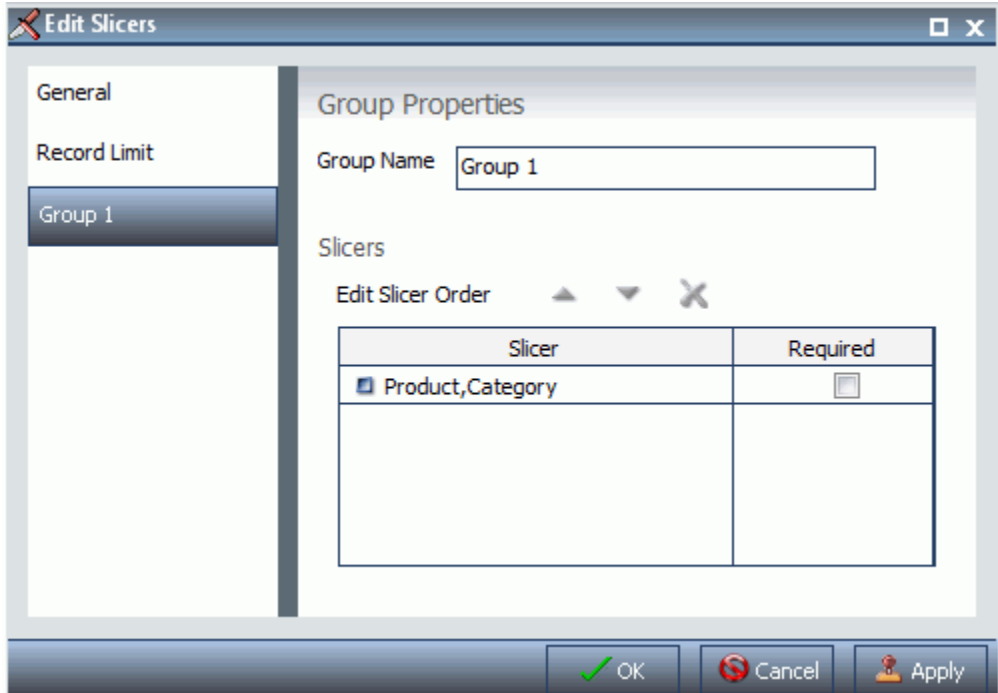


[最大レコード数] (Record Limit) グループには、次のメニューがあります。

- **プレビュー (Preview)** このメニューを使用して、レポート作成時に表示するレコード数を制御します。
- **実行時 (Run Time)** このメニューを使用して、レポート実行時に表示するレコード数を制御します。
- **プレビューコントロールの表示 (Show Preview control)** このオプションを選択して、[スライサ] (Slicers) タブの [最大レコード数] (Record Limit) グループに [プレビュー] (Preview) メニューを表示します。[プレビュー] (Preview) セクションの件数メニューで、レポート作成時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。
- **実行時コントロールの表示 (Show Run Time control)** このオプションを選択して、[スライサ] (Slicers) タブの [最大レコード数] (Record Limit) グループに [実行時] (Run Time) メニューを表示します。[実行時] (Run Time) セクションの件数メニューで、レポート実行時に表示するデフォルトのレコード件数を設定することができます。

グループタブ

下図のように、[グループ] (Group) タブでは、グループ名の変更、グループ内のスライサの順序変更、各スライサの必須オプションの設定を行います。スライサを選択し、[削除] (Remove from List) ボタンをクリックすると、選択したスライサが削除されます。



[グループ] (Group) タブには、次のオプションがあります。

- **グループ名 (Group Name)** このテキストボックスで、スライサグループの名前の入力と編集を行います。
- **スライサ順の編集 (Edit Slicer Order)** スライサを選択し、上下の矢印を使用してスライサの位置を変更します。

- **必須 (Required)** このオプションを選択して、必須のスライサとして設定します。必須に設定されたスライサの値を選択しない場合、レポートを実行することはできません。下図のように、必須のスライサにはアスタリスク (*) が表示されます。



InfoMini アプリケーションの作成

トピックス

[InfoMini アプリケーションの概要](#)

[InfoMini アプリケーションの作成](#)

実行時に使用可能な分析機能を埋め込んで、InfoMini アプリケーションを作成する方法について説明します。

InfoMini アプリケーションは、InfoAssist レポートから作成します。このアプリケーションには、実行時に使用可能な InfoAssist 機能のサブセットが格納されます。

InfoMini アプリケーションを作成すると、このアプリケーションを実行するユーザに、レポートの操作と編集に関するオプションを提供することができます。

InfoMini アプリケーションの概要

トピックス

[InfoMini ボタンの使用](#)

InfoAssist でレポートを作成する際は、InfoMini をアクティブにするオプションが提供されます。InfoMini をアクティブにしてレポートを実行すると、InfoMini アプリケーションが作成されます。InfoMini アプリケーションには、完全な InfoAssist レポートで使用可能な機能の一部が格納されます。InfoMini でレポートを作成する場合、レポートを実行するユーザに提供する機能の制限や拡張が行えます。

InfoAssist から InfoMini アプリケーションをテスト目的で実行した場合、アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きます。BI Portal やユーザ自身で作成したその他のアプリケーションでは、InfoMini アプリケーションは独自のブラウザウィンドウで開きません。

InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist レポートで有効なコンポーネントの多くを使用することができますが、次の例外があります。

- メインメニューにアクセスすることはできません。
- クイックアクセスツールバーの [新規作成] (New)、[開く] (Open)、[コードの表示] (View code) ボタンは使用不可になります。
- タブやグループには、無効になるものや、機能が制限されるものがあります。
- ステータスバーにアクセスすることはできません。
- ナビゲーションタスクバーにアクセスすることはできません。
- InfoMini では、既存のプロシジャとレポートオブジェクトの参照はサポートされていません。

詳細は、24 ページの「[InfoAssist アプリケーションウィンドウ](#)」を参照してください。

InfoMini ボタンの使用

トピックス

インタラクティブモード

[InfoMini] ボタンは、[フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループにあります。[InfoMini] ボタンをクリックして、InfoMini を有効にすることができます。[InfoMini] ボタンがアクティブな場合は、レポートを実行して InfoMini アプリケーションを開くことができます。

InfoMini を無効にするには、[InfoMini] ボタンを再度クリックします。InfoMini を有効にするには、[InfoMini] ボタンのメニューから、少なくとも 1 つのオプションを選択する必要があります。

[InfoMini] ボタンのメニューからオプションを選択することで、実行時にユーザに提供するオプションを設定することができます。[InfoMini] ボタンが無効な場合に、このメニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。次のオプションがあります。

- [フォーマット] タブ (Format tab)
- [スライサ] タブ (Slicers tab)
- 即時実行 (Run Immediately)

メニューからオプションを選択すると、そのオプションの横にチェックマークが表示されます。このチェックマークは、実行時にユーザが InfoMini アプリケーション内で、そのオプションの使用が可能になることを示しています。チェックマークの付いたオプションを選択すると、選択が解除されてチェックマークが非表示になり、このオプションは、InfoMini アプリケーションで使用不可になります。メニューからすべてのオプションの選択を解除すると、InfoMini は無効になります。

[即時実行] (Run Immediately) オプションは、デフォルト設定で選択されています。このオプションを選択しておく、InfoMini を最初に起動したときにレポートが即時実行されます。ユーザがレポートを実行する前にフォーマットを選択したり、スライサを指定したりできるようにするには、このオプションの選択を解除します。

インタラクティブモード

[インタラクティブ] (Interactive) モードは、InfoMini アプリケーション実行時のデフォルト設定のモードです。[編集] (Edit) モードへは、InfoMini アプリケーションのクイックアクセスツールバーからアクセスすることができます。[インタラクティブ] (Interactive) モードでは、[リソース] (Resource) パネルにアクセスすることはできません。[InfoMini] ボタンのオプションをいずれも選択しないでアプリケーションを実行した場合、ツールは [インタラクティブ] (Interactive) モードで表示されますが、リボンのオプションは使用不可になります。

次のオプションは、[インタラクティブ] (Interactive) モードで有効にすることができます。

- [フォーマット] タブ (Format tab)
- [スライサ] タブ (Slicers tab)

[フォーマット] (Format) タブからは、[出力タイプ] (Output Types) グループにアクセスすることができますが、次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [フォーマット] (Format) タブで使用可能な [対象] (Destination) グループ、[ナビ] (Navigation) グループ、[機能] (Features) グループは使用不可になります。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [フォーマット] (Format) タブの [グラフ] (Chart) グループで使用可能な [その他] (Other) ボタンは使用不可になります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [フォーマット] (Format) タブの [対象] (Destination) グループで使用可能な [InfoMini] ボタンは使用不可になります。

[フォーマット] (Format) タブで使用可能な機能についての詳細は、48 ページの「[フォーマットタブ](#)」を参照してください。

[スライサ] (Slicers) タブからは、[オプション] (Options) グループ、[最大レコード数] (Record Limit) グループ、[スライサグループ] (Slicer Group) グループにアクセスすることができませんが、次の例外があります。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [スライサ] (Slicers) タブの [オプション] (Options) グループで使用可能な [新規グループ] (New Group) オプションは使用不可になります。

注意：InfoMini アプリケーションの [編集] (Edit) モードでは、[スライサ] (Slicers) タブの [オプション] (Options) グループで [新規グループ] (New Group) オプションを使用することができます。

- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [スライサ] (Slicers) タブの [オプション] (Options) グループで使用可能な [プレビューの更新] (Update Preview) ボタンは使用不可になります。
- InfoMini アプリケーションでは、InfoAssist の [スライサ] (Slicers) タブの [最大レコード数] (Record Limit) グループで使用可能な [プレビュー] (Preview) リストは使用不可になります。このリストは、レイアウトの [編集] (Edit) モードでのみ表示されます。

[スライサ] (Slicers) タブで使用可能なグループの機能についての詳細は、「[Using Slicers を](#)」参照してください。

InfoMini アプリケーションの作成

手順/構文

InfoMini を有効にするには

InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには

InfoMini アプリケーションをテストするには

InfoMini アプリケーションを操作するには

InfoAssist で InfoMini アプリケーションを作成するには、通常の方法でレポートを作成してから、InfoMini を有効にし、実行時にユーザーに提供する機能を追加します。InfoMini アプリケーションで使用可能な機能についての詳細は、478 ページの「[InfoMini アプリケーションの概要](#)」を参照してください。

手順

InfoMini を有効にするには

1. InfoAssist レポートを開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. InfoMini を有効にするには、次のいずれかを実行します。
 - 下図のように、[対象] (Destination) グループで [InfoMini] をクリックします。



注意：InfoMini を有効するには、[InfoMini] メニューから、少なくとも 1 つのオプションを選択しておく必要があります。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、デフォルト設定で、メニューの [フォーマット] (Format) タブ、[スライサ] (Slicers) タブ、[保存] (Save) オプションが選択されています。InfoMini のオプションを有効にする方法についての詳細は、483 ページの「[InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには](#)」を参照してください。

- [対象] (Destination) グループの [InfoMini] メニューから、次のいずれかを選択します。
 - [フォーマット] タブ (Format tab)

□ [スライサ] タブ (Slicer tab)

[InfoMini] ボタンがハイライト表示され、InfoMini モードが有効になります。InfoMini アプリケーションの実行についての詳細は、483 ページの「[InfoMini アプリケーションをテストするには](#)」を参照してください。

手順

InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには

InfoMini アプリケーションでは、実行時に使用可能にするオプションを選択することができます。新しいレポートで InfoMini を有効にする場合、デフォルト設定で、メニューの [フォーマット] (Format) タブ、[スライサ] (Slicers) タブ、[保存] (Save) オプションが選択されています。各オプションの機能についての詳細は、478 ページの「[InfoMini アプリケーションの概要](#)」を参照してください。

1. InfoAssist レポートを開き、[フォーマット] (Format) タブをクリックします。
2. [InfoMini] ボタンの下向き矢印をクリックしてメニューを開き、使用可能にするオプションを選択します。

InfoMini を有効にしていない場合でも、メニューを開くことができます。メニューからオプションのいずれかを選択すると、InfoMini が有効になります。

手順

InfoMini アプリケーションをテストするには

1. InfoAssist を開き、482 ページの「[InfoMini を有効にするには](#)」の説明に従って、InfoMini を有効にします。
2. 483 ページの「[InfoMini アプリケーションオプションを有効または無効にするには](#)」の説明に従って、必要なオプションを有効にします。
3. レポートを実行します。

新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。

手順

InfoMini アプリケーションを操作するには

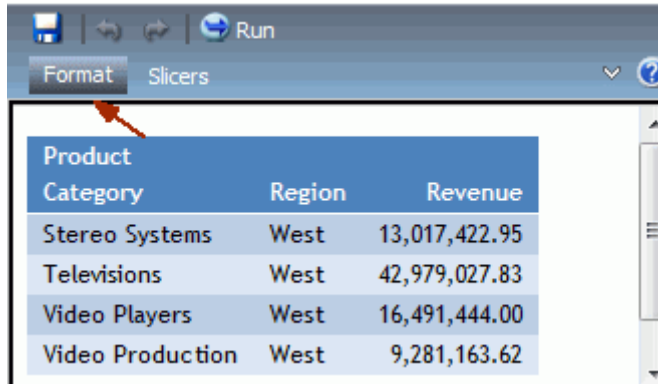
InfoMini アプリケーションは、実行時に [インタラクティブ] (Interactive) モードに切り替えることができます。アプリケーションに加えた変更は、作業領域に動的には反映されないため、更新を確認するには、レポートを実行する必要があります。

1. 483 ページの「[InfoMini アプリケーションをテストするには](#)」の説明に従って、InfoMini を有効にしたレポートを実行します。

新しいウィンドウで、InfoMini アプリケーションが開きます。

2. InfoMini アプリケーションのデフォルト設定では、リボンは非表示になります。リボンを表示するには、次のいずれかを実行します。


- 下図のように、タブのいずれかをクリックします。



- 下図のように、[リボンの表示] (Show Ribbon) ボタンをクリックします。



有効にしたタブが、リボン上に表示されます。



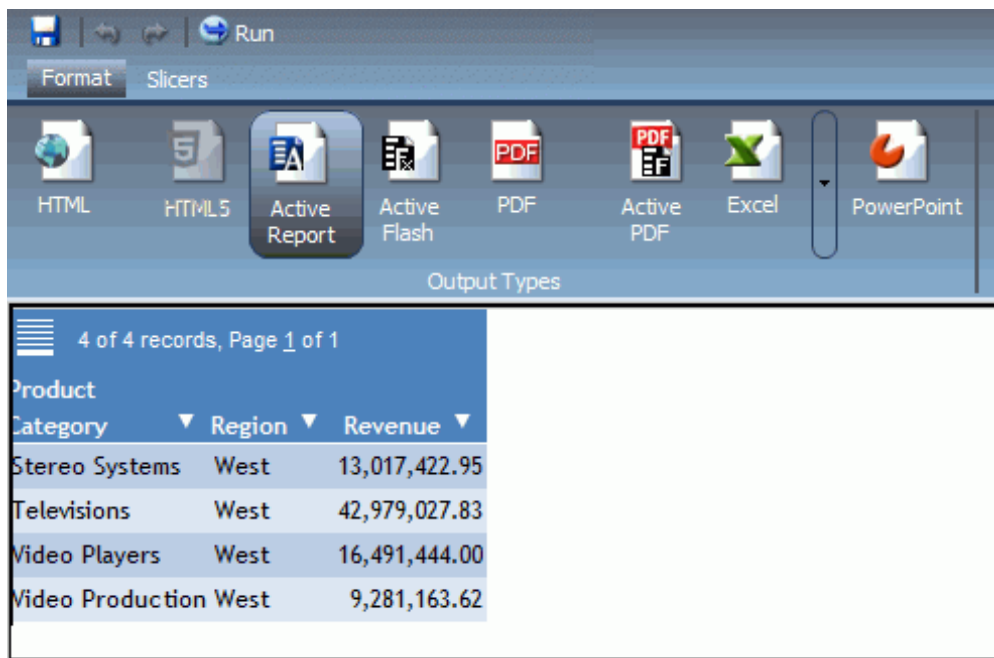
The screenshot shows a software interface with a ribbon at the top containing 'Format' and 'Slicers' tabs. Below the ribbon is a table with the following data:

Product	Region	Revenue
Stereo Systems	West	13,017,422.95
Televisions	West	42,979,027.83
Video Players	West	16,491,444.00
Video Production	West	9,281,163.62

上図の例では、InfoMini で有効にするタブとして [フォーマット] (Format)、[スライサ] (Slicer) タブが選択されていたため、これらのタブがリボン上に表示されています。これらのタブで使用可能なオプションの機能は、InfoAssist と同一です。これらの埋め込み機能を使用して、実行時にレポートを変更することができます。

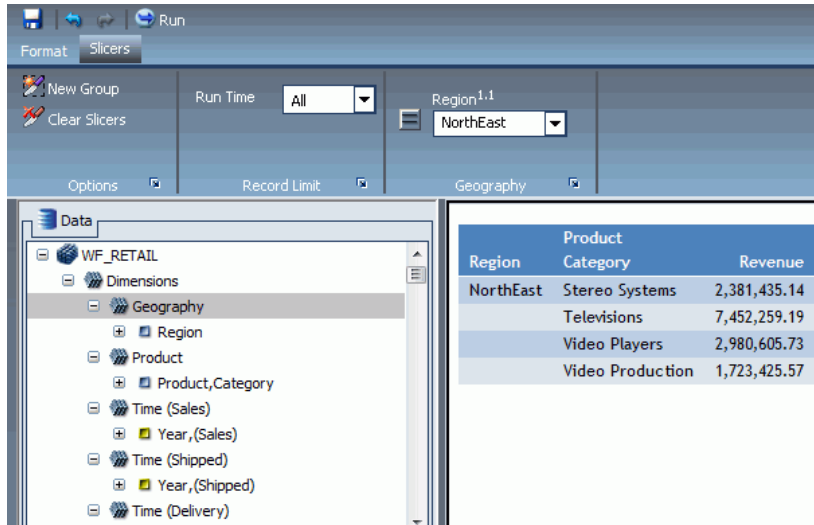
下図の例では、レポートの出力フォーマットとして [active report] が選択されています。

下図は、実行時の active report を示しています。



3. 必要な変更を加えて [実行] (Run) をクリックし、更新されたレポートを確認します。

下図の例は、InfoMini アプリケーションで [Region] をスライサとして実行したレポートを示しています。



4. [保存] (Save) をクリックして、アプリケーションを保存します。

保存された InfoMini アプリケーションは、InfoMini で再び開くことができます。また、アクセス許可を所有する場合は、InfoAssist で開くこともできます。

用語集

このマニュアルで使用される主要概念について説明します。

3D 表示

カスタムのグラフ機能で、3次元表示のオンオフを設定します。

アクセシビリティ

レポートに特化した機能で、レポート、グラフ、またはレイアウトに、セクション 508(米国リハビリテーション法 508 条)に準拠するタイトルを追加することができます。このオプションは、出力タイプが HTML または PDF のレポートまたはグラフでのみ使用可能です。

アコーディオン

レポートに特化した機能で、縦ソートフィールドのそれぞれに展開可能なデータ表示を作成します。このオプションを選択すると、1 回目の出力時に、最初の縦ソートフィールドのデータ値のみが表示されます。この表示を手動で展開し、下位ソートフィールドのデータ値を表示することができます。

アコーディオンレポート

縦のソートフィールドの値ごとに展開可能なレポートです。

active chart

Active テクノロジーの全機能を使用するグラフです。

レイアウト (入力フォーム)

Active テクノロジーの全機能を使用するレイアウト入力フォームです。

入力フォーム

レイアウト内のレポートでフィルタとして機能する Active テクノロジーコントロールです。テキスト、イメージ、ドロップダウンリスト、リストボックス、チェックボックス、ラジオボタン、テキストボックスがあります。

入力フォームのプロパティダイアログボックス

レイアウト内のレポートに Active フォームコントロールを追加する際に使用するダイアログボックスです。

active Flash

レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で利用可能な出力フォーマットです。

active PDF

レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で利用可能な出力フォーマットです。Adobe Reader 9.0 以降が必要です。

active report

Active テクノロジーの全機能を使用するレポートです。

active report オプション

グラフのカスタム機能です。[active report オプション] (active report) ダイアログボックスを開いて、メニュー項目、グラフエンジン、色など、active report のオプションを構成することができます。このボタンは、出力タイプが active report、active Flash、または active PDF に設定されている場合にのみ使用可能です。

集計

レポートのカスタム機能で、SUM以外のさまざまな集計オプションを使用して、数値基軸データを表示することができます。

集計値

レポートの数値基軸フィールドに割り当てられる値です。

注釈 (コマンド)

グラフのカスタム機能で、注釈を追加して、グラフに配置することができます。

注釈

説明として付加する注記またはコメントです。

アプリケーションボタン

InfoAssist アプリケーションウィンドウ上のボタンで、プロシジャに関連するコマンドのアプリケーションメニューへのアクセスを提供します。

軸

グラフに表示される参照線です。

軸ラベル

軸のスケールに基づいて自動的に生成されるラベルです。軸ラベルは、軸に沿って表示されます。

軸タイトル

軸を基準にして測定されるデータの意味を明確にするためのテキストです。

背景

グラフフレームの背後に表示される領域です。

重ねて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウを結果パネル全体の対角線上に重ねて表示します。

連鎖コントロール

親子関係にある複数のコントロールです。親コントロールで選択した値に基づいて、子コントロールで選択可能なオプションがフィルタされます。Active フォームコントロールは、複数のコントロールの親として使用することができますが、複数のコントロールの子として使用することはできません。

セルパディング

レポートの行列間に挿入するスペースのサイズです。

色バンド

グラフの基本デザイン要素です。色バンドは2色で構成され、各バンドにそれぞれ異なる色を使用します。色バンドは、グラフ上のシリーズの背後に、連続したパターンとして表示されます。色の対比を使用することで、グラフの読み取りが容易になります。

色モード

グラフのシリーズ(基軸フィールド)への色の適用方法を制御するモードです。設定の選択肢には、[シリーズ](By Series)(デフォルト設定)と[グループ](By Group)があります。

ピアグラフ

レポートのカスタム機能で、数値データにピアグラフを追加します。

ドキュメントテーマ

レポートとグラフに明示的スタイルを適用するため、ユーザが選択するテーマです。

データラベル

シリーズ内の特定のデータポイントを識別するテキストです。

データタブ

リボン上のタブの1つで、データ操作およびデータ表示のオプションが表示されます。これらは[演算](Calculation)、[JOIN]、[フィルタ](Filter)、[表示](Display)、[データソース](Data Source)グループに分類されています。

フィルタを上に表示

レポートの上部にフィルタを表示するオプションです。

環境とスタイル

InfoAssist の [オプション] (Options) ウィンドウのエリアの 1 つで、ユーザインターフェイスに適用するアプリケーションテーマ、およびレポートとグラフにスタイルを適用するドキュメントテーマを選択する設定が表示されます。

接続線

グラフにデータラベルを接続する線です。

フィールドタブ

リボン上のタブの 1 つで、ユーザがレイアウトキャンバスの [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウでフィールドを選択した場合に表示されます。[フィールド] (Field) タブで選択可能なオプションは、選択したデータタイプによって異なります。数値フィールドと数値以外のフィールドでは、有効なオプションは異なります。[フィールド] (Field) タブには、[フィルタ] (Filter)、[ソート] (Sort)、[区切り] (Break)、[スタイル] (Style)、[フォーマット] (Format)、[表示] (Display)、[リンク] (Links) グループが表示されます。

罫線のフォーマットダイアログボックス

グラフ上の縦横罫線、色バンド、フレームのフォーマットを設定するダイアログボックスです。

軸のフォーマットダイアログボックス

縦軸および横軸のフォーマットを設定するダイアログボックスです。

メータフォーマットダイアログボックス

メータグラフのフォーマットを設定するダイアログボックスです。たとえば、メータグラフのタイトルを設定し、スタイルを適用するオプション、目盛りおよび色バンドを設定するオプションのほか、メータの始点角度および終点角度の設定などの詳細設定があります。

ラベルフォーマットダイアログボックス

データラベルを編集するダイアログボックスです。

シリーズフォーマットダイアログボックス

グラフ上の各シリーズの塗りつぶしおよび境界のフォーマットを設定するダイアログボックスです。

フォーマットタブ

リボン上のタブの1つで、出力フォーマットおよびその他のレポート機能を選択するオプションが表示されます。これらのオプションは、レポートとグラフのどちらを作成しているかによって異なります。レポートの場合、[フォーマット] (Format) タブから [出力] (Output Types)、[対象] (Destination)、[ナビ] (Navigation)、[機能] (Features) グループへアクセスできます。グラフの場合は、[フォーマット] (Format) タブから [出力] (Output Types)、[対象] (Destination)、[グラフ] (Chart Types)、[機能] (Features)、[ラベル] (Labels) グループが表示されます。

フレーム

データポイント、罫線、凡例、グラフタイトルなどの基本的なグラフ要素のすべてを格納するグラフ領域です。フレームは矩形で表示されます。

フレームと背景

グラフのカスタム機能です。[フレームと背景] (Frame & Background) ダイアログボックスで、選択したグラフのタイプに応じて、フレームおよびバックグラウンドのオプションを設定することができます。

固定

レポートのカスタム出力フォーマットで、この出力では、レポート出力のページをスクロールしても、列タイトルが固定 (表示され続ける) されます。

メータ

グラフのカスタム機能です。[メータ] ダイアログボックスで、メータグラフに特化したオプションを設定することができます。

グリッド

グラフのカスタム機能で、縦横の線に関するオプションを設定することができます。

罫線

グラフの読み取りを容易にするために縦方向および横方向に配置される線です。罫線には、主罫線と補助罫線があります。

ホームタブ

リボン上のタブの1つで、最も使用頻度の高いコマンドおよびオプションが表示され、[フォーマット] (Format) グループ、[デザイン] (Design) グループ、[フィルタ] (Filter) グループ、[レポート] (Report) グループに分類されています。

InfoMini

InfoAssist レポートから作成され、実行時に InfoAssist 機能の一部が含まれたアプリケーションです。

挿入タブ

リボン上のタブの 1 つで、[レイアウト] (Document) デザインビューの作業領域にレポート、グラフ、既存レポート、テキスト、イメージ、Active フォームコントロール (active report、active PDF、active Flash のみ) を追加するオプションが表示されます。

インターフェーステーマ

すべてのメニューおよびダイアログボックスにスタイルを設定するため、ユーザーが選択するテーマです。

レイアウトキャンバス

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントです。デフォルト設定の[ライブプレビュー] (Live Preview) デザインビューを使用している場合、レイアウトキャンバスには、結果パネルで作成中または編集中のレポートのプレビューが表示されません。レイアウトキャンバスは、常に(結果パネル内で)最大化されています。最小化、重ねて表示、並べて表示することはできません。ただし、レポートが存在しない場合、ブランクのキャンバスが開きます。

レイアウトタブ

リボン上のタブの 1 つで、ページの表示とレイアウトのオプションが表示され、[ページ設定] (Page setup)、[サイズと整列] (Size & Arrange)、[レポート] (Report) グループに分類されています。

凡例

グラフ上に表示され、各シリーズを識別するグラフ要素です。

マップ

地図機能は、位置情報に関連付けられたデータの表示を可能にします。HTML5 マップビューアを使用して、バブルマーカ―やヒートマップ(コロプレス)など、使用頻度の高いさまざまなフォーマットでデータを表示することができます。HTML5 マップビューアには、ズーム、パン、縮尺コントロールが含まれています。この機能を使用して、データの位置情報に関連するパターン、傾向、関係をグラフ化することができます。

制限

レポートのカスタム機能で、列内に表示するユニーク変数の個数を制限します。

マーカー

折れ線グラフで、グラフ上のデータポイントを視覚的に表す要素です。

ナビゲーションタスクバー

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、表示されるグループおよびアイコンを使用して、表示方法を切り替えることができ、また、作業中のすべてのレポートにすばやくアクセスすることができます。

改ページ

Web ビューアレポートのカスタム機能で、出力の主ソートフィールドが変更されたところで、新しいページを開始します。

Web ビューア

カスタムレポート出力フォーマットで、出力を一度に1ページずつ表示することができます。レポート出力下部のメニューバーを使用して、特定のページを表示することもできます。

Personal InfoAssist

InfoAssist のセルフサービスバージョンです。

ポップアップタイトル

レポートのカスタム機能で、レポートにポップアップタイトルを追加し、列タイトルにマウスポインタが置かれたときに、ポップアップタイトルが表示されるようにします。

四分線

グラフを4つのセクションに分割するための縦横に交差する線です。

クエリデザインウィンドウ

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、[フィルタ] (Filter) エリアと [クエリ] (Query) エリア (フィールドコンテナ) が表示されます。このウィンドウは、[データ] (Data) ウィンドウの下部に表示されます。ただし、[クエリ] (Query) デザインビューの場合は、ウィンドウが拡張されて、[結果] (Results) パネル内に表示されます。

クイックアクセスツールバー

InfoAssist アプリケーションウィンドウ上のツールバーで、[新規作成] (New)、[開く] (Open)、[保存] (Save)、[元に戻す] (Undo)、[やり直し] (Redo)、[コードの表示] (View code)、[実行] (Run)、[プレビュー] (Preview) など、使用頻度の高いコマンドが表示されます。

ランキング

レポートのカスタム機能で、レポートの BY フィールドと基軸フィールドにランキング列を挿入します。

再演算

レポートのカスタム機能で、COMPUTE コマンドの結果を再計算します。

参照

グラフのカスタム機能で、X 軸と Y 軸に参照線を追加します。

参照線

グラフ上で特定のデータの位置を強調するために使用する線です。横方向 (X 軸) と縦方向 (Y 軸) のそれぞれに最大で 3 本の参照線をグラフに追加することができます。

ソート値の繰り返し

レポートのカスタム機能で、最初の新しいソート値の後にブランクを表示する代わりに、繰り返しソート値をすべて表示します。

リソースパネル

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、選択したデータソースのフィールドを [データ] (Data) ウィンドウに表示します。また、[クエリ] (Query) デザインビューを除き、[データ] (Data) ウィンドウの下部に [クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウを表示します。

結果パネル

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、[クエリデザイン] (Query Design) ウィンドウ、レイアウトキャンバス、または [出力] (Output) ウィンドウを表示します。

リボン

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) の作成に必要なコマンドを表示します。

円ラベル

円グラフに表示する同心円を識別するテキストです。

回転

グラフのカスタム機能で、グラフの方向 (縦、横) を切り替えます。

行合計

レポートのカスタム機能で、レポートの右側に総合計列を挿入し、各行の数値データを合計します。

シリーズ

グラフ上に表示されるデータポイントのグループです。

シリーズタブ

リボン上のタブの1つで、ユーザがグラフで作業している場合にのみ表示されます。このタブでは、[選択] (Select)、[プロパティ] (Properties)、[折れ線] (Line)、[円] (Pie)、[表示] (Display) グループからグラフオプションにアクセスすることができます。

スライサ

レポート、グラフ、レイアウト、レイアウト (入力フォーム) で使用可能な動的なフィルタです。

スライサタブ

リボン上のタブの1つで、スライサの作成、編集が行えます。

自動配置

円グラフのデータラベルに適用されます。円グラフの円項目が多すぎるためにデータラベルが判別できなくなる場合、データラベルが自動的に円項目の外側に移動し、データラベルと円項目がフィーラ線で接続されます。

積み重ね基軸

レポートにすべての基軸を積み重ねるオプションです。

スプラッシュスクリーン

[開始] (Getting Started) および [ヘルプ] (Help) オプションが表示され、InfoAssist アプリケーションメインメニューで、ユーザが [新規作成] (New) をクリックした場合には表示されます。

ステータスバー

InfoAssist アプリケーションウィンドウのコンポーネントで、[出力](Output) ボタンと [出力ターゲット] (Output Target) ボタンが表示されます。[出力] (Output) ボタンをクリックすると、選択したフォーマットが表示され、[出力ターゲット] (Output Target) ボタンをクリックすると、新規出力として選択した表示先(ウィンドウまたはタブ)が表示されます。

中間脚注

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力各ページのデータの最後に中間脚注を追加します。

中間見出し

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力のタイトル直下に中間見出しを追加します。

中間合計

レポートのカスタム機能で、主ソートフィールドが変更されたところで、レポート出力のすべての数値フィールドに中間合計を追加します。

出力の切り替え

出力表示のオプションで、ドロップダウンメニューを開いて、作業中のレポートの中から、出力を表示するレポートを選択します。

目次

カスタムレポート出力フォーマットで、最初のソートフィールド (BY) の値の出力を個別に表示します。

縦に並べて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウを結果パネル全体に縦に並べて表示します。

横に並べて表示

出力表示のオプションで、複数の出力ウィンドウを結果パネル全体に横に並べて表示します。

ポップアップ

レポートに特化した機能で、レポート出力の列タイトルにマウスポインタを置いたときに、ポップアップタイトルを表示します。

条件付きスタイル設定

選択した基軸フィールドのデータに、色スタイルを適用します。デフォルト設定では、1つ目の条件の値は緑色、2つ目の条件の値は赤色で表示されます。

傾向線

データシリーズの値の方向性を示す、データシリーズの任意の2点を接続する線です。

表示

InfoAssist の [オプション] (Options) ウィンドウのエリアの1つで、ユーザが作業するデザインビュー、出力のプレビューに使用するデータのタイプ、レコード入力に設定が必要な制限、[データ] (Data) パネルと [クエリ] (Query) パネルの外観、使用する出力ターゲットの設定を行います。

表示タブ

リボン上のタブの1つで、レポートデザイン表示オプションが表示され、[デザイン] (Design)、[表示/非表示] (Show/Hide)、[データ] (Data)、[クエリ] (Query)、[ウィンドウ] (Output Window)、[レポート] (Report) グループに分類されています。

WITHIN

特定の集計をレポートのさまざまなレベルで実行することができます。WITHIN 句を使用して、レポートの列全体で集計するのではなく、ソートグループ単位で集計したように、表示フィールドの値を操作することができます。

インデックス

数字

3D グラフのタイプ 163

3D グラフ 163

3D 表示

棒グラフからの削除 335

A

active dashboard 431

active report オプションダイアログボックス 418,
419, 422, 425, 427

色タブ 425

詳細タブ 427

全般タブ 419

メニューオプションタブ 422

Active テクノロジ

グラフ 428

C

COMPUTE フィールド 61

D

DEFINE フィールド 61

F

FOCUS フォーマットインデックスファイル 397

H

HOLD ファイル

レイアウトモード 402

HTML5 51

I

InfoAssist

概要 11

InfoAssist インターフェース

アプリケーションウィンドウ 24

アプリケーションボタン 24

クイックアクセスツールバー 24

クエリデザインウィンドウ 25

結果パネル 25

出力ウィンドウ 25

主要コンポーネント 24

ステータスバー 25

ナビゲーションタスクバー 25

ナビゲート 23

ヘルプ 25

リソースパネル 25

リボン 25

レイアウトキャンバス 25

InfoAssist のオプションダイアログボックス 14

InfoAssist の起動

ドメインツリー 13

InfoMini 12, 14
アクセス 14

J

JOIN グループ 62
JOIN ダイアログボックス 63

P

PRINT フィールド (DEFINE) ダイアログボックス 61

S

SUM フィールド (COMPUTE) ダイアログボックス
62

W

WITHIN 95

X

XY プロットグラフタイプ 162
XY プロットグラフ 159

あ

アクティブキャッシュ 408, 409, 410
コンポーネント単位の有効化 410
取得行数 408
有効化 409
アプリケーションウィンドウ 24
アプリケーションボタン 24

アプリケーションメインメニュー 26

い

色ダイアログボックス 44
色バンド
設定 265
色モード
グループ 220
グループ設定 193
シリーズ 221
シリーズ設定 193

う

ウィンドウ
出力方法オプション 129
ウィンドウグループ 86

え

円グラフ 153
円グラフのタイプ 154
円グループ 100
円項目
切り離し 204
非表示 205
演算グループ 60

お

オブジェクトグループ 47
オプションウィンドウ 20

オプショングループ 76

折れ線グラフ 155, 198

 スムージング線効果の適用 198

折れ線グラフのタイプ 156

温度計 166

か

株価グラフ 165

株価グラフのタイプ 165

き

機能グループ (グラフ) 56

機能グループ (レポート) 55

極グラフ 161

く

クイックアクセスツールバー 24, 30

クエリグループ 83

クエリデザインウィンドウ 25, 84, 106, 112, 182

 グラフの右クリックオプション 182

 縦表示 84

 縦横表示 84

 ツリー表示 84

 フィルタエリア 106

 右クリックオプション 112

区切りグループ 92

グラフ

 2 軸グラフの作成 172

 3D 163

 3D 表示の削除 335

グラフ (続く)

 Active テクノロジーの使用 428

 XY プロット 159

 円 153

 折れ線グラフ 155

 温度計 166

 回転 337

 株価 165

 基本グラフの作成 169

 極 161

 グラフ出力 177

 グラフフォーマットツール 178

 グラフ要素 178

 作成とカスタマイズ 149

 じょうご 166

 詳細グラフの作成 170

 詳細グラフのライブラリ 169

 静的参照線 338

 選択 150

 その他 166

 縦棒グラフ 151

 縦方向ボックスプロット 166

 注釈の表示 343

 データの視覚化 149

 動的参照線 341

 バブル 162

 パレート 166

 複合 167

 複合グラフ 172

 複数軸 158

 複数軸グラフの作成 173

 ピラミッド 166

 フレームと背景 284

 ブロック地図 166

 ページ見出しとページ脚注の追加 331

 ページ見出しとページ脚注の表示方法の制御
 333

 棒 150

グラフ (続く))

- 右クリックメニュー 181
- メータ 166
- 面 157
- 横棒グラフ 152
- 横方向ボックスプロット 166
- ライブプレビュー 180

グラフグループ 58

グラフの挿入 357

- グラフのフレームと背景
- フォーマット設定 284

け

傾向線

- 追加 197

罫線 250, 257, 258, 259, 260, 261, 262, 266

- 色、太さ、スタイルの設定 262

削除 266

主罫線 250

縦主罫線の表示 260

縦補助罫線の表示 261

フォーマット設定 250

プロパティの使用 258

補助罫線 250

右クリックメニュー 257

横補助罫線の表示 259

罫線のフォーマットダイアログボックス 251, 252, 253, 254, 255, 256

色バンドタブ 254

四分線タブ 255

主罫線タブ 252

フレームタブ 256

補助罫線タブ 253

結果パネル 25, 120, 121

- クエリデザインウィンドウの使用 121

こ

構造表示 83

さ

サイズと位置ダイアログボックス 369, 371

サイズと整列グループ 80

サブクエリフィルタ 398

参照線

- 一時項目 (COMPUTE) 341

静的 338

動的 341

参照線ダイアログボックス 339

散布図 160

し

軸

手動設定 281

詳細プロパティの設定 283

プロパティの使用 278

右クリックメニュー 275

軸 2 オプション

軸 2 のフォーマットダイアログボックス 275

軸タイトル

追加 282

軸のフォーマットダイアログボックス 269, 270, 271, 272, 274

詳細タブ 274

タイトルタブ 271

目盛りタブ 270

ラベルタブ 272

軸ラベル

回転 279

- 軸ラベル (続く)
 - カスタムフォーマット文字 273
 - 交互に表示 278
 - 削除 278
 - 軸 2 ラベル 269
 - 縦軸ラベル 269
 - フォーマット設定 268, 280
 - 横軸ラベル 268
 - 集計値 212
 - 主罫線 250
 - 出力ウィンドウ 25, 129, 131, 132, 133
 - 重ねて表示 131
 - 出力の切り替え 133
 - 出力フォーマットオプション 133
 - 整列オプション 131
 - 縦に並べて表示 132
 - 横に並べて表示 133
 - 出力グループ 49
 - 条件付きスタイルルール
 - ドリルダウン付きでの数値基軸フィールドへの適用 (定数の使用) 214
 - ドリルダウン付きでの数値基軸フィールドへの適用 (フィールドの使用) 217
 - 条件付きスタイルルールダイアログボックス 187
 - じょうごグラフ 166
 - シリーズ
 - 値のフィルタ 208
 - 色モード 220
 - 逆順序 206
 - グラフタイプの変更 196
 - 削除 222
 - 選択 195
 - ダイアログボックス 184
 - タイトルの変更 219
 - 塗りつぶしと境界のフォーマット設定 196
 - シリーズ (続く)
 - フィールドのソート 208
 - フィールドの非表示 211
 - フォーマット設定 183
 - プロパティの使用 195
 - 右クリックメニュー 191
 - シリーズタブ 97, 98, 99, 100
 - 円グループ 100
 - 折れ線グループ 99
 - スタイルグループ 97
 - 選択グループ 97
 - 表示グループ 100
 - プロパティグループ 98
 - シリーズフォーマットダイアログボックス 184, 185, 186
 - 境界タブ 186
 - 塗りつぶしタブ 185
- ## す
- 数式 197
 - スタイルグループ 93
 - スタイルダイアログボックス 233
 - ステータスバー 25, 141
 - スライサ
 - 使用 460
 - スライサの編集ダイアログボックス 472
 - フィルタ設定 465
 - スライサタブ 76, 77
 - オプショングループ 76
 - グループ番号グループ 77
 - 最大レコード数グループ 76
 - スライサによるフィルタ設定 465
 - スライサの編集ダイアログボックス 472

せ

静的参照線 338

線スタイルダイアログボックス 234

選択グループ 97

そ

ソートグループ 92

その他のグラフ 166

た

対象グループ 52

タイトルの編集ダイアログボックス 187

縦方向ボックスプロット 166

ち

注釈

表示 343

て

データウィンドウ

レポートへのフィールドの追加 107

データグループ 82

データソースグループ 74

データソースの選択 16

データソースを選択ダイアログボックス 75

データタブ 60, 62, 66, 74

JOIN グループ 62

データタブ (続く)

演算グループ 60

データソースグループ 74

表示グループ 74

フィルタグループ 66

データラベル

位置の変更 237

カスタムフォーマット文字 230

関連するダイアログボックス 223

表示 236

フォーマット設定 223

プロパティの使用 235

右クリックメニュー 235

デザイングループ 37

と

動的参照線 341

な

ナビグループ (レポート) 54

ナビゲーションタスクバー 25, 139

に

入力フォームグループ 47

は

バブルグラフ 162

パレートグラフ 166

凡例

位置の指定 245

凡例 (続く)

- 境界色の指定 249
- 背景色の指定 248
- 非表示 245
- フォーマット設定 238
- プロパティの使用 245
- 方向の制御 247
- 右クリックメニュー 243
- 凡例フォーマットダイアログボックス 238, 239, 241, 243
- 詳細タブ 243
- 凡例オプションタブ 239
- マーカーとラベルタブ 241

ひ

- 表示グループ 81, 94, 100
- 表示タブ 81, 82, 83, 86, 87
 - ウィンドウグループ 86
 - クエリグループ 83
 - データグループ 82
 - 表示グループ 81
 - レポートグループ 87
- ピラミッドグラフ 166

ふ

- フィールドイメージ 104
- フィールドタブ 88, 92, 93, 94, 95
 - 区切りグループ 92
 - スタイルグループ 93
 - ソートグループ 92
 - 表示グループ 94
 - フィルタグループ 88
 - フォーマットグループ 93
 - リンクグループ 95

- フィルタグループ 39, 66, 88
- フォーマットグループ 36, 93
- フォーマットタブ
 - 機能グループ (グラフ) 56
 - 機能グループ (レポート) 55
 - グラフグループ 58
 - 出力グループ 49
 - 対象グループ 52
 - ナビグループ (レポート) 54
 - ラベルグループ (グラフ) 59

複合グラフ 167

複数軸グラフ 158

複数ページのレイアウト 403
作成 403

複数ページのレイアウト (入力フォーム) 403

複数ページのレイアウトとレイアウト入力フォーム
ページメニュー 407

複数ページのレイアウト入力フォーム
作成 405

フレームと背景
プロパティの使用 300

フレームと背景ダイアログボックス 284, 285, 288, 290, 293, 294, 295, 297, 299

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフのフレームタブ 285

2D グラフおよび 3D 表示の 2D グラフのフレームの端タブ 288

3D グラフの詳細タブ 295

円グラフのフレームタブ 290, 293

側面タブと底面タブ 294

背景タブ 297

右クリックメニュー 299

ブロック地図 166

プロパティグループ 98

へ

ページオプションダイアログボックス 408

ページ脚注

 グラフへの追加 331

ページ設定グループ 78, 79

ページ見出し

 グラフへの追加 331

ページ見出しとページ脚注

 フォーマット設定 331

ヘルプ 16, 25

ほ

棒グラフ 150

棒グラフのタイプ 152

ホームタブ 36, 37, 39

 デザイングループ 37

 フィルタグループ 39

 フォーマットグループ 36

 レポートグループ 39

補助罫線 250

ま

マーカー

 外観の変更 201

 シリーズ線の接続または非表示 200

マップ 48, 58, 169

め

メータ

 プロパティの使用 316

メータグラフ 166, 306, 315

 右クリックメニュー 315

 メータフォーマットダイアログボックス 306

メータフォーマットダイアログボックス 306,

 307, 310, 312, 313, 314

 軸目盛りとラベルタブ 310

 詳細タブ 314

 全般オプションタブ 307

 バンドタブ 313

 目盛りタブ 312

目盛り

 設定 264

面グラフ 157

面グラフのタイプ 157

ゆ

ユーザ設定

 環境とスタイル設定 22

 表示 21

 フォーマット 21

 変更 19

 レイアウト 20

 起動オプション 20

ユーザ選択 51

よ

横主罫線

 表示 258

横方向ボックスプロット 166

ら

ラベルグループ (グラフ) 59

ラベルフォーマットダイアログボックス 223,
224, 227, 228, 229, 231, 232
円タイトルタブ 231
円ラベルタブ 229
じょうごラベルタブ 232
詳細タブ 227
全般オプションタブ 224
全般オプションタブ (積み上げグラフ) 228

り

リスト表示 83
リソースパネル 25, 101, 104, 109
クエリデザインウィンドウの使用 109
フィールドイメージ 104
リボン 25
リンクグループ 95

れ

レイアウト

2つの異なるデータソースを使用する2つの
レポートの挿入 352
イメージの挿入 365
既存レポートの挿入 362
グラフのスタイル設定とカスタマイズ 377
グラフの挿入 357
コンポーネントの移動 370
コンポーネントのサイズ変更 366
コンポーネントの削除 384
コンポーネントの整列 371
コンポーネントの編集 366
作成 351
新規作成 347
挿入タブでの既存レポートのレイアウトへの
挿入 363

レイアウト (続く)

挿入タブでのグラフの挿入 358
挿入タブでのレポートの挿入 353
ターゲットレポートの設定 432
ダブルクリックでのグラフ挿入 360
ダブルクリックでのレポート挿入 355
単一レポートからの作成 363
テキストとイメージの挿入 364
テキストの挿入 364
テキストの編集 380
ドラッグアンドドロップでのグラフ挿入 358
ドラッグアンドドロップでのレポート挿入 354
入力フォームの連鎖 454
フィールドとプロンプトの関連付け 436
フィルタ条件の変更 449
複数のデータソースを使用するレポートの挿
入 351
右クリックでのグラフ挿入 361
右クリックでのレポート挿入 356
レイアウトデザインビューでの作成 345
レイアウトデザインビューへのアクセス 346
レポートのスタイル設定とカスタマイズ 375
レポートの挿入 352
レイアウトキャンバス 25, 124
レイアウトタブ 78, 79, 80
サイズと整列グループ 80
ページ設定グループ 78, 79
レポートグループ 80
レイアウトデザインビュー
アクセス 346
レイアウトデザインビューへのアクセス
レイアウトボタン 349
レイアウト表示へのアクセス
既存の項目を開く 348
レポート
Active テクノロジーレポートの作成 411
Excel 出力 147

レポート (続く))

 ライブプレビュー 180

レポートグループ 39, 80, 87

レポートスタイルダイアログボックス 43

レポートの Excel 出力 147

ろ

論理表示 82